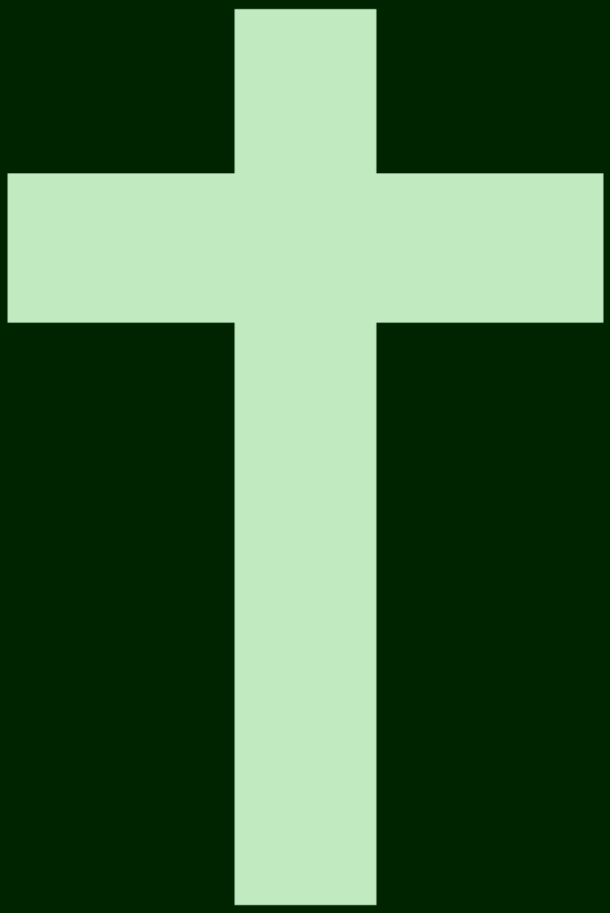
新改訳新約聖書(1965年版)



The New Testament in Japanese, 1965 Shinkaiyaku seisho (New Japanese Bible) translation

新改訳新約聖書(1965年版)

The New Testament in Japanese, 1965 Shinkaiyaku seisho (New Japanese Bible) translation

Public Domain

Language: 日本語 (Japanese)

Translation by: Shinkaiyaku Seisho Kankokai

Gospel of John was first published in 1963. The whole the New Testament was published in 1965. This translation was made by Shinkaiyaku Seisho Kankokai with sponsorship from the Lockman Foundation. The copyright on this New Testament expired on December 31, 2015. See also http://bible.salterrae.net/bible/copyright.html for an abandonment of copyright statement. https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%96%B0%E6%94%B9%E8%A8%B3%E8%81%96%E6%9B%B8%E5%88%8A%E8%A1%8C%E4%BC%9A has more information about this translation.

2016-01-07

PDF generated using Haiola and XeLaTeX on 4 Mar 2019 from source files dated 26 Dec 2018
6329ed41-ab39-5135-b4b5-0d4f922178fe

Contents

あとがき 1
マタイの福音書 3
マルコの福音書 34
ルカの福音書 54
ヨハネの福音書 87
使徒の働き 114
ローマ人への手紙 145
コリント人への手紙第一 159
コリント人への手紙第二 173
ガラテヤ人への手紙 182
エペソ人への手紙 187
ピリピ人への手紙 192
コロサイ人への手紙 196
テサロニケ人への手紙第一 200
テサロニケ人への手紙第二 203
テモテへの手紙第一 205
テモテへの手紙第二 209
テトスへの手紙 212
ピレモンへの手紙 214
ヘブル人への手紙 215
ヤコブの手紙 226
ペテロの手紙第一 230
ペテロの手紙第二 234
ヨハネの手紙第一 237
ヨハネの手紙第二 241
ヨハネの手紙第三 242
ユダの手紙 243
ヨハネの黙示録 244

あとがき

聖書は永遠の神のみことばであって、あらゆる時代に対して、常に新しい力をもって語り、救いのための知恵を人々に与えようとしている。新改訳聖書は、今の時代の人々のために、この神のことばである聖書を、正確に、わかりやすく翻訳しようとして企画された。そしてまず新約聖書が、今ここに刊行されることになった。

原語にあくまでも忠実であり、最も読みやすく、しかも聖書としての品位を失わない翻訳を成し遂げることが、翻訳編集に携わった者の一致した願いであった。

翻訳にあたっては、主としてネストレの校訂本二四版を使用した。

どの翻訳についても言えることであろうが、私たちは、聖書翻訳の古い歴史の中で教会が私たちに残してくれた遺産に負うところが非常に多い。いな、むしろ、この翻訳もその伝統の上にあって初めて可能であったと言わなければならない。邦訳聖書についてのいえば、聖書協会のいわゆる元訳、文語改訳、口語訳等は、邦訳の歴史に一つの方向づけを与えて来たものと言えよう。私たちは、それらの成果を尊重しつつ、現代のことばで原意を正確に表出しようと努めた。その際、特に文語改訳に共感するところが多かったと思う。またこの訳と関連して、英国改訳、あるいは米国標準訳の理解を現代に生かすためにも業が進められている新米国標準訳が、私たちの最も良い参考になったことを明らかにしておきたい。また、この版では、特に詳細な引照をつけたが、それは新米国標準訳のそれを採用したものである。ここにあえて「新改訳」という名を採ったのも、以上述べたような、先達の業績に負うところが大きいことを認めるからである。

神がこの新改訳聖書をも、神の栄光のため、また、多くの人々の救いのために、用いてくださるように。

次に、訳文について幾つかのことを述べたい。

国語の書き表わし方について言えば、私たちは、当用漢字表、その他の新しい用字用語をできるだけ尊重した。しかし、やむをえないと認めたばあい、この制限の外に出ている用例もないわけではない。またこの上に、注や引照の見出しをつける記号によって妨げられないばあい、すべての漢字にふりがなをつけたのは、聖書ができるだけ多くの人の手に渡り、現実に読まれることを願ったからである。

また、原文の意味が誤解される恐れのない訳語を用いることは、真の「読みやすさ」にとってたいせつな点であると思う。いちいち訳語について説明する言葉とを許されないが、ハデス、ゲヘナについては注もないので、ここでこれとみがを説明したい。ギリシヤ語聖書の〈ハデス〉は、従来陰府とか黄泉と訳されてばあいが、死者が終末のさばき宗教の教を待つ間の中間状態で置かれる場所を示すうらとみがである。従来の訳語は他の宗教の教えを混入させて読み込まれているのと地獄と訳されていたこともあるが、同じような理由でかな書きにした。これはゲヘナのギリシヤ語の音訳にとどめることにした。また、神の究極のさばきによって、罪人が入れられる苦しみの場所をさす。

章節、文段の表示も、読みやすくするために、邦訳聖書としては新しい方法を採用した。この版では、行が変わることは新しい文段を示すのでなく、新しい節が始まることを示す。文頭の小さな数字がその節の名である。新しい文段は、その数字を一字分下げることによって表示されている。章を示すのは大きな数字であるが、その下の１という小さい数字も通常、文段の始まりを表わす。章節を示すために、一章二節と読まないで、そのまま１の２と読むのもさしつかえないと思われる。私たちの使っている聖書で用いている章節とか文段は、後代になって便宜のためにつけられたのであるから、最近の外国語諸訳に見られるように節をも明示せず、文段ごとにまとめて印刷するのも良い方法であるが、この版のような組み方も、一般の人々の朗読や研究のためには便利であると思う。

訳文中の記号は、文脈を明らかにするために用いられている。

（　　）の中の文は、原文においてその前の文の説明とか注釈である。

——　——にはさまれた文章は挿入である。

〔　　〕の中の文または文段は、幾つかの有力な写本がそれを欠くことを示す。

原語への忠実さを期するために、本文の解釈に重要な相違がある個所については、最も良いと思われる訳文を本文に入れ、他を欄外注に示した。また、

有力な写本相互の間に重要な差異が認められるばあいも、そのことを欄外注に示した。少しでも正しい本文に近づこうとする努力が真剣になされるばあい、このような注はぜひ必要になって来ると思われる。

欄外注の使い方

欄外注は、できる限り本文と同じページの下にまとめてある。本文中、注あるいは引照を要するばあいは、その文または語の右肩に、＊ 1) 2) …という記号がつけてある。

一　＊印は訳文についての注である。欄外の　〈別訳〉は、同じギリシヤ語本文の解釈上種々の相違があるばあい、本文には採らなかった別の訳である。（たとえばロマ九・五）

〈あるいは〉は、本文の訳と大差はないが、もう一つの訳し方である。

〈直訳〉は、文字どおりの直訳であって、それが本文に入れられると日本語としての意味が明瞭でなくなるとか、誤解の恐れのあるばあい、注に入れた。

〈すなわち〉または〈原語〉は、本文の訳語では原意を表わすのにいくぶん不十分であるばあい、別の言い替えをして補ったものと見てよい。

〈異本〉は、原典に相違があるばあい、そのうちの重要なものを示す。

〈ギリシヤ語〉〈ヘブル語〉等は、原語の音訳を示す。

二　引照は、たとえば、本文の訳語または訳文の右肩に1)とつけられた数字を、そのページの下欄の、節を示す数字の下に①とあるのと合わせて、見ればよい。一例を示すと、ルカ二二・五二では、「宮の守衛長」の引照個所は欄外注のり52①を見るとわかるとおり、ルカ二二・四である。さらにその節の欄外注を見ると、もっと多くの引照個所を見つけることができるばあいもある。また、ルカ二二・四〇については、本文の1)を欄外注の①で見ると、ルカ二二・四〇－四六、マタ二六・三六－四六とある。このばあいは四〇－四六の平行個所がマタ二六・三六－四六であることを示す。

[参][比]と順についているときは、「そこを参照せよ」「そこと比較せよ」という意味である。

奥付

マタイの福音書

1 アブラハムの子孫、ダビデの子孫、イエス・キリストの系図。
2 アブラハムにイサクが生まれ、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブにユダとその兄弟たちが生まれ、3 ユダに、タマルによってパレスとザラが生まれ、パレスにエスロンが生まれ、エスロンにアラムが生まれ、4 アラムにアミナダブが生まれ、アミナダブにナアソンが生まれ、ナアソンにサルモンが生まれ、5 サルモンに、ラハブによってボアズが生まれ、ボアズに、ルツによってオベデが生まれ、オベデにエッサイが生まれ、6 エッサイにダビデ王が生まれた。
ダビデに、ウリヤの妻によってソロモンが生まれ、7 ソロモンにレハベアムが生まれ、レハベアムにアビヤが生まれ、アビヤにアサが生まれ、8 アサにヨサパテが生まれ、ヨサパテにヨラムが生まれ、ヨラムにウジヤが生まれ、9 ウジヤにヨタムが生まれ、ヨタムにアハズが生まれ、アハズにヒゼキヤが生まれ、10 ヒゼキヤにマナセが生まれ、マナセにアモンが生まれ、アモンにヨシヤが生まれ、11 ヨシヤに、バビロン移住のころエコニヤとその兄弟たちが生まれた。
12 バビロン移住の後、エコニヤにサラテルが生まれ、サラテルにゾロバベルが生まれ、13 ゾロバベルにアビウデが生まれ、アビウデにエリヤキムが生まれ、エリヤキムにアゾルが生まれ、14 アゾルにサドクが生まれ、サドクにアキムが生まれ、アキムにエリウデが生まれ、15 エリウデにエレアザルが生まれ、エレアザルにマタンが生まれ、マタンにヤコブが生まれ、16 ヤコブにマリヤの夫ヨセフが生まれた。キリストと呼ばれるイエスはこのマリヤからお生まれになった。
17 それで、アブラハムからダビデまでの代が全部で十四代、ダビデからバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代になる。
18 イエス・キリストの誕生は次のようであった。その母マリヤはヨセフの妻と決まっていたが、ふたりがまだいっしょにならないうちに、聖霊によって身重になったことがわかった。19 夫のヨセフは正しい人であって、彼女をさらし者にはしたくなかったので、内密に去らせようと決めた。20 彼がこのことを思い巡らしていたとき、主の使いが夢に現われて言った。「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。21 マリヤは男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。この方こそ、ご自分の民をその罪から救ってくださる方です。」22 このすべての出来事は、主が預言者を通して言われた事が成就するためであった。23 「見よ、処女がみごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」（訳すと、神は私たちとともにおられる、という意味である。）
24 ヨセフは眠りからさめ、主の使いに命じられたとおりにして、その妻を迎え入れ、25 そして、子どもが生まれるまで彼女を知ることがなく、その子どもの名をイエスとつけた。

2

1 イエスが、ヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムでお生まれになったとき、見よ、東方の博士たちがエルサレムにやって来て、こう言った。2 「ユダヤ人の王としてお生まれになった方はどこにおいでになりますか。私たちは、東のほうでその方の星を見たので、拝みにまいりました。」3 それを聞いて、ヘロデ王は恐れ惑った。エルサレム中の人も王と同様であった。4 そこで、王は、民の祭司長たち、学者たちをみな集めて、キリストはどこで生まれるのかと問いただした。5 彼らは王に言った。「ユダヤのベツレヘムです。預言者によってこう書かれているからです。
6 『ユダの地、ベツレヘム。
あなたはユダを治める者たちの中で、
決して一番小さくはない。
わたしの民イスラエルを治める支配者が、
あなたから出るのだから。』」
7 そこで、ヘロデはひそかに博士たちを呼んで、彼らから星の出現の時間を突き止めた。8 そして、こう言って彼らをベツレヘムに送った。「行って幼子のことを詳しく調べ、わかったら知らせてもらいたい。私も行って拝むから。」9 彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上にとどまった。10 その星を見て、彼らはこの上もなく喜んだ。11 そしてその家

にはいって、母マリヤとともにおられる幼子を見、ひれ伏して拝んだ。そし
て、宝の箱をあけて、黄金、乳香、没薬を贈り物としてささげた。 12 それか
ら、夢でヘロデのところへ戻るなという戒めを受けたので、別の道から自分
の国へ帰って行った。
13 彼らが帰って行ったとき、見よ、主の使いが夢でヨセフに現われて言っ
た。「立って、幼子とその母を連れ、エジプトへ逃げなさい。そして、私が知
らせるまで、そこにいなさい。ヘロデがこの幼子を捜し出して殺そうとしてい
ます。」 14 そこで、ヨセフは立って、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプ
トに立ちのき、 15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。これは、主が預言者を通し
て、「わたしはエジプトから、わたしの子を呼び出した。」と言われた事が成
就するためであった。
16 その後、ヘロデは、博士たちにだまされたことがわかると、非常におこっ
て、人をやって、ベツレヘムとその近辺の二歳以下の男の子をひとり残らず殺
させた。その年令は博士たちから突き止めておいた時間から割り出したのであ
る。 17 そのとき、預言者エレミヤを通して言われた事が成就した。
18 「ラマで声がする。
泣き、そして嘆き叫ぶ声。
ラケルがその子らのために泣いている。
ラケルは慰められることを拒んだ。
子らがもういないからだ。」

19 ヘロデが死ぬと、見よ、主の使いが、夢でエジプトにいるヨセフに現われ
て、言った。 20 「立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地に行きなさ
い。幼子のいのちをつけねらっていた人たちは死にました。」 21 そこで、彼は
立って、幼子とその母を連れて、イスラエルの地にはいった。 22 しかし、アケ
ラオが父ヘロデに代わってユダヤを治めていると聞いたので、そこに行ってと
どまることを恐れた。そして、夢で戒めを受けたので、ガリラヤ地方に立ちの
いた。 23 そして、ナザレという町に行って住んだ。これは預言者たちを通して
「この方はナザレ人と呼ばれる。」と言われた事が成就するためであった。

3

1 そのころ、バプテスマのヨハネが現われ、ユダヤの荒野で教えを宣べて、
言った。 2 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」 3 この人は預言者イ
ザヤによって、
「荒野で叫ぶ者の声がする。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐ
にせよ。』」
と言われたその人である。 4 このヨハネは、らくだの毛の着物を着、腰には
皮の帯を締め、その食べ物はいなごと野蜜であった。 5 さて、エルサレム、
ユダヤ全土、ヨルダン川沿いの全地域の人々がヨハネのところへ出て行き、
6 自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けた。 7 しかし、
パリサイ人やサドカイ人が大ぜいバプテスマを受けに来るのを見たとき、ヨ
ハネは彼らに言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれ
るように教えたのか。 8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。
9 『われわれの先祖はアブラハムだ。』と心の中で言うような考えではいけま
せん。あなたがたに言っておくが、神は、この石ころからでも、アブラハム
の子孫を起こすことがおできになるのです。 10 斧もすでに木の根元に置かれ
ています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込
まれます。 11 私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを授け
ていますが、私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。
私はその方のはきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あ
なたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。 12 手に箕を持って
おられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を倉に納め、殻
を消えない火で焼き尽くされます。」
13 さて、イエスは、ヨハネからバプテスマを受けるために、ガリラヤからヨ
ルダンにお着きになり、ヨハネのところに来られた。 14 しかし、ヨハネはイ
エスにそうさせまいとして、言った。「私こそ、あなたからバプテスマを受け
るはずですのに、あなたが、私のところにおいでになるのですか。」 15 とこ
ろが、イエスは答えて言われた。「今はそうさせてもらいたい。このようにし
て、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです。」
そこで、ヨハネは承知した。 16 こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐ
に水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分

の上に来られるのをご覧になった。 17 また、天からこう告げる声が聞こえた。
「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。」

4

1 さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って
行かれた。 2 そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。 3 す
ると、試みる者が近づいて来て言った。「あなたが神の子なら、この石がパン
になるように、命じなさい。」 4 イエスは答えて言われた。「『人はパンだけ
で生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いて
ある。」 5 すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせ
て、 6 言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使
いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たる
ことのないようにされる。』と書いてありますから。」 7 イエスは言われた。
「『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。」 8 今度は
悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄
華を見せて、 9 言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに
差し上げましょう。」 10 イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなた
の神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」 11 すると悪魔はイ
エスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。
12 ヨハネが捕えられたと聞いてイエスは、ガリラヤへ立ちのかれた。 13 そし
てナザレを去って、カペナウムに来て住まわれた。ゼブルンとナフタリとの境
にある、湖のほとりの町である。 14 これは、預言者イザヤを通して言われた事
が、成就するためであった。すなわち、
15 「ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、
ヨルダンの向こう岸、異邦人のガリラヤ。
16 暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、
死の地と死の陰にすわっていた人々に、
光が上った。」

17 この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天
の御国が近づいたから。」
18 イエスがガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、ふたりの兄弟、ペテ
ロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレをご覧になった。彼らは湖で網を打っ
ていた。漁師だったからである。 19 イエスは彼らに言われた。「わたしについ
て来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」 20 彼らはすぐ
に網を捨てて従った。 21 そこからなお行かれると、イエスは、別のふたりの兄
弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイといっしょに舟の中
で網を繕っているのをご覧になり、ふたりをお呼びになった。 22 彼らはすぐに
舟も父も残してイエスに従った。
23 イエスはガリラヤ全土を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民
の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。 24 イエスのうわさはシ
リヤ全体に広まった。それで、人々は、さまざまの病気と痛みに苦しむ病人、
悪霊につかれた人、てんかん持ちや、中風の者などをみな、みもとに連れて来
た。イエスは彼らをお直しになった。 25 こうしてガリラヤ、デカポリス、エル
サレム、ユダヤおよびヨルダンの向こう岸から大ぜいの群衆がイエスにつき従
った。

5

1 この群衆を見て、イエスは山に登り、おすわりになると、弟子たちがみも
とに来た。 2 そこで、イエスは口を開き、彼らに教えて、言われた。
3 「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。
4 悲しむ者は幸いです。その人は慰められるからです。
5 柔和な者は幸いです。その人は地を相続するからです。
6 義に飢え渇いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。
7 あわれみ深い者は幸いです。その人はあわれみを受けるからです。
8 心のきよい者は幸いです。その人は神を見るからです。
9 平和をつくる者は幸いです。その人は神の子どもと呼ばれるからです。
10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだから
です。
11 わたしのために、ののしられたり、迫害されたり、また、ありもしないこ
とで悪口雑言を言われたりするとき、あなたがたは幸いです。 12 喜びなさ
い。喜びおどりなさい。天においてあなたがたの報いは大きいのだから。あ

なたがたより前に来た預言者たちも、そのように迫害されました。 13 あな
たがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけ
るのでしょう。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけら
れるだけです。 14 あなたがたは、世界の光です。山の上にある町は隠れる
事ができません。 15 また、あかりをつけて、それを枡の下に置く者はありま
せん。燭台の上に置きます。そうすれば、家にいる人々全部を照らします。
16 このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良
い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。
17 わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思ってはなりません。
廃棄するためにではなく、成就するために来たのです。 18 まことに、あなたがた
に告げます。天地が滅びうせない限り、律法の中の一点一画でも決してすた
れることはありません。全部が成就されます。 19 だから、戒めのうち最も小さ
いもの一つでも、これを破ったり、また破るように人に教えたりする者は、
天の御国で、最も小さい者と呼ばれます。しかし、それを守り、また守るよう
に教える者は、天の御国で、偉大な者と呼ばれます。 20 まことに、あなたがた
に告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるもの
でないなら、あなたがたは決して天の御国に、はいれません。
21 昔の人々に、『人を殺してはならない。人を殺す者はさばきを受けなけれ
ばならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。 22 しかし、わたし
はあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばき
を受けなければなりません。兄弟に向かって『能なし。』と言うような者は、
最高議会に引き渡されます。また、『ばか者。』と言うような者は燃えるゲヘ
ナに投げ込まれます。 23 だから、祭壇の上に供え物をささげようとしている
とき、もし兄弟に恨まれていることをそこで思い出したなら、 24 供え物はそこ
に、祭壇の前に置いたままにして、出て行って、まずあなたの兄弟と仲直りを
しなさい。それから、来て、その供え物をささげなさい。 25 あなたを告訴する
者とは、あなたが彼といっしょに途中にある間に早く仲良くなりなさい。そう
でないと、告訴する者は、あなたを裁判官に引き渡し、裁判官は下役に引き渡
して、あなたはついに牢に入れられることになります。 26 まことに、あなたに
告げます。あなたは最後の一コドラントを支払うまでは、そこから出ては来
られません。
27 『姦淫してはならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。
28 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る
者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。 29 もし、右の目が、あなたをつ
まずかせるなら、えぐり出して、捨ててしまいなさい。からだの一部を失って
も、からだ全体ゲヘナに投げ込まれるよりは、よいからです。 30 もし、右の
手があなたをつまずかせるなら、切って、捨ててしまいなさい。からだの一部
を失っても、からだ全体ゲヘナに落ちるよりは、よいからです。 31 また『だれ
でも、妻を離別する者は、妻に離婚状を与えよ。』と言われています。 32 しか
し、わたしはあなたがたに言います。だれであっても、不貞以外の理由で妻を
離別する者は、妻に姦淫を犯させるのです。また、だれでも、離別された女と
結婚すれば、姦淫を犯すのです。
33 さらにまた、昔の人々に、『偽りの誓いを立ててはならない。あなたの誓
ったことを主に果たせ。』と言われていたのを、あなたがたは聞いています。
34 しかし、わたしはあなたがたに言います。決して誓ってはいけません。すな
わち、天をさして誓ってはいけません。そこは神の御座だからです。 35 地をさ
して誓ってもいけません。そこは神の足台だからです。エルサレムをさして誓
ってもいけません。そこは偉大な王の都だからです。 36 あなたの頭をさして
誓ってもいけません。あなたは、一本の髪の毛すら、白くも黒くもできないか
らです。 37 だから、あなたがたは、『はい。』は『はい。』、『いいえ。』は
『いいえ。』とだけ言いなさい。それ以上のことは悪いことです。
38 『目には目で、歯には歯で。』と言われたのを、あなたがたは聞いていま
す。 39 しかし、わたしはあなたがたに言います。悪い者に手向かってはいけま
せん。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい。 40 あなたを
告訴して下着を取ろうとする者には、上着もやりなさい。 41 あなたに一ミリオ
ン行けと強いるような者とは、いっしょに二ミリオン行きなさい。 42 求める者
には与え、借りようとする者は断わらないようにしなさい。
43 『自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め。』と言われたのを、あなたがたは
聞いています。 44 しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、
迫害する者のために祈りなさい。 45 それでこそ、天におられるあなたがたの父
の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正
しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。 46 自分を愛し

てくれる者を愛したからといって、何の報いが受けられるでしょう。取税人でも、同じことをしているではありませんか。 47 また、自分の兄弟にだけあいさつしたからといって、どれだけまさったことをしたのでしょう。異邦人でも同じことをするではありませんか。 48 だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。

6

1 人に見せるために人前で善行をしないように気をつけなさい。そうでないと、天におられるあなたがたの父から、報いが受けられません。
2 だから、施しをするときには、人にほめられたくて会堂や通りで施しをする偽善者たちのように、自分の前でラッパを吹いてはいけません。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。 3 あなたは、施しをするとき、右の手のしていることを左の手に知られないようにしなさい。 4 あなたの施しが隠れているためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。
5 また、祈るときには、偽善者たちのようであってはいけません。彼らは、人に見られたくて会堂や通りの四つ角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。 6 あなたは、祈るときには自分の奥まった部屋にはいりなさい。そして、戸をしめて、隠れた所におられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。 7 また、祈るとき、異邦人のように同じことばを、ただくり返してはいけません。彼らはことば数が多ければ聞かれると思っているのです。 8 だから、彼らのまねをしてはいけません。あなたがたの父なる神は、あなたがたがお願いする先に、あなたがたに必要なものを知っておられるからです。 9 だから、こう祈りなさい。
『天にいます私たちの父よ。
御名があがめられますように。
10 御国が来ますように。
みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。
11 私たちの日ごとの糧をきょうもお与えください。
12 私たちの負いめをお赦しください。
私たちも、私たちに負いめのある人たちを赦しました。
13 私たちを試みに会わせないで、悪からお救いください。』［国と力と栄えは、とこしえにあなたのものだからです。アーメン。］
14 もし人の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。 15 しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪をお赦しになりません。
16 断食するときには、偽善者たちのようにやつれた顔つきをしてはいけません。彼らは、断食していることが人に見えるようにと、その顔をやつすのです。まことに、あなたがたに告げます。彼らはすでに自分の報いを受け取っているのです。 17 しかし、あなたが断食するときには、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。 18 それは、断食していることが、人には見られないで、隠れた所におられるあなたの父に見られるためです。そうすれば、隠れた所で見ておられるあなたの父が報いてくださいます。
19 自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。 20 自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。 21 あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。 22 からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が明るいが、 23 もし、目が悪ければ、あなたの全身が暗いでしょう。それなら、もしあなたのうちの光が暗ければ、その暗さはどんなでしょう。 24 だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。 25 だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか。 26 空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養っていてくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。 27 あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか。 28 なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、

よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。 29 しかし、わたしはあな
たがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどに
も着飾ってはいませんでした。 30 きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる
野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、
よくしてくださらないわけがありましょうか。信仰の薄い人たち。 31 そういう
わけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配する
のはやめなさい。 32 こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなので
す。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であること
を知っておられます。 33 だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。
そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。 34 だから、
あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日
その日に、十分あります。

7

1 さばいてはいけません。さばかれないためです。 2 あなたがたがさばくとおり
に、あなたがたもさばかれ、あなたがたが量るとおりに、あなたがたも量られ
るからです。 3 また、なぜあなたは、兄弟の目の中のちりに目をつけるが、
自分の目の中の梁には気がつかないのですか。 4 兄弟に向かって、『あなたの
目のちりを取らせてください。』などとどうして言うのですか。見なさい、自
分の目には梁があるではありませんか。 5 偽善者たち。まず自分の目から梁を
取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り
除くことができます。
6 聖なるものを犬に与えてはいけません。また豚の前に、真珠を投げてはな
りません。それを足で踏みにじり、向き直ってあなたがたを引き裂くでしょう
から。
7 求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかりま
す。たたきなさい。そうすれば開かれます。 8 だれであれ、求める者は受け、
捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。 9 あなたがたも、自分の子が
パンを下さいと言うときに、だれが石を与えるでしょう。 10 また、子が魚を下
さいと言うのに、だれが蛇を与えるでしょう。 11 してみると、あなたがたは、
悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているので
す。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求め
る者たちに良いものを下さらないことがありましょう。 12 それで、何事でも、
自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい。これが律法
であり預言者です。
13 狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからで
す。そして、そこからはいって行く者が多いのです。 14 いのちに至る門は小さ
く、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。
15 にせ預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊のなりをしてやって来るが、
うちは貪欲な狼です。 16 あなたがたは、実によって彼らを見分けることができ
ます。ぶどうは、いばらからは取れないし、いちじくは、あざみから取れるわ
けがないでしょう。 17 同様に、良い木はみな良い実を結ぶが、悪い木は悪い実
を結びます。 18 良い木が悪い実をならせることはできないし、また、悪い木が
良い実をならせることもできません。 19 良い実を結ばない木は、みな切り倒さ
れて、火に投げ込まれます。 20 こういうわけで、あなたがたは、実によって彼
ら を見分けることができるのです。 21 わたしに向かって、『主よ、主よ。』と
言う者がみな天の御国にはいるのではなく、天におられるわたしの父のみこと
ろを行なう者がはいるのです。 22 その日には、大ぜいの者がわたしに言うでし
ょう。『主よ、主よ。私たちはあなたの名によって預言をし、あなたの名によ
ってよって悪霊を追い出し、あなたの名によって奇蹟をたくさん行なったではありま
せんか。』 23 しかし、その時、わたしは彼らにこう宣告します。『わたしはあ
なたがたを全然知らない。不法をなす者ども。わたしから離れて行け。』
24 だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行なう者はみな、岩の上
に自分の家を建てた賢い人に比べることができます。 25 雨が降って洪水が押し
寄せ、風が吹いてその家に打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上
に建てられていたからです。 26 また、わたしのこれらのことばを聞いてそれを
行なわない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人に比べることができ
ます。 27 雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れ
てしまいました。しかもそれはひどい倒れ方でした。」
28 イエスがこれらのことばを語り終えられると、群衆はその教えに驚いた。
29 というのは、イエスが、律法学者たちのようにではなく、権威ある者のよう
に教えられたからである。

8

1 イエスが山から降りて来られると、多くの群衆がイエスに従った。 2 すると、ひとりのらい病人がみもとに来て、ひれ伏して言った。「主よ。お心一つで、私をきよめることがおできになります。」 3 イエスは手を伸ばして、彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた。すると、すぐに彼のらい病はきよめられた。 4 イエスは彼に言われた。「気をつけて、だれにも話さないようにしなさい。ただ、人々へのあかしのために、行って、自分を祭司に見せなさい。そして、モーセの命じた供え物をささげなさい。」

5 イエスがカペナウムにはいられると、ひとりの百人隊長がみもとに来て、懇願して、 6 言った。「主よ。私のしもべが中風やみで、家に寝ていて、ひどく苦しんでおります。」 7 イエスは彼に言われた。「行って、直してあげよう。」 8 しかし、百人隊長は答えて言った。「主よ。あなたを私の屋根の下にお入れするする資格は、私にはありません。ただ、おことばをいただかせてください。そうすれば、私のしもべは直りますから。 9 と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私自身の下にも兵士たちがいまして、そのひとりに『行け。』と言えば行きますし、別の者に『来い。』と言えば来ます。また、しもべに『これをせよ。』と言えば、そのとおりにいたします。」 10 イエスは、これを聞いて驚かれ、ついて来た人たちにこう言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしはイスラエルのうちのだれにも、このような信仰を見たことがありません。 11 あなたがたに言いますが、たくさんの人が東からも西からも来て、天の御国で、アブラハム、イサク、ヤコブといっしょに食卓に着きます。 12 しかし、御国の子らは外の暗やみに放り出され、そこで泣いて歯ぎしりするのです。」 13 それから、イエスは百人隊長に言われた。「さあ行きなさい。あなたの信じたとおりになるように。」すると、ちょうどその時、そのしもべはいやされた。

14 それから、イエスは、ペテロの家に来られて、ペテロのしゅうとめが熱病で床に着いているのをご覧になった。 15 イエスが手にさわられると、熱がひき、彼女は起きてイエスをもてなした。 16 夕方になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れて来た。そこで、イエスはみことばをもって霊どもを追い出し、また病気の人々をみなお直しになった。 17 これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。「彼が私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負った。」

18 さて、イエスは群衆が自分の回りにいるのをご覧になると、向こう岸に行くための用意をお命じになった。 19 そこに、ひとりの律法学者が来てこう言った。「先生。私はあなたのおいでになる所なら、どこにでもついてまいります。」 20 すると、イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所もありません。」 21 また、別のひとりの弟子がイエスにこう言った。「主よ。まず行って、私の父を葬ることを許してください。」 22 ところが、イエスは彼に言われた。「わたしについて来なさい。死人たちに彼らの中の死人たちを葬らせなさい。」

23 イエスが舟にお乗りになると、弟子たちも従った。 24 すると、見よ、湖に大暴風が起こって、舟は大波をかぶった。ところが、イエスは眠っておられた。 25 弟子たちはイエスのみもとに来て、イエスを起こして言った。「主よ。助けてください。私たちはおぼれそうです。」 26 イエスは言われた。「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちだ。」それから、起き上がって、風と湖をしかりつけられると、大なぎになった。 27 人々は驚いてこう言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

28 それから、向こう岸のガダラ人の地にお着きになると、悪霊につかれた人がふたり墓から出て来て、イエスに出会った。彼らはひどく狂暴で、だれもその道を通れないほどであった。 29 すると、見よ、彼らはわめいて言った。「神の子よ。いったい私たちに何をしようというのです。まだその時ではないのに、もう私たちを苦しめに来られたのですか。」 30 ところで、そこからずっと離れた所に、たくさんの豚の群れが飼ってあった。 31 それで、悪霊どもはイエスに願ってこう言った。「もし私たちを追い出そうとされるのでしたら、どうか豚の群れの中にやってください。」 32 イエスは彼らに「行け。」と言われた。すると、彼らは出て行って豚にはいった。すると、見よ、その群れ全体がどっとがけから湖へ駆け降りて行って、水におぼれて死んだ。 33 飼っていた者たちは逃げ出して町に行き、悪霊につかれた人たちのことなどを残らず知らせた。 34 すると、見よ、町中の者がイエスに会いに出て来た。そして、イエスに会うと、どうかこの地方を立ち去ってくださいと願った。

9

1 イエスは舟に乗って湖を渡り、自分の町に帰られた。 2 すると、人々が中
風の人を床に寝かせたままで、みもとに運んで来た。イエスは彼らの信仰を
見て、中風の人に、「子よ。しっかりしなさい。あなたの罪は赦された。」と
言われた。 3 すると、律法学者たちは、心の中で、「この人は神をけがしてい
る。」と言った。 4 イエスは彼らの心の思いを知って言われた。「なぜ、心の
中で悪いことを考えているのか。 5 『あなたの罪は赦された。』と言うのと、
『起きて歩け。』と言うのと、どちらがやさしいか。 6 人の子が地上で罪を赦
す権威を持っていることを、あなたがたに知らせるために。」こう言って、そ
れから中風の人に、「起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」と言
われた。 7 すると、彼は起きて家に帰った。 8 群衆はそれを見て恐ろしくなり、
こんな権威を人にお与えになった神をあがめた。
9 イエスは、そこを去って道を通りながら、収税所にすわっているマタイと
いう人をご覧になって、「わたしについて来なさい。」と言われた。すると彼
は立ち上がって、イエスに従った。
10 イエスが家で食事の席に着いておられるとき、見よ、取税人や罪人が大ぜ
い来て、イエスやその弟子たちといっしょに食卓に着いていた。 11 すると、
これを見たパリサイ人たちが、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたが
たの先生は、取税人や罪人といっしょに食事をするのですか。」 12 イエスはこ
れを聞いて言われた。「医者を必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。
13 『わたしはあわれみは好むが、いけにえは好まない。』とはどういう意味
か、行って学んで来なさい。わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招
くために来たのです。」
14 するとまた、ヨハネの弟子たちが、イエスのところに来てこう言った。
「私たちとパリサイ人は断食するのに、なぜ、あなたの弟子たちは断食しない
のですか。」 15 イエスは彼らに言われた。「花婿につき添う友だちは、花婿が
いっしょにいる間は、どうして悲しんだりできましょう。しかし、花婿が取り
去られる時が来ます。そのときには断食します。 16 だれも、真新しい布切れで
古い着物の継ぎをするようなことはしません。そんな継ぎ切れは着物を引き破
って、破れがもっとひどくなるからです。 17 また、人は新しいぶどう酒を古い
皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、皮袋は裂けて、ぶ
どう酒が流れ出てしまい、皮袋もだめになってしまいます。新しいぶどう酒を
新しい皮袋に入れれば、両方とも保ちます。」
18 イエスがこれらのことを話しておられると、見よ、ひとりの会堂管理者が
来て、ひれ伏して言った。「私の娘がいま死にました。でも、おいでくださっ
て、娘の上に御手を置いてやってください。そうすれば娘は生き返ります。」
19 イエスが立って彼について行かれると、弟子たちもついて行った。 20 すると、
見よ。十二年の間長血をわずらっている女が、イエスのうしろに来て、その
着物のふさにさわった。 21 「お着物にさわることでもできれば、きっと直
る。」と心のうちで考えていたからである。 22 イエスは、振り向いて彼女を見
て言われた。「娘よ。しっかりしなさい。あなたの信仰があなたを直したので
す。」すると、女はその時から全く直った。 23 イエスはその管理者の家に来ら
れて、笛吹く者たちや騒いでいる群衆を見て、 24 言われた。「あちらに行きな
さい。その子は死んだのではない。眠っているのです。」すると、彼らはイエ
スをあざ笑った。 25 イエスは群衆を外に出してから、うちにおはいりになり、
少女の手を取られた。すると少女は起き上がった。 26 このうわさはその地方全
体に広まった。
27 イエスがそこを出て、道を通って行かれると、ふたりの盲人が大声で、
「ダビデの子よ。私たちをあわれんでください。」と叫びながらついて来た。
28 家にはいられると、その盲人たちはみもとにやって来た。イエスが「わたし
にそんなことができると信じるのか。」と言われると、彼らは「そうです。主
よ。」と言った。 29 そこで、イエスは彼らの目にさわって、「あなたがたの信
仰のとおりになれ。」と言われた。 30 すると、彼らの目があいた。イエスは彼
らをきびしく戒めて、「決してだれにも知られないように気をつけなさい。」
と言われた。 31 ところが、彼らは出て行って、イエスのことをその地方全体に
言いふらした。
32 この人たちが出て行くと、見よ、悪霊につかれたおしが、みもとに連れ
て来られた。 33 悪霊が追い出されると、そのおしはものを言った。群衆は驚
いて、「こんなことは、イスラエルでいまだかつて見たことがない。」と言っ
た。 34 しかし、パリサイ人たちは、「彼は悪霊どものかしらを使って、悪霊ど
もを追い出しているのだ。」と言った。

35 それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音
を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。 36 また、群衆を
見て、羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れている彼らをかわいそうに思わ
れた。 37 そのとき、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。
38 だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送ってくださるように祈りなさ
い。」

10

1 イエスは十二弟子を呼び寄せて、汚れた霊どもを制する権威をお授けになった。霊どもを追い出し、あらゆる病気、あらゆるわずらいを直すためであった。
2 さて、十二使徒の名は次のとおりである。まず、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、 3 ピリポとバルトロマイ、トマスと取税人マタイ、アルパヨの子ヤコブとタダイ、 4 熱心党員シモンとイエスを裏切ったイスカリオテ・ユダである。
5 イエスは、この十二人を遣わし、そのとき彼らにこう命じられた。「異邦人の道に行ってはいけません。サマリヤ人の町にはいってはいけません。 6 イスラエルの家の滅びた羊のところに行きなさい。 7 行って、『天の御国が近づいた。』と宣べ伝えなさい。 8 病人を直し、死人を生き返らせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出しなさい。あなたがたは、ただで受けたのだから、ただで与えなさい。 9 胴巻に金貨や銀貨や銅貨を入れてはいけません。 10 旅行用の袋も、二枚目の下着も、くつも、杖も持たずに行きなさい。働く者が食べ物を与えられるのは当然だからです。 11 どんな町や村にはいっても、そこでだれが適当な人かを調べて、そこを立ち去るまで、その人のところにとどまりなさい。
12 その家にはいるときには、平安を祈るあいさつをしなさい。 13 その家がそれにふさわしい家なら、その平安はきっとその家に来るし、もし、ふさわしい家でないなら、その平安はあなたがたのところに返って来ます。 14 もしだれも、あなたがたを受け入れず、あなたがたのことばに耳を傾けないなら、その家またはその町を出て行くときに、あなたがたの足のちりを払い落としなさい。
15 まことに、あなたがたに告げます。さばきの日には、ソドムとゴモラの地でも、その町よりはまだ罰が軽いのです。
16 いいですか。わたしが、あなたがたを遣わすのは、狼の中に羊を送り出すようなものです。ですから、蛇のようにさとく、鳩のようにすなおであり なさい。 17 人々には用心しなさい。彼らはあなたがたを議会に引き渡し、会堂でむち打ちますから。 18 また、あなたがたは、わたしのゆえに、総督たちや王たちの前に連れて行かれます。それは、彼らと異邦人たちにあかしをするためです。 19 人々があなたがたを引き渡したとき、どのように話そうか、何を話そうかと心配するには及びません。話すべきことは、そのとき示されるからです。
20 というのは、話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話されるあなたがたの父の御霊だからです。 21 兄弟は兄弟を死に渡し、父は子を死に渡し、子どもたちは両親に立ち逆らって、彼らを死なせます。 22 また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人々に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。 23 彼らがこの町であなたがたを迫害するなら、次の町にのがれなさい。というわけは、確かなことをあなたがたに告げるのですが、人の子が来るときまでに、あなたがたは決してイスラエルの町々を巡り尽くせないからです。
24 弟子はその師にまさらず、しもべはその主人にまさりません。 25 弟子がその師のようになれたら十分だし、しもべがその主人のようになれたら十分です。彼らは家長をベルゼブルと呼ぶぐらいですから、ましてその家族の者のことは、何と呼ぶでしょう。 26 だから、彼らを恐れてはいけません。おおわれているもので、現われないものはなく、隠されているもので知られずに済むものはありません。 27 わたしが暗やみであなたがたに話すことを明るみで言いなさい。また、あなたがたが耳もとで聞くことを屋上で言い広めなさい。 28 からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。 29 二羽の雀は一アサリオンで売っているでしょう。しかし、そんな雀の一羽でも、あなたがたの父のお許しなしには地に落ちることはありません。
30 また、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。 31 だから恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。 32 ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。 33 しかし、人の前でわたしを知らないと言うよう

な者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。
34 わたしが来たのは地に平和をもたらすためだと思ってはなりません。わたしは、平和をもたらすために来たのではなく、剣をもたらすために来たのです。 35 なぜなら、わたしは人をその父に、娘をその母に、嫁をそのしゅうとめに逆らわせるために来たからです。 36 さらに、家族の者がその人の敵となります。 37 わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしにふさわしい者ではありません。 38 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしにふさわしい者ではありません。 39 自分のいのちを自分のものとした者はそれを失い、わたしのために自分のいのちを失った者は、それを自分のものとします。
40 あなたがたを受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。また、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わした方を受け入れるのです。 41 預言者を預言者だというので受け入れる者は、預言者の受ける報いを受けます。また、義人を義人だということで受け入れる者は、義人の受ける報いを受けます。 42 わたしの弟子だというので、この小さい者たちのひとりに、水一杯でも飲ませるなら、まことに、あなたがたに告げます。その人は決して報いに漏れることはありません。」

11

1 イエスはこのように十二弟子に注意を与え、それを終えられると、彼らの町々で教えたり宣べ伝えたりするため、そこを立ち去られた。
2 さて、獄中でキリストのみわざについて聞いたヨハネは、その弟子たちに託して、 3 イエスにこう言い送った。「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、私たちは別の方を待つべきでしょうか。」 4 イエスは答えて、彼らに言われた。「あなたがたは行って、自分たちの聞いたり見たりしていることをヨハネに報告しなさい。 5 盲人が見、足なえが歩き、らい病人がきよめられ、つんぼの人が聞こえ、死人が生き返り、貧しい者には福音が宣べ伝えられているのです。 6 だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」
7 この人たちが行ってしまうと、イエスは、ヨハネについて群衆に話しだされた。「あなたがたは、何を見に荒野に出て行ったのですか。風に揺れる葦ですか。 8 でなかったら、何を見に行ったのですか。柔らかい着物を着た人ですか。柔らかい着物を着た人なら王の宮殿にいます。 9 でなかったら、なぜ行ったのですか。預言者を見るためですか。そのとおり。だが、わたしが言いましょう。預言者よりもすぐれた者をです。 10 この人こそ、
『見よ、わたしは使いをあなたの前に遣わし、
あなたの道を、あなたの前に備えさせよう。』
と書かれているその人です。 11 まことに、あなたがたに告げます。女から生まれた者の中で、バプテスマのヨハネよりすぐれた人は出ませんでした。しかも、天の御国の一番小さい者でも、彼より偉大です。 12 バプテスマのヨハネの日以来今日まで、天の御国は激しく攻められています。そして、激しく攻める者たちがそれを奪い取っています。 13 ヨハネに至るまで、すべての預言者たちと律法とが預言をしたのです。 14 あなたがたが進んで受け入れるなら、実はこの人こそ、きたるべきエリヤなのです。 15 耳のある者は聞きなさい。 16 この時代は何にたとえたらよいでしょう。市場にすわっている子どもたちのようです。彼らは、ほかの子どもたちに呼びかけて、 17 こう言うのです。
『笛を吹いてやっても、君たちは踊らなかった。
弔いの歌を歌ってやっても、悲しまなかった。』
18 ヨハネが来て、食べも飲みもしないと、人々は『あれは悪霊につかれているのだ。』と言い、 19 人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『あれ見よ。食いしんぼうの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ。』と言います。でも、知恵の正しいことは、その行ないが証明します。」
20 それから、イエスは、数々の力あるわざの行なわれた町々が悔い改めなかったので、責め始められた。 21 「ああコラジン。ああベツサイダ。おまえたちのうちで行なわれた力あるわざが、もしもツロとシドンで行なわれたのだったら、彼らはとうの昔に荒布をまとい、灰をかぶって悔い改めていたことだろう。 22 しかし、そのツロとシドンのほうが、おまえたちに言うが、さばきの日には、まだおまえたちよりは罰が軽いのだ。 23 カペナウム。どうしておまえが天に上げられることがありえよう。ハデスに落とされるのだ。おまえの中でなされた力あるわざが、もしもソドムでなされたのだったら、ソドムはきょうま

で残っていたことだろう。 24 しかし、そのソドムの地のほうが、おまえたちに
言うが、さばきの日には、まだおまえよりは罰が軽いのだ。」
25 そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主であられる父よ。あなたを
ほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子た
ちに現わしてくださいました。 26 そうです、父よ。これがみこころにかなった
ことでした。 27 すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。
それで、父のほかには、子を知る者がなく、子と、子が父を知らせようと心に
定めた人のほかは、だれも父を知る者がありません。 28 すべて、疲れた人、重
荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ま
せてあげます。 29 わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわ
たしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎ
が来ます。 30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからです。」

12

1 そのころ、イエスは、安息日に麦畑を通られた。弟子たちはひもじくなった
ので、穂を摘んで食べ始めた。 2 すると、パリサイ人たちがそれを見つけて、イ
エスに言った。「ご覧なさい。あなたの弟子たちが、安息日にしてはならない
ことをしています。」 3 しかし、イエスは言われた。「ダビデとその連れの者
たちが、ひもじかったときに、ダビデが何をしたか、読まなかったのですか。
4 神の家にはいって、祭司のほかは自分も供の者たちも食べてはならない供えの
パンを食べました。 5 また、安息日に宮にいる祭司たちは安息日の神聖を冒し
ても罪にならないということを、律法で読んだことはないのですか。 6 あなた
がたに言いますが、ここに宮より大きな者がいるのです。 7 『わたしはあわれ
みは好むが、いけにえは好まない。』ということがどういう意味かを知ってい
たら、あなたがたは、罪のない者たちを罪に定めはしなかったでしょう。 8 人
の子は安息日の主です。」
9 イエスはそこを去って、会堂にはいられた。 10 そこに片手のなえた人がい
た。そこで、彼らはイエスに質問して、「安息日にいやすことは正しいことで
しょうか。」と言った。これはイエスを訴えるためであった。 11 イエスは彼ら
に言われた。「あなたがたのうち、だれかが一匹の羊を持っていて、もしその
羊が安息日に穴に落ちたら、それを引き上げてやらないでしょうか。 12 人間は
羊より、はるかに値うちのあるものでしょう。それなら、安息日に良いことを
するることは、正しいのです。」 13 それから、イエスはその人に、「手を伸ばし
なさい。」と言われた。彼が手を伸ばすと、手は直って、もう一方の手と同じ
ようになった。 14 パリサイ人は出て行って、どのようにしてイエスを滅ぼそ
うかと相談した。
15 イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。すると多くの人がついて来
たので、彼らをみないやし、 16 そして、ご自分のことを人々に知らせないよう
にと、彼らを戒められた。 17 これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就
するためであった。
18 「これぞ、わたしの選んだわたしのしもべ、
わたしの心の喜ぶわたしの愛する者。
わたしは彼の上にわたしの霊を置き、
彼は異邦人にさばきを宣べる。
19 争うこともなく、叫ぶこともせず、
大路でその声を聞く者もない。
20 彼はいたんだ葦を折ることもなく、
くすぶる燈心を消すこともない、
正義を勝利に導くまでは。
21 異邦人は彼の名に望みをかける。」

22 そのとき、悪霊につかれた、目も見えず、口もきけない人が連れて来られた。イエスが彼をいやされたので、そのおしはものを言い、目も見えるようになった。 23 群衆はみな驚いて言った。「この人は、ダビデの子なのだろうか。」 24 これを聞いたパリサイ人は言った。「この人は、ただ悪霊どものかしらベルゼブルの力で、悪霊どもを追い出しているだけだ。」 25 イエスは彼らの思いを知ってこう言われた。「どんな国でも、内輪もめして争えば荒れすたれ、どんな町でも家でも、内輪もめして争えば立ち行きません。 26 もし、サタンがサタンを追い出していて仲間割れしたのだったら、どうしてその国は立ち行くでしょう。 27 また、もしわたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているのなら、あなたがたの子らはだれによって追い出すのですか。だから、あなたがたの子らが、あなたがたをさばく人となるのです。 28 しかし、わたし

が神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたが
たのところに来ているのです。 29 強い人の家にはいって家財を奪い取ろうと
するなら、まずその人を縛ってしまわないで、どうしてそのようなことができ
ましょうか。そのようにして初めて、その家を略奪することもできるのです。
30 わたしの味方でない者はわたしに逆らう者であり、わたしとともに集めない
者は散らす者です。 31 だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな
罪も冒涜も赦していただけます。しかし、聖霊に逆らう冒涜は赦されません。
32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも、赦されます。しかし、聖霊
に逆らうことを言う者は、だれであっても、この世であろうと次に来る世であ
ろうと、赦されません。 33 木が良ければ、その実も良いとし、木が悪ければ
その実も悪いとしなさい。木のよしあしはその実によって知られるからです。
34 まむしのすえたち。おまえたち悪い者に、どうして良いことが言えましょ
う。心に満ちていることを口が話すのです。 35 良い人は、良い倉から良い物を
取り出し、悪い人は、悪い倉から悪い物を取り出すものです。 36 わたしはあな
たがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだなことばについ
て、さばきの日には言い開きをしなければなりません。 37 あなたが正しいとさ
れるのは、あなたのことばによるのであり、罪に定められるのも、あなたの
ことばによるのです。」

38 そのとき、律法学者、パリサイ人たちのうちのある者がイエスに答えて言
った。「先生。私たちは、あなたからしるしを見せていただきたいのです。」
39 しかし、イエスは答えて言われた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めて い
ます。だが預言者ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。 40 ヨ
ナは三日三晩大魚の腹の中にいましたが、同様に、人の子も三日三晩、地の中
にいるからです。 41 ニネベの人々が、さばきのときに、今の時代の人々とと も
に立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で
悔い改めたからです。しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がい る
のです。 42 南の女王が、さばきのときに、今の時代の人々とともに立って、こ
のの人々を罪に定めます。なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果
てから来たからです。しかし、見なさい。ここにソロモンよりもまさった者が
いるのです。 43 汚れた霊が人から出て行って、水のない地をさまよいながら
休み場を捜しますが、見つかりません。 44 そこで、『出て来た自分の家に帰ろ
う。』と言って、帰って見ると、家はあいていて、掃除してきちんとかたづい
ていました。 45 そこで、出かけて行って、自分よりも悪いほかの霊を七つ連れ
て来て、みなはいり込んでそこに住みつくのです。そうなると、その人の後の
状態は、初めよりもさらに悪くなります。邪悪なこの時代もまた、そういう こ
とになるのです。」

46 イエスがまだ群衆に話しておられるときに、イエスの母と兄弟たちが、イ
エスに何か話そうとして、外に立っていた。 47 すると、だれかが言った。「ご
覧なさい。あなたのおかあさんと兄弟たちが、あなたに話そうとして外に立っ
ています。」 48 しかし、イエスはそう言っている人に答えて言われた。「わた
しの母とはだれですか。また、わたしの兄弟たちとはだれですか。」 49 それか
ら、イエスは手を弟子たちのほうに差し伸べて言われた。「見なさい。わたし
の母、わたしの兄弟たちです。 50 天におられるわたしの父のみこころを行な う
者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」

13

1 その日、イエスは家を出て、湖のほとりにすわっておられた。 2 すると、大
ぜいの群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に移って腰をおろされた。そ
れで群衆はみな浜に立っていた。 3 イエスは多くのことを、彼らにたとえで話
して聞かされた。

「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。
4 蒔いているとき、道ばたに落ちた種があった。すると鳥が来て食べてしま
った。
5 また、別の種が土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽
を出した。
6 しかし、日が上ると、焼けて、根がないために枯れてしまった。
7 また、別の種はいばらの中に落ちたが、いばらが伸びて、ふさいでしまっ
た。
8 別の種は良い地に落ちて、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるもの
は三十倍の実を結んだ。
9 耳のある者は聞きなさい。」

10 すると、弟子たちが近寄って来て、イエスに言った。「なぜ、彼らにたと
えでお話しになったのですか。」 11 イエスは答えて言われた。「あなたがた
には、天の御国の奥義を知ることが許されているが、彼らには許されていませ
ん。 12 というのは、持っている者はさらに与えられて豊かになり、持たない者
は持っているものまでも取り上げられてしまうからです。 13 わたしが彼らにた
とえで話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟
ることもしないからです。 14 こうしてイザヤの告げた預言が彼らの上に実現し
たのです。
『あなたがたは確かに聞きはするが、
決して悟らない。
確かに見てはいるが、決してわからない。
15 この民の心は鈍くなり、
その耳は遠く、
目はつぶっているからである。
それは、彼らがその目で見、その耳で聞き、
その心で悟って立ち返り、
わたしにいやされることのないためである。』
16 しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳
は聞いているから幸いです。 17 まことに、あなたがたに告げます。多くの預
言者や義人たちが、あなたがたの見ているものを見たいと、切に願ったのに
見られず、あなたがたの聞いていることを聞きたいと、切に願ったのに聞け
なかったのです。 18 ですから、種蒔きのたとえを聞きなさい。 19 御国のこ
とばを聞いても悟らないと、悪い者が来て、その人の心に蒔かれたものを奪
って行きます。道ばたに蒔かれるとは、このような人のことです。 20 また岩
地に蒔かれるとは、みことばを聞くと、すぐに喜んで受け入れる人のことで
す。 21 しかし、自分のうちに根がないため、しばらくの間そうするだけで、
みことばのために困難や迫害が起こると、すぐにつまずいてしまいます。
22 また、いばらの中に蒔かれるとは、みことばを聞くが、この世の心づかい
と富の惑わしとがみことばをふさぐため、実を結ばない人のことです。 23 と
ころが、良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いてそれを悟る人のことで、
その人はほんとうに実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるも
のは三十倍の実を結びます。」
24 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。
「天の御国は、こういう人にたとえることができます。ある人が自分の畑に
良い種を蒔いた。 25 ところが、人々の眠っている間に、彼の敵が来て麦の中
に毒麦を蒔いて行った。 26 麦が芽ばえ、やがて実ったとき、毒麦も現われ
た。 27 それで、その家の主人のしもべたちが来て言った。『ご主人。畑には
良い麦を蒔かれたのではありませんか。どうして毒麦が出たのでしょう。』
28 主人は言った。『敵のやったことです。』すると、しもべたちは言った。
『では、私たちが行ってそれを抜き集めましょうか。』 29 だが、主人は言っ
た。『いやいや。毒麦を抜き集めるうちに、麦もいっしょに抜き取るかもし
れない。 30 だから、収穫まで、両方とも育つままにしておきなさい。収穫の
時期になったら、私は刈る人たちに、まず、毒麦を集め、焼くために束にし
なさい。麦のほうは、集めて私の倉に納めなさい、と言いましょう。』」

31 イエスは、また別のたとえを彼らに示して言われた。「天の御国は、から
し種のようなものです。それを取って、畑に蒔くと、 32 どんな種よりも小さい
のですが、生長すると、どの野菜よりも大きくなり、空の鳥が来て、その枝に
巣を作るほどの木になります。」
33 イエスは、また別のたとえを話された。「天の御国は、パン種のようなも
のです。女が、パン種を取って、三サトンの粉の中に入れると、全体がふくら
んで来ます。」
34 イエスは、これらのことをみな、たとえで群衆に話され、たとえを使わず
には何もお話しにならなかった。 35 それは、預言者を通して言われた事が成就
するためであった。
「わたしはたとえ話をもって口を開き、
世の初めから隠されていることどもを物語ろう。」

36 それから、イエスは群衆と別れて家にはいられた。すると、弟子たちがみ
もとに来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください。」と言った。 37 イエス
は答えてこう言われた。「良い種を蒔く者は人の子です。 38 畑はこの世界の
ことで、良い種とは御国の子どもたち、毒麦とは悪い者の子どもたちのことで

す。 39 毒麦を蒔いた敵は悪魔であり、収穫とはこの世の終わりのことです。そ
して、刈り手とは御使いたちのことです。 40 ですから、毒麦が集められて火で
焼かれるように、この世の終わりにもそのようになります。 41 人の子はその御
使いたちを遣わします。彼らは、つまずきを与える者や不法を行なう者たちを
みな、御国から取り集めて、 42 火の燃える炉に投げ込みます。彼らはそこで泣
いて歯ぎしりするのです。 43 そのとき、正しい者たちは、天の父の御国で太陽
のように輝きます。耳のある者は聞きなさい。
44 天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つける
と、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買
います。
45 また、天の御国は、良い真珠を捜している商人のようなものです。 46 すば
らしい値うちの真珠を一つ見つけた者は、行って持ち物を全部売り払ってそれ
を買ってしまいます。
47 また、天の御国は、海におろしてあらゆる種類の魚を集める地引き網のよ
うなものです。 48 網がいっぱいになると岸に引き上げ、すわり込んで、良いも
のは器に入れ、悪いものは捨てるのです。 49 この世の終わりにもそのようにな
ります。御使いたちが来て、正しい者の中から悪い者をえり分け、 50 火の燃え
る炉に投げ込みます。彼らはそこで泣いて歯ぎしりするのです。
51 あなたがたは、これらのことがみなわかりましたか。」彼らは「はい。」
とイエスに言った。 52 そこで、イエスは言われた。「だから、天の御国の弟子
となった学者はみな、自分の倉から新しい物でも古い物でも取り出す一家の主
人のようなものです。」
53 これらのたとえを話し終えると、イエスはそこを去られた。 54 それから、
ご自分の郷里に行って、会堂で人々を教え始められた。すると、彼らは驚いて
言った。「この人は、こんな知恵と不思議な力をどこで得たのでしょう。 55 ここ
の人は大工の息子ではありませんか。彼の母親はマリヤで、彼の兄弟は、ヤコ
ブ、ヨセフ、シモン、ユダではありませんか。 56 妹たちもみな私たちといっし
ょにいるではありませんか。とすると、いったいこの人は、これらのものをど
こから得たのでしょう。」 57 こうして、彼らはイエスにつまずいた。しかし、
イエスは彼らに言われた。「預言者が尊敬されないのは、自分の郷里、家族の
間だけです。」 58 そして、イエスは、彼らの不信仰のゆえに、そこでは多くの
奇蹟をなさらなかった。

14

1 そのころ、国主ヘロデは、イエスのうわさを聞いて、 2 侍従たちに言った。
「あれはバプテスマのヨハネだ。ヨハネが死人の中からよみがえったのだ。だ
から、あんな力が彼のうちに働いているのだ。」 3 実は、このヘロデは、自分
の兄弟ピリポの妻ヘロデヤのことで、ヨハネを捕えて縛り、牢に入れたのであ
った。 4 それは、ヨハネが彼に、「あなたが彼女をめとるのは不法です。」と
言い張ったからである。 5 ヘロデはヨハネを殺したかったが、群衆を恐れた。
というのは、彼らはヨハネを預言者と認めていたからである。 6 たまたまヘロ
デの誕生祝いがあって、ヘロデヤの娘がみなの前で踊りを踊ってヘロデを喜ば
せた。 7 それで、彼は、その娘に、願う物は何でも必ず上げると、誓って堅い
約束をした。 8 ところが、娘は母親にそそのかされて、こう言った。「今ここ
に、バプテスマのヨハネの首を盆に載せて私に下さい。」 9 王は心を痛めたが、
自分の誓いもあり、また列席の人々の手前もあって、与えるように命令した。
10 彼は人をやって、牢の中でヨハネの首をはねさせた。 11 そして、その首は盆
に載せて運ばれ、少女に与えられたので、少女はそれを母親のところに持って
行った。 12 それから、ヨハネの弟子たちがやって来て、死体を引き取って葬っ
た。そして、イエスのところに行って報告した。
13 イエスはこのことを聞かれると、舟でそこを去り、自分だけで寂しい所に
行かれた。すると、群衆がそれと聞いて、町々から、歩いてイエスのあとを追
った。 14 イエスは舟から上がられると、多くの群衆を見られ、彼らを深くあわ
れんで、彼らの病気を直された。 15 夕方になったので、弟子たちはイエスのと
ころに来て言った。「ここは寂しい所ですし、時刻ももう回っています。です
から群衆を解散させてください。そして村に行ってめいめいで食物を買うよう
にさせてください。」 16 しかし、イエスは言われた。「彼らが出かけて行く必
要はありません。あなたがたで、あの人たちに何か食べる物を上げなさい。」
17 しかし、弟子たちはイエスに言った。「ここには、パンが五つと魚が二匹よ
りほかありません。」 18 すると、イエスは言われた。「それを、ここに持って
来なさい。」 19 そしてイエスは、群衆に命じて草の上にすわらせ、五つのパ
ンと二匹の魚を取り、天を見上げて、それらを祝福し、パンを裂いてそれを弟

子たちに与えられたので、弟子たちは群衆に配った。 20 人々はみな、食べて満
腹した。そして、パン切れの余りを取り集めると、十二のかごにいっぱいあっ
た。 21 食べた者は、女と子どもを除いて、男五千人ほどであった。
22 それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませて、自分より先
に向こう岸へ行かせ、その間に群衆を帰してしまわれた。 23 群衆を帰したあと
で、祈るために、ひとりで山に登られた。夕方になったが、まだそこに、ひと
りでおられた。 24 しかし、舟は、陸からもう何キロメートルも離れていたが、
風が向かい風なので、波に悩まされていた。 25 すると、夜中の三時ごろ、イエ
スは湖の上を歩いて、彼らのところに行かれた。 26 弟子たちは、イエスが湖
の上を歩いておられるのを見て、「あれは幽霊だ。」と言って、おびえてしま
い、恐ろしさのあまり、叫び声を上げた。 27 しかし、イエスはすぐに彼らに話
しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない。」と言われた。
28 すると、ペテロが答えて言った。「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水
の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」 29 イエスは「来ス
なさい。」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエス
のほうに行った。 30 ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出
し、「主よ。助けてください。」と言った。 31 そこで、イエスはすぐに手を伸
ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」 32 そ
して、ふたりが舟に乗り移ると、風がやんだ。 33 そこで、舟の中にいた者たち
は、イエスを拝んで、「確かにあなたは神の子です。」と言った。
34 彼らは湖を渡ってゲネサレの地に着いた。 35 すると、その地の人々は、イ
エスと気がついて、付近の地域にくまなく知らせ、病人という病人をみな、み
もとに連れて来た。 36 そして、せめて彼らに、着物のふさにでもさわらせてや
ってくださいと、イエスにお願いした。そして、さわった人々はみな、いやさ
れた。

15

1 そのころ、パリサイ人や律法学者たちが、エルサレムからイエスのところに
来て、言った。 2 「あなたの弟子たちは、なぜ昔の先祖たちの言い伝えを犯す
のですか。パンを食べるときに手を洗っていないではありませんか。」 3 そこ
で、イエスは彼らに答えて言われた。「なぜ、あなたがたも、自分たちの言い
伝えのために神の戒めを犯すのですか。 4 神は『あなたの父と母を敬え。』ま
た『父や母をののしる者は、死刑に処せられる。』と言われたのです。 5 それ
なのに、あなたがたは、『だれでも、父や母に向かって、私からあなたのため
に差し上げられる物は、供え物になりましたと言う者は、 6 その物をもって父
や母を尊んではならない。』と言っています。こうしてあなたがたは、自分た
ちの言い伝えのために、神のことばを無にしてしまいました。 7 偽善者たち。
イザヤはあなたがたについて預言しているが、まさにそのとおりです。
8 『この民は、口先ではわたしを敬うが、
その心は、わたしから遠く離れている。
9 彼らが、わたしを拝んでも、むだなことである。
人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』」
10 イエスは群衆を呼び寄せて言われた。「聞いて悟りなさい。 11 口にはい
る物は人を汚しません。しかし、口から出るもの、これが人を汚します。」
12 そのとき、弟子たちが、近寄って来て、イエスに言った。「パリサイ人
が、みことばを聞いて、腹を立てたのをご存じですか。」 13 しかし、イエス
は答えて言われた。「わたしの天の父がお植えにならなかった木は、みな根
こそぎにされます。 14 彼らのことは放っておきなさい。彼らは盲人を手引き
する盲人です。もし、盲人が盲人を手引きするなら、ふたりとも穴に落ち込
むのです。」 15 そこで、ペテロは、イエスに答えて言った。「私たちに、そ
のたとえを説明してください。」 16 イエスは言われた。「あなたがたも、ま
だわからないのですか。 17 口にはいる物はみな、腹にはいり、かわやに捨て
られることを知らないのですか。 18 しかし、口から出るものは、心から出て
来ます。それは人を汚します。 19 悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽
証、ののしりは心から出て来るからです。 20 これらは、人を汚すものです。
しかし、洗わない手で食べることは人を汚しません。」
21 それから、イエスはそこを去って、ツロとシドンの地方に立ちのかれた。
22 すると、その地方のカナン人の女が出て来て、叫び声をあげて言った。「主
よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれ
ているのです。」 23 しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。
そこで、弟子たちはみもとに来て、「あの女を帰してやってください。叫びな
がらあとについて来るのです。」と言ってイエスに願った。 24 しかし、イエ

スは答えて、「わたしは、イスラエルの家の滅びた羊以外のところには遣わされていません。」と言われた。 25 しかし、その女は来て、イエスの前にひれ
伏して、「主よ。私をお助けください。」と言った。 26 すると、イエスは答えて、「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです。」と言われた。 27 しかし、女は言った。「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」 28 そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。
29 それから、イエスはそこを去って、ガリラヤ湖の岸を行き、山に登って、そこにすわっておられた。 30 すると、大ぜいの人の群れが、足なえ、不具者、盲人、おしの人、そのほかたくさんの人をみもとに連れて来た。そして、彼らをイエスの足もとに置いたので、イエスは彼らをおいやしになった。 31 それで、群衆は、おしがものを言い、不具者が直り、足なえが歩き、盲人が見えるようになったのを見て、驚いた。そして、彼らはイスラエルの神をあがめた。
32 イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた。「かわいそうに、この群衆はもう三日間もわたしといっしょにいて、食べる物を持っていないのです。彼らを空腹のままで帰らせたくありません。途中で動けなくなるといけないから。」
33 そこで弟子たちは言った。「このへんぴな所で、こんなに大ぜいの人に、十分食べさせるほどたくさんのパンが、どこから手にはいるでしょう。」 34 すると、イエスは彼らに言われた。「どれぐらいパンがありますか。」彼らは言った。「七つです。それに、小さい魚が少しあります。」 35 すると、イエスは群衆に、地面にすわるように命じられた。 36 それから、七つのパンと魚とを取り、感謝をささげてからそれを裂き、弟子たちに与えられた。そして、弟子たちは群衆に配った。 37 人々はみな、食べて満腹した。そして、パン切れの余りを取り集めると、七つのかごにいっぱいあった。 38 食べた者は、女と子どもを除いて、男四千人であった。 39 それから、イエスは群衆を解散させて舟に乗り、マガダン地方に行かれた。

16

1 パリサイ人やサドカイ人たちがみそばに寄って来て、イエスをためそうとして、天からのしるしを見せてくださいと頼んだ。 2 しかし、イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、夕方には、『夕焼けだから晴れる。』と言うし、 3 朝には、『朝焼けでどんよりしているから、きょうは荒れ模様だ。』と言う。そんなによく、空模様の見分け方を知っていながら、なぜ時のしるしを見分けることができないのですか。 4 悪い、姦淫の時代はしるしを求めています。しかし、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。」そう言って、イエスは彼らを残して去って行かれた。
5 弟子たちは向こう岸に行ったが、パンを持って来るのを忘れた。 6 イエスは彼らに言われた。「パリサイ人やサドカイ人たちのパン種には注意して気をつけなさい。」 7 すると、彼らは、「これは私たちがパンを持って来なかったからだ。」と言って、議論を始めた。 8 イエスはそれに気づいて言われた。「あなたがた、信仰の薄い人たち。パンがないからだなどと、なぜ論じ合っているのですか。 9 まだわからないのですか、覚えていないのですか。五つのパンを五千人に分けてあげて、なお幾かご集めましたか。 10 また、七つのパンを四千人に分けてあげて、なお幾かご集めましたか。 11 わたしの言ったのは、パンのことなどではないことが、どうしてあなたがたには、わからないのですか。ただ、パリサイ人やサドカイ人たちのパン種に気をつけることです。」 12 彼らはようやく、イエスが気をつけよと言われたのは、パン種のことではなくて、パリサイ人やサドカイ人たちの教えのことであることを悟った。
13 さて、ピリポ・カイザリヤの地方に行かれたとき、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。「人々は人の子をだれだと言っていますか。」 14 彼らは言った。「バプテスマのヨハネだと言う人もあり、エリヤだと言う人もあります。またほかの人たちはエレミヤだとか、また預言者のひとりだとも言っています。」 15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。」 16 シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」 17 するとイエスは、彼に答えて言われた。「バルヨナ・シモン。あなたは幸いです。このことをあなたに明らかに示したのは人間ではなく、天にいますわたしの父です。 18 ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。 19 わたしは、あなたに天の御国のかぎを上げます。何でもあなたが地上でつなぐなら、それは天においてもつながれており、あなたが地上で解くなら、それは天においても解かれています。」 20 そのとき、イエスは、

ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と弟子たちを戒められた。
21 その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、
祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみ
がえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。 22 するとペテロ
は、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますよう
に。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」 23 しかし、イエスは
振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔を
するものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」 24 そ
れから、イエスは弟子たちに言われた。「だれでもわたしについて来たいと思
うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。
25 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、
それを見いだすのです。 26 人は、たとい全世界を手に入れても、まことのいの
ちを損じたら、何の得がありましょう。そのいのちを買い戻すのには、人はい
ったい何を差し出せばよいでしょう。 27 人の子は父の栄光を帯びて、御使いた
ちとともに、やがて来ようとしているのです。その時には、おのおのその行な
いに応じて報いをします。 28 まことに、あなたがたに告げます。ここに立って
いる人々の中には、人の子が御国とともに来るのを見るまでは、決して死を味
わわない人々がいます。」

17

1 それから六日たって、イエスは、ペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連
れて、高い山に導いて行かれた。 2 そして彼らの目の前で、御姿が変わり、御
顔は太陽のように輝き、御衣は光のように白くなった。 3 しかも、モーセとエ
リヤが現われてイエスと話し合っているではないか。 4 すると、ペテロが口出
しして イエスに言った。「先生。私たちがここにいることは、すばらしいこと
です。もし、およろしければ、私が、ここに三つの幕屋を造ります。あなたの
ために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」 5 彼がまだ話して
いる間に、見よ、光り輝く雲がその人々を包み、そして、雲の中から、「これ
は、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞きなさい。」
という声がした。 6 弟子たちは、この声を聞くと、ひれ伏して非常にこわがっ
た。 7 すると、イエスが来られて、彼らに手を触れ、「起きなさい。こわがるな
ことはない。」と言われた。 8 それで、彼らが目を上げて見ると、だれもいな
く て、ただイエスおひとりだけであった。
9 彼らが山を降りるとき、イエスは彼らに、「人の子が死人の中からよみが
えるときまでは、いま見た幻をだれにも話してはならない。」と命じられた。
10 そこで、弟子たちは、イエスに尋ねて言った。「すると、律法学者たちが、
まずエリヤが来るはずだと言っているのは、どうしてでしょうか。」 11 イエ
スは答えて言われた。「エリヤが来て、すべてのことを立て直すのです。 12 し
かし、わたしは言います。エリヤはもうすでに来たのです。ところが彼らはエ
リヤを認めようとせず、彼に対して好き勝手なことをしたのです。人の子もま
た、彼らから同じように苦しめられようとしています。」 13 そのとき、弟子た
ちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言われたのだと気づいた。
14 彼らが群衆のところに来たとき、ひとりの人がイエスのそば近くに来て、
御前にひざまずいて言った。 15 「主よ。私の息子をあわれんでください。てん
かんで、たいへん苦しんでおります。何度も何度も火の中に落ちたり、水の中
に落ちたりいたします。 16 そこで、その子をお弟子たちのところに連れて来た
のですが、直すことができませんでした。」 17 イエスは答えて言われた。「あ
あ、不信仰な、曲がった今の世だ。いつまであなたがたといっしょにいなけれ
ばならないのでしょう。いつまであなたがたにがまんしていなければならない
のでしょう。その子をわたしのところに連れて来なさい。」 18 そして、イエス
がその子をおしかりになると、悪霊は彼から出て行き、その子はその時から直
った。
19 そのとき、弟子たちはそっとイエスのもとに来て、言った。「なぜ、私た
ちには悪霊を追い出せなかったのですか。」 20 イエスは言われた。「あなたが
たの信仰が薄いからです。まことに、あなたがたに告げます。もし、からし種
ほどの信仰があったら、この山に、『ここからあそこに移れ。』と言えば移る
のです。どんなことでも、あなたがたにできないことはありません。 21 ［ただ
し、この種のものは、祈りと断食によらなければ出て行きません。］」
22 彼らがガリラヤに集まっていたとき、イエスは彼らに言われた。「人の子
は、いまに人々の手に渡されます。 23 そして彼らに殺されるが、三日目によみ
がえります。」すると、彼らは非常に悲しんだ。

24 また、彼らがカペナウムに来たとき、宮の納入金を集める人たちが、ペ
テロのところに来て言った。「あなたがたの先生は、宮の納入金を納めないの
ですか。」25 彼は「納めます。」と言って、家にはいると、先にイエスのほう
からこう言い出された。「シモン。どう思いますか。世の王たちはだれから税
や貢を取り立てますか。自分の子どもたちからですか、それともほかの人たち
からですか。」26 ペテロが「ほかの人たちからです。」と言うと、イエスは言
われた。「では、子どもたちにはその義務がないのです。27 しかし、彼らにつ
まずきを与えないために、湖に行って釣りをして、最初に釣れた魚を取りなさ
い。その口をあけるとスタテル一枚が見つかるから、それを取って、わたし
あなたとの分として納めなさい。」

18

1 そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「それでは、天の御国
では、だれが一番偉いのでしょうか。」2 そこで、イエスは小さい子どもを呼
び寄せ、彼らの真中に立たせて、3 言われた。「まことに、あなたがたに告げ
ます。あなたがたも悔い改めて子どもたちのようにならない限り、決して天の
御国には、はいれません。4 だから、この子どものように、自分を低くする者
が、天の御国で一番偉い人です。5 また、だれでも、このような子どものひと
りを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。6 し
かし、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるよう
な者は、大きい石臼を首にかけられて、湖の深みでおぼれ死んだほうがまし
です。
7 つまずきを与えるこの世は忌まわしいものです。つまずきが起こることは
避けられないが、つまずきをもたらす者は忌まわしいものです。8 もし、あな
たの手か足の一つがあなたをつまずかせるなら、それを切って捨てなさい。片
手片足でいのちにはいるほうが、両手両足そろっていて永遠の火に投げ入れら
れるよりは、あなたにとってよいことです。9 また、もし、あなたの一方の目
が、あなたをつまずかせるなら、それをえぐり出して捨てなさい。片目でいの
ちにはいるほうが、両目そろっていて燃えるゲヘナに投げ入れられるよりは、
あなたにとってよいことです。10 あなたがたは、この小さい者たちを、ひとり
でも見下げたりしないように気をつけなさい。まことに、あなたがたに告げま
す。彼らの天の御使いたちは、天におられるわたしの父の御顔をいつも見てい
るからです。11 ［人の子は、滅んでいる者を救うために来たのです。］12 あな
たがたはどう思いますか。もし、だれかが百匹の羊を持っていて、そのうちの
一匹が迷い出たとしたら、その人は九十九匹を山に残して、迷った一匹を捜し
に出かけないでしょうか。13 そして、もし、いたとなれば、まことに、あなた
がたに告げます。その人は迷わなかった九十九匹の羊以上にこの一匹を喜ぶの
です。14 このように、この小さい者たちのひとりが滅びることは、天にいま
すあなたがたの父のみこころではありません。
15 また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのとき
ろで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。16 もし聞き
入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたり
か三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。17 それで
もなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言
うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人か取税人のように扱いなさい。
18 まことに、あなたがたに告げます。何でもあなたがたが地上でつなぐなら、
それは天においてもつながれており、あなたがたが地上で解くなら、それは天
においても解かれているのです。19 まことに、あなたがたにもう一度、告げま
す。もし、あなたがたのうちふたりが、どんな事でも、地上で心を一つにして
祈るなら、天におられるわたしの父は、それをかなえてくださいます。20 ふた
りでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしもその中にいるか
らです。」
21 そのとき、ペテロがみもとに来て言った。「主よ。兄弟が私に対して罪を
犯したばあい、何度まで赦すべきでしょうか。七度までですか。」22 イエ
スは言われた。「七度まで、などとはわたしは言いません。七度を七十倍する
までと言います。23 このことから、天の御国は、地上の王にたとえることが
できます。
王はそのしもべたちと清算をしたいと思った。24 清算が始まると、まず一万
タラントの借りのあるしもべが、王のところに連れて来られた。25 しかし、
彼は返済することができなかったので、その主人は彼に、自分も妻子も持ち
物全部も売って返済するように命じた。26 それで、このしもべは、主人の
前にひれ伏して、『どうかご猶予ください。そうすれば全部お払いいたしま

す。』と言った。 27 しもべの主人は、かわいそうに思って、彼を赦し、借金
を免除してやった。 28 ところが、そのしもべは、出て行くと、同じしもべ仲
間で、彼から百デナリの借りのある者に出会った。彼はその人をつかまえ、
首を絞めて、『借金を返せ。』と言った。 29 彼の仲間は、ひれ伏して、『も
う少し待ってくれ。そうしたら返すから。』と言って頼んだ。 30 しかし彼は
承知せず、連れて行って、借金を返すまで牢に投げ入れた。 31 彼の仲間たち
は事の成り行きを見て、非常に悲しみ、行って、その一部始終を主人に話し
た。 32 そこで、主人は彼を呼びつけて言った。『悪いやつだ。おまえがあん
なに頼んだからこそ借金全部を赦してやったのだ。 33 私がおまえをあわれん
でやったように、おまえも仲間をあわれんでやるべきではないか。』 34 こう
して、主人は怒って、借金を全部返すまで、彼を獄吏に引き渡した。
35 あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、
あなたがたに、このようになさるのです。」

19

1 イエスはこの話を終えると、ガリラヤを去って、ヨルダンの向こうにある
ユダヤ地方に行かれた。 2 すると、大ぜいの群衆がついて来たので、そこで彼
らをおいやしになった。
3 パリサイ人たちがみもとにやって来て、イエスを試みて、こう言った。「何
か理由があれば、妻を離別することは律法にかなっているでしょうか。」 4 イ
エスは答えて言われた。「創造者は、初めから人を男と女に造って、 5 『それ
ゆえ、人はその父と母を離れて、その妻と結ばれ、ふたりの者が一心同体に
なるのだ。』と言われたのです。それを、あなたがたは読んだことがないので
すか。 6 それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。こういうわけで、
人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」 7 彼らはイエスに
言った。「では、モーセはなぜ、離婚状を渡して妻を離別せよ、と命じたので
すか。」 8 イエスは彼らに言われた。「モーセは、あなたがたの心がかたくな
なので、その妻を離別することをあなたがたに許したのです。しかし、初めか
らそうだったのではありません。 9 まことに、あなたがたに告げます。だれで
も、不貞のためでなくて、その妻を離別し、別の女を妻にする者は姦淫を犯す
のです。」 10 弟子たちはイエスに言った。「もし妻に対する夫の立場がそんな
ものなら、結婚しないほうがましです。」 11 しかし、イエスは言われた。「そ
のことばは、だれでも受け入れることができるわけではありません。ただ、そ
れが許されている者だけができるのです。 12 というのは、母の胎内から、その
ように生まれついた独身者がいます。また、人から独身者にさせられた者もい
ます。また、天の御国のために、自分から独身者になった者もいるからです。
それができる者はそれを受け入れなさい。」
13 そのとき、イエスに手を置いて祈っていただくために、子どもたちが連れ
て来られた。ところが、弟子たちは彼らをしかった。 14 しかし、イエスは言わ
れた。「子どもたちを許してやりなさい。邪魔をしないでわたしのところに来
させなさい。天の御国はこのような者たちの国なのです。」 15 そして、手を彼
らの上に置いてから、そこを去って行かれた。
16 すると、ひとりの人がイエスのもとに来て言った。「先生。永遠のいの
ちを得るためには、どんな良いことをしたらよいのでしょうか。」 17 イエス
は彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い
方は、ひとりだけです。もし、いのちにはいりたいと思うなら、戒めを守りな
さい。」 18 彼は「どの戒めですか。」と言った。そこで、イエスは言われた。
「殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証をしては
ならない。 19 父と母を敬え。あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」
20 この青年はイエスに言った。「そのようなことはみな、守っております。何
がまだ欠けているのでしょうか。」 21 イエスは、彼に言われた。「もし、あな
たが完全になりたいなら、帰って、あなたの持ち物を売り払って貧しい人たち
に与えなさい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえ
で、わたしについて来なさい。」 22 ところが、青年はこのことばを聞くと、悲
しんで去って行った。この人は多くの財産を持っていたからである。
23 それから、イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに告げ
ます。金持ちが天の御国にはいるのはむずかしいことです。 24 まことに、あな
たがたにもう一度、告げます。金持ちが神の国にはいるよりは、らくだが針の
穴を通るほうがもっとやさしい。」 25 弟子たちは、これを聞くと、たいへん驚
いて言った。「それでは、だれが救われることができるのでしょう。」 26 イエ
スは彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできないことです。しかし、
神にはどんなことでもできます。」 27 そのとき、ペテロはイエスに答えて言っ

た。「ご覧ください。私たちは、何もかも捨てて、あなたに従ってまいりました。私たちは何がいただけるでしょうか。」[28]そこで、イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。[29]また、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、あるいは畑を捨てた者はすべて、その幾倍もを受け、また永遠のいのちを受け継ぎます。[30]ただ、先の者があとになり、あとの者が先になることが多いのです。

20

[1]天の御国は、自分のぶどう園で働く労務者を雇いに朝早く出かけた主人のようなものです。
[2]彼は、労務者たちと一日一デナリの約束ができると、彼らをぶどう園にやった。[3]それから、九時ごろに出かけてみると、別の人たちが市場に立っており、何もしないでいた。[4]そこで、彼はその人たちに言った。『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい。相当のものを上げるから。』[5]彼らは出て行った。それからまた、十二時ごろと三時ごろに出かけて行って、同じようにした。[6]また、五時ごろ出かけてみると、別の人たちが立っていたので、彼らに言った。『なぜ、一日中仕事もしないでここにいるのですか。』[7]彼らは言った。『だれも雇ってくれないからです。』彼は言った。『あなたがたも、ぶどう園に行きなさい。』[8]こうして、夕方になったので、ぶどう園の主人は、監督に言った。『労務者たちを呼んで、最後に来た者たちから順に、最初に来た者たちにまで、賃金を払ってやりなさい。』[9]そこで、五時ごろに雇われた者たちが来て、それぞれ一デナリずつもらった。[10]最初の者たちがもらいに来て、もっと多くもらえるだろうと思ったが、彼らもやはりひとりが一デナリずつであった。[11]そこで、彼らはそれを受け取ると、主人に文句をつけて、[12]言った。『この最後の連中は一時間しか働かなかったのに、あなたは私たちと同じにしました。私たちは一日中、労苦と焼けるような暑さを辛抱したのです。』[13]しかし、彼はそのひとりに答えて言った。『私はあなたに何も不当なことはしていない。あなたは私と一デナリの約束をしたのではありませんか。[14]自分の分を取って帰りなさい。ただ私としては、この最後の人にも、あなたと同じだけ上げたいのです。[15]自分のものを自分の思うようにしてはいけないという法がありますか。それとも、私が気前がいいので、あなたの目にはねたましく思われるのですか。』
[16]このように、あとの者が先になり、先の者があとになるものです。」
[17]さて、イエスは、エルサレムに上ろうとしておられたが、十二弟子だけを呼んで、道々彼らに話された。[18]「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるのです。彼らは人の子を死刑に定めます。[19]そして、あざけり、むち打ち、十字架につけるため、異邦人に引き渡します。しかし、人の子は三日目によみがえります。」
[20]そのとき、ゼベダイの子たちの母が、子どもたちといっしょにイエスのもとに来て、ひれ伏して、お願いがありますと言った。[21]イエスが彼女に、「どんな願いですか。」と言われると、彼女は言った。「私のこのふたりの息子が、あなたの御国で、ひとりはあなたの右に、ひとりは左にすわれるようにお言ばを下さい。」[22]けれども、イエスは答えて言われた。「あなたがたは自分が何を求めているのか、わかっていないのです。わたしが飲もうとしている杯を飲むことができますか。」彼らは「できます。」と言った。[23]イエスは言われた。「あなたがたはわたしの杯を飲みはします。しかし、わたしの右と左にすわることは、このわたしの許すことではなく、わたしの父によってそれに備えられた人々があるのです。」[24]このことを聞いたほかの十人は、このふたりの兄弟のことで腹を立てた。[25]そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、言われた。「あなたがたも知っているとおり、異邦人の支配者たちは彼らを支配し、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。[26]あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。[27]あなたがたの間で人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。[28]人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」
[29]彼らがエリコを出て行くと、大ぜいの群衆がイエスについて行った。[30]すると、道ばたにすわっていたふたりの盲人が、イエスが通られると聞いて、叫んで言った。「主よ。私たちをあわれんでください。ダビデの子よ。」[31]そ

こで、群衆は彼らを黙らせようとして、たしなめたが、彼らはますます、「主
よ。私たちをあわれんでください。ダビデの子よ。」と叫び立てた。 32 すると、イエスは立ち止まって、彼らを呼んで言われた。「わたしに何をしてほしいのか。」 33 彼らはイエスに言った。「主よ。この目をあけていただきたいのです。」 34 イエスはかわいそうに思って、彼らの目にさわられた。すると、すぐさま彼らは見えるようになり、イエスについて行った。

21

1 それから、彼らはエルサレムに近づき、オリーブ山のふもとのベテパゲまで来た。そのとき、イエスは、弟子をふたり使いに出して、 2 言われた。「向こうの村へ行きなさい。そうするとすぐに、ろばがつながれていて、いっしょにろばの子がいるのに気がつくでしょう。それをほどいて、わたしのところに連れて来なさい。 3 もしだれかが何か言ったら、『主がお入用なのです。』と言いなさい。そうすれば、すぐに渡してくれます。」 4 これは、預言者を通して言われた事が成就するために起こったのである。

5 「シオンの娘に伝えなさい。
『見よ。あなたの王が、
あなたのところにお見えになる。
柔和で、ろばの背に乗って、
それも、荷物を運ぶろばの子に乗って。』」

6 そこで、弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにした。 7 そして、ろばと、ろばの子とを連れて来て、自分たちの上着をその上に掛けた。イエスはそれに乗られた。 8 すると、群衆のうち大ぜいの者が、自分たちの上着を道に敷き、また、ほかの人々は、木の枝を切って来て、道に敷いた。 9 そして、群衆は、イエスの前を行く者も、あとに従う者も、こう言って叫んでいた。
「ダビデの子にホサナ。
祝福あれ。主の御名によって来られる方に。
ホサナ。いと高き所に。」

10 こうして、イエスがエルサレムにはいられると、都中がこぞって騒ぎ立ち、「この方は、どういう方なのか。」と言った。 11 群衆は、「この方は、ガリラヤのナザレの、預言者イエスだ。」と言った。

12 それから、イエスは宮にはいって、宮の中で売り買いする者たちをみな追い出し、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛けを倒された。 13 そして彼らに言われた。「『わたしの家は祈りの家と呼ばれる。』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にしている。」 14 また、宮の中で、盲人や足なえがみもとに来たので、イエスは彼らをいやされた。 15 ところが、祭司長、律法学者たちは、イエスのなさった驚くべきいろいろのことを見、また宮の中でて子どもたちが「ダビデの子にホサナ。」と言って叫んでいるのを見て腹を立てた。 16 そしてイエスに言った。「あなたは、子どもたちが何と言っているか、お聞きですか。」イエスは言われた。「聞いています。『あなたは幼子と乳飲み子たちの口に賛美を用意された。』とあるのを、あなたがたは読まなかったのですか。」 17 イエスは彼らをあとに残し、都を出てベタニヤに行き、そこに泊まられた。

18 翌朝、イエスは都に帰る途中、空腹を覚えられた。 19 道ばたにいちじくの木が見えたので、近づいて行かれたが、葉のほかは何もないのに気づかれた。それで、イエスはその木に「おまえの実は、もういつまでも、ならないように。」と言われた。すると、たちまちいちじくの木は枯れた。 20 弟子たちは、これを見て、驚いて言った。「どうして、こうすぐにいちじくの木が枯れたのでしょうか。」 21 イエスは答えて言われた。「まことに、あなたがたに告げます。もし、あなたがたが、信仰を持ち、疑うことがなければ、いちじくの木になされたようなことができるだけでなく、たとい、この山に向かって、『動いて、海にはいれ。』と言っても、そのとおりになります。 22 あなたがたが信じて祈り求めるものなら、何でも与えられます。」

23 それから、イエスが宮にはいって、教えておられると、祭司長、民の長老たちが、みもとに来て言った。「何の権威によって、これらのことをしておられるのですか。だれが、あなたにその権威を授けたのですか。」 24 イエスは答えて、こう言われた。「わたしも一言あなたがたに尋ねましょう。もし、あなたがたが答えるなら、わたしも何の権威によって、これらのことをしているかを話しましょう。 25 ヨハネのバプテスマは、どこから来たものですか。天からですか。それとも人からですか。」すると、彼らはこう言いながら、互いに論じ合った。「もし、天から、と言えば、それならなぜ、彼を信じなかったか、

と言うだろう。 26 しかし、もし、人から、と言えば、群衆がこわい。彼らはみ
な、ヨハネを預言者と認めているのだから。」 27 そこで、彼らはイエスに答え
て、「わかりません。」と言った。イエスもまた彼らにこう言われた。「わた
しも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに話すまい。
28 ところで、あなたがたは、どう思いますか。ある人にふたりの息子が
いた。その人は兄のところに来て、『きょう、ぶどう園に行って働いてく
れ。』と言った。 29 兄は答えて『行きます。おとうさん。』と言ったが、行
かなかった。 30 それから、弟のところに来て、同じように言った。ところ
が、弟は答えて『行きたくありません。』と言ったが、あとから悪かったと
思って出かけて行った。
31 ふたりのうちどちらが、父の願ったとおりにしたのでしょう。」彼らは言
った。「あとの者です。」イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたが
たに告げます。取税人や遊女たちのほうが、あなたがたより先に神の国には
いっているのです。 32 というのは、あなたがたは、ヨハネが義の道を持って
来たのに、彼を信じなかった。しかし、取税人や遊女たちは彼を信じたから
です。しかもあなたがたは、それを見ながら、あとになって悔いることもせ
ず、彼を信じなかったのです。
33 もう一つのたとえを聞きなさい。
ひとりの、家の主人がいた。彼はぶどう園を造って、垣を巡らし、その中
に酒ぶねを掘り、やぐらを建て、それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。
34 さて、収穫の時が近づいたので、主人は自分の分を受け取ろうとして、農
夫たちのところへしもべたちを遣わした。 35 すると、農夫たちは、そのしも
べたちをつかまえて、ひとりは袋だたきにし、もうひとりは殺し、もうひと
りは石で打った。 36 そこでもう一度、前よりももっと多くの別のしもべた
ちを遣わしたが、やはり同じような扱いをした。 37 しかし、そのあと、その
主人は、『私の息子なら、敬ってくれるだろう。』と言って、息子を遣わし
た。 38 すると、農夫たちは、その子を見て、こう話し合った。『あれはあと
取りだ。さあ、あれを殺して、あれのものになるはずの財産を手に入れよう
ではないか。』 39 そして、彼をつかまえて、ぶどう園の外に追い出して殺し
てしまった。
40 このばあい、ぶどう園の主人が帰って来たら、その農夫たちをどうする
でしょう。」 41 彼らはイエスに言った。「その悪党どもを情け容赦なく殺し
て、そのぶどう園を、季節にはきちんと収穫を納める別の農夫たちに貸すに
違いありません。」 42 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、次の聖書
のことばを読んだことがないのですか。
『家を建てる者たちの見捨てた石。
それが礎の石になった。
これは主のなさったことだ。
私たちの目には、
不思議なことである。』
43 だから、わたしはあなたがたに言います。神の国はあなたがたから取り去
られ、神の国の実を結ぶ国民に与えられます。 44 また、この石の上に落ちる
者は、粉々に砕かれ、この石が人の上に落ちれば、その人を粉みじんに飛ば
してしまいます。」 45 祭司長たちとパリサイ人たちは、イエスのこれらのた
とえを聞いたとき、自分たちをさして話しておられることに気づいた。 46 そ
れでイエスを捕えようとしたが、群衆を恐れた。群衆はイエスを預言者と認
めていたからである。

22

1 イエスはもう一度たとえをもって彼らに話された。 2 「天の御国は、王子の
ために結婚の披露宴を設けた王にたとえることができます。
3 王は、招待しておいたお客を呼びに、しもべたちを遣わしたが、彼らは来た
がらなかった。 4 それで、もう一度、次のように言いつけて、別のしもべたち
を遣わした。『お客に招いておいた人たちにこう言いなさい。「さあ、食事
の用意ができました。雄牛も太った家畜もほふって、何もかも整いました。
どうぞ宴会にお出かけください。」』 5 ところが、彼らは気にもかけず、あ
る者は畑に、別の者は商売に出て行き、 6 そのほかの者たちは、王のしもべ
たちをつかまえて恥をかかせ、そして殺してしまった。 7 王は怒って、兵隊を
出して、その人殺しどもを滅ぼし、彼らの町を焼き払った。 8 そのとき、王
はしもべたちに言った。『宴会の用意はできているが、招待しておいた人た
ちは、それにふさわしくなかった。 9 だから、大通りに行って、出会った者
をみな宴会に招きなさい。』 10 それで、しもべたちは、通りに出て行って、

良い人でも悪い人でも出会った者をみな集めたので、宴会場は客でいっぱい
になった。 11 ところで、王が客を見ようとしてはいって来ると、そこに婚礼
の礼服を着ていない者がひとりいた。 12 そこで、王は言った。『あなたは、
どうして礼服を着ないで、ここにはいって来たのですか。』しかし、彼は黙
っていた。 13 そこで、王はしもべたちに、『あれの手足を縛って、外の暗や
みに放り出せ。そこで泣いて歯ぎしりするのだ。』と言った。
14 招待される者は多いが、選ばれる者は少ないのです。」
15 そのころ、パリサイ人たちは出て来て、どのようにイエスをことばのわな
にかけようかと相談した。 16 彼らはその弟子たちを、ヘロデ党の者たちといっ
しょにイエスのもとにやって、こう言わせた。「先生。私たちは、あなたが真
実な方で、真理に基づいて神の道を教え、だれをもはばからない方だと存じて
います。あなたは、人の顔色を見られないからです。 17 それで、どう思われる
のか言ってください。税金をカイザルに納めることは、律法にかなっているこ
とでしょうか。かなっていないことでしょうか。」 18 イエスは彼らの悪意を知
って言われた。「偽善者たち。なぜ、わたしをためすのか。 19 納め金にする お
金をわたしに見せなさい。」そこで彼らは、デナリを一枚イエスのもとに持っ
て来た。 20 そこで彼らに言われた。「これは、だれの肖像ですか。だれの銘で
すか。」 21 彼らは、「カイザルのです。」と言った。そこで、イエスは言われ
た。「それなら、カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは
神に返しなさい。」 22 彼らは、これを聞いて驚嘆し、イエスを残して立ち去っ
た。
23 その日、復活はないと言っているサドカイ人たちが、イエスのところに
来て、質問して、 24 言った。「先生。モーセは『もし、ある人が子のないまま
で死んだなら、その弟は兄の妻をめとって、兄のための子をもうけねばなら
ない。』と言いました。 25 ところで、私たちの間に七人兄弟がありました。長
男は結婚しましたが、死んで、子がなかったので、その妻を弟に残しました。
26 次男も三男も、七人とも同じようになりました。 27 そして、最後に、その女
も死にました。 28 すると復活の際には、その女は七人のうちだれの妻なのでし
ょうか。彼らはみな、その女を妻にしたのです。」 29 しかし、イエスは彼らに
答えて言われた。「そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らない
からです。 30 復活の時には、人はめとることも、とつぐこともなく、天の御使
いたちのようです。 31 それに、死人の復活については、神があなたがたに語ら
れた事を、あなたがたは読んだことがないのですか。 32 『わたしは、アブラハ
ムの神、イサクの神、ヤコブの神である。』とあります。神は死んだ者の神で
はありません。生きている者の神です。」 33 群衆はこれを聞いて、イエスの教
えに驚いた。
34 しかし、パリサイ人たちは、イエスがサドカイ人たちを黙らせたと聞い
て、いっしょに集まった。 35 そして、彼らのうちのひとりの律法の専門家が、
イエスをためそうとして、尋ねた。 36 「先生。律法の中で、たいせつな戒めは
どれですか。」 37 そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽
くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』 38 これがたいせつな
第一の戒めです。 39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第
二の戒めも、それと同じようにたいせつです。 40 律法全体と預言者とが、この
二つの戒めにかかっているのです。」
41 パリサイ人たちが集まっているときに、イエスは彼らに尋ねて言われた。
42 「あなたがたは、キリストについて、どう思いますか。彼はだれの子です
か。」彼らはイエスに言った。「ダビデの子です。」 43 イエスは彼らに言われ
た。「それでは、どうしてダビデは、御霊によって、彼を主と呼び、
44 『主は私の主に言われた。
「わたしがあなたの敵を
あなたの足の下に従わせるまでは、
わたしの右の座に着いていなさい。」』
と言っているのですか。 45 ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どう
して彼はダビデの子なのでしょう。」 46 それで、だれもイエスに一言も答え
ることができなかった。また、その日以来、もはやだれも、イエスにあえて
質問をする者はなかった。

23

1 そのとき、イエスは群衆と弟子たちに話をして、 2 こう言われた。「律法学
者、パリサイ人たちは、モーセの座を占めています。 3 ですから、彼らがあな
たがたに言うことはみな、行ない、守りなさい。けれども、彼らの行ないをま
ねてはいけません。彼らは言うことは言うが、実行しないからです。 4 また、

彼らは重い荷をくくって、人の肩に載せ、自分はそれに指一本さわろうとはし
ません。 5 彼らのしていることはみな、人に見せるためです。経札の幅を広く
したり、衣のふさを長くしたりするのもそうです。 6 また、宴会の上座や会堂
の上席が大好きで、 7 広場であいさつされたり、人から先生と呼ばれたりする
ことが好きです。 8 しかし、あなたがたは先生と呼ばれてはいけません。あな
たがたの教師はただひとりしかなく、あなたがたはみな兄弟だからです。 9 あ
なたがたは地上のだれかを、われらの父と呼んではいけません。あなたがたの
父はただひとり、すなわち天にいます父だけだからです。 10 また、師と呼ば
れてはいけません。あなたがたの師はただひとり、キリストだからです。 11 あ
なたがたのうちの一番偉大な者は、あなたがたに仕える人でなければなりませ
ん。 12 だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされ
ます。
13 しかし、わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなた
がたは、人々から天の御国をさえぎっているのです。自分もはいらず、はいろ
うとしている人々をもはいらせないのです。 14 ［わざわいが来ますぞ。偽善の
律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、やもめたちの家を食いつぶしてい
ながら、見えのために長い祈りをするからです。ですから、あなたがたは、人
一倍ひどい罰を受けます。］
15 わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。改宗者をひとり
つくるのに、海と陸とを飛び回り、改宗者ができると、その人を自分より倍も
悪いゲヘナの子にするからです。
16 わざわいが来ますぞ。目の見えぬ手引きども。あなたがたはこう言う。
『だれでも、神殿をさして誓ったのなら、何でもない。しかし、神殿の黄金を
さして誓ったら、その誓いを果たさなければならない。』 17 愚かで、目の見
えぬ人たち。黄金と、黄金を神聖なものにする神殿と、どちらがたいせつなの
か。 18 また、こう言う。『だれでも、祭壇をさして誓ったのなら、何でもな
い。しかし、祭壇の上の供え物をさして誓ったら、その誓いを果たさなければ
ならない。』 19 目の見えぬ人たち。供え物と、その供え物を神聖なものにする
祭壇と、どちらがたいせつなのか。 20 ですから、祭壇をさして誓う者は、祭壇
をも、その上のすべての物をもさして誓っているのです。 21 また、神殿をさし
て誓う者は、神殿をも、その中に住まわれる方をもさして誓っているのです。
22 天をさして誓う者は、神の御座とそこに座しておられる方をさして誓うので
す。
23 わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、
はっか、いのんど、クミンなどの十分の一を納めているが、律法の中ではるか
に重要なもの、すなわち正義もあわれみも誠実もおろそかにしているのです。
これこそしなければならないことです。ただし、他のほうもおろそかにしては
いけません。 24 目の見えぬ手引きども。あなたがたは、ぶよは、こして除く
が、らくだはのみこんでいます。
25 わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは、
杯や皿の外側はきよめるが、その中は強奪と放縦でいっぱいです。 26 目の見え
ぬパリサイ人たち。まず、杯の内側をきよめなさい。そうすれば、外側もきよ
くなります。
27 わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは白
く塗った墓のようなものです。墓はその外側は美しく見えても、内側は、死人
の骨や、あらゆる汚れたものがいっぱいなように、 28 あなたがたも、外側は人
に正しいと見えても、内側は偽善と不法でいっぱいです。
29 わざわいが来ますぞ。偽善の律法学者、パリサイ人たち。あなたがたは預
言者の墓を建て、義人の記念碑を飾って、 30 『私たちが、先祖の時代に生きて
いたら、預言者たちの血を流すような仲間にはならなかっただろう。』と言い
ます。 31 こうして、預言者を殺した者たちの子孫だと、自分で証言していま
す。 32 あなたがたも先祖の罪の目盛りの不足分を満たしなさい。 33 おまえた
ちち蛇ども、まむしのすえども。おまえたちは、ゲヘナの刑罰をどうしてのがれ
ることができよう。 34 だから、わたしが預言者、知者、律法学者たちを遣わす
と、おまえたちはそのうちのある者を殺し、十字架につけ、またある者を会堂
でむち打ち、町から町へと迫害して行くのです。 35 それは、義人アベルの血
からこのかた、神殿と祭壇との間で殺されたバラキヤの子ザカリヤの血に至る
まで、地上で流されるすべての正しい血の報復があなたがたの上に来るためで
ます。 36 まことに、あなたがたに告げます。これらの報いはみな、この時代の上
に来ます。
37 ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人
たちを石で打つ者。わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、あな

たの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好
まなかった。 38 見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。 39 あ
なたがたに告げます。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』とあな
たがたが言うときまで、あなたがたは今後決してわたしを見ることはありま せ
ん。」

24

1 イエスが宮を出て行かれるとき、弟子たちが近寄って来て、イエスに宮の
建物をさし示した。 2 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「このすべて
の物に目をみはっているのでしょう。まことに、あなたがたに告げます。こ
では、石がくずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」
3 イエスがオリーブ山ですわっておられると、弟子たちが、ひそかにみもとに
来て言った。「お話しください。いつ、そのようなことが起こるのでしょう。
あなたの来られる時や世の終わりには、どんな前兆があるのでしょう。」 4 そな
で、イエスは彼らに答えて言われた。「人に惑わされないように気をつけな
さい。 5 わたしの名を名のる者が大ぜい現われ、『私こそキリストだ。』と言
って、多くの人を惑わすでしょう。 6 また、戦争のことや、戦争のうわさをこ
くでしょうが、気をつけて、あわてないようにしなさい。これらは必ず起こる
と です。しかし、終わりが来たのではありません。 7 民族は民族に、国は国
に敵対して立ち上がり、方々にききんと地震が起こります。 8 しかし、そのよ
うなことはみな、産みの苦しみの初めなのです。 9 そのとき、人々は、あなた
がたを苦しいめに会わせ、殺します。また、わたしの名のために、あなたがた
はすべての国の人々に憎まれます。 10 また、そのときは、人々が大ぜいつま ず
き、互いに裏切り、憎み合います。 11 また、にせ預言者が多く起こって、多く
の人々を惑わします。 12 不法がはびこるので、多くの人たちの愛は冷たくな り
ます。 13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われます。 14 この御国の福音は全世
界に宣べ伝えられて、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来
ます。
15 それゆえ、預言者ダニエルによって語られたあの『荒らす憎むべき者』
が、聖なる所に立つのを見たならば、（読者はよく読み取るように。） 16 その
ときは、ユダヤにいる人々は山へ逃げなさい。 17 屋上にいる者は家の中の物を
持ち出そうと下に降りてはいけません。 18 畑にいる者は着物を取りに戻っては
いけません。 19 だが、その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。
20 ただ、あなたがたの逃げるのが、冬や安息日にならぬよう祈りなさい。 21 そ
のときには、世の初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、ま
たこれからもないような、ひどい苦難があるからです。 22 もし、その日数が少
なくされなかったら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、選ば
れた者のために、その日数は少なくされます。 23 そのとき、『そら、キリスト
がここにいる。』とか、『そこにいる。』とか言う者があっても、信じてはい
けません。 24 にせキリスト、にせ預言者たちが現われて、できれば選民をも惑
わそうとして、大きなしるしや不思議なことをして見せます。 25 さあ、わたし
は、あなたがたに前もって話しました。 26 だから、たとい、『そら、荒野にい
らっしゃる。』と言っても、飛び出して行ってはいけません。『そら、へやに
いらっしゃる。』と聞いても、信じてはいけません。 27 人の子の来るのは、い
なずまが東から出て、西にひらめくように、ちょうどそのように来るのです。
28 死体のある所には、はげたかが集まります。
29 だが、これらの日の苦難に続いてすぐに、太陽は暗くなり、月は光を放た
ず、星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。 30 そのとき、人の子のし
るしが天に現われます。すると、地上のあらゆる種族は、悲しみながら、人の
子が大能と輝かしい栄光を帯びて天の雲に乗って来るのを見るのです。 31 人の
子は大きなラッパの響きとともに、御使いたちを遣わします。すると御使いた
ちは、天の果てから果てまで、四方からその選びの民を集めます。
32 いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかになって、葉が出て
来ると、夏の近いことがわかります。 33 そのように、これらのことのすべて
を見たら、あなたがたは、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。 34 ま
ことに、あなたがたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、
この時代は過ぎ去りません。 35 この天地は滅び去ります。しかし、わたしのこ
とばは決して滅びることがありません。 36 ただし、その日、その時がいつであ
るかは、だれも知りません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが
知っておられます。 37 人の子が来るのは、ちょうど、ノアの日のようだからで
す。 38 洪水前の日々は、ノアが箱舟にはいるその日まで、人々は、飲んだり、
食べたり、めとったり、とついだりしていました。 39 そして、洪水が来てすべ

ての物をさらってしまうまで、彼らはわからなかったのです。人の子が来るのも、そのとおりです。 40 そのとき、畑にふたりいると、ひとりは取られ、ひとりは残されます。 41 ふたりの女が臼をひいていると、ひとりは取られ、ひとりは残されます。 42 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、自分の主がいつ来られるか、知らないからです。 43 しかし、このことは知っておきなさい。家の主人は、どろぼうが夜の何時に来ると知っていたら、目を見張っていたでしょうし、また、おめおめと自分の家に押し入られはしなかったでしょう。 44 だから、あなたがたも用心していなさい。なぜなら、人の子は、思いがけない時に来るのですから。

45 主人から、その家のしもべたちを任されて、食事時には彼らに食事をきちんと与えるような忠実な思慮深いしもべとは、いったいだれでしょうか。 46 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸いです。 47 まことに、あなたがたに告げます。その主人は彼に自分の全財産を任せるようになります。 48 ところが、それが悪いしもべで、『主人はまだまだ帰るまい。』と心の中で思い、 49 その仲間を打ちたたき、酒飲みたちと飲んだり食べたりし始めていると、 50 そのしもべの主人は、思いがけない日の思わぬ時間に帰って来ます。 51 そして、彼をきびしく罰して、その報いを偽善者たちと同じにするに違いありません。しもべはそこで泣いて歯ぎしりするのです。

25

1 そこで、天の御国は、たとえて言えば、それぞれがともしびを持って、花婿を出迎える十人の娘のようです。

2 そのうち五人は愚かで、五人は賢かった。 3 愚かな娘たちは、ともしびは持っていたが、油を用意しておかなかった。 4 賢い娘たちは、自分のともしびといっしょに、入れ物に油を入れて持っていた。 5 花婿が来るのが遅れたので、みな、うとうとして眠り始めた。 6 ところが、夜中になって、『そら、花婿だ。迎えに出よ。』と叫ぶ声がした。 7 娘たちは、みな起きて、自分のともしびを整えた。 8 ところが愚かな娘たちは、賢い娘たちに言った。『油を少し私たちに分けてください。私たちのともしびは消えそうです。』 9 しかし、賢い娘たちは答えて言った。『いいえ、あなたがたに分けてあげるにはとうてい足りません。それよりも店に行って、自分のをお買いなさい。』 10 そこで、買いに行くと、その間に花婿が来た。用意のできていた娘たちは、彼とともに婚礼の祝宴に行き、戸がしめられた。 11 そのあとで、ほかの娘たちも来て、『ご主人さま、ご主人さま。あけてください。』と言った。 12 しかし、彼は答えて、『確かなところ、私はあなたがたを知りません。』と言った。

13 だから、目をさましていなさい。あなたがたは、その日、その時を知らないからです。

14 天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。

15 彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。 16 五タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。 17 同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。 18 ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その主人の金を隠した。 19 さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。 20 すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま。私に五タラント預けてくださいましたが、ご覧ください。私はさらに五タラントもうけました。』 21 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』 22 二タラントの者も来て言った。『ご主人さま。私は二タラント預かりましたが、ご覧ください。さらに二タラントもうけました。』 23 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』 24 ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。 25 私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』 26 ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。 27 だったら、おまえはその私の金

を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来たときに、利息
がついて返してもらえたのだ。 28 だから、そのタラントを彼から取り上げ
て、それを十タラント持っている者にやりなさい。』
29 だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持って
いるものまでも取り上げられるのです。 30 役に立たぬしもべは、外の暗やみ
に追い出しなさい。そこで泣いて歯ぎしりするのです。
31 人の子が、その栄光を帯びて、すべての御使いたちを伴って来るとき、人
の子はその栄光の位に着きます。 32 そして、すべての国々の民が、その御前に
集められます。彼は、羊飼いが羊と山羊とを分けるように、彼らをより分け、
33 羊を自分の右に、山羊を左に置きます。 34 そうして、王は、その右にいる者
たちに言います。『さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あ
なたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。 35 あなたがたは、わたしが
空腹であったとき、わたしに食べる物を与え、わたしが渇いていたとき、わた
しに飲ませ、わたしが旅人であったとき、わたしに宿を貸し、 36 わたしが裸
のとき、わたしに着る物を与え、わたしが病気をしたとき、わたしを見舞い、
わたしが牢にいたとき、わたしをたずねてくれたからです。』 37 すると、その
正しい人たちは、答えて言います。『主よ。いつ、私たちは、あなたが空腹な
のを見て、食べる物を差し上げ、渇いておられるのを見て、飲ませてあげまし
た か。 38 いつ、あなたが旅をしておられるときに、泊まらせてあげ、裸なの を
見て、着る物を差し上げましたか。 39 また、いつ、私たちは、あなたのご病気
やあなたが牢におられるのを見て、おたずねしましたか。』 40 すると、王は彼
らに答えて言います。『まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、こた
れらのわたしの兄弟たち、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わた
しにしたのです。』 41 それから、王はまた、その左にいる者たちに言います。
『のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意さる
れた永遠の火にはいれ。 42 おまえたちは、わたしが空腹であったとき、食べる
物をくれず、渇いていたときにも飲ませず、 43 わたしが旅人であったときにも
泊まらせず、裸であったときにも着る物をくれず、病気のとき や牢にいたとき
にもたずねてくれなかった。』 44 そのとき、彼らも答えて言います。『主よ。
いつ、私たちは、あなたが空腹であり、渇き、旅をし、裸であり、病気をし、
牢におられるのを見て、お世話をしなかったのでしょうか。』 45 すると、王は
彼らに答えて言います。『まことに、おまえたちに告げます。おまえたちが、
この最も小さい者たちのひとりにしなかったのは、わたしにしなかったので
す。』 46 こうして、この人たちは永遠の刑罰にはいり、正しい人たちは永遠の
いのちにはいるのです。」

26

1 イエスは、これらの話をすべて終えると、弟子たちに言われた。 2 「あな
たがたの知っているとおり、二日たつと過越の祭りになります。人の子は十字
架につけられるために引き渡されます。」 3 そのころ、祭司長、民の長老たち
は、カヤパという大祭司の家の庭に集まり、 4 イエスをだまして捕え、殺そう
と相談した。 5 しかし、彼らは、「祭りの間はいけない。民衆の騒ぎが起こる
といけないから。」と話していた。
6 さて、イエスがベタニヤで、らい病人シモンの家におられると、 7 ひとり
の女がたいへん高価な香油のはいった石膏のつぼを持ってみもとに来て、食卓
に着いておられたイエスの頭に香油を注いだ。 8 弟子たちはこれを見て、憤慨
して言った。「何のために、こんなむだなことをするのか。 9 この香油なら、
高く売れて、貧乏な人たちに施しができたのに。」 10 するとイエスはこれを知
って、彼らに言われた。「なぜ、この女を困らせるのです。わたしに対してり
っぱなことをしてくれたのです。 11 貧しい人たちは、いつもあなたがたといっ
しょにいます。しかし、わたしは、いつもあなたがたといっしょにいるわけで
はありません。 12 この女が、この香油をわたしのからだに注いだのは、わたし
の埋葬の用意をしてくれたのです。 13 まことに、あなたがたに告げます。世界
中のどこででも、この福音が宣べ伝えられる所なら、この人のした事も語られ
て、この人の記念となるでしょう。」
14 そのとき、十二弟子のひとりで、イスカリオテ・ユダという者が、祭司長
たちのところへ行って、 15 こう言った。「彼をあなたがたに売るとしたら、い
ったいいくらくれますか。」すると、彼らは銀貨三十枚を彼に支払った。 16 そ
のときから、彼はイエスを引き渡す機会をねらっていた。
17 さて、種なしパンの祝いの第一日に、弟子たちがイエスのところに来て
言った。「過越の食事をなさるのに、私たちはどこで用意をしましょうか。」
18 イエスは言われた。「都にはいって、これこれの人のところに行って、『先

生が「わたしの時が近づいた。わたしの弟子たちといっしょに、あなたのところで過越を守ろう。」と言っておられる。』と言いなさい。」19そこで、弟子たちはイエスに言いつけられたとおりにして、過越の食事の用意をした。
20さて、夕方になって、イエスは十二弟子といっしょに食卓に着かれた。21みなが食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちひとりが、わたしを裏切ります。」22すると、弟子たちは非常に悲しんで、「主よ。まさか私のことではないでしょう。」とかわるがわるイエスに言った。23イエスは答えて言われた。「わたしといっしょに鉢に手を浸した者が、わたしを裏切るのです。24確かに、人の子は、自分について書いてあるとおりに、去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間はのろわれます。そういう人は生まれなかったほうがよかったのです。」25すると、イエスを裏切ろうとしていたユダが答えて言った。「先生。まさか私のことではないでしょう。」イエスは彼に、「いや、そうだ。」と言われた。
26また、彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して後、これを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取って食べなさい。これはわたしのからだです。」27また杯を取り、感謝をささげて後、こう言って彼らにお与えになった。「みな、この杯から飲みなさい。28これは、わたしの契約の血です。罪を赦すために多くの人のために流されるものです。29ただ、言っておきます。わたしの父の御国で、あなたがたと新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」
30そして、賛美の歌を歌ってから、みなオリーブ山へ出かけて行った。
31そのとき、イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、今夜、わたしのゆえにつまずきます。『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊の群れは散り散りになる。』と書いてあるからです。32しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先に、ガリラヤへ行きます。」33すると、ペテロがイエスに答えて言った。「たとい全部の者があなたのゆえにつまずいても、私は決してつまずきません。」34イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」35ペテロは言った。「たとい、ごいっしょに死ななければならないとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」弟子たちはみなそう言った。
36それからイエスは弟子たちといっしょにゲツセマネという所に来て、彼らに言われた。「わたしがあそこに行って祈っている間、ここにすわっていなさい。」37それから、ペテロとゼベダイの子ふたりとをいっしょに連れて行かれたが、イエスは悲しみもだえ始められた。38そのとき、イエスは彼らに言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、わたしといっしょに目をさましていなさい。」39それから、イエスは少し進んで行って、ひれ伏して祈って言われた。「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願うようにではなく、あなたのみこころのように、なさってください。」40それから、イエスは弟子たちのところに戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「あなたがたは、そんなに、一時間でも、わたしといっしょに目をさましていることができなかったのか。41誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。」42イエスは二度目に離れて行き、祈って言われた。「わが父よ。どうしても飲まずには済まされぬ杯であるなら、どうぞみこころのとおりをなさってください。」43イエスが戻って来て、ご覧になると、彼らはまたも眠っていた。目をあけていることができなかったのである。44イエスは、またも彼らを置いて行かれ、もう一度同じことを祈って三度目の祈りをされた。45それから、イエスは弟子たちのところに来て言われた。「まだ眠って休んでいるのですか。見なさい。時が来ました。人の子は罪人たちの手に渡されるのです。46立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。わたしを裏切る者が近づきました。」
47イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二弟子のひとりであるユダがやって来た。剣や棒を手にした大ぜいの群衆もいっしょであった。群衆はみな、祭司長、民の長老たちから差し向けられたものであった。48イエスを裏切る者は、彼らと合図を決めて、「私が口づけをするのが、その人だ。その人をつかまえるのだ。」と言っておいた。49それで、彼はすぐにイエスに近づき、「先生。お元気で。」と言って、口づけした。50イエスは彼に、「友よ。何のために来たのですか。」と言われた。そのとき、群衆が来て、イエスに手をかけて捕えた。51すると、イエスといっしょにいた者のひとりが、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに撃ってかかり、その耳を切り落とした。52そのと

き、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな剣で
滅びます。 53 それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使
いを、今わたしの配下に置いていただくことができないとでも思うのですか。
54 だが、そのようなことをすれば、こうならなければならないと書いてある聖
書が、どうして実現されましょう。」 55 そのとき、イエスは群衆に言われた。
「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってわたしをつかまえに来たの
ですか。わたしは毎日、宮ですわって教えていたのに、あなたがたは、わたし
を捕えなかったのです。 56 しかし、すべてこうなったのは、預言者たちの書が
実現するためです。」そのとき、弟子たちはみな、イエスを見捨てて、逃げて
しまった。
57 イエスをつかまえた人たちは、イエスを大祭司カヤパのところへ連れても
行った。そこには、律法学者、長老たちが集まっていた。 58 しかし、ペテロも
遠くからイエスのあとをつけながら、大祭司の中庭まではいって行き、成り行
きを見ようと役人たちといっしょにすわった。 59 さて、祭司長たちと全議会
は、イエスを死刑にするために、イエスを訴える偽証を求めていた。 60 偽証
者がたくさん出て来たが、証拠はつかめなかった。しかし、最後にふたりの者
が進み出て、 61 言った。「この人は、『わたしは神の神殿をこわして、それを
三日のうちに建て直せる。』と言いました。」 62 そこで、大祭司は立ち上がっ
て イエスに言った。「何も答えないのですか。この人たちが、あなたに不利な
証言をしていますが、これはどうなのですか。」 63 しかし、イエスは黙っておな
られた。それで、大祭司はイエスに言った。「私は、生ける神によって、あなた
たに命じます。あなたは神の子キリストなのか、どうか。その答えを言いなさ
い。」 64 イエスは彼に言われた。「あなたの言うとおりです。なお、あなたが
たに言っておきますが、今からのち、人の子が、力ある方の右の座に着き、天
の雲に乗って来るのを、あなたがたは見ることになります。」 65 すると、大祭
司は、自分の衣を引き裂いて言った。「神への冒涜だ。これでもまだ、証人が
必要でしょうか。あなたがたは、今、神をけがすことばを聞いたのです。 66 どう
考えますか。」彼らは答えて、「彼は死刑に当たる。」と言った。 67 そうして、
彼らはイエスの顔につばきをかけ、こぶしでなぐりつけ、また、他の者たち
は、イエスを平手で打って、 68 こう言った。「当ててみろ。キリスト。あな
たを打ったのはだれか。」
69 ペテロが外の中庭にすわっていると、女中のひとりが来て言った。「あな
たも、ガリラヤ人イエスといっしょにいましたね。」 70 しかし、ペテロはみな
の前でそれを打ち消して、「何を言っているのか、私にはわからない。」と言
った。 71 そして、ペテロが入口まで出て行くと、ほかの女中が、彼を見て、そこ
にいる人々に言った。「この人はナザレ人イエスといっしょでした。」 72 そ
れで、ペテロは、またもそれを打ち消し、誓って、「そんな人は知らない。」
と言った。 73 しばらくすると、そのあたりに立っている人々がペテロに近寄
って来て、「確かに、あなたもあの仲間だ。ことばのなまりではっきりわか
る。」と言った。 74 すると彼は、「そんな人は知らない。」と言って、のろい
をかけて誓い始めた。するとすぐに、鶏が鳴いた。 75 そこでペテロは、「鶏が
鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います。」とイエスの言われ
たあのことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。

27

1 さて、夜が明けると、祭司長、民の長老たち全員は、イエスを死刑にする
ために協議した。 2 それから、イエスを縛って連れ出し、総督ピラトに引き渡
した。
3 そのとき、イエスを売ったユダは、イエスが罪に定められたのを知って後悔
し、銀貨三十枚を、祭司長、長老たちに返して、 4 「私は罪を犯した。罪のな
い人の血を売ったりして。」と言った。しかし、彼らは、「私たちの知ったこ
とか。自分で始末することだ。」と言った。 5 それで、彼は銀貨を神殿に投げ
込んで立ち去った。そして、外に出て行って、首をつった。 6 祭司長たちは銀
貨を取って、「これを神殿の金庫に入れるのはよくない。血の代価だから。」
と言った。 7 彼らは相談して、その金で陶器師の畑を買い、旅人たちの墓地に
した。 8 それで、その畑は、今でも血の畑と呼ばれている。 9 そのとき、預言者
エレミヤを通して言われた事が成就した。「彼らは銀貨三十枚を取った。イス
ラエルの人々に値積もりされた人の値段である。 10 彼らは、主が私にお命じに
なったように、その金を払って、陶器師の畑を買った。」
11 さて、イエスは総督の前に立たれた。すると、総督はイエスに「あなた
は、ユダヤ人の王ですか。」と尋ねた。イエスは彼に「そのとおりです。」と
言われた。 12 しかし、祭司長、長老たちから訴えがなされたときは、何もお答

えにならなかった。 13 そのとき、ピラトはイエスに言った。「あんなにいろい
ろとあなたに不利な証言をしているのに、聞こえないのですか。」 14 それで
も、イエスは、どんな訴えに対しても一言もお答えにならなかった。それには
総督も非常に驚いた。 15 ところで総督は、その祭りには、群衆のために、いつ
も望みの囚人をひとりだけ赦免してやっていた。 16 そのころ、バラバといっう
名の知れた囚人が捕えられていた。 17 それで、彼らが集まったとき、ピラトがキ
言リった。「あなたがたは、だれを釈放してほしいのか。バラバか、それともキ
ストと呼ばれているイエスか。」 18 ピラトは、彼らがねたみからイエスを引
きたりして渡したことに気づいていたのである。 19 また、ピラトが裁判の席に着いてい
て、彼の妻が彼のもとに人をやって言わせた。「あの正しい人にはかかわ
て、てらはは言った。「あなたがたは、ふたりのうちどちらを釈放してほしいのか。」と
彼言われているイエスを私はどのようにしようか。」彼らはいっせいに言った。
「十字架につけろ。」 23 だが、ピラトは言った。「あの人がどんな悪い事をし
た続けた。 24 そこでピラトは、自分では手の下しようがなく、かえって暴動にな
りのと、民衆はみな答えて言った。「その人の血は、私たちや子どもたちの上にか
かってもいい。」 26 そこで、ピラトは彼らのためにバラバを釈放し、イエスを
むち打ってから、十字架につけるために引き渡した。
27 それから、総督の兵士たちは、イエスを官邸の中に連れて行って、イエス
の回りに全部隊を集めた。 28 そして、イエスの着物を脱がせて、緋色の上着
を着せた。 29 それから、いばらで冠を編み、頭にかぶらせ、右手に葦を持たせ
た。そして、彼らはイエスの前にひざまずいて、からかって言った。「ユダヤ
人の王さま。ばんざい。」 30 また彼らはイエスにつばきをかけ、葦を取り上げ
て イエスの頭をたたいた。 31 こんなふうに、イエスをからかったあげく、その
着物を脱がせて、もとの着物を着せ、十字架につけるために連れ出した。
32 そして、彼らが出て行くと、シモンというクレネ人を見つけたので、彼ら
は、この人にイエスの十字架を、むりやりに背負わせた。
33 ゴルゴタという所（「どくろ」と言われている場所）に来てから、 34 彼ら
はイエスに、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。イエスはそれをなめ
ただけで、飲もうとはされなかった。 35 こうして、イエスを十字架につけてか
ら、彼らはくじを引いて、イエスの着物を分け、 36 そこにすわって、イエスの
見張りをした。 37 また、イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王イエスで
ある。」と書いた罪状書きを掲げた。 38 そのとき、イエスといっしょに、ふた
りの強盗が、ひとりは右に、ひとりは左に、十字架につけられた。 39 道を行く
人々は、頭を振りながらイエスをののしって、 40 言った。「神殿を打ちこわし
てて三日で建てる人よ。もし、神の子なら、自分を救ってみろ。十字架から降り
てて来い。」 41 同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになっ
て、イエスをあざけって言った。 42 「彼は他人を救ったが、自分は救えない。
イスラエルの王さまなら、今、十字架から降りてもらおうか。そうしたら、
われわれは信じるから。 43 彼は神により頼んでいる。もし神のお気に入りな
ら、いま救っていただくがいい。『わたしは神の子だ。』と言っているのだか
ら。」 44 イエスといっしょに十字架につけられた強盗どもも、同じようにイエ
スをののしった。
45 さて、十二時から、全地が暗くなって、三時まで続いた。 46 三時ごろ、
イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」と叫ばれた。これは、
「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」という意
味である。 47 すると、それを聞いて、そこに立っていた人々のうち、ある人た
ちは、「この人はエリヤを呼んでいる。」と言った。 48 また、彼らのひとりが
すぐ走って行って、海綿を取り、それに酸いぶどう酒を含ませて、葦の棒につ
け、イエスに飲ませようとした。 49 ほかの者たちは、「私たちはエリヤが助
けに来るかどうか見ることとしよう。」と言った。 50 そのとき、イエスはもう
一度大声で叫んで、息を引き取られた。 51 すると、見よ。神殿の幕が上から下
まで真二つに裂けた。そして、地が揺れ動き、岩が裂けた。 52 また、墓が開い
て、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。 53 そして、イエスの復
活の後に墓から出て来て、聖都にはいって多くの人に現われた。 54 百人隊長お
よび彼といっしょにイエスの見張りをしていた人々は、地震やいろいろの出来

事を見て、非常な恐れを感じ、「この方はまことに神の子であった。」と言っ
た。 55 そこには、遠くからながめている女たちがたくさんいた。イエスに仕え
てガリラヤからついて来た女たちであった。 56 その中に、マグダラのマリヤ、
ヤコブとヨセフとの母マリヤ、ゼベダイの子らの母がいた。
57 夕方になって、アリマタヤの金持ちでヨセフという人が来た。彼もイエス
の弟子になっていた。 58 この人はピラトのところに行って、イエスのからだの
下げ渡しを願った。そこで、ピラトは、渡すように命じた。 59 ヨセフはそれを
取り降ろして、きれいな亜麻布に包み、 60 岩を掘って造った自分の新しい墓に
納めた。墓の入口には大きな石をころがしかけて帰った。 61 そこにはマグダラ
のマリヤとほかのマリヤとが墓のほうを向いてすわっていた。
62 さて、次の日、すなわち備えの日の翌日、祭司長、パリサイ人たちはピラ
トのところに集まって、 63 こう言った。「閣下。あの、人をだますが男がまだ生
きていたとき、『自分は三日の後によみがえる。』と言っていたのを思い出し
ました。 64 ですから、三日目まで墓の番をするように命じてください。そうで
ないと、弟子たちが来て、彼を盗み出して、『死人の中からよみがえった。』
と民衆に言うかもしれません。そうなると、この惑わしのほうが、前のばあい
より、もっとひどいことになります。」 65 ピラトは「番兵を出してやるから、
行ってできるだけの番をさせるがよい。」と彼らに言った。 66 そこで、彼らは
行って、石に封印をし、番兵が墓の番をした。

28

1 さて、安息日が終わって、週の初めの日の明け方、マグダラのマリヤと、
ほかのマリヤが墓を見に来た。 2 すると、大きな地震が起こった。それは、主
の使いが天から降りて来て、石をわきへころがして、その上にすわったからで
ある。 3 その顔は、いなずまのように輝き、その衣は雪のように白かった。 4 番
兵たちは、御使いを見て恐ろしさのあまり震え上がり、死人のようになった。
5 すると、御使いは女たちに言った。「恐れてはいけません。あなたがたが十
字架につけられたイエスを捜しているのを、私は知っています。 6 ここにはお
られません。前から言っておられたように、よみがえられたからです。来て、
納めてあった場所を見てごらんなさい。 7 ですから急いで行って、お弟子たち
にこのことを知らせなさい。イエスが死人の中からよみがえられたこと、そし
て、あなたがたより先にガリラヤに行かれ、あなたがたは、そこで、お会いで
きるということです。では、これだけはお伝えしました。」 8 そこで、彼女た
ちは、恐ろしくはあったが大喜びで、急いで墓を離れ、弟子たちに知らせに走
って行った。 9 すると、イエスが彼女たちに出会って、「おはよう。」と言わ
れた。彼女たちは近寄って御足を抱いてイエスを拝んだ。 10 すると、イエスは
言われた。「恐れてはいけません。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤに
行くように言いなさい。そこでわたしに会えるのです。」
11 女たちが行き着かないうちに、もう、数人の番兵が都に来て、起こった事も
を全部、祭司長たちに報告した。 12 そこで、祭司長たちは民の長老たちとと
に集まって協議し、兵士たちに多額の金を与えて、 13 こう言った。「『夜、私
たちが眠っている間に、弟子たちがやって来て、イエスを盗んで行った。』と
言うのだ。 14 もし、このことが総督の耳にはいっても、私たちがうまく説得し
て、あなたがたには心配をかけないようにするから。」 15 そこで、彼らは金を
もらって、指図されたとおりにした。それで、この話が広くユダヤ人の間に広
まって今日に及んでいる。
16 しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行って、イエスの指示された山
に登った。 17 そして、イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、あ
る者は疑った。 18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには
天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。 19 それゆ
え、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、
子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、 20 また、わたしがあなたがたに命
じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、
世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

マルコの福音書

1 神の子イエス・キリストの福音のはじめ。
2 預言者イザヤの書にこう書いてある。
「見よ。わたしは使いをあなたの前に遣わし、
あなたの道を整えさせよう。
3 荒野で叫ぶ者の声がする。
『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ。』」
そのとおりに、4 バプテスマのヨハネが荒野に現われて、罪が赦されるための悔い改めのバプテスマを説いた。5 そこでユダヤ全国の人々とエルサレムの全住民が彼のところへ行き、自分の罪を告白して、ヨルダン川で彼からバプテスマを受けていた。6 ヨハネは、らくだの毛で織った物を着て、腰に皮の帯を締め、いなごと野蜜を食べていた。7 彼は宣べ伝えて言った。「私よりもさらに力のある方が、あとからおいでになります。私には、かがんでその方のくつのひもを解く値うちもありません。8 私はあなたがたに水でバプテスマを授けましたが、その方は、あなたがたに聖霊のバプテスマをお授けになります。」
9 そのころ、イエスはガリラヤのナザレから来られ、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになった。10 そして、水の中から上がられると、すぐそのとき、天が裂けて御霊が鳩のように自分の上に下られるのを、ご覧になった。11 そして天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」
12 そしてすぐ、御霊はイエスを荒野に追いやられた。13 イエスは四十日間荒野にいて、サタンの誘惑を受けられた。野の獣とともにおられたが、御使いたちがイエスに仕えていた。
14 ヨハネが捕えられて後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べて言われた。15「時が満ち、神の国は近くなった。悔い改めて福音を信じなさい。」
16 ガリラヤ湖のほとりを通られると、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのをご覧になった。彼らは漁師であった。17 イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう。」18 すると、すぐに、彼らは網を捨て置いて従った。19 また少し行かれると、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネをご覧になった。彼らも舟の中で網を繕っていた。20 すぐに、イエスがお呼びになった。すると彼らは父ゼベダイを雇い人たちといっしょに舟に残して、イエスについて行った。
21 それから、一行はカペナウムにはいった。そしてすぐに、イエスは安息日に会堂にはいって教えられた。22 人々は、その教えに驚いた。それはイエスが、律法学者たちのようにではなく、権威ある者のように教えられたからである。23 すると、すぐにまた、その会堂に汚れた霊につかれた人がいて、大声でわめいて言った。24「ナザレの人イエス。いったい私たちに何をしようというのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょう。私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です。」25 イエスは彼をしかって、「黙れ。この人から出て行け。」と言われた。26 すると、その汚れた霊はその人をひきつけさせ、大声をあげて、その人から出て行った。27 人々はみな驚いて、互いに論じ合って言った。「これはどうだ。権威のある、新しい教えではないか。汚れた霊をさえ戒められる。すると従うのだ。」28 こうして、イエスの評判は、すぐに、ガリラヤ全地の至る所に広まった。
29 イエスは会堂を出るとすぐに、ヤコブとヨハネを連れて、シモンとアンデレの家にはいられた。30 ところが、シモンのしゅうとめが熱病で床に着いていたので、人々はさっそく彼女のことをイエスに知らせた。31 イエスは、彼女に近寄り、その手を取って起こされた。すると熱がひき、彼女は彼らをもてなした。
32 夕方になった。日が沈むと、人々は病人や悪霊につかれた者をみな、イエスのもとに連れて来た。33 こうして町中の者が戸口に集まって来た。34 イエスは、さまざまの病気にかかっている多くの人をお直しになり、また多くの悪霊を追い出された。そして悪霊どもがものを言うのをお許しにならなかった。彼らがイエスをよく知っていたからである。
35 さて、イエスは、朝早くまだ暗いうちに起きて、寂しい所へ出て行き、そこで祈っておられた。36 シモンとその仲間は、イエスを追って来て、37 彼を見つけ、「みんながあなたを捜しております。」と言った。38 イエスは彼らに言

われた。「さあ、近くの別の村里へ行こう。そこにも福音を知らせよう。わた
しは、そのために出て来たのだから。」39こうしてイエスは、ガリラヤ全地に
わたり、その会堂に行って、福音を告げ知らせ、悪霊を追い出された。
40さて、ひとりのらい病人が、イエスのみもとにお願いに来て、ひざまず
いて言った。「お心一つで、私はきよくしていただけます。」41イエスは深く
あわれみ、手を伸ばして、彼にさわって言われた。「わたしの心だ。きよくな
れ。」42すると、すぐに、そのらい病が消えて、その人はきよくなった。43そき
こでイエスは、彼をきびしく戒めて、すぐに彼を立ち去らせた。44そのとき
彼にこう言われた。「気をつけて、だれにも何も言わないようにしなさい。モー
だに行って、自分を祭司に見せなさい。そして、人々へのあかしのために、モ
セが命じた物をもって、あなたのきよめの供え物をしなさい。」45ところが、
彼は出て行って、この出来事をふれ回り、言い広め始めた。そのためイエスは
表立って町の中にはいることができず、町はずれの寂しい所におられた。しか
し、人々は、あらゆる所からイエスのもとにやって来た。

2

1数日たって、イエスがカペナウムにまた来られると、家におられることが
知れ渡った。2それで多くの人が集まったため、戸口のところまですきまもな
いほどになった。この人たちに、イエスはみことばを話しておられた。3そのと
き、ひとりの中風の人が四人の人にかつがれて、みもとに連れて来られた。
4群衆のためにイエスに近づくことができなかったので、その人々はイエスの
おられるあたりの屋根をはがし、穴をあけて、中風の人を寝かせたままその
床をつり降ろした。5イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に、「子よ。あな
たの罪は赦されました。」と言われた。6ところが、その場に律法学者が数人
すわっていて、心の中で理屈を言った。7「この人は、なぜ、あんなことを言
うのか。神をけがしているのだ。神おひとりのほか、だれが罪を赦すことが
できよう。」8彼らが心の中でこのように理屈を言っているのを、イエスはすぐ
にご自分の霊で見抜いて、こう言われた。「なぜ、あなたがたは心の中でそん
な理屈を言っているのか。9中風の人に、『あなたの罪は赦された。』と言う
のと、『起きて、寝床をたたんで歩け。』と言うのと、どちらがやさしいか。
10人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに知らせる
ために。」こう言ってから、中風の人に、11「あなたに言う。起きなさい。寝床
をたたんで、家に帰りなさい。」と言われた。12すると彼は起き上がり、すぐ
に床を取り上げて、みなの見ている前を出て行った。それでみなの者がすっか
り驚いて、「こういうことは、かつて見たことがない。」と言って神をあがめ
た。
13イエスはまた湖のほとりに出て行かれた。すると群衆がみな、みもとに
やって来たので、彼らに教えられた。14イエスは、道を通りながら、アルパヨ
の子レビが収税所にすわっているのをご覧になって、「わたしについて来なさ
い。」と言われた。すると彼は立ち上がって従った。
15それから、イエスは、彼の家で食卓に着かれた。取税人や罪人たちも大ぜ
い、イエスや弟子たちといっしょに食卓に着いていた。こういう人たちが大ぜ
いいて、イエスに従っていたのである。16パリサイ派の律法学者たちは、イエ
スが罪人や取税人たちといっしょに食事をしておられるのを見て、イエスの弟
子たちにこう言った。「なぜ、あの人は取税人や罪人たちといっしょに食事を
するのですか。」17イエスはこれを聞いて、彼らにこう言われた。「医者を必
要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。わたしは正しい人を招くためでは
なく、罪人を招くために来たのです。」
18ヨハネの弟子たちとパリサイ人たちは断食をしていた。そして、イエスの
もとに来て言った。「ヨハネの弟子たちやパリサイ人の弟子たちは断食するの
に、あなたの弟子たちはなぜ断食しないのですか。」19イエスは彼らに言わ
れた。「花婿が自分たちといっしょにいる間、花婿につき添う友だちが断食で
きるでしょうか。花婿といっしょにいる時は、断食できないのです。20しか
し、花婿が彼らから取り去られる時が来ます。その日には断食します。21だれ
も、真新しい布切れで古い着物の継ぎをするようなことはしません。そんなこ
とをすれば、新しい継ぎ切れは古い着物を引き裂き、破れはもっとひどくなり
ます。22また、だれも新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしませ
ん。そんなことをすれば、ぶどう酒は皮袋を張り裂き、ぶどう酒も皮袋もだめ
になってしまいます。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるのです。」
23ある安息日のこと、イエスは麦畑の中を通って行かれた。すると、弟子
たちが道々穂を摘み始めた。24すると、パリサイ人たちがイエスに言った。
「ご覧なさい。なぜ彼らは、安息日なのに、してはならないことをするのです

か。」 25 イエスは彼らに言われた。「ダビデとその連れの者たちが、食物がな
くてひもじかったとき、ダビデが何をしたか、読まなかったのですか。 26 アビ
ヤタルが大祭司のころ、ダビデは神の家にはいって、祭司以外の者が食べては
ならない供えのパンを、自分も食べ、またともにいた者たちにも与えたではあ
りませんか。」 27 また言われた。「安息日は人間のために設けられたのです。
人間が安息日のために造られたのではありません。 28 人の子は安息日にも主で
す。」

3

1 イエスはまた会堂にはいられた。そこに片手のなえた人がいた。 2 彼らは、
イエスが安息日にその人を直すかどうか、じっと見ていた。イエスを訴えるた
めであった。 3 イエスは手のなえたその人に、「立って、真中に出なさい。」
と言われた。 4 それから彼らに、「安息日にしてよいのは、善を行なうことな
のか、それとも悪を行なうことなのか。いのちを救うことなのか、それとも殺
すことなのか。」と言われた。彼らは黙っていた。 5 イエスは怒って彼らを見回
し、その心のかたくななのを嘆きながら、その人に、「手を伸ばしなさい。」
と言われた。彼は手を伸ばした。するとその手が元どおりになった。 6 そこで
パリサイ人たちは出て行って、すぐにヘロデ党の者たちといっしょになって、
イエスをどうして葬り去ろうかと相談を始めた。
7 それから、イエスは弟子たちとともに湖のほうに退かれた。すると、ガリ
ラヤから出て来た大ぜいの人々がついて行った。またユダヤから、 8 エルサレ
ムから、イドマヤから、ヨルダンの川向こうやツロ、シドンあたりから、大ぜ
いの人々が、イエスの行なっておられることを聞いて、みもとにやって来た。
9 イエスは、大ぜいの人なので、押し寄せて来ないよう、ご自分のために小舟を
用意しておくように弟子たちに言いつけられた。 10 それは、多くの人をいやさ
れたので、病気に悩む人たちがみな、イエスにさわろうとして、みもとに押し
かけて来たからである。 11 また、汚れた霊どもが、イエスを見ると、みもとに
ひれ伏し、「あなたこそ神の子です。」と叫ぶのであった。 12 イエスは、ご自
身のことを知らせないようにと、きびしく彼らを戒められた。
13 さて、イエスは山に登り、ご自身のお望みになる者たちを呼び寄せられた
ので、彼らはみもとに来た。 14 そこでイエスは十二弟子を任命された。それ
は、彼らを身近に置き、また彼らを遣わして福音を宣べさせ、 15 悪霊を追い出
す権威を持たせるためであった。 16 こうして、イエスは十二弟子を任命され
た。そして、シモンにはペテロという名をつけ、 17 ゼベダイの子ヤコブとヤコ
ブの兄弟ヨハネ、このふたりにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつ
けられた。 18 次に、アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アル
パヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党員シモン、 19 イスカリオテ・ユダ。このユダ
が、イエスを裏切ったのである。
20 イエスが家に戻られると、また大ぜいの人が集まって来たので、みなは食
事する暇もなかった。 21 イエスの身内の者たちが聞いて、イエスを連れ戻し
に出て来た。「気が狂ったのだ。」と言う人たちがいたからである。 22 また、
エルサレムから下って来た律法学者たちも、「彼は、ベルゼブルに取りつかれ
ている。」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出している
のだ。」とも言った。 23 そこでイエスは彼らをそばに呼んで、たとえによって
話された。「サタンがどうしてサタンを追い出せましょう。 24 もし国が内部で
分裂したら、その国は立ち行きません。 25 また、家が内輪もめをしたら、家は
立ち行きません。 26 サタンも、もし内輪の争いが起こって分裂していれば、立
ち行くことができないで滅びます。 27 確かに、強い人の家に押し入って家財
を略奪するには、まずその強い人を縛り上げなければなりません。そのあとで
その家を略奪できるのです。 28 まことに、あなたがたに告げます。人はその犯
すどんな罪も赦していただけます。また、神をけがすことを言っても、それは
みな赦していただけます。 29 しかし、聖霊をけがす者はだれでも、永遠に赦さ
れず、とこしえの罪に定められます。」 30 このように言われたのは、彼らが、
「イエスは、汚れた霊につかれている。」と言っていたからである。
31 さて、イエスの母と兄弟たちが来て、外に立っていて、人をやり、イエス
を呼ばせた。 32 大ぜいの人がイエスを囲んですわっていたが、「ご覧なさい。
あなたのおかあさんと兄弟たちが、外であなたをたずねています。」と言っ
た。 33 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「わたしの母とはだれのこと
ですか。また、兄弟たちとはだれのことですか。」 34 そして、自分の回りにす
わっている人たちを見回して言われた。「ご覧なさい。わたしの母、わたしの
兄弟たちです。 35 神のみこころを行なう人はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、
また母なのです。」

4

1 イエスはまた湖のほとりで教え始められた。おびただしい数の群衆がみもと
に集まった。それでイエスは湖の上の舟に乗り、そこに腰をおろされ、群衆は
みな岸べの陸地にいた。 2 イエスはたとえによって多くのことを教えられた。
その教えの中でこう言われた。
3 「よく聞きなさい。種を蒔く人が種蒔きに出かけた。 4 蒔いているとき、種
が道ばたに落ちた。すると、鳥が来て食べてしまった。 5 また、別の種が土
の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。 6 しかし
日が上ると、焼けて、根がないために枯れてしまった。 7 また、別の種がい
ばらの中に落ちた。ところが、いばらが伸びて、それをふさいでしまったの
で、実を結ばなかった。 8 また、別の種が良い地に落ちた。すると芽ばえ、
育って、実を結び、三十倍、六十倍、百倍になった。」
9 そしてイエスは言われた。「聞く耳のある者は聞きなさい。」
10 さて、イエスだけになったとき、いつもつき従っている人たちが、十二弟
子とともに、これらのたとえのことを尋ねた。 11 そこで、イエスは言われた。
「あなたがたには、神の国の奥義が知らされているが、ほかの人たちには、す
べてがたとえで言われるのです。 12 それは、『彼らは確かに見るには見るが
わからず、聞くには聞くが悟らず、悔い改めて赦されることのないため。』で
す。」 13 そして彼らにこう言われた。「このたとえがわからないのですか。そ
んなことで、いったいどうしてたとえの理解ができましょう。 14 種蒔く人は、
みことばを蒔くのです。 15 みことばが道ばたに蒔かれるとは、こういう人たち
のことです――みことばを聞くと、すぐサタンが来て、彼らに蒔かれたみこと
ばを持ち去ってしまうのです。 16 同じように、岩地に蒔かれるとは、こういう
人たちのことです――みことばを聞くと、すぐに喜んで受けるが、 17 根を張ら
ないで、ただしばらく続くだけです。それで、みことばのために困難や迫害が
起こると、すぐにつまずいてしまいます。 18 もう一つの、いばらの中に種を蒔
かれるとは、こういう人たちのことです――みことばを聞いてはいるが、 19 世
の心づかいや、富の惑わし、その他いろいろな欲望がはいり込んで、みことば
をふさぐので、実を結びません。 20 良い地に蒔かれるとは、みことばを聞いて
受け入れ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶ人たちです。」
21 また言われた。「あかりを持って来るのは枡の下や寝台の下に置くためで
しょうか。燭台の上に置くためではありませんか。 22 隠れているのは、必ず現
われるためであり、おおい隠されているのは、明らかにされるためです。 23 聞
く耳のある者は聞きなさい。」 24 また彼らに言われた。「聞いていることによ
く注意しなさい。あなたがたは、人に量ってあげるその量りで、自分にも量り
与えられ、さらにその上に増し加えられます。 25 持っている人は、さらに与え
られ、持たない人は、持っているものまでも取り上げられてしまいます。」
26 また言われた。「神の国は、人が地に種を蒔くようなもので、 27 夜は寝
て、朝は起き、そうこうしているうちに、種は芽を出して育ちます。どのよう
にしてか、人は知りません。 28 地は人手によらず実をならせるもので、初めに
苗、次に穂、次に穂の中に実がはいります。 29 実が熟すると、人はすぐにかま
を入れます。収穫の時が来たからです。」
30 また言われた。「神の国は、どのようなものと言えばよいでしょう。何に
たとえたらよいでしょう。 31 それはからし種のようなものです。地に蒔かれ
るときには、地に蒔かれる種の中で、一番小さいのですが、 32 それが蒔かれる
と、生長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥
が巣を作れるほどになります。」
33 イエスは、このように多くのたとえで、彼らの聞く力に応じて、みことば
を話された。 34 たとえによらないで話されることはなかった。ただ、ご自分の
弟子たちにだけは、すべてのことを解き明かされた。
35 さて、その日のこと、夕方になって、イエスは弟子たちに、「さあ、向こ
う岸へ渡ろう。」と言われた。 36 そこで弟子たちは、群衆をあとに残し、舟
に乗っておられるままで、イエスをお連れした。他の舟もイエスについて行っ
た。 37 すると、激しい突風が起こり、舟は波をかぶって水でいっぱいになっ
た。 38 ところがイエスだけは、とものほうで、枕をして眠っておられた。弟子
たちはイエスを起こして言った。「先生。私たちがおぼれて死にそうでも、何
とも思われないのですか。」 39 イエスは起き上がって、風をしかりつけ、湖に
「黙れ、静まれ。」と言われた。すると風はやみ、大なぎになった。 40 イエス
は彼らに言われた。「どうしてそんなにこわがるのです。信仰がないのは、ど
うしたことです。」 41 彼らは大きな恐怖に包まれて、互いに言った。「風や湖
までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

5

1 こうして彼らは湖の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。 2 イエスが舟から
上がられると、すぐに、汚れた霊につかれた人が墓場から出て来て、イエス
を迎えた。 3 この人は墓場に住みついており、もはやだれも、鎖をもってして
も、彼をつないでおくことができなかった。 4 彼はたびたび足かせや鎖でつな
がれたが、鎖を引きちぎり、足かせも砕いてしまったからで、だれにも彼を押
える力がなかったのである。 5 それで彼は、夜昼となく、墓場や山で叫
び続け、石で自分のからだを傷つけていた。 6 彼はイエスを遠くから見つけ、
駆け寄って来てイエスを拝し、 7 大声で叫んで言った。「いと高き神の子、イ
エスよ。いったい私に何をしようというのですか。神の御名によって願いた
す。どうか私を苦しめないでください。」 8 それは、イエスが、「汚れたの
霊よ。この人から出て行け。」と言われたからである。 9 それで、「おまえの
名は何か。」とお尋ねになると、「私の名はレギオンです。私たちは大ぜいのだ
すから。」と言った。 10 そして、自分たちをこの地方から追い出さないでく
さいと懇願した。 11 ところで、そこの山腹に、豚の大群が飼ってあった。 12 彼
らはイエスに願って言った。「私たちを豚の中に送って、彼らに乗り移らせて
ください。」 13 イエスがそれを許されたので、汚れた霊どもは出て行って、豚
に乗り移った。すると、二千匹ほどの豚の群れが、険しいがけを駆け降り、湖
へなだれ落ちて、湖におぼれてしまった。 14 豚を飼っていた者たちは逃げ出
して、町や村々でこの事を告げ知らせた。人々は何事が起こったのかと見にや
って来た。 15 そして、イエスのところに来て、悪霊につかれていた人、すなわ
ちレギオンを宿していた人が、着物を着て、正気に返ってすわっているのを見
て、恐ろしくなった。 16 見ていた人たちが、悪霊につかれていた人に起こった
ことや、豚のことを、つぶさに彼らに話して聞かせた。 17 すると、彼らはイエ
スに、この地方から離れてくださるよう願った。 18 それでイエスが舟に乗ろう
とされると、悪霊につかれていた人が、お供をしたいとイエスに願った。 19 し
かし、お許しにならないで、彼にこう言われた。「あなたの家、あなたの家族
のところに帰り、主があなたに、どんなに大きなことをしてくださったか、ど
んなにあわれんでくださったかを、知らせなさい。」 20 そこで、彼は立ち去
り、イエスが自分にどんなに大きなことをしてくださったかを、デカポリス
の地方で言い広め始めた。人々はみな驚いた。

21 イエスが舟でまた向こう岸へ渡られると、大ぜいの人の群れがみもとに集
まった。イエスは岸べにとどまっておられた。 22 すると、会堂管理者のひとり
でヤイロという者が来て、イエスを見て、その足もとにひれ伏し、 23 いっしょ
うけんめい願ってこう言った。「私の小さい娘が死にかけています。どうか、
おいでくださって、娘の上に御手を置いてやってください。娘が直って、助か
るようにしてください。」 24 そこで、イエスは彼といっしょに出かけられた
が、多くの群衆がイエスについて来て、イエスに押し迫った。

25 ところで、十二年の間長血をわずらっている女がいた。 26 この女は多く
の医者からひどいめに会わされて、自分の持ち物をみな使い果たしてしまっ
たが、何のかいもなく、かえって悪くなる一方であった。 27 彼女は、イエス
のことを耳にして、群衆の中に紛れ込み、うしろから、イエスの着物にさわっ
た。 28 「お着物にさわることでもできれば、きっと直る。」と考えていたから
である。 29 すると、すぐに、血の源がかれて、ひどい痛みが直ったことを、か
らだに感じた。 30 イエスも、すぐに、自分のうちから力が外に出て行ったこ
とに気づいて、群衆の中を振り向いて、「だれがわたしの着物にさわったので
すか。」と言われた。 31 そこで弟子たちはイエスに言った。「群衆があなたに
押し迫っているのをご覧になっていて、それでも『だれがわたしにさわったの
か。』とおっしゃるのですか。」 32 イエスは、それをした人を知ろうとして、
見回しておられた。 33 女は恐れおののき、自分の身に起こった事を知り、イエ
スの前に出てひれ伏し、イエスに真実を余すところなく打ち明けた。 34 そこ
で、イエスは彼女にこう言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直した
のです。安心して帰りなさい。病気にかからず、すこやかでいなさい。」

35 イエスが、まだ話しておられるときに、会堂管理者の家から人がやって来
て言った。「あなたのお嬢さんはなくなりました。なぜ、このうえ先生を煩わ
すことがありましょう。」 36 イエスは、その話のことばをそばで聞いて、会堂
管理者に言われた。「恐れないで、ただ信じていなさい。」 37 そして、ペテロ
とヤコブとヤコブの兄弟ヨハネのほかは、だれも自分といっしょに行くのをお
許しにならなかった。 38 彼らはその会堂管理者の家に着いた。イエスは、人々
が、取り乱し、大声で泣いたり、わめいたりしているのをご覧になり、 39 中に
はいって、彼らにこう言われた。「なぜ取り乱して、泣くのですか。子どもは
死んだのではない。眠っているのです。」 40 人々はイエスをあざ笑った。しか

し、イエスはみんなを外に出し、ただその子どもの父と母、それにご自分の供
の者たちだけを伴って、子どものいる所へはいって行かれた。 41 そして、その
子どもの手を取って、「タリタ、クミ。」と言われた。（訳して言えば、「少
女よ。あなたに言う。起きなさい。」という意味である。） 42 すると、少女は
すぐさま起き上がり、歩き始めた。十二歳にもなっていたからである。彼らは
たちまち非常な驚きに包まれた。 43 イエスは、このことをだれにも知らせない
ようにと、きびしくお命じになり、さらに、少女に食事をさせるように言われ
た。

6

1 イエスはそこを去って、郷里に行かれた。弟子たちもついて行った。 2 安息
日になったとき、会堂で教え始められた。それを聞いた多くの人々は驚いて言
った。「この人は、こういうことをどこから得たのでしょう。この人に与えら
れた知恵や、この人の手で行なわれるこのような力あるわざは、いったい何で
しょう。 3 この人は大工ではありませんか。マリヤの子で、ヤコブ、ヨセ、ユ
ダ、シモンの兄弟ではありませんか。その妹たちも、私たちとここに住んでい
るではありませんか。」こうして彼らはイエスにつまずいた。 4 イエスは彼ら
に言われた。「預言者が尊敬されないのは、自分の郷里、親族、家族の間だけ
です。」 5 それで、そこでは何一つ力あるわざを行なうことができず、少数の
病人に手を置いていやされただけであった。 6 イエスは彼らの不信仰に驚かれ
た。それからイエスは、近くの村々を教えて回られた。
7 また、十二弟子を呼び、ふたりずつ遣わし始め、彼らに汚れた霊を追い出す
権威をお与えになった。 8 また、彼らにこう命じられた。「旅のためには、杖
一本のほかは、何も持って行ってはいけません。パンも、袋も、胴巻きに金も
持って行ってはいけません。 9 くつは、はきなさい。しかし二枚の下着を着て
はいけません。」 10 また、彼らに言われた。「どこででも一軒の家にはいった
ら、そこの土地から出て行くまでは、その家にとどまっていなさい。 11 もし、
あなたがたを受け入れない場所、また、あなたがたに聞こうとしない人々なら
、そこから出て行くときに、そこの人々に対する証言として、足の裏のちり
を払い落としなさい。」 12 こうして十二人が出て行き、悔い改めを説き広め、
13 悪霊を多く追い出し、大ぜいの病人に油を塗っていやした。
14 イエスの名が知れ渡ったので、ヘロデ王の耳にもはいった。人々は、「バ
プテスマのヨハネが死人の中からよみがえったのだ。だから、あんな力が、
彼のうちに働いているのだ。」と言っていた。 15 別の人々は、「彼はエリヤ
だ。」と言い、さらに別の人々は、「昔の預言者の中のひとりのような預言者
だ。」と言っていた。 16 しかし、ヘロデはうわさを聞いて、「私が首をはね
たあのヨハネが生き返ったのだ。」と言っていた。 17 実は、このヘロデが、
自分の兄弟ピリポの妻ヘロデヤのことで、――ヘロデはこの女を妻としてい
た。――人をやってヨハネを捕え、牢につないだのであった。 18 これは、ヨ
ハネがヘロデに、「あなたが兄弟の妻を自分のものとしていることは不法で
す。」と言い張ったからである。 19 ところが、ヘロデヤはヨハネを恨み、彼を
殺したいと思いながら、果たせないでいた。 20 それはヘロデが、ヨハネを正し
い聖なる人と知って、彼を恐れ、保護を加えていたからである。また、ヘロデ
はヨハネの教えを聞くとき、非常に当惑しながらも、喜んで耳を傾けていた。
21 ところが、良い機会が訪れた。ヘロデがその誕生日に、重臣や、千人隊長
や、ガリラヤのおもだった人などを招いて、祝宴を設けたとき、 22 ヘロデヤの
娘がはいって来て、踊りを踊ったので、ヘロデも列席の人々も喜んだ。そこで
王は、この少女に、「何でもほしい物を言いなさい。与えよう。」と言った。
23 また、「おまえの望む物なら、私の国の半分でも、与えよう。」と言って、
誓った。 24 そこで少女は出て行って、「何を願いましょうか。」とその母親に
言った。すると母親は、「バプテスマのヨハネの首。」と言った。 25 そこで少
女はすぐに、大急ぎで王の前に行き、こう言って頼んだ。「今すぐに、バプテ
スマのヨハネの首を盆に載せていただきとうございます。」 26 王は非常に心
を痛めたが、自分の誓いもあり、列席の人々の手前もあって、少女の願いを退
けることを好まなかった。 27 そこで王は、すぐに護衛兵をやって、ヨハネの首
を持って来るように命令した。護衛兵は行って、牢の中でヨハネの首をはね、
28 その首を盆に載せて持って来て、少女に渡した。少女は、それを母親に渡し
た。 29 ヨハネの弟子たちは、このことを聞いたので、やって来て、遺体を引き
取り、墓に納めたのであった。
30 さて、使徒たちは、イエスのもとに集まって来て、自分たちのしたこと、
教えたことを残らずイエスに報告した。 31 そこでイエスは彼らに、「さあ、
あなたがただけで、寂しい所へ行って、しばらく休みなさい。」と言われた。

人々の出入りが多くて、ゆっくり食事する時間さえなかったからである。 32 そ
こで彼らは、舟に乗って、自分たちだけで寂しい所へ行った。 33 ところが、多
くの人々が、彼らの出て行くのを見、それと気づいて、方々の町々からそこへら
徒歩で駆けつけ、彼らよりも先に着いてしまった。 34 イエスは、舟から上がら
れると、多くの群衆をご覧になった。そして彼らが羊飼いのいない羊のよう
あるるのを深くあわれみ、いろいろと教え始められた。 35 そのうち、もう時刻
おそくなったので、弟子たちはイエスのところに来て言った。「ここはへんぴ
なて所で、もう時刻もおそくなりました。 36 みんなを解散させてください。
てさい。近くの部落や村に行って何か食べる物をめいめいで買うようにさせた
かっ。」 37 すると、彼らに答えて言われた。「あなたがたで、あのの人たちに何
っとて食べる物を上げなさい。」そこで弟子たちは言った。「私たちが出かけて行こ
ま食べるパンを買ってあの人たちに食べさせるよりは、どれぐらいかかること
ですか。二百デナリものパンを買ってこようか。」 38 すると、イエスは彼らに言われた。「パンはどれぐらいあるか。行って見て来なさい。」彼らは確かめて言った。「五つです。それとせ
魚が二匹です。」 39 イエスは、みなを、それぞれ組にして青草の上にすわらせ
るよう、弟子たちにお命じになった。 40 そこで人々は、百人、五十人と固まって
て席に着いた。 41 するとイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ
て祝福を求め、パンを裂き、人々に配るように弟子たちに与えられた。また、
二匹の魚もみなに分けられた。 42 人々はみな、食べて満腹した。 43 そして、パ
ン切れを十二のかごにいっぱい取り集め、魚の残りも取り集めた。 44 パンを食
べたのは、男が五千人であった。

45 それからすぐに、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませ、先に向こ
う岸のベツサイダに行かせ、ご自分は、その間に群衆を解散させておられた。
46 それから、群衆に別れ、祈るために、そこを去って山のほうに向かわれた。
47 夕方になったころ、舟は湖の真中に出ており、イエスだけが陸地におられ
た。 48 イエスは、弟子たちが、向かい風のために漕ぎあぐねているのをご覧に
なり、夜中の三時ごろ、湖の上を歩いて、彼らに近づいて行かれたが、そのま
まそばを通り過ぎようとのおつもりであった。 49 しかし、弟子たちは、イエス
が湖の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、叫び声をあげた。 50 とい
うのは、みなイエスを見ておびえてしまったからである。しかし、イエスはす
ぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない。」
と言われた。 51 そして舟に乗り込まれると、風がやんだ。彼らの心中の驚きは
非常なものであった。 52 というのは、彼らはまだパンのことから悟るところが
なく、その心は堅く閉じていたからである。

53 彼らは湖を渡って、ゲネサレの地に着き、舟をつないだ。 54 そして、彼ら
が舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気がついて、 55 そのあたりをくま
なく走り回り、イエスがおられると聞いた場所へ、病人を床に載せて運んで来
た。 56 イエスがはいって行かれると、村でも町でも部落でも、人々は病人たち
を広場に寝かせ、そして、せめて、イエスの着物の端にでもさわらせてくだ
るようにと願った。そして、さわった人々はみな、いやされた。

7

1 さて、パリサイ人たちと幾人かの律法学者がエルサレムから来ていて、イエ
スの回りに集まった。 2 イエスの弟子のうちに、汚れた手で、すなわち洗わな
い手でパンを食べている者があるのを見て、 3 ——パリサイ人をはじめユダヤ人
はみな、昔の人たちの言い伝えを堅く守って、手をよく洗わないでは食事をせ
ず、 4 また、市場から帰ったときには、からだをきよめてからでないと食事を
しない。まだこのほかにも、杯、水差し、銅器を洗うことなど、堅く守るよ
に伝えられた、しきたりがたくさんある。—— 5 パリサイ人と律法学者たちは、
イエスに尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは、昔の人たちの言い伝えに従っ
て歩まないで、汚れた手でパンを食べるのですか。」 6 イエスは彼らに言われ
た。「イザヤはあなたがた偽善者について預言をして、こう書いているが、ま
さにそのとおりです。

『この民は、口先ではわたしを敬うが、
その心は、わたしから遠く離れている。
7 彼らが、わたしを拝んでも、むだなことである。
人間の教えを、教えとして教えるだけだから。』

8 あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の言い伝えを堅く守っている。」
9 また言われた。「あなたがたは、自分たちの言い伝えを守るために、よく
も神の戒めをないがしろにしたものです。 10 モーセは、『あなたの父と母
を敬え。』また『父や母をののしる者は、死刑に処せられる。』と言ってい
ます。 11 それなのに、あなたがたは、もし人が父や母に向かって、私からあ

なたのために上げられる物は、コルバン（すなわち、ささげ物）になりました、と言えば、12その人には、父や母のために、もはや何もさせないようにしています。13こうしてあなたがたは、自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしています。そして、これと同じようなことを、たくさんしているのです。」14イエスは再び群衆を呼び寄せて言われた。「みな、わたしの言うことを聞いて、悟るようになりなさい。15外側から人にはいって、人を汚すことのできる物は何もありません。人から出て来るものが、人を汚すものなのです。16-17イエスが群衆を離れて、家にはいられるなると、弟子たちは、このたとえについて尋ねた。18イエスは言われた。「あなたがたまで、そんなにわからないのですか。外側から人にはいって来るものは人を汚すことができない、ということがわからないのですか。19そのようなものは、人の心には、はいらないで、腹にはいり、そして、かわやに出されてしまうのです。」イエスは、このように、すべての食物をきよいとされた。20また言われた。「人から出るもの、これが、人を汚すのです。21内側から、すなわち、人の心から出て来るものは、悪い考え、不品行、盗み、殺人、22姦淫、貪欲、よこしま、欺き、好色、ねたみ、そしり、高ぶり、愚かさであり、23これらの悪はみな、内側から出て、人を汚すのです。」

24イエスは、そこを出てツロの地方へ行かれた。家にはいられたとき、だれにも知られたくないと思われたが、隠れていることはできなかった。25汚れた霊につかれた小さい娘のいる女が、イエスのことを聞きつけてすぐにやって来て、その足もとにひれ伏した。26この女はギリシヤ人で、スロ・フェニキヤの生まれであった。そして、自分の娘から悪霊を追い出してくださるようにイエスに願い続けた。27するとイエスは言われた。「まず子どもたちに満腹させなければなりません。子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです。」28しかし、女は答えて言った。「主よ。そのとおりです。でも、食卓の下の小犬でも、子どもたちのパンくずをいただきます。」29そこでイエスは言われた。「そうまで言うのですか。それなら家にお帰りなさい。悪霊はあなたの娘から出て行きました。」30女が家に帰ってみると、その子は床の上に伏せっており、悪霊はもう出ていた。

31それから、イエスはツロの地方を去り、シドンを通って、もう一度、デカポリス地方のあたりのガリラヤ湖に来られた。32人々は、耳が聞こえず、口のきけない人を連れて来て、彼の上に手を置いてくださるように願った。33そこで、イエスは、その人だけを群衆の中から連れ出し、その両耳に指を差し入れ、それからつばきをして、その人の舌にさわられた。34そして、天を見上げ、深く嘆息して、その人に「エパタ。」すなわち、「開け。」と言われた。35すると彼の耳が開き、舌のもつれもすぐに解け、はっきりと話せるようになった。36イエスは、このことをだれにも言ってはならない、と命じられたが、彼らは口止めされればされるほど、かえって言いふらした。37人々は非常に驚いて言った。「この方のなさったことは、みなすばらしい。つんぼを聞こえるようにし、おしを話せるようにしてくださった。」

8

1そのころ、また大ぜいの人の群れが集まっていたが、食べる物がなかったので、イエスは弟子たちを呼んで言われた。2「かわいそうに、この群衆はもう三日間もわたしといっしょにいて、食べる物を持っていないのです。3空腹のままで家に帰らせたら、途中で動けなくなるでしょう。それに遠くから来ている人もいます。」4弟子たちは答えた。「こんなへんぴな所で、どこからパンを手に入れて、この人たちに十分食べさせることができましょう。」5すると、イエスは尋ねられた。「パンはどれぐらいありますか。」弟子たちは、「七つです。」と答えた。6すると、イエスは群衆に、地面にすわるようにおっしゃった。それから、七つのパンを取り、感謝をささげてからそれを裂き、人々に配るように弟子たちに与えられたので、弟子たちは群衆に配った。7また、魚が少しばかりあったので、そのために感謝をささげてから、これも配るように言われた。8人々は食べて満腹した。そして余りのパン切れを七つのかごに取り集めた。9人々はおよそ四千人であった。それからイエスは、彼らを解散させられた。10そしてすぐに弟子たちとともに舟に乗り、ダルマヌタ地方へ行かれた。

11パリサイ人たちがやって来て、イエスに議論をしかけ、天からのしるしを求めた。イエスをためそうとしたのである。12イエスは、心の中で深く嘆息して、こう言われた。「なぜ、今の時代はしるしを求めるのか。まことに、あなたがたに告げます。今の時代には、しるしは絶対に与えられません。」13イエスは彼らを離れて、また舟に乗って向こう岸へ行かれた。

14 弟子たちは、パンを持って来るのを忘れ、舟の中には、パンがただ一つし
かなかった。 15 そのとき、イエスは彼らに命じて言われた。「パリサイ人のパ
ン種とヘロデのパン種とに十分気をつけなさい。」 16 そこで弟子たちは、パン
を持っていないということで、互いに議論し始めた。 17 それに気づいてイエ
スは言われた。「なぜ、パンがないといって議論しているのですか。まだわか
らないのですか、悟らないのですか。心が堅く閉じているのですか。 18 目があ
りながら見えないのですか。耳がありながら聞こえないのですか。あなたがた
は、覚えていないのですか。 19 わたしが五千人に五つのパンを裂いて上げた
とき、パン切れを取り集めて、幾つのかごがいっぱいになりましたか。」彼ら
は答えた。「十二です。」 20 「四千人に七つのパンを裂いて上げたときは、パ
ン切れを取り集めて幾つのかごがいっぱいになりましたか。」彼らは答えた。
「七つです。」 21 イエスは言われた。「まだ悟らないのですか。」
22 彼らはベツサイダに着いた。すると人々が、盲人を連れて来て、さわって
やってくださるようにイエスに願った。 23 イエスは盲人の手を取って村の外に
連れて行かれた。そしてその両眼につばきをつけ、両手を彼に当ててやって、
「何か見えるか。」と聞かれた。 24 すると彼は、見えるようになって、「人が
見えます。木のようですが、歩いているのが見えます。」と言った。 25 それか
ら、イエスはもう一度彼の両眼に両手を当てられた。そして、彼が見つめてい
ると、すっかり直り、すべてのものがはっきり見えるようになった。 26 そこで
イエスは、彼を家に帰し、「村にはいって行かないように。」と言われた。
27 それから、イエスは弟子たちとピリポ・カイザリヤの村々へ出かけられ
た。その途中、イエスは弟子たちに尋ねて言われた。「人々はわたしをだれだ
と言っていますか。」 28 彼らは答えて言った。「バプテスマのヨハネだと言っ
ています。エリヤだと言う人も、また預言者のひとりだと言う人もいます。」
29 するとイエスは、彼らに尋ねられた。「では、あなたがたは、わたしをだれ
だと言いますか。」ペテロが答えてイエスに言った。「あなたは、キリストで
す。」 30 するとイエスは、自分のことをだれにも言わないようにと、彼らを戒
められた。
31 それから、人の子は必ず多くの苦しみを受け、長老、祭司長、律法学者た
ちに捨てられ、殺され、三日の後によみがえらなければならないと、弟子たち
に教え始められた。 32 しかも、はっきりとこの事がらを話された。するとペテ
ロは、イエスをわきにお連れして、いさめ始めた。 33 しかし、イエスは振り向
いて、弟子たちを見ながら、ペテロをしかって言われた。「下がれ。サタン。
あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」 34 それから、イエ
スは群衆を弟子たちといっしょに呼び寄せて、彼らに言われた。「だれでもエわ
たしにについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわ
たしにについて来なさい。 35 いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしと福
音とのためにいのちを失う者はそれを救うのです。 36 人は、たとい全世界を得
ても、いのちを損じたら、何の得がありましょうか。 37 自分のいのちを買い戻す
ために、人はいったい何を差し出すことができるでしょう。 38 このような姦淫子
と罪の時代にあって、わたしとわたしのことばを恥じるような者なら、人の子
も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るときには、そのような人
のことを恥じます。」

9

1 イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。ここに立
っている人々の中には、神の国が力をもって到来しているのを見るまでは、決
して死を味わわない者がいます。」
2 それから六日たって、イエスは、ペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、高
い山に導いて行かれた。そして彼らの目の前で御姿が変わった。 3 その御衣は、
非常に白く光り、世のさらし屋では、とてもできないほどの白さであった。 4 ま
た、エリヤが、モーセとともに現われ、彼らはイエスと語り合っていた。 5 す
ると、ペテロが口出ししてイエスに言った。「先生。私たちがここにいること
は、すばらしいことです。私たちが、幕屋を三つ造ります。あなたのために一
つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。」 6 実のところ、ペテロは言
うべきことがわからなかったのである。彼らは恐怖に打たれたのであった。 7 そ
のとき雲がわき起こってその人々をおおい、雲の中から、「これは、わたしの
愛する子である。彼の言うことを聞きなさい。」という声がした。 8 彼らが急
いであたりを見回すと、自分たちといっしょにいるのはイエスだけで、そこに
はもはやだれも見えなかった。
9 さて、山を降りながら、イエスは彼らに、人の子が死人の中からよみがえる
ときまでは、いま見たことをだれにも話してはならない、と特に命じられた。

10 そこで彼らは、そのおことばを心に堅く留め、死人の中からよみがえると言
われたことはどういう意味かを論じ合った。 11 彼らはイエスに尋ねて言った。
「律法学者たちは、まずエリヤが来るはずだと言っていますが、それはなぜで
しょうか。」 12 イエスは言われた。「エリヤがまず来て、すべてのことを立て
直します。では、人の子について、多くの苦しみを受け、さげすまれると書い
てあるのは、どうしてなのですか。 13 しかし、あなたがたに告げます。エリヤ
はもう来たのです。そして人々は、彼について書いてあるとおりに、好き勝手
なことを彼にしたのです。」
14 さて、彼らが、弟子たちのところに帰って来て、見ると、その回りに大ぜ
いの人の群れがおり、また、律法学者たちが弟子たちと論じ合っていた。 15 そし
てすぐ、群衆はみな、イエスを見ると驚き、走り寄って来て、あいさつをした。
16 イエスは彼らに、「あなたがたは弟子たちと何を議論しているのですか。」
と聞かれた。 17 すると群衆のひとりが、イエスに答えて言った。「先生。おし
の霊につかれた私の息子を、先生のところに連れてまいりました。
18 その霊が息子に取りつきますと、所かまわず彼を押し倒します。そして彼は
あわを吹き、歯ぎしりして、からだをこわばらせてしまいます。それでお弟子
たちに、霊を追い出してくださるようにお願いしたのですが、お弟子たちには
できませんでした。」 19 イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰な世だ。いつ
まであなたがたといっしょにいなければならないのでしょう。いつまであな
たがたにがまんしていなければならないのでしょう。その子をわたしのところ
に連れて来なさい。」 20 そこで、人々はイエスのところにその子を連れて
来た。その子がイエスを見ると、霊はすぐに彼をひきつけさせたので、彼は
地面に倒れ、あわを吹きながら、ころげ回った。 21 イエスはその子の父親に
尋ねられた。「この子がこんなになってから、どのくらいになりますか。」父
親は言った。「幼い時からです。 22 この霊は、彼を滅ぼそうとして、何度も火
の中や水の中に投げ込みました。ただ、もし、おできになるものなら、私たち
をあわれんで、お助けください。」 23 するとイエスは言われた。「できるなら
、と言うのか。信じる者には、どんなことでもできるのです。」 24 すると
すぐに、その子の父は叫んで言った。「信じます。不信仰な私をお助けください
。」 25 イエスは、群衆が駆けつけるのをご覧になると、汚れた霊をしかって
言われた。「おしとつんぼの霊。わたしが、おまえに命じる。この子から出て
行きなさい。二度と、はいってはいけない。」 26 するとその霊は、叫び声をあ
げ、その子を激しくひきつけさせて、出て行った。するとその子が死人のよう
になったので、多くの人々は、「この子は死んでしまった。」と言った。 27 し
かし、イエスは、彼の手を取って起こされた。するとその子は立ち上がった。
28 イエスが家にはいられると、弟子たちがそっとイエスに尋ねた。「どうして
でしょう。私たちには追い出せなかったのですが。」 29 すると、イエスは言わ
れた。「この種のものは、祈りによらなければ、何によっても追い出せるも
のではありません。」
30 さて、一行はそこを去って、ガリラヤを通って行った。イエスは、人に
知られたくないと思われた。 31 それは、イエスは弟子たちを教えて、「人の
子は人々の手に引き渡され、彼らはこれを殺す。しかし、殺されて、三日の後
に、人の子はよみがえる。」と話しておられたからである。 32 しかし、弟子た
ちは、このみことばが理解できなかった。また、イエスに尋ねるのを恐れて
いた。
33 カペナウムに着いた。イエスは、家にはいった後、弟子たちに質問され
た。「道で何を論じ合っていたのですか。」 34 彼らは黙っていた。道々、だれ
が一番偉いかと論じ合っていたからである。 35 イエスはおすわりになり、十二
弟子を呼んで、言われた。「だれでも人の先に立ちたいと思うなら、みなのし
んがりとなり、みなに仕える者となりなさい。」 36 それから、イエスは、ひと
りの子どもを連れて来て、彼らの真中に立たせ、腕に抱き寄せて、彼らに言わ
れた。 37 「だれでも、このような幼子たちのひとりを、わたしの名のゆえに受
け入れるならば、わたしを受け入れるのです。また、だれでも、わたしを受け
入れるならば、わたしを受け入れるのではなく、わたしを遣わされた方を受け
入れるのです。」
38 ヨハネがイエスに言った。「先生。先生の名を唱えて悪霊を追い出して
いる者を見ましたが、私たちの仲間ではないので、やめさせました。」 39 し
かし、イエスは言われた。「やめさせることはありません。わたしの名を唱え
て、力あるわざを行ないながら、すぐあとで、わたしを悪く言える者はないの
です。 40 わたしたちに反対しない者は、わたしたちの味方です。 41 あなたが
たがキリストの弟子だからというので、あなたがたに水一杯でも飲ませてくれ
る人は、決して報いを失うことはありません。これは確かなことです。 42 ま

た、わたしを信じるこの小さい者たちのひとりにでもつまずきを与えるような
者は、むしろ大きい石臼を首にゆわえつけられて、海に投げ込まれたほうがま
しです。 43 もし、あなたの手があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨
てなさい。不具の身でいのちにはいるほうが、両手そろっていてゲヘナの消え
ぬ火の中に落ち込むよりは、あなたにとってよいことです。 44-45 もし、あなた
の足があなたのつまずきとなるなら、それを切り捨てなさい。片足でいのちに
はいるほうが、両足そろっていてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにと
ってよいことです。 46-47 もし、あなたの目があなたのつまずきを引き起こすの
なら、それをえぐり出しなさい。片目で神の国にはいるほうが、両目そろって
いてゲヘナに投げ入れられるよりは、あなたにとってよいことです。 48 そこ
では、彼らを食ううじは、尽きることがなく、火は消えることがありません。
49 すべては、火によって、塩けをつけられるのです。 50 塩は、ききめのあるも
のです。しかし、もし塩に塩けがなくなったら、何によって塩けを取り戻せま
しょう。あなたがたは、自分自身のうちに塩けを保ちなさい。そして、互い
和合して暮らしなさい。」

10

1 イエスは、そこを立って、ユダヤ地方とヨルダンの向こうに行かれた。す
ると、群衆がまたもみもとに集まって来たので、またいつものように彼らを教
えられた。
2 すると、パリサイ人たちがみもとにやって来て、夫が妻を離別することは
許されるかどうかと質問した。イエスをためそうとしたのである。 3 イエスは
答えて言われた。「モーセはあなたがたに、何と命じていますか。」 4 彼らは
言った。「モーセは、離婚状を書いて妻を離別することを許しました。」 5 イ
エスは言われた。「モーセは、あなたがたの心がかたくなので、この命令を
あなたがたに書いたのです。 6 しかし、創造の初めから、神は、人を男と女に
造られたのです。 7 それゆえ、人はその父と母を離れて、 8 ふたりの者が一心同
体になるのです。それで、もはやふたりではなく、ひとりなのです。 9 こうい
うわけで、人は、神が結び合わせたものを引き離してはなりません。」 10 家に
戻った弟子たちが、この問題についてイエスに尋ねた。 11 そこで、イエスは彼
らに言われた。「だれでも、妻を離別して別の女を妻にするなら、前の妻に対
して姦淫を犯すのです。 12 妻も、夫を離別して別の男にとつぐなら、姦淫を犯
しているのです。」
13 さて、イエスにさわっていただこうとして、人々が子どもたちを、みもと
に連れて来た。ところが、弟子たちは彼らをしかった。 14 イエスはそれをご覧
になり、憤って、彼らに言われた。「子どもたちを、わたしのところに来させ
なさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。 15 ま
ことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなけ
れば、決してそこに、はいることはできません。」 16 そしてイエスは子どもた
ちを抱き、彼らの上に手を置いて祝福された。
17 イエスが道に出て行かれると、ひとりの人が走り寄って、御前にひざま
ずいて、尋ねた。「尊い先生。永遠のいのちを自分のものとして受けるために
は、私は何をしたらよいでしょうか。」 18 イエスは彼に言われた。「なぜ、わ
たしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、神おひとりのほかには、だれもあ
りません。 19 戒めはあなたもよく知っているはずです。『殺してはならない。
姦淫してはならない。盗んではならない。偽証を立ててはならない。欺き取っ
てはならない。父と母を敬え。』」 20 すると、その人はイエスに言った。「先
生。私はそのようなことをみな、小さい時から守っております。」 21 イエスは
彼を見つめ、その人をいつくしんで言われた。「あなたには、欠けたことが一
つあります。帰って、あなたの持ち物をみな売り払い、貧しい人たちに与えな
さい。そうすれば、あなたは天に宝を積むことになります。そのうえで、わた
しについて来なさい。」 22 すると彼は、このことばに顔を曇らせ、悲しみな
がら立ち去った。なぜなら、この人は多くの財産を持っていたからである。
23 イエスは、見回して、弟子たちに言われた。「裕福な者が神の国にはいる
ことは、何とむずかしいことでしょう。」 24 弟子たちは、イエスのことばに
驚いた。しかし、イエスは重ねて、彼らに答えて言われた。「子たちよ。神の
国にはいることは、何とむずかしいことでしょう。 25 金持ちが神の国にはい
るよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」 26 弟子たちは、
ますます驚いて互いに言った。「それでは、だれが救われることができるのだ
ろうか。」 27 イエスは、彼らをじっと見て言われた。「それは人にはできない
ことですが、神は、そうではありません。どんなことでも、神にはできるので
す。」 28 ペテロがイエスにこう言い始めた。「ご覧ください。私たちは、何も

かも捨てて、あなたに従ってまいりました。」 29 イエスは言われた。「まこと
に、あなたがたに告げます。わたしのために、また福音のために、家、兄弟、
姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、 30 その百倍を受けない者はありません。
今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を迫害の中で受け、後の世で
は永遠のいのちを受けます。 31 しかし、先の者があとになり、あとの者が先に
なることが多いのです。」
32 さて、一行は、エルサレムに上る途中にあった。イエスは先頭に立って
歩いて行かれた。弟子たちは驚き、また、あとについて行く者たちは恐れを覚
えた。すると、イエスは再び十二弟子をそばに呼んで、ご自分に起ころうとし
ていることを、話し始められた。 33 「さあ、これから、わたしたちはエルサレ
ムに向かって行きます。人の子は、祭司長、律法学者たちに引き渡されるので
す。彼らは、人の子を死刑に定め、そして、異邦人に引き渡します。 34 すると
彼らはあざけり、つばきをかけ、むち打ち、ついに殺します。しかし、人の子
は三日の後に、よみがえります。」
35 さて、ゼベダイのふたりの子、ヤコブとヨハネが、イエスのところに来
て言った。「先生。私たちの頼み事をかなえていただきたいと思います。」
36 イエスは彼らに言われた。「何をしてほしいのですか。」 37 彼らは言った。
「あなたの栄光の座で、ひとりを先生の右に、ひとりを左にすわらせてください。」 38 しかし、イエスは彼らに言われた。「あなたがたは自分が何を求めて
いるのか、わかっていないのです。あなたがたは、わたしの飲もうとする杯を
飲み、わたしの受けようとするバプテスマを受けることができますか。」 39 彼
らは「できます。」と言った。イエスは言われた。「なるほどあなたがたは、
わたしの飲む杯を飲み、わたしの受けるべきバプテスマを受けはします。 40 しか
し、わたしの右と左にすわることは、わたしが許すことではありません。そ
れに備えられた人々があるのです。」 41 十人の者がこのことを聞くと、ヤコブ
とヨハネのことで腹を立てた。 42 そこで、イエスは彼らを呼び寄せて、言われ
た。「あなたがたも知っているとおり、異邦人の支配者と認められた者たちは
彼らを支配し、また、偉い人たちは彼らの上に権力をふるいます。 43 しかし、
あなたがたの間では、そうでありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思
う者は、みなに仕える者になりなさい。 44 あなたがたの間で人の先に立ちたい
と思う者は、みなのしもべになりなさい。 45 人の子が来たのも、仕えられるた
めではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代
価として、自分のいのちを与えるためなのです。」
46 彼らはエリコに来た。イエスが、弟子たちや多くの群衆といっしょにエリ
コを出られると、テマイの子のバルテマイという盲人のこじきが、道ばたにす
わっていた。 47 ところが、ナザレのイエスだと聞くと、「ダビデの子のイエス
さま。私をあわれんでください。」と叫び始めた。 48 そこで、彼を黙らせよう
と、大ぜいでたしなめたが、彼はますます、「ダビデの子よ。私をあわれんで
ください。」と叫び立てた。 49 すると、イエスは立ち止まって、「あの人を呼
んで来なさい。」と言われた。そこで、彼らはその盲人を呼び、「心配しない
でよい。さあ、立ちなさい。あなたをお呼びになっている。」と言った。 50 す
ると、盲人は上着を脱ぎ捨て、すぐ立ち上がって、イエスのところに来た。
51 そこでイエスは、さらにこう言われた。「わたしに何をしてほしいのか。」
すると、盲人は言った。「先生。目が見えるようになることです。」 52 すると
イエスは、彼に言われた。「さあ、行きなさい。あなたの信仰があなたを救っ
たのです。」すると、すぐさま彼は見えるようになり、イエスの行かれる所に
ついて行った。

11

1 さて、彼らがエルサレムの近くに来て、オリーブ山のふもとのベテパゲとベ
タニヤに近づいたとき、イエスはふたりの弟子を使いに出して、 2 言われた。
「向こうの村へ行きなさい。村にはいるとすぐ、まだだれも乗ったことのな
い、ろばの子が、つないであるのに気がつくでしょう。それをほどいて、引い
て来なさい。 3 もし、『なぜそんなことをするのか。』と言う人があったら、
『主がお入用なのです。すぐに、またここに送り返されます。』と言いなさ
い。」 4 そこで、出かけて見ると、表通りにある家の戸口に、ろばの子が一匹
つないであったので、それをほどいた。 5 すると、そこに立っていた何人かが
言った。「ろばの子をほどいたりして、どうするのですか。」 6 弟子たちが、
イエスの言われたとおりを話すと、彼らは許してくれた。 7 そこで、ろばの子
をイエスのところへ引いて行って、自分たちの上着をその上に掛けた。イエス
はそれに乗られた。 8 すると、多くの人が、自分たちの上着を道に敷き、また

ほかの人々は、木の葉を枝ごと野原から切って来て、道に敷いた。 9 そして、
前を行く者も、あとに従う者も、叫んでいた。
「ホサナ。
祝福あれ。主の御名によって来られる方に。
10 祝福あれ。いま来た、われらの父ダビデの国に。
ホサナ。いと高き所に。」
11 こうして、イエスはエルサレムに着き、宮にはいられた。そして、すべて
を見て回った後、時間ももうおそかったので、十二弟子といっしょにベタニ
ヤに出て行かれた。
12 翌日、彼らがベタニヤを出たとき、イエスは空腹を覚えられた。 13 葉の茂
ったいちじくの木が遠くに見えたので、それに何かありはしないかと見に行か
れたが、そこに来ると、葉のほかは何もないのに気づかれた。いちじくのなる
季節ではなかったからである。 14 イエスは、その木に向かって言われた。「今
後、いつまでも、だれもおまえの実を食べることのないように。」弟子たちは
これを聞いていた。
15 それから、彼らはエルサレムに着いた。イエスは宮にはいり、宮の中で売
り買いしている人々を追い出し始め、両替人の台や、鳩を売る者たちの腰掛け
を倒し、 16 また宮を通り抜けて器具を運ぶことをだれにもお許しにならなかっ
た。 17 そして、彼らに教えて言われた。「『わたしの家は、すべての民の祈り
の家と呼ばれる。』と書いてあるではありませんか。それなのに、あなたがた
はそれを強盗の巣にしたのです。」 18 祭司長、律法学者たちは聞いて、どのよ
うにしてイエスを殺そうかと相談した。イエスを恐れたからであった。なぜな
ら、群衆がみなイエスの教えに驚嘆していたからである。
19 夕方になると、イエスとその弟子たちは、いつも都から外に出た。
20 朝早く、通りがかりに見ると、いちじくの木が根まで枯れていた。 21 ペ
テロは思い出して、イエスに言った。「先生。ご覧なさい。あなたののろわれ
たいちじくの木が枯れました。」 22 イエスは答えて言われた。「神を信じなさ
い。 23 まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動
いて、海にはいれ。』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおり
になると信じるなら、そのとおりになります。 24 だからあなたがたに言うので
す。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そ
のとおりになります。 25 また立って祈っているとき、だれかに対して恨み事が
あったら、赦してやりなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、
あなたがたの罪を赦してくださいます。
26-27 彼らはまたエルサレムに来た。イエスが宮の中を歩いておられると、祭
司長、律法学者、長老たちが、イエスのところにやって来た。 28 そして、イエ
スに言った。「何の権威によって、これらのことをしておられるのですか。だ
れが、あなたにこれらのことをする権威を授けたのですか。」 29 そこでイエス
は彼らに言われた。「一言尋ねますから、それに答えなさい。そうすれば、わ
たしも、何の権威によってこれらのことをしているかを、話しましょう。 30 ヨ
ハネのバプテスマは、天から来たのですか、人から出たのですか。答えなさ
い。」 31 すると、彼らは、こう言いながら、互いに論じ合った。「もし、天か
ら、と言えば、それならなぜ、彼を信じなかったかと言うだろう。 32 だからと
いって、人から、と言ってよいだろうか。」――彼らは群衆を恐れていたので
ある。というのは、人々がみな、ヨハネは確かに預言者だと思っていたからで
ある。 33 そこで彼らは、イエスに答えて、「わかりません。」と言った。そこ
でイエスは彼らに、「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、
あなたがたに話すまい。」と言われた。

12

1 それからイエスは、たとえを用いて彼らに話し始められた。
「ある人がぶどう園を造って、垣を巡らし、酒ぶねを掘り、やぐらを建て、
それを農夫たちに貸して、旅に出かけた。 2 季節になると、ぶどう園の収穫
の分けまえを受け取りに、しもべを農夫たちのところへ遣わした。 3 ところ
が、彼らは、そのしもべをつかまえて袋だたきにし、何も持たせないで送
り帰した。 4 そこで、もう一度別のしもべを遣わしたが、彼らは、頭をなぐ
り、はずかしめた。 5 また別のしもべを遣わしたところが、彼らは、これも
殺してしまった。続いて、多くのしもべをやったけれども、彼らは袋だたき
にしたり、殺したりした。 6 その人には、なおもうひとりの者がいた。それ
は愛する息子であった。彼は、『私の息子なら、敬ってくれるだろう。』と
言って、最後にその息子を遣わした。 7 すると、その農夫たちはこう話し合
った。『あれはあと取りだ。さあ、あれを殺そうではないか。そうすれば、

財産はこちらのものだ。』 8 そして、彼をつかまえて殺してしまい、ぶどう
園の外に投げ捨てた。
9 ところで、ぶどう園の主人は、どうするでしょう。彼は戻って来て、農夫
どもを打ち滅ぼし、ぶどう園をほかの人たちに与えてしまいます。 10 あなた
がたは、次の聖書のことばを読んだことがないのですか。
『家を建てる者たちの見捨てた石、
それが礎の石になった。
11 これは主のなさったことだ。
私たちの目には、
不思議なことである。』」
12 彼らは、このたとえ話が、自分たちをさして語られたことに気づいたの
で、イエスを捕えようとしたが、やはり群衆を恐れた。それで、イエスを残
して、立ち去った。
13 さて、彼らは、イエスに何か言わせて、わなに陥れようとして、パリサイ
人とヘロデ党の者数人をイエスのところへ送った。 14 彼らはイエスのところ
に来て、言った。「先生。私たちは、あなたが真実な方で、だれをもはばから
ない方だと存じています。あなたは人の顔色を見ず、真理に基づいて神の道を
教えておられるからです。ところで、カイザルに税金を納めることは律法にか
なっていることでしょうか、かなっていないことでしょうか。納めるべきでし
ょうか、納めるべきでないのでしょうか。」 15 イエスは彼らの擬装を見抜い
て言われた。「なぜ、わたしをためすのか。デナリ銀貨を持って来て見せなさ
い。」 16 彼らは持って来た。そこでイエスは彼らに言われた。「これはだれ
の肖像ですか。だれの銘ですか。」彼らは、「カイザルのです。」と言った。
17 するとイエスは言われた。「カイザルのものはカイザルに返しなさい。そし
て神のものは神に返しなさい。」彼らはイエスに驚嘆した。
18 また、復活はないと主張していたサドカイ人たちが、イエスのところに
来て、質問した。 19 「先生。モーセは私たちのためにこう書いています。『も
し、兄が死んで妻をあとに残し、しかも子がないばあいには、その弟はその女
を妻にして、兄のための子をもうけなければならない。』 20 さて、七人の兄弟
がいました。長男が妻をめとりましたが、子を残さないで死にました。 21 そ
こで次男がその女を妻にしたところ、やはり子を残さずに死にました。三男も
同様でした。 22 こうして、七人とも子を残しませんでした。最後に、女も死
にました。 23 復活の際、彼らがよみがえるとき、その女はだれの妻なのでし
ょうか。七人ともその女を妻にしたのですが。」 24 イエスは彼らに言われた。
「そんな思い違いをしているのは、聖書も神の力も知らないからではありませ
んか。 25 人が死人の中からよみがえるときには、めとることも、とつぐことも
なく、天の御使いたちのようです。 26 それに、死人がよみがえることについて
は、モーセの書にある柴の個所で、神がモーセにどう語られたか、あなたがた
は読んだことがないのですか。『わたしは、アブラハムの神、イサクの神、ヤ
コブの神である。』とあります。 27 神は死んだ者の神ではありません。生きて
いる者の神です。あなたがたはたいへんな思い違いをしています。」
28 律法学者がひとり来て、その議論を聞いていたが、イエスがみごとに答
えられたのを知って、イエスに尋ねた。「すべての命令の中で、どれが一番た
いせつですか。」 29 イエスは答えられた。「一番たいせつなのはこれです。
『イスラエルよ。聞け。われらの神である主は、唯一の主である。 30 心を尽
くし、思いを尽くし、知性を尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛
せよ。』 31 次にはこれです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』
この二つより大事な命令は、ほかにありません。」 32 そこで、この律法学者
は、イエスに言った。「先生。そのとおりです。『主は唯一であって、そのほ
かに、主はない。』と言われたのは、まさにそのとおりです。 33 また『心を尽
くし、知恵を尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人をあなた自身のように
愛する。』ことは、どんな全焼のいけにえや供え物よりも、ずっとすぐれてい
ます。」 34 イエスは、彼が賢い返事をしたのを見て、言われた。「あなたは神
の国から遠くない。」それから後は、だれもイエスにあえて尋ねる者がなかっ
た。 35 イエスが宮で教えておられたとき、こう言われた。「律法学者たちは、
どうしてキリストをダビデの子と言うのですか。 36 ダビデ自身、聖霊によっ
て、こう言っています。
『主は私の主に言われた。
「わたしがあなたの敵を
あなたの足の下に従わせるまでは、
わたしの右の座に着いていなさい。」』

37 ダビデ自身がキリストを主と呼んでいるのに、どういうわけでキリストが
ダビデの子なのでしょう。」大ぜいの群衆は、イエスの言われることを喜ん
で聞いていた。
38 イエスはその教えの中でこう言われた。「律法学者たちには気をつけなさ
い。彼らは、長い衣をまとって歩き回ったり、広場であいさつされたりするこ
とが大好きで、39 また会堂の上席や、宴会の上座が大好きです。40 また、やも
めの家を食いつぶし、見えを飾るために長い祈りをします。こういう人たちは
人一倍きびしい罰を受けるのです。」
41 それから、イエスは献金箱に向かってすわり、人々が献金箱へ金を投げ入
れる様子を見ておられた。多くの金持ちが大金を投げ入れていた。42 そこへひ
とりの貧しいやもめが来て、レプタ銅貨を二つ投げ入れた。それは一コドラン
トに当たる。43 すると、イエスは弟子たちを呼び寄せて、こう言われた。「ま
ことに、あなたがたに告げます。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れてい
たどの人よりもたくさん投げ入れました。44 みなは、あり余る中から投げ入れ
たのに、この女は、乏しい中から、あるだけを全部、生活費の全部を投げ入れ
たからです。」

13

1 イエスが、宮から出て行かれるとき、弟子のひとりがイエスに言った。「先
生。これはまあ、何とみごとな石でしょう。何とすばらしい建物でしょう。」
2 すると、イエスは彼に言われた。「この大きな建物を見ているのですか。石が
くずされずに、積まれたまま残ることは決してありません。」
3 イエスがオリーブ山で宮に向かってすわっておられると、ペテロ、ヤコ
ブ、ヨハネ、アンデレが、ひそかにイエスに質問した。4「お話しください。
いつ、そういうことが起こるのでしょう。また、それがみな実現するようなと
きには、どんな前兆があるのでしょう。」5 そこで、イエスは彼らに話し始め
られた。「人に惑わされないように気をつけなさい。6 わたしの名を名のる者
が大ぜい現われ、『私こそそれだ。』と言って、多くの人を惑わすでしょう。
7 また、戦争のことや戦争のうわさを聞いても、あわててはいけません。それは
必ず起こることです。しかし、終わりが来たのではありません。8 民族は民族
に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に地震があり、ききんも起こるはず だ
からです。これらのことは、産みの苦しみの初めです。
9 だが、あなたがたは、気をつけていなさい。人々は、あなたがたを議会に
引き渡し、また、あなたがたは会堂でむち打たれ、また、わたしのゆえに、総
督や王たちの前に立たされます。それは彼らに対してあかしをするためです。
10 こうして、福音がまずあらゆる民族に宣べ伝えられなければなりません。
11 彼らに捕えられ、引き渡されたとき、何と言おうかなどと案じるには及びま
せん。ただ、そのとき自分に示されることを、話しなさい。話すのはあなたが
たではなく、聖霊です。12 また兄弟は兄弟を死に渡し、父は子を死に渡し、子
は両親に逆らって立ち、彼らを死に至らせます。13 また、わたしの名のため
に、あなたがたはみなの者に憎まれます。しかし、最後まで耐え忍ぶ人は救わ
れます。
14 『荒らす憎むべきもの』が、自分の立ってはならない所に立っているのを
見たならば（読者はよく読み取るように。）ユダヤにいる人々は山へ逃げなさ
い。15 屋上にいる者は降りてはいけません。家から何かを取り出そうとして中
にはいってはいけません。16 畑にいる者は着物を取りに戻ってはいけません。
17 だが、その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ女です。18 ただ、この
ことが冬に起こらないように祈りなさい。19 その日は、神が天地を創造された
初めから、今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもない
ような苦難の日だからです。20 そして、もし主がその日数を少なくしてくだ さ
らないなら、ひとりとして救われる者はないでしょう。しかし、主は、ご自分
で選んだ選びの民のために、その日数を少なくしてくださったのです。21 その
とき、あなたがたに、『そら、キリストがここにいる。』とか、『ほら、あそ
こにいる。』とか言う者があっても、信じてはいけません。22 にせキリスト、
にせ預言者たちが現われて、できれば選民を惑わそうとして、しるしや不思議
なことをして見せます。23 だから、気をつけていなさい。わたしは、何もかも
前もって話しました。
24 だが、その日には、その苦難に続いて、太陽は暗くなり、月は光を放た
ず、25 星は天から落ち、天の万象は揺り動かされます。26 そのとき、人々は、
人の子が偉大な力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを見るのです。27 そのと
き、人の子は、御使いたちを送り、地の果てから天の果てまで、四方からその
選びの民を集めます。

28 いちじくの木から、たとえを学びなさい。枝が柔らかになって、葉が出て
来ると、夏の近いことがわかります。 29 そのように、これらのことが起こるの
を見たら、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。 30 まことに、あなた
がたに告げます。これらのことが全部起こってしまうまでは、この時代は過ぎ
去りません。 31 この天地は滅びます。しかし、わたしのことばは決して滅びる
ことがありません。 32 ただし、その日、その時がいつであるかは、だれも知り
ません。天の御使いたちも子も知りません。ただ父だけが知っておられます。
33 気をつけなさい。目をさまし、注意していなさい。その定めの時がいつだ
か、あなたがたは知らないからです。 34 それはちょうど、旅に立つ人が、出が
けに、しもべたちにはそれぞれ仕事を割り当てて責任を持たせ、門番には目を
ささましているように言いつけるようなものです。 35 だから、目をさましていな
さい。家の主人がいつ帰って来るか、夕方か、夜中か、鶏の鳴くころか、明け
方か、わからないからです。 36 主人が不意に帰って来たとき眠っているのを見
られないようにしなさい。 37 わたしがあなたがたに話していることは、すべて
の人に言っているのです。目をさましていなさい。」

14

1 さて、過越の祭りと種なしパンの祝いが二日後に迫っていたので、祭司長、
律法学者たちは、どうしたらイエスをだまして捕え、殺すことができるだろう
か、とけんめいであった。 2 彼らは、「祭りの間はいけない。民衆の騒ぎが起
こるといけないから。」と話していた。
3 イエスがベタニヤで、らい病人シモンの家におられたとき、食卓に着いて
おられると、ひとりの女が、純粋で、非常に高価なナルド油のはいった石膏
のつぼを持って来て、そのつぼを割り、イエスの頭に注いだ。 4 すると、何人
かの者が憤慨して互いに言った。「何のために、香油をこんなにむだにしたの
か。 5 この香油なら、三百デナリ以上に売れて、貧乏な人たちに施しができた
のに。」そうして、その女をきびしく責めた。 6 すると、イエスは言われた。
「そのままにしておきなさい。なぜこの人を困らせるのですか。わたしのため
に、りっぱなことをしてくれたのです。 7 貧しい人たちは、いつもあなたがた
といっしょにいます。それで、あなたがたがしたいときは、いつでも彼らに良
いことをしてやれます。しかし、わたしは、いつもあなたがたといっしょにい
るわけではありません。 8 この女は、自分にできることをしたのです。埋葬の用
意にと、わたしのからだに、前もって油を塗ってくれたのです。 9 まことに、
あなたがたに告げます。世界中のどこでも、福音が宣べ伝えられる所なら、
この人のした事も語られて、この人の記念となるでしょう。」
10 ところで、イスカリオテ・ユダは、十二弟子のひとりであるが、イエスを
売ろうとして祭司長たちのところへ出向いて行った。 11 彼らはこれを聞いて喜
んで、金をやろうと約束した。そこでユダは、どうしたら、うまいぐあいに
イエスを引き渡せるかと、ねらっていた。
12 種なしパンの祝いの第一日、すなわち、過越の小羊をほふる日に、弟子た
ちはイエスに言った。「過越の食事をなさるのに、私たちは、どこへ行って用
意をしましょうか。」 13 そこで、イエスは、弟子のうちふたりを送って、こう
言われた。「都にはいりなさい。そうすれば、水がめを運んでいる男に会うか
ら、その人について行きなさい。 14 そして、その人がはいって行く家の主人
に、『弟子たちといっしょに過越の食事をする、わたしの客間はどこか、と先
生が言っておられる。』と言いなさい。 15 するとその主人が自分で、席が整っ
て用意のできた二階の広間を見せてくれます。そこでわたしたちのために用意
をしなさい。」 16 弟子たちが出かけて行って、都にはいると、まさしくイエス
の言われたとおりであった。それで、彼らはそこで過越の食事の用意をした。
17 夕方になって、イエスは十二弟子といっしょにそこに来られた。 18 そし
て、みなが席に着いて、食事をしているとき、イエスは言われた。「まこと
に、あなたがたに告げます。あなたがたのうちのひとりで、わたしといっしょ
に食事をしている者が、わたしを裏切ります。」 19 弟子たちは悲しくなって、
「まさか私ではないでしょう。」とかわるがわるイエスに言いだした。 20 イエ
スは言われた。「この十二人の中のひとりで、わたしといっしょに、同じ鉢に
パンを浸している者です。 21 確かに、人の子は、自分について書いてあるとお
りに、去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人間はのろわれます。
そういう人は生まれなかったほうがよかったのです。」
22 それから、みなが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して
後、これを裂き、彼らに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしのから
だです。」 23 また、杯を取り、感謝をささげて後、彼らに与えられた。彼らは
みなその杯から飲んだ。 24 イエスは彼らに言われた。「これはわたしの契約の

血です。多くの人のために流されるものです。 25 まことに、あなたがたに告げ
ます。神の国で新しく飲むその日までは、わたしはもはや、ぶどうの実で造っ
た物を飲むことはありません。」
26 そして、賛美の歌を歌ってから、みなでオリーブ山へ出かけて行った。
27 イエスは、弟子たちに言われた。「あなたがたはみな、つまずきます。
『わたしが羊飼いを打つ。すると、羊は散り散りになる。』と書いてありますす
から。 28 しかしわたしは、よみがえってから、あなたがたより先に、ガリラヤ
へ行きます。」 29 すると、ペテロがイエスに言った。「たとい全部の者がつま
ずいても、私はつまずきません。」 30 イエスは彼に言われた。「まことに、あら
なたに告げます。あなたは、きょう、今夜、鶏が二度鳴く前に、わたしを知ら
ないと三度言います。」 31 ペテロは力を込めて言い張った。「たとい、ごいっ
しょに死ななければならないとしても、私は、あなたを知らないなどとは決し
て申しません。」みなの者もそう言った。
32 ゲツセマネという所に来て、イエスは弟子たちに言われた。「わたしが祈
る間、ここにすわっていなさい。」 33 そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネをいっ
しょに連れて行かれた。イエスは深く恐れもだえ始められた。 34 そして彼ら
に言われた。「わたしは悲しみのあまり死ぬほどです。ここを離れないで、目
をさましていなさい。」 35 それから、イエスは少し進んで行って、地面にひれ
伏し、もしできることなら、この時が自分から過ぎ去るようにと祈り、 36 また
こどういう言われた。「アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。
どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うこと
ではなく、あなたのみこころのままを、なさってください。」 37 それから、イモ
エスは戻って来て、彼らの眠っているのを見つけ、ペテロに言われた。「シ
ン。眠っているのか。一時間でも目をさましていることができなかったのか。
38 誘惑に陥らないように、目をさまして、祈り続けなさい。心は燃えていて
も、肉体は弱いのです。」 39 イエスは再び離れて行き、前と同じことばで祈ら
れた。 40 そして、また戻って来て、ご覧になると、彼らは眠っていた。ひどく
眠けがさしていたのである。彼らは、イエスにどう言ってよいか、わからなか
った。 41 イエスは三度目に来て、彼らに言われた。「まだ眠って休んでいるの
ですか。もう十分です。時が来ました。見なさい。人の子は罪人たちの手に渡
されます。 42 立ちなさい。さあ、行くのです。見なさい。わたしを裏切る者が
近づきました。」
43 そしてすぐ、イエスがまだ話しておられるうちに、十二弟子のひとりのユ
ダが現われた。剣や棒を手にした群衆もいっしょであった。群衆はみな、祭司
長、律法学者、長老たちから差し向けられたものであった。 44 イエスを裏切
るの者は、彼らと前もって次のような合図を決めておいた。「私が口づけをする
のが、その人だ。その人をつかまえて、しっかりと引いて行くのだ。」 45 それ
で、彼はやって来るとすぐに、イエスに近寄って、「先生。」と言って、口づ
けしした。 46 すると人々は、イエスに手をかけて捕えた。 47 そのとき、イエスの
そばに立っていたひとりが、剣を抜いて大祭司のしもべに撃ちかかり、その耳
を切り落とした。 48 イエスは彼らに向かって言われた。「まるで強盗にでも向
かうように、剣や棒を持ってわたしを捕えに来たのですか。 49 わたしは毎日、
宮であなたがたといっしょにいて、教えていたのに、あなたがたは、わたしを
捕えなかったのです。しかし、こうなったのは聖書のことばが実現するため
です。」 50 すると、みながイエスを見捨てて、逃げてしまった。
51 ある青年が、素はだに亜麻布を一枚まとったままで、イエスについて行っ
たところ、人々は彼を捕えようとした。 52 すると、彼は亜麻布を脱ぎ捨てて、
はだかで逃げた。
53 彼らがイエスを大祭司のところに連れて行くと、祭司長、長老、律法学者
たちがみな、集まって来た。 54 ペテロは、遠くからイエスのあとをつけなが
ら、大祭司の庭の中まではいって行った。そして、役人たちといっしょにすわ
って、火にあたっていた。 55 さて、祭司長たちと全議会は、イエスを死刑に
するために、イエスを訴える証拠をつかもうと努めたが、何も見つからなかっ
た。 56 イエスに対する偽証をした者は多かったが、一致しなかったのである。
57 すると、数人が立ち上がって、イエスに対する偽証をして、次のように言っ
た。 58 「私たちは、この人が『わたしは手で造られたこの神殿をこわして、三
日のうちに、手で造られない別の神殿を造ってみせる。』と言うのを聞きま
した。」 59 しかし、この点でも証言は一致しなかった。 60 そこで大祭司が立ち
上がり、真中に進み出てイエスに尋ねて言った。「何も答えないのですか。こ
の人たちが、あなたに不利な証言をしていますが、これはどうなのですか。」
61 しかし、イエスは黙ったままで、何もお答えにならなかった。大祭司は、
さらにイエスに尋ねて言った。「あなたは、ほむべき方の子、キリストです

か。」 62 そこでイエスは言われた。「わたしは、それです。人の子が、力ある
方の右の座に着き、天の雲に乗って来るのを、あなたがたは見るはずです。」
63 すると、大祭司は、自分の衣を引き裂いて言った。「これでもまだ、証人が
必要でしょうか。 64 あなたがたは、神をけがすこのことばを聞いたのです。どう考えますか。」すると、彼らは全員で、イエスには死刑に当たる罪があると決めた。 65 そうして、ある人々は、イエスにつばきをかけ、御顔をおおい、こぶしでなぐりつけ、「言い当ててみろ。」などと言ったりし始めた。また、役人たちは、イエスを受け取って、平手で打った。

66 ペテロが下の庭にいると、大祭司の女中のひとりが来て、 67 ペテロが火にあたっているのを見かけ、彼をじっと見つめて、言った。「あなたも、あのナザレ人、あのイエスといっしょにいましたね。」 68 しかし、ペテロはそれを打ち消して、「何を言っているのか、わからない。見当もつかない。」と言って、出口のほうへと出て行った。 69 すると女中は、ペテロを見て、そばに立っていた人たちに、また、「この人はあの仲間です。」と言いだした。 70 しかし、ペテロは再び打ち消した。しばらくすると、そばに立っていたその人たちが、またペテロに言った。「確かに、あなたはあの仲間だ。ガリラヤ人なのだから。」 71 しかし、彼はのろいをかけて誓い始め、「私は、あなたがたの話しているその人を知りません。」と言った。 72 するとすぐに、鶏が、二度目に鳴いた。そこでペテロは、「鶏が二度鳴く前に、あなたは、わたしを知らないと三度言います。」というイエスのおことばを思い出した。それに思い当たったとき、彼は泣き出した。

15

1 夜が明けるとすぐに、祭司長たちをはじめ、長老、律法学者たちと、全議会とは協議をこらしたすえ、イエスを縛って連れ出し、ピラトに引き渡した。
2 ピラトはイエスに尋ねた。「あなたは、ユダヤ人の王ですか。」イエスは答えて言われた。「そのとおりです。」 3 そこで、祭司長たちはイエスをきびしく訴えた。 4 ピラトはもう一度イエスに尋ねて言った。「何も答えないのですか。見なさい。彼らはあんなにまであなたを訴えているのです。」 5 それでも、イエスは何もお答えにならなかった。それにはピラトも驚いた。

6 ところでピラトは、その祭りには、人々の願う囚人をひとりだけ赦免するのを例としていた。 7 たまたま、バラバという者がいて、暴動のとき人殺しをした暴徒たちといっしょに牢にはいっていた。 8 それで、群衆は進んで行って、いつものようにしてもらうことを、ピラトに要求し始めた。 9 そこでピラトは、彼らに答えて、「このユダヤ人の王を釈放してくれというのか。」と言った。
10 ピラトは、祭司長たちが、ねたみからイエスを引き渡したことに、気づいていたからである。 11 しかし、祭司長たちは群衆を扇動して、むしろバラバを釈放してもらいたいと言わせた。 12 そこで、ピラトはもう一度答えて、「ではいったい、あなたがたがユダヤ人の王と呼んでいるあの人を、私にどうせよというのか。」と言った。 13 すると彼らはまたも「十字架につけろ。」と叫んだ。
14 だが、ピラトは彼らに、「あの人がどんな悪い事をしたというのか。」と言った。しかし、彼らはますます激しく「十字架につけろ。」と叫んだ。 15 それで、ピラトは群衆のきげんをとろうと思い、バラバを釈放した。そして、イエスをむち打って後、十字架につけるようにと引き渡した。

16 兵士たちはイエスを、邸宅、すなわち総督官邸の中に連れて行き、全部隊を呼び集めた。 17 そしてイエスに紫の衣を着せ、いばらの冠を編んでかぶらせ、 18 それから、「ユダヤ人の王さま。ばんざい。」と叫んであいさつをし始めた。 19 また、葦の棒でイエスの頭をたたいたり、つばきをかけたり、ひざまずいて拝んだりしていた。 20 彼らはイエスを嘲弄したあげく、その紫の衣を脱がせて、もとの着物をイエスに着せた。それから、イエスを十字架につけるために連れ出した。

21 そこへ、アレキサンデルとルポスとの父で、シモンというクレネ人が、いなかから出て来て通りかかったので、彼らはイエスの十字架を、むりやりに彼に背負わせた。

22 そして、彼らはイエスをゴルゴタの場所（訳すと、「どくろ」の場所）へ連れて行った。 23 そして彼らは、没薬を混ぜたぶどう酒をイエスに与えようとしたが、イエスはお飲みにならなかった。 24 それから、彼らは、イエスを十字架につけた。そして、だれが何を取るかをくじ引きで決めたうえで、イエスの着物を分けた。 25 彼らがイエスを十字架につけたのは、午前九時であった。 26 イエスの罪状書きには、「ユダヤ人の王。」と書いてあった。 27 また彼らは、イエスとともにふたりの強盗を、ひとりは右に、ひとりは左に、十字架につけた。 28-29 道を行く人々は、頭を振りながらイエスをののしって言った。

「おお、神殿を打ちこわして三日で建てる人よ。 30 十字架から降りて来て、
自分を救ってみろ。」 31 また、祭司長たちも同じように、律法学者たちといっ
しょになって、イエスをあざけって言った。「他人は救ったが、自分は救えな
い。 32 キリスト、イスラエルの王さま。たった今、十字架から降りてもらおう
か。われわれは、それを見たら信じるから。」また、イエスといっしょに十字
架につけられた者たちもイエスをののしった。
33 さて、十二時になったとき、全地が暗くなって、午後三時まで続いた。
34 そして、三時に、イエスは大声で、「エロイ、エロイ、ラマ、サバクタ
ニ。」と叫ばれた。それは訳すと「わが神、わが神。どうしてわたしをお見
捨てになったのですか。」という意味である。 35 そばに立っていた幾人かが、
これを聞いて、「そら、エリヤを呼んでいる。」と言った。 36 すると、ひとり
が走って行って、海綿に酸いぶどう酒を含ませ、それを葦の棒につけて、イエ
スに飲ませようとしながら言った。「エリヤがやって来て、彼を降ろすかどう
か、私たちは見ることにしよう。」 37 それから、イエスは大声をあげて息を引
き取られた。 38 神殿の幕が上から下まで真二つに裂けた。 39 イエスの正面に立
っていた百人隊長は、イエスがこのように息を引き取られたのを見て、「この
方はまことに神の子であった。」と言った。 40 また、遠くのほうから見ていた
女たちもいた。その中にマグダラのマリヤと、小ヤコブとヨセの母マリヤと、
またサロメもいた。 41 イエスがガリラヤにおられたとき、いつもつき従って仕
えていた女たちである。このほかにも、イエスといっしょにエルサレムに上っ
て来た女たちがたくさんいた。
42 すっかり夕方になった。その日は備えの日、すなわち安息日の前日であっ
たので、 43 アリマタヤのヨセフは、思い切ってピラトのところに行き、イエス
のからだの下げ渡しを願った。ヨセフは有力な議員であり、みずからも神の国
を待ち望んでいた人であった。 44 ピラトは、イエスがもう死んだのかと驚い
て、百人隊長を呼び出し、イエスがすでに死んでしまったかどうかを問いただ
した。 45 そして、百人隊長からそうと確かめてから、イエスのからだをヨセフ
に与えた。 46 そこで、ヨセフは亜麻布を買い、イエスを取り降ろしてその亜麻
布に包み、岩を掘って造った墓に納めた。墓の入口には石をころがしかけてお
いた。 47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスの納められる所をよ
く見ていた。

16

1 さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤとサ
ロメとは、イエスに油を塗りに行こうと思い、香料を買った。 2 そして、週の
初めの日の早朝、日が上ったとき、墓に着いた。 3 彼女たちは、「墓の入口か
らあの石をころがしてくれる人が、だれかいるでしょうか。」とみなで話し合
っていた。 4 ところが、目を上げて見ると、あれほど大きな石だったのに、そ
の石がすでにころがしてあった。 5 それで、墓の中にはいったところ、真白な
長い衣をまとった青年が右側にすわっているのが見えた。彼女たちは驚いた。
6 青年は言った。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナ
ザレ人イエスを捜しているのでしょう。あの方はよみがえられました。ここに
はおられません。ご覧なさい。ここがあの方の納められた所です。 7 ですから
行って、お弟子たちとペテロに、『イエスは、あなたがたより先にガリラヤへ
行かれます。前に言われたとおり、そこでお会いできます。』とそう言いなさ
い。」 8 女たちは、墓を出て、そこから逃げ去った。すっかり震え上がって、
気も転倒していたからである。そしてだれにも何も言わなかった。恐ろしかっ
たからである。
9 [さて、週の初めの日の朝早くによみがえったイエスは、まずマグダラの
マリヤにご自分を現わされた。イエスは、以前に、この女から七つの悪霊を追
い出されたのであった。 10 マリヤはイエスといっしょにいた人たちが嘆き悲し
んで泣いているところに行き、そのことを知らせた。 11 ところが、彼らは、イ
エスが生きておられ、お姿をよく見た、と聞いても、それを信じようとはしな
かった。
12 その後、彼らのうちのふたりがいなかのほうへ歩いていたおりに、イエス
は別の姿でご自分を現わされた。 13 そこでこのふたりも、残りの人たちのと
ころへ行ってこれを知らせたが、彼らはふたりの話も信じなかった。
14 しかしそれから後になって、イエスは、その十一人が食卓に着いている
ところに現われて、彼らの不信仰とかたくなな心をお責めになった。それは、
彼らが、よみがえられたイエスを見た人たちの言うところを信じなかったから
である。 15 それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、す
べての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。 16 信じてバプテスマを受ける

者は、救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。 17 信じる人々に
は次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出
し、新しいことばを語り、 18 蛇をもつかみ、たとい毒を飲んでも決して害を受
けず、また、病人に手を置けば病人はいやされます。」
19 主イエスは、彼らにこう話されて後、天に上げられて神の右の座に着かれ
た。 20 そこで、彼らは出て行って、至る所で福音を宣べ伝えた。主は彼らとともに働き、みことばに伴うしるしをもって、みことばを確かなものとされた。]

別の追加文

［さて、女たちは、命じられたすべてのことを、ペテロとその仲間の人々にさっそく知らせた。その後、イエスご自身、彼らによって、きよく、朽ちることのない、永遠の救いのおとずれを、東の果てから、西の果てまで送り届けられた。］

ルカの福音書

1-2 私たちの間ですでに確信されている出来事については、初めからの目撃者
で、みことばに仕える者となった人々が、私たちに伝えたそのとおりを、多く
の人が記事にまとめて書き上げようと、すでに試みておりますので、3私も、
すべてのことを初めから綿密に調べておりますから、あなたのために、順序を
立てて書いて差し上げるのがよいと思います。尊敬するテオピロ殿。4それに
よって、すでに教えを受けられた事がらが正確な事実であることを、よくわか
っていただきたいと存じます。

5ユダヤの王ヘロデの時に、アビヤの組の者でザカリヤという祭司がいた。彼
の妻はアロンの子孫で、名をエリサベツといった。6ふたりとも、神の御前に
正しく、主のすべての戒めと定めを落度なく踏み行なっていた。7エリサベツ
は不妊の女だったので、彼らには子がなく、ふたりとももう年をとっていた。

8さて、ザカリヤは、自分の組が当番で、神の御前に祭司の務めをしていた
が、9祭司職の習慣によって、くじを引いたところ、主の神殿にはいって香を
たくことになった。10彼が香をたく間、大ぜいの民はみな、外で祈っていた。
11ところが、主の使いが彼に現われて、香壇の右に立った。12これを見たザカ
リヤは不安を覚え、恐怖に襲われたが、13御使いは彼に言った。「こわがるこ
とはない。ザカリヤ。あなたの願いが聞かれたのです。あなたの妻エリサベツ
は男の子を産みます。名をヨハネとつけなさい。14その子はあなたにとって喜
びとなり楽しみとなり、多くの人もその誕生を喜びます。15彼は主の御前に
ぐれた者となるからです。彼は、ぶどう酒も強い酒も飲まず、まだ母の胎内に
あるときから聖霊に満たされ、16そしてイスラエルの多くの子らを、彼らの神
であるあ主に立ち返らせます。17彼こそ、エリヤの霊と力で主の前ぶれをし、父
たちの心を子どもたちに向けさせ、逆らう者を義人の心に立ち戻らせ、こうし
て、整えられた民を主のために用意するのです。」18そこで、ザカリヤは御使
いに言った。「私は何によってそれを知ることができましょうか。私も年
寄りですし、妻も年をとっております。」19御使いは答えて言った。「私はガ
の御前に立つガブリエルです。あなたに話をし、この喜びのおとずれを伝えるる
ように遣わされているのです。20ですから、見なさい。これらのことが起こ
日までは、あなたは、おしになって、ものが言えなくなります。私のことば
信じなかったからです。私のことばは、その時が来れば実現します。」21人々
はザカリヤを待っていたが、神殿であまり暇取るので不思議に思った。22やが
て彼は出て来たが、人々に話をすることができなかった。それで、彼は神殿で
幻を見たのだとわかった。ザカリヤは、彼らに合図を続けるだけで、おしの
まであった。23やがて、務めの期間が終わったので、彼は自分の家に帰った。

24その後、妻エリサベツはみごもり、五か月の間引きこもって、こう言っ
た。25「主は、人中で私の恥を取り除こうと心にかけられ、今、私をこのよう
にしてくださいました。」

26ところで、その六か月目に、御使いガブリエルが、神から遣わされてガリ
ラヤのナザレという町のひとりの処女のところに来た。27この処女は、ダビデ
の家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリヤといった。28御使いは、
はいって来ると、マリヤに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたと
ともにおられます。」29しかし、マリヤはこのことばに、ひどくとまどって、
これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。30すると御使いが言った。「こさ
わがることはない。マリヤ。あなたは神から恵みを受けたのです。31ご覧な
い。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。32そ
の子はすぐれた者となり、いと高きかの子と呼ばれます。また、神である主は
彼にその父ダビデの王位をお与えになります。33彼はとこしえにヤコブの家を
治め、その国は終わることがありません。」34そこで、マリヤは御使いに言っ
た。「どうしてそのようなことになりえましょう。私は男の人を知りませ
んのに。」35御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高きの
の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼
ばれます。36ご覧なさい。あなたの親類のエリサベツも、あの年になって男の
子を宿しています。不妊の女といわれていた人なのに、今はもう六か月です。
37神にとって不可能なことは一つもありません。」38マリヤは言った。「ほん
とうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身に
なりますように。」こうして御使いは彼女から去って行った。

39 そのころ、マリヤは立って、山地にあるユダの町に急いだ。 40 そしてザカ
リヤの家に行って、エリサベツにあいさつした。 41 エリサベツがマリヤのあい
さつを聞いたとき、子が胎内でおどり、エリサベツは聖霊に満たされた。 42 そ
して大声をあげて言った。「あなたは女の中の祝福された方。あなたの胎の実
も祝福されています。 43 私の主の母が私のところに来られるとは、何というこ
とでしょう。 44 ほんとうに、あなたのあいさつの声が私の耳にはいったとき、
私の胎内で子どもが喜んでおどりました。 45 主によって語られたことは必ず実
現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。」 46 マリヤは言った。
「わがたましいは主をあがめ、
47 わが霊は、わが救い主なる神を喜びたたえます。
48 主はこの卑しいはしためにに
目を留めてくださったからです。
ほんとうに、これから後、どの時代の人々も、
私をしあわせ者と思うでしょう。
49 力ある方が、
私に大きなことをしてくださいました。
その御名はきよく、
50 そのあわれみは、主を恐れかしこむ者に、
代々にわたって及びます。
51 主は、御腕をもって力強いわざをなし、
心の思いの高ぶっている者を追い散らし、
52 権力ある者を王位から引き降ろされます。
低い者を高く引き上げ、
53 飢えた者を良いもので満ち足らせ、
富む者を何も持たせないで追い返されました。
54 主はそのあわれみをいつまでも忘れないで、
そのしもべイスラエルをお助けになりました。
55 私たちの先祖たち、アブラハムとその子孫に
語られたとおりです。」

56 マリヤは三か月ほどエリサベツと暮らして、家に帰った。
57 さて月が満ちて、エリサベツは男の子を産んだ。 58 近所の人々や親族は、
主がエリサベツに大きなあわれみをおかけになったと聞いて、彼女とともに喜
んだ。 59 さて八日目に、人々は幼子に割礼するためにやって来て、幼子を父の
名にちなんでザカリヤと名づけようとしたが、 60 母は答えて、「いいえ、そう
ではなく、ヨハネという名にしなければなりません。」と言った。 61 彼らは
彼女に、「あなたの親族にはそのような名の人はひとりもいません。」と言っ
た。 62 そして、身振りで父親に合図して、幼子に何という名をつけるつもりか
と尋ねた。 63 すると、彼は書き板を持って来させて、「彼の名はヨハネ。」と
書いたので、人々はみな驚いた。 64 すると、たちどころに、彼の口が開け、舌
は解け、ものが言えるようになって神をほめたたえた。 65 そして、近所の人々
はみな恐れた。さらにこれらのことの一部始終が、ユダヤの山地全体にも語り
伝えられて行った。 66 聞いた人々はみな、それを心にとどめて、「いったいこ
の子は何になるのでしょう。」と言った。主の御手が彼とともにあったからで
ある。
67 さて父ザカリヤは、聖霊に満たされて、預言して言った。
68 「ほめたたえよ。イスラエルの神である主を。
主はその民を顧みて、贖いをなし、
69 救いの角を、われらのために、
しもべダビデの家に立てられた。
70 古くから、その聖なる預言者たちの口を通して、
主が話してくださったとおりに。
71 この救いはわれらの敵からの、
すべてわれらを憎む者の手からの救いである。
72 主はわれらの父祖たちにあわれみを施し、
その聖なる契約を、
73 われらの父アブラハムに誓われた誓いを覚えて、
74-75 われらを敵の手から救い出し、
われらの生涯のすべての日に、
きよく、正しく、
恐れなく、主の御前に仕えることを許される。
76 幼子よ。あなたもまた、

いと高き方の預言者と呼ばれよう。
主の御前に先立って行き、その道を備え、
77 神の民に、罪の赦しによる
救いの知識を与えるためである。
78 これはわれらの神の深いあわれみによる。
そのあわれみにより、
日の出がいと高き所からわれらを訪れ、
79 暗黒と死の陰にすわる者たちを照らし、
われらの足を平和の道に導く。」

80 さて、幼子は成長し、その霊は強くなり、イスラエルの民の前に公に出現する日まで荒野にいた。

2

1 そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出
た。 2 これは、クレニオがシリヤの総督であったときの最初の住民登録であっ
た。 3 それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行っ
た。 4 ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの
町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、 5 身重に
なっているいいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。 6 とこ
ろが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、 7 男子の初子を産んだ。
それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなか
ったからである。
8 さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守
っていた。 9 すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照ら
したので、彼らはひどく恐れた。 10 御使いは彼らに言った。「恐れることは
ありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たので
す。 11 きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりま
した。この方こそ主キリストです。 12 あなたがたは、布にくるまって飼葉おけ
に寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしで
す。」 13 すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現われ
て、神を賛美して言った。
14 「いと高き所に、栄光が、神にあるように。
地の上に、平和が、
御心にかなう人々にあるように。」
15 御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは互いに話し合
った。「さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの
出来事を見て来よう。」 16 そして急いで行って、マリヤとヨセフと、飼葉お
けに寝ておられるみどりごとを捜し当てた。 17 それを見たとき、羊飼いた
ちは、この幼子について告げられたことを知らせた。 18 それを聞いた人たち
はみな、羊飼いの話したことに驚いた。 19 しかしマリヤは、これらのことを
すべて心に納めて、思いを巡らしていた。 20 羊飼いたちは、見聞きしたこと
が、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って
行った。
21 八日が満ちて幼子に割礼を施す日となり、幼子はイエスという名で呼ばれ
ることになった。胎内に宿る前に御使いがつけた名である。
22 さて、モーセの律法による彼らのきよめの期間が満ちたとき、両親は幼子
を主にささげるために、エルサレムへ連れて行った。 23 ――それは、主の律法
に「母の胎を開く男子の初子は、すべて、主に聖別された者、と呼ばれなけれ
ばならない。」と書いてあるとおりであった。―― 24 また、主の律法に「山ば
と一つがい、または、家ばとのひな二羽。」と定められたところに従って犠牲
をささげるためであった。 25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がい
た。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んで
いた。聖霊が彼の上にとどまっておられた。 26 また、主のキリストを見るまで
は、決して死なないと、聖霊のお告げを受けていた。 27 彼が御霊に感じて宮に
はいると、幼子イエスを連れた両親が、その子のために律法の慣習を守るため
に、はいって来た。 28 すると、シメオンは幼子を腕に抱き、神をほめたたえて
言った。
29 「主よ。今こそあなたは、あなたのしもべを、
みことばどおり、安らかに去らせてくださいます。
30 私の目があなたの御救いを見たからです。
31 御救いはあなたが

万民の前に備えられたもので、
32 異邦人を照らす啓示の光、
御民イスラエルの光栄です。」
33 父と母は、幼子についていろいろ語られる事に驚いた。 34 また、シメオンは両親を祝福し、母マリヤに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人が倒れ、また、立ち上がるために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められています。 35 剣があなたの心さえも刺し貫くでしょう。それは多くの人の心の思いが現われるためです。」 36 また、アセル族のパヌエルの娘で女預言者のアンナという人がいた。この人は非常に年をとっていた。処女の時代のあと七年間、夫とともに住み、 37 その後やもめになり、八十四歳になっていた。そして宮を離れず、夜も昼も、断食と祈りをもって神に仕えていた。 38 ちょうどこのとき、彼女もそこにいて、神に感謝をささげ、そして、エルサレムの贖いを待ち望んでいるすべての人々に、この幼子のことを語った。
39 さて、彼らは主の律法による定めをすべて果たしたので、ガリラヤの自分たちの町ナザレに帰った。 40 幼子は成長し、強くなり、知恵に満ちて行った。神の恵みがその上にあった。
41 さて、イエスの両親は、過越の祭りには毎年エルサレムに行った。 42 イエスが十二歳になられたときも、両親は祭りの慣習に従って都へ上り、 43 祭りの期間を過ごしてから、帰路についたが、少年イエスはエルサレムにとどまっておられた。両親はそれに気づかなかった。 44 イエスが一行の中にいるものと思って、一日の道のりを行った。それから、親族や知人の中を捜し回ったが、 45 見つからなかったので、イエスを捜しながら、エルサレムまで引き返した。 46 そしてようやく三日の後に、イエスが宮で教師たちの真中にすわって、話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた。 47 聞いていた人々はみな、イエスの知恵と答えに驚いていた。 48 両親は彼を見て驚き、母は言った。「まあ、あなたはなぜ私たちにこんなことをしたのです。見なさい。父上も私も、心配してあなたを捜し回っていたのです。」 49 するとイエスは両親に言われた。「どうしてわたしをお捜しになったのですか。わたしが必ず自分の父の家にいることを、ご存じなかったのですか。」 50 しかし両親には、イエスの話されたことばの意味がわからなかった。 51 それからイエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた。母はこれらのことをみな、心に留めておいた。
52 イエスはますます知恵が進み、背たけも大きくなり、神と人とに愛された。

3

1 皇帝テベリオの治世の第十五年、ポンテオ・ピラトがユダヤの総督、ヘロデがガリラヤの国主、その兄弟ピリポがイツリヤとテラコニテ地方の国主、ルサニヤがアビレネの国主であり、 2 アンナスとカヤパが大祭司であったころ、神のことばが、荒野でザカリヤの子ヨハネに下った。 3 そこでヨハネは、ヨルダン川のほとりのすべての地方に行って、罪が赦されるための悔い改めに基づくバプテスマを説いた。 4 そのことは預言者イザヤのことばの書に書いてあるとおりである。
「荒野で叫ぶ者の声がする。
『主の道を用意し、
主の通られる道をまっすぐにせよ。
5 すべての谷はうずめられ、
すべての山と丘とは低くされ、
曲がった所はまっすぐになり、
でこぼこ道は平らになる。
6 こうして、あらゆる人が、
神の救いを見るようになる。』」

7 それで、ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出て来た群衆に言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。 8 それならそれで、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。『われわれの先祖はアブラハムだ。』などと心の中で言い始めてはいけません。よく言っておくが、神は、こんな石ころからでも、アブラハムの子孫を起こすことがおできになるのです。 9 斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木は、みな切り倒されて、火に投げ込まれます。」 10 群衆はヨハネに尋ねた。「それでは、私たちはどうすればよいのでしょう。」 11 彼は答え

て言った。「下着を二枚持っている者は、一つも持たない者に分けなさい。食
べ物を持っている者も、そうしなさい。」 12 取税人たちも、バプテスマを受
けに出て来て、言った。「先生。私たちはどうすればよいのでしょう。」 13 ヨ
ハネは彼らに言った。「決められたもの以上には、何も取り立ててはいけませ
ん。」 14 兵士たちも、彼に尋ねて言った。「私たちはどうすればよいのでしょ
うか。」ヨハネは言った。「だれからも、力ずくで金をゆすったり、無実の者
を責めたりしてはいけません。自分の給料で満足しなさい。」
15 民衆は救い主を待ち望んでおり、みな心の中で、ヨハネについて、もしか
するとこの方がキリストではあるまいか、と考えていたので、 16 ヨハネはみ
なに答えて言った。「私は水であなたがたにバプテスマを授けています。しか
し、私よりもさらに力のある方がおいでになります。私などは、その方のくつ
のひもを解く値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプ
テスマをお授けになります。 17 また手に箕を持って脱穀場をことごとくきよ
め、麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。」
18 ヨハネは、そのほかにも多くのことを教えて、民衆に福音を知らせた。
19 さて国主ヘロデは、その兄弟の妻ヘロデヤのことについて、また、自分の行
なった悪事のすべてを、ヨハネに責められたので、 20 ヨハネを牢に閉じ込め、
すべての悪事にもう一つこの悪事を加えた。
21 さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお
受けになり、そして祈っておられると、天が開け、 22 聖霊が、鳩のような形を
して、自分の上に下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あな
たは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」
23 教えを始められたとき、イエスはおよそ三十歳で、人々からヨセフの子
と思われていた。このヨセフは、ヘリの子、順次さかのぼって、 24 マタテの
子、レビの子、メルキの子、ヤンナイの子、ヨセフの子、 25 マタテヤの子、ア
モスの子、ナホムの子、エスリの子、ナンガイの子、 26 マハテの子、マタテヤ
の子、シメイの子、ヨセクの子、ヨダの子、 27 ヨハナンの子、レサの子、ゾロ
バベルの子、サラテルの子、ネリの子、 28 メルキの子、アデイの子、コサムの
子、エルマダムの子、エルの子、 29 ヨシュアの子、エリエゼルの子、ヨリムの
子、マタテの子、レビの子、 30 シメオンの子、ユダの子、ヨセフの子、ヨナム
の子、エリヤキムの子、 31 メレヤの子、メナの子、マタタの子、ナタンの子、
ダビデの子、 32 エッサイの子、オベデの子、ボアズの子、サラの子、ナアソ
ンの子、 33 アミナダブの子、アデミンの子、アルニの子、エスロンの子、パレ
スの子、ユダの子、 34 ヤコブの子、イサクの子、アブラハムの子、テラの子、
ナホルの子、 35 セルグの子、レウの子、ペレグの子、エベルの子、サラの子、
36 カイナンの子、アルパクサデの子、セムの子、ノアの子、ラメクの子、 37 メ
トセラの子、エノクの子、ヤレデの子、マハラレルの子、カイナンの子、 38 エ
ノスの子、セツの子、アダムの子、このアダムは神の子である。

4

1 さて、聖霊に満ちたイエスは、ヨルダンから帰られた。そして御霊に導かれ
て荒野におり、 2 四十日間、悪魔の試みに会われた。その間何も食べず、その
時が終わると、空腹を覚えられた。 3 そこで、悪魔はイエスに言った。「あな
たが神の子なら、この石に、パンになれと言いつけなさい。」 4 イエスは答え
られた。「『人はパンだけで生きるのではない。』と書いてある。」 5 また、
悪魔はイエスを連れて行き、またたくまに世界の国々を全部見せて、 6 こう言
った。「この、国々のいっさいの権力と栄光とをあなたに差し上げましょう。
それは私に任されているので、私がこれと思う人に差し上げるのです。 7 です
から、もしあなたが私を拝むなら、すべてをあなたのものとしましょう。」
8 イエスは答えて言われた。「『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えな
さい。』と書いてある。」 9 また、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、
神殿の頂に立たせて、こう言った。「あなたが神の子なら、ここから飛び降り
なさい。 10 『神は、御使いたちに命じてあなたを守らせる。』とも、 11 『あな
たの足が石に打ち当たることのないように、彼らの手で、あなたをささえさせ
る。』とも書いてあるからです。」 12 するとイエスは答えて言われた。「『あ
なたの神である主を試みてはならない。』と言われている。」
13 誘惑の手を尽くしたあとで、悪魔はしばらくの間イエスから離れた。
14 イエスは御霊の力を帯びてガリラヤに帰られた。すると、その評判が回り
一帯に、くまなく広まった。 15 イエスは、彼らの会堂で教え、みなの人にあが
められた。

16 それから、イエスはご自分の育ったナザレに行き、いつものとおり安息日
に会堂にはいり、朗読しようとして立たれた。 17 すると、預言者イザヤの書が
手渡されたので、その書を開いて、こう書いてある所を見つけられた。
18 「わたしの上に主の御霊がおられる。
主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、
わたしに油を注がれたのだから。
主はわたしを遣わされた。
捕われ人には赦免を、
盲人には目の開かれることを告げるために。
しいたげられている人々を自由にし、
19 主の恵みの年を告げ知らせるために。」
20 イエスは書を巻き、係りの者に渡してすわられた。会堂にいるみなの目
がイエスに注がれた。 21 イエスは人々にこう言って話し始められた。「き
ょう、聖書のこのみことばが、あなたがたが聞いたとおり実現しました。」
22 みなイエスをほめ、その口から出て来る恵みのことばに驚いた。そしてま
た、「この人は、ヨセフの子ではないか。」と彼らは言った。 23 イエスは言
われた。「きっとあなたがたは、『医者よ。自分を直せ。』というたとえを
引いて、カペナウムで行なわれたと聞いていることを、あなたの郷里のこと
でもしてくれ、と言うでしょう。」 24 また、こう言われた。「まことに、あ
なたがたに告げます。預言者はだれでも、自分の郷里では歓迎されません。
25 わたしが言うのは真実のことです。エリヤの時代に、三年六か月の間天が
閉じて、全国に大ききんが起こったとき、イスラエルにもやもめは多くいた
が、 26 エリヤはだれのところにも遣わされず、シドンのサレプタにいたやもも
め女にだけ遣わされたのです。 27 また、預言者エリシャのときに、イスラエ
ルには、らい病人がたくさんいたが、そのうちのだれもきよめられないで、
シリヤ人ナアマンだけがきよめられました。」 28 これらのことを聞くと、会
堂にいた人たちはみな、ひどく怒り、 29 立ち上がってイエスを町の外に追
い出し、町が立っていた丘のがけのふちまで連れて行き、そこから投げ落と
そうとした。 30 しかしイエスは、彼らの真中を通り抜けて、行ってしまわれ
た。
31 それからイエスは、ガリラヤの町カペナウムに下られた。そして、安息日
ごとに、人々を教えられた。 32 人々は、その教えに驚いた。そのことばに権威
があったからである。 33 また、会堂に、汚れた悪霊につかれた人がいて、大声
でわめいた。 34 「ああ、ナザレ人のイエス。いったい私たちに何をしようとい
うのです。あなたは私たちを滅ぼしに来たのでしょう。私はあなたがどなたか
知っています。神の聖者です。」 35 イエスは彼をしかって、「黙れ。その人か
ら出て行け。」と言われた。するとその悪霊は人々の真中で、その人を投げ倒
して出て行ったが、その人は別に何の害も受けなかった。 36 人々はみな驚い
て、互いに話し合った。「今のおことばはどうだ。権威と力とでお命じになっ
たので、汚れた霊でも出て行ったのだ。」 37 こうしてイエスのうわさは、回り
の地方の至る所に広まった。
38 イエスは立ち上がって会堂を出て、シモンの家にはいられた。すると、シ
モンのしゅうとめが、ひどい熱で苦しんでいた。人々は彼女のためにイエスに
お願いした。 39 イエスがその枕もとに来て、熱をしかりつけられると、熱がひ
き、彼女はすぐに立ち上がって彼らをもてなし始めた。
40 日が暮れると、いろいろな病気で弱っている者をかかえた人たちがみな、
その病人をみもとに連れて来た。イエスは、ひとりひとりに手を置いて、いや
された。 41 また、悪霊どもも、「あなたこそ神の子です。」と大声で叫びなが
ら、多くの人から出て行った。イエスは、悪霊どもをしかって、ものを言うの
をお許しにならなかった。彼らはイエスがキリストであることを知っていたか
らである。
42 朝になって、イエスは寂しい所に出て行かれた。群衆は、イエスを捜し回
って、みもとに来ると、イエスが自分たちから離れて行かないよう引き止めて
おこうとした。 43 しかしイエスは、彼らにこう言われた。「ほかの町々にも、
どうしても神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのため
に遣わされたのですから。」
44 そしてユダヤの諸会堂で、福音を告げ知らせておられた。

5

1 群衆がイエスに押し迫るようにして神のことばを聞いたとき、イエスはゲ
ネサレ湖の岸べに立っておられたが、 2 岸べに小舟が二そうあるのをご覧にな
った。漁師たちは、その舟から降りて網を洗っていた。 3 イエスは、そのうち

の一つの、シモンの持ち舟に乗り、陸から少し漕ぎ出すように頼まれた。そし
て イエスはすわって、舟から群衆を教えられた。 4 話が終わると、シモンに、
「深みに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」と言われた。 5 すると
シモンが答えて言った。「先生。私たちは、夜通し働きましたが、何一つとれ
ませんでした。でもおことばどおり、網をおろしてみましょう。」 6 そして、
そのとおりにすると、たくさんの魚がはいり、網は破れそうになった。 7 そこ
で別の舟にいた仲間の者たちに合図をして、助けに来てくれるように頼んだ。
彼らがやって来て、そして魚を両方の舟いっぱいに上げたところ、二そうとも
沈みそうになった。 8 これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ
伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」と言った。 9 それは、大漁のため、彼もいっしょにいたみなの者も、ひ
どく驚いたからである。 10 シモンの仲間であったゼベダイの子ヤコブやヨハネ
もこれから後、あなたは人間をとるようになるのです。」 11 彼らは、舟を陸に着
けると、何もかも捨てて、イエスに従った。
12 さて、イエスがある町におられたとき、全身らい病の人がいた。イエスを
見ると、ひれ伏してお願いした。「主よ。お心一つで、私はきよくしていただけます。」 13 イエスは手を伸ばして、彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ。」と言われた。すると、すぐに、そのらい病が消えた。 14 イエスは、彼に
こう命じられた。「だれにも話してはいけない。ただ祭司のところに行って、
自分を見せなさい。そして人々へのあかしのため、モーセが命じたように、あ
なたのきよめの供え物をしなさい。」 15 しかし、イエスのうわさは、ますます
広まり、多くの人の群れが、話を聞きに、また、病気を直してもらいに集まっ
て来た。 16 しかし、イエスご自身は、よく荒野に退いて祈っておられた。
17 ある日のこと、イエスが教えておられると、パリサイ人と律法の教師た
ちも、そこにすわっていた。彼らは、ガリラヤとユダヤとのすべての村々や、
エルサレムから来ていた。イエスは、主の御力をもって、病気を直しておられ
た。 18 するとそこに、男たちが、中風をわずらっている人を、床のまま運んで
来た。そして、何とかして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとしていた。 19 しかし、大ぜい人がいて、どうにも病人を運び込む方法が見つからないの
で、屋上に上って屋根の瓦をはがし、そこから彼の寝床を、ちょうど人々の
真中のイエスの前に、つり降ろした。 20 彼らの信仰を見て、イエスは「友よ。
あなたの罪は赦されました。」と言われた。 21 ところが、律法学者、パリサイ
人たちは、理屈を言い始めた。「神をけがすことを言うこの人は、いったい何
者だ。神のほかに、だれが罪を赦すことができよう。」 22 その理屈を見抜いて
おられたイエスは、彼らに言われた。「なぜ、心の中でそんな理屈を言っていう
のか。 23 『あなたの罪は赦された。』と言うのと、『起きて歩け。』と言うこ
のと、どちらがやさしいか。 24 人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに悟らせるために。」と言って、中風の人に、「あなたに命
じる。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。」と言われた。 25 すると
彼は、たちどころに人々の前で立ち上がり、寝ていた床をたたんで、神をあが
めながら自分の家に帰った。 26 人々はみな、ひどく驚き、神をあがめ、恐れに
満たされて、「私たちは、きょう、驚くべきことを見た。」と言った。 27 この
後、イエスは出て行き、収税所にすわっているレビという取税人に目を留めて、「わたしについて来なさい。」と言われた。 28 するとレビは、何もかも捨
て、立ち上がってイエスに従った。
29 そこでレビは、自分の家でイエスのために大ぶるまいをしたが、取税人
たちや、ほかに大ぜいの人たちが食卓に着いていた。 30 すると、パリサイ人
やその派の律法学者たちが、イエスの弟子たちに向かって、つぶやいて言っ
た。「なぜ、あなたがたは、取税人や罪人どもといっしょに飲み食いするのです
か。」 31 そこで、イエスは答えて言われた。「医者を必要とするのは丈夫な
者ではなく、病人です。 32 わたしは正しい人を招くためではなく、罪人を招い
て、悔い改めさせるために来たのです。」
33 彼らはイエスに言った。「ヨハネの弟子たちは、よく断食をしており、祈
りもしています。また、パリサイ人の弟子たちも同じなのに、あなたの弟子た
ちは食べたり飲んだりしています。」 34 イエスは彼らに言われた。「花婿がい
っしょにいるのに、花婿につき添う友だちに断食させることが、あなたがたに
できますか。 35 しかし、やがてその時が来て、花婿が取り去られたら、その日
には彼らは断食します。」 36 イエスはまた一つのたとえを彼らに話された。
「だれも、新しい着物から布切れを引き裂いて、古い着物に継ぎをするような
ことはしません。そんなことをすれば、その新しい着物を裂くことになるし、
また新しいのを引き裂いた継ぎ切れも、古い物には合わないのです。 37 また、

だれも新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、新しいぶどう酒は皮袋を張り裂き、ぶどう酒は流れ出て、皮袋もだめになってしまいます。 38 新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れなければなりません。 39 また、だれでも古いぶどう酒を飲んでから、新しい物を望みはしません。『古い物は良い。』と言うのです。」

6

1 ある安息日に、イエスが麦畑を通っておられたとき、弟子たちは麦の穂を摘んで、手でもみ出しては食べていた。 2 すると、あるパリサイ人たちが言った。「なぜ、あなたがたは、安息日にしてはならないことをするのですか。」 3 イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、ダビデが連れの者といっしょにいて、ひもじかったときにしたことを読まなかったのですか。 4 ダビデは神の家にはいって、祭司以外の者はだれも食べてはならない供えのパンを取って、自分も食べたし、供の者にも与えたではありませんか。」 5 そして、彼らに言われた。「人の子は、安息日の主です。」

6 別の安息日に、イエスは会堂にはいって教えておられた。そこに右手のなえた人がいた。 7 そこで律法学者、パリサイ人たちは、イエスが安息日に人を直すかどうか、じっと見ていた。彼を訴える口実を見つけるためであった。 8 イエスは彼らの考えをよく知っておられた。それで、手のなえた人に、「立って、真中に出なさい。」と言われた。その人は、起き上がって、そこに立った。 9 イエスは人々に言われた。「あなたがたに聞きますが、安息日にしてよいのは、善を行なうことなのか、それとも悪を行なうことなのか。いのちを救うことなのか、それとも失うことなのか、どうですか。」 10 そして、みなの者を見回してから、その人に、「手を伸ばしなさい。」と言われた。そのとおりにすると、彼の手は元どおりになった。 11 すると彼らはすっかり分別を失ってしまって、イエスをどうしてやろうかと話し合った。

12 このころ、イエスは祈るために山に行き、神に祈りながら夜を明かされた。 13 夜明けになって、弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、彼らに使徒という名をつけられた。 14 すなわち、ペテロという名をいただいたシモンとその兄弟アンデレ、ヤコブとヨハネ、ピリポとバルトロマイ、 15 マタイとトマス、アルパヨの子ヤコブと熱心党員と呼ばれるシモン、 16 ヤコブの子ユダとイエスを裏切ったイスカリオテ・ユダである。 17 それから、イエスは、彼らとともに山を下り、平らな所にお立ちになったが、多くの弟子たちの群れや、ユダヤ全土、エルサレム、さてはツロやシドンの海べから来た大ぜいの民衆がそこにいた。 18 イエスの教えを聞き、また病気を直していただくために来たのだ人々である。また、汚れた霊に悩まされていた人たちもいやされた。 19 群衆のだれもが何とかしてイエスにさわろうとしていた。大きな力がイエスから出て、すべての人をいやしたからである。

20 イエスは目を上げて弟子たちを見つめながら、話しだされた。「貧しい者は幸いです。神の国はあなたがたのものですから。 21 いま飢えている者は幸いです。あなたがたは、やがて飽くことができますから。

いま泣いている者は幸いです。あなたがたは、いまに笑うようになりますから。 22 人の子のために、人々があなたがたを憎むとき、また、あなたがたを除名し、はずかしめ、あなたがたの名をあしざまにけなすとき、あなたがたは幸いです。 23 その日には、喜びなさい。おどり上がって喜びなさい。天ではあなたがたの報いは大きいからです。彼らの先祖も、預言者たちをそのように扱ったのです。 24 しかし、富んでいるあなたがたは、哀れな者です。慰めを、すでに受けているからです。 25 いま食べ飽きているあなたがたは、哀れな者です。やがて、飢えるようになるからです。いま笑っているあなたがたは、哀れな者です。やがて悲しみ泣くようになるからです。 26 みなの人にほめられるときは、あなたがたは哀れな者です。彼らの先祖は、にせ預言者たちをそのように扱ったからです。

27 しかし、いま聞いているあなたがたに、わたしはこう言います。あなたの敵を愛しなさい。あなたを憎む者に善を行ないなさい。 28 あなたをのろう者を祝福しなさい。あなたを侮辱する者のために祈りなさい。 29 あなたの片方の頬を打つ者には、ほかの頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着も拒んではいけません。 30 すべて求める者には与えなさい。奪い取る者からは取り戻してはいけません。 31 自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。 32 自分を愛する者を愛したからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。罪人たちでさえ、自分を愛する者を愛しています。 33 自分に良いことをしてくれる者に良いことをしたからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。罪人たちでさえ、同じことをしています。 34 返

てもらうつもりで人に貸してやったからといって、あなたがたに何の良いと
ころがあるでしょう。貸した分を取り返すつもりなら、罪人たちでさえ、罪人
たちに貸しています。35ただ、自分の敵を愛しなさい。彼らによくしてやり、
返してもらうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報
いはすばらしく、あなたがたは、いと高き方の子どもになれます。なぜなら、
いと高き方は、恩知らずの悪人にも、あわれみ深いからです。36あなたがた
の天の父があわれみ深いように、あなたがたも、あわれみ深くしなさい。37さ
ばいてはいけません。そうすれば、自分もさばかれません。人を罪に定めては
いけません。そうすれば、自分も罪に定められません。赦しなさい。そうすれ
ば、自分も赦されます。38与えなさい。そうすれば、自分も与えられます。
人々は量りをよくして、押しつけ、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふとこ
ろに入れてくれるでしょう。あなたがたは、人を量る量りで、自分も量り返し
てもらうからです。」
39イエスはまた一つのたとえを話された。「いったい、盲人に盲人の手引き
ができるでしょうか。ふたりとも穴に落ち込まないでしょうか。40弟子は師
以上には出られません。しかし十分訓練を受けた者はみな、自分の師ぐらいに
はなるのです。41あなたは、兄弟の目にあるちりが見えながら、どうして自分
の目にある梁には気がつかないのですか。42自分の目にある梁が見えずに、ど
うして兄弟に、『兄弟。あなたの目のちりを取らせてください。』と言えます
か。偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうしてこそ、兄弟
の目のちりがはっきり見えて、取りのけることができるのです。43悪い実を結
ぶ良い木はないし、良い実を結ぶ悪い木もありません。44木はどれでも、その
実によってわかるものです。いばらからいちじくは取れず、野ばらからぶどう
を集めることはできません。45良い人は、その心の良い倉から良い物を出し、
悪い人は、悪い倉から悪い物を出します。なぜなら人の口は、心に満ちている
ものを話すからです。
46なぜ、わたしを『主よ、主よ。』と呼びながら、わたしの言うことを行な
わないのですか。47わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行な
う人たちがどんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。48その人は、
地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似てい
ます。洪水になり、川の水がその家に押し寄せたときも、しっかり建てられて
いたから、びくともしませんでした。49聞いても実行しない人は、土台なしで
地面に家を建てた人に似ています。川の水が押し寄せると、家は一ぺんに倒れ
てしまい、そのこわれ方はひどいものとなりました。」

7

1イエスは、耳を傾けている民衆にこれらのことばをみな話し終えられると、
カペナウムにはいられた。
2ところが、ある百人隊長に重んじられているひとりのしもべが、病気で死に
かけていた。3百人隊長は、イエスのことを聞き、みもとにユダヤ人の長老た
ちを送って、しもべを助けに来てくださるようお願いした。4イエスのもとに来
たその人たちは、熱心にお願いして言った。「この人は、あなたにそうしてい
ただく資格のある人です。5この人は、私たちの国民を愛し、私たちのために
会堂を建ててくれた人です。」6イエスは、彼らといっしょに行かれた。そし
て、百人隊長の家からあまり遠くない所に来られたとき、百人隊長は友人たち
を使いに出して、イエスに伝えた。「主よ。わざわざおいでくださいませんよ
うに。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。7です
から、私のほうから伺うことさえ失礼と存じました。ただ、おことばをいただ
かせてください。そうすれば、私のしもべは必ずいやされます。8と申しますし
のは、私も権威の下にある者ですが、私の下にも兵士たちがいまして、そのひ
とりに『行け。』と言えば行きますし、別の者に『来い。』と言えば来ます。
また、しもべに『これをせよ。』と言えば、そのとおりにいたします。」9こ
れを聞いて、イエスは驚かれ、ついて来ていた群衆のほうに向いて言われた。
「あなたがたに言いますが、このようなりっぱな信仰は、イスラエルの中にも
見たことがありません。」10使いに来た人たちが家に帰ってみると、しもべは
よくなっていた。
11それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちと大ぜ
いの人の群れがいっしょに行った。12イエスが町の門に近づかれると、やもめ
となった母親のひとり息子が、死んでかつぎ出されたところであった。町の人
たちが大ぜいその母親につき添っていた。13主はその母親を見てかわいそうに
思い、「泣かなくてもよい。」と言われた。14そして近寄って棺に手をかけら
れると、かついでいた人たちが立ち止まったので、「青年よ。あなたに言う、

起きなさい。」と言われた。 15 すると、その死人が起き上がって、ものを言い
始めたので、イエスは彼を母親に返された。 16 人々は恐れを抱き、「大預言者
が私たちのうちに現われた。」とか、「神がその民を顧みてくださった。」な
どと言って、神をあがめた。 17 イエスについてこの話がユダヤ全土と回りの地
方一帯に広まった。
18 さて、ヨハネの弟子たちは、これらのことをすべてヨハネに報告した。
19 すると、ヨハネは、弟子の中からふたりを呼び寄せて、主のもとに送り、
「おいでになるはずの方は、あなたですか。それとも、私たちはほかの方を待
つべきでしょうか。」と言わせた。 20 ふたりはみもとに来て言った。「バプテ
スマのヨハネから遣わされてまいりました。『おいでになるはずの方は、あな
たですか。それとも私たちはなおほかの方を待つべきでしょうか。』とヨハネ
が申しております。」 21 ちょうどそのころ、イエスは、多くの人々を病気と苦
しみと悪霊からいやし、また多くの盲人を見えるようにされた。 22 そして、答
えてこう言われた。「あなたがたは行って、自分たちの見たり聞いたりしたこ
とをヨハネに報告しなさい。盲人が見えるようになり、足なえが歩き、らい病
人がきよめられ、つんぼの人が聞こえ、死人が生き返り、貧しい者に福音が宣
べ伝えられています。 23 だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」
24 ヨハネの使いが帰ってから、イエスは群衆に、ヨハネについて話しだされ
た。「あなたがたは、何を見に荒野に出て行ったのですか。風に揺れる葦です
か。 25 でなかったら、何を見に行ったのですか。柔らかい着物を着た人です
か。きらびやかな着物を着て、ぜいたくに暮らしている人たちなら宮殿にいま
す。 26 でなかったら、何を見に行ったのですか。預言者ですか。そのとおり。
だが、わたしが言いましょう。預言者よりもすぐれた者をです。 27 その人こ
そ、
『見よ、わたしは使いをあなたの前に遣わし、
あなたの道を、あなたの前に備えさせよう。』
と書かれているその人です。 28 あなたがたに言いますが、女から生まれた
者の中で、ヨハネよりもすぐれた人は、ひとりもいません。しかし、神の国
で一番小さい者でも、彼よりすぐれています。 29 ヨハネの教えを聞いたすべ
ての民は、取税人たちさえ、ヨハネのバプテスマを受けて、神の正しいこと
を認めたのです。 30 これに反して、パリサイ人、律法の専門家たちは、彼か
らバプテスマを受けないで、神の自分たちに対するみこころを拒みました。
31 では、この時代の人々は、何にたとえたらよいでしょう。何に似ているで
しょう。 32 市場にすわって、互いに呼びかけながら、こう言っている子ども
たちに似ています。
『笛を吹いてやっても、君たちは踊らなかった。
弔いの歌を歌ってやっても、泣かなかった。』
33 というわけは、バプテスマのヨハネが来て、パンも食べず、ぶどう酒も
飲まずにいると、『あれは悪霊につかれている。』とあなたがたは言うし、
34 人の子が来て、食べもし、飲みもすると、『あれ見よ。食いしんぼうの大
酒飲み、取税人や罪人の仲間だ。』と言うのです。 35 だが、知恵の正しいこ
とは、そのすべての子どもたちが証明します。」
36 さて、あるパリサイ人が、いっしょに食事をしたい、とイエスを招いたの
で、そのパリサイ人の家にはいって食卓に着かれた。 37 すると、その町にひ
とりの罪深い女がいて、イエスがパリサイ人の家で食卓に着いておられること
を知り、香油のはいった石膏のつぼを持って来て、 38 泣きながら、イエスの う
しろで御足のそばに立ち、涙で御足をぬらし始め、髪の毛でぬぐい、御足に口
づけして、香油を塗った。 39 イエスを招いたパリサイ人は、これを見て、「こ
の方がもし預言者なら、自分にさわっている女がだれで、どんな女であるか知
っておられるはずだ。この女は罪深い者なのだから。」と心ひそかに思ってい
た。 40 するとイエスは、彼に向かって、「シモン。あなたに言いたいことがあ
ります。」と言われた。シモンは、「先生。お話しください。」と言った。
41 「ある金貸しから、ふたりの者が金を借りていた。ひとりは五百デナリ、
ほかのひとりは五十デナリ借りていた。 42 彼らは返すことができなかったの
で、金貸しはふたりとも赦してやった。
では、ふたりのうちどちらがよけいに金貸しを愛するようになるでしょう
か。」 43 シモンが、「よけいに赦してもらったほうだと思います。」と答え
ると、イエスは、「あなたの判断は当たっています。」と言われた。 44 そし
てその女のほうを向いて、シモンに言われた。「この女を見ましたか。わた
しがこの家にはいって来たとき、あなたは足を洗う水をくれなかったが、こ
の女は、涙でわたしの足をぬらし、髪の毛でぬぐってくれました。 45 あなた
は、口づけしてくれなかったが、この女は、わたしがはいって来たときから

足に口づけしてやめませんでした。 46 あなたは、わたしの頭に油を塗って
くれなかったが、この女は、わたしの足に香油を塗ってくれました。 47 だか
ら、わたしは言うのです。『この女の多くの罪は赦されています。というの
は、彼女はよけい愛したからです。しかし少ししか赦されない者は、少しし
か愛しません。』」 48 そして女に、「あなたの罪は赦されています。」と言
われた。 49 すると、いっしょに食卓にいた人たちは、心の中でこう言い始め
た。「罪を赦したりするこの人は、いったいだれだろう。」 50 しかし、イエ
スは女に言われた。「あなたの信仰が、あなたを救ったのです。安心して行
きなさい。」

8

1 その後、イエスは、神の国を説き、その福音を宣べ伝えながら、町や村を
次から次に旅をしておられた。十二弟子もお供をした。 2 また、悪霊や病気を
直していただいた女たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグ
ダラの女と呼ばれるマリヤ、 3 ヘロデの執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナ、
そのほか自分の財産をもって彼らに仕えている大ぜいの女たちもいっしょであ
った。
4 さて、大ぜいの人の群れが集まり、また方々の町からも人々がみもとにや
って来たので、イエスはたとえを用いて話された。
5 「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。蒔いているとき、道ばたに落ちた種が
あった。すると、人に踏みつけられ、空の鳥がそれを食べてしまった。 6 ま
た、別の種は岩の上に落ち、生え出たが、水分がなかったので、枯れてしま
った。 7 また、別の種はいばらの真中に落ちた。ところが、いばらもいっし
ょに生え出て、それを押しふさいでしまった。 8 また、別の種は良い地に落
ち、生え出て、百倍の実を結んだ。」
イエスは、これらのことを話しながら「聞く耳のある者は聞きなさい。」と
叫ばれた。
9 さて、弟子たちは、このたとえがどんな意味かをイエスに尋ねた。 10 そこで
イエスは言われた。「あなたがたに、神の国の奥義を知ることが許されている
が、ほかの者には、たとえで話します。彼らが見ていても見えず、聞いていて
も悟らないためです。 11 このたとえの意味はこうです。種は神のことばです。
12 道ばたに落ちるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞いたが、あ
とから悪魔が来て、彼らが信じて救われることのないように、その人たちの心
から、みことばを持ち去ってしまうのです。 13 岩の上に落ちるとは、こういう
人たちのことです。聞いたときには喜んでみことばを受け入れるが、根がない
ので、しばらくは信じていても、試練のときになると、身を引いてしまうので
す。 14 いばらの中に落ちるとは、こういう人たちのことです。みことばを聞き
はしたが、とかくしているうちに、この世の心づかいや、富や、快楽によって
ふさがれて、実が熟するまでにならないのです。 15 しかし、良い地に落ちると
は、こういう人たちのことです。正しい、良い心でみことばを聞くと、それを
しっかりと守り、よく耐えて、実を結ばせるのです。
16 あかりをつけてから、それを器で隠したり、寝台の下に置いたりする者は
ありません。燭台の上に置きます。はいって来る人々に、その光が見えるため
です。 17 隠れているもので、あらわにならぬものはなく、秘密にされている
もので、知られず、また現われないものはありません。 18 だから、聞き方に注意
しなさい。というのは、持っている人は、さらに与えられ、持たない人は、持
っていると思っているものまでも取り上げられるからです。」
19 イエスのところに母と兄弟たちが来たが、群衆のためにそばへ近寄れなか
った。 20 それでイエスに、「あなたのおかあさんと兄弟たちが、あなたに会お
うとして、外に立っています。」という知らせがあった。 21 ところが、イエス
は人々にこう答えられた。「わたしの母、わたしの兄弟たちとは、神のことば
を聞いて行なう人たちです。」
22 そのころのある日のこと、イエスは弟子たちといっしょに舟に乗り、「さ
あ、湖の向こう岸へ渡ろう。」と言われた。それで弟子たちは舟を出した。
23 舟で渡っている間にイエスはぐっすり眠ってしまわれた。ところが突風が湖
に吹きおろして来たので、弟子たちは水をかぶって危険になった。 24 そこで、
彼らは近寄って行ってイエスを起こし、「先生、先生。私たちはおぼれて死に
そうです。」と言った。イエスは、起き上がって、風と荒波とをしかりつけら
れた。すると風も波も治まり、なぎになった。 25 イエスは彼らに、「あなたが
たの信仰はどこにあるのです。」と言われた。弟子たちは驚き恐れて互いに言
った。「風も水も、お命じになれば従うとは、いったいこの方はどういう方な
のだろう。」

26 こうして彼らは、ガリラヤの向こう側のゲラサ人の地方に着いた。 27 イエ
スが陸に上がられると、この町の者で悪霊につかれている男がイエスに出会っ
た。彼は、長い間着物も着けず、家には住まないで、墓場に住んでいた。 28 彼
はイエスを見ると、叫び声をあげ、御前にひれ伏して大声で言った。「いと高
きき神の子、イエスさま。いったい私に何をしようというのです。お願いです。
どうか私を苦しめないでください。」 29 それは、イエスが、汚れた霊に、この
人から出て行け、と命じられたからである。汚れた霊が何回となくこの人を捕
え たので、彼は鎖や足かせでつながれて看視されていたが、それでもそれらを
断ち切っては悪霊によって荒野に追いやられていたのである。 30 イエスが、
「何という名か。」とお尋ねになると、「レギオンです。」と答えた。悪霊が
大ぜい彼にはいっていたからである。 31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所にり
行け、とはお命じになりませんようにと願った。 32 ちょうど、山のそのあたり
に、おびただしい豚の群れが飼ってあったので、悪霊どもは、その豚にはいる
ことを許してくださいと願った。イエスはそれを許された。 33 悪霊どもは、そて
の人から出て、豚にはいった。すると、豚の群れはいきなりがけを駆け下って
湖にはいり、おぼれ死んだ。 34 飼っていた者たちは、この出来事を見て逃げ出
し、町や村々でこの事を告げ知らせた。 35 人々が、この出来事を見に来て、イ
エスのそばに来たところ、イエスの足もとに、悪霊の去った男が着物を着て、
正気に返って、すわっていた。人々は恐ろしくなった。 36 目撃者たちは、悪霊
につかれていた人の救われた次第を、その人々に知らせた。 37 ゲラサ地方の民
衆はみな、すっかりおびえてしまい、イエスに自分たちのところから離れて い
ただきたいと願った。そこで、イエスは舟に乗って帰られた。 38 そのとき、悪
霊を追い出された人が、お供をしたいとしきりに願ったが、イエスはこう言っく
て彼を帰された。 39 「家に帰って、神があなたにどんなに大きなことをして
ださったかを、話して聞かせなさい。」そこで彼は出て行って、イエスが自分
にどんなに大きなことをしてくださったかを、町中に言い広めた。
40 さて、イエスが帰られると、群衆は喜んで迎えた。みなイエスを待ちわび
ていたからである。 41 するとそこに、ヤイロという人が来た。この人は会堂管
理者であった。彼はイエスの足もとにひれ伏して自分の家に来ていただきたい
と願った。 42 彼には十二歳ぐらいのひとり娘がいて、死にかけていたのであ
る。イエスがお出かけになると、群衆がみもとに押し迫って来た。
43 ときに、十二年の間長血をわずらった女がいた。だれにも直してもらえな
かったこの女は、 44 イエスのうしろに近寄って、イエスの着物のふさにさわ
った。すると、たちどころに出血が止まった。 45 イエスは、「わたしにさわっ
たのは、だれですか。」と言われた。みな自分ではないと言ったので、ペテロ
は、「先生。この大ぜいの人が、ひしめき合って押しているのです。」と言っ
た。 46 しかし、イエスは、「だれかが、わたしにさわったのです。わたしから
力が出て行くのを感じたのだから。」と言われた。 47 女は、隠しきれないと知
って、震えながら進み出て、御前にひれ伏し、すべての民の前で、イエスにさ
わったわけと、たちどころにいやされた次第とを話した。 48 そこで、イエスは
彼女に言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを直したのです。安心して行
きなさい。」
49 イエスがまだ話しておられるときに、会堂管理者の家から人が来て言っ
た。「あなたのお嬢さんはなくなりました。もう、先生を煩わすことはありま
せん。」 50 これを聞いて、イエスは答えられた。「恐れないで、ただ信じなさ
い。そうすれば、娘は直ります。」 51 イエスは家にはいられたが、ペテロとヨ
ハネとヤコブ、それに子どもの父と母のほかは、だれもいっしょにはいること
をお許しにならなかった。 52 人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。しか
し、イエスは言われた。「泣かなくてもよい。死んだのではない。眠っているの
です。」 53 人々は、娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑って
いた。 54 しかしイエスは、娘の手を取って、叫んで言われた。「子どもよ。起
きなさい。」 55 すると、娘の霊が戻って、娘はただちに起き上がった。それで
イエスは、娘に食事をさせるように言いつけられた。 56 両親がひどく驚いて
いると、イエスは、この出来事をだれにも話さないように命じられた。

9

1 イエスは、十二人を呼び集めて、彼らに、すべての悪霊を追い出し、病気を
直すための、力と権威とをお授けになった。 2 それから、神の国を宣べ伝え、
病気を直すために、彼らを遣わされた。 3 イエスは、こう言われた。「旅のた
めに何も持って行かないようにしなさい。杖も、袋も、パンも、金も。また下
着も、二枚は、いりません。 4 どんな家にはいっても、そこにとどまり、そこ
から次の旅に出かけなさい。 5 人々があなたがたを受け入れないばあいは、そ

の町を出て行くときに、彼らに対する証言として、足のちりを払い落としなさ
い。」 6 十二人は出かけて行って、村から村へと回りながら、至る所で福音を
宣べ伝え、病気を直した。
7 さて、国主ヘロデは、このすべての出来事を聞いて、ひどく当惑していた。
それは、ある人々が、「ヨハネが死人の中からよみがえったのだ。」と言い、
8 ほかの人々は、「エリヤが現われたのだ。」と言い、さらに別の人々は、「昔
の預言者のひとりがよみがえったのだ。」と言っていたからである。 9 ヘロデ
は言った。「ヨハネなら、私が首をはねたのだ。そうしたことがうわさされて
いるこの人は、いったいだれなのだろう。」ヘロデはイエスに会ってみよう
とした。
10 さて、使徒たちは帰って来て、自分たちのして来たことを報告した。それ
からイエスは彼らを連れてベツサイダという町へひそかに退かれた。 11 とこら
ろが、多くの群衆がこれを知って、ついて来た。それで、イエスは喜んで彼ら
を迎え、神の国のことを話し、また、いやしの必要な人たちをおいやしになっ
た。 12 そのうち、日も暮れ始めたので、十二人はみもとに来て、「この群衆を
解散させてください。そして回りの村や部落にやって、宿をとらせ、何か食べ
ることができるようにさせてください。私たちは、こんな人里離れた所にいる
のですから。」と言った。 13 しかしイエスは、彼らに言われた。「あなたがた
で、何か食べる物を上げなさい。」彼らは言った。「私たちには五つのパンと
二匹の魚のほか何もありません。私たちが出かけて行って、この民全体のため
に食物を買うのでしょうか。」 14 それは、男だけでおよそ五千人もいたから
である。しかしイエスは、弟子たちに言われた。「人々を、五十人ぐらいずつ
組にしてすわらせなさい。」 15 弟子たちは、そのようにして、全部をすわらせ
た。 16 するとイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて、それ
を祝福して裂き、群衆に配るように弟子たちに与えられた。 17 人々はみな、食
べて満腹した。そして、余ったパン切れを取り集めると、十二かごあった。
18 さて、イエスがひとりで祈っておられたとき、弟子たちがいっしょにい
た。イエスは彼らに尋ねて言われた。「群衆はわたしのことをだれだと言って
いますか。」 19 彼らは、答えて言った。「バプテスマのヨハネだと言っていま
す。ある者はエリヤだと言い、またほかの人々は、昔の預言者のひとりが生き
返ったのだとも言っています。」 20 イエスは、彼らに言われた。「では、あな
たがたは、わたしをだれだと言いますか。」ペテロが答えて言った。「神のキ
リストです。」 21 するとイエスは、このことをだれにも話さないように、彼
らを戒めて命じられた。 22 そして言われた。「人の子は、必ず多くの苦しみを
受け、長老、祭司長、律法学者たちに捨てられ、殺され、そして三日目によみ
がえらねばならないのです。」 23 イエスは、みな者に言われた。「だれでも
わたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そ
してわたしについて来なさい。 24 自分のいのちを救おうと思う者は、それを失
い、わたしのために自分のいのちを失う者は、それを救うのです。 25 人は、た
とい全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら、何の得がありましょ
う。 26 もしだれでも、わたしとわたしのことばとを恥と思うなら、人の子も、
自分と父と聖なる御使いとの栄光を帯びて来るときには、そのようなこと人を
恥とします。 27 しかし、わたしは真実をあなたがたに告げます。ここに立っ
ている人々の中には、神の国を見るまでは、決して死を味わわない者たちがい
ます。」
28 これらの教えがあってから八日ほどして、イエスは、ペテロとヨハネとヤ
コブとを連れて、祈るために、山に登られた。 29 祈っておられると、御顔の様
子が変わり、御衣は白く光り輝いた。 30 しかも、ふたりの人がイエスと話し合
っているではないか。それはモーセとエリヤであって、 31 栄光のうちに現わ
れて、イエスがエルサレムで遂げようとしておられるご最期についていっしょ
に話していたのである。 32 ペテロと仲間たちは、眠くてたまらなかったが、は
っきり目がさめると、イエスの栄光と、イエスといっしょに立っているふたり
の人を見た。 33 それから、ふたりがイエスと別れようとしたとき、ペテロがイ
エスに言った。「先生。ここにいることは、すばらしいことです。私たちが三
つの幕屋を造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのた
めに一つ。」ペテロは何を言うべきかを知らなかったのである。 34 彼がこう言
っているうちに、雲がわき起こってその人々をおおった。彼らが雲に包まれる
と、弟子たちは恐ろしくなった。 35 すると雲の中から、「これは、わたしの愛
する子、わたしの選んだ者である。彼の言うことを聞きなさい。」と言う声が
した。 36 この声がしたとき、そこに見えたのはイエスだけであった。彼らは沈
黙を守り、その当時は、自分たちの見たことをいっさい、だれにも話さな
かった。

37 次の日、一行が山から降りて来ると、大ぜいの人の群れがイエスを迎え
た。 38 すると、群衆の中から、ひとりの人が叫んで言った。「先生。お願いで
す。息子を見てやってください。ひとり息子です。 39 ご覧ください。霊がこ
の子に取りつきますと、突然叫び出すのです。そしてひきつけさせてあわを吹
かせ、かき裂いて、なかなか離れようとしません。 40 お弟子たちに、この霊を
追い出してくださるようお願いしたのですが、お弟子たちにはできませんでし
た。」 41 イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰な、曲がった今の世だ。い
つまで、あなたがたといっしょにいて、あなたがたにがまんしていなければな
らないのでしょう。あなたの子をここに連れて来なさい。」 42 その子が近づい
て来る間にも、悪霊は彼を打ち倒して、激しくひきつけさせてしまった。それ
で、イエスは汚れた霊をしかって、その子をいやし、父親に渡された。 43 人々
はみな、神のご威光に驚嘆した。
イエスのなさったすべてのことに、人々がみな驚いていると、イエスは弟子
たちにこう言われた。 44 「このことばを、しっかりと耳に入れておきなさい。
人の子は、いまに人々の手に渡されます。」 45 しかし、弟子たちは、このみこ
とばが理解できなかった。このみことばの意味は、わからないように、彼らか
らは隠されていたのである。また彼らは、このみことばについてイエスに尋ね
るのを恐れた。
46 さて、弟子たちの間に、自分たちの中で、だれが一番偉いかという議論が
持ち上がった。 47 しかしイエスは、彼らの心の中の考えを知っておられて、ひ
とりの子どもの手を取り、自分のそばに立たせ、 48 彼らに言われた。「だれで
も、このような子どもを、わたしの名のゆえに受け入れる者は、わたしを受け
入れる者です。また、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わされた方を受け
入れる者です。あなたがたすべての中で一番小さい者が一番偉いのです。」
49 ヨハネが答えて言った。「先生。私たちは、先生の名を唱えて悪霊を追い
出している者を見ましたが、やめさせました。私たちの仲間ではないので、や
めさせたのです。」 50 しかしイエスは、彼に言われた。「やめさせることはあ
りません。あなたがたに反対しない者は、あなたがたの味方です。」
51 さて、天に上げられる日が近づいて来たころ、イエスは、エルサレムに行
こうとして御顔をまっすぐ向けられ、 52 ご自分の前に使いを出された。彼らは
行って、サマリヤ人の町にはいり、イエスのために準備した。 53 しかし、イエ
スは御顔をエルサレムに向けて進んでおられたので、サマリヤ人はイエスを受
け入れなかった。 54 弟子のヤコブとヨハネが、これを見て言った。「主よ。私
たちが天から火を呼び下して、彼らを焼き滅ぼしましょうか。」 55 しかし、イ
エスは振り向いて、彼らを戒められた。 56 そして一行は別の村に行った。
57 さて、彼らが道を進んで行くと、ある人がイエスに言った。「私はあなた
のおいでになる所なら、どこにでもついて行きます。」 58 すると、イエスは彼
に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所
もありません。」 59 イエスは別の人に、こう言われた。「わたしについて来な
さい。」しかしその人は言った。「まず行って、私の父を葬ることを許してく
ださい。」 60 すると彼に言われた。「死人たちに彼らの中の死人たちを葬らせ
なさい。あなたは出て行って、神の国を言い広めなさい。」 61 別の人はこう言
った。「主よ。あなたに従います。ただその前に、家の者にいとまごいに帰ら
せてください。」 62 するとイエスは彼に言われた。「だれでも、手を鋤につけ
てから、うしろを見る者は、神の国にふさわしくありません。」

10

1 その後、主は、別に七十人を定め、ご自分が行くつもりのすべての町や村
へ、ふたりずつ先にお遣わしになった。 2 そして、彼らに言われた。「実りは
多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、収穫のために働き手を送って
くださるように祈りなさい。 3 さあ、行きなさい。いいですか。わたしがあな
たがたを遣わすのは、狼の中に小羊を送り出すようなものです。 4 財布も旅行
袋も持たず、くつもはかずに行きなさい。だれにも、道であいさつしてはいけ
ません。 5 どんな家にはいっても、まず、『この家に平安があるように。』と
言いなさい。 6 もしそこに平安の子がいたら、あなたがたの祈った平安は、そ
の人の上にとどまります。だが、もしいないなら、その平安はあなたがたに返
って来ます。 7 その家に泊まっていて、出してくれる物を飲み食いしなさい。
働く者が報酬を受けるのは、当然だからです。家から家へと渡り歩いてはいけ
ません。 8 どの町にはいっても、あなたがたを受け入れてくれたら、出される
物を食べなさい。 9 そして、その町の病人を直し、彼らに、『神の国が、あな
たがたに近づいた。』と言いなさい。 10 しかし、町にはいっても、人々があな
たがたを受け入れないならば、大通りに出て、こう言いなさい。 11 『私たちは

足についたこの町のちりも、あなたがたにぬぐい捨てて行きます。しかし、神
の国が近づいたことは承知していなさい。』 12 あなたがたに言うが、その日
には、その町よりもソドムのほうがまだ罰が軽いのです。 13 ああコラジン。あ
あベツサイダ。おまえたちの間に起こった力あるわざが、もしもツロとシドン
でなされたのだったら、彼らはとうの昔に荒布をまとい、灰の中にすわって、
悔い改めていただろう。 14 しかし、さばきの日には、そのツロとシドンのほう
が、まだおまえたちより罰が軽いのだ。 15 カペナウム。どうしておまえが天に
上げられることがありえよう。ハデスにまで落とされるのだ。 16 あなたがたに
耳を傾ける者は、わたしに耳を傾ける者であり、あなたがたを拒む者は、わた
しを拒む者です。わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒む者です。」

17 さて、七十人が喜んで帰って来て、こう言った。「主よ。あなたの御名を
使うと、悪霊どもでさえ、私たちに服従します。」 18 イエスは言われた。「わ
たしが見ていると、サタンが、いなずまのように天から落ちました。 19 確か
に、わたしは、あなたがたに、蛇やさそりを踏みつけ、敵のあらゆる力に打ち
勝つ権威を授けたのです。だから、あなたがたに害を加えるものは何一つあり
ません。 20 だがしかし、悪霊どもがあなたがたに服従するからといって、喜ん
ではなりません。ただあなたがたの名が天に書きしるされていることを喜びな
さい。」

21 ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。
「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い
者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。そうで
す、父よ。これがみこころにかなったことでした。 22 すべてのものが、わたし
の父から、わたしに渡されています。それで、子がだれであるかは、父のほか
には知る者がありません。また父がだれであるかは、子と、子が父を知らせよ
うと心に定めた人たちのほかは、だれも知る者がありません。」 23 それからイ
エスは、弟子たちのほうに向いて、ひそかに言われた。「あなたがたの見てい
るこことを見る目は幸いです。 24 あなたがたに言いますが、多くの預言者や王
たちがあなたがたの見ていることを見たいと願ったのに、見られなかったので
す。また、あなたがたの聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けなかっ
たのです。」

25 すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言っ
た。「先生。何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができる
でしょうか。」 26 イエスは言われた。「律法には、何と書いてありますか。
あなたはどう読んでいますか。」 27 すると彼は答えて言った。「『心を尽く
し、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛
せよ。』また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』とあります。」
28 イエスは言われた。「そのとおりです。それを実行しなさい。そうすれば、
いのちを得ます。」 29 しかし彼は、自分の正しさを示そうとしてイエスに言
った。「では、私の隣人とは、だれのことですか。」 30 イエスは答えて言われ
た。

「ある人が、エルサレムからエリコへ下る道で、強盗に襲われた。強盗ど
もは、その人の着物をはぎ取り、なぐりつけ、半殺しにして逃げて行った。
31 たまたま、祭司がひとり、その道を下って来たが、彼を見ると、反対側を
通り過ぎて行った。 32 同じようにレビ人も、その場所に来て彼を見ると、反
対側を通り過ぎて行った。 33 ところが、あるサマリヤ人が、旅の途中、そこ
に来合わせ、彼を見てかわいそうに思い、 34 近寄って傷にオリーブ油とぶど
う酒を注いで、ほうたいをし、自分の家畜に乗せて宿屋に連れて行き、介抱
してやった。 35 次の日、彼はデナリ二つを取り出し、宿屋の主人に渡して言
った。『介抱してあげてください。もっと費用がかかったら、私が帰りに払
います。』

36 この三人の中でだれが、強盗に襲われた者の隣人になったと思いますか。」 37 彼は言った。「その人にあわれみをかけてやった人です。」すると
イエスは言われた。「あなたも行って同じようにしなさい。」

38 さて、彼らが旅を続けているうち、イエスがある村にはいられると、マル
タという女が喜んで家にお迎えした。 39 彼女にマリヤという妹がいたが、主
の足もとにすわって、みことばに聞き入っていた。 40 ところが、マルタは、い
ろいろともてなしのために気が落ち着かず、みもとに来て言った。「主よ。妹
が私だけにおもてなしをさせているのを、何ともお思いにならないのでしょう
か。私の手伝いをするように、妹におっしゃってください。」 41 主は答えて言
われた。「マルタ、マルタ。あなたは、いろいろなことを心配して、気を使っ
ています。 42 しかし、どうしても必要なことはわずかです。いや、一つだけで

す。マリヤはその良いほうを選んだのです。彼女からそれを取り上げてはいけません。」

11

1 さて、イエスはある所で祈っておられた。その祈りが終わると、弟子のひとりが、イエスに言った。「主よ。ヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください。」 2 そこでイエスは、彼らに言われた。「祈るときには、こう言いなさい。
『父よ。御名があがめられますように。
御国が来ますように。
3 私たちの日ごとの糧を毎日お与えください。
4 私たちの罪をお赦しください。私たちも私たちに負いめのある者をみな赦します。
私たちを試みに会わせないでください。』」

5 また、イエスはこう言われた。「あなたがたのうち、だれかに友だちがいるとして、真夜中にその人のところに行き、『君。パンを三つ貸してくれ。 6 友人が旅の途中、私のうちへ来たのだが、出してやるものがないのだ。』と言ったとします。 7 すると、彼は家の中からこう答えます。『めんどうをかけないでくれ。もう戸締まりもしてしまったし、子どもたちも私も寝ている。起きて、何かをやることはできない。』 8 あなたがたに言いますが、彼は友だちだからということで起きて何かを与えることはしないにしても、あくまで頼み続けるなら、そのためには起き上がって、必要な物を与えるでしょう。 9 わたしは、あなたがたに言います。求めなさい。そうすれば与えられます。捜しなさい。そうすれば見つかります。たたきなさい。そうすれば開かれます。 10 だれであっても、求める者は受け、捜す者は見つけ出し、たたく者には開かれます。 11 あなたがたの中で、子どもが魚を下さいと言うときに、魚の代わりに蛇を与えるような父親が、いったいいるでしょうか。 12 卵を下さいと言うのに、だれが、さそりを与えるでしょう。 13 してみると、あなたがたも、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、天の父が、求める人たちに、どうして聖霊を下さらないことがありましょう。」

14 イエスは悪霊、それもおしの悪霊を追い出しておられた。悪霊が出て行くと、おしがものを言い始めたので、群衆は驚いた。 15 しかし、彼らのうちには、「悪霊どものかしらベルゼブルによって、悪霊どもを追い出しているのだ。」と言う者もいた。 16 また、イエスをためそうとして、彼に天からのしるしを求める者もいた。 17 しかし、イエスは、彼らの心を見抜いて言われた。「どんな国でも、内輪もめしたら荒れすたれ、家にしても、内輪で争えばつぶれます。 18 サタンも、もし仲間割れしたのだったら、どうしてサタンの国が立ちち行くことができましょう。それなのにあなたがたは、わたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出していると言います。 19 もしもわたしが、ベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているのなら、あなたがたの仲間は、だれによって追い出すのですか。だから、あなたがたの仲間が、あなたがたをさばく人となるのです。 20 しかし、わたしが、神の指によって悪霊どもを追い出しているのなら、神の国はあなたがたに来ているのです。 21 強い人が十分に武装して自分の家を守っているときには、その持ち物は安全です。 22 しかし、もっと強い者が襲って来て彼に打ち勝つと、彼の頼みにしていた武具を奪い、分捕り品を分けます。 23 わたしの味方でない者はわたしに逆らう者であり、わたしと共に集めない者は散らす者です。 24 汚れた霊が人から出て行って、水のない所をさまよいながら、休み場を捜します。一つも見つからないので、『出て来た自分の家に帰ろう。』と言います。 25 帰って見ると、家は、掃除をしてきちんとかたづいていました。 26 そこで、出かけて行って、自分よりも悪いほかの霊を七つ連れて来て、みなはいり込んでそこに住みつくのです。そうなると、その人の後の状態は、初めよりもさらに悪くなります。」

27 イエスが、これらのことを話しておられると、群衆の中から、ひとりの女が声を張り上げてイエスに言った。「あなたを産んだ腹、あなたが吸った乳房は幸いです。」 28 しかし、イエスは言われた。「いや、幸いなのは、神のことばを聞いてそれを守る人たちです。」

29 さて、群衆の数がふえて来ると、イエスは話し始められた。「この時代は悪い時代です。しるしを求めているが、ヨナのしるしのほかには、しるしは与えられません。 30 というのは、ヨナがニネベの人々のために、しるしとなったように、人の子がこの時代のために、しるしとなるからです。 31 南の女王

が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、彼らを罪に定めます。
なぜなら、彼女はソロモンの知恵を聞くために地の果てから来たからです。しかし、見なさい。ここにソロモンよりもまさった者がいるのです。 32 ニネベの人々が、さばきのときに、この時代の人々とともに立って、この人々を罪に定めます。なぜなら、ニネベの人々はヨナの説教で悔い改めたからです。しかし、見なさい。ここにヨナよりもまさった者がいるのです。
33 だれも、あかりをつけてから、それを穴倉や、枡の下に置く者はいません。燭台の上に置きます。はいって来る人々に、その光が見えるためです。
34 からだのあかりは、あなたの目です。目が健全なら、あなたの全身も明るいが、しかし、目が悪いと、からだも暗くなります。 35 だから、あなたのうちの光が、暗やみにならないように、気をつけなさい。 36 もし、あなたの全身が明るくて何の暗い部分もないなら、その全身はちょうどあかりが輝いて、あなたを照らすときのように明るく輝きます。」
37 イエスが話し終えられると、ひとりのパリサイ人が、食事をいっしょにしてください、とお願いした。そこでイエスは家にはいって、食卓に着かれた。
38 そのパリサイ人は、イエスが食事の前に、まずきよめの洗いをなさらないのを見て、驚いた。 39 すると、主は言われた。「なるほど、あなたがたパリサイ人は、杯や大皿の外側はきよめるが、その内側は、強奪と邪悪とでいっぱいです。 40 愚かな人たち。外側を造られた方は、内側も造られたのではありませんか。 41 とにかく、うちのものを施しに用いなさい。そうすれば、いっさいが、あなたがたにとってきよいものとなります。
42 だが、忌まわしいものだ。パリサイ人。あなたがたは、はっか、うん香、あらゆる野菜などの十分の一を納めているが、公義と神への愛とはなおざりにしています。これこそ、実行しなければならない事がらです。ただし他のほうも、なおざりにしてはいけません。 43 忌まわしいものだ。パリサイ人。あなたがたは、会堂の上席や、市場であいさつされることが好きです。 44 忌まわしいことだ。あなたがたは、人目につかぬ墓のようで、その上を歩く人々も気がつかない。」
45 すると、ある律法の専門家が、答えて言った。「先生。そのようなことを言われることは、私たちをも侮辱することです。」 46 しかし、イエスは言われた。「あなたがた律法の専門家たちも忌まわしいものだ。あなたがたは、人々には負いきれない荷物を負わせるが、自分は、その荷物に指一本もさわろうとはしない。 47 忌まわしいことだ。あなたがたは、預言者たちの墓を建てている。しかし、あなたがたの先祖は預言者たちを殺したのです。 48 そのようにして、あなたがたは、自分の先祖のしたことの証人となり、それを認めています。なぜなら、あなたがたの先祖が預言者たちを殺し、あなたがたがその墓を建てているからです。 49 だから、神の知恵もこう言いました。『わたしは預言者たちや使徒たちを彼らに遣わすが、彼らは、そのうちのある者を殺し、ある者を迫害する。 50 それは、アベルの血から、祭壇と神の家との間で殺されたザカリヤの血に至るまでの、世の初めから流されたすべての預言者の血の責任を、この時代が問われるためである。そうだ。わたしは言う。この時代はその責任を問われる。』 51-52 忌まわしいものだ。律法の専門家たち。あなたがたは、知識のかぎを持ち去り、自分もはいらず、はいろうとする人々をも妨げたのです。」
53 イエスがそこを出て行かれると、律法学者、パリサイ人たちのイエスに対する激しい敵対と、いろいろのことについてのしつこい質問攻めとが始まった。 54 彼らは、イエスの口から出ることに、言いがかりをつけようと、ひそかに計った。

12

1 そうこうしている間に、おびただしい数の群衆が集まって来て、互いに足を踏み合うほどになった。イエスはまず弟子たちに対して、話しだされた。「パリサイ人のパン種に気をつけなさい。それは彼らの偽善のことです。 2 おおいかぶされているもので、現わされないものはなく、隠されているもので、知られずに済むものはありません。 3 ですから、あなたがたが暗やみで言ったことが、明るみで聞かれ、家の中でささやいたことが、屋上で言い広められます。
4 そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。 5 恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。 6 五羽の雀は二アサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません。 7 それどころか、あな

たがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あ
なたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。 8 そこで、あなたがたに言
います。だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神
の御使いたちの前で認めます。 9 しかし、わたしを人の前で知らないと言う者
は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。 10 たとい、人の子をそしる
ことばを使う者があっても、赦されます。しかし、聖霊をけがす者は赦されま
せん。 11 また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れ
て行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びま
せん。 12 言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」

13 群衆の中のひとりが、「先生。私と遺産を分けるように私の兄弟に話して
ください。」と言った。 14 すると彼に言われた。「いったいだれが、わたしを
あなたがたの裁判官や調停者に任命したのですか。」 15 そして人々に言われ
た。「どんな貪欲にも注意して、よく警戒しなさい。なぜなら、いくら豊かな
人でも、その人のいのちは財産にあるのではないからです。」 16 それから人々
にたとえを話された。

「ある金持ちの畑が豊作であった。 17 そこで彼は、心の中でこう言いながら
考えた。『どうしよう。作物をたくわえておく場所がない。』 18 そして言っ
た。『こうしよう。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建て、穀物や
財産はみなそこにしまっておこう。 19 そして、自分のたましいにこう言お
う。「たましいよ。これから先何年分もいっぱい物がためられた。さあ、安
心して、食べて、飲んで、楽しめ。」』 20 しかし神は彼に言われた。『愚か
者。おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。そうしたら、おま
えが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』 21 自分のためにたく
わえても、神の前に富まない者はこのとおりです。」

22 それから弟子たちに言われた。「だから、わたしはあなたがたに言いま
す。いのちのことで何を食べようかと心配したり、からだのことで何を着よう
かと心配したりするのはやめなさい。 23 いのちは食べ物よりたいせつであり、
からだは着物よりたいせつだからです。 24 烏のことを考えてみなさい。蒔き
もせず、刈り入れもせず、納屋も倉もありません。けれども、神が彼らを養っ
ていてくださいます。あなたがたは、鳥よりも、はるかにすぐれたもので す。
25 あなたがたのうちのだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しで
も延ばすことができますか。 26 こんな小さなことさえできないで、なぜほか
のことまで心配するのですか。 27 ゆりの花のことを考えてみなさい。どうして
育つのか。紡ぎもせず、織りもしないのです。しかし、わたしはあなたがたに
言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾れ
ていませんでした。 28 しかし、きょうは野にあって、あすは炉に投げ込まれ
る草さえ、神はこのように装ってくださるのです。ましてあなたがたには、
どんなによくしてくださることでしょう。ああ、信仰の薄い人たち。 29 何を食
べたらよいか、何を飲んだらよいか、と捜し求めることをやめ、気をもむこと
をやめなさい。 30 これらはみな、この世の異邦人たちが切に求めていることです。
しかし、あなたがたの父は、それがあなたがたにも必要であると知っておら
れます。 31 何はともあれ、あなたがたは、神の国を求めなさい。そうすれば、
これらの物は、それに加えて与えられます。 32 小さな群れよ。恐れるな。あな
たがたの父である神は、喜んであなたがたに御国を与えることをお
にくださるからです。 33 持ち物を売って、施しをしなさい。自分のために、古く
なら ない財布を作り、朽ちることのない宝を天に積み上げなさい。そこには、
盗人も近寄らず、しみもいためることがありません。 34 あなたがたの宝のある
ところに、あなたがたの心もあるからです。

35 腰に帯を締め、あかりをともしていなさい。 36 主人が婚礼から帰って来て
戸をたたいたら、すぐに戸をあけようと、その帰りを待ち受けている人たちの
ようでありなさい。 37 帰って来た主人に、目をさましているところを見られる
しもべたちは幸いです。まことに、あなたがたに告げます。主人のほうが帯を
締め、そのしもべたちを食卓に着かせ、そばにいて給仕をしてくれます。 38 主
人が真夜中に帰っても、夜明けに帰っても、いつでもそのようであることを
られるなら、そのしもべたちは幸いです。 39 このことを知っておきなさい。も
しも家の主人が、どろぼうの来る時間を知っていたなら、おめおめと自分の家
に押し入られはしなかったでしょう。 40 あなたがたも用心していなさい。人の
子は、思いがけない時に来るのですから。」 41 そこで、ペテロが言った。「主
よ。このたとえは私たちのために話してくださるのですか。それともみなのた
めなのですか。」

42 主は言われた。「では、主人から、その家のしもべたちを任されて、食事
時には彼らに食べ物を与える忠実な思慮深い管理人とは、いったいだれでしょ
う。 43 主人が帰って来たときに、そのようにしているのを見られるしもべは幸
いです。 44 わたしは真実をあなたがたに告げます。主人は彼に自分の全財産を
任せるようになります。 45 ところが、もし、そのしもべが、『主人の帰りはま
だだ。』と心の中で思い、下男や下女を打ちたたき、食べたり飲んだり、酒に
酔ったりし始めると、 46 しもべの主人は、思いがけない日の思わぬ時間に帰っ
て来ます。そして、彼をきびしく罰して、不忠実な者どもと同じめに会わせる
に違いありません。 47 主人の心を知りながら、その思いどおりに用意もせず、
働きもしなかったしもべは、ひどくむち打たれます。 48 しかし、知らずにいた
ために、むち打たれるようなことをしたしもべは、打たれても、少しで済みま
す。すべて、多く与えられた者は多く求められ、多く任された者は多く要求さ
れます。
49 わたしが来たのは、地に火を投げ込むためです。だから、その火が燃えて
いたらと、どんなに願っていることでしょう。 50 しかし、わたしには受けるべ
バプテスマがあります。それが成し遂げられるまでは、どんなに苦しむことで
しょう。 51 あなたがたは、地に平和を与えるためにわたしが来たと思っていま
るのですか。そうではありません。あなたがたに言いますが、むしろ、分裂で
す。 52 今から、一家五人は、三人がふたりに、ふたりが三人に対抗して分かれ
るようになります。 53 父は息子に、息子は父に対抗し、母は娘に、娘は母に
対抗し、しゅうとめは嫁に、嫁はしゅうとめに対抗して分かれるようになりま
す。」
54 群衆にもこう言われた。「あなたがたは、西に雲が起こるのを見るとす
ぐに、『にわか雨が来るぞ。』と言い、事実そのとおりになります。 55 また南
風が吹きだすと、『暑い日になるぞ。』と言い、事実そのとおりになります。
56 偽善者たち。あなたがたは地や空の現象を見分けることを知りながら、どう
して今のこの時代を見分けることができないのですか。 57 また、なぜ自分から
進んで、何が正しいかを判断しないのですか。 58 あなたを告訴する者といっし
ょに役人の前に行くときは、途中でも、熱心に彼と和解するよう努めなさい。
そうでないと、その人はあなたを裁判官のもとにひっぱって行きます。裁判官
は執行人に引き渡し、執行人は牢に投げ込んでしまいます。 59 あなたに言い
ます。最後の一レプタを支払うまでは、そこから決して出られないのです。」

13

1 ちょうどそのとき、ある人たちがやって来て、イエスに報告した。ピラトが
ガリラヤ人たちの血をガリラヤ人たちのささげるいけにえに混ぜたというので
ある。 2 イエスは彼らに答えて言われた。「そのガリラヤ人たちがそのような
災難を受けたから、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い人たちだったとでも思
うのですか。 3 そうではない。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも
悔い改めないなら、みな同じように滅びます。 4 また、シロアムの塔が倒れ落
ちて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも罪深い人たちだ
ったとでも思うのですか。 5 そうではない。わたしはあなたがたに言います。
あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」
6 イエスはこのようなたとえを話された。
「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えておいた。実を取りに来たが、
何も見つからなかった。 7 そこで、ぶどう園の番人に言った。『見なさい。
三年もの間、やって来ては、このいちじくの実のなるのを待っているのに、
なっていたためしがない。これを切り倒してしまいなさい。何のために土地
をふさいでいるのですか。』 8 番人は答えて言った。『ご主人。どうか、こ
とし一年そのままにしてやってください。木の回りを掘って、肥やしをやっ
てみますから。 9 もしそれで来年、実を結べばよし、それでもだめなら、切
り倒してください。』」

10 イエスは安息日に、ある会堂で教えておられた。 11 すると、そこに十八年
も病の霊につかれ、腰が曲がって、全然伸ばすことのできない女がいた。 12 イ
エスは、その女を見て、呼び寄せ、「あなたの病気はいやされました。」と言
えって、 13 手を置かれると、女はたちどころに腰が伸びて、神をあがめた。 14 す
ると、それを見た会堂管理者は、イエスが安息日にいやされたのを憤って、群
衆に言った。「働いてよい日は六日です。その間に来て直してもらうがよい。
安息日には、いけないのです。」 15 しかし、主は彼に答えて言われた。「偽善
者たち。あなたがたは、安息日に、牛やろばを小屋からほどき、水を飲ませに
連れて行くではありませんか。 16 この女はアブラハムの娘なのです。それを十

八年もの間サタンが縛っていたのです。安息日だからといってこの束縛を解いてやってはいけないのですか。」 17 こう話されると、反対していた者たちはみな、恥じ入り、群衆はみな、イエスのなさったすべての輝かしいみわざを喜んだ。
18 そこで、イエスはこう言われた。「神の国は、何に似ているでしょう。何に比べたらよいでしょう。 19 それは、からし種のようなものです。それを取って庭に蒔いたところ、生長して木になり、空の鳥が枝に巣を作りました。」
20 またこう言われた。「神の国を何に比べましょう。 21 パン種のようなものです。女がパン種を取って、三サトンの粉に混ぜたところ、全体がふくれました。」
22 イエスは、町々村々を次々に教えながら通り、エルサレムへの旅を続けられた。 23 すると、「主よ。救われる者は少ないのですか。」と言う人があった。イエスは、人々に言われた。 24 「努力して狭い門からはいりなさい。なぜなら、あなたがたに言いますが、はいろうとしても、はいれなくなる人が多いのですから。 25 家の主人が、立ち上がって、戸をしめてしまってからでは、外に立って、『ご主人さま。あけてください。』と言って、戸をいくらたたいても、もう主人は、『あなたがたがどこの者か、私は知らない。』と答えるでしょう。 26 すると、あなたがたは、こう言い始めるでしょう。『私たちは、ごいっしょに、食べたり飲んだりいたしましたし、私たちの大通りで教えていただきました。』 27 だが、主人はこう言うでしょう。『私はあなたがたがどこの者だか知りません。不正を行なう者たち。みな出て行きなさい。』 28 神の国にアブラハムやイサクやヤコブや、すべての預言者たちがはいっているのに、あなたがたは外に投げ出されることになったとき、そこで泣き叫んだり、歯ぎしりしたりするのです。 29 人々は、東からも西からも、また南からも北からも来て、神の国で食卓に着きます。 30 いいですか、今しんがりの者があとで先頭になり、いま先頭の者がしんがりになるのです。」
31 ちょうどそのとき、何人かのパリサイ人が近寄って来て、イエスに言った。「ここから出てほかの所へ行きなさい。ヘロデがあなたを殺そうと思っています。」 32 イエスは言われた。「行って、あの狐にこう言いなさい。『よく見なさい。わたしは、きょうと、あすとは、悪霊どもを追い出し、病人を直し、三日目に全うされます。 33 だが、わたしは、きょうもあすも次の日も進んで行かなければなりません。なぜなら、預言者がエルサレム以外の所で死ぬことはありえないからです。』 34 ああ、エルサレム、エルサレム。預言者たちを殺し、自分に遣わされた人たちを石で打つ者、わたしは、めんどりがひなを翼の下にかばうように、あなたの子らを幾たび集めようとしたことか。それなのに、あなたがたはそれを好まなかった。 35 見なさい。あなたがたの家は荒れ果てたままに残される。わたしはあなたがたに言います。『祝福あれ。主の御名によって来られる方に。』とあなたがたの言うときが来るまでは、あなたがたは決してわたしを見ることができません。」

14

1 ある安息日に、食事をしようとして、パリサイ派のある指導者の家にはいられたとき、みんながじっとイエスを見つめていた。 2 そこには、イエスの真正面に、水腫をわずらっている人がいた。 3 イエスは、律法の専門家、パリサイ人たちに、「安息日に病気を直すことは正しいことですか、それともよくないことですか。」と言われた。 4 しかし、彼らは黙っていた。それで、イエスはその人を抱いて直してやり、そしてお帰しになった。 5 それから、彼らに言われた。「自分の息子や牛が井戸に落ちたのに、安息日だからといって、すぐに引き上げてやらない者があなたがたのうちにいるでしょうか。」 6 彼らは答えることができなかった。
7 招かれた人々が上座を選んでいる様子に気づいておられたイエスは、彼らにたとえを話された。 8 「婚礼の披露宴に招かれたときには、上座にすわってはいけません。あなたより身分の高い人が、招かれているかもしれないし、 9 あなたやその人を招いた人が来て、『この人に席を譲ってください。』とあなたに言うなら、そのときあなたは恥をかいて、末席に着かなければならないでしょう。 10 招かれるようなことがあって、行ったなら、末席に着きなさい。そうしたら、あなたを招いた人が来て、『どうぞもっと上席にお進みください。』と言うでしょう。そのときは、満座の中で面目を施すことになります。 11 なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」
12 また、イエスは、自分を招いてくれた人にも、こう話された。「昼食や夕食のふるまいをするなら、友人、兄弟、親族、近所の金持ちなどを呼んではい

けません。でないと、今度は彼らがあなたを招いて、お返しすることになるからです。 13 祝宴を催すばあいには、むしろ、貧しい人、不具の人、足なえ、盲人たちを招きなさい。 14 その人たちはお返しができないので、あなたは幸いです。義人の復活のときお返しを受けるからです。」

15 イエスといっしょに食卓に着いていた客のひとりはこれを聞いて、イエスに、「神の国で食事する人は、何と幸いなことでしょう。」と言った。 16 するとイエスはこう言われた。

「ある人が盛大な宴会を催し、大ぜいの人を招いた。 17 宴会の時刻になったのでしもべをやり、招いておいた人々に、『さあ、おいでください。もうすっかり、用意ができましたから。』と言わせた。 18 ところが、みな同じように断わり始めた。最初の人はこう言った。『畑を買ったので、どうしてもみに出かけなければなりません。すみませんが、お断わりさせていただきます。』 19 もうひとりはこう言った。『五くびきの牛を買ったので、それをためしに行くところです。すみませんが、お断わりさせていただきます。』 20 また、別の人はこう言った。『結婚したので、行くことができません。』 21 しもべは帰って、このことを主人に報告した。すると、おこった主人は、そのしもべに言った。『急いで町の大通りや路地に出て行って、貧しい人や、不具の人や、盲人や、足なえをここに連れて来なさい。』 22 しもべは言った。『ご主人さま。仰せのとおりにいたしました。でも、まだ席があります。』 23 主人は言った。『街道や垣根のところに出かけて行って、この家がいっぱいになるように、無理にでも人々を連れて来なさい。 24 言っておくが、あの招待されていた人たちの中で、私の食事を味わう者は、ひとりもいないのです。』」

25 さて、大ぜいの群衆が、イエスといっしょに歩いていたが、イエスは彼らのほうに向いて言われた。 26 「わたしのもとに来て、自分の父、母、妻、子、兄弟、姉妹、そのうえ自分のいのちまでも憎まない者は、わたしの弟子になることができません。 27 自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、わたしの弟子になることはできません。 28 塔を築こうとするとき、まずすわって、完成に十分な金があるかどうか、その費用を計算しない者が、あなたがたのうちにひとりでもあるでしょうか。 29 基礎を築いただけで完成できなかったら、見ていた人はみな彼をあざ笑って、 30 『この人は、建て始めはしたものの、完成できなかった。』と言うでしょう。 31 また、どんな王でも、ほかの王と戦いを交えようとするときは、二万人を引き連れて向かって来る敵を、一万人で迎え撃つことができるかどうかを、まずすわって、考えずにいられましょうか。 32 もし見込みがなければ、敵がまだ遠くに離れている間に、使者を送って講和を求めるでしょう。 33 そういうわけで、あなたがたはだれでも、自分の財産全部を捨てないでは、わたしの弟子になることはできません。 34 ですから、塩は良いものですが、もしその塩が塩けをなくしたら、何によってそれに味をつけるのでしょうか。 35 土地にも肥やしにも役立たず、外に投げ捨てられてしまいます。聞く耳のある人は聞きなさい。」

15

1 さて、取税人、罪人たちがみな、イエスの話を聞こうとして、みもとに近寄って来た。 2 すると、パリサイ人、律法学者たちは、つぶやいてこう言った。「この人は、罪人たちを受け入れて、食事までいっしょにする。」

3 そこでイエスは、彼らにこのようなたとえを話された。

4 「あなたがたのうちに羊を百匹持っている人がいて、そのうちの一匹をなくしたら、その人は九十九匹を野原に残して、いなくなった一匹を見つけるまで捜し歩かないでしょうか。 5 見つけたら、大喜びでその羊をかついで、 6 帰って来て、友だちや近所の人たちを呼び集め、『いなくなった羊を見つけましたから、いっしょに喜んでください。』と言うでしょう。

7 あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、悔い改める必要のない九十九人の正しい人にまさる喜びが天にあるのです。

8 また、女の人が銀貨を十枚持っていて、もしその一枚をなくしたら、あかりをつけ、家を掃いて、見つけるまで念入りに捜さないでしょうか。 9 見つけたら、友だちや近所の女たちを呼び集めて、『なくした銀貨を見つけましたから、いっしょに喜んでください。』と言うでしょう。 10 あなたがたに言いますが、それと同じように、ひとりの罪人が悔い改めるなら、神の御使いたちに喜びがわき起こるのです。」

11 またこう話された。

「ある人に息子がふたりあった。 12 弟が父に、『おとうさん。私に財産の
分け前を下さい。』と言った。それで父は、身代をふたりに分けてやった。
13 それから、幾日もたたぬうちに、弟は、何もかもまとめて遠い国に旅立っ
た。そして、そこで放蕩して湯水のように財産を使ってしまった。 14 何もか
も使い果たしたあとで、その国に大ききんが起こり、彼は食べるにも困り始
めた。 15 それで、その国のある人のもとに身を寄せたところ、その人は彼を
畑にやって、豚の世話をさせた。 16 彼は豚の食べるいなご豆で腹を満たし
たいほどであったが、だれひとり彼に与えようとはしなかった。 17 しかし、
我に返ったとき彼は、こう言った。『父のところには、パンのあり余っていそ
る雇い人が大ぜいいるではないか。それなのに、私はここで、飢え死にしそ
うだ。 18 立って、父のところに行って、こう言おう。「おとうさん。私は天な
に対して罪を犯し、またあなたの前に罪を犯しました。 19 もう私は、あ」』
たの子と呼ばれる資格はありません。雇い人のひとりにしてください。
20 こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとに行った。ところが、まだ家
まで遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼
を抱き、口づけした。 21 息子は言った。『おとうさん。私は天に対して罪を
犯し、またあなたの前に罪を犯しました。もう私は、あなたの子と呼ばれる
資格はありません。』 22 ところが父親は、しもべたちに言った。『急いで一
番良い着物を持って来て、この子に着せなさい。それから、手に指輪をはめ
させ、足にくつをはかせなさい。 23 そして肥えた子牛を引いて来てほふりな
さい。食べて祝おうではないか。 24 この息子は、死んでいたのが生き返り、
いなくなっていたのが見つかったのだから。』そして彼らは祝宴を始めた。
25 ところで、兄息子は畑にいたが、帰って来て家に近づくと、音楽や踊りの
音が聞こえて来た。それで、 26 しもべのひとりを呼んで、これはいったい
何事かと尋ねると、 27 しもべは言った。『弟さんがお帰りになったのです。
無事な姿をお迎えしたというので、おとうさんが、肥えた子牛をほふらせな
ったのです。』 28 すると、兄はおこって、家にはいろうともしなかった。
それで、父が出て来て、いろいろなだめてみた。 29 しかし兄は父にこう言っ
た。『ご覧なさい。長年の間、私はおとうさんに仕え、戒めを破ったことは
一度もありません。その私には、友だちと楽しめと言って、子山羊一匹下さい
ったことがありません。 30 それなのに、遊女におぼれてあなたの身代を食い
つぶして帰って来たこのあなたの息子のためには、肥えた子牛をほふらせない
ったのですか。』 31 父は彼に言った。『おまえはいつも私といっしょにい
る。私のものは、全部おまえのものだ。 32 だがおまえの弟は、死んでいたの
が生き返って来たのだ。いなくなっていたのが見つかったのだから、楽しん
で喜ぶのは当然ではないか。』」

16

1 イエスは、弟子たちにも、こういう話をされた。
「ある金持ちにひとりの管理人がいた。この管理人が主人の財産を乱費し
ている、という訴えが出された。 2 主人は、彼を呼んで言った。『おまえに
ついてこんなことを聞いたが、何ということをしてくれたのだ。もう管理を
任せておくことはできないから、会計の報告を出しなさい。』 3 管理人は心
の中で言った。『主人にこの管理の仕事を取り上げられるが、さてどうしよ
う。土を掘るには力がないし、こじきをするのは恥ずかしいし。 4 ああ、わか
った。こうしよう。こうしておけば、いつ管理の仕事をやめさせられても、
人がその家に私を迎えてくれるだろう。』 5 そこで彼は、主人の債務者たち
をひとりひとり呼んで、まず最初の者に、『私の主人に、いくら借りがあ
ますか。』と言うと、 6 その人は、『油百バテ。』と言った。すると彼は、
『さあ、あなたの証文だ。すぐにすわって五十と書きなさい。』と言った。
7 それから、別の人に、『さて、あなたは、いくら借りがありますか。』と言
うと、『小麦百コル。』と言った。彼は、『さあ、あなたの証文だ。八十と
書きなさい。』と言った。 8 この世の子らは、自分たちの世のことについて
は、光の子らよりも抜けめがないものなので、主人は、不正な管理人がこう
も抜けめなくやったのをほめた。
9 そこで、わたしはあなたがたに言いますが、不正の富で、自分のために友
をつくりなさい。そうしておけば、富がなくなったとき、彼らはあなたがた
を、永遠の住まいに迎えるのです。 10 小さい事に忠実な人は、大きい事にも
忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。 11 ですか
ら、あなたがたが不正の富に忠実でなかったら、だれがあなたがたに、まこ
との富を任せるでしょう。 12 また、あなたがたが他人のものに忠実でなかっ

たら、だれがあなたがたに、あなたがたのものを持たせるでしょう。 13 しもべは、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、または一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません。」
14 さて、金の好きなパリサイ人たちが、一部始終を聞いて、イエスをあざ笑っていた。 15 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、人の前で自分を正しいとする者です。しかし神は、あなたがたの心をご存じです。人間の間であがめられる者は、神の前で憎まれ、きらわれます。 16 律法と預言者はヨハネまでです。それ以来、神の国の福音は宣べ伝えられ、だれもかれも、無理にでも、これにはいろうとしています。 17 しかし律法の一画が落ちるよりも、天地の滅びるほうがやさしいのです。 18 だれでも妻を離別してほかの女と結婚する者は、姦淫を犯す者であり、また、夫から離別された女と結婚する者も、姦淫を犯す者です。
19 ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。
20 ところが、その門前にラザロという全身おできの貧乏人が寝ていて、 21 金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおできをなめていた。 22 さて、この貧乏人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。
23 その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。 24 彼は叫んで言った。『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』 25 アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しみもだえているのです。 26 そればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることもできないのです。』 27 彼は言った。『父よ。ではお願いです。ラザロを私の父の家に送ってください。 28 私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみの場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』 29 しかしアブラハムは言った。『彼らには、モーセと預言者があります。その言うことを聞くべきです。』 30 彼は言った。『いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません。』 31 アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』」

17

1 イエスは弟子たちにこう言われた。「つまずきが起こるのは避けられない。だが、つまずきを起こさせる者は、忌まわしいものです。 2 この小さい者たちのひとりに、つまずきを与えるようであったら、そんな者は石臼を首にゆわえつけられて、海に投げ込まれたほうがましです。 3 気をつけていなさい。もし兄弟が罪を犯したなら、彼を戒めなさい。そして悔い改めれば、赦しなさい。 4 かりに、あなたに対して一日に七度罪を犯しても、『悔い改めます。』と言って七度あなたのところに来るなら、赦してやりなさい。」
5 使徒たちは主に言った。「私たちの信仰を増してください。」 6 しかし主は言われた。「もしあなたがたに、からし種ほどの信仰があったなら、この桑の木に、『根こそぎ海の中に植われ。』と言えば、言いつけどおりになるのです。 7 ところで、あなたがたのだれかに、耕作か羊飼いをするしもべがいるとして、そのしもべが野らから帰って来たとき、『さあ、さあ、ここに来て、食事をしなさい。』としもべに言うでしょうか。 8 かえって、『私の食事の用意をし、帯を締めて私の食事が済むまで給仕しなさい。あとで、自分の食事をしなさい。』と言わないでしょうか。 9 しもべが言いつけられたことをしたからなといって、そのしもべに感謝するでしょうか。 10 あなたがたもそのとおりです。自分に言いつけられたことをみな、してしまったら、『私たちは役に立たないしもべです。なすべきことをしただけです。』と言いなさい。」
11 そのころイエスはエルサレムに上られる途中、サマリヤとガリラヤの境を通られた。 12 ある村にはいると、十人のらい病人がイエスに出会った。彼らは遠く離れた所に立って、 13 声を張り上げて、「イエスさま、先生。どうぞあわれんでください。」と言った。 14 イエスはこれを見て、言われた。「行きなさ

い。そして自分を祭司に見せなさい。」彼らは行く途中でいやされた。 15 そのうちのひとりは、自分のいやされたことがわかると、大声で神をほめたたえながら引き返して来て、 16 イエスの足もとにひれ伏して感謝した。彼はサマリヤ人であった。 17 そこでイエスは言われた。「十人いやされたのではないか。九人はどこにいるのか。 18 神をあがめるために戻って来た者は、この外国人のほかには、だれもいないのか。」 19 それからその人に言われた。「立ち上がって、行きなさい。あなたの信仰が、あなたを直したのです。」

20 さて、神の国はいつ来るのか、とパリサイ人たちに尋ねられたとき、イエスは答えて言われた。「神の国は、人の目で認められるようにして来るものではありません。 21 『そら、ここにある。』とか、『あそこにある。』とか言えるようなものではありません。いいですか。神の国は、あなたがたのただ中にあるのです。」

22 イエスは弟子たちに言われた。「人の子の日を一日でも見たいと願っても、見られない時が来ます。 23 人々が『こちらだ。』とか、『あちらだ。』とかが言っても行ってはなりません。あとを追いかけてはなりません。 24 いなずまが、ひらめいて、天の端から天の端へと輝くように、人の子は、人の子の日には、ちょうどそのようであるからです。 25 しかし、人の子はまず、多くの苦しみを受け、この時代に捨てられなければなりません。 26 人の子の日に起こることは、ちょうど、ノアの日に起こったことと同様です。 27 ノアが箱舟にはいるその日まで、人々は、食べたり、飲んだり、めとったり、とついだりしていたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。 28 また、ロトの時代にあったことと同様です。人々は食べたり、飲んだり、売ったり、買ったり、植えたり、建てたりしていたが、 29 ロトがソドムから出て行くと、その日に、火と硫黄が天から降って、すべての人を滅ぼしてしまいました。 30 人の子の現われる日にも、全くそのとおりです。 31 その日には、屋上にいる者は家に家財があっても、取り出しに降りてはいけません。同じように、畑にいる者も家に帰ってはいけません。 32 ロトの妻を思い出しなさい。 33 自分のいのちを救おうと努める者はそれを失い、それを失う者はいのちを保ちます。 34 あなたがたに言いますが、その夜、同じ寝台で男がふたり寝ていると、ひとりは取られ、他のひとりは残されます。 35 女がふたりいっしょに臼をひいていると、ひとりは取られ、他のひとりは残されます。」 36-37 弟子たちは答えて言った。「主よ。どこでですか。」主は言われた。「死体のある所、そこに、はげたかも集まります。」

18

1 いつでも祈るべきであり、失望してはならないことを教えるために、イエスは彼らにたとえを話された。

2 「ある町に、神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいた。 3 その町に、ひとりのやもめがいたが、彼のところにやって来ては、『私の相手をさばいて、私を守ってください。』と言っていた。 4 彼は、しばらくは取り合わないでいたが、後には心ひそかに『私は神を恐れず人を人とも思わないが、 5 どうも、このやもめは、うるさくてしかたがないから、この女のために裁判をしてやることにしよう。でないと、ひっきりなしにやって来てうるさくてしかたがない。』と言った。」 6 主は言われた。「不正な裁判官の言っていることを聞きなさい。 7 まして神は、夜昼神を呼び求めている選民のためにさばきをつけないで、いつまでもそのことを放っておかれることがあるでしょうか。 8 あなたがたに言いますが、神は、すみやかに彼らのために正しいさばきをしてくださいます。しかし、人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。」

9 自分を義人だと自任し、他の人々を見下している者たちに対しては、イエスはこのようなたとえを話された。

10 「ふたりの人が、祈るために宮に上った。ひとりはパリサイ人で、もうひとりは取税人であった。 11 パリサイ人は、立って、心の中でこんな祈りをした。『神よ。私はほかの人々のようにゆすする者、不正な者、姦淫する者ではなく、ことにこの取税人のようではないことを、感謝します。 12 私は週に二度断食し、自分の受けるものはみな、その十分の一をささげております。』 13 ところが、取税人は遠く離れて立ち、目を天に向けようともせず、自分の胸をたたいて言った。『神さま。こんな罪人の私をあわれんでください。』 14 あなたがたに言うが、この人のほうが、前の人よりも、義と認められ、家に帰って行きました。なぜなら、だれでも自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

15 イエスにさわっていただこうとして、人々がその幼子たちを、みもとに連
れて来た。ところが、弟子たちがそれを見てしかった。 16 しかしイエスは、幼
子たちを呼び寄せて、こう言われた。「子どもたちをわたしのところに来させ
なさい。止めてはいけません。神の国は、このような者たちのものです。 17 ま
ことに、あなたがたに告げます。子どものように神の国を受け入れる者でなけ
れば、決してそこに、はいることはできません。」
18 またある役人が、イエスに質問して言った。「尊い先生。私は何をした
ら、永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。」 19 イ
エスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『尊い』と言うのですか。尊い方は、
神おひとりのほかにはだれもありません。 20 戒めはあなたもよく知っている
はずです。『姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。偽
証を立ててはならない。父と母を敬え。』」 21 すると彼は言った。「そのよう
なことはみな、小さい時から守っております。」 22 イエスはこれを聞いて、そた
のの持ち物を全部売り払い、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、あな
たは天に宝を積むことになります。そのうえで、わたしについて来なさい。」
23 すると彼は、これを聞いて、非常に悲しんだ。たいへんな金持ちだったからら
である。 24 イエスは彼を見てこう言われた。「裕福な者が神の国にはいること
は、何とむずかしいことでしょう。 25 金持ちが神の国にはいるよりは、らくだ
が針の穴を通るほうがもっとやさしい。」 26 これを聞いた人々が言った。「そ
れでは、だれが救われることができるでしょう。」 27 イエスは言われた。「人
にはできないことが、神にはできるのです。」 28 すると、ペテロが言った。
「ご覧ください。私たちは自分の家を捨てて従ってまいりました。」 29 イエ
スは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。神の国のために、
家、妻、兄弟、両親、子どもを捨てた者で、だれひとりとして、 30 この世にあ
ってその幾倍かを受けない者はなく、後の世で永遠のいのちを受けない者は
ありません。」 31 さてイエスは、十二弟子をそばに呼んで、彼らに話された。
「さあ、これから、わたしたちはエルサレムに向かって行きます。人の子につ
いて預言者たちが書いているすべてのことが実現されるのです。 32 人の子は異
邦人に引き渡され、そして彼らにあざけられ、はずかしめられ、つばきをかけ
られます。 33 彼らは人の子をむちで打ってから殺します。しかし、人の子は三
日目によみがえります。」 34 しかし弟子たちには、これらのことが何一つわか
らなかった。彼らには、このことばは隠されていて、話された事が理解できな
かった。
35 イエスがエリコに近づかれたころ、ある盲人が、道ばたにすわり、物ごい
をしていた。 36 群衆が通って行くのを耳にして、これはいったい何事ですか、
と尋ねた。 37 ナザレのイエスがお通りになるのだ、と知らせると、 38 彼は大声
で、「ダビデの子のイエスさま。私をあわれんでください。」と言った。 39 彼
を黙らせようとして、先頭にいた人々がたしなめたが、盲人は、ますます「ダ
ビデの子よ。私をあわれんでください。」と叫び立てた。 40 イエスは立ち止ま
って、彼をそばに連れて来るように言いつけられた。 41 彼が近寄って来たの
で、「わたしに何をしてほしいのか。」と尋ねられると、彼は、「主よ。目が
見えるようになることです。」と言った。 42 イエスが彼に、「見えるようにな
れ。あなたの信仰があなたを直したのです。」と言われると、 43 彼はたちどこ
ろに目が見えるようになり、神をあがめながらイエスについて行った。これを
見て民はみな神を賛美した。

19

1 それからイエスは、エリコにはいって、町をお通りになった。 2 ここには、
ザアカイという人がいたが、彼は取税人のかしらで、金持ちであった。 3 彼は、
イエスがどんな方か見ようとしたが、背が低かったので、群衆のために見るこ
とができなかった。 4 それで、イエスを見るために、前方に走り出て、いちじ
く桑の木に登った。ちょうどイエスがそこを通り過ぎようとしておられたから
である。 5 イエスは、ちょうどそこに来られて、上を見上げて彼に言われた。
「ザアカイ。急いで降りて来なさい。きょうは、あなたの家に泊まることに
してあるから。」 6 ザアカイは、急いで降りて来て、そして大喜びでイエスを
迎えた。 7 これを見て、みなは、「あの方は罪人のところに行って客となられ
た。」と言ってつぶやいた。 8 ところがザアカイは立って、主に言った。「主
よ。ご覧ください。私の財産の半分を貧しい人たちに施します。また、だれか
らでも、私がだまし取った物は、四倍にして返します。」 9 イエスは、彼に言
われた。「きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なの
ですから。 10 人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」

11 人々がこれらのことに耳を傾けているとき、イエスは、続けて一つのたと
えを話された。それは、イエスがエルサレムに近づいておられ、そのため人々
は神の国がすぐにでも現われるように思っていたからである。 12 それで、イエ
スはこう言われた。
「ある身分の高い人が、遠い国に行った。王位を受けて帰るためであった。
13 彼は自分の十人のしもべを呼んで、十ミナを与え、彼らに言った。『私が
帰るまで、これで商売しなさい。』 14 しかし、その国民たちは、彼を憎んで
いたので、あとから使いをやり、『この人に、私たちの王にはなってもらい
たくありません。』と言った。 15 さて、彼が王位を受けて帰って来たとき、
金を与えておいたしもべたちがどんな商売をしたかを知ろうと思い、彼らを
呼び出すように言いつけた。 16 さて、最初の者が現われて言った。『ご主
人さま。あなたの一ミナで、十ミナをもうけました。』 17 主人は彼に言った。
『よくやった。良いしもべだ。あなたはほんの小さな事にも忠実だったから、
十の町を支配する者になりなさい。』 18 二番目の者が来て言った。
『ご主人さま。あなたの一ミナで、五ミナをもうけました。』 19 主人はこの
者にも言った。『あなたも五つの町を治めなさい。』 20 もうひとりが来て言
った。『ご主人さま。さあ、ここにあなたの一ミナがございます。私はふろ
しきに包んでしまっておきました。 21 あなたは計算の細かい、きびしい方
ですから、恐ろしゅうございました。あなたはお預けにならなかったものを
も取り立て、お蒔きにならなかったものをも刈り取る方ですから。』 22 主人
はそのしもべに言った。『悪いしもべだ。私はあなたのことばによって、あ
なたをさばこう。あなたは、私が預けなかったものを取り立て、蒔かなかっ
たものを刈り取るきびしい人間だと知っていた、というのか。 23 だったら、
なぜ私の金を銀行に預けておかなかったのか。そうすれば私は帰って来たと
きに、それを利息といっしょに受け取れたはずだ。』 24 そして、そばに立っ
ていた者たちに言った。『その一ミナを彼から取り上げて、十ミナ持ってい
る人にやりなさい。』 25 すると彼らは、『ご主人さま。その人は十ミナも持
っています。』と言った。 26 彼は言った。『あなたがたに言うが、だれでも
持っている者は、さらに与えられ、持たない者からは、持っている物までも
取り上げられるのです。 27 ただ、私が王になるのを望まなかったこの敵ど
は、みなここに連れて来て、私の目の前で殺してしまえ。』」

28 これらのことを話して後、イエスは、さらに進んで、エルサレムへと上っ
て行かれた。
29 オリーブという山のふもとのベテパゲとベタニヤに近づかれたとき、イ
エスはふたりの弟子を使いに出して、 30 言われた。「向こうの村に行きなさ
い。そこにはいると、まだだれも乗ったことのない、ろばの子がつないであ
るのに気がつくでしょう。それをほどいて連れて来なさい。 31 もし、『なぜ、
ほどくのか。』と尋ねる人があったら、こう言いなさい。『主がお入用なので
す。』」 32 使いに出されたふたりが行って見ると、イエスが話されたとおりで
あった。 33 彼らがろばの子をほどいていると、その持ち主が、「なぜ、このろ
ばの子をほどくのか。」と彼らに言った。 34 弟子たちは、「主がお入用なので
す。」と言った。 35 そしてふたりは、それをイエスのもとに連れて来た。そし
て、そのろばの子の上に自分たちの上着を敷いて、イエスをお乗せした。 36 イ
エスが進んで行かれると、人々は道に自分たちの上着を敷いた。 37 イエスがす
でにオリーブ山のふもとに近づかれたとき、弟子たちの群れはみな、自分たち
の見たすべての力あるわざのことで、喜んで大声に神を賛美し始め、 38 こう言
った。
「祝福あれ。
主の御名によって来られる王に。
天には平和。
栄光は、いと高き所に。」
39 するとパリサイ人のうちのある者たちが、群衆の中から、イエスに向か
って、「先生。お弟子たちをしかってください。」と言った。 40 イエスは答
えて言われた。「わたしは、あなたがたに言います。もしこの人たちが黙れ
ば、石が叫びます。」
41 エルサレムに近くなったころ、都を見られたイエスは、その都のために泣
いて、 42 言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知って
いたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。 43 やが
ておまえの敵が、おまえに対して塁を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄
せ、 44 そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、

一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」
45 宮にはいられたイエスは、商売人たちを追い出し始め、46 こう言われた。
「『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にした。」
47 イエスは毎日、宮で教えておられた。祭司長、律法学者、民のおもだった者たちは、イエスを殺そうとねらっていたが、48 どうしてよいかわからなかった。民衆がみな、熱心にイエスの話に耳を傾けていたからである。

20

1 イエスは宮で民衆を教え、福音を宣べ伝えておられたが、ある日、祭司長、律法学者たちが、長老たちといっしょにイエスに立ち向かって、2 イエスに言った。「何の権威によって、これらのことをしておられるのですか。あなたにその権威を授けたのはだれですか。それを言ってください。」3 そこで答えて言われた。「わたしも一言尋ねますから、それに答えなさい。4 ヨハネのバプテスマは、天から来たのですか、人から出たのですか。」5 すると彼らは、こう言って、互いに論じ合った。「もし、天から、と言えば、それならなぜ、彼を信じなかったか、と言うだろう。6 しかし、もし、人から、と言えば、民衆がみなで私たちを石で打ち殺すだろう。ヨハネを預言者と信じているのだから。」7 そこで、「どこからか知りません。」と答えた。8 するとイエスは、「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに話すまい。」と言われた。
9 また、イエスは、民衆にこのようなたとえを話された。
「ある人がぶどう園を造り、それを農夫たちに貸して、長い旅に出た。10 そして季節になったので、ぶどう園の収穫の分けまえをもらうために、農夫たちのところへひとりのしもべを遣わした。ところが、農夫たちは、そのしもべを袋だたきにし、何も持たせないで送り帰した。11 そこで、別のしもべを遣わしたが、彼らは、そのしもべも袋だたきにし、はずかしめたうえで、何も持たせないで送り帰した。12 彼はさらに三人目のしもべをやったが、彼らは、このしもべにも傷を負わせて追い出した。13 ぶどう園の主人は言った。『どうしたものか。よし、愛する息子を送ろう。彼らも、この子はたぶん敬ってくれるだろう。』14 ところが、農夫たちはその息子を見て、議論しながら言った。『あれはあと取りだ。あれを殺そうではないか。そうすれば、財産はこちらのものだ。』15 そして、彼をぶどう園の外に追い出して、殺してしまった。
この場合、ぶどう園の主人は、どうするでしょう。16 彼は戻って来て、この農夫どもを打ち滅ぼし、ぶどう園をほかの人たちに与えてしまいます。」
これを聞いた民衆は、「そんなことがあってはなりません。」と言った。
17 イエスは、彼らを見つめて言われた。「では、
『家を建てる者たちの見捨てた石、
それが礎の石となった。』
と書いてあるのは、何のことでしょう。18 この石の上に落ちれば、だれでも粉々に砕け、またこの石が人の上に落ちれば、その人を粉みじんに飛び散らしてしまうのです。」
19 律法学者、祭司長たちは、イエスが自分たちをさしてこのたとえを話されたと気づいたので、この際イエスに手をかけて捕えようとしたが、やはり民衆を恐れた。20 さて、機会をねらっていた彼らは、義人を装った間者を送り、イエスのことばを取り上げて、総督の支配と権威にイエスを引き渡そう、と計った。21 その間者たちは、イエスに質問して言った。「先生。私たちは、あなたがお話しになり、お教えになることは正しく、またあなたは分け隔てなどせず、真理に基づいて神の道を教えておられることを知っています。22 ところで、私たちが、カイザルに税金を納めることは、律法にかなっていることでしょうか。かなっていないことでしょうか。」23 イエスはそのたくらみを見抜いて彼らに言われた。24 「デナリ銀貨をわたしに見せなさい。これはだれの肖像ですか。だれの銘ですか。」彼らは、「カイザルのです。」と言った。25 すると彼らに言われた。「では、カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。」26 彼らは、民衆の前でイエスのことばじりをつかむことができず、お答えに驚嘆して黙ってしまった。
27 ところが、復活があることを否定するサドカイ人のある者たちが、イエスのところに来て、質問して、28 こう言った。「先生。モーセは私たちのためにこう書いています。『もし、ある人の兄が妻をめとって死に、しかも子がなかったばあいは、その弟はその女を妻にして、兄のための子をもうけなければな

ら ない。』 29 ところで、七人の兄弟がいました。長男は妻をめとりましたが、
子どもがなくて死にました。 30 次男も、 31 三男もその女をめとり、七人とも
同じようにして、子どもを残さずに死にました。 32 あとで、その女も死にまし
た。 33 すると復活の際、その女はだれの妻になるでしょうか。七人ともその女
を妻としたのですが。」 34 イエスは彼らに言われた。「この世の子らは、めと
った り、とついだりするが、 35 次の世にはいるのにふさわしく、死人の中から
復活するのにふさわしい、と認められる人たちは、めとることも、とつぐこと
もありません。 36 彼らはもう死ぬことができないからです。彼らは御使いの
ようであり、また、復活の子として神の子どもだからです。 37 それに、死人が
よみがえることについては、モーセも柴の個所で、主を、『アブラハムの神、
イサクの神、ヤコブの神。』と呼んで、このことを示しました。 38 神は死んだ
者の神ではありません。生きている者の神です。というのは、神に対しては、
みなが生きているからです。」 39 律法学者のうちのある者たちが答えて、「先
生。りっぱなお答えです。」と言った。 40 彼らはもうそれ以上何も質問する勇
気がなかった。
41 すると、イエスが彼らに言われた。「どうして人々は、キリストをダビデ
の子と言うのですか。 42 ダビデ自身が詩篇の中でこう言っています。
『主は私の主に言われた。
43 「わたしが、あなたの敵を
あなたの足台とする時まで、
わたしの右の座に着いていなさい。」』
44 こういうわけで、ダビデがキリストを主と呼んでいるのに、どうしてキリ
ストがダビデの子でしょう。」
45 また、民衆がみな耳を傾けているときに、イエスは弟子たちにこう言われ
た。 46 「律法学者たちには気をつけなさい。彼らは、長い衣をまとって歩き回
った り、広場であいさつされたりすることが好きで、また会堂の上席や宴会の
上座が好きです。 47 また、やもめの家を食いつぶし、見えを飾るために長い祈
りをします。こういう人たちは人一倍きびしい罰を受けるのです。」

21

1 さてイエスが、目を上げてご覧になると、金持ちたちが献金箱に献金を投
げ入れていた。 2 また、ある貧しいやもめが、そこにレプタ銅貨二つを投げ入
れているのをご覧になった。 3 それでイエスは言われた。「わたしは真実をあ
なたがたに告げます。この貧しいやもめは、どの人よりもたくさん投げ入れま
した。 4 みなは、あり余る中から献金を投げ入れたのに、この女は、乏しい中
から、持っていた生活費の全部を投げ入れたからです。」
5 宮がすばらしい石や奉納物で飾ってあると話していた人々があった。すると
イエスはこう言われた。 6 「あなたがたの見ているこれらの物について言え
ば、石がくずされずに積まれたまま残ることのない日がやって来ます。」 7 彼
らは、イエスに質問して言った。「先生。それでは、これらのことは、いつ起
こるのでしょう。これらのことが起こるときは、どんな前兆があるのでしょ
う。」 8 イエスは言われた。「惑わされないように気をつけなさい。わたしの
名を名のる者が大ぜい現われ、『私がそれだ。』とか『時は近づいた。』とか
言います。そんな人々のあとについて行ってはなりません。 9 戦争や暴動のこと
を聞いても、こわがってはいけません。それは、初めに必ず起こることです。
だが、終わりは、すぐには来ません。」
10 それから、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、国は国に敵対して
立ち上がり、 11 大地震があり、方々に疫病やききんが起こり、恐ろしいことや
天からのすさまじい前兆が現われます。 12 しかし、これらのすべてのことの前
に、人々はあなたがたを捕えて迫害し、会堂や牢に引き渡し、わたしの名のた
めに、あなたがたを王たちや総督たちの前に引き出すでしょう。 13 それはあな
たがたのあかしをする機会となります。 14 それで、どう弁明するかは、あらか
じめ考えないことに、心を定めておきなさい。 15 どんな反対者も、反論もでき
ず、反証もできないようなことばと知恵を、わたしがあなたがたに与えます。
16 しかしあなたがたは、両親、兄弟、親族、友人たちにまで裏切られます。中
には殺される者もあり、 17 わたしの名のために、みなの者に憎まれます。 18 し
かし、あなたがたの髪の毛一筋も失われることはありません。 19 あなたがた
は、忍耐によって、自分のいのちを勝ち取ることができます。
20 しかし、エルサレムが軍隊に囲まれるのを見たら、そのときには、その滅
亡が近づいたことを悟りなさい。 21 そのとき、ユダヤにいる人々は山へ逃げ
なさい。都の中にいる人々は、そこから立ちのきなさい。いなかにいる者たち
は、都にはいってはいけません。 22 これは、書かれているすべてのことが成就

する報復の日だからです。 23 その日、悲惨なのは身重の女と乳飲み子を持つ
女です。この地に大きな苦難が臨み、この民に御怒りが臨むからです。 24 人々
は、剣の刃に倒れ、捕虜となってあらゆる国に連れて行かれ、異邦人の時の終
わるまで、エルサレムは異邦人に踏み荒らされます。
25 そして、日と月と星には、前兆が現われ、地上では、諸国の民が、海と波
が荒れどよめくために不安に陥って悩み、 26 人々は、その住むすべての所を襲
おうとしていることを予想して、恐ろしさのあまり気を失います。天の万象が
揺り動かされるからです。 27 そのとき、人々は、人の子が力と輝かしい栄光を
帯びて雲に乗って来るのを見るのです。 28 これらのことが起こり始めたなら、
からだをまっすぐにし、頭を上に上げなさい。贖いが近づいたのです。」
29 それからイエスは、人々にたとえを話された。「いちじくの木や、すべて
の木を見なさい。 30 木の芽が出ると、それを見て夏の近いことがわかります。
31 そのように、これらのことが起こるのを見たら、神の国は近いと知りなさ
い。 32 まことに、あなたがたに告げます。すべてのことが起こってしまうまで
は、この時代は過ぎ去りません。 33 この天地は滅びます。しかし、わたしのこ
とばは決して滅びることがありません。
34 あなたがたの心が、放蕩や深酒やこの世の煩いのために沈み込んでいると
ころに、その日がわなのように、突然あなたがたに臨むことのないように、よ
く気をつけていなさい。 35 その日は、全地の表に住むすべての人に臨むからで
す。 36 しかし、あなたがたは、やがて起ころうとしているこれらすべてのこと
からのがれ、人の子の前に立つことができるように、いつも油断せずに祈って
いなさい。」
37 さてイエスは、昼は宮で教え、夜はいつも外に出てオリーブという山で過
ごされた。 38 民衆はみな朝早く起きて、教えを聞こうとして、宮におられるイ
エスのもとに集まって来た。

22

1 さて、過越の祭りといわれる、種なしパンの祝いが近づいていた。 2 祭司
長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を捜していた。というの
は、彼らは民衆を恐れていたからである。
3 さて、十二弟子のひとりで、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンがは
いった。 4 ユダは出かけて行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのよう
にしてイエスを彼らに引き渡そうかと相談した。 5 彼らは喜んで、ユダに金を
やる約束をした。 6 ユダは承知した。そして群衆のいないときにイエスを彼ら
に引き渡そうと機会をねらっていた。
7 さて、過越の小羊のほふられる、種なしパンの日が来た。 8 イエスは、こ
ういってペテロとヨハネを遣わされた。「わたしたちの過越の食事ができるよ
うに、準備をしに行きなさい。」 9 彼らはイエスに言った。「どこに準備しま
しょうか。」 10 イエスは言われた。「町にはいると、水がめを運んでいる男に
会うから、その人がはいる家にまでついて行きなさい。 11 そして、その家の主
人に、『弟子たちといっしょに過越の食事をする客間はどこか、と先生があな
たに言っておられる。』と言いなさい。 12 すると主人は、席が整っている二階
の大広間を見せてくれます。そこで準備をしなさい。」 13 彼らが出かけて見る
と、イエスの言われたとおりであった。それで、彼らは過越の食事の用意をし
た。
14 さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスといっし
ょに席に着いた。 15 イエスは言われた。「わたしは、苦しみを受ける前に、あ
なたがたといっしょに、この過越の食事をすることをどんなに望んでいたこと
か。 16 あなたがたに言いますが、過越が神の国において成就するまでは、わた
しはもはや二度と過越の食事をすることはありません。」 17 そしてイエスは、
杯を取り、感謝をささげて後、言われた。「これを取って、互いに分けて飲み
なさい。 18 あなたがたに言いますが、今から、神の国が来る時までは、わたし
はもはや、ぶどうの実で造った物を飲むことはありません。」 19 それから、パ
ンを取り、感謝をささげてから、裂いて、弟子たちに与えて言われた。「これ
は、あなたがたのために与える、わたしのからだです。わたしを覚えてこれを
行ないなさい。」 20 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あ
なたがたのために流されるわたしの血による新しい契約です。 21 しかし、見
なさい。わたしを裏切る者の手が、わたしとともに食卓にあります。 22 人の
子は、定められたとおりに去って行きます。しかし、人の子を裏切るような人
間はのろわれます。」 23 そこで弟子たちは、そんなことをしようとしている者
は、いったいこの中のだれなのかと、互いに議論をし始めた。

24 また、彼らの間には、この中でだれが一番偉いだろうかという論議も起
こった。 25 すると、イエスは彼らに言われた。「異邦人の王たちは人々を支配
し、また人々の上に権威を持つ者は守護者と呼ばれています。 26 だが、あなた
がたは、それではいけません。あなたがたの間で一番偉い人は一番年の若い者
のように なりなさい。また、治める人は仕える人のようでありなさい。 27 食卓
に着く人と給仕する者と、どちらが偉いでしょう。むろん、食卓に着く人でし
ょう。しかしわたしは、あなたがたのうちにあって給仕する者のようにしてい
ます。 28 けれども、あなたがたこそ、わたしのさまざまの試練の時にも、わたし
についてきてくれた人たちです。 29 わたしの父がわたしに王権を与えてくだ
さったように、わたしもあなたがたに王権を与えます。 30 それであなたがたは、
わたしの国でわたしの食卓に着いて食事をし、王座に着いて、イスラエルの
十二の部族をさばくのです。
31 シモン、シモン。見なさい。サタンが、あなたがたを麦のようにふるいに
かけることを願って聞き届けられました。 32 しかし、わたしは、あなたの信仰
がなくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直
ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」 33 シモンはイエスに言った。「主
よ。ごいっしょになら、牢であろうと、死であろうと、覚悟はできております。」
34 しかし、イエスは言われた。「ペテロ。あなたに言いますが、きょう
鶏が鳴くまでに、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」
35 それから、弟子たちに言われた。「わたしがあなたがたを、財布も旅行
袋もくつも持たせずに旅に出したとき、何か足りない物がありましたか。」彼
らは言った。「いいえ。何もありませんでした。」 36 そこで言われた。「しか
し、今は、財布のある者は財布を持ち、同じく袋を持ち、剣のない者は着物を
売って剣を買いなさい。 37 あなたがたに言いますが、『彼は罪人たちの中に数
えられた。』と書いてあるこのことが、わたしに必ず実現するのです。わたし
にかかわることは実現します。」 38 彼らは言った。「主よ。このとおり、ここ
に剣が二振りあります。」イエスは彼らに、「それで十分。」と言われた。
39 それからイエスは出て、いつものようにオリーブ山に行かれ、弟子たちも
従った。 40 いつもの場所に着いたとき、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないよ
うに祈っていなさい。」と言われた。 41 そしてご自分は、弟子たちから石を投
げて届くほどの所に離れて、ひざまずいて、こう祈られた。 42 「父よ。みこと
ろならば、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いで
はなく、みこころのとおりにしてください。」 43 すると、御使いが天からイエ
スに現われて、イエスを力づけた。 44 イエスは、苦しみもだえて、いよいよ切
に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。 45 イエスは祈り終わって立ん
にち上がり、弟子たちのところに来て見ると、彼らは悲しみの果てに、眠り込
でしまっていた。 46 それで、彼らに言われた。「なぜ、眠っているのか。起き
て、誘惑に陥らないように祈っていなさい。」
47 イエスがまだ話をしておられるとき、群衆がやって来た。十二弟子のひ
とりで、ユダという者が、先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようと
して、みもとに近づいた。 48 だが、イエスは彼に、「ユダ。口づけで、人の子
を裏切ろうとするのか。」と言われた。 49 イエスの回りにいた者たちは、事の
成り行きを見て、「主よ。剣で撃ちましょうか。」と言った。 50 そしてそのう
ちのある者が、大祭司のしもべに撃ってかかり、その右の耳を切り落とした。
51 するとイエスは、「やめなさい。それまで。」と言われた。そして、耳にさ
わって彼を直してやられた。 52 そして押しかけて来た祭司長、宮の守衛長、
長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持ってやっ
て来たのですか。 53 あなたがたは、わたしが毎日宮でいっしょにいる間は、わ
たしに手出しもしなかった。しかし、今はあなたがたの時です。暗やみの力で
す。」
54 彼らはイエスを捕え、引いて行って、大祭司の家に連れて来た。ペテロ
は、遠く離れてついて行った。 55 彼らは中庭の真中に火をたいて、みなすわ
り込んだので、ペテロも中に混じって腰をおろした。 56 すると、女中が、火
あかりの中にペテロのすわっているのを見つけ、まじまじと見て言った。「こ
の人も、イエスといっしょにいました。」 57 ところが、ペテロはそれを打ち消
して、「いいえ、私はあの人を知りません。」と言った。 58 しばらくして、ほ
かの男が彼を見て、「あなたも、彼らの仲間だ。」と言った。しかし、ペテロ
は、「いや、違います。」と言った。 59 それから一時間ほどたつと、また別の
男が、「確かにこの人も彼といっしょだった。この人もガリラヤ人だから。」
と言い張った。 60 しかしペテロは、「あなたの言うことは私にはわかりませ
ん。」と言った。それといっしょに、彼がまだ言い終えないうちに、鶏が鳴い
た。 61 主が振り向いてペテロを見つめられた。ペテロは、「きょう、鶏が鳴く

までに、あなたは、三度わたしを知らないと言う。」と言われた主のおことば
を思い出した。 62 彼は、外に出て、激しく泣いた。
63 さて、イエスの監視人どもは、イエスをからかい、むちでたたいた。 64 そ
して目隠しをして、「言い当ててみろ。今たたいたのはだれか。」と聞いたり
した。 65 また、そのほかさまざまな悪口をイエスに浴びせた。
66 夜が明けると、民の長老会、それに祭司長、律法学者たちが、集まった。
彼らはイエスを議会に連れ出し、 67 こう言った。「あなたがキリストなら、そ
うだと言いなさい。」しかしイエスは言われた。「わたしが言っても、あなた
がたは決して信じないでしょうし、 68 わたしが尋ねても、あなたがたは決し
て答えないでしょう。 69 しかし今から後、人の子は、神の大能の右の座に着き
ます。」 70 彼らはみなで言った。「ではあなたは神の子ですか。」すると、イ
エスは彼らに「あなたがたの言うとおり、わたしはそれです。」と言われた。
71 すると彼らは「これでもまだ証人が必要でしょうか。私たち自身が彼の口か
ら直接それを聞いたのだから。」と言った。

23

1 そこで、彼らは全員が立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。
2 そしてイエスについて訴え始めた。彼らは言った。「この人はわが国民を惑
わし、カイザルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っている
ことがわかりました。」 3 するとピラトはイエスに、「あなたは、ユダヤ人の
王ですか。」と尋ねた。イエスは答えて、「そのとおりです。」と言われた。
4 ピラトは祭司長たちや群衆に、「この人には何の罪も見つからない。」と言っ
た。 5 しかし彼らはあくまで言い張って、「この人は、ガリラヤからここまで、
ユダヤ全土で教えながら、この民を扇動しているのです。」と言った。 6 それ
を聞いたピラトは、この人はガリラヤ人かと尋ねて、 7 ヘロデの支配下にある
とわかると、イエスをヘロデのところに送った。ヘロデもそのころエルサレム
にいたからである。
8 ヘロデはイエスを見ると非常に喜んだ。ずっと前からイエスのことを聞いて
いたので、イエスに会いたいと思っていたし、イエスの行なう何かの奇蹟を見
たいと考えていたからである。 9 それで、いろいろと質問したが、イエスは彼
に何もお答えにならなかった。 10 祭司長たちと律法学者たちは立って、イエス
を激しく訴えていた。 11 ヘロデは、自分の兵士たちといっしょにイエスを侮辱
したり嘲弄したりしたあげく、はでな衣を着せて、ピラトに送り返した。 12 こ
の日、ヘロデとピラトは仲よくなった。それまでは互いに敵対していたのであ
る。
13 ピラトは祭司長たちと指導者たちと民衆とを呼び集め、 14 こう言った。
「あなたがたは、この人を、民衆を惑わす者として、私のところに連れて来た
けれども、私があなたがたの前で取り調べたところ、あなたがたが訴えている
ような罪は別に何も見つかりません。 15 ヘロデとても同じです。彼は私たち
にこの人を送り返しました。見なさい。この人は、死罪に当たることは、何一
つしていません。 16 だから私は、懲らしめたうえで、釈放します。」 17-18 し
かし彼らは、声をそろえて叫んだ。「この人を除け。バラバを釈放しろ。」
19 バラバとは、都に起こった暴動と人殺しのかどで、牢にはいっていた者であ
る。 20 ピラトは、イエスを釈放しようと思って、彼らに、もう一度呼びかけ
た。 21 しかし、彼らは叫び続けて、「十字架だ。十字架につけろ。」と言っ
た。 22 しかしピラトは三度目に彼らにこう言った。「あの人がどんな悪いこと
をしたというのか。あの人には、死に当たる罪は、何も見つかりません。だか
ら私は、懲らしめたうえで、釈放します。」 23 ところが、彼らはあくまで主張
し続け、十字架につけるよう大声で要求した。そしてついにその声が勝った。
24 ピラトは、彼らの要求どおりにすることを宣告した。 25 すなわち、暴動と人
殺しのかどで牢にはいっていた男を願いどおりに釈放し、イエスを彼らに引き
渡して好きなようにさせた。
26 彼らは、イエスを引いて行く途中、いなかから出て来たシモンというクレ
ネ人をつかまえ、この人に十字架を負わせてイエスのうしろから運ばせた。
27 大ぜいの民衆やイエスのことを嘆き悲しむ女たちの群れが、イエスのあと
について行った。 28 しかしイエスは、女たちのほうに向いて、こう言われた。
「エルサレムの娘たち。わたしのことで泣いてはいけない。むしろ自分自身
と、自分の子どもたちのことのために泣きなさい。 29 なぜなら人々が、『不妊
の女、子を産んだことのない胎、飲ませたことのない乳房は、幸いだ。』と言
う日が来るのですから。 30 そのとき、人々は山に向かって、『われわれの上に
倒れかかってくれ。』と言い、丘に向かって、『われわれをおおってくれ。』

と言い始めます。 31 彼らが生木にこのようなことをするのなら、枯れ木には、
いったい、何が起こるでしょう。」
32 ほかにもふたりの犯罪人が、イエスとともに死刑にされるために、引かれ
て行った。
33 「どくろ」と呼ばれている所に来ると、そこで彼らは、イエスと犯罪人と
を十字架につけた。犯罪人のひとりは右に、ひとりは左に。 34 そのとき、イ
エスはこう言われた。「父よ。彼らをお赦しください。彼らは、何をしてい
るのか自分でわからないのです。」彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分け
た。 35 民衆はそばに立ってながめていた。指導者たちもあざ笑って言った。
「あれは他人を救った。もし、神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救っ
てみろ。」 36 兵士たちもイエスをあざけり、そばに寄って来て、酸いぶどう酒
を差し出し、 37 「ユダヤ人の王なら、自分を救え。」と言った。 38 「これはユ
ダヤ人の王。」と書いた札もイエスの頭上に掲げてあった。
39 十字架にかけられていた犯罪人のひとりはイエスに悪口を言い、「あなた
はキリストではないか。自分と私たちを救え。」と言った。 40 ところが、もう
ひとりのほうが答えて、彼をたしなめて言った。「おまえは神をも恐れないの
か。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。 41 われわれは、自分のしたこ
との報いを受けているのだからあたりまえだ。だがこの方は、悪いことは何も
しなかったのだ。」 42 そして言った。「イエスさま。あなたの御国の位にお着
きになるときには、私を思い出してください。」 43 イエスは、彼に言われた。
「まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイス
にいます。」
44 そのときすでに十二時ごろになっていたが、全地が暗くなって、三時まで
続いた。 45 太陽は光を失っていた。また、神殿の幕は真二つに裂けた。 46 イエ
スは大声で叫んで、言われた。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。」こう言
って、息を引き取られた。 47 この出来事を見た百人隊長は、神をほめたたえ、
「ほんとうに、この人は正しい方であった。」と言った。 48 また、この光景を
見に集まっていた群衆もみな、こういういろいろの出来事を見たので、胸をた
たいて悲しみながら帰った。 49 しかし、イエスの知人たちと、ガリラヤからイ
エスについて来ていた女たちとはみな、遠く離れて立ち、これらのことを見て
いた。
50 さてここに、ヨセフという、議員のひとりで、りっぱな、正しい人がい
た。 51 この人は議員たちの計画や行動には同意しなかった。彼は、アリマタヤ
というユダヤ人の町の人で、神の国を待ち望んでいた。 52 この人が、ピラトの
ところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願った。 53 それから、イエスを
取り降ろして、亜麻布で包み、そして、まだだれをも葬ったことのない、岩に
掘られた墓にイエスを納めた。 54 この日は準備の日で、もう安息日が始まろ
うとしていた。 55 ガリラヤからイエスといっしょに出て来た女たちは、ヨセフ
について行って、墓と、イエスのからだの納められる様子を見届けた。 56 そし
て、戻って来て、香料と香油を用意した。
安息日には、戒めに従って、休んだが、

24

1 週の初めの日の明け方早く、女たちは、準備しておいた香料を持って墓に
着いた。 2 見ると、石が墓からわきにころがしてあった。 3 はいって見ると、主
イエスのからだはなかった。 4 そのため女たちが途方にくれていると、見よ、
まばゆいばかりの衣を着たふたりの人が、女たちの近くに来た。 5 恐ろしくな
って、地面に顔を伏せていると、その人たちはこう言った。「あなたがたは、
なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。 6 ここにはおられません。よみ
がえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い
出しなさい。 7 人の子は必ず罪人らの手に引き渡され、十字架につけられ、三
日目によみがえらなければならない、と言われたでしょう。」 8 女たちはイエ
スのみことばを思い出した。 9 そして、墓から戻って、十一弟子とそのほかの
人たち全部に、一部始終を報告した。 10 この女たちは、マグダラのマリヤとヨ
ハンナとヤコブの母マリヤとであった。彼女たちといっしょにいたほかの女た
ちも、このことを使徒たちに話した。 11 ところが使徒たちにはこの話はたわご
とと思われたので、彼らは女たちを信用しなかった。 12 [しかしペテロは、立
ち上がると走って墓へ行き、かがんでのぞき込んだところ、亜麻布だけがあっ
た。それで、この出来事に驚いて家に帰った。]
13 ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから十一キロメートル余り
離れたエマオという村に行く途中であった。 14 そして、ふたりでこのいっさ
いの出来事について話し合っていた。 15 話し合ったり、論じ合ったりしてい

るうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。 16 しかしふたりの目はさえぎられていて、イエスだとはわからなかった。 17 イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。 18 クレオパというほうが答えて言った。「エルサレムにいながら、近ごろここで起こった事を、あなただけが知らなかったのですか。」 19 イエスが、「どんな事ですか。」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行ないにもことばにも力のある預言者でした。 20 それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけたのです。 21 しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖くださるはずだ、と望みをかけていました。事実、それば かりでなく、そせ当ちかのことがあってから三日目になりますが、 22 また仲間の女たちが私たちを驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみましたが、 23 イエスの遺体は見当たらなかった、というのです。」 25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。 26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光にはいるはずではなかったのですか。」 27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事がらを彼らに説き明かされた。 28 彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうなご様子であった。 29 それで、彼らが、「いっしょにお泊まりください。夕刻になりますし、日もおかたむきましたから。」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中にはいられた。 30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。 31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。 32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明してくださった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。」 33 すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、 34 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現わされた。」と言っていた。 35 彼らも、道であったいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。

36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真中に立たれた。 37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。 38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。 39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」 40-41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているので、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか。」と言われた。 42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、 43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」 45 そこで、イエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて、 46 こう言われた。「次のように書いてあります。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、 47 その名によって、罪の赦しを得させる悔い改めが、エルサレムから始まってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる。 48 あなたがたは、これらのことの証人です。 49 さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

50 それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。 51 そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。 52 彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、 53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。

ヨハネの福音書

1 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。 2 この方は、初めに神とともにおられた。 3 すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。
4 この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。 5 光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。
6 神から遣わされたヨハネという人が現われた。 7 この人はあかしのために来た。光についてあかしするためであり、すべての人が彼によって信じるためである。 8 彼は光ではなかった。ただ光についてあかしするために来たのである。
9 すべての人を照らすそのまことの光が世に来ようとしていた。 10 この方はもとから世におられ、世はこの方によって造られたのに、世はこの方を知らなかった。 11 この方はご自分のくにに来られたのに、ご自分の民は受け入れなかった。 12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。 13 この人々は、血によってではなく、肉の欲求や人の意欲によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。
14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。 15 ヨハネはこの方について証言し、叫んで言った。「『私のあとから来る方は、私にまさる方である。私より先におられたからである。』と私が言ったのは、この方のことです。」 16 私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。 17 というのは、律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。 18 いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。
19 ヨハネの証言は、こうである。ユダヤ人たちが祭司とレビ人をエルサレムからヨハネのもとに遣わして、「あなたはどなたですか。」と尋ねさせた。
20 彼は告白して否まず、「私はキリストではありません。」と言明した。 21 また、彼らは聞いた。「では、いったい何ですか。あなたはエリヤですか。」彼は言った。「そうではありません。」「あなたはあの預言者ですか。」彼は答えた。「違います。」 22 そこで、彼らは言った。「あなたはだれですか。私たちを遣わした人々に返事をしたいのですが、あなたは自分を何だと言われるのですか。」
23 彼は言った。「私は、預言者イザヤが言ったように『主の道をまっすぐにせよ。』と荒野で叫んでいる者の声です。」 24 彼らは、パリサイ人の中から遣わされたのであった。 25 彼らはまた尋ねて言った。「キリストでもなく、エリヤでもなく、またあの預言者でもないなら、なぜ、あなたはバプテスマを授けているのですか。」 26 ヨハネは答えて言った。「私は水でバプテスマを授けているが、あなたがたの中に、あなたがたの知らない方が立っておられます。
27 その方は私のあとから来られる方で、私はその方のくつのひもを解く値うちもありません。」 28 この事があったのは、ヨルダンの向こう岸のベタニヤであって、ヨハネはそこでバプテスマを授けていた。
29 その翌日、ヨハネは自分のほうにイエスが来られるのを見て言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。 30 私が『私のあとから来る人がある。その方は私にまさる方である。私より先におられたからだ。』と言ったのは、この方のことです。 31 私もこの方を知りませんでした。しかし、この方がイスラエルに明らかにされるために、私は来て、水でバプテスマを授けているのです。」
32 またヨハネは証言して言った。「御霊が鳩のように天から下って、この方の上にとどまられるのを私は見ました。 33 私もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けさせるために私を遣わされた方が、私に言われました。『聖霊がある方の上に下って、その上にとどまられるのがあなたに見えたなら、その方こそ、聖霊によってバプテスマを授ける方である。』 34 私はそれを見たのです。それで、この方が神の子であると証言しているのです。」
35 その翌日、またヨハネは、ふたりの弟子とともに立っていたが、 36 イエスが歩いて行かれるのを見て、「見よ、神の小羊。」と言った。
37 ふたりの弟子は、彼がそう言うのを聞いて、イエスについて行った。 38 イエスは振り向いて、彼らがついて来るのを見て、言われた。「あなたがたは何

を求めているのですか。」彼らは言った。「ラビ（訳して言えば、先生）。今
どこにお泊まりですか。」 39 イエスは彼らに言われた。「来なさい。そうすれ
ばわかります。」そこで、彼らはついて行って、イエスの泊まっておられる所
を知った。そして、その日彼らはイエスといっしょにいた。時は十時ごろであ
った。 40 ヨハネから聞いて、イエスについて行ったふたりのうちのひとりは、
シモン・ペテロの兄弟アンデレであった。 41 彼はまず自分の兄弟シモンを見つ
けて、「私たちはメシヤ（訳して言えば、キリスト）に会った。」と言った。
42 彼はシモンをイエスのもとに連れて来た。イエスはシモンに目を留めて言わ
れた。「あなたはヨハネの子シモンです。あなたをケパ（訳すとペテロ）と呼
ぶことにします。」

43 その翌日、イエスはガリラヤに行こうとされた。そして、ピリポを見つ
けて「わたしに従って来なさい。」と言われた。 44 ピリポは、ベツサイダの人
で、アンデレやペテロと同じ町の出身であった。 45 彼はナタナエルを見つけて
言った。「私たちは、モーセが律法の中に書き、預言者たちも書いている方に
会いました。ナザレの人で、ヨセフの子イエスです。」 46 ナタナエルは彼に言
った。「ナザレから何の良いものが出るだろう。」ピリポは言った。「来て、
そして、見なさい。」 47 イエスはナタナエルが自分のほうに来るのを見て、彼
について言われた。「これこそ、ほんとうのイスラエル人だ。彼のうちにはで偽
りがない。」 48 ナタナエルはイエスに言った。「どうして私をご存じなのですか
か。」イエスは言われた。「わたしは、ピリポがあなたを呼ぶ前に、あなたが
いちじくの木の下にいるのを見たのです。」 49 ナタナエルは答えた。「先生。
あなたは神の子です。あなたはイスラエルの王です。」 50 イエスは答えて言わ
れた。「あなたがいちじくの木の下にいるのを見た、とわたしが言ったので、
あなたは信じるのですか。あなたは、それよりもさらに大きなことを見ること
になります。」 51 そして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げ
ます。天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなた
がたはいまに見ます。」

2

1 それから三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があって、そこにイエスの母が
いた。 2 イエスも、また弟子たちも、その婚礼に招かれた。 3 ぶどう酒がなく
なったとき、母がイエスに向かって「ぶどう酒がありません。」と言った。
4 すると、イエスは母に言われた。「あなたはわたしと何の関係があるのでし
ょう。女の方。わたしの時はまだ来ていません。」 5 母は手伝いの人たちに言
った。「あの方が言われることを、何でもしてあげてください。」 6 さて、そ
こには、ユダヤ人のきよめのしきたりによって、それぞれ八十リットルから百
二十リットル入りの石の水がめが六つ置いてあった。 7 イエスは彼らに言われ
た。「水がめに水を満たしなさい。」彼らは水がめを縁までいっぱいにした。
8 イエスは彼らに言われた。「さあ、今くみなさい。そして宴会の世話役のと
ころに持って行きなさい。」彼らは持って行った。 9 宴会の世話役はぶどう酒
になったその水を味わってみた。それがどこから来たのか、知らなかったの
で、――しかし、水をくんだ手伝いの者たちは知っていた。――彼は、花婿を
呼んで、 10 言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、人々が十分飲んだ
ころになると、悪いのを出すものだが、あなたは良いぶどう酒をよくも今まで
取っておきました。」 11 イエスはこのことを最初のしるしとしてガリラヤの
カナで行ない、ご自分の栄光を現わされた。それで、弟子たちはイエスを信じ
た。

12 その後、イエスは母や兄弟たちや弟子たちといっしょに、カペナウムに下
って行き、長い日数ではなかったが、そこに滞在された。

13 ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。 14 そ
して、宮の中に、牛や羊や鳩を売る者たちと両替人たちがすわっているのをご
覧になり、 15 細なわでむちを作って、羊も牛もみな、宮から追い出し、両替人
の金を散らし、その台を倒し、 16 また、鳩を売る者に言われた。「それをここ
から持って行け。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」 17 弟子たち
は、「あなたの家を思う熱心がわたしを食い尽くす。」と書いてあるのを思い
起こした。 18 そこで、ユダヤ人たちが答えて言った。「あなたがこのような
とをするからには、どんなしるしを私たちに見せてくれるのですか。」 19 イエ
スは彼らに答えて言われた。「この神殿をこわしてみなさい。わたしは、三日
でそれを建てよう。」 20 そこで、ユダヤ人たちは言った。「この神殿は建てる
のに四十六年かかりました。あなたはそれを、三日で建てるのですか。」 21 し
かし、イエスはご自分のからだの神殿のことを言われたのである。 22 それで、

イエスが死人の中からよみがえられたとき、弟子たちは、イエスがこのように
言われたことを思い起こして、聖書とイエスが言われたことばとを信じた。
23 イエスが、過越の祭りの祝いの間、エルサレムにおられたとき、多くの
人々が、イエスの行なわれたしるしを見て、御名を信じた。 24 しかし、イエス
は、ご自身を彼らにお任せにならなかった。なぜなら、イエスはすべての人を
知っておられたからであり、 25 また、イエスはご自身で、人のうちにあるもの
を知っておられたので、人についてだれの証言も必要とされなかったからであ
る。

3

1 さて、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。ユダヤ人の指導者であ
った。 2 この人が、夜、イエスのもとに来て言った。「先生。私たちは、あなら
たが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおら
れるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行なうことが
できません。」 3 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに
告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」
4 ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることが
できるのですか。もう一度、母の胎にはいって生まれることができましょう
か。」 5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。
人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。
6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。 7 あなたが
たは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思っ
てはなりません。 8 風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、そ
れがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、
そのとおりです。」 9 ニコデモは答えて言った。「どうして、そのようなことが
ありうるのでしょう。」 10 イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの
教師でありながら、こういうことがわからないのですか。 11 まことに、まこと
に、あなたに告げます。わたしたちは、知っていることを話し、見たことを
あかししているのに、あなたがたは、わたしたちのあかしを受け入れません。
12 あなたがたは、わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、天
上のことを話したとて、どうして信じるでしょう。 13 だれも天に上った者は
いません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です。 14 モーセが
荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。 15 それ
は、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」
16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それ
は御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つため
である。 17 神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子に
よって世が救われるためである。 18 御子を信じる者はさばかれない。信じな
い者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれている。 19 そ
のさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりも
やみを愛した。その行ないが悪かったからである。 20 悪いことをする者は光を憎
み、その行ないが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。 21 しか
し、真理を行なう者は、光のほうに来る。その行ないが神にあってなされた
ことが明らかにされるためである。
22 その後、イエスは弟子たちと、ユダヤの地に行き、彼らとともにそこに滞
在して、バプテスマを授けておられた。 23 一方ヨハネもサリムに近いアイノ
ンでバプテスマを授けていた。そこには水が多かったからである。人々は次々
にやって来て、バプテスマを受けていた。 24 ――ヨハネは、まだ投獄されてい
なかったからである。―― 25 それで、ヨハネの弟子たちが、あるユダヤ人と
よめについて論議した。 26 彼らはヨハネのところに来て言った。「先生。見
てください。ヨルダンの向こう岸であなたといっしょにいて、あなたが証言な
さったあの方が、バプテスマを授けておられます。そして、みなあの方のほう
へ行きます。」 27 ヨハネは答えて言った。「人は、天から与えられるのでなけ
れば、何も受けることはできません。 28 あなたがたこそ、『私はキリストでは
なく、その前に遣わされた者である。』と私が言ったことの証人です。 29 花嫁
を迎える者は花婿です。そこにいて、花婿のことばに耳を傾けているその友人
は、花婿の声を聞いて大いに喜びます。それで、私もその喜びで満たされて
いるのです。 30 あの方は盛んになり私は衰えなければなりません。」
31 上から来る方は、すべてのものの上におられ、地から出る者は地に属し、
地のことばを話す。天から来る方は、すべてのものの上におられる。 32 この方
は見たこと、また聞いたことをあかしされるが、だれもそのあかしを受け入れ
ない。 33 そのあかしを受け入れた者は、神は真実であるということに確認の印

を押したのである。 34 神がお遣わしになった方は、神のことばを話される。神
が御霊を無限に与えられるからである。 35 父は御子を愛しておられ、万物を御
子の手にお渡しになった。 36 御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に
聞き従わない者は、いのちを見ることがなく、神の怒りがその上にとどまる。

4

1 イエスがヨハネよりも弟子を多くつくって、バプテスマを授けていることが
パリサイ人の耳にはいった。それを主が知られたとき、 2 ——イエスご自身はバ
プテスマを授けておられたのではなく、弟子たちであったが、—— 3 主はユダヤ
を去って、またガリラヤへ行かれた。 4 しかし、サマリヤを通って行かなけれ
ばならなかった。 5 それで主は、ヤコブがその子ヨセフに与えた地所に近いス
カルというサマリヤの町に来られた。 6 そこにはヤコブの井戸があった。イエ
スは旅の疲れで、井戸のかたわらに腰をおろしておられた。時は六時ごろであ
った。 7 ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは「わたしに水を飲
ませてください。」と言われた。 8 弟子たちは食物を買いに、町へ出かけてい
た。 9 そこで、そのサマリヤの女は言った。「あなたはユダヤ人なのに、どう
してサマリヤの女の私に、飲み水をお求めになるのですか。」——ユダヤ人は
サマリヤ人とつきあいをしなかったからである。—— 10 イエスは答えて言われ
た。「もしあなたが神の賜物を知り、また、あなたに水を飲ませてくれと言う
者がだれであるかを知っていたなら、あなたのほうでその人に求めたことでし
ょう。そしてその人はあなたに生ける水を与えたことでしょう。」 11 彼女は言
った。「先生。あなたはくむ物を持っておいでにならず、この井戸は深いのです。
その生ける水をどこから手にお入れになるのですか。 12 あなたは、私たちの
先祖ヤコブよりも偉いのでしょうか。ヤコブは私たちにこの井戸を与え、彼
自身も、彼の子たちも家畜も、この井戸から飲んだのです。」 13 イエスは答え
て言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渇きます。 14 しかし、わたし
が与える水を飲む者はだれでも、決して渇くことがありません。わたしが与え
る水は、その人のうちで泉となり、永遠のいのちへの水がわき出ます。」 15 女は
イエスに言った。「先生。私が渇くことがなく、もうここまでくみに来なくて
もよいように、その水を私に下さい。」 16 イエスは彼女に言われた。「行って
、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」 17 女は答えて言った。「私には夫も
ありません。」イエスは言われた。「私には夫がないというのは、もっとも
です。 18 あなたには夫が五人あったが、今あなたといっしょにいるのは、あ
なたの夫ではないからです。あなたが言ったことはほんとうです。」 19 女は言っ
た。「先生。あなたは預言者だと思います。 20 私たちの先祖は、この山で礼拝
しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムだと言われます。」
21 イエスは彼女に言われた。「わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが
父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ま
す。 22 救いはユダヤ人から出るのですから、わたしたちは知って礼拝しています
が、あなたがたは知らないで礼拝しています。 23 しかし、真の礼拝者たち
が霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこの
ような人々を礼拝者として求めておられるからです。 24 神は霊ですから、神を
礼拝する者は、霊とまことによって礼拝しなければなりません。」 25 女はイエ
スに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。
その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるで
しょう。」 26 イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」

27 このとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話しておられるのを
不思議に思った。しかし、だれも、「何を求めておられるのですか。」とも、
「なぜ彼女と話しておられるのですか。」とも言わなかった。 28 女は、自分の
水がめを置いて町へ行き、人々に言った。 29 「来て、見てください。私のした
ことを全部を私に言った人がいるのです。この方がキリストなのでしょうか。」
30 そこで、彼らは町を出て、イエスのほうへやって来た。 31 そのころ、弟子た
ちはイエスに、「先生。召し上がってください。」とお願いした。 32 しかし、
イエスは彼らに言われた。「わたしには、あなたがたの知らない食物があり
ます。」 33 そこで、弟子たちは互いに言った。「だれか食べる物を持って来た
のだろうか。」 34 イエスは彼らに言われた。「わたしを遣わした方のみこころを
行ない、そのみわざを成し遂げることが、わたしの食物です。 35 あなたがた
は、『刈り入れ時が来るまでに、まだ四か月ある。』と言ってはいませんか。
さあ、わたしの言うことを聞きなさい。目を上げて畑を見なさい。色づいて、
刈り入れるばかりになっています。 36 すでに、刈る者は報酬を受け、永遠のい
のちに入れられる実を集めています。それは蒔く者と刈る者がともに喜ぶため

です。 37 こういうわけで、『ひとりが種を蒔き、ほかの者が刈り取る。』という
ことわざは、ほんとうなのです。 38 わたしは、あなたがたに自分で労苦しな
かったものを刈り取らせるために、あなたがたを遣わしました。ほかの人々が
労苦して、あなたがたはその労苦の実を得ているのです。」
39 さて、その町のサマリヤ人のうち多くの者が、「あの方は、私がしたこ
と全部を私に言った。」と証言したその女のことばによってイエスを信じた。
40 そこで、サマリヤ人たちはイエスのところに来たとき、自分たちのところに
滞在してくださるように願った。そこでイエスは二日間そこに滞在された。
41 そして、さらに多くの人々が、イエスのことばによって信じた。 42 そして彼
らはその女に言った。「もう私たちは、あなたが話したことによって信じてい
るのではありません。自分で聞いて、この方がほんとうに世の救い主だと知っ
ているのです。」
43 さて、二日の後、イエスはここを去って、ガリラヤへ行かれた。 44 イエス
ご自身が、「預言者は自分の故郷では尊ばれない。」と証言しておられたから
である。 45 そういうわけで、イエスがガリラヤに行かれたとき、ガリラヤ人は
イエスを歓迎した。彼らも祭りに行っていたので、イエスが祭りの間にエルサ
レムでなさったすべてのことを見ていたからである。
46 イエスは再びガリラヤのカナに行かれた。そこは、かつて水をぶどう酒
にされた所である。さて、カペナウムに病気の息子がいる王室の役人がいた。
47 この人は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞いて、イエスのとこ
ろへ行き、下って来て息子をいやしてくださるように願った。息子が死にかか
っていたからである。 48 そこで、イエスは彼に言われた。「あなたがたは、
しるしと不思議を見ないかぎり、決して信じない。」 49 その王室の役人はイ
エスに言った。「主よ。どうか私の子どもが死なないうちに下って来てください。」 50 イエスは彼に言われた。「帰って行きなさい。あなたの息子は直っています。」その人はイエスが言われたことばを信じて、帰途についた。 51 彼が
下って行く途中、そのしもべたちが彼に出会って、彼の息子が直ったことを告
げた。 52 そこで子どもがよくなった時刻を彼らに尋ねると、「きのう、七時に
熱がひきました。」と言った。 53 それで父親は、イエスが「あなたの息子は直
っている。」と言われた時刻と同じであることを知った。そして彼自身と彼の
家の者がみな信じた。 54 イエスはユダヤを去ってガリラヤにはいられてから、
またこのことを第二のしるしとして行なわれたのである。

5

1 その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた。 2 さ
て、エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があ
って、五つの回廊がついていた。 3 その中に大ぜいの病人、盲人、足なえ、や
せ衰えた者が伏せっていた。 4-5 そこに、三十八年もの間、病気にかかってい
るの人がいた。 6 イエスは彼が伏せっているのを見、それがもう長い間のことな
の知って、彼に言われた。「よくなりたいか。」 7 病人は答えた。「主よ。
私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行
きかけると、もうほかの人が先に降りて行くのです。」 8 イエスは彼に言われ
た。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」 9 すると、その人はすぐに直っ
て、床を取り上げて歩き出した。
ところが、その日は安息日であった。 10 そこでユダヤ人たちは、そのいやさ
れた人に言った。「きょうは安息日だ。床を取り上げてはいけない。」 11 しか
し、その人は彼らに答えた。「私を直してくださった方が、『床を取り上げて
歩け。』と言われたのです。」 12 彼らは尋ねた。「『取り上げて歩け。』と言
った人はだれだ。」 13 しかし、いやされた人は、それがだれであるか知らなか
った。人が大ぜいそこにいる間に、イエスは立ち去られたからである。 14 その
後、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。「見なさい。あなたはよくなっ
た。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に
起こるから。」 15 その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を直してくれた方は
イエスだと告げた。 16 このためユダヤ人たちは、イエスを迫害した。イエスが
安息日にこのようなことをしておられたからである。 17 イエスは彼らに答えら
れた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働い
ているのです。」 18 このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとする
ようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等
しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである。
19 そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなた
がたに告げます。子は、父がしておられることを見て行なう以外には、自分か
らは何事も行なうことができません。父がなさることは何でも、子も同様に行

なうのです。 20 それは、父が子を愛して、ご自分のなさることをみな、子にお
示しになるからです。また、これよりもさらに大きなわざを子に示されます。
それは、あなたがたが驚き怪しむためです。 21 父が死人を生かし、いのちを
お与えになるように、子もまた、与えたいと思う者にいのちを与えます。 22 ま
た、父はだれをもさばかず、すべてのさばきを子にゆだねられました。 23 そ
れは、すべての者が、父を敬うように子を敬うためです。子を敬わない者は、
子を遣わした父をも敬いません。 24 まことに、まことに、あなたがたに告げま
す。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいの
ちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。 25 ま
こと、まことに、あなたがたに告げます。死人が神の子の声を聞く時が来ま
す。今がその時です。そして、聞く者は生きるのです。 26 それは、父がご自分
のうちにいのちを持っておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つ
ようにしてくださったからです。 27 また、父はさばきを行なう権を子に与え
られました。子は人の子だからです。 28 このことに驚いてはなりません。墓の中
にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。 29 善を行なった者は、
よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受ける
のです。

30 わたしは、自分からは何事も行なうことができません。ただ聞くとおりに
さばくのです。そして、わたしのさばきは正しいのです。わたし自身の望むこ
とを求めず、わたしを遣わした方のみこころを求めるからです。 31 もしわた
しだけが自分のことを証言するのなら、わたしの証言は真実ではありません。
32 わたしについて証言する方がほかにあるのです。その方のわたしについて証
言される証言が真実であることは、わたしが知っています。 33 あなたがたは、
ヨハネのところに人をやりましたが、彼は真理について証言しました。 34 と
いっても、わたしは人の証言を受けるのではありません。わたしは、あなたが
たが救われるために、そのことを言うのです。 35 彼は燃えて輝くともしびで
あり、あなたがたはしばらくの間、その光の中で楽しむことを願ったのです。
36 しかし、わたしにはヨハネの証言よりもすぐれた証言があります。父がわた
しに成し遂げさせようとしてお与えになったわざ、すなわちわたしが行なって
いるわざそのものが、わたしについて、父がわたしを遣わしたことを証言して
いるのです。 37 また、わたしを遣わした父ご自身がわたしについて証言して
おられます。あなたがたは、まだ一度もその御声を聞いたこともなく、御姿を
見たこともありません。 38 また、そのみことばをあなたがたのうちにとどめ
てもいません。父が遣わした者をあなたがたが信じないからです。 39 あなたが
たは、聖書の中に永遠のいのちがあると思うので、聖書を調べています。その
聖書が、わたしについて証言しているのです。 40 それなのに、あなたがたは、
いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。 41 わたしは人から
の栄誉は受けません。 42 ただ、わたしはあなたがたを知っています。あなたが
たのうちには、神の愛がありません。 43 わたしはわたしの父の名によって来
ましたが、あなたがたはわたしを受け入れません。ほかの人がその人自身の名
において来れば、あなたがたはその人を受け入れるのです。 44 互いの栄誉は
受けても、唯一の神からの栄誉を求めないあなたがたは、どうして信じること
ができますか。 45 わたしが、父の前にあなたがたを訴えようとしていると思っ
てはなりません。あなたがたを訴える者は、あなたがたが望みをおいているモ
ーセです。 46 もしあなたがたがモーセを信じているのなら、わたしを信じたは
ずです。モーセが書いたのはわたしのことだからです。 47 しかし、あなたがた
がモーセの書を信じないのであれば、どうしてわたしのことばを信じるでしょ
う。」

6

1 その後、イエスはガリラヤの湖、すなわち、テベリヤの湖の向こう岸へ行か
れた。 2 大ぜいの人の群れがイエスにつき従っていた。それはイエスが病人た
ちになさっていたしるしを見たからである。 3 イエスは山に登り、弟子たちと
ともにそこにすわられた。 4 さて、ユダヤ人の祭りである過越が間近になって
いた。 5 イエスは目を上げて、大ぜいの人の群れがご自分のほうに来るのを見
て、ピリポに言われた。「どこからパンを買って来て、この人々に食べさせよ
うか。」 6 もっとも、イエスは、ピリポをためしてこう言われたのであった。
イエスは、ご自分では、しようとしていることを知っておられたからである。
7 ピリポはイエスに答えた。「めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリの
パンでは足りません。」 8 弟子のひとりシモン・ペテロの兄弟アンデレがイエ
スに言った。 9 「ここに少年が大麦のパンを五つと小さい魚を二匹持っていま
す。しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょう。」 10 イエ

スは言われた。「人々をすわらせなさい。」その場所には草が多かった。そこ
で男たちはすわった。その数はおよそ五千人であった。 11 そこで、イエスはパ
ンを取り、感謝をささげてから、すわっている人々に分けてやられた。また、
小さい魚も同じようにして、彼らにほしいだけ分けられた。 12 そして、彼らが
十分食べたとき、弟子たちに言われた。「余ったパン切れを、一つもむだに捨
てないように集めなさい。」 13 彼らは集めてみた。すると、大麦のパン五つか
ら出て来たパン切れを、人々が食べたうえ、なお余ったもので十二のかごがい
っぱいになった。 14 人々は、イエスのなさったしるしを見て、「まことに、こ
の方こそ、世に来られるはずの預言者だ。」と言った。
15 そこで、イエスは、人々が自分を王とするために、むりやりに連れて行こ
うとしているのを知って、ただひとり、また山に退かれた。
16 夕方になって、弟子たちは湖畔に降りて行った。 17 そして、舟に乗り込
み、カペナウムのほうへ湖を渡っていた。すでに暗くなっていたが、イエスは
まだ彼らのところに来ておられなかった。 18 湖は吹きまくる強風に荒れ始め
た。 19 こうして、四、五千メートルほどこぎ出したころ、彼らは、イエスが湖
の上を歩いて舟に近づいて来られるのを見て、恐れた。 20 しかし、イエスは彼
らに言われた。「わたしだ。恐れることはない。」 21 それで彼らは、イエスを
喜んで舟に迎えた。舟はほどなく目的の地に着いた。
22 その翌日、湖の向こう岸にいた群衆は、そこには小舟が一隻あっただけ
で、ほかにはなかったこと、また、その舟にイエスは弟子たちといっしょに乗
られないで、弟子たちだけが行ったということに気づいた。 23 しかし、主が
感謝をささげられてから、人々がパンを食べた場所の近くに、テベリヤから数
隻の小舟が来た。 24 群衆は、イエスがそこにおられず、弟子たちもいないこ
とを知ると、自分たちもその小舟に乗り込んで、イエスを捜してカペナウムに
来た。 25 そして湖の向こう側でイエスを見つけたとき、彼らはイエスに言った。「先生。いつここにおいでになりましたか。」 26 イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜
しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。
27 なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物の
ために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人
の子を父すなわち神が認証されたからです。」 28 すると彼らはイエスに言った。「私たちは、神のわざを行なうために、何をすべきでしょうか。」 29 イエ
スは答えて言われた。「あなたがたが、神が遣わした者を信じることが、それ
神のわざです。」 30 そこで彼らはイエスに言った。「それでは、私たちが見て
あなたを信じるために、しるしとして何をしてくださいますか。どのようなこ
とをなさいますか。 31 私たちの先祖は、荒野でマナを食べました。『彼は彼ら
に天からパンを与えて食べさせた。』と書いてあるとおりです。」 32 イエスは
彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセは天
なたがたに天からのパンを与えたのではありません。しかし、わたしの父は、
あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。 33 というのは、神のパ
ンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。」 34 そこで彼
らはイエスに言った。「主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。」
35 イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して
飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渇くことがあ
りません。 36 しかし、あなたがたはわたしを見ながら信じようとしないと、わ
たしはあなたがたに言いました。 37 父がわたしにお与えになる者はみな、わた
しのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨て
ません。 38 わたしが天から下って来たのは、自分のこころを行なうためではな
く、わたしを遣わした方のみこころを行なうためです。 39 わたしを遣わした方
のみこころは、わたしに与えてくださったすべての者を、わたしがひとりも失
うことなく、ひとりひとりを終わりの日によみがえらせることです。 40 事実、
わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持つこと
です。わたしはその人たちをひとりひとり終わりの日によみがえらせます。」
41 ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から下って来たパンである。」と
言われたので、イエスについてつぶやいた。 42 彼らは言った。「あれはヨセフ
の子で、われわれはその父も母も知っている、そのイエスではないか。どうし
て今彼は『わたしは天から下って来た。』と言うのか。」 43 イエスは彼らに
答えて言われた。「互いにつぶやくのはやめなさい。 44 わたしを遣わした父が
引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。わ
たしは終わりの日にその人をよみがえらせます。 45 預言者の書に、『そして、
彼らはみな神によって教えられる。』と書かれていますが、父から聞いて学ん
だ者はみな、わたしのところに来ます。 46 だれも神を見た者はありません。た

だ神から出た者、すなわち、この者だけが、父を見たのです。 47 まことに、まことに、あなたがたに告げます。信じる者は永遠のいのちを持ちます。 48 わたしはいのちのパンです。 49 あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死にました。 50 しかし、これは天から下って来たパンで、それを食べると死ぬことがないのです。 51 わたしは、天から下って来た生けるパンです。だれでもこのパンを食べるなら、永遠に生きます。またわたしが与えようとするパンは、世のいのちのための、わたしの肉です。」

52 すると、ユダヤ人たちは、「この人は、どのようにしてその肉を私たちに与えて食べさせることができるのか。」と言って互いに議論し合った。 53 イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。人の子の肉を食べ、またその血を飲まなければ、あなたがたのうちに、いのちはありません。 54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。 55 わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物だからです。 56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしのうちにとどまり、わたしも彼のうちにとどまります。 57 生ける父がわたしを遣わし、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者も、わたしによって生きるのです。 58 これは、天から下って来たパンです。あなたがたの先祖が食べて死んだようなものではありません。このパンを食べる者は永遠に生きます。」 59 これは、イエスがカペナウムで教えられたとき、会堂で話されたことである。

60 そこで、弟子たちのうちの多くの者が、これを聞いて言った。「これはひどいことばだ。そんなことをだれが聞いておられようか。」 61 しかし、イエスは、弟子たちがこうつぶやいているのを、知っておられ、彼らに言われた。「このことであなたがたはつまずくのか。 62 それでは、もし人の子がもといた所に上るのを見たら、どうなるのか。 63 いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことばは、霊であり、またいのちです。 64 しかし、あなたがたのうちには信じない者がいます。」――イエスは初めから、信じない者がだれであるか、裏切る者がだれであるかを、知っておられたのである。―― 65 そしてイエスは言われた。「それだから、わたしはあなたがたに、『父のみこころによるのでないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできない。』と言ったのです。」

66 こういうわけで、弟子たちのうちの多くの者が離れ去って行き、もはやイエスとともに歩かなかった。 67 そこで、イエスは十二弟子に言われた。「まさか、あなたがたも離れたいと思うのではないでしょう。」 68 すると、シモン・ペテロが答えた。「主よ。私たちがだれのところに行きましょう。あなたは、永遠のいのちのことばを持っておられます。 69 私たちは、あなたが神の聖者であることを信じ、また知っています。」 70 イエスは彼らに答えられた。「わたしがあなたがた十二人を選んだのではありませんか。しかしそのうちのひとりは悪魔です。」 71 イエスはイスカリオテ・シモンの子ユダのことを言われたのであった。このユダは十二弟子のひとりであったが、イエスを売ろうとしていた。

7

1 その後、イエスはガリラヤを巡っておられた。それは、ユダヤ人たちがイエスを殺そうとしていたので、ユダヤを巡りたいとは思われなかったからである。 2 さて、仮庵の祭りというユダヤ人の祝いが近づいていた。 3 そこで、イエスの兄弟たちはイエスに向かって言った。「あなたの弟子たちもあなたがしているわざを見ることができるように、ここを去ってユダヤに行きなさい。 4 自分から公の場に出たいと思いながら、隠れた所で事を行なう者はありません。あなたがこれらの事を行なうのなら、自分を世に現わしなさい。」 5 兄弟たちもイエスを信じていなかったのである。 6 そこでイエスは彼らに言われた。「わたしの時はまだ来ていません。しかし、あなたがたの時はいつでも来ているのです。 7 世はあなたがたを憎むことはできません。しかしわたしを憎んでいます。わたしが、世について、その行ないが悪いことをあかしするからです。 8 あなたがたは祭りに上って行きなさい。わたしはこの祭りには行きません。わたしの時がまだ満ちていないからです。」 9 こう言って、イエスはガリラヤにとどまられた。

10 しかし、兄弟たちが祭りに上ったとき、イエスご自身も、公にではなく、いわば内密に上って行かれた。 11 ユダヤ人たちは、祭りのとき、「あの方はどこにおられるのか。」と言って、イエスを捜していた。 12 そして群衆の間には、イエスについて、いろいろとひそひそ話がされていた。「良い人だ。」と言う者もあり、「違う。群衆を惑わしているのだ。」と言う者もいた。 13 しか

し、ユダヤ人たちを恐れたため、イエスについて公然と語ることは控えていた。[14]しかし、祭りもすでに中ごろになったとき、イエスは宮に上って教えを始められた。[15]ユダヤ人たちは驚いて言った。「この人は正規の学問をしたことがないのに、どうして学問があるのか。」[16]そこでイエスは彼らに答えられた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わされた方のものです。[17]だれでも神のみこころを行なおうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。[18]自分から語る者は、自分の栄光を求めます。しかし自分を遣わした方の栄光を求める者は、その人には不正がありません。[19]モーセは律法を与えたのではありませんか。それなのに、あなたがたは、だれひとりとして律法を守っていません。なぜわたしを殺そうとするのですか。」[20]しざわいは施しを受けているあなたは悪霊につかれています。だれがあなたを殺そうというのですか。」[21]イエスは彼らに答えて言われた。「わたしは一つのことをしました。――だれもが驚いています。[22]モーセは割礼を与えました。――それで、あなたがたは安息日にも人に割礼を施します。モーセから先祖たちからです。[23]もし、人がモーセの律法が破られないようにと、安息日に割礼をするなら、わたしが安息日に人の全身をすこやかにしたからといって、わたしに腹を立てるのですか。[24]うわべによって人をさばかないで、正しいさばきをしなさい。」[25]そこで、エルサレムのある人たちが言った。「この人は、彼らが殺そうとしている人ではないか。[26]見なさい。ここの人は公然と話しているのに、彼らはこの人に何も言わない。議員たちは、ほんとうに知ったのだろうか。[27]けれども、私たちはこの人がどこからあるのかを知っている。しかし、キリストが来られるときには、だれもどこからあるのかを知っている者はいないのだ。」[28]イエスは、宮で教えているときに、大声でこうあげて言われた。「あなたがたはわたしを知っており、わたしがどこからあるかとも知っています。しかし、わたしは自分から来たのではなく、わたしを遣わした方は真実です。あなたがたはその方を知っていません。[29]わたしはその方を知っています。なぜなら、わたしはその方のもとから来ており、その方がわたしを遣わしたからです。」[30]そこで彼らはイエスを捕えようとしたが、だれもイエスに手をかけなかった。まだその時が来ていなかったからである。[31]群衆のうちの多くの者がイエスを信じて言った。「キリストが来られても、この方がしてい
るよりもっとすばらしいことを行なうだろうか。」[32]パリサイ人は、群衆がイエスについてこのことをつぶやいているのを耳にした。そこで祭司長たちとパリサイ人は、役人たちを遣わして、イエスを捕えようとした。[33]そこでイエスは言われた。「しばらくの間、わたしはあなたがたといっしょにいて、それからわたしを遣わした方のもとに行きます。[34]あなたがたはわたしを捜しても見つけることはできません。また、わたしのいる所に来ることもできません。」[35]そこでユダヤ人たちは互いに言った。「この人はどこへ行こうとするのか。われわれはこの人を見つけることができないというのか。ギリシヤ人の中に離散している人々のところへ行って、ギリシヤ人を教えるのか。[36]『あなたがたはわたしを捜すが、見つけることはできない。』と言ったこのことばは、どういう意味だろうか。」

[37]さて、祭りの終わりの大いなる日に、イエスは立って、大声で言われた。「だれでも渇いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。[38]わたしを信じる者は、聖書が言っているとおりに、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出ることになる。」[39]これは、イエスを信じる者が後になってから受けるべき御霊のことを言われたのである。イエスはまだ栄光を受けておられなかったので、御霊はまだ注がれていなかったからである。[40]このことばを聞いて、群衆のうちのある者は、「あの方は、確かにあの預言者なのだ。」と言い、[41]ほかのある者は、「この方はキリストだ。」と言った。またある者は言った。「まさか、キリストはガリラヤからは出ないだろう。[42]キリストはダビデの子孫から、またダビデがいたベツレヘムの村から出る、と聖書が言っているではないか。」[43]そこで、群衆の間にイエスのことで分裂が起こった。[44]その中にはイエスを捕えたいと思った者もいたが、イエスに手をかけた者はなかった。

[45]それから役人たちは祭司長、パリサイ人たちのもとに帰って来た。彼らは役人たちに言った。「なぜあの人を連れて来なかったのか。」[46]役人たちは答えた。「あの人が話すように話した人は、いまだかつてありません。」[47]すると、パリサイ人が答えた。「おまえたちも惑わされているのか。[48]議員とかパリサイ人のうちで、だれかイエスを信じた者があったか。[49]だが、律法を知ら

ないこの群衆は、のろわれている。」50彼らのうちのひとりで、イエスのもと
に来たことのあるニコデモが彼らに言った。51「私たちの律法では、まずその
人から直接聞き、その人が何をしているのか知ったうえでなければ、判決を下
さないのではないか。」52彼らは答えて言った。「あなたもガリラヤの出身な
のか。調べてみなさい。ガリラヤから預言者は起こらない。」53［そして人々
はそれぞれ家に帰った。

8

1イエスはオリーブ山に行かれた。2そして、朝早く、イエスはもう一度宮に
はいられた。民衆はみな、みもとに寄って来た。イエスはすわって、彼らに教
え始められた。3すると、律法学者とパリサイ人が、姦淫の場で捕えられたひ
とりの女を連れて来て、真中に置いてから、4イエスに言った。「先生。この
女は姦淫の現場でつかまえられたのです。5モーセは律法の中で、こういう女を
石打ちにするように命じています。ところで、あなたは何と言われますか。」
6彼らはイエスをためしてこう言ったのである。それは、イエスを告発する理由
を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておら
れた。7けれども、彼らが問い続けてやめなかったので、イエスは身を起こし
て言われた。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさ
い。」8そしてイエスは、もう一度身をかがめて、地面に書かれた。9彼らはそ
れを聞くと、年長者たちから始めて、ひとりひとり出て行き、イエスがひとり
残された。女はそのままそこにいた。10イエスは身を起こして、その女に言わ
れた。「婦人よ。あの人たちは今どこにいますか。あなたを罪に定める者はな
かったのですか。」11彼女は言った。「だれもいません。」そこで、イエスは
言われた。「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今からは決して罪
を犯してはなりません。」］
12イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたし
に従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」
13そこでパリサイ人はイエスに言った。「あなたは自分のことを自分で証言し
ています。だから、あなたの証言は真実ではありません。」14イエスは答えて
て、彼らに言われた。「もしこのわたしが自分のことを証言するなら、その証
言は真実です。わたしは、わたしがどこから来たか、また、どこへ行くかを知
っているからです。しかしあなたがたは、わたしがどこから来たのか、またど
こへ行くのか知りません。15あなたがたは肉によってさばきます。わたしはだ
れをもさばきません。16しかし、もしわたしがさばくなら、そのさばきは
正しいのです。なぜなら、わたしひとりではなく、わたしとわたしを遣わした
方とがさばくのだからです。17あなたがたの律法にも、ふたりの証言は真実
であると書かれています。18わたしが自分の証人であり、また、わたしを遣わ
した父が、わたしについてあかしされます。」19すると、彼らはイエスに言っ
た。「あなたの父はどこにいるのですか。」イエスは答えられた。「あなたが
たは、わたしをも、わたしの父をも知りません。もし、あなたがたがわたしを
知っていたなら、わたしの父をも知っていたでしょう。」20イエスは宮で教え
られたとき、献金箱のある所でこのことを話された。しかし、だれもイエス
を捕えなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。
21イエスはまた彼らに言われた。「わたしは去って行きます。あなたがたは
わたしを捜すけれども、自分の罪の中で死にます。わたしが行く所に、あなた
がたは来ることができません。」22そこで、ユダヤ人たちは言った。「あの人
は『わたしが行く所に、あなたがたは来ることができない。』と言うが、自殺
するつもりなのか。」23それでイエスは彼らに言われた。「あなたがたが来た
のは下からであり、わたしが来たのは上からです。あなたがたはこの世の者で
あり、わたしはこの世の者ではありません。24それでわたしは、あなたがた
が自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。もしあなたがたが、わ
たしのことを信じなければ、あなたがたは自分の罪の中で死ぬのです。」25そ
こで、彼らはイエスに言った。「あなたはだれですか。」イエスは言われた。
「初めからわたしがあなたがたに話して来たことは何でしたか。26あなたがた
について言うべきこと、さばくべきことがたくさんあります。しかし、わたし
を遣わした方は真実であって、わたしはその方から聞いたことをそのまま世に
告げるのです。」27彼らは、イエスが父のことを語っておられたことを悟らな
かった。28イエスは言われた。「あなたがたが人の子を上げてしまうと、その
時、あなたがたは、わたしが何であるか、また、わたしがわたし自身からは何
事もせず、ただ父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話している
ことを、知るようになります。29わたしを遣わした方はわたしとともにおられ
ます。わたしをひとり残されることはありません。わたしがいつも、そのみこ

ころにかなうことを行なうからです。」 30 イエスがこれらのことを話しておられると、多くの者がイエスを信じた。

31 そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたが
たが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子
です。 32 そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にしま
す。」 33 彼らはイエスに答えた。「私たちはアブラハムの子孫であって、決し
てだれの奴隷になったこともありません。あなたはどうして、『あなたがたは
自由になる。』と言われるのですか。」 34 イエスは彼らに答えられた。「まこ
と に、まことに、あなたがたに告げます。罪を行なっている者はみな、罪の奴
隷ででもいます。 35 奴隷はいつまでも家にいるのではありません。しかし、息子はいつ
までもいます。 36 ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがた
はほんとうに自由なのです。 37 わたしは、あなたがたがアブラハムの子孫で
あることを知っています。しかしあなたがたはわたしを殺そうとしています。
わたしのことばが、あなたがたのうちにはいっていないからです。 38 わたしは
父のもとで見たことを話しています。ところが、あなたがたは、あなたがたの
父から示されたことを行なうのです。」 39 彼らは答えて言った。「私たちの父
はアブラハムです。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたがアブラハムの
子どもなら、アブラハムのわざを行ないなさい。 40 ところが今あなたがたは、
神から聞いた真理をあなたがたに話しているこのわたしを、殺そうとしてい
ます。アブラハムはそのようなことはしなかったのです。 41 あなたがたは、あ
なたがたの父のわざを行なっています。」彼らは言った。「私たちは不品行に
よって生まれた者ではありません。私たちにはひとりの父、神がありません。」
42 イエスは言われた。「神がもしあなたがたの父であるなら、あなたがたはわ
たしを愛するはずです。なぜなら、わたしは神から出て来てここにいるからで
す。わたしは自分で来たのではなく、神がわたしを遣わしたのです。 43 あなた
がたは、なぜわたしの話していることがわからないのでしょう。それは、あな
たがたがわたしのことばに耳を傾けることができないからです。 44 あなたがた
は、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を
成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立っ
てはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自
分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽
りの父であるからです。 45 しかし、このわたしは真理を話しているために、あ
なたがたはわたしを信じません。 46 あなたがたのうちだれか、わたしに罪があ
ると責める者がいますか。わたしが真理を話しているなら、なぜわたしを信じ
ないのですか。 47 神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あ
なたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」

48 ユダヤ人たちは答えて、イエスに言った。「私たちが、あなたはサマリヤ
人で、悪霊につかれていると言うのは当然ではありませんか。」 49 イエスは
答えられた。「わたしは悪霊につかれてはいません。わたしは父を敬っていま
す。しかしあなたがたは、わたしを卑しめています。 50 しかし、わたしはわ
たしの栄誉を求めません。それをお求めになり、さばきをなさる方がおられま
す。 51 まことに、まことに、あなたがたに告げます。だれでもわたしのことば
を守るならば、その人は決して死を見ることがありません。」 52 ユダヤ人たち
はイエスに言った。「あなたが悪霊につかれていることが、今こそわかりました。
アブラハムは死に、預言者たちも死にました。しかし、あなたは、『だれ
でもわたしのことばを守るならば、その人は決して死を味わうことがない。』
と言うのです。 53 あなたは、私たちの父アブラハムよりも偉大なのですか。
そのアブラハムは死んだのです。預言者たちもまた死にました。あなたは、自
分自身をだれだと言うのですか。」 54 イエスは答えられた。「わたしがもし自
分自身に栄光を帰するなら、わたしの栄光はむなしいものです。わたしに栄光
を与える方は、わたしの父です。この方のことを、あなたがたは『私たちの神
である。』と言っています。 55 けれどもあなたがたはこの方を知ってはいませ
ん。しかし、わたしは知っています。もしわたしがこの方を知らないと言うな
ら、わたしはあなたがたと同様に偽り者となるでしょう。しかし、わたしはこ
の方を知っており、そのみことばを守っています。 56 あなたがたの父アブラハ
ムは、わたしの日を見ることを思って大いに喜びました。彼はそれを見て、喜
んだのです。」 57 そこで、ユダヤ人たちはイエスに向かって言った。「あなた
はまだ五十歳になっていないのにアブラハムを見たのですか。」 58 イエスは彼
らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが
生まれる前から、わたしはいるのです。」 59 すると彼らは石を取ってイエスに
投げつけようとした。しかし、イエスは身を隠して、宮から出て行かれた。

9

1 またイエスは道の途中で、生まれつきの盲人を見られた。 2 弟子たちは彼に
ついてイエスに質問して言った。「先生。彼が盲目に生まれついたのは、だれ
が罪を犯したからですか。この人ですか。その両親ですか。」 3 イエスは答え
られた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。神のわざが
この人に現われるためです。 4 わたしたちは、わたしを遣わした方のわざを、
昼の間に行なわなければなりません。だれも働くことのできない夜が来ます。
5 わたしが世にいる間、わたしは世の光です。」 6 イエスは、こう言ってから、
地面につばきをして、そのつばきで泥を作られた。そしてその泥を盲人の目に
塗って言われた。 7 「行って、シロアム（訳して言えば、遣わされた者）の池で
洗いなさい。」そこで、彼は行って、洗った。すると、見えるようになって、
帰って行った。 8 近所の人たちや、前に彼がこじきをしていたのを見ていた人
たちが言った。「これはすわって物ごいをしていた人ではないか。」 9 ほかの
人は、「これはその人だ。」と言い、またほかの人は、「そうではない。ただ
その人に似ているだけだ。」と言った。当人は、「私がその人です。」と言っ
た。 10 そこで、彼らは言った。「それでは、あなたの目はどのようにしてあい
たのですか。」 11 彼は答えた。「イエスという方が、泥を作って、私の目に塗
り、『シロアムの池に行って洗いなさい。』と私に言われました。それで、行
って洗うと、見えるようになりました。」 12 また彼らは彼に言った。「その人
はどこにいるのですか。」彼は「私は知りません。」と言った。

13 彼らは、前に盲目であったその人を、パリサイ人たちのところに連れて行
った。 14 ところで、イエスが泥を作って彼の目をあけられたのは、安息日で
あった。 15 こういうわけでもう一度、パリサイ人も彼に、どのようにして見
えるようになったかを尋ねた。彼は言った。「あの方が私の目に泥を塗ってく
ださって、私が洗いました。私はいま見えるのです。」 16 すると、パリサイ人
の中のある人々が、「その人は神から出たのではない。安息日を守らないから
だ。」と言った。しかし、ほかの者は言った。「罪人である者に、どうしてこ
のような しるしを行なうことができよう。」そして、彼らの間に、分裂が起
こった。 17 そこで彼らはもう一度、盲人に言った。「あの人が目をあけてくれた
ことで、あの人を何だと思っているのか。」彼は言った。「あの方は預言者で
す。」 18 しかしユダヤ人たちは、目が見えるようになったこの人について、彼
が盲目であったが見えるようになったということを信ぜず、ついにその両親を
呼び出して、

19 尋ねて言った。「この人はあなたがたの息子で、生まれつき盲目だった
とあなたがたが言っている人ですか。それでは、どうしていま見えるのです
か。」 20 そこで両親は答えた。「私たちは、これが私たちの息子で、生まれつ
き盲目だったことを知っています。 21 しかし、どのようにしていま見えるのか
は知りません。また、だれがあれの目をあけたのか知りません。あれに聞いて
ください。あれはもうおとなです。自分のことは自分で話すでしょう。」

22 彼の両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れたからであった。すでに
ユダヤ人たちは、イエスをキリストであると告白する者があれば、その者を会
堂から追放すると決めていたからである。 23 そのために彼の両親は、「あれは
もうおとなです。あれに聞いてください。」と言ったのである。

24 そこで彼らは、盲目であった人をもう一度呼び出して言った。「神に栄光
を帰しなさい。私たちはあの人が罪人であることを知っているのだ。」 25 彼
は答えた。「あの方が罪人かどうか、私は知りません。ただ一つのことだけ知
っています。私は盲目であったのに、今は見えるということです。」 26 そこで
彼らは言った。「あの人はおまえに何をしたのか。どのようにしてその目をあ
けたのか。」 27 彼は答えた。「もうお話ししたのですが、あなたがたは聞いて
くれませんでした。なぜもう一度聞こうとするのです。あなたがたも、あの方
の弟子になりたいのですか。」 28 彼らは彼をののしって言った。「おまえもあ
の者の弟子だ。しかし私たちはモーセの弟子だ。 29 私たちは、神がモーセにお
話しになったことは知っている。しかし、あの者については、どこから来たの
か知らないのだ。」 30 彼は答えて言った。「これは、驚きました。あなたがた
は、あの方がどこから来られたのか、ご存じないと言う。しかし、あの方は私
の目をおあけになったのです。

31 神は、罪人の言うことはお聞きになりません。しかし、だれでも神を敬
い、そのみこころを行なうなら、神はその人の言うことを聞いてくださると、
私たちは知っています。 32 盲目に生まれついた者の目をあけた者があるなどと
は、昔から聞いたこともありません。 33 もしあの方が神から出ておられるので
なかったら、何もできないはずです。」 34 彼らは答えて言った。「おまえは全

く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い
出した。
35 イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。
「あなたは人の子を信じますか。」36 その人は答えた。「主よ。その方はどな
たでしょうか。私がその方を信じることができますように。」37 イエスは彼
に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれで
す。」38 彼は言った。「主よ。私は信じます。」そして彼はイエスを拝した。
39 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。
それは、目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためで
す。」
40 パリサイ人の中でイエスとともにいた人々が、このことを聞いて、イエ
スに言った。「私たちも盲目なのですか。」41 イエスは彼らに言われた。「も
しあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しか
し、あなたがたは今、『私たちは目が見える。』と言っています。あなたがた
の罪は残るのです。」

10

1 「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いに門からはいらな
いで、ほかの所を乗り越えて来る者は、盗人で強盗です。2 しかし、門からは
いる者は、その羊の牧者です。3 門番は彼のために開き、羊はその声を聞き分
けます。彼は自分の羊をその名で呼んで連れ出します。4 彼は、自分の羊をみな
引き出すと、その先頭に立って行きます。すると羊は、彼の声を知っているの
で、彼について行きます。5 しかし、ほかの人には決してついて行きません。
かえって、その人から逃げ出します。その人たちの声を知らないからです。」
6 イエスはこのたとえを彼らにお話しになったが、彼らは、イエスの話されたこ
とが何のことかよくわからなかった。
7 そこで、イエスはまた言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げ
ます。わたしは羊の門です。8 わたしの前に来た者はみな、盗人で強盗です。
羊は彼らの言うことを聞かなかったのです。9 わたしは門です。だれでも、わた
しを通ってはいるなら、救われます。また安らかに出入りし、牧草を見つけま
す。10 盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのため
です。わたしが来たのは、羊がいのちを得、またそれを豊かに持つためです。
11 わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。12 牧者
でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去
りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。13 そ
れは、彼が雇い人であって、羊のことを心にかけていないからです。14 わたし
は良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのもの
は、わたしを知っています。15 それは、父がわたしを知っておられ、わたしが
父を知っているのと同様です。また、わたしは羊のためにわたしのいのちを捨
てます。16 わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊があります。わたし
はそれをも導かなければなりません。彼らはわたしの声に聞き従い、一つの群
れ、ひとりの牧者となるのです。17 わたしが自分のいのちを再び得るために
自分のいのちを捨てるからこそ、父はわたしを愛してくださいます。18 だれ
も、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨て
るのです。わたしには、それを捨てる権威があり、それをもう一度得る権威が
あります。わたしはこの命令をわたしの父から受けたのです。」19 このみこと
ばを聞いて、ユダヤ人たちの間にまた分裂が起こった。20 彼らのうちの多く
の者が言った。「あれは悪霊につかれて気が狂っている。どうしてあなたがた
は、あの人の言うことに耳を貸すのか。」21 ほかの者は言った。「これは悪霊
につかれた者のことばではない。悪霊がどうして盲人の目をあけることができ
ようか。」22 そのころ、エルサレムで、宮きよめの祭りがあった。23 時は冬
であった。イエスは、宮の中で、ソロモンの廊を歩いておられた。24 それでユ
ダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気
をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください。」25 イエスは彼らに答えられた。「わたしは話しました。しかし、あな
たがたは信じないのです。わたしが父の御名によって行なうわざが、わたしに
ついて証言しています。26 しかし、あなたがたは信じません。それは、あなた
がたがわたしの羊に属していないからです。27 わたしの羊はわたしの声を聞き
分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来
ます。28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることが
なく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。
29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわ

たしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。 30 わたしと父とは一つ
です。」 31 ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上
げた。 32 イエスは彼らに答えられた。「わたしは、父から出た多くの良いわざ
を、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打ち
にしようとするのですか。」 33 ユダヤ人たちはイエスに答えた。「良いわざの
ためにあなたを石打ちにするのではありません。冒涜のためです。あなたは人
間でありながら、自分を神とするからです。」 34 イエスは彼らに答えられた。
「あなたがたの律法に、『わたしは言った、あなたがたは神である。』と書い
てはありませんか。 35 もし、神のことばを受けた人々を、神と呼んだとすれ
ば、聖書は廃棄されるものではないから、 36 『わたしは神の子である。』と言
たしが者につついて、『神を冒涜している。』と言うのですか。 37 もしわたしが、
わたしの父のみわざを行なっていないのなら、わたしを信じないでいなさい。
38 しかし、もし行なっているなら、たとわたしの言うことが信じられなくても
、わざを信用しなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしが父にいること
を、あなたがたが悟り、また知るためです。」 39 そこで、彼らはまたイエス
を捕えようとした。しかし、イエスは彼らの手からのがれられた。 40 そして、
イエスはまたヨルダンを渡って、ヨハネが初めにバプテスマを授けていた所に
行かれ、そこに滞在された。 41 多くの人々がイエスのところに来た。彼らは、
「ヨハネは何一つしるしを行なわなかったけれども、彼がこの方について話し
たことはみな真実であった。」と言った。 42 そして、その地方で多くの人々が
イエスを信じた。

11

1 さて、ある人が病気にかかっていた。ラザロといって、マリヤとその姉妹マ
ルタとの村の出で、ベタニヤの人であった。 2 このマリヤは、主に香油を塗り、
髪の毛でその足をぬぐったマリヤであって、彼女の兄弟ラザロが病んでいたの
である。 3 そこで姉妹たちは、イエスのところに使いを送って、言った。「主
よ。ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気です。」 4 イエスはこれ
を聞いて、言われた。「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光
のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです。」 5 イエス
はマルタとその姉妹とラザロとを愛しておられた。 6 そのようなわけで、イエ
スは、ラザロが病んでいることを聞かれたときも、そのおられた所になお二日
とどまられた。 7 その後、イエスは、「もう一度ユダヤに行こう。」と弟子たち
に言われた。 8 弟子たちはイエスに言った。「先生。たった今ユダヤ人たち
が、あなたを石打ちにしようとしていたのに、またそこにおいでになるのです
か。」 9 イエスは答えられた。「昼間は十二時間あるでしょう。だれでも、昼
間歩けば、つまずくことはありません。この世の光を見ているからです。 10 し
かし、夜歩けばつまずきます。光がその人のうちにないからです。」 11 イエス
は、このように話され、それから、弟子たちに言われた。「わたしたちの友ラ
ザロは眠っています。しかし、わたしは彼を眠りからさましに行くのです。」
12 そこで弟子たちはイエスに言った。「主よ。眠っているのなら、彼は助かる
でしょう。」 13 しかし、イエスは、ラザロの死のことを言われたのである。だ
が、彼らは眠った状態のことを言われたものと思った。 14 そこで、イエスはそ
のとき、はっきりと彼らに言われた。「ラザロは死んだのです。 15 わたしは、
あなたがたのため、すなわちあなたがたが信じるためには、わたしがその場に
居合わせなかったことを喜んでいます。さあ、彼のところへ行きましょう。」
16 そこで、デドモと呼ばれるトマスが、弟子の仲間に言った。「私たちも行っ
て、主といっしょに死のうではないか。」

17 それで、イエスがおいでになってみると、ラザロは墓の中に入れられて四
日もたっていた。 18 ベタニヤはエルサレムに近く、三千メートルほど離れた
所にあった。 19 大ぜいのユダヤ人がマルタとマリヤのところに来ていた。その
兄弟のことについて慰めるためであった。 20 マルタは、イエスが来られたと聞
いて迎えに行った。マリヤは家ですわっていた。 21 マルタはイエスに向かって
言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかったで
しょうに。 22 今でも私は知っております。あなたが神にお求めになることは何
でも、神はあなたにお与えになります。」 23 イエスは彼女に言われた。「あな
たの兄弟はよみがえります。」 24 マルタはイエスに言った。「私は、終わりの
日のよみがえりの時に、彼がよみがえることを知っております。」 25 イエスは
言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、
死んでも生きるのです。 26 また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬ
ことがありません。このことを信じますか。」 27 彼女はイエスに言った。「は

い。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストである、と信じております。」28こう言ってから、帰って行って、姉妹マリヤを呼び、「先生が見えています。あなたを呼んでおられます。」とそっと言った。29マリヤはそれを聞くと、すぐ立ち上がって、イエスのところに行った。
30さてイエスは、まだ村にはいらないで、マルタが出迎えた場所におられた。31マリヤとともに家にいて、彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がって出て行くのを見て、マリヤが墓に泣きに行くのだろうと思い、彼女について行った。32マリヤは、イエスのおられた所に来て、お目にかかると、その足もとにひれ伏して言った。「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかったでしょうに。」33そこでイエスは、彼女が泣き、彼女といっしょに来たユダヤ人たちも泣いているのをご覧になると、霊の憤りを覚え、心の動揺を感じて、34言われた。「彼をどこに置きましたか。」彼らはイエスに言った。「主よ。来てご覧ください。」35イエスは涙を流された。36そこで、ユダヤ人たちは言った。「ご覧なさい。主はどんなに彼を愛しておられたことか。」37しかし、「盲人の目をあけたこの方が、あの人を死なせないでおくことはできなかったのか。」と言う者もいた。
38そこでイエスは、またも心のうちに憤りを覚えながら、墓に来られた。墓はほら穴であって、石がそこに立てかけてあった。39イエスは言われた。「その石を取りのけなさい。」死んだ人の姉妹マルタは言った。「主よ。もう臭くなっておりましょう。四日になりますから。」40イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」41そこで、彼らは石を取りのけた。イエスは目を上げて、言われた。「父よ。わたしの願いを聞いてくださったことを感謝いたします。42わたしは、あなたがいつもわたしの願いを聞いてくださることを知っておりました。しかしわたしは、回りにいる群衆のために、この人々が、あなたがわたしをお遣わしになったことを信じるようになるために、こう申したのです。」43そして、イエスはそう言われると、大声で叫ばれた。「ラザロよ。出て来なさい。」44すると、死んでいた人が、手と足を長い布で巻かれたままで出て来た。彼の顔は布切れで包まれていた。イエスは彼らに言われた。「ほどいてやって、帰らせなさい。」
45そこで、マリヤのところに来ていて、イエスがなさったことを見た多くのユダヤ人が、イエスを信じた。46しかし、そのうちの幾人かは、パリサイ人たちのところへ行って、イエスのなさったことを告げた。
47そこで、祭司長とパリサイ人たちは議会を召集して言った。「われわれは何をしているのか。あの人が多くのしるしを行なっているというのに。48もしあの人をこのまま放っておくなら、すべての人があの人を信じるようになる。そうなると、ローマ人がやって来て、われわれの土地も国民も奪い取ることになる。」49しかし、彼らのうちのひとりで、その年の大祭司であったカヤパが、彼らに言った。「あなたがたは全然何もわかっていない。50ひとりの人が民の代わりに死んで、国民全体が滅びないほうが、あなたがたにとって得策だということも、考えに入れていない。」51ところで、このことは彼が自分から言ったのではなくて、その年の大祭司であったので、イエスが国民のために死のうとしておられること、52また、ただ国民のためだけでなく、散らされている神の子たちを一つに集めるためにも死のうとしておられることを、預言したのである。53そこで彼らは、その日から、イエスを殺すための計画を立てた。
54そのために、イエスはもはやユダヤ人たちの間を公然と歩くことをしないで、そこから荒野に近い地方に去り、エフライムという町にはいり、弟子たちとともにそこに滞在された。55さて、ユダヤ人の過越の祭りが間近であった。多くの人々が、身を清めるために、過越の祭りの前にいなかからエルサレムに上って来た。56彼らはイエスを捜し、宮の中に立って、互いに言った。「あなたがたはどう思いますか。あの方は祭りに来られることはないでしょうか。」57さて、祭司長、パリサイ人たちはイエスを捕えるために、イエスがどこにいるかを知っている者は届け出なければならないという命令を出していた。

12

1イエスは過越の祭りの六日前にベタニヤに来られた。そこには、イエスが死人の中からよみがえらせたラザロがいた。2人々はイエスのために、そこに晩餐を用意した。そしてマルタは給仕していた。ラザロは、イエスとともに食卓に着いている人々の中に混じっていた。3マリヤは、非常に高価な、純粋なナルドの香油三百グラムを取って、イエスの足に塗り、彼女の髪の毛でイエスの足をぬぐった。家は香油のかおりでいっぱいになった。4ところが、弟子のひとりで、イエスを裏切ろうとしているイスカリオテ・ユダが言った。5「な

ぜ、この香油を三百デナリに売って、貧しい人々に施さなかったのか。」 6 しかしこう言ったのは、彼が貧しい人々のことを心にかけていたからではなく、彼は盗人であって、金入れを預かっていたが、その中に収められたものを、いつも盗んでいたからである。 7 イエスは言われた。「そのままにしておきなさい。マリヤはわたしの葬りの日のために、それを取っておこうとしていたのです。 8 あなたがたは、貧しい人々とはいつもいっしょにいるが、わたしとはいつもいっしょにいるわけではないからです。」

9 大ぜいのユダヤ人の群れが、イエスがそこにおられることを聞いて、やって来た。それはただイエスのためだけではなく、イエスによって死人の中からよみがえったラザロを見るためでもあった。 10 祭司長たちはラザロも殺そうと相談した。 11 それは、彼のために多くのユダヤ人が去って行き、イエスを信じるようになったからである。

12 その翌日、祭りに来ていた大ぜいの人の群れは、イエスがエルサレムに来ようとしておられると聞いて、 13 しゅろの木の枝を取って、出迎えのために出て行った。そして大声で叫んだ。

「ホサナ。
祝福あれ。
主の御名によって来られる方に。
イスラエルの王に。」

14 イエスは、ろばの子を見つけて、それに乗られた。それは次のように書かれているとおりであった。

15 「恐れるな。シオンの娘。
見よ。あなたの王が来られる。
ろばの子に乗って。」

16 初め、弟子たちにはこれらのことがわからなかった。しかし、イエスが栄光を受けられてから、これらのことがイエスについて書かれたことであって、人々がそのとおりにイエスに対して行なったことを、彼らは思い出した。 17 イエスがラザロを墓から呼び出し、死人の中からよみがえらせたときにイエスといっしょにいた大ぜいの人々は、そのことのあかしをした。 18 そのために群衆もイエスを出迎えた。イエスがこれらのしるしを行なわれたことを聞いたからである。 19 そこで、パリサイ人たちは互いに言った。「どうしたのだ。何一つうまくいっていない。見なさい。世はあげてあの人のあとについて行ってしまった。」

20 さて、祭りのとき礼拝のために上って来た人々の中に、ギリシヤ人が幾人かいた。 21 この人たちがガリラヤのベツサイダの人であるピリポのところに来て、「先生。イエスにお目にかかりたいのですが。」と言って頼んだ。 22 ピリポは行ってアンデレに話し、アンデレとピリポとは行って、イエスに話した。 23 すると、イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受けるその時が来ました。 24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。一粒の麦がもし地に落ちて死なければ、それは一つのままです。しかし、もし死ねば、豊かな実を結びます。 25 自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世でそのいのちを憎む者はそれを保って永遠のいのちに至るのです。 26 わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいる所に、わたしに仕えるる者もいるべきです。もしわたしに仕えるなら、父はその人に報いてくださいます。

27 今わたしの心は騒いでいる。何と言おうか。『父よ。この時からわたしをお救いください。』と言おうか。いや。このためにこそ、わたしはこの時に至ったのです。 28 父よ。御名の栄光を現わしてください。」そのとき、天から声が聞こえた。「わたしは栄光をすでに現わしたし、またもう一度栄光を現わそう。」 29 そばに立っていてそれを聞いた群衆は、雷が鳴ったのだと言った。ほかの人々は、「御使いがあの方に話したのだ。」と言った。 30 イエスは答えて言われた。「この声が聞こえたのは、わたしのためにではなくて、あなたがたのためにです。 31 今がこの世のさばきです。今、この世を支配する者は追い出されるのです。 32 わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます。」 33 イエスは自分がどのような死に方で死ぬかを示して、このことを言われたのである。 34 そこで、群衆はイエスに答えた。「私たちは、律法で、キリストはいつまでも生きておられると聞きましたが、どうしてあなたは、人の子は上げられなければならない、と言われるのですか。その人の子とはだれですか。」 35 イエスは彼らに言われた。「まだしばらくの間、光はあなたがたの間にあります。やみがあなたがたを襲うことのないように、あなたがたは、光がある間に歩きなさい。やみの中を歩く者は、自分

がどこに行くのかわかりません。 36 あなたがたに光がある間に、光の子どもと
なるために、光を信じなさい。」
イエスは、これらのことをお話しになると、立ち去って、彼らから身を隠さ
れた。 37 イエスが彼らの目の前でこのように多くのしるしを行なわれたのに、
彼らはイエスを信じなかった。 38 それは、「主よ。だれが私たちの知らせを信
じましたか。また主の御腕はだれに現わされましたか。」と言った預言者イザ
ヤのことばが成就するためであった。 39 彼らが信じることができなかったの
は、イザヤがまた次のように言ったからである。 40 「主は彼らの目を盲目にさ
れた。また、彼らの心をかたくなにされた。それは、彼らが目で見、心で理解
し、回心し、そうしてわたしが彼らをいやす、ということがないためである。」
41 イザヤがこう言ったのは、イザヤがイエスの栄光を見たからで、イエスをさ
して言ったのである。 42 しかし、それにもかかわらず、指導者たちの中にもイ
エスを信じる者がたくさんいた。ただ、パリサイ人たちをはばかって、告白は
しなかった。会堂から追放されないためであった。 43 彼らは、神からの栄誉よ
りも、人の栄誉を愛したからである。
44 また、イエスは大声で言われた。「わたしを信じる者は、わたしではなく、
わたしを遣わした方を信じるのです。 45 また、わたしを見る者は、わたしを
遣わした方を見るのです。 46 わたしは光として世に来ました。わたしを信じ
る者が、だれもやみの中にとどまることのないためです。 47 だれかが、わた
しの言うことを聞いてそれを守らなくても、わたしはその人をさばきません。
わたしは世をさばくために来たのではなく、世を救うために来たからです。
48 わたしを拒み、わたしの言うことを受け入れない者には、その人をさばく
ものがあります。わたしが話したことばが、終わりの日にその人をさばくの
です。 49 わたしは、自分から話したのではありません。わたしを遣わした父ご
自身が、わたしが何を言い、何を話すべきかをお命じになりました。 50 わたし
は、父の命令が永遠のいのちであることを知っています。それゆえ、わたしが
話していることは、父がわたしに言われたとおりを、そのままに話しているの
です。」

13

1 さて、過越の祭りの前に、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時
が来たことを知られたので、世にいる自分のものを愛されたイエスは、その愛
を残るところなく示された。 2 夕食の間のことであった。悪魔はすでにシモン
の子イスカリオテ・ユダの心に、イエスを売ろうとする思いを入れていたが、
3 イエスは、父が万物を自分の手に渡されたことと、ご自分が父から来て父に行
くことを知られ、 4 夕食の席から立ち上がって、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取っ
て腰にまとわれた。 5 それから、たらいに水を入れ、弟子たちの足を洗って、
腰にまとっておられる手ぬぐいで、ふき始められた。 6 こうして、イエスはシ
モン・ペテロのところに来られた。ペテロはイエスに言った。「主よ。あなた
が、私の足を洗ってくださるのですか。」 7 イエスは答えて言われた。「わた
しがしていることは、今はあなたにはわからないが、あとでわかるようになり
ます。」 8 ペテロはイエスに言った。「決して私の足をお洗いにならないでく
ださい。」イエスは答えられた。「もしわたしが洗わなければ、あなたはわた
しと何の関係もありません。」 9 シモン・ペテロは言った。「主よ。私の足だ
けでなく、手も頭も洗ってください。」 10 イエスは彼に言われた。「水浴した
者は、足以外は洗う必要がありません。全身きよいのです。あなたがたはきよ
いのですが、みながそうではありません。」 11 イエスはご自分を裏切る者を知
っておられた。それで、「みながきよいのではない。」と言われたのである。
12 イエスは、彼らの足を洗い終わり、上着を着けて、再び席に着いて、彼ら
に言われた。「わたしがあなたがたに何をしたか、わかりますか。 13 あなたが
たはわたしを先生とも主とも呼んでいます。あなたがたがそう言うのはよい。
わたしはそのような者だからです。 14 それで、主であり師であるこのわたし
が、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合
うべきです。 15 わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするよう
に、わたしはあなたがたに模範を示したのです。 16 まことに、まことに、あな
たがたに告げます。しもべはその主人にまさらず、遣わされた者は遣わした者
にまさるものではありません。 17 あなたがたがこれらのことを知っているの
なら、それを行なうときに、あなたがたは祝福されるのです。 18 わたしは、あ
なたがた全部の者について言っているのではありません。わたしは、わたしが
選んだ者を知っています。しかし聖書に『わたしのパンを食べている者が、わ
たしに向かってかかとを上げた。』と書いてあることは成就するのです。 19 わ
たしは、そのことが起こる前に、今あなたがたに話しておきます。そのことが

起こったときに、わたしがその人であることをあなたがたが信じるためです。
20 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしの遣わす者を受け入れ
る者は、わたしを受け入れるのです。わたしを受け入れる者は、わたしを遣わ
した方を受け入れるのです。」
21 イエスは、これらのことを話されたとき、霊の激動を感じ、あかしして言
われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちの
ひとりが、わたしを裏切ります。」22 弟子たちは、だれのことを言われたの
か、わからずに当惑して、互いに顔を見合わせていた。23 弟子のひとりで、イ
エスが愛しておられた者が、イエスの右側で席に着いていた。24 そこで、シ
モン・ペテロが彼に合図をして言った。「だれのことを言っておられるのか、
知らせなさい。」25 その弟子は、イエスの右側で席に着いたまま、イエスに言
った。「主よ。それはだれですか。」26 イエスは答えられた。「それはわたし
がパン切れを浸して与える者です。」それからイエスは、パン切れを浸し、取
って、イスカリオテ・シモンの子ユダにお与えになった。27 彼がパン切れを受
けると、そのとき、サタンが彼にはいった。そこで、イエスは彼に言われた。
「あなたがしようとしていることを、今すぐしなさい。」28 席に着いている者
で、イエスが何のためにユダにそう言われたのか知っている者は、だれもなか
った。29 ユダが金入れを持っていたので、イエスが彼に、「祭りのために入用
の物を買え。」と言われたのだとか、または、貧しい人々に何か施しをするよ
うに言われたのだとか思った者も中にはいた。30 ユダは、パン切れを受ける
すぐ、外に出て行った。すでに夜であった。
31 ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今こそ人の子は栄光を受け
ました。また、神は人の子によって栄光をお受けになりました。32 神が、人の
子によって栄光をお受けになったのであれば、神も、ご自身によって人の子に
栄光をお与えになります。しかも、ただちにお与えになります。33 子どもたち
よ。わたしはいましばらくの間、あなたがたといっしょにいます。あなたがた
はわたしを捜すでしょう。そして、『わたしが行く所へは、あなたがたは来る
ことができない。』とわたしがユダヤ人たちに言ったように、今はあなたがた
にも言うのです。34 あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互
いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あな
たがたも互いに愛し合いなさい。35 もしあなたがたの互いの間に愛があるな
ら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認
めるのです。」
36 シモン・ペテロがイエスに言った。「主よ。どこにおいでになるのですか。」イエスは答えられた。「わたしが行く所に、あなたは今はついて来る
ことができません。しかし後にはついて来ます。」37 ペテロはイエスに言った。
「主よ。なぜ今はあなたについて行くことができないのですか。あなたのため
にはいのちも捨てます。」38 イエスは答えられた。「わたしのためにはいのち
も捨てる、と言うのですか。まことに、まことに、あなたに告げます。鶏が鳴
くまでに、あなたは三度わたしを知らないと言います。」

14

1 「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じな
さい。2 わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、
あなたがたに言っておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を
備えに行くのです。3 わたしが行って、あなたがたに場所を備えたら、また来
て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがた
もおらせるためです。4 わたしの行く道はあなたがたも知っています。」5 トマ
スはイエスに言った。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりま
せん。どうして、その道が私たちにわかりましょう。」6 イエスは彼に言われ
た。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでな
ければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。7 あなたがたは、も
しわたしを知っていたなら、父をも知っていたはずです。しかし、今や、あな
たがたは父を知っており、また、すでに父を見たのです。」8 ピリポはイエス
に言った。「主よ。私たちに父を見せてください。そうすれば満足します。」
9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょに
いるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を
見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください。』と言うの
ですか。10 わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じな
いのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話してい
るのではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておら
れるのです。11 わたしが父におり、父がわたしにおられるとわたしが言うの

となく何あをのひなそかとたでたそが守わいしスまにをたこ行行は[14]れしうあはいたがのがたるた[20]たを、なれれ、なとエりろばわまをにと[12]ま行がてるなら、わたたは父ます。したな来なす。あそさテそ[23]をとこく、ことに、ざとこ[13]のしっるめたしはわはで[19]たにはるなあうす主のず、方しにかるわをのス分すのそわもものあ、とうわもるめです。そたもも世ながたるた[18]とす。生り戒めしイ自でしはこのたでは
なさい。 さにりたましたしう。 父がってがは与にせそにたうちわうでがたのん。 世はもう生きあなかりまが方でも捨
をに、 じあまで[15]なたがたそ[16]ましわ名によがったたがは与にせそにたうちわうでがたのん。 世はもう生きあなかりまが方でも捨
いかでなし戒とたのらとをす。はのたるたユなはす。来守しを遣こしたとをわたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたが遣たににたし話
らも、たまめりが方でも捨[17]れがたたるでがたのん。 世はもう生きあなかりまが方でも捨[21]わたしは愛するまたし自身を現わし私たちにはうわたしたちは、わたしの話
なたがたにたきたうちわうでがたのん。 世はもう生きあなかりまが方でも捨[22]人は彼ないたのをあるとはうわたしたちは、わたしの話
ざにおめまはちわうでがたのん。 世はもう生きあなかりまが方でも捨[24]ことは、わたしの話
よってそにたしたしをでがたのん。 世はもう生きあなかりまが方でも捨[25]わたしは、あなたがたといっしょにいる間に、あなたが遣たににたし話
信じなさい。 [26]しかし、助けに主、すべてなのせたがたえるのは、世がなたが遣たににたし話
じるなたは、わたすべてさあがたえるのは、世がなたが遣たににたし話
者いまし聖霊すをたはがなたはがなたはがな

10 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまっているのです。それは、わたしが父の戒めを守っているのと同じです。 11 わたしのこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満ちあふれるためです。 12 わたしの戒めはこれです。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うようにとの命じられたことです。 13 人が友のために自分のいのちを捨てるほど大きな愛はだれももっていません。 14 わたしの友であるあなたがたは、わたしが命じることを行なうなら、わたしの友です。 15 わたしはもはあなたがたを奴隷とは呼びません。奴隷は主人のすることを知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことはすべて、あなたがたにお知らせしたからです。 16 あなたがたが選んだのではなく、わたしがあなたがたを選んだのです。あなたがたを任命したのは、あなたがたが出かけて行き、実を結ぶようになり、あなたがたの実が残るようにとの目的からです。あなたがたが父の名によってわたしに求めるものは、何でもあなたがたに与えられるようにとのことです。 17 これらのことを命じるのは、あなたがたが互いに愛し合うようにとのことです。

18 もし世があなたがたを憎むなら、あなたがたを憎んだのは、わたしが世よりあなたがたを選んだのです。世はあなたがたを自分のものとしたであろうからです。しかし、あなたがたは世のものではなく、わたしがあなたがたを世から選んだのです。だからこそ世はあなたがたを憎むのです。 19 わたしが前にあなたがたに言ったことばを思い出すようにとのことです。しもべは主人よりまさるものではない、とわたしが言ったことばです。もしわたしを迫害したなら、あなたがたをも迫害するでしょう。もしわたしのことばを守ったなら、あなたがたのことばも守るでしょう。 20 しかし、これらのことはすべて、わたしの名のゆえにあなたがたに対してなされるのです。それは、わたしを遣わされた方を知らないからです。 21 もしわたしが来て彼らに話さなかったなら、彼らは罪を犯すことはありません。しかし今は、その罪に対する言い訳はできません。 22 もしわたしが彼らの間で行なわなかったなら、彼らは罪を犯すことはありません。しかし今、彼らはわたしを見ても、わたしの父をも憎んでいます。 23 わたしを憎む者は、わたしの父をも憎むのです。 24 だれもほかの人が行なったことのないわざを、わたしが彼らの間で行なったなら、彼らは罪を犯すことはありません。しかし今、彼らはそれを見てもなお、わたしを憎みわたしの父をも憎んでいます。 25 これは、『彼らは理由もなしにわたしを憎んだ』と、彼らの律法に書かれていることばが成就するためです。 26 わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについてあかしします。 27 あなたがたもあかしするのです。初めからわたしとともにいたからです。

16

1 これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたがつまずくことのないためです。 2 人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。事実、あなたがたを殺す者がみな、そうすることで自分は神に奉仕しているのだと思う時が来ます。 3 彼らがこういうことを行なうのは、父をもわたしをも知らないからです。 4 しかし、わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、その時が来れば、わたしがそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。わたしが初めからこれらのことをあなたがたに話さなかったのは、わたしがあなたがたとともにいたからです。 5 しかし今わたしは、わたしを遣わした方のもとに行こうとしています。しかし、あなたがたのうちには、どこに行くのですかと尋ねる者がありません。 6 かえって、わたしがこれらのことをあなたがたに話したために、あなたがたの心は悲しみでいっぱいになっています。 7 しかし、わたしは真実を言います。わたしが去って行くことは、あなたがたにとって益なのです。それは、もしわたしが去って行かなければ、助け主があなたがたのところに来ないからです。しかし、もし行けば、わたしは助け主をあなたがたのところに遣わします。 8 その方が来ると、罪について、義について、さばきについて、世にその誤りを認めさせます。 9 罪については、彼らがわたしを信じないからです。 10 また、義については、わたしが父のもとに行き、あなたがたがもはやわたしを見なくなるからです。 11 さばきについては、この世を支配する者がさばかれたからです。 12 わたしにはまだあなたがたに話すことがたくさんありますが、今あなたがたには耐えられません。 13 しかし、その方、すなわち真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。御霊は自分から語るのではなく、聞いたことを話し、また、やがて起ころうとしていることをあなたがたに示すからです。 14 御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。 15 父が持っておられるものはみな、わたしのものです。

す。でからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに知らせるりの
言ったのです。16しばらくするとあなたがたは、もはやわたしを見なくなちの見
とます。しかし、またしばらくするとわたしを見ます。」17そこで、弟子たを
まうちくとのなに行ある者はから互し、ばらたしばがくわれるのは、どれとのとうか。私質たのそた問がと
なもこちしたわまぶりをいはさのにたこのま産苦痛うまにあの何もるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。
たにたたはたしとです。でし忘度一す。そうすれば、あなたがたの心は喜びに満たそとわ
ばは、しなたがたの喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。23ことに、まこ

彼らは世におりますが、わたしはあなたのみもとにまいります。聖なる父。あ
なたがわたしに下さっているあなたの御名の中に、彼らを保ってください。そ
れはわたしたちと同様に、彼らが一つとなるためです。 12 わたしは彼らといっ
しょにいたとき、あなたがわたしに下さっている御名の中に彼らを保ち、また
守りました。彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの子が滅びました。
それは、聖書が成就するためです。 13 わたしは今みもとにまいります。わたし
は彼らの中でわたしの喜びが全うされるために、世にあってこれらのことを話
しているのです。
14 わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。しかし、世は彼らを憎み
ました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではなく、
悪いよ
15 彼らをこの世から取り去ってくださるようにお願いします。 16 わたしがこの世のものでないように、
者から守ってください。彼らもこの世のものではありません。 17 真理によって彼らを聖別してください。
あなたのみことばは真理です。 18 あなたがわたしを世に遣わされたように、
わたしも彼らを世に遣わしました。 19 わたしは、彼らのため、わたし自
身を聖別します。彼ら自身も真理によって聖別されるためです。 20 わたしは、
ただこの人々のためだけでなく、彼らのことばによってわたしを信じる人々の
ためにもお願いします。 21 それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしが
あなたにいるように、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしを
ちにおるように、一つとなるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされ
たことを、世が信じるためです。 22 またわたしは、あなたがわたしに下さった
栄光を、彼らに与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼ら
も一つであるためです。 23 わたしは彼らにおり、あなたはわたしにおられ
ます。それは、彼らが全うされて一つとなるためです。それは、あなたがわた
しを遣わされたことを知り、わたしを愛されたように彼らをも愛されたこと
を、世が知るためです。 24 父よ。お願いします。あなたがわたしに下さった
ものをわたしのいる所にわたしといっしょにおらせてください。あなたが
わたしを世の始まる前から愛しておられたために、わたしの栄光を見るようになるためです。
25 正しい父よ。この世はあなたを知りませんが、わたしはあなたを知っています。また、この人々は、あなたの
遣わされたことを知りました。 26 そして、わたしは彼らにあなたの
御名を知らせました。また、これからも知らせます。それは、あなたがわたし
を愛してくださったその愛が彼らの中にあり、わたしが彼らの中にいるため
です。」

18

1 イエスはこれらのことを話し終えられると、弟子たちとともに、ケデロン
の川筋の向こう側に出て行かれた。そこに園があって、イエスは弟子たちとい
っしょに、そこにはいられた。 2 ところで、イエスを裏切ろうとしていたユダら
もその場所を知っていた。イエスがたびたび弟子たちとそこで会合されたから
である。 3 そこで、ユダは一隊の兵士と、祭司長、パリサイ人たちから送られ
た役人たちを引き連れて、ともしびとたいまつと武器を持って、そこに来た。
4 イエスは自分の身に起ころうとするすべてのことを知っておられたので、出
て来て、「だれを捜すのか。」と彼らに言われた。 5 彼らは、「ナザレ人イエ
スを。」と答えた。イエスは彼らに「それはわたしです。」と言われた。イエ
スを裏切ろうとしていたユダも彼らといっしょに立っていた。 6 イエスが彼ら
に、「それはわたしです。」と言われたとき、彼らはあとずさりし、そして地
に倒れた。 7 そこで、イエスがもう一度、「だれを捜すのか。」と問われると、
彼らは「ナザレ人イエスを。」と言った。 8 イエスは答えられた。「それはわ
たしだと、あなたがたに言ったでしょう。もしわたしを捜しているのなら、こ
の人たちはこのままで去らせなさい。」 9 それは、「あなたがわたしに下さっ
た者のうち、ただのひとりをも失いませんでした。」とイエスが言われたこと
ばが実現するためであった。 10 シモン・ペテロは、剣を持っていたが、それを
抜き、大祭司のしもべを撃ち、右の耳を切り落とした。そのしもべの名はマル
コスであった。 11 そこで、イエスはペテロに言われた。「剣をさやに収めな
さい。父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう。」
12 そこで、一隊の兵士と千人隊長、それにユダヤ人から送られた役人たち
は、イエスを捕えて縛り、 13 まずアンナスのところに連れて行った。彼がその
年の大祭司カヤパのしゅうとだったからである。 14 カヤパは、ひとりの人が民
に代わって死ぬことが得策である、とユダヤ人に助言した人である。
15 シモン・ペテロともうひとりの弟子は、イエスについて行った。この弟子
は大祭司の知り合いで、イエスといっしょに大祭司の中庭にはいった。 16 し

かし、ペテロは外で門のところに立っていた。それで、大祭司の知り合いであ
る、もうひとりの弟子が出て来て、門番の女に話して、ペテロを連れてはいっ
た。 17 すると、門番のはしためがペテロに、「あなたもあの人の弟子ではない
でしょうね。」と言った。ペテロは、「そんな者ではない。」と言った。 18 寒
かったので、しもべたちや役人たちは、炭火をおこし、そこに立って暖まって
いた。ペテロも彼らといっしょに、立って暖まっていた。
19 そこで、大祭司はイエスに、弟子たちのこと、また、教えのことについて
尋問した。 20 イエスは彼に答えられた。「わたしは世に向かって公然と話し
ました。わたしはユダヤ人がみな集まって来る会堂や宮で、いつも教えたので
す。隠れて話したことは何もありません。 21 なぜ、あなたはわたしに尋ねる
のですか。わたしが人々に何を話したかは、わたしから聞いた人たちに尋ねな
さい。彼らはわたしが話した事がらを知っています。」 22 イエスがこう言わ
れたとき、そばに立っていた役人のひとりが、「大祭司にそのような答え方を
するのか。」と言って、平手でイエスを打った。 23 イエスは彼に答えられた。
「もしわたしの言ったことが悪いなら、その悪い証拠を示しなさい。しかし、
もし正しいなら、なぜ、わたしを打つのか。」 24 アンナスはイエスを、縛った
ままで大祭司カヤパのところに送った。
25 一方、シモン・ペテロは立って、暖まっていた。すると、人々は彼に言っ
た。「あなたもあの人の弟子ではないでしょうね。」ペテロは否定して、「そ
んな者ではない。」と言った。 26 大祭司のしもべのひとりで、ペテロに耳を切
り落とされた人の親類に当たる者が言った。「私が見なかったとでもいうので
すか。あなたは園であの人といっしょにいました。」 27 それで、ペテロはも
う一度否定した。するとすぐ鶏が鳴いた。
28 さて、彼らはイエスを、カヤパのところから総督官邸に連れて行った。
時は明け方であった。彼らは、過越の食事が食べられなくなることのないよう
に、汚れを受けまいとして、官邸にはいらなかった。 29 そこで、ピラトは彼ら
のところに出て来て言った。「あなたがたは、この人に対して何を告発するの
ですか。」 30 彼らはピラトに答えた。「もしこの人が悪いことをしていなかっ
たら、私たちはこの人をあなたに引き渡しはしなかったでしょう。」 31 そこで
ピラトは彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、自分たちの律法に
従ってさばきなさい。」ユダヤ人たちは彼に言った。「私たちには、だれを死
刑にすることも許されてはいません。」 32 これは、ご自分がどのような死に方
をされるのかを示して話されたイエスのことばが成就するためであった。
33 そこで、ピラトはもう一度官邸にはいって、イエスを呼んで言った。「あ
なたは、ユダヤ人の王ですか。」 34 イエスは答えられた。「あなたは、自分で
そのことを言っているのですか。それともほかの人が、あなたにわたしのこと
を話したのですか。」 35 ピラトは答えた。「私はユダヤ人ではないでしょう。
あなたの同国人と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのです。あなたは何
をしたのですか。」 36 イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものでは
ありません。もしこの世のものであったなら、わたしのしもべたちが、わたし
をユダヤ人に渡さないように、戦ったことでしょう。しかし、事実、わたし
の国はこの世のものではありません。」 37 そこでピラトはイエスに言った。「そ
れでは、あなたは王なのですか。」イエスは答えられた。「わたしが王であるま
これとは、あなたが言うとおりです。わたしは、真理のあかしをするために生
れ、このことのために世に来たのです。真理に属する者はみな、わたしの声に
聞き従います。」 38 ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」
彼はこう言ってから、またユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言っ
た。「私は、あの人には罪を認めません。 39 しかし、過越の祭りに、私があな
たがたのためにひとりの者を釈放するのがならわしになっています。それで、
あなたがたのために、ユダヤ人の王を釈放することにしましょうか。」 40 す
ると彼らはみな、また大声をあげて、「この人ではない。バラバだ。」と言っ
た。このバラバは強盗であった。

19

1 そこで、ピラトはイエスを捕えて、むち打ちにした。 2 また、兵士たちは、
いばらで冠を編んで、イエスの頭にかぶらせ、紫色の着物を着せた。 3 彼らは、
イエスに近寄っては、「ユダヤ人の王さま。ばんざい。」と言い、またイエス
の顔を平手で打った。 4 ピラトは、もう一度外に出て来て、彼らに言った。「よ
く聞きなさい。あなたがたのところにあの人を連れ出して来ます。あの人に何
の罪も見られないということを、あなたがたに知らせるためです。」 5 それでイ
エスは、いばらの冠と紫色の着物を着けて、出て来られた。するとピラトは彼
らに「さあ、この人です。」と言った。 6 祭司長たちや役人たちはイエスを見

ると、激しく叫んで、「十字架につけろ。十字架につけろ。」と言った。ピラ
ト は彼らに言った。「あなたがたがこの人を引き取り、十字架につけなさい。
私は この人には罪を認めません。」7 ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちに
は律法があります。この人は自分を神の子としたのですから、律法によれば、
死に当たります。」8 ピラトは、このことばを聞くと、ますます恐れた。9 そ
して、また官邸にはいって、イエスに言った。「あなたはどこの人ですか。」
しかし、イエスは彼に何の答えもされなかった。10 そこで、ピラトはイエスに
言った。「あなたは私に話さないのですか。私にはあなたを釈放する権威があ
り、また十字架につける権威があることを、知らないのですか。」11 イエスは
答えられた。「もしそれが上から与えられているのでなかったら、あなたには
わたしに対する何の権威もありません。ですから、わたしをあなたに渡した者
に、もっと大きな罪があるのです。」12 こういうわけで、ピラトはイエスを釈
放しようと努力した。しかし、ユダヤ人たちは激しく叫んで言った。「もしこ
の人を釈放するなら、あなたはカイザルの味方ではありません。自分を王だと
する者はすべて、カイザルにそむくのです。」13 そこでピラトは、これらのこ
とばを聞いたとき、イエスを外に引き出し、敷石（ヘブル語ではガバタ）と呼
ばれる場所で、裁判の席に着いた。14 その日は過越の備え日で、時は六時ごろ
であった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「さあ、あなたがたの王です。」
15 彼らは激しく叫んだ。「除け。除け。十字架につけろ。」ピラトは彼らに言
った。「あなたがたの王を私が十字架につけるのですか。」祭司長たちは答え
た。「カイザルのほかには、私たちに王はありません。」16 そこでピラトは、
そのとき、イエスを、十字架につけるため彼らに引き渡した。

17 彼らはイエスを受け取った。そして、イエスはご自分で十字架を負って、
「どくろの地」という場所（ヘブル語でゴルゴタと言われる）に出て行かれ
た。18 彼らはそこでイエスを十字架につけた。イエスといっしょに、ほかの
ふたりの者をそれぞれ両側に、イエスを真中にしてであった。19 ピラトは罪
状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王ナザレ人イエ
ス。」と書いてあった。20 それで、大ぜいのユダヤ人がこの罪状書きを読ん
だ。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったからである。またそれは
ヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあった。21 そこで、ユダヤ人の祭司
長たちがピラトに、「ユダヤ人の王、と書かないで、彼はユダヤ人の王と自称
した、と書いてください。」と言った。22 ピラトは答えた。「私の書いたこと
は私が書いたのです。」

23 さて、兵士たちは、イエスを十字架につけると、イエスの着物を取り、ひ
とりの兵士に一つずつあたるよう四分した。また下着をも取ったが、それは上
から全部一つに織った、縫い目なしのものであった。24 そこで彼らは互いに
言った。「それは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」それは、
「彼らはわたしの着物を分け合い、わたしの下着のためにくじを引いた。」と
いう聖書が成就するためであった。25 兵士たちはこのようなことをしたが、イ
エスの十字架のそばには、イエスの母と母の姉妹と、クロパの妻のマリヤとマ
グダラのマリヤが立っていた。26 イエスは、母と、そばに立っている愛する弟
子とを見て、母に「女の方。そこに、あなたの息子がいます。」と言われた。
27 それからその弟子に「そこに、あなたの母がいます。」と言われた。その時
から、この弟子は彼女を自分の家に引き取った。

28 この後、イエスは、すべてのことが完了したのを知って、聖書が成就する
ために、「わたしは渇く。」と言われた。29 そこには酸いぶどう酒のいっぱい
はいった入れ物が置いてあった。そこで彼らは、酸いぶどう酒を含んだ海綿を
ヒソプの枝につけて、それをイエスの口もとに差し出した。30 イエスは、酸い
ぶどう酒を受けられると、「完了した。」と言われた。そして、頭をたれて、
霊をお渡しになった。

31 その日は備え日であったため、ユダヤ人たちは安息日に（その安息日は
大いなる日であったので）、死体を十字架の上に残しておかないように、すね
を折ってそれを取りのける処置をピラトに願った。32 それで、兵士たちが来
て、イエスといっしょに十字架につけられた第一の者と、もうひとりの者との
すねを折った。33 しかし、イエスのところに来ると、イエスがすでに死んで
おられるのを認めたので、そのすねを折らなかった。34 しかし、兵士のうちの
ひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来
た。35 それを目撃した者があかしをしているのである。そのあかしは真実で
ある。その人が、あなたがたにも信じさせるために、真実を話すということを
よく知っているのである。36 この事が起こったのは、「彼の骨は一つも砕かれ
ない。」という聖書のことばが成就するためであった。37 また聖書の別のとこ

ろには、「彼らは自分たちが突き刺した方を見る。」と言われているからである。
38 そのあとで、イエスの弟子ではあったがユダヤ人を恐れてそのことを隠し
ていたアリマタヤのヨセフが、イエスのからだを取りかたづけたいとピラトに
願った。それで、ピラトは許可を与えた。そこで彼は来て、イエスのからだを
取り降ろした。39 前に、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬とアロエを
混ぜ合わせたものをおよそ三十キログラムばかり持って、やって来た。40 そこ
で、彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従って、それを香
料といっしょに亜麻布で巻いた。41 イエスが十字架につけられた場所に園があ
って、そこには、まだだれも葬られたことのない新しい墓があった。42 その日
がユダヤ人の備え日であったため、墓が近かったので、彼らはイエスをそこに
納めた。

20

1 さて、週の初めの日に、マグダラのマリヤは、朝早くまだ暗いうちに墓に
来た。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た。2 それで、走って、シモ
ン・ペテロと、イエスが愛された、もうひとりの弟子とのところに来て、言
った。「だれかが墓から主を取って行きました。主をどこに置いたのか、私た
ちにはわかりません。」3 そこでペテロともうひとりの弟子は外に出て来て、墓
のほうへ行った。4 ふたりはいっしょに走ったが、もうひとりの弟子がペテロ
よりも速かったので、先に墓に着いた。5 そして、からだをかがめてのぞき込
み、亜麻布が置いてあるのを見たが、中にはいらなかった。6 シモン・ペテ
も彼に続いて来て、墓にはいり、亜麻布が置いてあって、7 イエスの頭に巻か
れていた布切れは、亜麻布といっしょにはなく、離れた所に巻かれたままになっているのを見た。8 そのとき、先に墓に着いたもうひとりの弟子もはいって
来た。そして、見て、信じた。9 彼らは、イエスが死人の中からよみがえらな
ければならないという聖書を、まだ理解していなかったのである。10 それで、
弟子たちはまた自分のところに帰って行った。
11 しかし、マリヤは外で墓のところにたたずんで泣いていた。そして、泣き
ながら、からだをかがめて墓の中をのぞき込んだ。12 すると、ふたりの御使
いが、イエスのからだが置かれていた場所に、ひとりは頭のところに、ひとり
は足のところに、白い衣をまとってすわっているのが見えた。13 彼らは彼女
に言った。「なぜ泣いているのですか。」彼女は言った。「だれかが私の主を
取って行きました。どこに置いたのか、私にはわからないのです。」14 彼女
はこう言ってから、うしろを振り向いた。すると、イエスが立っておられるの
を見た。しかし、彼女にはイエスであることがわからなかった。15 イエスは
彼女に言われた。「なぜ泣いているのですか。だれを捜しているのですか。」
彼女は、それを園の管理人だと思って言った。「あなたが、あの方を運んだの
でしたら、どこに置いたのか言ってください。そうすれば私が引き取りま
す。」16 イエスは彼女に言われた。「マリヤ。」彼女は振り向いて、ヘブル語
で、「ラボニ（すなわち、先生）。」とイエスに言った。17 イエスは彼女に言
われた。「わたしにすがりついてはいけません。わたしはまだ父のもとに
上っていないからです。わたしの兄弟たちのところに行って、彼らに『わたし
は、わたしの父またあなたがたの父、わたしの神またあなたがたの神のもとに
上る。』と告げなさい。」18 マグダラのマリヤは、行って、「私は主にお目に
かかりました。」と言い、また、主が彼女にこれらのことを話されたと弟子た
ちに告げた。
19 その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいた所
では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立
って言われた。「平安があなたがたにあるように。」20 こう言ってイエスは、
その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。21 イエスは
も う一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを
遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」22 そして、こう言われ
ると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。23 あなたがたが
だれかの罪を赦すなら、その人の罪は赦され、あなたがたがだれかの罪をその
まま残すなら、それはそのまま残ります。」
24 十二弟子のひとりで、デドモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき
に、彼らといっしょにいなかった。25 それで、ほかの弟子たちが彼に「私たち
は主を見た。」と言った。しかし、トマスは彼らに「私は、その手に釘の跡を
見、私の指を釘のところに差し入れ、また私の手をそのわきに差し入れてみな
ければ、決して信じません。」と言った。

26 八日後に、弟子たちはまた室内におり、トマスも彼らといっしょにいた。
戸が閉じられていたが、イエスが来て、彼らの中に立って「平安があなたがた
にあるように。」と言われた。27 それからトマスに言われた。「あなたの指を
ここにつけて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしのわきに差し入
れなさい。信じない者にならないで、信じる者になりなさい。」28 トマスは答
えてイエスに言った。「私の主。私の神。」29 イエスは彼に言われた。「あな
たはわたしを見たから信じたのですか。見ずに信じる者は幸いです。」
30 この書には書かれていないが、まだほかの多くのしるしをも、イエスは弟
子たちの前で行なわれた。31 しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが
神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが
信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。

21

1 この後、イエスはテベリヤの湖畔で、もう一度ご自分を弟子たちに現わされ
た。その現われた次第はこうであった。2 シモン・ペテロ、デドモと呼ばれる
トマス、ガリラヤのカナのナタナエル、ゼベダイの子たち、ほかにふたりの弟
子がいっしょにいた。3 シモン・ペテロが彼らに言った。「私は漁に行く。」
彼らは言った。「私たちもいっしょに行きましょう。」彼らは出かけて、小舟
に乗り込んだ。しかし、その夜は何もとれなかった。4 夜が明けそめたとき、
イエスは岸べに立たれた。けれども弟子たちには、それがイエスであるとが
わからなかった。5 イエスは彼らに言われた。「子どもたちよ。食べるもの物があ
りませんね。」彼らは答えた。「はい。ありません。」6 イエスは彼らに言わ
れた。「舟の右側に網をおろしなさい。そうすれば、とれます。」そこで、彼
らは網をおろした。すると、おびただしい魚のために、網を引き上げることが
できなかった。7 そこで、イエスの愛されたあの弟子がペテロに言った。「主
です。」すると、シモン・ペテロは、主であると聞いて、裸だったので、上着
をまとって、湖に飛び込んだ。8 しかし、ほかの弟子たちは、魚の満ちた網
を引いて、小舟でやって来た。陸地から遠くなく、百メートル足らずの距離
だったからである。9 こうして彼らが陸地に上がったとき、そこに炭火とそ
の上に載せた魚と、パンがあるのを見た。10 イエスは彼らに言われた。「あな
たがたの今とった魚を幾匹か持って来なさい。」11 シモン・ペテロは舟に上が
って、網を陸地に引き上げた。それは百五十三匹の大きな魚でいっぱいで
した。それほど多かったけれども、網は破れなかった。12 イエスは彼らに言われ
た。「さあ来て、朝の食事をしなさい。」弟子たちは主であることを知って
いたので、だれも「あなたはどなたですか。」とあえて尋ねる者はいなかった。
13 イエスは来て、パンを取り、彼らにお与えになった。また、魚も同じように
された。14 イエスが、死人の中からよみがえってから、弟子たちにご自分を現
われたのは、すでにこれで三度目である。
15 彼らが食事を済ませたとき、イエスはシモン・ペテロに言われた。「ヨハ
ネの子シモン。あなたは、この人たち以上に、わたしを愛しますか。」ペテ
ロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたがご存
じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの小羊を飼いなさい。」16 イエス
は再び彼に言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しますか。」
ペテロはイエスに言った。「はい。主よ。私があなたを愛することは、あなたが
ご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を牧しなさい。」17 イ
エスは三度ペテロに言われた。「ヨハネの子シモン。あなたはわたしを愛しま
すか。」ペテロは、イエスが三度「あなたはわたしを愛しますか。」と言われ
たので、心を痛めてイエスに言った。「主よ。あなたはいっさいのことを存じ
 です。あなたは、私があなたを愛することを知っておいでになります。」イ
エスは彼に言われた。「わたしの羊を飼いなさい。18 まことに、まことに、あな
たに告げます。あなたは若かった時には、自分で帯を締めて、自分の歩きた
い所を歩きました。しかし年をとると、あなたは自分の手を伸ばし、ほかの人
があなたに帯をさせて、あなたの行きたくない所に連れて行きます。」19 これ
は、ペテロがどのような死に方をして、神の栄光を現わすかを示して、言われ
たことであった。こうお話しになってから、ペテロに言われた。「わたしに従
いなさい。」20 ペテロは振り向いて、イエスが愛された弟子があとについて来な
いるのを見た。この弟子はあの晩餐のとき、イエスの右側にいて、「主よ。あ
なたを裏切る者はだれですか。」と言った者である。21 ペテロは彼を見て、イエ
スに言った。「主よ。この人はどうですか。」22 イエスはペテロに言われた。
「わたしの来るまで彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあ
なたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。」23 そこで
、その弟子は死なないという話が兄弟たちの間に行き渡った。しかし、イエ

スはペテロに、その弟子が死なないと言われたのでなく、「わたしの来るまで
彼が生きながらえるのをわたしが望むとしても、それがあなたに何のかかわり
がありますか。」と言われたのである。
24 これらのことについてあかしした者、またこれらのことを書いた者は、そ
の弟子である。そして、私たちは、彼のあかしが真実であることを、知ってい
る。
25 イエスが行なわれたことは、ほかにもたくさんあるが、もしそれらをいち
いち書きしるすなら、世界も、書かれた書物を入れることができまい、と私は
思う。

使徒の働き

1 テオピロよ。私は前の書で、イエスが行ない始め、教え始められたすべて
のことについて書き、2 お選びになった使徒たちに聖霊によって命じてから、
天に上げられた日のことにまで及びました。
3 イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現われて、神の国のことを
語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示
された。4 彼らといっしょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エ
ルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。5 ヨハネは
水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを
受けるからです。」
6 そこで、彼らは、いっしょに集まったとき、イエスにこう尋ねた。「主よ。
今こそ、イスラエルのために国を再興してくださるのですか。」7 イエスは言
われた。「いつとか、どんなときとかいうことは、あなたがたは知らなくて
よいのです。それは、父がご自分の権威をもってお定めになっています。8 し
かし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そ
して、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたし
の証人となります。」9 こう言ってから、イエスは彼らが見ている間に上げら
れ、雲に包まれて、見えなくなられた。10 イエスが上って行かれるとき、弟子
たちは天を見つめていた。すると、見よ、白い衣を着た人がふたり、彼らのそ
ばに立っていた。11 そして、こう言った。「ガリラヤの人たち。なぜ天を見上
げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、
天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでに
なります。」
12 そこで、彼らはオリーブという山からエルサレムに帰った。この山はエル
サレムの近くにあって、安息日の道のりほどの距離であった。13 彼らは町には
いると、泊まっている屋上の間に上がった。この人々は、ペテロとヨハネとヤ
コブとアンデレ、ピリポとトマス、バルトロマイとマタイ、アルパヨの子ヤコ
ブと熱心党員シモンとヤコブの子ユダであった。14 この人たちは、婦人たちや
イエスの母マリヤ、およびイエスの兄弟たちとともに、みな心を合わせ、祈り
に専念していた。
15 そのころ、百二十名ほどの兄弟たちが集まっていたが、ペテロはその中に
立ってこう言った。16「兄弟たち。イエスを捕えた者どもの手引きをしたユダ
について、聖霊がダビデの口を通して預言された聖書のことばは、成就しなけ
ればならなかったのです。17 ユダは私たちの仲間として数えられており、こ
の務めを受けていました。18（ところがこの男は、不正なことをして得た報酬
で地所を手に入れたが、まっさかさまに落ち、からだは真二つに裂け、はらわ
たが全部飛び出してしまった。19 このことが、エルサレムの住民全部に知れ
て、その地所は彼らの国語でアケルダマ、すなわち『血の地所』と呼ばれるよ
うになった。）20 実は詩篇には、こう書いてあるのです。『彼の住まいは荒れ
果てよ、そこには住む者がいなくなれ。』また、『その職は、ほかの人に取ら
せよ。』21 ですから、主イエスが私たちといっしょに生活された間、22 すな
わち、ヨハネのバプテスマから始まって、私たちを離れて天に上げられた日ま
での間、いつも私たちと行動をともにした者の中から、だれかひとりが、私た
ちとともにイエスの復活の証人とならなければなりません。」23 そこで、彼ら
は、バルサバと呼ばれ別名をユストというヨセフと、マッテヤとのふたりを立
てた。24 そして、こう祈った。「すべての人の心を知っておられる主よ。25 こ
の務めと使徒職の地位を継がせるために、このふたりのうちのどちらをお選び
になるか、お示しください。ユダは自分のところへ行くために脱落して行きま
したから。」26 そしてふたりのためにくじを引くと、くじはマッテヤに当た
ったので、彼は十一人の使徒たちに加えられた。

2

1 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。2 すると突然、天か
ら、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡っ
た。3 また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまっ
た。4 すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他
国のことばで話しだした。

5 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来
て住んでいたが、 6 この物音が起こると、大ぜいの人々が集まって来た。彼ら
は、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてし
まった。 7 彼らは驚き怪しんで言った。「どうでしょう。いま話しているこの
人たちは、みなガリラヤの人ではありませんか。 8 それなのに、私たちめいめ
いの国の国語で話すのを聞くとは、いったいどうしたことでしょう。 9 私たち
は、パルテヤ人、メジヤ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキ
ヤ、ポントとアジヤ、 10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビ
ヤ地方などに住む者たち、また滞在中のローマ人たちで、 11 ユダヤ人もいれ
ば改宗者もいる。またクレテ人とアラビヤ人なのに、あの人たちが、私たちの
いろいろな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。」 12 人々はみ
な、驚き惑って、互いに「いったいこれはどうしたことか。」と言った。 13 し
かし、ほかに「彼らは甘いぶどう酒に酔っているのだ。」と言ってあざける者
たちもいた。
14 そこで、ペテロは十一人とともに立って、声を張り上げ、人々にはっきり
こう言った。「ユダヤの人々、ならびにエルサレムに住むすべての人々。あ
なたがたに知っていただきたいことがあります。どうか、私のことばに耳を貸
してください。 15 今は朝の九時ですから、あなたがたの思っているようにこの
人たちは酔っているのではありません。 16 これは、預言者ヨエルによって語ら
れた事です。
17 『神は言われる。
終わりの日に、わたしの霊をすべての人に注ぐ。
すると、あなたがたの息子や娘は預言し、
青年は幻を見、
老人は夢を見る。
18 その日、わたしのしもべにも、はしためにも、
わたしの霊を注ぐ。
すると、彼らは預言する。
19 また、わたしは、上は天に不思議なわざを示し、
下は地にしるしを示す。
それは、血と火と立ち上る煙である。
20 主の大いなる輝かしい日が来る前に、
太陽はやみとなり、月は血に変わる。
21 しかし、主の名を呼ぶ者は、みな救われる。』

22 イスラエルの人たち。このことばを聞いてください。神はナザレ人イエス
によって、あなたがたの間で力あるわざと、不思議なわざと、あかしの奇蹟を
行なわれました。それらのことによって、神はあなたがたに、この方のあかし
をされたのです。これは、あなたがた自身がご承知のように、 23 神の定めた計
画と神の予知とによって引き渡されたこの方を、あなたがたは不法な者の手に
よって十字架につけて殺しました。 24 しかし神は、この方を死の苦しみから解
き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり
えないからです。 25 ダビデはこの方について、こう言っています。
『私はいつも、自分の目の前に主を見ていた。
主は、私が動かされないように、
私の右におられるからである。
26 それゆえ、私の心は楽しみ、
私の舌は大いに喜んだ。
さらに私の肉体も望みの中に安らう。
27 あなたは私のたましいをハデスに捨てて置かず、
あなたの聖者が朽ち果てるのを
お許しにならないからである。
28 あなたは、私にいのちの道を知らせ、
御顔を示して、私を喜びで満たしてくださる。』
29 兄弟たち。先祖ダビデについては、私はあなたがたに、確信をもって言う
ことができます。彼は死んで葬られ、その墓は今日まで私たちのところにあ
ります。 30 彼は預言者でしたから、神が彼の子孫のひとりを彼の王位に着か
せると誓って言われたことを知っていたのです。 31 それで後のことを予見
して、キリストの復活について、『彼はハデスに捨てて置かれず、その肉体
は朽ち果てない。』と語ったのです。 32 神はこのイエスをよみがえらせまし
た。私たちはみな、そのことの証人です。 33 ですから、神の右に上げられた
イエスが、御父から約束された聖霊を受けて、今あなたがたが見聞きしてい

るこの聖霊をお注ぎになったのです。 34 ダビデは天に上ったわけではありま
せん。彼は自分でこう言っています。
『主は私の主に言われた。
35 わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは
わたしの右の座に着いていなさい。』
36 ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなけ
ればなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエ
スを、あなたがたは十字架につけたのです。」
37 人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟た
ち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」と言った。 38 そこでペテロは彼ら
に答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、
イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物と
して聖霊を受けるでしょう。 39 なぜなら、この約束は、あなたがたと、その
子どもたち、ならびにすべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である
主がお召しになる人々に与えられているからです。」 40 ペテロは、このほか
にも多くのことばをもって、あかしをし、「この曲がった時代から救われなさ
い。」と言って彼らに勧めた。 41 そこで、彼のことばを受け入れた者は、バプ
テスマを受けた。その日、三千人ほどが弟子に加えられた。 42 そして、彼らは
使徒たちの教えを堅く守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。
43 そして、一同の心に恐れが生じ、使徒たちによって、多くの不思議なわざ
とあかしの奇蹟が行なわれた。 44 信者となった者たちはみないっしょにいて、
いっさいの物を共有にしていた。 45 そして、資産や持ち物を売っては、それ
ぞれの必要に応じて、みなに分配していた。 46 そして毎日、心を一つにして宮
に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、 47 神を賛美
し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくだ
さった。

3

1 ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。 2 すると、
生まれつき足のきかない男が運ばれて来た。この男は、宮にはいる人たちから
施しを求めるために、毎日「美しの門」という名の宮の門に置いてもらってい
た。 3 彼は、ペテロとヨハネが宮にはいろうとするのを見て、施しを求めた。
4 ペテロは、ヨハネとともに、その男を見つめて、「私たちを見なさい。」と
言った。 5 男は何かもらえると思って、ふたりに目を注いだ。 6 すると、ペテ
ロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエ
ス・キリストの名によって、歩きなさい。」と言って、 7 彼の右手を取って立
たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、 8 おどり上がって立
っすぐに立ち、歩きだした。そして歩いたり、はねたりしながら、神を賛美し
つつ、ふたりといっしょに宮にはいって行った。 9 人々はみな、彼が歩きなが
ら、神を賛美しているのを見た。 10 そして、これが、施しを求めるためにに宮
の「美しの門」にすわっていた男だとわかると、この人の身に起こったことに
驚き、あきれた。 11 この人が、ペテロとヨハネにつきまとっている間に、非常
に驚いた人々がみないっせいに、ソロモンの廊という回廊にいる彼らのところ
にに、やって来た。 12 ペテロはこれを見て、人々に向かってこう言った。「イス
ラエル人たち。なぜこのことに驚いているのですか。なぜ、私たちが自分の力
とか信仰深さとかによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのです
か。 13 アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち、私たちの先祖の神は、そ
のしもべイエスに栄光をお与えになりました。あなたがたは、この方を引き渡
し、ピラトが釈放すると決めたのに、その面前でこの方を拒みました。 14 その
うえ、このきよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、
15 いのちの君を殺しました。しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえ
らせました。私たちはそのことの証人です。 16 そして、このイエスの御名が、
その御名を信じる信仰のゆえに、あなたがたがいま見ており知っているこの人
を強くしたのです。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの目の
前で完全なからだにしたのです。 17 ですから、兄弟たち。私は知っています。
あなたがたは、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行な
いをしたのです。 18 しかし、神は、すべての預言者たちの口を通して、キリ
ストの受難をあらかじめ語っておられたことを、このように実現されました。
19 そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔
い改めて、神に立ち返りなさい。 20 それは、主の御前から回復の時が来て、あ
なたがたのためにメシヤと定められたイエスを、主が遣わしてくださるためな
のです。 21 このイエスは、神が昔から、聖なる預言者たちの口を通してたび

たび語られた、あの万物の改まる時まで、天にとどまっていなければなりませ
ん。 22 モーセはこう言いました。『神である主は、あなたがたのために、私の
ようなひとりの預言者を、あなたがたの兄弟たちの中からお立てになる。この
方があなたがたに語ることはみな聞きなさい。 23 その預言者に聞き従わない
者はだれでも、民の中から滅ぼし絶やされる。』 24 また、サムエルをはじめと
して、彼に続いて語ったすべての預言者たちも、今の時について宣べました。
25 あなたがたは預言者たちの子孫です。また、神がアブラハムに、『あなたの
子孫によって、地の諸民族はみな祝福を受ける。』と言って、あなたがたの先
祖と結ばれたあの契約の子孫です。 26 神は、まずそのしもべを立てて、あなた
がたにお遣わしになりました。それは、この方があなたがたを祝福して、ひと
りひとりをその邪悪な生活から立ち返らせてくださるためなのです。」

4

1 彼らが民に話していると、祭司たち、宮の守衛長、またサドカイ人たちが
やって来たが、 2 この人たちは、ペテロとヨハネが民を教え、イエスのことを
例にあげて死者の復活を宣べ伝えているのに、困り果て、 3 彼らに手をかけて
捕えた。そして翌日まで留置することにした。すでに夕方だったからである。
4 しかし、みことばを聞いた人々が大ぜい信じ、男の数が五千人ほどになった。
5 翌日、民の指導者、長老、学者たちは、エルサレムに集まった。 6 大祭司
アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル、そのほか大祭司の一族もみな出
席した。 7 彼らは使徒たちを真中に立たせて、「あなたがたは何の権威によっ
て、また、だれの名によってこんなことをしたのか。」と尋問しだした。 8 そら
のとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、なら
びに長老の方々。 9 私たちがきょう取り調べられているのが、病人に行なった
良いわざについてであり、その人が何によっていやされたか、ということのた
めであるなら、 10 皆さんも、またイスラエルのすべての人々も、よく知ってく
ださい。この人が直って、あなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十
字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御
名によるのです。 11 『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石
となった。』というのはこの方のことです。 12 この方以外には、だれによって
も救いはありません。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名
としては、どのような名も、人間に与えられていないからです。」
13 彼らはペテロとヨハネとの大胆さを見、またふたりが無学な、普通の人で
あるのを知って驚いたが、ふたりがイエスともにいたのだ、ということがわ
かって来た。 14 そればかりでなく、いやされた人がふたりといっしょに立ってい
るのを見ては、返すことばもなかった。 15 彼らはふたりに議会から退場するよ
うに命じ、そして互いに協議した。 16 彼らは言った。「あの人たちをどうしよ
う。あの人たちによって著しいしるしが行なわれたことは、エルサレムの住民
全部に知れ渡っているから、われわれはそれを否定できない。 17 しかし、これ
以上民の間に広がらないために、今後だれにもこの名によって語ってはならな
いと、彼らをきびしく戒めよう。」 18 そこで彼らを呼んで、いっさいイエスの
名によって語ったり教えたりしてはならない、と命じた。 19 ペテロとヨハネ
は彼らに答えて言った。「神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、
神の前に正しいかどうか、判断してください。 20 私たちは、自分の見たこと、
また聞いたことを、話さないわけにはいきません。」 21 そこで、彼らはふたり
をさらにおどしたうえで、釈放した。それはみなの者が、この出来事のゆえに
神をあがめていたので、人々の手前、ふたりを罰するすべがなかったからで
ある。 22 この奇蹟によっていやされた男は四十歳余りであった。
23 釈放されたふたりは、仲間のところへ行き、祭司長たちや長老たちが彼ら
に言ったことを残らず報告した。 24 これを聞いた人々はみな、心を一つにし
て、神に向かい、声を上げて言った。「主よ。あなたは天と地と海とその中の
すべてのものを造られた方です。 25 あなたは、聖霊によって、あなたのしもべ
であり私たちの先祖であるダビデの口を通して、こう言われました。
『なぜ異邦人たちは騒ぎ立ち、
もろもろの民はむなしいことを計るのか。
26 地の王たちは立ち上がり、
指導者たちは、主とキリストに反抗して、
一つに組んだ。』
27 事実、ヘロデとポンテオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民といっしょ
に、あなたが油を注がれた、あなたの聖なるしもべイエスに逆らってこの都
に集まり、 28 あなたの御手とみこころによって、あらかじめお定めになった
ことを行ないました。 29 主よ。いま彼らの脅かしをご覧になり、あなたのし

もべたちにみことばを大胆に語らせてください。 30 御手を伸ばしていやしを
行なわせ、あなたの聖なるしもべイエスの御名によって、しるしと不思議な
わざを行なわせてください。」 31 彼らがこう祈ると、その集まっていた場所
が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語りだした。
32 信じた者の群れは、心と思いを一つにして、だれひとりその持ち物を自分
のものと言わず、すべてを共有にしていた。 33 使徒たちは、主イエスの復活を
非常に力強くあかしし、大きな恵みがそのすべての者の上にあった。 34 彼らの
中には、ひとりも乏しい者がなかった。地所や家を持っている者は、それを売
り、代金を携えて来て、 35 使徒たちの足もとに置き、その金は必要に従って
おのおのに分け与えられたからである。
36 キプロス生まれのレビ人で、使徒たちによってバルナバ（訳すと、慰めの
子）と呼ばれていたヨセフも、 37 畑を持っていたので、それを売り、その代金
を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。

5

1 ところが、アナニヤという人は、妻のサッピラとともにその持ち物を売り、
2 妻も承知のうえで、その代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、
使徒たちの足もとに置いた。 3 そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。ど
うしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分
のために残しておいたのか。 4 それはもともとあなたのものであり、売ってか
らもあなたの自由になったのではないか。なぜこのようなことをたくらんだの
か。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」 5 アナニヤはこのこ
とばを聞くと、倒れて息が絶えた。そして、これを聞いたすべての人に、非常
な恐れが生じた。 6 青年たちは立って、彼を包み、運び出して葬った。
7 三時間ほどたって、彼の妻はこの出来事を知らずにはいって来た。 8 ペテロ
は彼女にこう言った。「あなたがたは地所をこの値段で売ったのですか。私に
言いなさい。」彼女は「はい。その値段です。」と言った。 9 そこで、ペテロ
は彼女に言った。「どうしてあなたがたは心を合わせて、主の御霊を試みたの
ですか。見なさい、あなたの夫を葬った者たちが、戸口に来ていて、あなたを
でも運び出します。」 10 すると彼女は、たちまちペテロの足もとに倒れ、息が絶
えた。はいって来た青年たちは、彼女が死んだのを見て、運び出し、夫のそば
に葬った。 11 そして、教会全体と、このことを聞いたすべての人たちに、非
常な恐れが生じた。
12 また、使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議なわざが人々の間で
行なわれた。みなは一つ心になってソロモンの廊にいた。 13 ほかの人々は、
ひとりもこの交わりに加わろうとしなかったが、その人々は彼らを尊敬してい
た。 14 そればかりか、主を信じる者は男も女もますますふえていった。 15 つ
いに、人々は病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせ、ペテロが通
りかかるときには、せめてその影でも、だれかにかかるようにするほどになっ
た。 16 また、エルサレムの付近の町々から、大ぜいの人が、病人や、汚れた霊
に苦しめられている人などを連れて集まって来たが、その全部がいやされた。
17 そこで、大祭司とその仲間たち全部、すなわちサドカイ派の者はみな、
ねたみに燃えて立ち上がり、 18 使徒たちを捕え、留置場に入れた。 19 ところ
が、夜、主の使いが牢の戸を開き、彼らを連れ出し、 20 「行って宮の中に立
ち、人々にこのいのちのことばを、ことごとく語りなさい。」と言った。 21 彼
らはこれを聞くと、夜明けごろ宮にはいって教え始めた。一方、大祭司とその
仲間たちは集まって来て、議会とイスラエル人のすべての長老を召集し、使徒
たちを引き出して来させるために、人を獄舎にやった。 22 ところが役人たちが
行ってみると、牢の中には彼らがいなかったので、引き返してこう報告した。
23 「獄舎は完全にしまっており、番人たちが戸口に立っていましたが、あけて
みると、中にはだれもおりませんでした。」 24 宮の守衛長や祭司長たちは、
このことばを聞いて、いったいこれはどうなって行くのかと、使徒たちのこと
で当惑した。 25 そこへ、ある人がやって来て、「大変です。あなたがたが牢に
入れた人たちが、宮の中に立って、人々を教えています。」と告げた。 26 そ
こで、宮の守衛長は役人たちといっしょに出て行き、使徒たちを連れて来た。し
かし、手荒なことはしなかった。人々に石で打ち殺されるのを恐れたからであ
る。 27 彼らが使徒たちを連れて来て議会の中に立たせると、大祭司は使徒たち
を問いただして、 28 言った。「あの名によって教えてはならないときびしく命
じておいたのに、何ということだ。エルサレム中にあなたがたの教えを広めて
しまい、そのうえ、あの人の血の責任をわれわれに負わせようとしているでは
ないか。」 29 ペテロをはじめ使徒たちは答えて言った。「人に従うより、神に
従うべきです。 30 私たちの先祖の神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイ

エスを、よみがえらせたのです。 31 そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の
赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主として、ご自分の右に上げ
られました。 32 私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与
えになった聖霊もそのことの証人です。」
33 彼らはこれを聞いて怒り狂い、使徒たちを殺そうと計った。 34 ところが、
すべての人に尊敬されている律法学者で、ガマリエルというパリサイ人が議会
の中に立ち、使徒たちをしばらく外に出させるように命じた。 35 それから、
議員たちに向かってこう言った。「イスラエルの皆さん。この人々をどう扱う
か、よく気をつけてください。 36 というのは、先ごろチゥダが立ち上がって、
自分を何か偉い者のように言い、彼に従った男の数が四百人ほどありましたし
が、結局、彼は殺され、従った者はみな散らされて、あとかたもなくなりまし
た。 37 その後、人口調査のとき、ガリラヤ人ユダが立ち上がり、民衆をそそのし
かして反乱を起こしましたが、自分は滅び、従った者たちもみな散らされて し
ま いました。 38 そこで今、あなたがたに申したいのです。あの人たちから手を
引き、放っておきなさい。もし、その計画や行動が人から出たものならば、自
滅してしまうでしょう。 39 しかし、もし神から出たものならば、あなたがたに
は彼らを滅ぼすことはできないでしょう。もしかすれば、あなたがたは神に敵
対する者になってしまいます。」彼らは彼に説得され、 40 使徒たちを呼んで、
彼らをむちで打ち、イエスの名によって語ってはならないと言い渡したうえで
釈放した。 41 そこで、使徒たちは、御名のためにはずかしめられるに値する者
とされたことを喜びながら、議会から出て行った。 42 そして、毎日、宮や家々
で教え、イエスがキリストであることを宣べ伝え続けた。

6

1 そのころ、弟子たちがふえるにつれて、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちが、
ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情を申し立てた。彼らのうちのやもめ
たちが、毎日の配給でなおざりにされていたからである。 2 そこで、十二使徒
は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばをあと回しに
して、食卓のことに仕えるのはよくありません。 3 そこで、兄弟たち。あなた
がたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。
私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。 4 そして、私たち
は、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」 5 この提案は全員
の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、および
ピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラ
オを選び、 6 この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、
手を彼らの上に置いた。
7 こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数
が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰にはいった。
8 さて、ステパノは恵みと力とに満ち、人々の間で、すばらしい不思議なわ
ざとしるしを行なっていた。 9 ところが、いわゆるリベルテンの会堂に属する
人々で、クレネ人、アレキサンドリヤ人、キリキヤやアジヤから来た人々など
が立ち上がって、ステパノと議論した。 10 しかし、彼が知恵と御霊によって
語っていたので、それに対抗することができなかった。 11 そこで、彼らはある
人々をそそのかし、「私たちは彼がモーセと神とをけがすことばを語るのを聞
いた。」と言わせた。 12 また、民衆と長老たちと律法学者たちを扇動し、彼を
襲って捕え、議会にひっぱって行った。 13 そして、偽りの証人たちを立てて、
こう言わせた。「この人は、この聖なる所と律法とに逆らうことばを語るのを
やめません。 14 『あのナザレ人イエスはこの聖なる所をこわし、モーセが私た
ちに伝えた慣例を変えてしまう。』と彼が言うのを、私たちは聞きました。」
15 議会で席に着いていた人々はみな、ステパノに目を注いだ。すると彼の顔は
御使いの顔のように見えた。

7

1 大祭司は、「そのとおりか。」と尋ねた。
2 そこでステパノは言った。「兄弟たち、父たちよ。聞いてください。私たち
の父祖アブラハムが、カランに住む以前まだメソポタミヤにいたとき、栄光の
神が彼に現われて、 3 『あなたの土地とあなたの親族を離れ、わたしがあなた
に示す地に行け。』と言われました。 4 そこで、アブラハムはカルデヤ人の地
を出て、カランに住みました。そして、父の死後、神は彼をそこから今あなた
がたの住んでいるこの地にお移しになりましたが、 5 ここでは、足の踏み場とな
るだけのものさえも、相続財産として彼にお与えになりませんでした。それで
も、子どももなかった彼に対して、この地を彼とその子孫に財産として与える

こと を約束されたのです。 6 また神は次のようなことを話されました。『彼の子孫は外国に移り住み、四百年間、奴隷にされ、虐待される。』 7 そして、彼に割礼を
施されました。『彼らを奴隷にする国民は、わたしがさばく。そのあと、彼らは
ヤコブの子孫は、わたしを礼拝する。』 8 また神は、アブラハムに割礼の契約
をおのが生まれ出て、こうして、彼にイサクが生まれました。それから、イサ
クに割礼を施しました。こうして、彼はイサクにヤコブを生まれ、ヤコブは十
二人の族長が生まれました。 9 族長たちはヨセフをねたんで、彼を患難のエジ
プトに売りとばしました。しかし、神は彼とともにおられ、 10 あらゆるたい
ろいろな救いをカナンとエジプトの王パロに与え、エジプトの王パロは彼を
全地の総督に任じました。 11 ところが、大きな災難がエジプトとカナンの全
地に襲ってきて、食物が欠乏し、大きな苦しみとなりました。 12 ヤコブは、
エジプトに穀物があるとの知らせを聞いて、初めて、私たちの先祖たちを遣
わしました。 13 ヨセフは二回目に、ヨセフの家族のことが明らかにされ、ヨ
セフの父親がどんな家柄であるかもパロに知られました。 14 ヨセフは使者を
遣わして、父ヤコブと親族七十五人を呼び寄せました。 15 ヤコブはエジプト
に下って行き、そこで、私たちの先祖たちも死にました。 16 そして、遺体は
シケムに運ばれ、アブラハムが金を出して買っておいた墓に葬られました。
17 ヨセフの約束の時が近づくにつれ、民はエジプトにますます増えて、 18 ヨ
セフを知らない別の王がエジプトの王位につきました。 19 この王は、私たち
の同胞に対して策略をめぐらし、私たちの先祖を苦しめて、幼子を捨てさせ、
生かしておけないようにしました。 20 ちょうどそのころ、モーセが生まれた
のです。彼は神の目にかなった美しい子で、三か月の間、父の家で育てられま
した。 21 捨てられたのち、パロの娘に拾われ、自分の子として育てました。
22 モーセは、エジプトのあらゆる知恵を教えこまれ、ことばにも行いにも力
のある人になりました。 23 四十歳になったとき、モーセは、自分の兄弟たち
イスラエルの子らを顧みようという心が起こされました。 24 そこで、ある人
がひどい目にあっているのを見て、その人をかばい、虐待されているその人の
仕返しをしました。 25 モーセは、自分の手によって、神が彼らを救いを与え
ようとしていることを、兄弟たちは理解するものと思っていましたが、彼らは
理解しませんでした。 26 翌日、モーセは、争っているところに現われ、和解
させようとして、『あなたがたは兄弟なのだ。どうしてお互いに傷つけ合っ
ているのか。』と言いました。 27 すると、隣人を傷つけていた者が、モーセを
押しのけて言いました。『だれがあなたを、私たちの支配者や裁判官にしたの
か。 28 きのうは、エジプト人を殺したように、私も殺す気か。』 29 このことばを聞いたモー
セは、逃げてミデアンの地に身を寄せ、そこで男の子ふたりをもうけました。
30 四十年たったとき、御使いが、シナイ山の荒野で、柴の燃えさかる炎のな
かでモーセに現われました。 31 モーセは、その光景を見たが、主の御声が聞
こえてきました。 32 『わたしは、あなたがたの先祖の神、アブラハムの神、
イサクの神、ヤコブの神である。』モーセは震えあがって、見ようとはしなか
った。 33 すると、主は彼にこう言われた。『あなたの立っている所は聖なる
地である。 34 わたしは、わたしの民の苦難をたしかに見て、その呻きを聞い
て、彼らを救い出すために下って来た。さあ、行きなさい。わたしはあなたを
エジプトに遣わそう。』 35 『だれがあなたを支配者や裁判官にしたのか。』
と言って、拒んだこのモーセを、神は柴の中で現われた御使いの手によって
遣わされたのです。 36 この人が、エジプトの地で、紅海で、また四十年間荒
野で、不思議なわざとしるしを行ない、私たちを導き出しました。 37 このモ
ーセが、イスラエルの人々に、『神はあなたがたの兄弟たちの中から、私のよ
うな預言者を、あなたがたのために起こされる。』と言った人です。 38 また、
この人が、シナイ山で彼らに語った天使とともに、荒野の集会において、生
ける神のことばを受け、私たちの先祖たちに与えようとしたのです。 39 ところ
が、私たちの先祖たちは、モーセに従うことを退け、エジプトをなつかしく思
い、 40 アロンに、『私たちを導く神々を作ってください。私たちをエジプト
の地から導き出したこのモーセとは、どうなったかわかりません。』と言って
、 41 子牛の像を作り、この偶像にいけにえをささげ、自分たちの手で作った
物を楽しんでいました。 42 そこで、神は彼らに背を向け、彼らが天の星に仕
えるままにされました。預言者たちの書に書いてあるとおりです。

『イスラエルの家よ。あなたがたは
荒野にいた四十年の間に、

ほふられた獣と供え物とを、
わたしにささげたことがあったか。
43 あなたがたは、モロクの幕屋と
ロンパの神の星をかついでいた。
それらは、あなたがたが拝むために
作った偶像ではないか。
それゆえ、わたしは、あなたがたを
バビロンのかなたへ移す。』
44 私たちの先祖のためには、荒野にあかしの幕屋がありました。それは、見たとおりの形に造れとモーセに言われた方の命令どおりに、造られていました。 45 私たちの先祖は、この幕屋を次々に受け継いで、神が先祖たちの前から異邦人を追い払い、その領土を取らせてくださったときには、ヨシュアとともにそれを運び入れ、ついにダビデの時代となりました。 46 ダビデは神の前に恵みをいただき、ヤコブの神のために御住まいを得たいと願い求めました。 47 けれども、神のために家を建てたのはソロモンでした。 48 しかし、いと高き方は、手で造った家にはお住みになりません。預言者が語っているとおりです。
49 『主は言われる。
天はわたしの王座、
地はわたしの足の足台である。
あなたがたは、どのような家を
わたしのために建てようとするのか。
わたしの休む所とは、どこか。
50 わたしの手が、これらのものを
みな、造ったのではないか。』
51 かたくなで、心と耳とに割礼を受けていない人たち。あなたがたは、先祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです。 52 あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者がだれかあったでしょうか。彼らは、正しい方が来られることを前もって宣べた人たちを殺したが、今はあなたがたが、この正しい方を裏切る者、殺す者となりました。 53 あなたがたは、御使いたちによって定められた律法を受けたが、それを守ったことはありません。」
54 人々はこれを聞いて、はらわたが煮え返る思いで、ステパノに向かって歯ぎしりした。 55 しかし、聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスとを見て、 56 こう言った。「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。」 57 人々は大声で叫びながら、耳をおおい、いっせいにステパノに殺到した。 58 そして彼を町の外に追い出して、石で打ち殺した。証人たちは、自分たちの着物をサウロという青年の足もとに置いた。 59 こうして彼らがステパノに石を投げつけていると、ステパノは主を呼んで、こう言った。「主イエスよ。私の霊をお受けください。」 60 そして、ひざまずいて、大声でこう叫んだ。「主よ。この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って、眠りについた。

8

1 サウロは、ステパノを殺すことに賛成していた。その日、エルサレムの教会に対する激しい迫害が起こり、使徒たち以外の者はみな、ユダヤとサマリヤの諸地方に散らされた。 2 敬虔な人たちはステパノを葬り、彼のために非常に悲しんだ。 3 サウロは教会を荒らし、家々にはいって、男も女も引きずり出し、次々に牢に入れた。
4 他方、散らされた人たちは、みことばを宣べながら、巡り歩いた。 5 ピリポはサマリヤの町に下って行き、人々にキリストを宣べ伝えた。 6 群衆はピリポの話を聞き、その行なっていたしるしを見て、みなそろって、彼の語ることに耳を傾けた。 7 汚れた霊につかれた多くの人たちからは、その霊が大声で叫んで出て行くし、大ぜいの中風の者や足のきかない者は直ったからである。 8 それでその町に大きな喜びが起こった。
9 ところが、この町にシモンという人がいた。彼は以前からこの町で魔術を行なって、サマリヤの人々を驚かし、自分は偉大な者だと話していた。 10 小さな者から大きな者に至るまで、あらゆる人々が彼に関心を抱き、「この人こそ、大能と呼ばれる、神の力だ。」と言っていた。 11 人々が彼に関心を抱いたのは、長い間、その魔術に驚かされていたからである。 12 しかし、ピリポが神の国とイエス・キリストの御名について宣べるのを信じた彼らは、男も女もバプテスマを受けた。 13 シモン自身も信じて、バプテスマを受け、いつもピリポ

についていた。そして、しるしとすばらしい奇蹟が行なわれるのを見て、驚いていた。
14 さて、エルサレムにいる使徒たちは、サマリヤの人々が神のことばを受け
入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところへ遣わした。 15 ふたりは下っ
て行って、人々が聖霊を受けるように祈った。 16 彼らは主イエスの御名によっ
てバプテスマを受けていただけで、聖霊がまだだれにも下っておられなかった
からである。 17 ふたりが彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。 18 使
徒たちが手を置くと聖霊が与えられるのを見たシモンは、使徒たちのところに
金を持って来て、 19 「私が手を置いた者がだれでも聖霊を受けられるように、
この権威を私にも下さい。」と言った。 20 ペテロは彼に向かって言った。「あ
なたの金は、あなたとともに滅びるがよい。あなたは金で神の賜物を手に入れ
ようと思っているからです。 21 あなたは、このことについては何の関係もない
し、それにあずかることもできません。あなたの心が神の前に正しくないから
です。 22 だから、この悪事を悔い改めて、主に祈りなさい。あるいは、心に抱
いた思いが赦されるかもしれません。 23 あなたはまだ苦い胆汁と不義のきずな
の中にいることが、私にはよくわかっています。」 24 シモンは答えて言った。
「あなたがたの言われた事が何も私に起こらないように、私のために主に祈っ
てください。」
25 このようにして、使徒たちはおごそかにあかしをし、また主のことばを語
って後、エルサレムへの帰途につき、サマリヤ人の多くの村でも福音を宣べ伝
えた。
26 ところが、主の使いがピリポに向かってこう言った。「立って南へ行き、
エルサレムからガザに下る道に出なさい。」（このガザは今、荒れ果てている。） 27 そこで、彼は立って出かけた。すると、そこに、エチオピヤ人の女王
カンダケの高官で、女王の財産全部を管理していた宦官のエチオピヤ人がい
た。彼は礼拝のためエルサレムに上り、 28 いま帰る途中であった。彼は馬車
に乗って、預言者イザヤの書を読んでいた。 29 御霊がピリポに「近寄って、あ
の馬車といっしょに行きなさい。」と言われた。 30 そこでピリポが走って行く
と、預言者イザヤの書を読んでいるのが聞こえたので、「あなたは、読んでい
ることが、わかりますか。」と言った。 31 すると、その人は、「導く人がなけ
れば、どうしてわかりましょう。」と言った。そして馬車に乗っていっしょに
すわるように、ピリポに頼んだ。 32 彼が読んでいた聖書の個所には、こう書い
てあった。
「ほふり場に連れて行かれる羊のように、
また、黙々として
毛を刈る者の前に立つ小羊のように、
彼は口を開かなかった。
33 彼は、卑しめられ、そのさばきも取り上げられた。
彼の時代のことを、だれが話すことができようか。
彼のいのちは地上から取り去られたのである。」
34 宦官はピリポに向かって言った。「預言者はだれについて、こう言ってい
るのですか。どうか教えてください。自分についてですか。それとも、だれ
かほかの人についてですか。」 35 ピリポは口を開き、この聖句から始めて、
イエスのことを彼に宣べ伝えた。 36 道を進んで行くうちに、水のある所に
来たので、宦官は言った。「ご覧なさい。水があります。私がバプテスマを
受けるのに、何かさしつかえがあるでしょうか。」 37-38 そして馬車を止めさ
せ、ピリポも宦官も水の中へ降りて行き、ピリポは宦官にバプテスマを授け
た。 39 水から上がって来たとき、主の霊がピリポを連れ去られたので、宦官
はそれから後彼を見なかったが、喜びながら帰って行った。 40 それからピリ
ポはアゾトに現われ、すべての町々を通って福音を宣べ伝え、カイザリヤに
行った。

9

1 さてサウロは、なおも主の弟子たちに対する脅かしと殺害の意に燃えて、
大祭司のところに行き、 2 ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれるよう頼
んだ。それは、この道の者であれば男でも女でも、見つけ次第縛り上げてエ
ルサレムに引いて来るためであった。 3 ところが、道を進んで行って、ダマス
コの近くまで来たとき、突然、天からの光が彼を巡り照らした。 4 彼は地に倒
れて、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。」という声を聞いた。
5 彼が、「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、お答えがあった。「わた
しは、あなたが迫害しているイエスである。 6 立ち上がって、町にはいりなさ
い。そうすれば、あなたのしなければならないことが告げられるはずです。」

7 同行していた人たちは、声は聞こえても、だれも見えないので、ものも言えず
に立っていた。 8 サウロは地面から立ち上がったが、目は開いていても何も見
えなかった。そこで人々は彼の手を引いて、ダマスコへ連れて行った。 9 彼は
三日の間、目が見えず、また飲み食いもしなかった。
10 さて、ダマスコにアナニヤという弟子がいた。主が彼に幻の中で、「アナ
ニヤよ。」と言われたので、「主よ。ここにおります。」と答えた。 11 すると
主はこう言われた。「立って、『まっすぐ』という街路に行き、サウロというア
タルソ人をユダの家に尋ねなさい。そこで、彼は祈っています。 12 彼は、アナ
ニヤという者がはいって来て、自分の上に手を置くと、目が再び見えるように
なるのを、幻で見たのです。」 13 しかし、アナニヤはこう答えた。「主よ。私ど
は多くの人々から、この人がエルサレムで、あなたの聖徒たちにどんなひど
いことをしたかを聞きました。 14 彼はここでも、あなたの御名を呼ぶ者たちを
捕縛する権限を、祭司長たちから授けられているのです。」 15 しかし、主イエ
はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イス
ラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。 16 彼がわたしの名のために
どんなに苦しまなければならないかを、わたしは彼に示すつもりです。」
17 そこでアナニヤは出かけて行って、その家にはいり、サウロの上に手を置い
てこう言った。「兄弟サウロ。あなたが来る途中でお現われになった主イエス
が、私を遣わされました。あなたが再び見えるようになり、聖霊に満たされる
ためです。」 18 すると、ただちに、サウロの目からうろこのような物が落ちて、
目が見えるようになった。彼は立ち上がって、バプテスマを受け、 19 食事をし
て元気づいた。
サウロは数日の間、ダマスコの弟子たちとともにいた。 20 そしてただちに、
諸会堂で、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。 21 これを聞いた人々はみ
な、驚いてこう言った。「この人はエルサレムで、この御名を呼ぶ者たちを滅
ぼしたのではありませんか。ここへやって来たのも、彼らを縛って、祭司長た
ちのところへ引いて行くためではないのですか。」 22 しかしサウロはますます
力を増し、イエスがキリストであることを証明して、ダマスコに住むユダヤ人
たちをうろたえさせた。
23 多くの日数がたって後、ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をしたが、 24 そ
の陰謀はサウロに知られてしまった。彼らはサウロを殺してしまおうと、昼も
夜も町の門を全部見張っていた。 25 そこで、彼の弟子たちは、夜中に彼をかご
に乗せ、町の城壁伝いにつり降ろした。
26 サウロはエルサレムに着いて、弟子たちの仲間にはいろうと試みたが、み
なは彼を弟子だとは信じないで、恐れていた。 27 ところが、バルナバは彼を引
き受けて、使徒たちのところへ連れて行き、彼がダマスコへ行く途中で主を見
た様子や、主が彼に向かって語られたこと、また彼がダマスコでイエスの御名
をで大胆に宣べた様子などを彼らに説明した。 28 それからサウロは、エルサレム
で弟子たちとともにいて自由に出はいりし、主の御名によって大胆に語った。
29 そして、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちと語ったり、論じたりしていた。し
かし、彼らはサウロを殺そうとねらっていた。 30 兄弟たちはそれと知って、彼
をカイザリヤに連れて下り、タルソへ送り出した。
31 こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの全地にわたり築き上げら
れて平安を保ち、主を恐れかしこみ、聖霊に励まされて前進し続けたので、信
者の数がふえて行った。
32 さて、ペテロはあらゆる所を巡回したが、ルダに住む聖徒たちのところへ
も下って行った。 33 彼はそこで、八年の間も床に着いているアイネヤという人
に出会った。彼は中風であった。 34 ペテロは彼にこう言った。「アイネヤ。イ
エス・キリストがあなたをいやしてくださるのです。立ち上がりなさい。そし
て自分で床を整えなさい。」すると彼はただちに立ち上がった。 35 ルダとサロ
ンに住む人々はみな、アイネヤを見て、主に立ち返った。
36 ヨッパにタビタ（ギリシヤ語に訳せば、ドルカス）という女の弟子がい
た。この女は、多くの良いわざと施しをしていた。 37 ところが、そのころ彼女
は病気になって死に、人々はその遺体を洗って、屋上の間に置いた。 38 ルダは
ヨッパに近かったので、弟子たちは、ペテロがそこにいると聞いて、人をふた
り彼のところへ送って、「すぐに来てください。」と頼んだ。 39 そこでペテロ
は立って、いっしょに出かけた。ペテロが到着すると、彼らは屋上の間に案内
した。やもめたちはみな泣きながら、彼のそばに来て、ドルカスがいっしょに
いたころ作ってくれた下着や上着の数々を見せるのであった。 40 ペテロはみな
の者を外に出し、ひざまずいて祈った。そしてその遺体のほうを向いて、「タ
ビタ。起きなさい。」と言った。すると彼女は目をあけ、ペテロを見て起き上
がった。 41 そこで、ペテロは手を貸して彼女を立たせた。そして聖徒たちとや

もめたちとを呼んで、生きている彼女を見せた。 42 このことがヨッパ中に知
れ渡り、多くの人々が主を信じた。 43 そして、ペテロはしばらくの間、ヨッパ
で、皮なめしのシモンという人の家に泊まっていた。

10

1 さて、カイザリヤにコルネリオという人がいて、イタリヤ隊という部隊の
百人隊長であった。 2 彼は敬虔な人で、全家族とともに神を恐れかしこみ、ユ
ダヤの人々に多くの施しをなし、いつも神に祈りをしていたが、 3 ある日の午
後三時ごろ、幻の中で、はっきりと神の御使いを見た。御使いは彼のところに
来て、「コルネリオ。」と呼んだ。 4 彼は、御使いを見つめていると、恐ろし
くなって、「主よ。何でしょうか。」と答えた。すると御使いはこう言った。
「あなたの祈りと施しは神の前に立ち上って、覚えられています。 5 さあ今、
ヨッパに人をやって、シモンという人を招きなさい。彼の名はペテロとも呼ば
れています。 6 この人は皮なめしのシモンという人の家に泊まっていますが、
その家は海べにあります。」 7 御使いが彼にこう語って立ち去ると、コルネリ
オはそのしもべたちの中のふたりと、側近の部下の中の敬虔な兵士ひとりを
呼び寄せ、 8 全部のことを説明してから、彼らをヨッパへ遣わした。
9 その翌日、この人たちが旅を続けて、町の近くまで来たころ、ペテロは祈
りをするために屋上に上った。昼の十二時ごろであった。 10 すると彼は非常
に空腹を覚え、食事をしたくなった。ところが、食事の用意がされている間
に、彼はうっとりと夢ごこちになった。 11 見ると、天が開けており、大きな敷
布のような入れ物が、四隅をつるされて地上に降りて来た。 12 その中には、
地上のあらゆる種類の四つ足の動物や、はうもの、また、空の鳥などがいた。
13 そして、彼に、「ペテロ。さあ、ほふって食べなさい。」という声が聞こえ
た。 14 しかしペテロは言った。「主よ。それはできません。私はまだ一度も、
きよくない物や汚れた物を食べたことがありません。」 15 すると、再び声が
あって、彼にこう言った。「神がきよめた物を、きよくないと言ってはならな
い。」 16 こんなことが三回あって後、その入れ物はすぐ天に引き上げられた。
17 ペテロが、いま見た幻はいったいどういうことだろう、と思い惑っている
と、ちょうどそのとき、コルネリオから遣わされた人たちが、シモンの家をた
ずね当てて、その門口に立っていた。 18 そして、声をかけて、ペテロと呼ばれ
るシモンという人がここに泊まっているだろうかと尋ねていた。 19 ペテロが幻
についての思い巡らしているとき、御霊が彼にこう言われた。「見なさい。三人
の人があなたをたずねて来ています。 20 さあ、下に降りて行って、ためらわず
に、彼らといっしょに行きなさい。彼らを遣わしたのはわたしです。」 21 そこ
でペテロは、その人たちのところへ降りて行って、こう言った。「あなたがた
のたずねているペテロは、私です。どんなご用でおいでになったのですか。」
22 すると彼らはこう言った。「百人隊長コルネリオという正しい人で、神を恐
れかしこみ、ユダヤの全国民に評判の良い人が、あなたを自分の家にお招き
して、あなたからお話を聞くように、聖なる御使いによって示されました。」
23 それで、ペテロは、彼らを中に入れて泊まらせた。
明くる日、ペテロは、立って彼らといっしょに出かけた。ヨッパの兄弟たち
も数人同行した。 24 その翌日、彼らはカイザリヤに着いた。コルネリオは、親
族や親しい友人たちを呼び集め、彼らを待っていた。 25 ペテロが着くと、コル
ネリオは出迎えて、彼の足もとにひれ伏して拝んだ。 26 するとペテロは彼を起
こして、「お立ちなさい。私もひとりの人間です。」と言った。 27 それから、
コルネリオとことばをかわしながら家にはいり、多くの人が集まっているのを
見て、 28 彼らにこう言った。「ご承知のとおり、ユダヤ人が外国人の仲間には
いったり、訪問したりするのは、律法にかなわないことです。ところが、神は
私に、どんな人のことでも、きよくないとか、汚れているとか言ってはならな
いことを示してくださいました。 29 それで、お迎えを受けたとき、ためらわず
に来たのです。そこで、お尋ねしますが、あなたがたは、いったいどういうわ
けで私をお招きになったのですか。」 30 するとコルネリオがこう言った。「四
日前のこの時刻に、私が家で午後三時の祈りをしていますと、どうでしょう、
輝いた衣を着た人が、私の前に立って、 31 こう言いました。『コルネリオ。あ
なたの祈りは聞き入れられ、あなたの施しは神の前に覚えられている。 32 そこ
で、ヨッパに人をやってシモンを招きなさい。彼の名はペテロとも呼ばれて
いる。この人は海べにある、皮なめしのシモンの家に泊まっている。』 33 そこ
で、私はすぐあなたのところへ人を送ったのですが、よくおいでくださいま
した。いま私たちは、主があなたにお命じになったすべてのことを伺おうとし
て、みな神の御前に出ております。」 34 そこでペテロは、口を開いてこう言っ
た。

「これで私は、はっきりわかりました。神はかたよったことをなさらず、
35 どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神に受け
入れられるのです。 36 神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスベ
ラエルの子孫にみことばをお送りになりました。このイエス・キリストはすガ
ての人の主です。 37 あなたがたは、ヨハネが宣べ伝えたバプテスマの後、リそ
テラヤから始まって、ユダヤ全土に起こった事がらを、よくご存じです。 38 れの
は、ナザレのイエスのことです。神はこの方に聖霊と力を注がれました。悪に
イエスは、神がるすべての者をいやされまして巡りました。 39 私たちは、イエスがユダ魔
制せられていたのにおられたのです。人々はこのイエスを木ヤを
のにかれっかれてエルサレムでの行なわれたすべてのことの証人です。 40 し
わよ中命じて、こられたこのイエスを三日目によみがえらせ、神
ってれたのです。 41 しかし、神はこれを人々にではなく、私たちに
だれでも、その名によって罪の赦しが受けられる、とあかしています。」
44 ペテロがなおもこれらのことばを話し続けているとき、みことばに耳を
傾けていたすべての人々に、聖霊がお下りになった。 45 割礼を受けている者
で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたのでペ
驚いた。 46 彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。そこでテ
ロはこう言った。 47 「この人たちは、私たちと同じように、聖霊を受けたのだ
でさすから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマを受け
せないようにすることができましょうか。」 48 そして、イエス・キリストの
御名によってバプテスマを受けるように彼らに命じた。彼らは、ペテロに数日
間滞在するように願った。

11

1 さて、使徒たちやユダヤにいる兄弟たちは、異邦人たちも神のことばを
受け入れた、ということを耳にした。 2 そこで、ペテロがエルサレムに上ったとき、
割礼を受けた者たちは、彼を非難して、 3 「あなたは割礼のない人のところに行
き、ろをに食事をした。」と言った。 4 そこでペテロは、事の次第を順序正しく説明して言った。
5 「私がヨッパの町でパの下げられたのを見ました。四隅をつり下げられたなにでがを
祈れた大きな敷布のようなものが、天から降りて来て、私のところに届いた。空の鳥と声
す。 6 その中をよく見ると、地の四つ足の獣、野獣、はうもの、空の鳥を見ました。
7 そして、『ペテロ。さあ、ほふって食べなさい。』という声を聞きました。
8 しかし私は、『主よ。それはできません。私はまだ一度も、すべて汚れたものや
よもない物や汚れた物を食べたことがありません。』と言いました。 9 すると、
う一度天から声がして、『神がきよめた物を、きよくないと言ってはならない。』
い。』という答えがありました。 10 こんなことが三回あって後、全部のものが
またイザヤから私のところへ遣わされた三人の人が、私たちのいた家の前に来
ていました。 12 そして御聖霊は私に、ためらわずにその人たちといっしょに行く
ようにと、言われました。そこで、この六人の兄弟たちも私に同行しました。
よちるはその人の家にはいって行きました。 13 その人が私たちに告げました。
いるのは、彼は御使いを見ましたが、御使いは彼の家の中に立って、『ヨッパに
たのや家にいるすべての人を救うことばを話してくれます。』と言った。
15 そこで私が話し始めていると、聖霊が、あの最初のときに私たちにお下
りになった同じように、彼らの上にもお下りになったのです。 16 私はそのとき、
主が、『ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは、聖霊によって
バプテスマを授けられる。』と言われたみことばを思い起こしました。 17
てうわけですから、私たちが主イエス・キリストを信じたとき、神が私たちに
い下さったのと同じ賜物を、彼らにもお授けになったのなら、どうして私たちが
神の御なさることを妨げることができましょう。」 18 人々はこれを聞いて沈黙
し、「それでは、神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになった
だ。」と言って、神をほめたたえた。
19 さて、ステパノのことから起こった迫害によって散らされた人々は、フェ
ニキヤ、キプロス、アンテオケまでも進んで行ったが、ユダヤ人以外の者には
だれにも、みことばを語らなかった。 20 ところが、その中にキプロス人とクレ

ネ人が幾人かいて、アンテオケに来てからはギリシヤ人にも語りかけ、主イエ
スのことを宣べ伝えた。 21 そして、主の御手が彼らとともにあったので、大ぜ
いの人が信じて主に立ち返った。 22 この知らせが、エルサレムにある教会に聞
こえたので、彼らはバルナバをアンテオケに派遣した。 23 彼はそこに到着した
とき、神の恵みを見て喜び、みなが心を堅く保って、常に主にとどまっている
ように励ました。 24 彼はりっぱな人物で、聖霊と信仰に満ちている人であった
。こうして、大ぜいの人が主に導かれた。 25 バルナバはサウロを捜しにタル
ソへ行き、 26 彼に会って、アンテオケに連れて来た。そして、まる一年の間、
彼らは教会に集まり、大ぜいの人たちを教えた。弟子たちは、アンテオケで初
めて、キリスト者と呼ばれるようになった。
27 そのころ、預言者たちがエルサレムからアンテオケに下って来た。 28 その
中のひとりでアガボという人が立って、世界中に大ききんが起こると御霊によ
って預言したが、はたしてそれがクラウデオの治世に起こった。 29 そこで、弟
子たちは、それぞれの力に応じて、ユダヤに住んでいる兄弟たちに救援の物を
送ることに決めた。 30 彼らはそれを実行して、バルナバとサウロの手によって
長老たちに送った。

12

1 そのころ、ヘロデ王は、教会の中のある人々を苦しめようとして、その手
を伸ばし、 2 ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。 3 それがユダヤ人の気に入っ
たのを見て、次にはペテロをも捕えにかかった。それは、種なしパンの祝いの
時期であった。 4 ヘロデはペテロを捕えて牢に入れ、四人一組の兵士四組に引
き渡して監視させた。それは、過越の祭りの後に、民の前に引き出す考えであ
ったからである。 5 こうしてペテロは牢に閉じ込められていた。教会は彼のた
めに、神に熱心に祈り続けていた。 6 ところでヘロデが彼を引き出そうとして
いた日の前夜、ペテロは二本の鎖につながれてふたりの兵士の間で寝ており、
戸口には番兵たちが牢を監視していた。 7 すると突然、主の御使いが現われ、
光が牢を照らした。御使いはペテロのわき腹をたたいて彼を起こし、「急いで
立ち上がりなさい。」と言った。すると、鎖が彼の手から落ちた。 8 そしてて御
使いが、「帯を締めて、くつをはきなさい。」と言うので、彼はそのとおりに
した。すると、「上着を着て、私についてきなさい。」と言った。 9 そこで、
外に出て、御使いについて行った。彼には御使いのしている事が現実の事だと
はわからず、幻を見ているのだと思われた。 10 彼らが、第一、第二の衛所を
通り、町に通じる鉄の門まで来ると、門がひとりでに開いた。そこで、彼らは
外に出て、ある通りを進んで行くと、御使いは、たちまち彼を離れた。 11 その
とき、ペテロは我に返って言った。「今、確かにわかった。主は御使いを遣わ
して、ヘロデの手から、また、ユダヤ人たちが待ち構えていたすべての災いか
ら、私を救い出してくださったのだ。」 12 こうとわかったので、ペテロは、マ
ルコと呼ばれているヨハネの母マリヤの家へ行った。そこには大ぜいの人が集
まって、祈っていた。 13 彼が入口の戸をたたくと、ロダという女中が応対に
出て来た。 14 ところが、ペテロの声だとわかると、喜びのあまり門をあけもし
ないで、奥へ駆け込み、ペテロが門の外に立っていることをみなに知らせた。
15 彼らは、「あなたは気が狂っているのだ。」と言ったが、彼女はほんとうだ
と言い張った。そこで彼らは、「それは彼の御使いだ。」と言っていた。 16 し
かし、ペテロはたたき続けていた。彼らが門をあけると、そこにペテロがいた
ので、非常に驚いた。 17 しかし彼は、手ぶりで彼らを静かにさせ、主がどの
ようにして牢から救い出してくださったかを、彼らに話して聞かせた。それか
ら、「このことをヤコブと兄弟たちに知らせてください。」と言って、ほかの
所へ出て行った。
18 さて、朝になると、ペテロはどうなったのかと、兵士たちの間に大騒ぎが
起こった。 19 ヘロデは彼を捜したが見つけることができないので、番兵たちを
取り調べ、彼らを処刑するように命じ、そして、ユダヤからカイザリヤに下っ
て行って、そこに滞在した。
20 さて、ヘロデはツロとシドンの人々に対して強い敵意を抱いていた。そ
こで彼らはみなでそろって彼をたずね、王の侍従ブラストに取り入って和解を
求めた。その地方は王の国から食糧を得ていたからである。 21 定められた日
に、ヘロデは王服を着けて、王座に着き、彼らに向かって演説を始めた。 22 そ
こで民衆は、「神の声だ。人間の声ではない。」と叫び続けた。 23 するとたち
まち、主の使いがヘロデを打った。ヘロデが神に栄光を帰さなかったからで
ある。彼は虫にかまれて息が絶えた。
24 主のみことばは、ますます盛んになり、広まって行った。

25 任務を果たしたバルナバとサウロは、マルコと呼ばれるヨハネを連れて、
エルサレムから帰って来た。

13

1 さて、アンテオケには、そこにある教会に、バルナバ、ニゲルと呼ばれる
シメオン、クレネ人ルキオ、国主ヘロデの乳兄弟マナエン、サウロなどという
預言者や教師がいた。 2 彼らが主を礼拝し、断食をしていると、聖霊が、「バ
ルナバとサウロをわたしのために聖別して、わたしが召した任務につかせなさ
い。」と言われた。 3 そこで彼らは、断食と祈りをして、ふたりの上に手を置
いてから、送り出した。
4 ふたりは聖霊に遣わされて、セルキヤに下り、そこから船でキプロスに渡
った。 5 サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神のことばを宣べ始めた。彼
らはヨハネを助手として連れていた。 6 島全体を巡回して、パポスまで行った
ところ、にせ預言者で、名をバルイエスというユダヤ人の魔術師に出会った。
7 この男は地方総督セルギオ・パウロのもとにいた。この総督は賢明な人であっ
て、バルナバとサウロを招いて、神のことばを聞きたいと思っていた。 8 ところ
が、魔術師エルマ（エルマという名を訳すと魔術師）は、ふたりに反対して、
総督を信仰の道から遠ざけようとした。 9 しかし、サウロ、別名でパウロは、
聖霊に満たされ、彼をにらみつけて、 10 言った。「ああ、あらゆる偽りとよな
しまに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵。おまえは、主のまっすぐな道
を曲げることをやめないのか。 11 見よ。主の御手が今、おまえの上にある。お
まえは盲になって、しばらくの間、日の光を見ることができなくなる。」と言
った。するとたちまち、かすみとやみが彼をおおったので、彼は手を引いてく
れる人を捜し回った。 12 この出来事を見た総督は、主の教えに驚嘆して信仰に
はいった。
13 パウロの一行は、パポスから船出して、パンフリヤのペルガに渡った。こ
こでヨハネは一行から離れて、エルサレムに帰った。 14 しかし彼らは、ペル
ガから進んでピシデヤのアンテオケに行き、安息日に会堂にはいって席に着い
た。 15 律法と預言者の朗読があって後、会堂の管理者たちが、彼らのところに
人をやってこう言わせた。「兄弟たち。あなたがたのうちどなたか、この人た
ちのために奨励のことばがあったら、どうぞお話しください。」 16 そこでパウ
ロが立ち上がり、手を振りながら言った。「イスラエルの人たち、ならびに神
を恐れかしこむ方々。よく聞いてください。 17 この民イスラエルの神は、私た
ちの先祖たちを選び、民がエジプトの地に滞在していた間にこれを強大にし、
御腕を高く上げて、彼らをその地から導き出してくださいました。 18 そして民
約四十年間、荒野で彼らを養われました。 19 それからカナンの地で、七つの民
を滅ぼし、その地を相続財産として分配されました。これが、約四百五十年間
のことです。 20 その後、預言者サムエルの時代までは、さばき人たちをお遣わ
しになりました。 21 それから彼らが王をほしがったので、神はベニヤミン族
の人、キスの子サウロを四十年間お与えになりました。 22 それから、彼を退け
て、ダビデを立てて王とされましたが、このダビデについてあかしして、こう
言われました。『わたしはエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心
にかなった者で、わたしのこころを余すところなく実行する。』 23 神は、このり
ダビデの子孫から、約束に従って、イスラエルに救い主イエスをお送りになり
ました。 24 この方がおいでになる前に、ヨハネがイスラエルのすべての民に、
前もって悔い改めのバプテスマを宣べ伝えていました。 25 ヨハネは、その一生
を終えようとするころ、こう言いました。『あなたがたは、私をだれと思うの
ですか。私はその方ではありません。ご覧なさい。その方は私のあとからおい
でになります。私は、その方のくつのひもを解く値うちもありません。』 26 兄
弟の方々、アブラハムの子孫の方々、ならびに皆さんの中で神を恐れかしこむ
方々。この救いのことばは、私たちに送られているのです。 27 エルサレムに住
む人々とその指導者たちは、このイエスを認めず、また安息日ごとに読まれる
預言者のことばを理解せず、イエスを罪に定めて、その預言を成就させてしま
いました。 28 そして、死罪に当たる何の理由も見いだせなかったのに、イエス
を殺すことをピラトに強要したのです。 29 こうして、イエスについて書いてあ
ることを全部成し終えて後、イエスを十字架から取り降ろして墓の中に納めま
した。 30 しかし、神はこの方を死者の中からよみがえらせたのです。 31 イエ
スは、ご自分といっしょにガリラヤからエルサレムに上った人たちに、幾日も
お現われになりました。きょう、その人たちがこの民に対してイエスの証人と
なっています。 32 私たちは、神が先祖たちに対してなされた約束について、あ
なたがたに良い知らせをしているのです。 33 神は、イエスをよみがえらせ、そ
れによって、私たち子孫にその約束を果たされました。詩篇の第二篇に、『あ

なたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。』と書いてあるとお
りです。 34 神がイエスを死者の中からよみがえらせて、もはや朽ちることのな
い方とされたことについては、『わたしはダビデに約束した聖なる確かな祝福
を、あなたがたに与える。』というように言われていました。 35 ですから、ほ
かの所でこう言っておられます。『あなたは、あなたの聖者を朽ち果てるまま
にはしておかれない。』 36 ダビデは、その生きていた時代において神のみこ
ころに仕えて後、死んで先祖の仲間に加えられ、ついに朽ち果てました。 37 しか
し、神がよみがえらせた方は、朽ちることがありませんでした。 38 ですから、
兄弟たち。あなたがたに罪の赦しが宣べられているのはこの方によるという
ことを、よく知っておいてください。 39 モーセの律法によっては解放されるこ
とのできなかったすべての点について、信じる者はみな、この方によって、解放
されるのです。 40 ですから、預言者に言われているような事が、あなたがたの
上に起こらないように気をつけなさい。
41 『見よ。あざける者たち。驚け。そして滅びよ。
わたしはおまえたちの時代に一つのことをする。
それは、おまえたちに、どんなに説明しても、
とうてい信じられないほどのことである。』」

42 ふたりが会堂を出るとき、人々は、次の安息日にも同じことについて話し
てくれるように頼んだ。 43 会堂の集会が終わってからも、多くのユダヤ人と神
を敬う改宗者たちが、パウロとバルナバについて来たので、ふたりは彼らと話
し合って、いつまでも神の恵みにとどまっているように勧めた。
44 次の安息日には、ほとんど町中の人が、神のことばを聞きに集まって来
た。 45 しかし、この群衆を見たユダヤ人たちは、ねたみに燃え、パウロの話に
反対して、口ぎたなくののしった。 46 そこでパウロとバルナバは、はっきりと
こう宣言した。「神のことばは、まずあなたがたに語られなければならなかっ
たのです。しかし、あなたがたはそれを拒んで、自分自身を永遠のいのちにふ
さわしくない者と決めたのです。見なさい。私たちは、これからは異邦人のほ
うへ向かいます。 47 なぜなら、主は私たちに、こう命じておられるからです。
『わたしはあなたを立てて、異邦人の光とした。
あなたが地の果てまでも救いをもたらすためである。』」
48 異邦人たちは、それを聞いて喜び、主のみことばを賛美した。そして、永
遠のいのちに定められていた人たちは、みな、信仰にはいった。 49 こうし
て、主のみことばは、この地方全体に広まった。 50 ところが、ユダヤ人たち
は、神を敬う貴婦人たちや町の有力者たちを扇動して、パウロとバルナバを
迫害させ、ふたりをその地方から追い出した。 51 ふたりは、彼らに対して足
のちりを払い落として、イコニオムへ行った。 52 弟子たちは喜びと聖霊に満
たされていた。

14

1 イコニオムでも、ふたりは連れ立ってユダヤ人の会堂にはいり、話をする
と、ユダヤ人もギリシヤ人も大ぜいの人々が信仰にはいった。 2 しかし、信じ
ようとしないユダヤ人たちは、異邦人たちをそそのかして、兄弟たちに対し
悪意を抱かせた。 3 それでも、ふたりは長らく滞在し、主によって大胆に語っ
た。主は、彼らの手にしるしと不思議なわざを行なわせ、御恵みのことばの証
明をされた。 4 ところが、町の人々は二派に分かれ、ある者はユダヤ人の側に
つき、ある者は使徒たちの側についた。 5 異邦人とユダヤ人が彼らの指導者た
ちといっしょになって、使徒たちをはずかしめて、石打ちにしようと企てたと
き、 6 ふたりはそれを知って、ルカオニヤの町であるルステラとデルベ、およ
びその付近の地方に難を避け、 7 そこで福音の宣教を続けた。
8 ルステラでのことであるが、ある足のきかない人がすわっていた。彼は生
まれながらの足なえで、歩いたことがなかった。 9 この人がパウロの話すこと
に耳を傾けていた。パウロは彼に目を留め、いやされる信仰があるのを見て、
10 大声で、「自分の足で、まっすぐに立ちなさい。」と言った。すると彼は飛
び上がって、歩き出した。 11 パウロのしたことを見た群衆は、声を張り上げ、
ルカオニヤ語で、「神々が人間の姿をとって、私たちのところにお下りになっ
たのだ。」と言った。 12 そして、バルナバをゼウスと呼び、パウロがおもに話
す人であったので、パウロをヘルメスと呼んだ。 13 すると、町の門の前にあ
るゼウス神殿の祭司は、雄牛数頭と花飾りを門の前に携えて来て、群衆といっ
しょに、いけにえをささげようとした。 14 これを聞いた使徒たち、バルナバと
パウロは、衣を裂いて、群衆の中に駆け込み、叫びながら、 15 言った。「皆さ
ん。どうしてこんなことをするのですか。私たちも皆さんと同じ人間です。そ

して、あなたがたがこのようなむなしいことを捨てて、天と地と海とその中に
あるすべてのものをお造りになった生ける神に立ち返るように、福音を宣べ伝
えている者たちです。 16 過ぎ去った時代には、神はあらゆる国の人々がそれぞ
れ自分の道を歩むことを許しておられました。 17 とはいえ、ご自身のことをあ
かしないでおられたのではありません。すなわち、恵みをもって、天から雨
を降らせ、実りの季節を与え、食物と喜びとで、あなたがたの心を満たしてく
ださったのです。」 18 こう言って、ようやくのことで、群衆が彼らにいけに え
をささげるのをやめさせた。
19 ところが、アンテオケとイコニオムからユダヤ人たちが来て、群衆を抱き
込み、パウロを石打ちにし、死んだものと思って、町の外に引きずり出した。
20 しかし、弟子たちがパウロを取り囲んでいると、彼は立ち上がって町にはいっ
って行った。その翌日、彼はバルナバとともにデルベに向かった。 21 彼らはそン
の町で福音を宣べ、多くの人を弟子としてから、ルステラとイコニオムとアる
テオケとに引き返して、 22 弟子たちの心を強め、この信仰にしっかりとどまら
ように勧め、「私たちが神の国にはいるには、多くの苦しみを経なければな
ない。」と言った。 23 また、彼らのために教会ごとに長老たちを選び、断食を
して祈って後、彼らをその信じていた主にゆだねた。 24 ふたりはピシデヤを通
ってパンフリヤに着き、 25 ペルガでみことばを語ってから、アタリヤに下り、
26 そこから船でアンテオケに帰った。そこは、彼らがいま成し遂げた働きのた
めに、以前神の恵みにゆだねられて送り出された所であった。 27 そこに着く
と、教会の人々を集め、神が彼らとともにいて行なわれたすべてのことと、異
邦人に信仰の門を開いてくださったこととを報告した。 28 そして、彼らはかな
り長い期間を弟子たちとともに過ごした。

15

1 さて、ある人々がユダヤから下って来て、兄弟たちに、「モーセの慣習に
従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない。」と教えていた。 2 そ
してパウロやバルナバと彼らとの間に激しい対立と論争が生じたので、パウロ
とバルナバと、その仲間のうちの幾人かが、この問題について使徒たちや長老
たちと話し合うために、エルサレムに上ることになった。 3 彼らは教会の人々
に見送られ、フェニキヤとサマリヤを通る道々で、異邦人の改宗のことを詳し
く話したので、すべての兄弟たちに大きな喜びをもたらした。 4 エルサレムに
着くと、彼らは教会と使徒たちと長老たちに迎えられ、神が彼らとともにいて
行なわれたことを、みなに報告した。 5 しかし、パリサイ派の者で信者になっ
た人々が立ち上がり、「異邦人にも割礼を受けさせ、また、モーセの律法を守
ることを命じるべきである。」と言った。
6 そこで使徒たちと長老たちは、この問題を検討するために集まった。 7 激し
い論争があって後、ペテロが立ち上がって言った。「兄弟たち。ご存じのとお
り、神は初めのころ、あなたがたの間で事をお決めになり、異邦人が私の口か
ら福音のことばを聞いて信じるようにされたのです。 8 そして、人の心の中を
知っておられる神は、私たちに与えられたと同じように異邦人にも聖霊を与え
て、彼らのためにあかしをし、 9 私たちと彼らとに何の差別もつけず、彼らの
心を信仰によってきよめてくださったのです。 10 それなのに、なぜ、今あなた
がたは、私たちの先祖も私たちも負いきれなかったくびきを、あの弟子たちの
首に掛けて、神を試みようとするのです。 11 私たちが主イエスの恵みによって
救われたことを私たちは信じますが、あの人たちもそうなのです。」
12 すると、全会衆は沈黙してしまった。そして、バルナバとパウロが、彼ら
を通して神が異邦人の間で行なわれたしるしと不思議なわざについて話すの
に、耳を傾けた。 13 ふたりが話し終えると、ヤコブがこう言った。「兄弟た
ち。私の言うことを聞いてください。 14 神が初めに、どのように異邦人を顧み
て、その中から御名をもって呼ばれる民をお召しになったかは、シメオンが説
明したとおりです。 15 預言者たちのことばもこれと一致しており、それにはこ
う書いてあります。
16 『この後、わたしは帰って来て、
倒れたダビデの幕屋を建て直す。
すなわち、廃墟と化した幕屋を建て直し、
それを元どおりにする。
17 それは、残った人々、すなわち、
わたしの名で呼ばれる異邦人がみな、
主を求めるようになるためである。
18 大昔からこれらのことを知らせておられる主が、
こう言われる。』

19 そこで、私の判断では、神に立ち返る異邦人を悩ませてはいけません。
20 ただ、偶像に供えて汚れた物と不品行と絞め殺した物と血とを避けるよう
に書き送るべきだと思います。 21 昔から、町ごとにモーセの律法を宣べる者
がいて、それが安息日ごとに諸会堂で読まれているからです。」
22 そこで使徒たちと長老たち、また、全教会もともに、彼らの中から人を選
んで、パウロやバルナバといっしょにアンテオケへ送ることを決議した。選ばば
れたのは兄弟たちの中の指導者たちで、バルサバと呼ばれるユダおよびシラス老
であった。 23 彼らはこの人たちに託して、こう書き送った。「使徒およびさつて
たちは、アンテオケ、シリヤ、キリキヤにいる異邦人の兄弟たちに、あいさの心
をいたします。 24 私たちの中のある者たちが、私たちからは何も指示を受けて
いないのに、いろいろなことを言ってあなたがたを動揺させ、あなたの愛する
を乱したことを聞きました。 25 そこで、私たちは人々を選び、私たちに衆議一
バルナバおよびパウロといっしょに、あなたがたのところへ送ることに名ダ
決しました。 26 このバルナバとパウロは、私たちの主イエス・キリストの御
のために、いのちを投げ出した人たちです。 27 こういうわけで、私たちはユ
と シラスを送りました。彼らは口頭で同じ趣旨のことを伝えるはずです。 28 聖
霊と私たちは、次のぜひ必要な事のほかは、あなたがたにその上、どんな重荷
も負わせないことを決めました。 29 すなわち、偶像に供えた物と、血と、絞め
殺した物と、不品行とを避けることです。これらのことを注意深く避けてい
ば、それで結構です。以上。」
30 さて、一行は送り出されて、アンテオケに下り、教会の人々を集めて、手
紙を手渡した。 31 それを読んだ人々は、その励ましによって喜んだ。 32 ユダ
もシラスも預言者であったので、多くのことばをもって兄弟たちを励まし、ま
たち力づけた。 33 彼らは、しばらく滞在して後、兄弟たちの平安のあいさつに送
られて、彼らを送り出した人々のところへ帰って行った。 34-35 パウロとバルナ
バはアンテオケにとどまって、ほかの多くの人々とともに、主のみことばを教
え、宣べ伝えた。
36 幾日かたって後、パウロはバルナバにこう言った。「先に主のことばを伝
えたすべての町々の兄弟たちのところに、またたずねて行って、どうしてい
かを見て来ようではありませんか。」 37 ところが、バルナバは、マルコとも呼ば
れるヨハネもいっしょに連れて行くつもりであった。 38 しかしパウロは、パン
フリヤで一行から離れてしまい、仕事のために同行しなかったような者はいっ
しょに連れて行かないほうがよいと考えた。 39 そして激しい反目となり、その
結果、互いに別行動をとることになって、バルナバはマルコを連れて、船でキ
プロスに渡って行った。 40 パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆ
だねられて出発した。 41 そして、シリヤおよびキリキヤを通り、諸教会を力づ
けた。

16

1 それからパウロはデルベに、次いでルステラに行った。そこにテモテとい
う弟子がいた。信者であるユダヤ婦人の子で、ギリシヤ人を父としていたが、
2 ルステラとイコニオムとの兄弟たちの間で評判の良い人であった。 3 パウロ
は、このテモテを連れて行きたかったので、その地方にいるユダヤ人の手前、
彼に割礼を受けさせた。彼の父がギリシヤ人であることを、みなが知っていた
からである。 4 さて、彼らは町々を巡回して、エルサレムの使徒たちと長老た
ちが決めた規定を守らせようと、人々にそれを伝えた。 5 こうして諸教会は、
その信仰を強められ、日ごとに人数を増して行った。
6 それから彼らは、アジヤでみことばを語ることを聖霊によって禁じられた
ので、フルギヤ・ガラテヤの地方を通った。 7 こうしてムシヤに面した所に来
たとき、ビテニヤのほうに行こうとしたが、イエスの御霊がそれをお許しにな
らなかった。 8 それでムシヤを通って、トロアスに下った。 9 ある夜、パウロは
幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が彼の前に立って、「マケドニヤに渡って来
て、私たちを助けてください。」と懇願するのであった。 10 パウロがこの幻を
見たとき、私たちはただちにマケドニヤへ出かけることにした。神が私たちを
招いて、彼らに福音を宣べさせるのだ、と確信したからである。
11 そこで、私たちはトロアスから船に乗り、サモトラケに直航して、翌日ネ
アポリスに着いた。 12 それからピリピに行ったが、ここはマケドニヤのこの地
方第一の町で、植民都市であった。私たちはこの町に幾日か滞在した。 13 安息
日に、私たちは町の門を出て、祈り場があると思われた川岸に行き、そこに腰
をおろして、集まった女たちに話した。 14 テアテラ市の紫布の商人で、神を敬
う、ルデヤという女が聞いていたが、主は彼女の心を開いて、パウロの語る事
に心を留めるようにされた。 15 そして、彼女も、またその家族もバプテスマを

受けたとき、彼女は、「私を主に忠実な者とお思いでしたら、どうか、私の家
に来てお泊まりください。」と言って頼み、強いてそうさせた。
16 私たちが祈り場に行く途中、占いの霊につかれた若い女奴隷に出会った。
この女は占いをして、主人たちに多くの利益を得させている者であった。 17 彼
女はパウロと私たちのあとについて来て、「この人たちは、いと高き神のしも
べたちで、救いの道をあなたがたに宣べ伝えている人たちです。」と叫び続け
た。 18 幾日もこんなことをするので、困り果てたパウロは、振り返ってその霊
に、「イエス・キリストの御名によって命じる。この女から出て行け。」と言
った。すると即座に、霊は出て行った。
19 彼女の主人たちは、もうける望みがなくなったのを見て、パウロとシラス
を捕え、役人たちに訴えるため広場へ引き立てて行った。 20 そして、ふたり
を長官たちの前に引き出してこう言った。「この者たちはユダヤ人でありまし
て、私たちの町をかき乱し、 21 ローマ人である私たちが、採用も実行もしては
ならない風習を宣伝しております。」 22 群衆もふたりに反対して立ったので、
長官たちは、ふたりの着物をはいでむちで打つように命じ、 23 何度もむちで
打たせてから、ふたりを牢に入れて、看守には厳重に番をするように命じた。
24 この命令を受けた看守は、ふたりを奥の牢に入れ、足に足かせを掛けた。
25 真夜中ごろ、パウロとシラスが神に祈りつつ賛美の歌を歌っていると、ほか
の囚人たちも聞き入っていた。 26 ところが突然、大地震が起こって、獄舎の
土台が揺れ動き、たちまちとびらが全部あいて、みなの鎖が解けてしまった。
27 目をさました看守は、見ると、牢のとびらがあいているので、囚人たちが逃
げてしまったものと思い、剣を抜いて自殺しようとした。 28 そこでパウロは
大声で、「自害してはいけない。私たちはみなここにいる。」と叫んだ。 29 看
守はあかりを取り、駆け込んで来て、パウロとシラスとの前に震えながらひれ
伏した。 30 そして、ふたりを外に連れ出して「先生がた。救われるためには、
何をしなければなりませんか。」と言った。 31 ふたりは、「主イエスを信じな
さい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」と言った。 32 そし
て、彼とその家の者全部に主のことばを語った。 33 看守は、その夜、時を移さ
ず、ふたりを引き取り、その打ち傷を洗った。そして、そのあとですぐ、彼し
その家の者全部がバプテスマを受けた。 34 それから、ふたりをその家に案内し
て、食事のもてなしをし、全家族そろって神を信じたことを心から喜んだ。
35 夜が明けると、長官たちは警吏たちを送って、「あの人たちを釈放せ
よ。」と言わせた。 36 そこで看守は、この命令をパウロに伝えて、「長官た
ちが、あなたがたを釈放するようにと、使いをよこしました。どうぞ、ここを
出て、ご無事に行ってください。」と言った。 37 ところが、パウロは、警吏た
ちにこう言った。「彼らは、ローマ人である私たちを、取り調べもせずに公衆
の前でむち打ち、牢に入れてしまいました。それなのに今になって、ひそかに
私たちを送り出そうとするのですか。とんでもない。彼ら自身で出向いて来
て、私たちを連れ出すべきです。」 38 警吏たちは、このことばを長官たちに報
告した。すると長官たちは、ふたりがローマ人であると聞いて恐れ、 39 自分で
出向いて来て、わびを言い、ふたりを外に出して、町から立ち去ってくれるよ
うに頼んだ。 40 牢を出たふたりは、ルデヤの家に行った。そして兄弟たちに
会い、彼らを励ましてから出て行った。

17

1 彼らはアムピポリスとアポロニヤを通って、テサロニケへ行った。そこに
は、ユダヤ人の会堂があった。 2 パウロはいつもしているように、会堂にはいっ
て行って、三つの安息日にわたり、聖書に基づいて彼らと論じた。 3 そして、
キリストは苦しみを受け、死者の中からよみがえらなければならないことを説
明し、また論証して、「私があなたがたに伝えているこのイエスこそ、キリスシ
トなのです。」と言った。 4 彼らのうちの幾人かはよくわかって、パウロとシ
ラスに従った。またほかに、神を敬うギリシヤ人が大ぜいおり、貴婦人たちも
少なくなかった。 5 ところが、ねたみにかられたユダヤ人は、町のならず者を
かり集め、暴動を起こして町を騒がせ、またヤソンの家を襲い、ふたりを人々
の前に引き出そうとして捜した。 6 しかし、見つからないので、ヤソンと兄弟た
ちの幾人かを、町の役人たちのところへひっぱって行き、大声でこう言った。
「世界中を騒がせて来た者たちが、ここにもはいり込んでいます。 7 それをヤ
ソンが家に迎え入れたのです。彼らはみな、イエスという別の王がいると言っ
て、カイザルの詔勅にそむく行ないをしているのです。」 8 こうして、それを
聞いた群衆と町の役人たちとを不安に陥れた。 9 彼らは、ヤソンとそのほかの
者たちから保証金を取ったうえで釈放した。

10 兄弟たちは、すぐさま、夜のうちにパウロとシラスをベレヤへ送り出し
た。ふたりはそこに着くと、ユダヤ人の会堂にはいって行った。11 このユダ
ヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことば
を聞き、はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた。12 そのため、彼ら
のうちの多くの者が信仰にはいった。その中にはギリシヤの貴婦人や男子も少
なくなかった。13 ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、パウロがベレヤで
も神のことばを伝えていることを知り、ここにもやって来て、群衆を扇動して
騒ぎを起こした。14 そこで兄弟たちは、ただちにパウロを送り出して海べまで
行かせたが、シラステモテはベレヤに踏みとどまった。15 パウロを案内したく
人来るちは、彼をアテネまで連れて行った。そしてシラスとテモテに一刻も早
うに、という命令を受けて、帰って行った。
16 さて、アテネでふたりを待っていたパウロは、町が偶像でいっぱいなのを
見て、心に憤りを感じた。17 そこでパウロは、会堂ではユダヤ人や神を敬う人
たちと論じ、広場では毎日そこに居合わせた人たちと論じた。18 エピクロス
派とストア派の哲学者たちも幾人かいて、パウロと論じ合っていたが、その中
のある者たちは、「このおしゃべりは、何を言うつもりなのか。」と言い、ほか
の者たちは、「彼は外国の神々を伝えているらしい。」と言った。パウロがパ
イエスと復活とを宣べ伝えたからである。19 そこで彼らは、パウロをアレオパ
ゴスに連れて行って、こう言った。「あなたの語っているその新しい教えがどん
なものか、知らせていただけませんか。20 私たちには珍しいことのたくさん
聞かせてくださるので、それがいったいどんなものか、私たちは知りたいのです。」
21 アテネの人も、そこに住む外国人もみな、何か耳新しいことを話すことに
聞いたり、日を過ごしていた。22 そこでパウロは、アレオパゴスの真中に立っ
て言った。「アテネの人たち。あらゆる点から見て、私は
たがたは宗教心にあつい方々だと見ております。23 私が道を通り、
祭壇をのぞいてみると、『知られない神に。』と刻まれた
教えましょう。24 この世界とその中にあるすべてのものをお造りになった
神は、天地の主ですから、手でこしらえた宮などにはお住みになりません。
25 また、何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる
必要はありません。神は、すべての人に、いのちと息と万物とをお与えになる
方だからです。26 神は、ひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地
全面に住まわせ、それぞれに決められた時代と、その住まいの境界とをお定
めになりました。27 これは、神を求めさせるためであって、もし探り求めること
もあるなら、神を見いだすこともあるのです。確かに、神は、私たちひと
りからそう遠くは離れてはおられません。28 私たちは、神の中に生き、動き、
存在しているのです。あなたがたのある詩人たちも、『私たちもまたその
である。』と言ったとおりです。29 そのように私たちは神の子孫ですから
ら、神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像と同じものと考えて
はいけません。30 神は、そのような無知の時代を見過ごしておられましたが、
今は、どこでもすべての人に悔い改めを命じておられます。31 なぜなら、神
は、お立てになったひとりの人により義をもってこの世界をさばくため、日を
決めておられるからです。そして、その方を死者の中からよみがえらせる
によって、このことの確証をすべての人にお与えになったのです。」
32 死者の復活のことを聞くと、ある者たちはあざ笑い、ほかの者たちは、
「このことについては、またいつか聞くことにしよう。」と言った。33 こうし
て、パウロは彼らの中から出て行った。34 しかし、彼につき従って信仰にはい
った人たちもいた。それは、アレオパゴスの裁判官デオヌシオ、ダマリスと
いう女、その他の人々であった。

18

1 その後、パウロはアテネを去って、コリントへ行った。2 ここで、アクラと
いうポント生まれのユダヤ人およびその妻プリスキラに出会った。クラウデオ
帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるように命令したため、近ごろ
イタリヤから来ていたのである。パウロはふたりのところに行き、3 自分も同
業者であったので、その家に住んでいっしょに仕事をした。彼らの職業は天幕
作りであった。4 パウロは安息日ごとに会堂で論じ、ユダヤ人とギリシヤ人を
承服させようとした。
5 そして、シラスとテモテがマケドニヤから下って来ると、パウロはみこと
ばを教えることに専念し、イエスがキリストであることを、ユダヤ人たちには
はっきりと宣言した。6 しかし、彼らが反抗して暴言を吐いたので、パウロは着
物を振り払って、「あなたがたの血は、あなたがたの頭上にふりかかれ。私に

は責任がない。今から私は異邦人のほうに行く。」と言った。 7 そして、そこ
を去って、神を敬うテテオ・ユストという人の家に行った。その家は会堂の隣
であった。 8 会堂管理者クリスポは、一家をあげて主を信じた。また、多くの
コリント人も聞いて信じ、バプテスマを受けた。 9 ある夜、主は幻によってパ
ウロに、「恐れないで、語り続けなさい。黙ってはいけない。 10 わたしがあな
たとともにいるのだ。だれもあなたを襲って、危害を加える者はない。この町
には、わたしの民がたくさんいるから。」と言われた。 11 そこでパウロは、一
年半ここに腰を据えて、彼らの間で神のことばを教え続けた。
12 ところが、ガリオがアカヤの地方総督であったとき、ユダヤ人たちはこぞ
ってパウロに反抗し、彼を法廷に引いて行って、 13 「この人は、律法にそむい
て神を拝むことを、人々に説き勧めています。」と訴えた。 14 パウロが口を開
こうとすると、ガリオはユダヤ人に向かってこう言った。「ユダヤ人の諸君。
不正事件や悪質な犯罪のことであれば、私は当然、あなたがたの訴えを取り上
げもしようが、 15 あなたがたの、ことばや名称や律法に関する問題であるな
ら、自分たちで始末をつけるのがよかろう。私はそのようなことの裁判官には
なりたくない。」 16 こうして、彼らを法廷から追い出した。 17 そこで、みなの
者は、会堂管理者ソステネを捕え、法廷の前で打ちたたいた。ガリオは、その
ようなことは少しも気にしなかった。
18 パウロは、なお長らく滞在してから、兄弟たちに別れを告げて、シリヤへ
向けて出帆した。プリスキラとアクラも同行した。パウロは一つの誓願を立て
ていたので、ケンクレヤで髪をそった。 19 彼らがエペソに着くと、パウロはふ
たりをそこに残し、自分だけ会堂にはいって、ユダヤ人たちと論じた。 20 人々
は、もっと長くとどまるように頼んだが、彼は聞き入れないで、 21 「神のみこ
ころなら、またあなたがたのところに帰って来ます。」と言って別れを告げ、
エペソから船出した。
22 それからカイザリヤに上陸してエルサレムに上り、教会にあいさつしてか
らアンテオケに下って行った。 23 そこにしばらくいてから、彼はまた出発し、
ガラテヤの地方およびフルギヤを次々に巡って、すべての弟子たちを力づけ
た。
24 さて、アレキサンドリヤの生まれで、雄弁なアポロというユダヤ人がエペ
ソに来た。彼は聖書に通じていた。 25 この人は、主の道の教えを受け、霊に燃
えて、イエスのことを正確に語り、また教えていたが、ただヨハネのバプテス
マしか知らなかった。 26 彼は会堂で大胆に話し始めた。それを聞いていたプ
リスキラとアクラは、彼を招き入れて、神の道をもっと正確に彼に説明した。
27 そして、アポロがアカヤへ渡りたいと思っていたので、兄弟たちは彼を励ま
し、そこの弟子たちに、彼を歓迎してくれるようにと手紙を書いた。彼はそこ
に着くと、すでに恵みによって信者になっていた人たちを大いに助けた。 28 彼
は聖書によって、イエスがキリストであることを証明して、力強く、公然とユ
ダヤ人たちを論破したからである。

19

1 アポロがコリントにいた間に、パウロは奥地を通ってエペソに来た。そして
幾人かの弟子に出会って、 2 「信じたとき、聖霊を受けましたか。」と尋ね
と、彼らは、「いいえ、聖霊の与えられることは、聞きもしませんでした。」
と答えた。 3 「では、どんなバプテスマを受けたのですか。」と言うと、「ヨ
ハネのバプテスマです。」と答えた。 4 そこで、パウロは、「ヨハネは、自分
のあとに来られるイエスを信じるように人々に告げて、悔い改めのバプテスマ
を授けたのです。」と言った。 5 これを聞いたその人々は、主イエスの御名に
よってバプテスマを受けた。 6 パウロが彼らの上に手を置いたとき、聖霊が彼
らに臨まれ、彼らは異言を語ったり、預言をしたりした。 7 その人々は、みな
で十二人ほどであった。
8 それから、パウロは会堂にはいって、三か月の間大胆に語り、神の国につ
いて論じて、彼らを説得しようと努めた。 9 しかし、ある者たちが心をかたく
なにして聞き入れず、会衆の前で、この道をののしったので、パウロは彼らか
ら身を引き、弟子たちをも退かせて、毎日ツラノの講堂で論じた。 10 これが二
年の間続いたので、アジヤに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のこと
ばを聞いた。 11 神はパウロの手によって驚くべき奇蹟を行なわれた。 12 パウロ
の身に着けている手ぬぐいや前掛けをはずして病人に当てると、その病気は去
り、悪霊は出て行った。 13 ところが、諸国を巡回しているユダヤ人の魔よけ祈
祷師の中のある者たちも、ためしに、悪霊につかれている者に向かって主イエ
スの御名をとなえ、「パウロの宣べ伝えているイエスによって、おまえたちに
命じる。」と言ってみた。 14 そういうことをしたのは、ユダヤの祭司長スケワ

という人の七人の息子たちであった。 15 すると悪霊が答えて、「自分はイエス
を知っているし、パウロもよく知っている。けれどおまえたちは何者だ。」と
言った。 16 そして悪霊につかれている人は、彼らに飛びかかり、ふたりの者を
押えつけて、みなを打ち負かしたので、彼らは裸にされ、傷を負ってその家を
逃げ出した。 17 このことがエペソに住むユダヤ人とギリシヤ人の全部に知れ渡
ったので、みな恐れを感じて、主イエスの御名をあがめるようになった。 18 そして
、信仰にはいった人たちの中から多くの者がやって来て、自分たちのしてそ
いることをさらけ出して告白した。 19 また魔術を行なっていた多くの者が、
の書物をかかえて来て、みなの前で焼き捨てた。その値段を合計してみると、
銀貨五万枚になった。 20 こうして、主のことばは驚くほど広まり、ますます力
強くなって行った。

21 これらのことが一段落すると、パウロは御霊の示しにより、マケドニヤと
アカヤを通ったあとでエルサレムに行くことにした。そして、「私はそこに行
ってから、ローマも見なければならない。」と言った。 22 そこで、自分に仕え
ている者の中からテモテとエラストのふたりをマケドニヤに送り出したが、パ
ウロ自身は、なおしばらくアジヤにとどまっていた。

23 そのころ、この道のことから、ただならぬ騒動が持ち上がった。 24 それと
いうのは、デメテリオという銀細工人がいて、銀でアルテミス神殿の模型を作
り、職人たちにかなりの収入を得させていたが、 25 彼が、その職人たちや、同
業の者たちをも集めて、こう言ったからである。「皆さん。ご承知のように、
私たちが繁盛しているのは、この仕事のおかげです。 26 ところが、皆さんがな
見てもいるし聞いてもいるように、あのパウロが、手で作った物など神では
いと言って、エペソばかりか、ほとんどアジヤ全体にわたって、大ぜいの人々
を説き伏せ、迷わせているのです。 27 これでは、私たちのこの仕事も信用を失ジ
ウヤ、全世界の拝むこの大女神のご威光も地に落ちてしまいそうです。」 28 そ叫び
聞いて、彼らは大いに怒り、「偉大なのはエペソ人のアルテミスだ。」と マケド
始めた。 29 そして、町中が大騒ぎになり、人々はパウロの同行者であるマ
ニヤ人ガイオとアリスタルコを捕え、一団となって劇場へなだれ込んだ。 30 パ
ウロは、その集団の中にはいって行こうとしたが、弟子たちがそうさせなかっ
た。 31 アジヤ州の高官で、パウロの友人である人たちも、彼に使いを送って、
劇場にはいらないように頼んだ。 32 ところで、集会は混乱状態に陥り、大多数
の者は、なぜ集まったのかさえ知らなかったので、ある者はこのことを叫び、
ほかの者は別のことを叫んでいた。 33 ユダヤ人たちがアレキサンデルをい
者を前に押し出したので、群衆の中のある人たちが彼を促すと、彼は手を振っ
て、会衆に弁明しようとした。 34 しかし、彼がユダヤ人だとわかると、みな
者がいっせいに声をあげ、「偉大なのはエペソ人のアルテミスだ。」と二時間
ばかりも叫び続けた。 35 町の書記役は、群衆を押し静めてこう言った。「エペ
ソの皆さん。エペソの町が、大女神アルテミスと天から下ったそのご神体の
守護者であることを知らない者が、いったいいるでしょうか。 36 これは否定
できない事実ですから、皆さんは静かにして、軽はずみなことをしないよう
でしなければいけません。 37 皆さんがここに引き連れて来たこの人たちは、宮
汚した者でもなく、私たちの女神をそしった者でもないのです。 38 それで、
しデメテリオとその仲間の職人たちが、だれかに文句があるのなら、裁判の
があるし、地方総督たちもいることですから、互いに訴え出たらよいのです。
39 もしあなたがたに、これ以上何か要求することがあるなら、正式の議会で決
めてもらわなければいけません。 40 きょうの事件については、正当な理由がな
いのですから、騒擾罪に問われる恐れがあります。その点に関しては、私た
はこの騒動の弁護はできません。」 41 こう言って、その集まりを解散させた。

20

1 騒ぎが治まると、パウロは弟子たちを呼び集めて励まし、別れを告げて、
マケドニヤへ向かって出発した。 2 そして、その地方を通り、多くの勧めをし
て兄弟たちを励ましてから、ギリシヤに来た。 3 パウロはここで三か月を過ごし
たが、そこからシリヤに向けて船出しようというときに、彼に対するユダヤ
人の陰謀があったため、彼はマケドニヤを経て帰ることにした。 4 プロの子で
あるベレヤ人ソパテロ、テサロニケ人アリスタルコとセクンド、デルベ人ガイ
オ、テモテ、アジヤ人テキコとトロピモは、パウロに同行していたが、 5 彼ら
は先発して、トロアスで私たちを待っていた。 6 種なしパンの祝いが過ぎてか
ら、私たちはピリピから船出し、五日かかってトロアスで彼らと落ち合い、そ
こに七日間滞在した。

7 週の初めの日に、私たちはパンを裂くために集まった。そのときパウロは、
翌日出発することにしていたので、人々と語り合い、夜中まで語り続けた。
8 私たちが集まっていた屋上の間には、ともしびがたくさんともしてあった。
9 ユテコというひとりの青年が窓のところに腰を掛けていたが、ひどく眠けが
さし、パウロの話が長く続くので、とうとう眠り込んでしまって、三階から下
に落ちた。抱き起こしてみると、もう死んでいた。 10 パウロは降りて来て、彼
の上に身をかがめ、彼を抱きかかえて、「心配することはない。まだいのちが
あります。」と言った。 11 そして、また上がって行き、パンを裂いて食べてか
ら、明け方まで長く話し合って、それから出発した。 12 人々は生き返った青年
を家に連れて行き、ひとかたならず慰められた。
13 さて、私たちは先に船に乗り込んで、アソスに向けて出帆した。そしてア
ソスでパウロを船に乗せることにしていた。パウロが、自分は陸路をとるつもと
り、そう決めておいたからである。 14 こうして、パウロはアソスで私たちと
落ち合い、私たちは彼を船に乗せてミテレネに着いた。 15 そこから出帆して、
翌日キヨスの沖に達し、次の日サモスに立ち寄り、その翌日ミレトに着いた。
16 それはパウロが、アジヤで時間を取られないようにと、エペソには寄港しな
いで行くことに決めていたからである。彼は、できれば五旬節の日にはエルサ
レムに着いていたい、と旅路を急いでいたのである。
17 パウロは、ミレトからエペソに使いを送って、教会の長老たちを呼んだ。
18 彼らが集まって来たとき、パウロはこう言った。
「皆さんは、私がアジヤに足を踏み入れた最初の日から、私がいつもどんな
ふうにあなたがたと過ごして来たか、よくご存じです。 19 私は謙遜の限りを尽
くし、涙をもって、またユダヤ人の陰謀によりわが身にふりかかる数々の試練
の中で、主に仕えました。 20 益になることは、少しもためらわず、あなたがた
に知らせました。人々の前でも、家々でも、あなたがたを教え、 21 ユダヤ人に
もギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、私たちの主イエスに対する信仰と
は中途半端です。 22 いま私は、心を縛られて、エルサレムに上る。そこで私
にどんなことが起こるのかわかりません。 23 ただわかっているのは、聖霊が
の町でもこと私にはっきりとあかしされて、なわめと苦しみが待っていると
言われています。 24 けれども、私が自分の走るべき行程を走り尽くすことと、
主イエスから受けた、神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることが
できるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思いません。 25 皆さんはご存じ
です。御国を宣べ伝えてあなたがたの中を巡回した私の顔を、あなたがたはも
う二度と見ないことを、いま私は知っています。 26 ですから、私はきょうこ
うはっきりと宣言します。私は、すべての人たちが受けるべきさばきに対して
責任がありません。 27 私は、神のご計画の全体を、余すところなくあなたが
たに知らせておいたからです。 28 あなたがたは自分自身と群れの全体とに気
を配りなさい。聖霊は、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を牧
するために、あなたがたを群れの監督にお立てになったのです。 29 私が出発
したあと、狂暴な狼があなたがたの中にはいり込んで来て、群れを荒らし回
ることを、私は知っています。 30 あなたがた自身の中からも、いろいろな曲
がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こ
ります。 31 ですから、目をさましていなさい。私が三年の間、夜も昼も、涙
とともにあなたがたひとりひとりを訓戒し続けて来たことを、思い出してく
ださい。 32 いま私は、あなたがたを神とその恵みのみことばとにゆだねます。
このことばは、あなたがたを育成し、すべての聖別された人々の中にあって御
国を継がせることができるのです。 33 私は、人の金銀や衣服をむさぼったこ
とはありません。 34 あなたがた自身が知っているとおり、この両手は、私の
必要のためにも、私とともにいる人たちのためにも、働いて来ました。 35 この
ように労苦して弱い者を助けなければならないこと、また、主イエスご自身が、
『受け与えるほうが幸いである。』と言われたみことばを思い出すべきこと
を、私は、万事につけ、あなたがたに示して来たのです。」
36 こう言い終わって、パウロはひざまずき、みなの者とともに祈った。 37 み
なは声をあげて泣き、パウロの首を抱いて幾度も口づけし、 38 彼が、「もう二
度と私の顔を見ることがないでしょう。」と言ったことばによって、特に心を
痛めた。それから、彼らはパウロを船まで見送った。

21

1 私たちは彼らと別れて出帆し、コスに直航し、翌日ロドスに着き、そこか
らパタラに渡った。 2 そこにはフェニキヤ行きの船があったので、それに乗っ
て出帆した。 3 やがてキプロスが見えて来たが、それを左にして、シリヤに向
かって航海を続け、ツロに上陸した。ここで船荷を降ろすことになっていたか

らである。 4 私たちは弟子たちを見つけ出して、そこに七日間滞在した。彼ら
は、御霊に示されて、エルサレムに上らぬようにと、しきりにパウロに忠告し
た。 5 しかし、滞在の日数が尽きると、私たちはそこを出て、旅を続けること
にした。彼らはみな、妻や子どももいっしょに、町はずれまで私たちを送って
来た。そして、ともに海岸にひざまずいて祈ってから、私たちは互いに別れを
告げた。 6 それから私たちは船に乗り込み、彼らは家へ帰って行った。
7 私たちはツロからの航海を終えて、トレマイに着いた。そこの兄弟たちに
あいさつをして、彼らのところに一日滞在した。 8 翌日そこを立って、カイザ
リヤに着き、あの七人のひとりである伝道者ピリポの家にはいって、そこに滞
在した。 9 この人には、預言する四人の未婚の娘がいた。 10 幾日かそこに滞在
していると、アガボという預言者がユダヤから下って来た。 11 彼は私たちの
ところに来て、パウロの帯を取り、自分の両手と両足を縛って、「『この帯の
持ち主は、エルサレムでユダヤ人に、こんなふうに縛られ、異邦人の手に渡さ
れる。』と聖霊がお告げになっています。」と言った。 12 私たちはこれを聞い
て、土地の人たちといっしょになって、パウロに、エルサレムには上らないよ
う頼んだ。 13 するとパウロは、「あなたがたは、泣いたり、私の心をくじいた
りして、いったい何をしているのですか。私は、主イエスの御名のためなら、
エルサレムで縛られることばかりでなく、死ぬことさえも覚悟しています。」
と答えた。 14 彼が聞き入れようとしないので、私たちは、「主のみこころのま
まに。」と言って、黙ってしまった。
15 こうして数日たつと、私たちは旅仕度をして、エルサレムに上った。 16 カ
イザリヤの弟子たちも幾人か私たちと同行して、古くからの弟子であるキプロ
ス人マナソンのところに案内してくれた。私たちはそこに泊まることになっ
ていたのである。
17 エルサレムに着くと、兄弟たちは喜んで私たちを迎えてくれた。 18 次の
日、パウロは私たちを連れて、ヤコブを訪問した。そこには長老たちがみな集
まっていた。 19 彼らにあいさつしてから、パウロは彼の奉仕を通して神が異
邦人の間でなさったことを、一つ一つ話しだした。 20 彼らはそれを聞いて神を
ほめたたえ、パウロにこう言った。「兄弟よ。ご承知のように、ユダヤ人の中
で信仰にはいっている者は幾万となくありますが、みな律法に熱心な人たちで
す。 21 ところで、彼らが聞かされていることは、あなたは異邦人の中にいるす
べてのユダヤ人に、子どもに割礼を施すな、慣習に従って歩むな、と言うしま
モーセにそむくように教えているということなのです。 22 それで、どうしま
ょうか。あなたが来たことは、必ず彼らの耳にはいるでしょう。 23 ですから、
私たちの言うとおりにしてください。私たちの中に誓願を立てている者が四人
います。 24 この人たちを連れて、あなたも彼らといっしょに身を清め、彼ら
が頭をそる費用を出してやりなさい。そうすれば、あなたについて聞かされて
いることは根も葉もないことで、あなたも律法を守って正しく歩んでいること
が、みなにわかるでしょう。 25 信仰にはいった異邦人に関しては、偶像の神に
供えた肉と、血と、絞め殺した物と、不品行とを避けるべきであると決定しま
したので、私たちはすでに手紙を書きました。」 26 そこで、パウロはその人た
ちを引き連れ、翌日、ともに身を清めて宮にはいり、清めの期間が終わって、
ひとりひとりのために供え物をささげる日時を告げた。
27 ところが、その七日がほとんど終わろうとしていたころ、アジヤから来た
ユダヤ人たちは、パウロが宮にいるのを見ると、全群衆をあおりたて、彼に手
をかけて、 28 こう叫んだ。「イスラエルの人々。手を貸してください。この男
は、この民と、律法と、この場所に逆らうことを、至る所ですべての人に教え
ている者です。そのうえ、ギリシヤ人を宮の中に連れ込んで、この神聖な場所
をけがしています。」 29 彼らは前にエペソ人トロピモが町でパウロといっし
ょにいるのを見かけたので、パウロが彼を宮に連れ込んだのだと思ったのであ
る。 30 そこで町中が大騒ぎになり、人々は殺到してパウロを捕え、宮の外へ引
きずり出した。そして、ただちに宮の門が閉じられた。 31 彼らがパウロを殺そ
うとしていたとき、エルサレム中が混乱状態に陥っているという報告が、ロー
マ軍の千人隊長に届いた。 32 彼はただちに、兵士たちと百人隊長たちとを率い
て、彼らのところに駆けつけた。人々は千人隊長と兵士たちを見て、パウロを
打つのをやめた。 33 千人隊長は近づいてパウロを捕え、二つの鎖につなぐよう
に命じたうえ、パウロが何者なのか、何をしたのか、と尋ねた。 34 しかし、群
衆がめいめい勝手なことを叫び続けたので、その騒がしさのために確かなこと
がわからなかった。そこで千人隊長は、パウロを兵営に連れて行くように命令
した。 35 パウロが階段にさしかかったときには、群衆の暴行を避けるために、
兵士たちが彼をかつぎ上げなければならなかった。 36 大ぜいの群衆が「彼を除
け。」と叫びながら、ついて来たからである。

37 兵営の中に連れ込まれようとしたとき、パウロが千人隊長に、「一言お話
ししてもよいでしょうか。」と尋ねると、千人隊長は、「あなたはギリシヤ語
を知っているのか。38 するとあなたは、以前暴動を起こして、四千人の刺客を
荒野に引き連れて逃げた、あのエジプト人ではないのか。」と言った。39 パウ
ロは答えた。「私はキリキヤのタルソ出身のユダヤ人で、れっきとした町の市
民です。お願いです。この人々に話をさせてください。」40 千人隊長がそれを
許したので、パウロは階段の上に立ち、民衆に向かって手を振った。そして、
すっかり静かになったとき、彼はヘブル語で次のように話した。

22

1 「兄弟たち、父たちよ。いま私が皆さんにしようとする弁明を聞いてくだ
さい。」
2 パウロがヘブル語で語りかけるのを聞いて、人々はますます静粛になった。
そこでパウロは話し続けた。
3 「私はキリキヤのタルソで生まれたユダヤ人ですが、この町で育てられ、ガ
マリエルのもとで私たちの先祖の律法について厳格な教育を受け、今日の皆さ
んと同じように、神に対して熱心な者でした。4 私はこの道を迫害し、男も女
も縛って牢に投じ、死にまでも至らせたのです。5 このことは、大祭司も、長
老たちの全議会も証言してくれます。この人たちから、私は兄弟たちへあてた
手紙までも受け取り、ダマスコへ向かって出発しました。そこにいる者たちを
縛り上げ、エルサレムに連れて来て処罰するためでした。6 ところが、旅を続
けて、真昼ごろダマスコに近づいたとき、突然、天からまばゆい光が私の回り
を照らしたのです。7 私は地に倒れ、『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害す
るのか。』という声を聞きました。8 そこで私が答えて、『主よ。あなたはどな
たですか。』と言うと、その方は、『わたしは、あなたが迫害しているナザレ
のイエスだ。』と言われました。9 私といっしょにいた者たちは、その光は
見たのですが、私に語っている方の声は聞き分けられませんでした。10 私が、
『主よ。私はどうしたらよいのでしょうか。』と尋ねると、主は私に、『起き
て、ダマスコに行きなさい。あなたがするように決められていることはみな、
そこで告げられる。』と言われました。11 ところが、その光の輝きのために、
私の目は何も見えなかったので、いっしょにいた者たちに手を引かれてダマス
コに入りました。12 すると、律法を重んじる敬虔な人で、そこに住むユダヤ
人全体の間で評判の良いアナニヤという人が、13 私のところに来て、そばに立
ち、『兄弟サウロ。見えるようになりなさい。』と言いました。すると、その
とき、私はその人が見えるようになりました。14 彼はこう言いました。『私た
ちの先祖の神は、あなたにみこころを知らせ、義なる方を見させ、その方の口
から御声を聞かせようとお定めになったのです。15 あなたはその方のために、
すべての人に対して、あなたの見たこと、聞いたことの証人とされるのですか
ら。16 さあ、なぜためらっているのですか。立ちなさい。その御名を呼んでバ
プテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。』17 こうして私がエルサレムに
帰り、宮で祈っていますと、夢ごこちになり、18 主を見たのです。主は言われ
ました。『急いで、早くエルサレムを離れなさい。人々がわたしについてのあ
なたのあかしを受け入れないからです。』19 そこで私は答えました。『主よ。
私がどの会堂ででも、あなたの信者を牢に入れたり、むち打ったりしていたこ
とを、彼らはよく知っています。20 また、あなたの証人ステパノの血が流され
たとき、私もその場にいて、それに賛成し、彼を殺した者たちの着物の番をし
ていたのです。』21 すると、主は私に、『行きなさい。わたしはあなたを遠
く、異邦人に遣わす。』と言われました。」
22 人々は、彼の話をここまで聞いていたが、このとき声を張り上げて、「こ
んな男は、地上から除いてしまえ。生かしておくべきではない。」と言った。
23 そして、人々がわめき立て、着物を放り投げ、ちりを空中にまき散らすの
で、24 千人隊長はパウロを兵営の中に引き入れるように命じ、人々がなぜこ
のようにパウロに向かって叫ぶのかを知ろうとして、彼をむち打って取り調べ
るようにと言った。25 彼らがむちを当てるためにパウロを縛ったとき、パウ
ロはそばに立っている百人隊長に言った。「ローマ市民である者を、裁判にも
かけずに、むち打ってよいのですか。」26 これを聞いた百人隊長は、千人隊長
のところに行って報告し、「どうなさいますか。あの人はローマ人です。」と
言った。27 千人隊長はパウロのところに来て、「あなたはローマ市民なのか、
私に言ってくれ。」と言った。パウロは「そうです。」と言った。28 すると、
千人隊長は、「私はたくさんの金を出して、この市民権を買ったのだ。」と言
った。そこでパウロは、「私は生まれながらの市民です。」と言った。29 この
ため、パウロを取り調べようとしていた者たちは、すぐにパウロから身を引い

た。また千人隊長も、パウロがローマ市民だとわかると、彼を鎖につないでいたので、恐れた。
30 その翌日、千人隊長は、パウロがなぜユダヤ人に告訴されたのかを確かめたいと思って、パウロの鎖を解いてやり、祭司長たちと全議会の召集を命じ、パウロを連れて行って、彼らの前に立たせた。

23

1 パウロは議会を見つめて、こう言った。「兄弟たちよ。私は今日まで、全くきよい良心をもって、神の前に生活して来ました。」2 すると大祭司アナニヤは、パウロのそばに立っている者たちに、彼の口を打てと命じた。3 そのとき、パウロはアナニヤに向かってこう言った。「ああ、白く塗った壁。神があなたを打たれる。あなたは、律法に従って私をさばく座に着きながら、律法にそむいて、私を打てと命じるのですか。」4 するとそばに立っている者たちが、「あなたは神の大祭司をののしるのか。」と言ったので、5 パウロが言った。「兄弟たち。私は彼が大祭司だとは知らなかった。確かに、『あなたの民の指導者を悪く言ってはいけない。』と書いてあります。」6 しかし、パウロは、彼らの一部がサドカイ人で、一部がパリサイ人であるのを見て取って、議会の中でこう叫んだ。「兄弟たち。私はパリサイ人であり、パリサイ人の子です。私は死者の復活という望みのことで、さばきを受けているのです。」7 彼がこうに言うと、パリサイ人とサドカイ人との間に意見の衝突が起こり、議会は二つに割れた。8 サドカイ人は、復活はなく、御使いも霊もないと言い、パリサイ人は、どちらもあると言っていたからである。9 騒ぎがいよいよ大きくなり、パリサイ派のある律法学者たちが立ち上がって激しく論じて、「私たちは、この人に何の悪い点も見いださない。もしかしたら、霊か御使いかが、彼に語りかけたのかもしれない。」と言った。10 論争がますます激しくなったので、千人隊長は、パウロが彼らに引き裂かれてしまうのではないかと心配し、兵隊に、下に降りて行って、パウロを彼らの中から力ずくで引き出し、兵営に連れて来るように命じた。
11 その夜、主がパウロのそばに立って、「勇気を出しなさい。あなたは、エルサレムでわたしのことをあかししたように、ローマでもあかしをしなければならない。」と言われた。
12 夜が明けると、ユダヤ人たちは徒党を組み、パウロを殺してしまうまでは飲み食いしないと誓い合った。13 この陰謀に加わった者は、四十人以上であった。14 彼らは、祭司長たち、長老たちのところに行って、こう言った。「私たちは、パウロを殺すまでは何も食べない、と堅く誓い合いました。15 そこで、今あなたがたは議会と組んで、パウロのことをもっと詳しく調べるふりをして、彼をあなたがたのところに連れて来るように千人隊長に願い出てください。私たちのほうでは、彼がそこに近づく前に殺す手はずにしています。」16 ところが、パウロの姉妹の子が、この待ち伏せのことを耳にし、兵営にはいってパウロにそれを知らせた。17 そこでパウロは、百人隊長のひとりを呼んで、「この青年を千人隊長のところに連れて行ってください。お伝えすることがありますから。」と言った。18 百人隊長は、彼を連れて千人隊長のもとに行き、「囚人のパウロが私を呼んで、この青年があなたにお話しすることがあるので、あなたのところに連れて行くようにと頼みました。」と言った。19 千人隊長は彼の手を取り、だれもいない所に連れて行って、「私に伝えたいことというのは何か。」と尋ねた。20 すると彼はこう言った。「ユダヤ人たちは、パウロについてもっと詳しく調べようとしているかに見せかけて、あす、議会にパウロを連れて来てくださるように、あなたにお願いすることを申し合わせました。21 どうか、彼らの願いを聞き入れないでください。四十人以上の者が、パウロを殺すまでは飲み食いしない、と誓い合って、彼を待ち伏せしているのです。今、彼らは手はずを整えて、あなたの承諾を待っています。」22 そこで千人隊長は、「このことを私に知らせたことは、だれにも漏らすな。」と命じて、その青年を帰らせた。23 そしてふたりの百人隊長を呼び、「今夜九時、カイザリヤに向けて出発できるように、歩兵二百人、騎兵七十人、槍兵二百人を整えよ。」と言いつけた。24 また、パウロを乗せて無事に総督ペリクスのもとに送り届けるように、馬の用意もさせた。25 そして、次のような文面の手紙を書いた。
26 「クラウデオ・ルシヤ、つつしんで総督ペリクス閣下にごあいさつ申し上げます。27 この者が、ユダヤ人に捕えられ、まさに殺されようとしていたとき、彼がローマ市民であることを知りましたので、私は兵隊を率いて行って、彼を助け出しました。28 それから、どんな理由で彼が訴えられたかを知ろうと思い、彼をユダヤ人の議会に出頭させました。29 その結果、彼が訴えられてい

るのは、ユダヤ人の律法に関する問題のためで、死刑や投獄に当たる罪はない
ことがわかりました。 30 しかし、この者に対する陰謀があるという情報を得ま
したので、私はただちに彼を閣下のもとにお送りし、訴える者たちには、閣下
の前で彼のことを訴えるようにと言い渡しておきました。」
31 そこで兵士たちは、命じられたとおりにパウロを引き取り、夜中にアンテ
パトリスまで連れて行き、 32 翌日、騎兵たちにパウロの護送を任せて、兵営に
帰った。 33 騎兵たちは、カイザリヤに着き、総督に手紙を手渡して、パウロを
引きき合わせた。 34 総督は手紙を読んでから、パウロに、どの州の者かと尋ね、
キリキヤの出であることを知って、 35 「あなたを訴える者が来てから、よく聞
くことにしよう。」と言った。そして、ヘロデの官邸に彼を守っておくよう
に命じた。

24

1 五日の後、大祭司アナニヤは、数人の長老およびテルトロという弁護士と
いっしょに下って来て、パウロを総督に訴えた。 2 パウロが呼び出されると、
テルトロが訴えを始めてこう言った。
「ペリクス閣下。閣下のおかげで、私たちはすばらしい平和を与えられ、ま
た、閣下のご配慮で、この国の改革が進行しておりますが、 3 その事実をあら
ゆる面において、また至る所で認めて、私たちは心から感謝しております。 4 さ
て、あまりご迷惑をおかけしないように、ごく手短に申し上げますから、ご寛
容をもってお聞きくださるようお願いいたします。 5 この男は、まるでペスト
のような存在で、世界中のユダヤ人の間に騒ぎを起こしている者であり、ナザ
レ人という一派の首領でございます。 6 この男は宮さえもけがそうとしました
ので、私たちは彼を捕えました。 7-8 閣下ご自身で、これらすべてのことについ
て彼をお調べくださいますなら、私たちが彼を訴えております事がらを、おわ
かりになっていただけるはずです。」 9 ユダヤ人たちも、この訴えに同調し、
全くそのとおりだと言った。
10 そのとき、総督がパウロに、話すようにと合図したので、パウロはこう答
えた。
「閣下が多年に渡り、この民の裁判をつかさどる方であることを存じており
ますので、私は喜んで弁明いたします。 11 お調べになればわかることですが、
私が礼拝のためにエルサレムに上って来てから、まだ十二日しかたっておりま
せん。 12 そして、宮でも会堂でも、また市内でも、私がだれかと論争したり、
群衆を騒がせたりするのを見た者はありません。 13 いま私を訴えていることに
ついて、彼らは証拠をあげることができないはずです。 14 しかし、私は、彼
が異端と呼んでいるこの道に従って、私たちの先祖の神に仕えていることを、
閣下の前で承認いたします。私は、律法にかなうことと、預言者たちが書いて
いることとを全部信じています。 15 また、義人も悪人も必ず復活するという、
この人たち自身も抱いている望みを、神にあって抱いております。 16 そのため
に、私はいつも、神の前にも人の前にも責められることのない良心を保つよ
うに、と最善を尽くしています。 17 さて私は、同胞に対して施しをし、また供
え物をささげるために、幾年ぶりかで帰って来ました。 18 その供え物のことで
私は清めを受けて宮の中にいたのを彼らに見られたのですが、別に群衆もおら
ず、騒ぎもありませんでした。ただアジヤから来た幾人かのユダヤ人がおりま
した。 19 もし彼らに、私について何か非難したいことがあるなら、自分で閣下
の前に来て訴えるべきです。 20 でなければ、今ここにいる人々に、議会の前に
立っていたときの私にどんな不正を見つけたかを言わせてください。 21 彼らの
中に立っていたとき、私はただ一言、『死者の復活のことで、私はきょう、あ
なたがたの前でさばかれているのです。』と叫んだにすぎません。」
22 しかしペリクスは、この道について相当詳しい知識を持っていたので、
「千人隊長ルシヤが下って来るとき、あなたがたの事件を解決することにしよ
う。」と言って、裁判を延期した。 23 そして百人隊長に、パウロを監禁するよ
うに命じたが、ある程度の自由を与え、友人たちが世話をすることを許した。
24 数日後、ペリクスはユダヤ人である妻ドルシラを連れて来て、パウロを
呼び出し、キリスト・イエスを信じる信仰について話を聞いた。 25 しかし、パ
ウロが正義と節制とやがて来る審判とを論じたので、ペリクスは恐れを感じ、
「今は帰ってよい。おりを見て、また呼び出そう。」と言った。 26 それとも
に、彼はパウロから金をもらいたい下心があったので、幾度もパウロを呼び出
して話し合った。 27 二年たって後、ポルキオ・フェストがペリクスの後任にな
ったが、ペリクスはユダヤ人に恩を売ろうとして、パウロを牢につないだまま
にしておいた。

25

1 フェストは州総督として着任すると、三日後にカイザリヤからエルサレム
に上った。2 すると、祭司長たちとユダヤ人のおもだった者たちが、パウロの
ことを訴え出て、3 パウロを取り調べる件について自分たちに好意を持ってく
れるように頼み、パウロをエルサレムに呼び寄せていただきたいと彼に懇願し
た。彼らはパウロを途中で殺害するために待ち伏せをさせていた。4 ところが、
フェストは、パウロはカイザリヤに拘置されているし、自分はまもなく出発の
予定であると答え、5「だから、その男に何か不都合なことがあるなら、あな
たがたのうちの有力な人たちが、私といっしょに下って行って、彼を告訴しな
さい。」と言った。

6 フェストは、彼らのところに八日あるいは十日ばかり滞在しただけで、カイ
ザリヤへ下って行き、翌日、裁判の席に着いて、パウロの出廷を命じた。7 パ
ウロが出て来ると、エルサレムから下って来たユダヤ人たちは、彼を取り囲
んで立ち、多くの重い罪状を申し立てたが、それを証拠立てることはでき な かに
った。8 しかしパウロは弁明して、「私は、ユダヤ人の律法に対しても、宮言っ
対しても、またカイザルに対しても、何の罪も犯してはおりません。」と
た。9 ところが、ユダヤ人の歓心を買おうとしたフェストは、パウロに向かっ
て、「あなたはエルサレムに上り、この事件について、私の前で裁判を受けるる
ことを願うか。」と尋ねた。10 すると、パウロはこうと言った。「私はカイザルた
の法廷に立っているのですから、ここで裁判を受けるのが当然です。あな もも
よく存じのとおり、私はユダヤ人にどんな悪いこともしませんでした。11 れが
私が悪いことをして、死罪に当たることをしたのでしたら、私は死をもの根拠
いとはしません。しかし、この人たちが私を訴えてきたことに一つカイザルに
ないとすれば、だれも私を彼らに引き渡すことはできません。私はイザ
上訴します。」12 そのとき、フェストは陪席の者たちと協議したうえで、こう
答えた。「あなたはカイザルに上訴したのだから、カイザルのもとへ行きな
い。」

13 数日たってから、アグリッパ王とベルニケが、フェストに敬意を表するた
めにカイザリヤに来た。14 ふたりがそこに長く滞在していたので、フェスト
はパウロの一件を王に持ち出してこう言った。「ペリクスが囚人として残してと
行ったひとりの男がおります。15 私がエルサレムに行ったとき、祭司たちと
ユダヤ人の長老たちとが、その男のことを私に訴え出て、罪に定めるよう に要
求しました。16 そのとき私は、『被告が、彼を訴えた者の面前で訴えに対し マ の
弁明する機会を与えられないで、そのまま引き渡されるということはロー て
慣例ではない。』と答えておきました。17 そういうわけで、訴える者たちが こ を
ここに集まったとき、私は時を移さず、その翌日、裁判の席に着いて、その男
出廷させました。18 訴えた者たちは立ち上がりましたが、私が予期してい た
ような犯罪についての訴えは何一つ申し立てませんでした。19 ただ、彼と言い
争っている点は、彼ら自身の宗教に関することであり、また、死んでしまった
イエスという者のことで、そのイエスが生きているとパウロは主張しているの
でした。20 このような問題をどう取り調べたらよいか、私には見当がつかないい
ので、彼に『エルサレムに上り、そこで、この事件について裁判を受けたの
か。』と尋ねたところが、21 パウロは、皇帝の判決を受けるまで保護してほし
いと願い出たので、彼をカイザルのもとに送る時まで守っておくように、命じ
ておきました。」22 すると、アグリッパがフェストに、「私も、その男の話を
聞きたいものです。」と言ったので、フェストは、「では、明日お聞きくだ
さい。」と言った。

23 こういうわけで、翌日、アグリッパとベルニケは、大いに威儀を整えて
到着し、千人隊長たちや市の首脳者たちにつき添われて講堂にはいった。その
とき、フェストの命令によってパウロが連れて来られた。24 そこで、フェス
トはこう言った。「アグリッパ王、ならびに、ここに同席の方々。ご覧くださ
い。ユダヤ人がこぞって、一刻も生かしてはおけないと呼ばわり、エルサレム
でも、ここでも、私に訴えて来たのは、この人のことです。25 私としては、彼
は死に当たることは何一つしていないと思います。しかし、彼自身が皇帝に上
訴しましたので、彼をそちらに送ることに決めました。26 ところが、彼につい
て、わが君に書き送るべき確かな事がらが一つもないのです。それで皆さんの
前に、わけてもアグリッパ王よ、あなたの前に、彼を連れてまいりました。取
り調べをしてみたら、何か書き送るべきことが得られましょう。27 囚人を送る
のに、その訴えの個条を示さないのは、理に合わないと思うのです。」

26

1 すると、アグリッパがパウロに、「あなたは、自分の言い分を申し述べて
よろしい。」と言った。そこでパウロは、手を差し伸べて弁明し始めた。
2 「アグリッパ王。私がユダヤ人に訴えられているすべてのことについて、
きょう、あなたの前で弁明できることを、幸いに存じます。 3 特に、あなたが
ユダヤ人の慣習や問題に精通しておられるからです。どうか、私の申し上げ
ることを、忍耐をもってお聞きくださるよう、お願いいたします。 4 では申し
述べますが、私が最初から私の国民の中で、またエルサレムにおいて過ごし
たら若い時からの生活ぶりは、すべてのユダヤ人の知っているところです。 5 彼
らは以前から私を知っていますので、証言するつもりならできることですが、
私は、私たちの宗教の最も厳格な派に従って、パリサイ人として生活してまい
りました。 6 そして今、神が私たちの先祖に約束されたものを待ち望んでいる
ことで、私は裁判を受けているのです。 7 私たちの十二部族は、夜も昼も熱心
に神に仕えながら、その約束のものを得たいと望んでおります。王よ。私は、
この希望のためにユダヤ人から訴えられているのです。 8 神が死者をよみがえら
せるということを、あなたがたは、なぜ信じがたいこととされるのでしょう
か。 9 以前は、私自身も、ナザレ人イエスの名に強硬に敵対すべきだと考えて
いました。 10 そして、それをエルサレムで実行しました。祭司長たちから権限
を授けられた私は、多くの聖徒たちを牢に入れ、彼らが殺されるときには、
それに賛成の票を投じました。 11 また、すべての会堂で、しばしば彼らを罰し
て、強いて御名をけがすことばを言わせようとし、彼らに対する激しい怒り
は、ついに国外の町々にまで及んで、私は祭司長たちから権限と委任を受け
て、ダマスコへ出かけて行きました。 12 それは太陽よりも明るく輝いて、
燃えて、私と同行者たちとの回りを照らしたのです。 14 私たちは皆地に倒れ
ましたが、そのとき声があって、ヘブル語で私にこう言うのが聞こえました。
『サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。とげのついた棒をけとる
のは、あなたにとって痛いことだ。』 15 私が『主よ。あなたはどなたですか。』
と言いますと、主がこう言われました。『わたしは、あなたが迫害しているイ
エスである。 16 起き上がって、自分の足で立ちなさい。わたしがあなたに現
れたのは、あなたが見たこと、また、これから後わたしがあなたに現われて
示そうとすることについて、あなたを奉仕者、また証人に任命するためである。
17 わたしは、この民と異邦人との中からあなたを救い出し、彼らのところに
遣わす。 18 それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から
神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、
別された人々の中にあって御国を受け継がせるためである。』 19 こういうわけ
で、アグリッパ王よ、私は、この天からの啓示にそむかず、 20 ダマスコにいる
人々をはじめエルサレムにいる人々に、またユダヤの全地方に、さらに異邦人
にまで、悔い改めて神に立ち返り、悔い改めにふさわしい行ないをするよう
と宣べ伝えて来たのです。 21 そのために、ユダヤ人たちは私を宮の中で捕え、
殺そうとしたのです。 22 こうして、私はこの日に至るまで神の助けを受け、
立って、小さい者にも大きい者にもあかしをしているのです。そして、預
者たちやモーセが、後に起こるはずだと語ったこと以外は何も話しませんで
した。 23 すなわち、キリストは苦しみを受けること、また、死者の中からの復
によって、この民と異邦人とに最初に光を宣べ伝える、ということです。」
24 パウロがこのように弁明していると、フェストが大声で、「気が狂って
いるぞ。パウロ。博学があなたの気を狂わせている。」と言った。 25 するとパウ
ロは次のように言った。「フェスト閣下。気は狂っておりません。私は、まじ
めな真理のことばを話しています。 26 王はこれらのことをよく知っておられ
るので、王に対して私は率直に申し上げているのです。これらのことは片隅で
起こった出来事ではありませんから、そのうちの一つでも王の目に留まらなか
ったものはないと信じます。 27 アグリッパ王。あなたは預言者を信じておられ
ますか。もちろん信じておられると思います。」 28 するとアグリッパはパウロ
に、「あなたは、わずかなことばで、私をキリスト者にしようとしている。」
と言った。 29 パウロはこう答えた。「ことばが少なかろうと、多かろうと、
私が神に願うことは、あなたばかりでなく、きょう私の話を聞いている人がみ
な、この鎖は別として、私のようになってくださることです。」
30 ここで王と総督とベルニケ、および同席の人々が立ち上がった。 31 彼らは
退場してから、互いに話し合って言った。「あの人は、死や投獄に相当するこ
とは何もしていない。」 32 またアグリッパはフェストに、「この人は、もしカ
イザルに上訴しなかったら、釈放されたであろうに。」と言った。

27

1 さて、私たちが船でイタリヤへ行くことが決まったとき、パウロと、ほかの
数人の囚人は、ユリアスという親衛隊の百人隊長に引き渡された。2私たちは、
アジヤの沿岸の各地に寄港して行くアドラミテオの船に乗り込んで出帆した。
テサロニケのマケドニヤ人アリスタルコも同行した。3翌日、シドンに入港し
た。ユリアスはパウロを親切に取り扱い、友人たちのところへ行って、もてなし
を受けることを許した。4そこから出帆したが、向かい風なので、キプロスの
島陰を航行した。5そしてキリキヤとパンフリヤの沖を航行して、ルキヤのミ
ラに入港した。6そこに、イタリヤへ行くアレキサンドリヤの船があったので、
百人隊長は私たちをそれに乗り込ませた。7幾日かの間、船の進みはおそく
て、やっとのことでクニドの沖に着いたが、風のためにそれ以上進むことが
できず、サルモネ沖のクレテの島陰を航行し、8その岸に沿って進みながら、
やっとのことで、良い港と呼ばれる所に着いた。その近くにラサヤの町があった。
9かなりの日数が経過しており、断食の季節もすでに過ぎていたため、もう
航海は危険であったので、パウロは人々に注意して、10「皆さん。この航海で失
は、きっと、積荷や船体だけではなく、私たちの生命にも、危害と大きな損
が及ぶと、私は考えます。」と言った。11しかし百人隊長は、パウロのことばに
よりも、航海士や船長のほうを信用した。12また、この港が冬を過ごすには適
していない港であったので、大多数の者の意見は、ここを出帆して、できるだけ
南西と北西とに面したクレテの港ピニクスまで行って、そこで冬を過ごすこと
にしようということになった。13おりから、穏やかな南風が吹いて来ると、
人々は、錨を上げて、クレテの海岸に沿って航行した。14とはいえ、まもなく
、巻き込まれ、風に逆らうことができないので、しかたなく吹き流されるに
まかせた。15船は暴風に激しく翻弄されていたので、翌日、人々は
積荷を海に投げ捨てた。16小さな島の陰に入ったので、小舟を処置することが
できた。17小舟を船に引き上げ、備えの綱を船底に巻き付けるなどして、
船体を補強した。また、スルテスの浅瀬に乗り上げることを恐れて、船具を
流れに任せた。18私たちは暴風に激しく翻弄されていたので、翌日、人
積荷を捨て始め、19三日目には、自分の手で船具までも投げ捨てた。20太陽
も星も見えない日が幾日も続き、激しい暴風が吹きまくるので、私たちの助かる
最後の望みも今や絶たれようとしていた。21だれも長いこと食事をとらなかった。
パウロが彼らの中に立って、こう言った。「皆さん。あなたがたは私の忠告を
聞き入れて、クレテを出帆しなかったら、この危害や損失を免れるのだった。
しかし、今、お勧めします。元気を出しなさい。失われるのは私たちのうち
の一人のいのちだけであって、船を失う者はひとりもありません。私の前に
立っている神の御使いが、私のところに来て、言いました。『恐れてはいけません。
パウロ。あなたは必ずローマ皇帝の前に立たなければなりません。神はあなた
と同船している人々をみな、あなたに与えられたのです。』23ですから、皆さん。元気を出しなさい。
私は神によって信じています。24私たちは必ず、どこかの島に打ち上げられます。」
25十四日目の夜になって、私たちがアドリヤ海を漂っていると、真夜中ごろ
、水夫たちは、どこかの陸地に近づいたように感じた。26水深を測ってみる
と、四十メートルほどであることがわかった。少し進んでまた測ると、三
十メートルほどであった。27どこかで暗礁に乗り上げはしないかと心配して、
とも船から四つの錨を投げおろし、夜の明けるのを待った。28ところが、水夫
たちは船から逃げ出そうとして、へさきから錨を降ろすように見せかけて、小
舟を海に降ろしていたので、29パウロは百人隊長や兵士たちに、「あの人た
ちが船にとどまっていなければ、あなたがたも助かりません。」と言った。30そこで
兵士たちは、小舟の綱を断ち切って、そのまま流れ去るのに任せた。31そこ
で夜の明けかけたころ、パウロは、一同に食事をとることを勧めて、こう言った。
「あなたがたは待ちに待って、きょうまで何も食べずに過ごしてきました。
これは、あなたがたは助かることになるのです。あなたがたの頭から髪一筋も失
われることはありません。」32こう言って、彼はパンを取り、一同の前で神に
感謝をささげてから、それを裂いて食べ始めた。33そこで一同も元気づけら
れ、みなが食事をとった。34船にいた私たちは全部で二百七十六人であった。
35十分食べてから、彼らは麦を海に投げ捨てて、船を軽くした。36夜が明け
ると、どこの陸地かわからないが、砂浜のある入江が目に留まったので、でき
れば、そこに船を乗り入れようということになった。37錨を切って海に捨て、同
時に舵の綱を解き、風に前の帆を上げて、砂浜に向かって進んで行った。38とき
ころが、潮流の流れ合う浅瀬に乗り上げて、船を座礁させてしまった。へさき

はめり込んで動かなくなり、ともは激しい波に打たれて破れ始めた。 42 兵士
たちは、囚人たちがだれも泳いで逃げないように、殺してしまおうと相談し
た。 43 しかし百人隊長は、パウロをあくまでも助けようと思って、その計画を
押え、泳げる者がまず海に飛び込んで陸に上がるように、 44 それから残りの者
は、板切れや、その他の、船にある物につかまって行くように命じた。こうし
て、彼らはみな、無事に陸に上がった。

28

1 こうして救われてから、私たちは、ここがマルタと呼ばれる島であることを
知った。 2 島の人々は私たちに非常に親切にしてくれた。おりから雨が降りだ
して寒かったので、彼らは火をたいて私たちみなをもてなしてくれた。 3 パウ
ロがひとかかえの柴をたばねて火にくべると、熱気のために、一匹のまむしが
はい出して来て、彼の手に取りついた。 4 島の人々は、この生き物がパウロの
手から下がっているのを見て、「この人はきっと人殺しだ。海からはのがれた
が、正義の女神はこの人を生かしてはおかないのだ。」と互いに話し合った。
5 しかし、パウロは、その生き物を火の中に振り落として、何の害も受けなかっ
た。 6 島の人々は、彼が今にも、はれ上がって来るか、または、倒れて急死す
るだろうと待っていた。しかし、いくら待っても、彼に少しも変わった様子が
見えないので、彼らは考えを変えて、「この人は神さまだ。」と言いだした。
7 さて、その場所の近くに、島の首長でポプリオという人の領地があった。
彼はそこに私たちを招待して、三日間手厚くもてなしてくれた。 8 たまたまポ
プリオの父が、熱病と下痢とで床に着いていた。そこでパウロは、その人のも
とに行き、祈ってから、彼の上に手を置いて直してやった。 9 このことがあっ
てから、島のほかの病人たちも来て、直してもらった。 10 それで彼らは、私た
ちを非常に尊敬し、私たちが出帆するときには、私たちに必要な品々を用意し
てくれた。
11 三か月後に、私たちは、この島で冬を過ごしていた、船首にデオスクロイ
の飾りのある、アレキサンドリヤの船で出帆した。 12 シラクサに寄港して、
三日間とどまり、 13 そこから回って、レギオンに着いた。一日たつと、南風が
吹き始めたので、二日目にはポテオリに入港した。 14 ここで、私たちは兄弟た
ちに会い、勧められるままに彼らのところに七日間滞在した。こうして、私た
ちはローマに到着した。 15 私たちのことを聞いた兄弟たちは、ローマからア
ピオ・ポロとトレス・タベルネまで出迎えに来てくれた。パウロは彼らに会っ
て、神に感謝し、勇気づけられた。
16 私たちがローマにはいると、パウロは番兵付きで自分だけの家に住むこと
が許された。
17 三日の後、パウロはユダヤ人のおもだった人たちを呼び集め、彼らが集ま
ったときに、こう言った。「兄弟たち。私は、私の国民に対しても、先祖の慣
習に対しても、何一つそむくことはしていないのに、エルサレムで囚人として
ローマ人の手に渡されました。 18 ローマ人は私を取り調べましたが、私を死
刑にする理由が何もなかったので、私を釈放しようと思ったのです。 19 とこ
ろが、ユダヤ人たちが反対したため、私はやむなくカイザルに上訴しました。
それは、私の同胞を訴えようとしたのではありません。 20 このようなわけで、私
は、あなたがたに会ってお話ししようと思い、お招きしました。私はイスラエ
ルの望みのためにこの鎖につながれているのです。」 21 すると、彼らはこうい
った。「私たちは、あなたのことについて、ユダヤから何の知らせも受けてお
りません。また、当地に来た兄弟たちの中で、あなたについて悪いことを告げ
たり、話したりした者はおりません。 22 私たちは、あなたが考えておられるこ
とを、直接あなたから聞くのがよいと思っています。この宗派については、至
る所で非難があることを私たちは知っているからです。」
23 そこで、彼らは日を定めて、さらに大ぜいでパウロの宿にやって来た。
彼は朝から晩まで語り続けた。神の国のことをあかしし、また、モーセの律法
と預言者たちの書によって、イエスのことについて彼らを説得しようとした。
24 ある人々は彼の語る事を信じたが、ある人々は信じようとしなかった。 25 こ
うして、彼らは、お互いの意見が一致せずに帰りかけたので、パウロは一言、
次のように言った。「聖霊が預言者イザヤを通してあなたがたの先祖に語られ
たことは、まさにそのとおりでした。
26 『この民のところに行って、告げよ。
あなたがたは確かに聞きはするが、
決して悟らない。
確かに見てはいるが、決してわからない。
27 この民の心は鈍くなり、

その耳は遠く、
その目はつぶっているからである。
それは、彼らがその目で見、
その耳で聞き、
その心で悟って、立ち返り、
わたしにいやされることのないためである。』
28 ですから、承知しておいてください。神のこの救いは、異邦人に送られました。彼らは、耳を傾けるでしょう。」
29-30 こうしてパウロは満二年の間、自費で借りた家に住み、たずねて来る人たちをみな迎えて、31 大胆に、少しも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。

ローマ人への手紙

1 神の福音のために選び分けられ、使徒として召されたキリスト・イエスのしもべパウロ、2 ——この福音は、神がその預言者たちを通して、聖書において前
から約束されたもので、3 御子に関することです。御子は、肉によればダビデ
の子孫として生まれ、4 きよい御霊によれば、死者の中からの復活により、大能
によって公に神の御子として示された方、私たちの主イエス・キリストです。
5 このキリストによって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。それは、御
名のためにあらゆる国の人々の中に信仰の従順をもたらすためなのです。6 あ
なたがたも、それらの人々の中にあって、イエス・キリストによって召された
人々です。——このパウロから、7 ローマにいるすべての、神に愛されている
人々、召された聖徒たちへ。
私たちの父なる神と主イエス・キリストから恵みと平安があなたがたの上に
ありますように。
8 まず第一に、あなたがたすべてのために、私はイエス・キリストによって
私の神に感謝します。それは、あなたがたの信仰が全世界に言い伝えられてい
るからです。9 私が御子の福音を宣べ伝えつつ霊をもって仕えている神があか
ししてくださることですが、私はあなたがたのことを思わぬ時はなく、10 い
つも祈りのたびごとに、神のみこころによって、何とかして、今度はついに道
が開かれて、あなたがたのところに行けるようにと願っています。11 私があな
たがたに会いたいと切に望むのは、御霊の賜物をいくらかでもあなたがたに分
けて、あなたがたを強くしたいからです。12 というよりも、あなたがたの間に
いて、あなたがたと私との互いの信仰によって、ともに励ましを受けたいので
す。13 兄弟たち。ぜひ知っておいていただきたい。私はあなたがたの中でも、
ほかの国の人々の中で得たと同じように、いくらかの実を得ようと思って、何
度もあなたがたのところに行こうとしたのですが、今なお妨げられているので
す。14 私は、ギリシヤ人にも未開人にも、知識のある人にも知識のない人に
も、返さなければならない負債を負っています。15 ですから、私としては、ロ
ーマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を伝えたいのです。
16 私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人に
も、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。17 なぜなら、福
音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませ
るからです。「義人は信仰によって生きる。」と書いてあるとおりです。
18 というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不
正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。19 なぜなら、神につ
いて知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされ
たのです。20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界
の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められる
のであって、彼らに弁解の余地はないのです。21 というのは、彼らは、神を知
っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いは
むなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。22 彼らは、自分では知者
であると言いながら、愚かな者となり、23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間
や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。
24 それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、そのた
めに彼らは、互いにそのからだをはずかしめるようになりました。25 それは、
彼らが神の真理を偽りと取り代え、造り主の代わりに造られた物を拝み、これ
に仕えたからです。造り主こそ、とこしえにほめたたえられる方です。アーメ
ン。
26 こういうわけで、神は彼らを恥ずべき情欲に引き渡されました。すなわ
ち、女は自然の用を不自然なものに代え、27 同じように、男も、女の自然な用
を捨てて男どうしで情欲に燃え、男が男と恥ずべきことを行なうようになり、
こうしてその誤りに対する当然の報いを自分の身に受けているのです。
28 また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、神は彼らを良くない思いに
引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。
29 彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と
争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、30 そしる者、
神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ
者、親に逆らう者、31 わきまえのない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈
愛のない者です。32 彼らは、そのようなことを行なえば、死罪に当たるという

神の定めを知っていながら、それを行なっているだけでなく、それを行なう者
に心から同意しているのです。

2

1 ですから、すべて他人をさばく人よ。あなたに弁解の余地はありません。あ
なたは、他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めています。さばくあ
なたが、それと同じことを行なっているからです。2 私たちは、そのようなこ
とを行なっている人々に下る神のさばきが正しいことを知っています。3 そこ
ようなことをしている人々をさばきながら、自分で同じことをしている人よ。
あなたは、自分は神のさばきを免れるのだとでも思っているのですか。4 それ
とも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈
愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。5 ところが、あなたは、かたくな
さと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神の正しいさばきの
現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。6 神は、ひとりひ
とりに、その人の行ないに従って報いをお与えになります。7 忍耐をもって善
を行ない、栄光と誉れと不滅のものとを求める者には、永遠のいのちを与え、
8 党派心を持ち、真理に従わないで不義に従う者には、怒りと憤りを下されま
す。9 患難と苦悩とは、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、悪を行なうすべ
ての者の上に下り、10 栄光と誉れと平和は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人に
も、善を行なうすべての者の上にあります。11 神にはえこひいきなどはないか
らです。12 律法なしに罪を犯した者はすべて、律法なしに滅び、律法の下にあ
って罪を犯した者はすべて、律法によってさばかれます。13 それは、律法を聞
く者が神の前に正しいのではなく、律法を行なう者が正しいと認められるからな
です。14 ――律法を持たない異邦人が、生まれつきのままで律法の命じる行な
いをするばあいは、律法を持たなくても、自分自身が自分に対する律法なのです。
15 彼らはこのようにして、律法の命じる行ないが彼らの心に書かれていることを
示しています。彼らの良心もいっしょになってあかしし、また、彼らの思
いは互いに責め合ったり、また、弁明し合ったりしています。――16 私の福
音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって人々の隠れたこと
をさばかれる日に、行なわれるのです。

17 もし、あなたが自分をユダヤ人ととなえ、律法を持つことに安んじ、神を
誇り、18 みこころを知り、なすべきことが何であるかを律法に教えられてわき
まえ、19-20 また、知識と真理の具体的な形として律法を持っているため、盲人
の案内人、やみの中にいる者の光、愚かな者の導き手、幼子の教師だと自任し
ているのなら、21 どうして、人を教えながら、自分自身を教えないのですか。
盗むなと説きながら、自分は盗むのですか。22 姦淫するなと言いながら、自分
は姦淫するのですか。偶像を忌みきらいながら、自分は神殿の物をかすめる
のですか。23 律法を誇りとしているあなたが、どうして律法に違反して、神を侮
るのですか。24 これは、「神の名は、あなたがたのゆえに、異邦人の中でけが
されている。」と書いてあるとおりです。25 もし律法を守るなら、割礼には価
値があります。しかし、もしあなたが律法にそむいているなら、あなたの割礼
は、無割礼になったのです。26 もし割礼を受けていない人が律法の規定を守る
なら、割礼を受けていなくても、割礼を受けている者とみなされないでしょう
か。27 また、からだに割礼を受けていないで律法を守る者が、律法の文字と割
礼がありながら律法にそむいているあなたを、さばくことにならないでしょう
か。28 外見上のユダヤ人がユダヤ人なのではなく、外見上のからだの割礼が割
礼なのではありません。29 かえって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、
文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です。その誉れは、人からでは
なく、神から来るものです。

3

1 では、ユダヤ人のすぐれたところは、いったい何ですか。割礼にどんな益
があるのですか。2 それは、あらゆる点から見て、大いにあります。第一に、
彼らは神のいろいろなおことばをゆだねられています。3 では、いったいどう
なのですか。彼らのうちに不真実な者があったら、その不真実によって、神の
真実が無に帰することになるでしょうか。4 絶対にそんなことはありません。
たとい、すべての人を偽り者としても、神は真実な方であるとすべきです。そ
れは、

「あなたが、そのみことばによって正しいとされ、さばかれるときには勝利
を得られるため。」

と書いてあるとおりです。5 しかし、もし私たちの不義が神の義を明らかに
するとしたら、どうなるでしょうか。人間的な言い方をしますが、怒りを下

す神は不正なのでしょうか。 6 絶対にそんなことはありません。もしそうだ
としたら、神はいったいどのように世をさばかれるのでしょう。 7 でも、私
の偽りによって、神の真理がますます明らかにされて神の栄光となるのであ
れば、なぜ私がなお罪人としてさばかれるのでしょうか。 8 「善を現わすた
めに、悪をしようではないか。」と言ってはいけないのでしょうか。――私
たちはこの点でそしられるのです。ある人たちは、それが私たちのことばだ
と言っていますが、――もちろんこのように論じる者どもは当然罪に定めら
れるのです。
9 では、どうなのでしょう。私たちは他の者にまさっているのでしょうか。
決してそうではありません。私たちは前に、ユダヤ人もギリシヤ人も、すべて
の人が罪の下にあると責めたのです。 10 それは、次のように書いてあるとおり
です。
「義人はいない。ひとりもいない。
11 悟りのある人はいない。神を求める人はいない。
12 すべての人が迷い出て、
みな、ともに無益な者となった。
善を行なう人はいない。ひとりもいない。」
13 「彼らののどは、開いた墓であり、
彼らはその舌で欺く。」
「彼らのくちびるの下には、まむしの毒があり、」
14 「彼らの口は、のろいと苦さで満ちている。」
15 「彼らの足は血を流すのに速く、
16 彼らの道には破壊と悲惨がある。
17 また、彼らは平和の道を知らない。」
18 「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」

19 さて、私たちは、律法の言うことはみな、律法の下にある人々に対して言
われていることを知っています。それは、すべての口がふさがれて、全世界が
神のさばきに服するためです。 20 なぜなら、律法を行なうことによっては、だ
れひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の
意識が生じるのです。
21 しかし、今は、律法とは別に、しかも律法と預言者によってあかしされ
て、神の義が示されました。 22 すなわち、イエス・キリストを信じる信仰によ
る神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありませ
ん。 23 すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず、
24 ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義
と認められるのです。 25 神は、キリスト・イエスを、その血による、まことの信仰
による、なだめの供え物として、公にお示しになりました。それは、ご自身の
義を現わすためです。というのは、今までに犯されて来た罪を神の忍耐をもっ
て見のがして来られたからです。 26 それは、今の時にご自身の義を現わすため
であり、こうして神ご自身が義であり、また、イエスを信じる者を義とお認め
になるためなのです。 27 それでは、私たちの誇りはどこにあるのでしょうか。
それはすでに取り除かれました。どういう原理によってでしょうか。行ないの
原理によってでしょうか。そうではなく、信仰の原理によってです。 28 人が義
と認められるのは、律法の行ないによるのではなく、信仰によるというのが、
私たちの考えです。 29 それとも、神はユダヤ人だけの神でしょうか。異邦人に
とっても神ではないのでしょうか。確かに神は、異邦人にとっても、神です。
30 神が唯一ならばそうです。この神は、割礼のある者を信仰によって義と認め
てくださるとともに、割礼のない者をも、信仰によって義と認めてくださるの
です。
31 それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょう
か。絶対にそんなことはありません。かえって、律法を確立することになる
のです。

4

1 それでは、肉による私たちの先祖アブラハムのばあいは、どうでしょうか。
2 もしアブラハムが行ないによって義と認められたのなら、彼は誇ることができ
ます。しかし、神の御前では、そうではありません。 3 聖書は何と言っていま
すか。「それでアブラハムは神を信じた。それが彼の義とみなされた。」とあ
ります。 4 働く者のばあいに、その報酬は恵みでなくて、当然支払うべきもの
とみなされます。 5 何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方

を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。 6 ダビデもまた、行ないとは別の道で神によって義と認められる人の幸いを、こう言っています。
7 「不法を赦され、罪をおおわれた人たちは、
幸いである。
8 主が罪を認めない人は幸いである。」
9 それでは、この幸いは、割礼のある者にだけ与えられるのでしょうか。それとも、割礼のない者にも与えられるのでしょうか。私たちは、「アブラハムには、その信仰が義とみなされた。」と言っていますが、 10 どのようにして、その信仰が義とみなされたのでしょうか。割礼を受けてからでしょうか。まだ割礼を受けていないときにでしょうか。割礼を受けてからできたのです。 11 彼は、割礼を受けていない信仰によって義と認められたことの証印として、割礼を受けるべきです。それは、彼が、割礼を受けないままで信じている人たちの父となるためです。すなわち、割礼のない者が義と認められるためです。 12 また割礼のある者の父となるためです。すなわち、割礼を受けているだけではなく、私たちの父アブラハムが割礼のない者の信仰の足跡に従って歩む者の父となるためです。 13 というのは、世界の相続人となるという約束が、アブラハムに、あるいはまた、その子孫に与えられたのは、律法によってではなく、信仰の義によったからです。 14 もし律法によって相続人であるとするなら、信仰はむなしくなり、約束は無効になってしまいます。 15 律法は怒りを招くものであり、律法のないところには違反もありません。 16 そのようなわけで、世界の相続人となることは、信仰によるのです。それは、恵みによるためであり、こうして約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持っている人々にだけでなく、アブラハムの信仰による人々にも保証されるためなのです。「わたしは、あなたを多くの国の父にした。」と書いてあるとおりに、アブラハムは私たちすべての者の父なのです。 17 このことは、彼が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るものとお呼びになる方の御前で、そうなのです。 18 彼は望みえないときに望みを抱いて信じました。それは、「あなたの子孫はこのようになる。」と言われていたとおりに、彼があらゆる国の人々の父となるためです。 19 アブラハムは、およそ百歳になって、自分のからだが死んでいることを認めても、サラの胎の死んでいることを認めても、その信仰は弱まることなく、神の約束を疑うことなく、信仰がますます強くなって、神に栄光を帰し、 20 彼は、不信仰によって神の約束を疑うことはせず、反対に、信仰によって成就する力があることを堅く信じました。 21 だからこそ、それは彼の義とみなされたのです。 22 しかし、「彼の義とみなされた。」と書いてあるのは、ただ彼のためだけでなく、 23 また私たちのためです。すなわち、私たちの主イエスを死者の中からよみがえらせた方を信じる私たちも、その信仰が義とみなされるのです。 24 主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。

5

1 ですから、信仰によって義と認められた私たちは、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。 2 またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。 3 そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、 4 忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。 5 この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。 6 私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。 7 正しい人のためにでも死ぬ人はほとんどありません。情け深い人のためには、進んで死ぬ人はいるでしょう。 8 しかし私たちがまだ罪人であったときに、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対する自身の愛を明らかにしておられます。 9 ですから、今すでにキリストの血によって義と認められた私たちが、彼によって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。 10 もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。 11 そればかりでなく、私たちのために今や和解を成り立たせてくださった私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を大いに喜んでいるのです。
12 そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、――それという

のも全人類が罪を犯したからです。 13 というのは、律法が与えられるまでの
時期にも罪は世にあったからです。しかし罪は、何かの律法がなければ、認め
られないものです。 14 ところが死は、アダムからモーセまでの間も、アダムの
違反と同じようには罪を犯さなかった人々をさえ支配しました。アダムはきた
るべき方のひな型です。 15 ただし、恵みには違反のばあいとは違う点があり
ます。もしひとりの違反によって多くの人が死んだとすれば、それにもまして、
神の恵みとひとりの人イエス・キリストの恵みによる賜物とは、多くの人々に
満ちあふれるのです。 16 また、賜物には、罪を犯したひとりによるばあいと
違った点があります。さばきのばあいは、一つの違反のために罪に定められた
のですが、恵みのばあいは、多くの違反が義と認められるからです。 17 もしひ
とりの人の違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、
なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりの人イ
エス・キリストによって、いのちにあって支配するのです。 18 こういうわけで、
ちょうど一つの違反によってすべての人が罪に定められたのと同様に、一つの
義の行為によってすべての人が義と認められて、いのちを与えられるのです。
19 すなわち、ちょうどひとりの人の不従順によって多くの人が罪人とされたの
と同様に、ひとりの従順によって多くの人が義人とされるのです。 20 律法がは
いって来たのは、違反が増し加わるためです。しかし、罪の増し加わるところ
には、恵みも満ちあふれました。 21 それは、罪が死によって支配したように、
恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠
のいのちを得させるためなのです。

6

1 それでは、どういうことになりますか。恵みが増し加わるために、私たち
は罪の中にとどまるべきでしょうか。 2 絶対にそんなことはありません。罪に
対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。
3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテス
マを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありま
せんか。 4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリスト
とともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中か
らよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためで
す。 5 もし私たちが、キリストにつぎ合わされて、キリストの死と同じように
なっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。 6 私たち
の古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが滅びて、
私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知
っています。 7 死んでしまった者は、罪から解放されているのです。 8 もし私た
ちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることにもな
る、と信じます。 9 キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことは
なく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。 10 な
ぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キ
リストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。 11 こ
のように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対しては
キリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。
12 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲
に従ってはいけません。 13 また、あなたがたの手足を不義の器として罪にさ
さげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた
自身とその手足を義の器として神にささげなさい。 14 というのは、罪はあなた
がたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下にはな
く、恵みの下にあるからです。
15 それではどうなのでしょう。私たちは、律法の下にではなく、恵みの下に
あるのだから罪を犯そう、ということになるのでしょうか。絶対にそんなこと
はありません。 16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自
分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、
あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るの
です。 17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、
伝えられた教えの規準に心から服従し、 18 罪から解放されて、義の奴隷とな
ったのです。 19 あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をし
ています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささ
げて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔
に進みなさい。 20 罪の奴隷であった時は、あなたがたは義については、自由
にふるまっていました。 21 その当時、今ではあなたがたが恥じているそのよ
うなものから、何か良い実を得たでしょうか。それらのものの行き着く所は死

です。 22 しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。 23 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

7

1 それとも、兄弟たち。あなたがたは、律法が人に対して権限を持つのは、その人の生きている期間だけだ、ということを知らないのですか。——私は律法を知っている人々に言っているのです。—— 2 夫のある女は、夫が生きている間は、律法によって夫に結ばれています。しかし、夫が死ねば、夫に関する律法から解放されます。 3 ですから、夫が生きている間に他の男に行けば、姦淫の女と呼ばれるのですが、夫が死ねば、律法から解放されており、たとい他の男に行っても、姦淫の女ではありません。 4 私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。 5 私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。 6 しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。

7 それでは、どういうことになりますか。律法は罪なのでしょうか。絶対にそんなことはありません。ただ、律法によらないでは、私は罪を知ることがなかったでしょう。律法が、「むさぼってはならない。」と言わなかったら、私はむさぼりを知らなかったでしょう。 8 しかし、罪はこの戒めによって機会を捕え、私のうちにあらゆるむさぼりを引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。 9 私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たときに、罪が生き、私は死にました。 10 それで私には、いのちに導くはずのこの戒めが、かえって死に導くものであることが、わかりました。 11 それは、戒めによって機会を捕えた罪が私を欺き、戒めによって私を殺したからです。 12 ですから、律法は聖なるものであり、戒めも聖であり、正しく、また良いものなのです。 13 では、この良いものが、私に死をもたらしたのでしょうか。絶対にそんなことはありません。それはむしろ、罪なのです。罪は、この良いもので私に死をもたらすことによって、罪として明らかにされ、戒めによって、極度に罪深いものとなりました。 14 私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。 15 私には、自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行なっているからです。 16 もし自分のしたくないことをしているとすれば、律法は良いものであることを認めているわけです。 17 ですから、それを行なっているのは、もはや私ではなく、私のうちに住みついている罪なのです。 18 私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。 19 私は、自分でしたいと思う善を行なわないで、かえって、したくない悪を行なっています。 20 もし私が自分でしたくないことをしているのであれば、それを行なっているのは、もはや私ではなくて、私のうちに住む罪です。 21 そういうわけで、私は、善をしたいと願っているのですが、その私に悪が宿っているという原理を見いだすのです。 22 すなわち、私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいるのに、 23 私のからだの中には異なった律法があって、それが私の心の律法に対して戦いをいどみ、私を、からだの中にある罪の律法のとりこにしているのを見いだすのです。 24 私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか。 25 私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します。ですから、この私は、心では神の律法に仕え、肉では罪の律法に仕えているのです。

8

1 こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。 2 なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。 3 肉によって無力になったため、律法にはできなくなっていることを、神はしてくださいました。神はご自分の御子を、罪のために、罪深い肉と同じような形でお遣わしになり、肉において罪を処罰されたのです。 4 それは、肉に従って歩まず、御霊に従って歩む私たちの中に、律法の要求が全うされるためなのです。 5 肉に従う者は

肉的なことをもっぱら考えますが、御霊に従う者は御霊に属することをひたす
ら考えます。 6 肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です。
7 というのは、肉の思いは神に対して反抗するものだからです。それは神の律法
に服従しません。いや、服従できないのです。 8 肉にある者は神を喜ばせるこら
とができません。 9 けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおら
れるなら、あなたがたは肉の中にではなく、御霊の中にいるのです。キリスト
の御霊を持たない人は、キリストのものではありません。 10 もしキリストがあ
なたがたのうちにおられるなら、からだは罪のゆえに死んでいても、霊が、義
のゆえに生きています。 11 もしイエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊
が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリスト・イエスを死者の中か
らよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられる御霊によって、あ
なたがたの死ぬべきからだをも生かしてくださるのです。

12 ですから、兄弟たち。私たちは、肉に従って歩む責任を、肉に対して負っ
てはいません。 13 もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし
、もし御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。
14 神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。 15 あなたがたは、
人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださ
る御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父。」と呼びます。
16 私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あ
かししてくださいます。 17 もし子どもであるなら、相続人でもあります。私た
ちがキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているなら、私た
ちは神の相続人であり、キリストとの共同相続人であります。

18 今の時のいろいろの苦しみは、将来私たちに啓示されようとしている栄光
に比べれば、取るに足りないものと私は考えます。 19 被造物も、切実な思いで
神の子どもたちの現われを待ち望んでいるのです。 20 それは、被造物が虚無に
服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがある
からです。 21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光
の自由の中に入れられます。 22 私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともに
うめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。 23 そればかりで
なく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子
にしていただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んで
います。 24 私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望み
は、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望む
でしょう。 25 もしまだ見ていないものを望んでいるのなら、私たちは、忍耐を
もって熱心に待ちます。

26 御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、ど
のように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない
深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。 27 人間の心を
探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊
は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。
28 神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、
神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。
29 なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同
じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で
長子となられるためです。 30 神はあらかじめ定めた人々をさらに召し、召し
た人々をさらに義と認め、義と認めた人々にはさらに栄光をお与えになりま
した。

31 では、これらのことからどう言えるでしょう。神が私たちの味方であるな
ら、だれが私たちに敵対できるでしょう。 32 私たちすべてのために、ご自分の
御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべて
のものを、私たちに恵んでくださらないことがありましょう。 33 神に選ばれた
人々を訴えるのはだれですか。神が義と認めてくださるのです。 34 罪に定めよ
うとするのはだれですか。死んでくださった方、いや、よみがえらされた方であ
るキリスト・イエスが、神の右の座に着き、私たちのためにとりなしていてく
ださるのです。 35 私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難で
すか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣で
すか。

36 「あなたのために、私たちは一日中、
死に定められている。
私たちは、ほふられる羊とみなされた。」
と書いてあるとおりです。 37 しかし、私たちは、私たちを愛してくださった
方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるの

です。 38 私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者
も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、 39 高さも、深さも、その
ほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私
たちを引き離すことはできません。

9

1 私はキリストにあって真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良
心も、聖霊によってあかししています。 2 私には大きな悲しみがあり、私の心
には絶えず痛みがあります。 3 もしできることなら、私の同胞、肉による同国
人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさ
え願いたいのです。 4 彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、
契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。 5 先祖た
ちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。
このキリストは万物の上にあり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメ
ン。
6 しかし、神のみことばが無効になったわけではありません。なぜなら、イ
スラエルから出る者がみな、イスラエルなのではなく、 7 アブラハムから出た
からといって、すべてが子どもなのではなく、「イサクから出る者があなたの
子孫と呼ばれる。」のだからです。 8 すなわち、肉の子どもがそのまま神の子
どもではなく、約束の子どもが子孫とみなされるのです。 9 約束のみことばは
こうです。「私は来年の今ごろ来ます。そして、サラは男の子を産みます。」
10 このことだけでなく、私たちの先祖イサクひとりによってみごもったリベカ
のこともあります。 11 その子どもたちは、まだ生まれてもおらず、善も悪も行
なわないうちに、神の選びの計画の確かさが、行ないにはよらず、召してくだ
さる方によるようにと、 12 「兄は弟に仕える。」と彼女に告げられたのです。
13 「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ。」と書いてあるとおりです。
14 それでは、どういうことになりますか。神に不正があるのですか。絶対に
そんなことはありません。 15 神はモーセに、「わたしは自分のあわれむ者を
あわれみ、自分のいつくしむ者をいつくしむ。」と言われました。 16 したがっ
て、事は人間の願いや努力によるのではなく、あわれんでくださる神によるの
です。 17 聖書はパロに、「わたしがあなたを立てたのは、あなたにおいてわた
しの力を示し、わたしの名を全世界に告げ知らせるためである。」と言ってい
ます。 18 こういうわけで、神は、人をみこころのままにあわれみ、またみこ
ころのままにかたくなにされるのです。
19 すると、あなたはこう言うでしょう。「それなのになぜ、神は人を責めら
れるのですか。だれが神のご計画に逆らうことができましょう。」 20 しかし、
人よ。神に言い逆らうあなたは、いったい何ですか。形造られた者が形造った
者にに対して、「あなたはなぜ、私をこのようなものにしたのですか。」と言え
るにでしょうか。 21 陶器を作る者は、同じ土のかたまりから、尊いことに用いる
器でも、また、つまらないことに用いる器でも作る権利を持っていないのでし
ょうか。 22 ですが、もし神が、怒りを示してご自分の力を知らせようと望んで
おられるのに、その滅ぼされるべき怒りの器を、豊かな寛容をもって忍耐して
くださったとしたら、どうでしょうか。 23 それも、神が栄光のためにあらかじ
め用意しておられたあわれみの器に対して、その豊かな栄光を知らせてくださ
るためになのです。 24 神は、このあわれみの器として、私たちを、ユダヤ人の
中からだけでなく、異邦人の中からも召してくださったのです。 25 それは、ホ
セアの書でも言っておられるとおりです。
「わたしは、わが民でない者をわが民と呼び、
愛されなかった者を愛する者と呼ぶ。
26 『あなたがたは、わたしの民ではない。』と、
わたしが言ったその場所で、彼らは、
生ける神の子どもと呼ばれる。」
27 また、イスラエルについては、イザヤがこう叫んでいます。
「たとえイスラエルの子どもたちの数は、
海べの砂のようであっても、
救われるのは、残された者である。
28 主は、みことばを完全に、しかも敏速に、
地上に成し遂げられる。」
29 また、イザヤがこう預言したとおりです。
「もし万軍の主が、私たちに
子孫を残されなかったら、
私たちはソドムのようになり、

ゴモラと同じものとされたであろう。」

30 では、どういうことになりますか。義を追い求めなかった異邦人は義を得
ました。すなわち、信仰による義です。 31 しかし、イスラエルは、義の律法を
追い求めながら、その律法に到達しませんでした。 32 なぜでしょうか。信仰に
よって追い求めることをしないで、行ないによるかのように追い求めたからで
す。彼らは、つまずきの石につまずいたのです。 33 それは、こう書かれている
とおりです。
「見よ。わたしは、
シオンに、つまずきの石、妨げの岩を置く。
彼に信頼する者は、
失望させられることがない。」

10

1 兄弟たち。私が心の望みとし、また彼らのために神に願い求めているのは、
彼らの救われることです。 2 私は、彼らが神に対して熱心であることをあかしし
ます。しかし、その熱心は知識に基づくものではありません。 3 というのは、
彼らは神の義を知らず、自分自身の義を立てようとして、神の義に従わなかっ
たからです。 4 キリストが律法を終わらせられたので、信じる人はみな義と認め
られるのです。 5 モーセは、律法による義を行なう人は、その義によって生き
る、と書いています。 6 しかし、信仰による義はこう言います。「あなたは心
の中で、だれが天に上るだろうか、と言ってはいけない。」それはキリストを
引き降ろすことです。 7 また、「だれが地の奥底に下るだろうか、と言っては
いけない。」それはキリストを死者の中から引き上げることです。 8 では、どの
う言っていますか。「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あ
なたの心にある。」これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。
9 なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエス
を死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われる
ら です。 10 人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。 11 聖
書はこう言っています。「彼に信頼する者は、失望させられることがない。」
12 ユダヤ人とギリシヤ人との区別はありません。同じ主が、すべての人の主で
あり、主を呼び求めるすべての人に対して恵み深くあられるからです。 13 「主
の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」のです。 14 しかし、信じたこ
とのない方を、どうして呼び求めることができるでしょう。聞いたことのない
方を、どうして信じることができるでしょう。宣べ伝える人がなくて、どうし
て聞くことができるでしょう。 15 遣わされなくては、どうして宣べ伝えること
ができるでしょう。次のように書かれているとおりです。「良いことの知らせ
を伝える人々の足は、なんとりっぱでしょう。」
16 しかし、すべての人が福音に従ったのではありません。「主よ。だれが私
たちの知らせを信じましたか。」とイザヤは言っています。 17 そのように、信
仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによる
のです。 18 でも、こう尋ねましょう。「はたして彼らは聞こえなかったのでしょ
うか。」むろん、そうではありません。
「その声は全地に響き渡り、
そのことばは地の果てまで届いた。」
19 でも、私はこう言いましょう。「はたしてイスラエルは知らなかったので
しょうか。」まず、モーセがこう言っています。
「わたしは、民でない者のことで、
あなたがたのねたみを起こさせ、
無知な国民のことで、あなたがたを怒らせる。」
20 またイザヤは大胆にこう言っています。
「わたしは、わたしを求めない者に見いだされ、
わたしをたずねない者に自分を現わした。」
21 またイスラエルについては、こう言っています。
「不従順で反抗する民に対して、
わたしは一日中、手を差し伸べた。」

11

1 すると、神はご自分の民を退けてしまわれたのですか。絶対にそんなこと
はありません。この私もイスラエル人で、アブラハムの子孫に属し、ベニヤミ

ン族の出身です。 2 神は、あらかじめ知っておられたご自分の民を退けてしま
われたのではありません。それともあなたがたは、聖書がエリヤに関する個所
で言っていることを、知らないのですか。彼はイスラエルを神に訴えてこう言
いました。 3 「主よ。彼らはあなたの預言者たちを殺し、あなたの祭壇をこわ
し、私だけが残されました。彼らはいま私のいのちを取ろうとしています。」
4 ところが彼に対して何とお答えになりましたか。「バアルにひざをかがめて
いない男子七千人が、わたしのために残してある。」 5 それと同じように、今
も、恵みの選びによって残された者がいます。 6 もし恵みによるのであれば、
もはや行ないによるのではありません。もしそうでなかったら、恵みが恵みで
なくなります。 7 では、どうなるのでしょう。イスラエルは追い求めていたも
のを獲得できませんでした。選ばれた者は獲得しましたが、他の者は、かたく
なにされたのです。 8 こう書かれているとおりです。

「神は、彼らに鈍い心と
見えない目と聞こえない耳を与えられた。
今日に至るまで。」

9 ダビデもこう言います。

「彼らの食卓は、彼らにとって
わなとなり、網となり、
つまずきとなり、報いとなれ。
10 その目はくらんで見えなくなり、
その背はいつまでもかがんでおれ。」

11 では、尋ねましょう。彼らがつまずいたのは倒れるためなのでしょうか。
絶対にそんなことはありません。かえって、彼らの違反によって、救いが異邦
人に及んだのです。それは、イスラエルにねたみを起こさせるためです。 12 も
し彼らの違反が世界の富となり、彼らの失敗が異邦人の富となるのなら、彼
らの完成は、それ以上の、どんなにかすばらしいものを、もたらすことでしょ
う。 13 そこで、異邦人の方々に言いますが、私は異邦人の使徒ですから、自分
の務めを重んじています。 14 そして、それによって何とか私の同国人にねた
みを引き起こさせて、その中の幾人でも救おうと願っているのです。 15 もし彼
らの捨てられることが世界の和解であるとしたら、彼らの受け入れられるこ
は、死者の中から生き返ることでなくて何でしょう。 16 初物がきよければ、粉
の全部がきよいのです。根がきよければ、枝もきよいのです。 17 もしも、枝の
中のあるものが折られて、野生種のオリーブであるあなたがその枝に混じって
つがれ、そしてオリーブの根の豊かな養分をともに受けているのだとしたら、
18 あなたはその枝に対して誇ってはいけません。誇ったとしても、あなたが根
をささえているのではなく、根があなたをささえているのです。 19 枝が折られ
たのは、私がつぎ合わされるためだ、とあなたは言うでしょう。 20 そのとお
りです。彼らは不信仰によって折られ、あなたは信仰によって立っています。高
ぶらないで、かえって恐れなさい。 21 もし神が台木の枝を惜しまれなかったと
すれば、あなたをも惜しまれないでしょう。 22 見てごらんなさい。神のいつく
しみときびしさを。倒れた者の上にあるのは、きびしさです。あなたの上にあま
るのは、神のいつくしみです。ただし、あなたがそのいつくしみの中にとどま
っていればであって、そうでなければ、あなたも切り落とされるのです。 23 彼
らであっても、もし不信仰を続けなければ、つぎ合わされるのです。神は、彼
らを再びつぎ合わすことができるのです。 24 もしあなたが、野生種であるオリ
ーブの木から切り取られ、もとの性質に反して、栽培されたオリーブの木につ
がれたのであれば、これらの栽培種のものは、もっとたやすく自分の台木につ
がれるはずです。

25 兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていていただきたい。
それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためで
す。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成
のなる時までであり、 26 こうして、イスラエルはみな救われる、ということで
す。こう書かれているとおりです。

「救う者がシオンから出て、
ヤコブから不敬虔を取り払う。
27 これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。
それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」

28 彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者です
が、選びによれば、先祖たちのゆえに、愛されている者なのです。 29 神の賜
物と召命とは変わることがありません。 30 ちょうどあなたがたが、かつては
神に不従順であったが、今は、彼らの不従順のゆえに、あわれみを受けてい

るのと同様に、 31 彼らも、今は不従順になっていますが、それは、あなたが
たの受けたあわれみによって、今や、彼ら自身もあわれみを受けるためなの
です。 32 なぜなら、神は、すべての人をあわれもうとして、すべての人を不
従順のうちに閉じ込められたからです。
33 ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。 34 なぜなら、だれが主のみこころを知ったのですか。また、だれが主のご計画にあずかったのですか。 35 また、だれが、まず主に与えて報いを受けるのですか。 36 というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

12

1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、きよい、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。
2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。
3 私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思うべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおのおのに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。 4 一つのからだには多くの器官があって、すべての器官が同じ働きはしないのと同じように、 5 大ぜいいる私たちも、キリストにあって一つのからだであり、ひとりひとり互いに器官なのです。 6 私たちは、与えられた恵みに従って、異なった賜物を持っているので、もしそれが預言であれば、その信仰に応じて預言しなさい。 7 奉仕であれば奉仕し、教える人であれば教えなさい。 8 勧めをする人であれば勧め、分け与える人は惜しまずに分け与え、指導する人は熱心に指導し、慈善を行なう人は喜んでそれをしなさい。
9 愛には偽りがあってはなりません。悪を憎み、善に親しみなさい。 10 兄弟愛をもって心から互いに愛し合い、尊敬をもって互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。 11 勤勉で怠らず、霊に燃え、主に仕えなさい。 12 望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。 13 聖徒の入用に協力し、旅人をもてなしなさい。 14 あなたがたを迫害する者を祝福しなさい。祝福すべきであって、のろってはいけません。 15 喜ぶ者といっしょに喜び、泣く者といっしょに泣きなさい。 16 互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思ってはいけません。
17 だれに対しても、悪に悪を報いることをせず、すべての人が良いと思うことを図りなさい。 18 あなたがたは、自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい。 19 愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」 20 もしあなたの敵が飢えたなら、彼に食べさせなさい。渇いたなら、飲ませなさい。そうすることによって、あなたは彼の頭に燃える炭火を積むことになるのです。 21 悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。

13

1 人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられたものです。 2 したがって、権威に逆らっている人は、神の定めにそむいているのです。そむいた人は自分の身にさばきを招きます。 3 支配者を恐ろしいと思うのは、良い行ないをするときではなく、悪を行なうときです。権威を恐れたくないと思うなら、善を行ないなさい。そうすれば、支配者からほめられます。 4 それは、彼があなたに益を与えるための、神のしもべだからです。しかし、もしあなたが悪を行なうなら、恐れなければなりません。彼は無意味に剣を帯びてはいないからです。彼は神のしもべであって、悪を行なう人には怒りをもって報います。 5 ですから、ただ怒りが恐ろしいからだけでなく、良心のためにも、従うべきです。 6 同じ理由で、あなたがたは、みつぎを納めるのです。彼らは、いつもその務めに励んでいる神のしもべなのです。 7 あなたがたは、だれにでも義務を果たしなさい。みつぎを納めなければならない人にはみつぎを納め、税を納めなければならない人には税を納め、恐れなければならない人を恐れ、敬わなければならない人を敬いなさい。

8 だれに対しても、何の借りもあってはいけません。ただし、互いに愛し合
うことについては別です。他の人を愛する者は、律法を完全に守っているので
す。 9 「姦淫するな、殺すな、盗むな、むさぼるな。」という戒め、またほか
にどんな戒めがあっても、それらは、「あなたの隣人をあなた自身のように愛
せよ。」ということばの中に要約されているからです。 10 愛は隣人に対して害
を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。
11 あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行
ないなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。という
のは、私たちが信じたころよりも、今は救いが私たちにもっと近づいているか
らです。 12 夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざ
を打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。 13 遊興、酩酊、淫乱、
好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方をしようでは
ありませんか。 14 主イエス・キリストを着なさい。肉の欲のために心を用いて
はいけません。

14

1 あなたがたは信仰の弱い人を受け入れなさい。その意見をさばいてはいけま
せん。 2 何でも食べてよいと信じている人もいますが、弱い人は野菜よりほか
には食べません。 3 食べる人は食べない人を侮ってはいけないし、食べない人も
食べる人をさばいてはいけません。神がその人を受け入れてくださったからで
す。 4 あなたはいったいだれなので、他人のしもべをさばくのですか。しもべ
が立つのも倒れるのも、その主人の心次第です。このしもべは立つのです。な
ぜなら、主には、彼を立たせることができるからです。 5 ある日を、他の日に
比べて、大事だと考える人もいますが、どの日も同じだと考える人もいます。
それぞれ自分の心の中で確信を持ちなさい。 6 日を守る人は、主のために守っ
ています。食べる人は、主のために食べています。なぜなら、神に感謝してい
るからです。食べない人も、主のために食べないのであって、神に感謝してい
るのです。 7 私たちの中でだれひとりとして、自分のために生きている者はな
く、また自分のために死ぬ者もありません。 8 もし生きるなら、主のために生
き、もし死ぬなら、主のために死ぬのです。ですから、生きるにしても、死ぬ
にしても、私たちは主のものです。 9 キリストは、死んだ人にとっても、生
きている人にとっても、その主となるために、死んで、また生きられたのです。
10 それなのに、なぜ、あなたは自分の兄弟をさばくのですか。また、自分の兄
弟を侮るのですか。私たちはみな、神のさばきの座に立つようになるのです。
11 次のように書かれているからです。
「主は言われる。わたしは生きている。
すべてのひざは、わたしの前にひざまずき、
すべての舌は、神をほめたたえる。」
12 こういうわけですから、私たちは、おのおの自分のことを神の御前に申し
開きすることになります。
13 ですから、私たちは、もはや互いにさばき合うことのないようにしましょ
う。いや、それ以上に、兄弟にとって妨げになるもの、つまずきになるものを
置かないように決心しなさい。 14 主イエスにあって、私が知り、また確信して
いることは、それ自体で汚れているものは何一つないということです。ただ、
これは汚れていると認める人にとっては、それは汚れたものなのです。 15 もや
し、食べ物のことで、あなたの兄弟が心を痛めているのなら、あなたはもはや
愛によって行動しているのではありません。キリストが代わりに死んでくださ
ったほどの人を、あなたの食べ物のことで、滅ぼさないでください。 16 ですか
ら、あなたがたが良いとしている事がらによって、そしられないようにしなさ
い。 17 なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜
びだからです。 18 このようにキリストに仕える人は、神に喜ばれ、また人々に
も認められるのです。 19 そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと
、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。 20 食べ物のことで
神のみわざを破壊してはいけません。すべての物はきよいのです。しかし、そ
れを食べて人につまずきを与えるような人のばあいは、悪いのです。 21 肉を食
べず、ぶどう酒を飲まず、そのほか兄弟のつまずきになることをしないのは良
いことなのです。 22 あなたの持っている信仰は、神の御前でそれを自分の信仰
として保ちなさい。自分が、良いと認めていることによって、さばかれない人
は幸福です。 23 しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。な
ぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、み
な罪です。

15

1 私たち力のある者は、力のない人たちの弱さをになうべきです。自分を喜
ばせるべきではありません。 2 私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳
を高め、その人の益となるようにすべきです。 3 キリストでさえ、ご自身を喜
ばせることはなさらなかったのです。むしろ、「あなたをそしる人々のそしり
は、わたしの上にふりかかった。」と書いてあるとおりです。 4 昔書かれたも
のは、すべて私たちを教えるために書かれたのです。それは、聖書の与える忍
耐と励ましによって、希望を持たせるためなのです。 5 どうか、忍耐と励まし
の神が、あなたがたを、キリスト・イエスにふさわしく、互いに同じ思いを持
つようにしてくださいますように。 6 それは、あなたがたが、心を一つにし、
声を合わせて、私たちの主イエス・キリストの父なる神をほめたたえるため
です。
7 こういうわけですから、キリストが神の栄光のために、私たちを受け入れて
くださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい。 8 私は言います。キ
リストは、神の真理を現わすために、割礼のある者のしもべとなられました。
それは先祖たちに与えられた約束を保証するためであり、 9 また異邦人も、あ
われみのゆえに、神をあがめるようになるためです。こう書かれているとおり
です。
「それゆえ、私は異邦人の中で、
あなたをほめたたえ、
あなたの御名をほめ歌おう。」
10 また、こうも言われています。
「異邦人よ。主の民とともに喜べ。」
11 さらにまた、
「すべての異邦人よ。主をほめよ。
もろもろの国民よ。主をたたえよ。」
12 さらにまた、イザヤがこう言っています。
「エッサイの根が起こる。
異邦人を治めるために立ち上がる方である。
異邦人はこの方に望みをかける。」
13 どうか、望みの神が、あなたがたを信仰によるすべての喜びと平和をもっ
て満たし、聖霊の力によって望みにあふれさせてくださいますように。
14 私の兄弟たちよ。あなたがた自身が善意にあふれ、すべての知恵に満た
され、また互いに訓戒し合うことができることを、この私は確信しています。
15 ただ私が所々、かなり大胆に書いたのは、あなたがたにもう一度思い起こし
てもらうためでした。 16 それも私が、異邦人のためにキリスト・イエスの仕
え人となるために、神から恵みをいただいているからです。私は神の福音をも
って、祭司の務めを果たしています。それは異邦人を、聖霊によってきよめら
れた、神に受け入れられる供え物とするためです。 17 それで、神に仕えること
に関して、私はキリスト・イエスにあって誇りを持っているのです。 18 私は、
キリストが異邦人を従順にならせるため、この私を用いて成し遂げてくださっ
たこと以外に、何かを話そうなどとはしません。キリストは、ことばと行ない
により、 19 また、しるしと不思議をなす力により、さらにまた、御霊の力に
よって、それを成し遂げてくださいました。その結果、私はエルサレムから始
めて、ずっと回ってイルリコに至るまで、キリストの福音をくまなく伝えまし
た。 20 このように、私は、他人の土台の上に建てないように、キリストの御名
がまだ語られていない所に福音を宣べ伝えることを切に求めたのです。 21 それ
は、こう書いてあるとおりです。
「彼のことを伝えられなかった人々が
見るようになり、
聞いたことのなかった人々が
悟るようになる。」

22 そういうわけで、私は、あなたがたのところに行くのを幾度も妨げられま
したが、 23 今は、もうこの地方には私の働くべき所がなくなりましたし、ま
た、イスパニヤに行くばあいは、あなたがたのところに立ち寄ることを多年希
望していましたので、 24 ――というのは、途中あなたがたに会い、まず、しば
らくの間あなたがたとともにいて心を満たされてから、あなたがたに送られ、
そこへ行きたいと望んでいるからです。―― 25 ですが、今は、聖徒たちに奉仕
するためにエルサレムへ行こうとしています。 26 それは、マケドニヤとアカヤ
では、喜んでエルサレムの聖徒たちの中の貧しい人たちのために醵金すること
にしたからです。 27 彼らは確かに喜んでそれをしたのですが、同時にまた、そ

の人々に対してはその義務があるのです。異邦人は霊的なことでは、その人々
からもらいものをしたのですから、物質的な物をもって彼らに奉仕すべきで
す。 28 それで、私はこのことを済ませ、彼らにこの実を確かに渡してから、あ
なたがたのところを通ってイスパニヤに行くことにします。 29 あなたがたのと
ころに行くときは、キリストの満ちあふれる祝福をもって行くことと信じて
います。
30 兄弟たち。私たちの主イエス・キリストによって、また、御霊の愛によっ
て切にお願いします。私のために、私とともに力を尽くして神に祈ってくださ
い。 31 私がユダヤにいる不信仰な人々から救い出され、またエルサレムに対す
る私の奉仕が聖徒たちに受け入れられるものとなりますように。 32 その結果と
して、神のみこころにより、喜びをもってあなたがたのところへ行き、あなた
がたの中で、ともにいこいを得ることができますように。 33 どうか、平和の神
が、あなたがたすべてとともにいてくださいますように。アーメン。

16

1 ケンクレヤにある教会の執事で、私たちの姉妹であるフィベを、あなたが
たに推薦します。 2 どうぞ、聖徒にふさわしいしかたで、主にあってこの人を
歓迎し、あなたがたの助けを必要とすることは、どんなことでも助けてあげて
ください。この人は、多くの人を助け、また私自身をも助けてくれた人です。
3 キリスト・イエスにあって私の同労者であるプリスカとアクラによろしく
伝えてください。 4 この人たちは、自分のいのちの危険を冒して私のいのちを
守ってくれたのです。この人たちには、私だけでなく、異邦人のすべての教会
も感謝しています。 5 またその家の教会によろしく伝えてください。私の愛す
るエパネトによろしく。この人はアジヤでキリストを信じた最初の人です。
6 あなたがたのために非常に労苦したマリヤによろしく。 7 私の同国人で私とい
っしょに投獄されたことのある、アンドロニコとユニアスにもよろしく。この
人々は使徒たちの間によく知られている人々で、また私より先にキリストにあ
るリストにあって私たちの同労者であるウルバノと、私の愛するスタキスとに
者となったのです。 8 主にあって私の愛するアムプリアトによろしく。 9 キよ
ろしく。 10 キリストにあって練達したアペレによろしく。アリストブロの家の
人たちによろしく。 11 私の同国人ヘロデオンによろしく。ナルキソの家の主に
あるる人たちによろしく。 12 主にあって労している、ツルパナとツルポサによろ
しく。主にあって非常に労苦した愛するペルシスによろしく。 13 主にあって選
ばれた人ルポスによろしく。また彼と私との母によろしく。 14 アスンクリト、
フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマスおよびその人たちといっしょにいる
兄弟たちによろしく。 15 フィロロゴとユリヤ、ネレオとその姉妹、オルンパお
よびその人たちといっしょにいるすべての聖徒たちによろしく。 16 あなたがた
はきよい口づけをもって互いのあいさつをかわしなさい。キリストの教会はみ
な、あなたがたによろしくと言っています。
17 兄弟たち。私はあなたがたに願います。あなたがたの学んだ教えにそむい
て、分裂とつまずきを引き起こす人たちを警戒してください。彼らから遠ざか
りなさい。 18 そういう人たちは、私たちの主キリストに仕えないで、自分の欲
に仕えているのです。彼らは、なめらかなことば、へつらいのことばをもって
純朴な人たちの心をだましているのです。 19 あなたがたの従順はすべての人に
知られているので、私はあなたがたのことを喜んでいます。しかし、私は、あ
なたがたが善にはさとく、悪にはうとくあってほしい、と望んでいます。 20 平
和の神は、すみやかに、あなたがたの足でサタンを踏み砕いてくださいます。
どうか、私たちの主イエスの恵みが、あなたがたとともにありますように。
21 私の同労者テモテが、あなたがたによろしくと言っています。また私の同
国人ルキオとヤソンとソシパテロがよろしくと言っています。 22 この手紙を
筆記した私、テルテオも、主にあってあなたがたにごあいさつ申し上げます。
23 私と全教会との家主であるガイオも、あなたがたによろしくと言っていま
す。市の収入役であるエラストと兄弟クワルトもよろしくと言っています。
24-26 私の福音とイエス・キリストの宣教によって、すなわち、世々にわたっ
て長い間隠されていたが、今や現われて、永遠の神の命令に従い、預言者た
ちの書によって、信仰の従順に導くためにあらゆる国の人々に知らされた奥義
の啓示によって、あなたがたを堅く立たせることができる方、 27 知恵に富む
唯一の神に、イエス・キリストによって、御栄えがとこしえまでありますよう
に。アーメン。

コリント人への手紙第一

1 神のみこころによってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、
兄弟ソステネから、2 コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエ
スキリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒
として召され、キリスト・イエスにあってきよめられた方々へ。主は私たちの
主であるとともに、そのすべての人々の主です。3 私たちの父なる神と主イエ
ス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。
4 私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえ
に、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。5 というのは、あなたが
たは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな
者とされたからです。6 それは、キリストについてのあかしが、あなたがたの
中で確かになったからで、7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けると
ころがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現われを待っていま
す。8 主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められると
ころのない者として、最後まで堅く保ってくださいます。9 神は真実であり、
その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリス
トとの交わりに入れられました。
10 さて、兄弟たち。私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、あ
なたがたにお願いします。どうか、みなが一致して、仲間割れすることなく、
同じ心、同じ判断を完全に保ってください。11 実はあなたがたのことをクロエ
の家の者から知らされました。兄弟たち。あなたがたの間には争いがあるそう
で、12 あなたがたはめいめいに、「私はパウロにつく。」「私はアポロに。」
「私はケパに。」「私はキリストにつく。」と言っているということです。
13 キリストが分割されたのですか。あなたがたのために十字架につけられたの
はパウロでしょうか。あなたがたがバプテスマを受けたのはパウロの名による
のでしょうか。14 私は、クリスポとガイオのほか、あなたがたのだれにもバプ
テスマを授けたことがないことを感謝しています。15 それは、あなたがたが私
の名によってバプテスマを受けたと言われないようにするためでした。16 私は
ステパナの家族にもバプテスマを授けましたが、そのほかはだれにも授けた覚
えはありません。17 キリストが私をお遣わしになったのは、バプテスマを授け
させるためではなく、福音を宣べ伝えさせるためです。それも、キリストの十
字架がむなしくならないために、ことばの知恵によってはならないのです。
18 十字架のことばは、滅びに至る人々には愚かであっても、救いを受ける私
たちには、神の力です。19 それは、こう書いてあるからです。
「わたしは知恵ある者の知恵を滅ぼし、
賢い者の賢さをむなしくする。」
20 知者はどこにいるのですか。学者はどこにいるのですか。この世の議論家
はどこにいるのですか。神は、この世の知恵を愚かなものにされたではあり
ませんか。21 事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、
神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの
愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。22 ユダヤ人はし
るしを要求し、ギリシヤ人は知恵を追求します。23 しかし、私たちは十字架
につけられたキリストを宣べ伝えるのです。ユダヤ人にとってはつまずき、
異邦人にとっては愚かでしょうが、24 しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ
人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なので
す。25 なぜなら、神の愚かさは人よりも賢く、神の弱さは人よりも強いから
です。
26 兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらんなさい。この世の知者
は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。27 し
かし神は、知恵ある者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い
者をはずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。28 また、この世
の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有
るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。29 これ
は、神の御前でだれをも誇らせないためです。30 しかしあなたがたは、神に
よってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、
神の知恵となり、また、義ときよめと、贖いとになられました。31 まさしく、
「誇る者は主にあって誇れ。」と書かれているとおりになるためです。

2

1 さて兄弟たち。私があなたがたのところへ行ったとき、私は、すぐれたことば、すぐれた知恵を用いて、神のあかしを宣べ伝えることはしませんでした。
2 なぜなら私は、あなたがたの間で、イエス・キリスト、すなわち十字架につけられた方のほかは、何も知らないことに決心したからです。 3 あなたがたといっしょにいたときの私は、弱く、恐れおののいていました。 4 そして、私のことばと私の宣教とは、説得力のある知恵のことばによって行なわれたものではなく、御霊と御力の現われでした。 5 それは、あなたがたの持つ信仰が、人間の知恵にささえられず、神の力にささえられるためでした。
6 しかし私たちは、成人の間で、知恵を語ります。この知恵は、この世の知恵でもなく、この世の過ぎ去って行く支配者たちの知恵でもありません。 7 私たちの語るのは、隠された奥義としての神の知恵であって、それは、神が、私たちの栄光のために、世界の始まる前から、あらかじめ定められたものです。
8 この知恵を、この世の支配者たちは、だれひとりとして悟りませんでした。もし悟っていたら、栄光の主を十字架につけはしなかったでしょう。 9 まさしく、聖書に書いてあるとおりです。

「目が見たことのないもの、
耳が聞いたことのないもの、
そして、人の心に思い浮かんだことのないもの。
神を愛する者のために、
神の備えてくださったものは、みなそうである。」

10 神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。 11 いったい、人の心のことは、その人のうちにある霊のほかに、だれが知っているでしょう。同じように、神のみこころのことは、神の御霊のほかにはだれも知りません。 12 ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜わったものを、私たちが知るためです。 13 この賜物について話すには、人の知恵に教えられたことばを用いず、御霊に教えられたことばを用います。その御霊のことばをもって御霊のことを解くのです。 14 生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわきまえるものだからです。 15 御霊を受けている人は、すべてのことをわきまえますが、自分はだれによってもわきまえられません。 16 いったい、「だれが主のみこころを知り、主を導くことができたか。」ところが、私たちには、キリストの心があるのです。

3

1 さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。 2 私はあなたがたには乳を与えて、堅い食物を与えませんでした。あなたがたには、まだ無理だったからです。実は、今でもまだ無理なのです。 3 あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているのではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるのではありませんか。 4 ある人が、「私はパウロにつく。」と言えば、別の人は、「私はアポロに。」と言う。そういうことでは、あなたがたは、ただの人たちではありませんか。 5 アポロとは何でしょう。パウロとは何でしょう。あなたがたが信仰にはいるために用いられたしもべであって、主がおのおのに授けられたとおりのことをしたのです。 6 私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。 7 それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。 8 植える者と水を注ぐ者は、一つですが、それぞれ自分自身の働きに従って自分自身の報酬を受けるのです。 9 私たちは神の協力者であり、あなたがたは神の畑、神の建物です。
10 与えられた神の恵みによって、私は賢い建築家のように、土台を据えました。そして、ほかの人がその上に家を建てています。しかし、どのように建てるかについてはそれぞれが注意しなければなりません。 11 というのは、だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。 12 もし、だれかがこの土台の上に、金、銀、宝石、木、草、わらなどで建てるなら、 13 各人の働きは明瞭になります。その日がそれを明らかにするのです。というのは、その日は火とともに現われ、この火がその力で各人の働きの真価をためすからです。 14 もしだれ

かの建てた建物が残れば、その人は報いを受けます。 15 もしだれかの建てた建
物が焼ければ、その人は損害を受けますが、自分自身は、火の中をくぐるよう
にして助かります。
16 あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられるこ
とを知らないのですか。 17 もし、だれかが神の神殿をこわすなら、神がその人
を滅ぼされます。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたがその神殿で
す。
18 だれも自分を欺いてはいけません。もしあなたがたの中で、自分は今の世
の知者だと思う者がいたら、知者になるためには愚かになりなさい。 19 なぜ
なら、この世の知恵は、神の御前では愚かだからです。こう書いてあります。
「神は、知者どもを彼らの悪賢さの中で捕える。」 20 また、次のようにも書い
てあります。「主は、知者の論議を無益だと知っておられる。」 21 ですから、
だれも人間を誇ってはいけません。すべては、あなたがたのものです。 22 パ
ウロであれ、アポロであれ、ケパであれ、また世界であれ、いのちであれ、死
であれ、また現在のものであれ、未来のものであれ、すべてあなたがたのもの
です。 23 そして、あなたがたはキリストのものであり、キリストは神のもの
です。

4

1 こういうわけで、私たちを、キリストのしもべ、また神の奥義の管理者だと
考えなさい。 2 このばあい、管理者には、忠実であることが要求されます。 3 し
かし、私にとっては、あなたがたによる判定、あるいは、およそ人間による判
決を受けることは、非常に小さなことです。事実、私は自分で自分をさばくこ
とさえしません。 4 私にはやましいことは少しもありませんが、だからといっ
て、それで無罪とされるのではありません。私をさばく方は主です。 5 ですか
ら、あなたがたは、主が来られるまでは、何についても、先走ったさばきをし
てはいけません。主は、やみの中に隠れた事も明るみに出し、心の中のはかり
ごとも明らかにされます。そのとき、神から各人に対する称賛が届くのです。
6 さて、兄弟たち。以上、私は、私自身とアポロに当てはめて、あなたがた
のために言って来ました。それは、あなたがたが、私たちの例によって、「書
かれていることを越えない。」ことを学ぶため、そして、一方にくみし、他方
に反対して高慢にならないためです。 7 いったいだれが、あなたをすぐれた者
と認めるのですか。あなたには、何か、もらったものでないものがあるので
ですか。もしもらったのなら、なぜ、もらっていないかのように誇るのですか。
8 あなたがたは、もう満ち足りています。もう豊かになっています。私たち抜き
で、王さまになっています。いっそのこと、あなたがたがほんとうに王さまに
なっていたらよかったのです。そうすれば、私たちも、あなたがたといっしょ
に王になれたでしょうに。 9 私は、こう思います。神は私たち使徒を、死罪に
決まった者のように、行列のしんがりとして引き出されました。こうして私た
ちは、御使いにも人々にも、この世の見せ物になったのです。 10 私たちはキリ
ストのために愚かな者ですが、あなたがたはキリストにあって賢い者です。私
たちは弱いが、あなたがたは強いのです。あなたがたは栄誉を持っているが、
私たちは卑しめられています。 11 今に至るまで、私たちは飢え、渇き、着る物
もなく、虐待され、落ち着く先もありません。 12 また、私たちは苦労して自分
の手で働いています。はずかしめられるときにも祝福し、迫害されるときに
耐え忍び、 13 ののしられるときには、慰めのことばをかけます。今でも、私た
ちはこの世のちり、あらゆるもののかすです。
14 私がこう書くのは、あなたがたをはずかしめるためではなく、愛する私の
子どもとして、さとすためです。 15 たとえあなたがたに、キリストにある養育
係が一万人あろうとも、父は多くあるはずがありません。この私が福音によっ
て、キリスト・イエスにあって、あなたがたを生んだのです。 16 ですから、私
はあなたがたに勧めます。どうか、私にならう者となってください。 17 その た
めに、私はあなたがたのところへテモテを送りました。テモテは主にあって私
の愛する、忠実な子です。彼は、私が至る所のすべての教会で教えているとお
りに、キリスト・イエスにある私の生き方を、あなたがたに思い起こさせてく
れるでしょう。 18 私があなたがたのところへ行くことはあるまいと、思い上
がっている人たちがいます。 19 しかし、主のみこころであれば、すぐにもあな
たがたのところへ行きます。そして、思い上がっている人たちの、ことばでは
なく、力を見せてもらいましょう。 20 神の国はことばにはなく、力にあるので
す。 21 あなたがたはどちらを望むのですか。私はあなたがたのところへむちを
持って行きましょうか。それとも、愛と優しい心で行きましょうか。

5

1 あなたがたの間に不品行があるということが言われています。しかもそれ
は、異邦人の中にもないほどの不品行で、父の妻を妻にしている者がいるとの
ことです。 2 それなのに、あなたがたは誇り高ぶっています。そればかりか、
そのような行ないをしている者をあなたがたの中から取り除こうとして悲しむ
こともなかったのです。 3 私のほうでは、からだはそこにいなくても心はそこに
おり、現にそこにいるのと同じように、そのような行ないをした者を主イエス
の御名によってすでにさばきました。 4 あなたがたが集まったときに、私も、
霊においてともにおり、私たちの主イエスの権能をもって、 5 このような者を
サタンに引き渡したのです。それは彼の肉が滅ぼされるためですが、そうにより
て彼の霊が主の日に救われるためです。 6 あなたがたの高慢は、よくないこと
です。あなたがたは、ほんのわずかのパン種が、粉のかたまり全体をふくら
ませることを知らないのですか。 7 新しい粉のかたまりのままでいるために、
古いパン種を取り除きなさい。あなたがたはパン種のないものだからです。私
たちの過越の小羊キリストが、すでにほふられたからです。 8 ですから、私た
ちは、古いパン種を用いたり、悪意と不正のパン種を用いたりしないで、パン
種のはいらない、純粋で真実なパンで、祭りをしようではありませんか。
9 私は前にあなたがたに送った手紙で、不品行な者たちと交際しないように
と書きました。 10 それは、世の中の不品行な者、貪欲な者、略奪する者、偶像
を礼拝する者と全然交際しないようにという意味ではありません。もしそうだ
としたら、この世界から出て行かなければならないでしょう。 11 私が書いた
ことのほんとうの意味は、もし、兄弟と呼ばれる者で、しかも不品行な者、貪
欲な者、偶像を礼拝する者、人をそしる者、酒に酔う者、略奪する者がいたな
ら、そのような者とはつきあってはいけない、いっしょに食事をしてもいけな
い、ということです。 12 外部の人たちをさばくことは、私のすべきことでしょ
うか。あなたがたがさばくべき者は、内部の人たちではありませんか。 13 外部
の人たちは、神がおさばきになります。その悪い人をあなたがたの中から除き
なさい。

6

1 あなたがたの中には、仲間の者と争いを起こしたとき、それを聖徒たちに
訴えないで、あえて、正しくない人たちに訴え出るような人がいるのでしょ
うか。 2 あなたがたは、聖徒が世界をさばくようになることを知らないのですか。
世界があなたがたによってさばかれるはずなのに、あなたがたは、ごく小さな
事件さえもさばく力がないのですか。 3 私たちは御使いをもさばくべき者だ、
ということを、知らないのですか。それならこの世のことは、言うまでもない
ではありませんか。 4 それなのに、この世のことで争いが起こると、教会のう
ちでは無視される人たちを裁判官に選ぶのですか。 5 私はあなたがたをはずかし
めるためにこう言っているのです。いったい、あなたがたの中には、兄弟の間
の争いを仲裁することのできるような賢い者が、ひとりもいないのですか。 6 そ
れで、兄弟は兄弟を告訴し、しかもそれを不信者の前でするのですか。 7 そも
そも、互いに訴え合うことが、すでにあなたがたの敗北です。なぜ、むしろ不
正をも甘んじて受けないのですか。なぜ、むしろだまされていないのですか。
8 ところが、それどころか、あなたがたは、不正を行なう、だまし取る、しかも
そのようなことを兄弟に対してしているのです。 9 あなたがたは、正しくない
者は神の国を相続できないことを、知らないのですか。だまされてはいけませ
ん。不品行な者、偶像を礼拝する者、姦淫をする者、男娼となる者、男色をす
る者、 10 盗む者、貪欲な者、酒に酔う者、そしる者、略奪する者はみな、神の
国を相続することができません。 11 あなたがたの中のある人たちは以前はそのの
ような者でした。しかし、主イエス・キリストの御名と私たちの神の御霊によ
って、あなたがたは洗われ、きよい者とされ、義と認められたのです。
12 すべてのことが私には許されたことです。しかし、すべてが益になるわけ
ではありません。私にはすべてのことが許されています。しかし、私はどんな
ことにも支配されはしません。 13 食物は腹のためにあり、腹は食物のために
あります。ところが神は、そのどちらをも滅ぼされます。からだは不品行のた
めにあるのではなく、主のためであり、主はからだのためです。 14 神は主をよ
みがえらせましたが、その御力によって私たちをもよみがえらせてくださいま
す。 15 あなたがたのからだはキリストのからだの一部であることを、知らな
いのですか。キリストのからだを取って遊女のからだとするのですか。そんな
ことは絶対に許されません。 16 遊女と交われば、一つからだになることを知ら
ないのですか。「ふたりの者は一心同体となる。」と言われているからです。
17 しかし、主と交われば、一つ霊となるのです。 18 不品行を避けなさい。人が

犯す罪はすべて、からだの外のものです。しかし、不品行を行なう者は、自分
のからだに対して罪を犯すのです。 19 あなたがたのからだは、あなたがたの
うちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自
身のものではないことを、知らないのですか。 20 あなたがたは、代価を払って
買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさ
い。

7

1 さて、あなたがたの手紙に書いてあったことについてですが、男が女に触
れないのは良いことです。 2 しかし、不品行を避けるため、男はそれぞれ自分
の妻を持ち、女もそれぞれ自分の夫を持ちなさい。 3 夫は自分の妻に対して義
務を果たし、同様に妻も自分の夫に対して義務を果たしなさい。 4 妻は自分の
からだに関する権利を持ってはおらず、それは夫のものです。同様に夫も自分
のからだについての権利を持ってはおらず、それは妻のものです。 5 互いの権
利を奪い取ってはいけません。ただし、祈りに専心するために、合意の上でし
ばらく離れていて、また再びいっしょになるというのならかまいません。あな
たがたが自制力を欠くとき、サタンの誘惑にかからないためです。 6 以上、私
の言うところは、容認であって、命令ではありません。 7 私の願うところは、
すべての人が私のようであることです。しかし、ひとりひとり神から与えられ
たそれぞれの賜物を持っているので、人それぞれに行き方があります。
8 次に、結婚していない男とやもめの女に言いますが、私のようにしていられ
るなら、それがよいのです。 9 しかし、もし自制することができなければ、結婚
しなさい。情の燃えるよりは、結婚するほうがよいからです。 10 次に、すでに
結婚した人々に命じます。命じるのは、私ではなく主です。妻は夫と別れては
いけません。 11 ――もし別れたのだったら、結婚せずにいるか、それとも夫と
和解するか、どちらかにしなさい。――また夫は妻を離別してはいけません。
12 次に、そのほかの人々に言いますが、これを言うのは主ではなく、私です。
信者の男子に信者でない妻があり、その妻がいっしょにいることを承知して
いるばあいは、離婚してはいけません。 13 また、信者でない夫を持つ女は、夫が
いっしょにいることを承知しているばあいは、離婚してはいけません。 14 なぜ
なら、信者でない夫は妻によってきよめられており、また、信者でない妻も
信者の夫によってきよめられているからです。そうでなかったら、あなたが
たの子どもは汚れているわけです。ところが、現にきよいのです。 15 しかし、も
し信者でないほうの者が離れて行くのであれば、離れて行かせなさい。その
ようなばあいには、信者である夫あるいは妻は、縛られることはありません。神
は、平和を得させようとしてあなたがたを召されたのです。 16 なぜなら、妻
よ。あなたが夫を救えるかどうかが、どうしてわかりますか。また、夫よ。あ
なたが妻を救えるかどうかが、どうしてわかりますか。
17 ただ、おのおのが、主からいただいた分に応じ、また神がおのおのをお召
しになったときのままの状態で歩むべきです。私は、すべての教会で、このよ
うに指導しています。 18 召されたとき割礼を受けていたのなら、その跡をな く
してはいけません。また、召されたとき割礼を受けていなかったのなら、割礼
を受けてはいけません。 19 割礼は取るに足らぬこと、無割礼も取るに足らぬこ
とです。重要なのは神の命令を守ることです。 20 おのおの自分が召されたとき
の状態にとどまっていなさい。 21 奴隷の状態で召されたのなら、それを気にし
てはいけません。しかし、もし自由の身になれるなら、むしろ自由になりなさ
い。 22 奴隷も、主にあって召された者は、主に属する自由人であり、同じよう
に、自由人も、召された者はキリストに属する奴隷だからです。 23 あなたがた
は、代価をもって買われたのです。人間の奴隷となってはいけません。 24 兄弟
たち。おのおの召されたときのままの状態で、神の御前にいなさい。
25 処女のことについて、私は主の命令を受けてはいませんが、主のあわれみ
によって信頼できる者として、意見を述べます。 26 現在の危急のときには、男
はそのままの状態にとどまるのがよいと思います。 27 あなたが妻に結ばれて い
る なら、解かれたいと考えてはいけません。妻に結ばれていないのなら、妻を
得たいと思ってはいけません。 28 しかし、たとえあなたが結婚したからといっ
て、罪を犯すのではありません。たとえ処女が結婚したからといって、罪を犯
すのではありません。ただ、それらの人々は、その身に苦難を招くでしょう。
私はあなたがたを、そのようなめに会わせたくないのです。 29 兄弟たちよ。
私は次のことを言いたいのです。時は縮まっています。今からは、妻のある者
は、妻のない者のようにしていなさい。 30 泣く者は泣かない者のように、喜ぶ
者は喜ばない者のように、買う者は所有しない者のようにしていなさい。 31 世
の富を用いる者は用いすぎないようにしなさい。この世の有様は過ぎ去るから

です。 32 あなたがたが思い煩わないことを私は望んでいます。独身の男は、
どうしたら主に喜ばれるかと、主のことに心を配ります。 33 しかし、結婚した
男は、どうしたら妻に喜ばれるかと世のことに心を配り、 34 心が分かれるの
です。独身の女や処女は、身もたましいもきよくなるため、主のことに心を配
りますが、結婚した女は、どうしたら夫に喜ばれるかと、世のことに心を配り
ます。 35 ですが、私がこう言っているのは、あなたがた自身の益のためであっ
て、あなたがたを束縛しようとしているのではありません。むしろあなたがた
が秩序ある生活を送って、ひたすら主に奉仕できるためなのです。
36 もし、処女である自分の娘の婚期も過ぎようとしていて、そのままでは、
娘に対しての扱い方が正しくないと思い、またやむをえないことがあるならば、その人は、その心のままにしなさい。罪を犯すわけではありません。彼らに結婚させなさい。 37 しかし、もし心のうちに堅く決意しており、ほかに強いられる事情もなく、また自分の思うとおりに行なうことのできる人が、処女である自分の娘をそのままにしておくのなら、そのことはりっぱです。 38 ですから、処女である自分の娘を結婚させる人は良いことをしているのであり、また結婚させない人は、もっと良いことをしているのです。
39 妻は夫が生きている間は夫に縛られています。しかし、もし夫が死んだなら、自分の願う人と結婚する自由があります。ただ主にあってのみ、そうなのです。 40 私の意見では、もしそのままにしていられたら、そのほうがもっと幸いです。私も、神の御霊をいただいていると思います。

8

1 次に、偶像にささげた肉についてですが、私たちはみな知識を持っている
ということなら、わかっています。しかし、知識は人を高ぶらせ、愛は人の徳
を建てます。 2 人がもし、何かを知っていると思ったら、その人はまだ知らな
ければならないほどのことも知ってはいないのです。 3 しかし、人が神を愛す
るなら、その人は神に知られているのです。 4 そういうわけで、偶像にささげ
た肉を食べることについてですが、私たちは、世の偶像の神は実際にはないも
のであること、また、唯一の神以外には神は存在しないことを知っています。
5 なるほど、多くの神や、多くの主があるので、神々と呼ばれるものならば、天
にも地にもありますが、 6 私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、す
べてのものはこの神から出ており、私たちもこの神のために存在しているので
す。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、すべてのものは
この主によって存在し、私たちもこの主によって存在するのです。
7 しかし、すべての人にこの知識があるのではありません。ある人たちは、今
までの偶像になじんで来たため偶像にささげた肉として食べ、それで彼らのそ
のように弱い良心が汚れるのです。 8 しかし、私たちを神に近づけるのは食物で
はありません。食べなくても損にはならないし、食べても益にはなりません。
9 ただ、あなたがたのこの権利が、弱い人たちのつまずきとならないように、
気をつけなさい。 10 知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのをだれか
が見たら、それによって力を得て、その人の良心は弱いのに、偶像の神にささ
げた肉を食べるようなことにならないでしょうか。 11 その弱い人は、あなたの
知識によって、滅びることになるのです。キリストはその兄弟のためにも死ん
でくださったのです。 12 あなたがたはこのように兄弟たちに対して罪を犯し、
彼らの弱い良心を踏みにじるとき、キリストに対して罪を犯しているのです。
13 ですから、もし食物が私の兄弟をつまずかせるなら、私は今後いっさい肉を
食べません。それは、私の兄弟につまずきを与えないためです。

9

1 私には自由がないでしょうか。私は使徒ではないのでしょうか。私は私たち
の主イエスを見たのではないでしょうか。あなたがたは、主にあって私の働き
の実ではありませんか。 2 たとい私がほかの人々に対しては使徒でなくても、
少なくともあなたがたに対しては使徒です。あなたがたは、主にあって、私が
使徒であることの証印です。
3 私をさばく人たちに対して、私は次のように弁明します。 4 いったい私た
ちには飲み食いする権利がないのでしょうか。 5 私たちには、ほかの使徒、主
の兄弟たち、ケパなどと違って、信者である妻を連れて歩く権利がないのでし
ょうか。 6 それともまた、私とバルナバだけには、生活のための働きをやめる
権利がないのでしょうか。 7 いったい自分の費用で兵士になる者がいるでしょ
うか。自分でぶどう園を造りながら、その実を食べない者がいるでしょうか。
羊の群れを飼いながら、その乳を飲まない者がいるでしょうか。 8 私がこんな
ことを言うのは、人間の考えによって言っているのでしょうか。律法も同じこ

とを言っているではありませんか。 9 モーセの律法には、「穀物をこなしてい
るる牛に、くつこを掛けてはいけない。」と書いてあります。いったい神は、牛
のことを気にかけておられるのでしょうか。 10 それとも、もっぱら私たちの
ために、こう言っておられるのでしょうか。むろん、私たちのためにこう書い
てあるのです。なぜなら、耕す者が望みを持って耕し、脱穀する者が分配を受
ける望みを持って仕事をするのは当然だからです。 11 もし私たちが、あなたが
たに御霊のものを蒔いたのであれば、あなたがたから物質的なものを刈り取る
ことは行き過ぎでしょうか。 12 もし、ほかの人々が、あなたがたに対する権利
にあずかっているのなら、私たちはなおさらその権利を用いてよいはずではあ
りませんか。それなのに、私たちはこの権利を用いませんでした。かえって、
すべてのことについて耐え忍んでいます。それは、キリストの福音に少しの妨
げも与えまいとしてなのです。 13 あなたがたは、宮に奉仕している者が宮の物
を食べ、祭壇に仕える者が祭壇の物にあずかることを知らないのですか。 14 同
じように、主も、福音を宣べ伝える者が、福音の働きから生活のささえを得る
ように定めておられます。 15 しかし、私はこれらの権利を一つも用いませんで
した。また、私は自分がそうされたくてこのように書いているのでもありま
せん。私は自分の誇りをだれかに奪われるよりは、死んだほうがましだからです。 16 というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません。そのことは、私がどうしても、しなければならないことだからです。も し福音を宣べ伝えなかったら、私はわざわいに会います。 17 もし私がこれを自発的にしているのなら、報いがありましょう。しかし、強いられたにしても、私には務めがゆだねられているのです。 18 では、私にどんな報いがあるのでしょう。それは、福音を宣べ伝えるときに報酬を求めないで与え、福音の働きによって持つ自分の権利を十分に用いないことなのです。

19 私はだれに対しても自由ですが、より多くの人を獲得するために、すべての人の奴隷となりました。 20 ユダヤ人にはユダヤ人のようになりました。それはユダヤ人を獲得するためです。律法の下にある人々には、私自身は律法の下にはいませんが、律法の下にある者のようになりました。それは律法の下にある人々を獲得するためです。 21 律法を持たない人々に対しては、――私は神の律法の外にある者ではなく、キリストの律法を守る者ですが、――律法を持たない者のようになりました。それは律法を持たない人々を獲得するためです。 22 弱い人々には、弱い者になりました。弱い人々を獲得するためです。すべての人に、すべてのものとなりました。それは、何とかして、幾人かでも救うためです。 23 私はすべてのことを、福音のためにしています。それは、私も福音の恵みをともに受ける者となるためなのです。

24 競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。 25 また闘技をする者は、あらゆることについて自制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受ける ためにそうするのです。 26 ですから、私は決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。空を打つような拳闘もしてはいません。 27 私は自分のからだを打ちたたいて従わせます。それは、私がほかの人に宣べ伝えておきながら、自分自身が失格者になるようなことのないためです。

10

1 そこで、兄弟たち。私はあなたがたにぜひ次のことを知ってもらいたいのです。私たちの先祖はみな、雲の下におり、みな海を通って行きました。 2 そしてみな、雲と海とで、モーセにつくバプテスマを受け、 3 みな同じ御霊の食べ物を食べ、 4 みな同じ御霊の飲み物を飲みました。というのは、彼らについて来た御霊の岩から飲んだからです。その岩とはキリストです。 5 にもかかわらず、彼らの大部分は神のみこころにかなわず、荒野で滅ぼされました。 6 これらのことが起こったのは、私たちへの戒めのためです。それは、彼らがむさぼったように私たちが悪をむさぼることのないためです。 7 あなたがたは、彼らの中のある人たちにならって、偶像崇拝者となってはいけません。聖書には、「民が、すわっては飲み食いし、立っては踊った。」と書いてあります。 8 また、私たちは、彼らのある人たちが姦淫をしたのにならって姦淫をすることはないようにしましょう。彼らは姦淫のゆえに一日に二万三千人死にました。 9 私たちは、さらに、彼らの中のある人たちが主を試みたのにならって主を試みることはないようにしましょう。彼らは蛇に滅ぼされました。 10 また、彼らの中のある人たちがつぶやいたのにならってつぶやいてはいけません。彼らは滅ぼす者に滅ぼされました。 11 これらのことが彼らに起こったのは、戒めのためであり、それが書かれたのは、世の終わりに臨んでいる私たちへの教訓とす

るためです。 12 ですから、立っていると思う者は、倒れないように気をつけな
さい。 13 あなたがたの会った試練はみな人の知らないようなものではありませ
ん。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に
会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試
練とともに、脱出の道も備えてくださいます。
14 ですから、私の愛する者たちよ。偶像礼拝を避けなさい。 15 私は賢い人た
ちに話すように話します。ですから私の言うことを判断してください。 16 私た
ちがの祝福する祝福の杯は、キリストの血にあずかることではありませんか。私
たちの裂くパンは、キリストのからだにあずかることではありませんか。 17 パ
ンは一つですから、私たちは、多数であっても、一つのからだです。それは、
みな者がみなさいうのパンを食べるからです。 18 肉によるでスラエルのこと
を考えてみなさいうとなる。供え物を食べる者は、祭壇にあずかるではありませんか。
19 私は何を言おうとしているのでしょう。偶像の神にさうさとしてげた肉に、何か意味
がある、偶像の神に真実な意味があるとか、言お霊とさげられるのでしょう
か。 20 いや、彼らのささげる物は、神にでは悪霊に交わる者にすなっても
とあります。私は、あなたがたに悪霊と交わるなくていたく
あります。 21 あなたがたが主の杯を飲んだうえ、さらに悪霊の杯を飲むことは
、できないことです。主の食卓にあずかったうえ、さらに悪霊の食卓にあず
かることはできないことです。 22 それとも、私たちは主のねたみを引き起こ
うとするのですか。まさか、私たちが主よりも強いことはないでしょう。
23 すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが有益とはか
ぎりません。すべてのことは、してもよいのです。しかし、すべてのことが徳
を高めるとはかぎりません。 24 だれでも、自分の利益を求めないで、他人の利
益を心がけなさい。 25 市場に売っている肉は、良心の問題として調べ上げる
ことはしないで、どれでも食べなさい。 26 地とそれに満ちているものは、主の
ものだからです。 27 もし、あなたがたが信仰のない者に招待されて、行きたい
と思うときは、良心の問題として調べ上げることはしないで、自分の前に置か
れる物はどれでも食べなさい。 28 しかし、もしだれかが、「これは偶像にさ
げた肉です。」とあなたがたに言うなら、そう知らせた人のために、また良心
のために、食べてはいけません。 29 私が良心と言うのは、あなたの良心ではな
く、ほかの人の良心です。私の自由が、他の人の良心によってさばかれるわけ
があるでしょうか。 30 もし、私が神に感謝をささげて食べるなら、私が感謝す
る物のために、そしられるわけがあるでしょうか。 31 こういうわけで、あなた
がたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現わすために
しなさい。 32 ユダヤ人にも、ギリシヤ人にも、神の教会にも、つまずきを与え
ないようにしなさい。 33 私も、人々が救われるために、自分の利益を求めず、
多くの人の利益を求め、どんなことでも、みなの人を喜ばせているのですか
ら。

11

1 私がキリストを見ならっているように、あなたがたも私を見ならってください。
2 さて、あなたがたは、何かにつけて私を覚え、また、私があなたがたに伝え
たものを、伝えられたとおりに堅く守っているので、私はあなたがたをほめた
いと思います。 3 しかし、あなたがたに次のことを知っていただきたいのです。
すべての男のかしらはキリストであり、女のかしらは男であり、キリストのか
しらは神です。 4 男が、祈りや預言をするとき、頭にかぶり物を着けていたら、
自分の頭をはずかしめることになります。 5 しかし、女が、祈りや預言をする
とき、頭にかぶり物を着けていなかったら、自分の頭をはずかしめることにな
ります。それは髪をそっているのと全く同じことだからです。 6 女がかぶり物
を着けないのなら、髪も切ってしまいなさい。髪を切り、頭をそることが女と
して恥ずかしいことなら、かぶり物を着けなさい。 7 男はかぶり物を着ける べ
きではありません。男は神の似姿であり、神の栄光の現われだからです。女は
男の栄光の現われです。 8 なぜなら、男は女をもとにして造られたのではなく
て、女が男をもとにして造られたのであり、 9 また、男は女のために造られた
のではなく、女が男のために造られたのだからです。 10 ですから、女は頭に権
威のしるしをかぶるべきです。それも御使いたちのためにです。 11 とはいえ、
主にあっては、女は男を離れてあるものではなく、男も女を離れてあるもので
はありません。 12 女が男をもとにして造られたように、同様に、男も女によっ
て生まれるのだからです。しかし、すべては神から発しています。 13 あなたが
たは自分自身で判断しなさい。女が頭に何もかぶらないで神に祈るのは、ふさ
わしいことでしょうか。 14 自然自体が、あなたがたにこう教えていないでしょ

うか。男が長い髪をしていたら、それは男として恥ずかしいことであり、15女
が長い髪をしていたら、それは女の光栄であるということです。なぜなら、髪
はかぶり物として女に与えられているからです。16たとい、このことに異議を
唱えたがる人がいても、私たちにはそのような習慣はないし、神の諸教会にも
ありません。
17ところで、聞いていただくことがあります。私はあなたがたをほめません。あなたがたの集まりが益にならないで、かえって害になっているからです。18まず第一に、あなたがたが教会の集まりをするとき、あなたがたの間には分裂があると聞いています。ある程度は、それを信じます。19というのは、あなたがたの中でほんとうの信者が明らかにされるためには、分派が起こるのもやむをえないからです。20しかし、そういうわけで、あなたがたはいっしょに集まっても、それは主の晩餐を食べるためではありません。21食事のとき、めいめい我先にと自分の食事を済ませるので、空腹な者もおれば、酔っている者もいるというしまつです。22飲食のためなら、自分の家があるでしょう。それとも、あなたがたは、神の教会を軽んじ、貧しい人たちをはずかしめたいのですか。私はあなたがたに何と言ったらよいでしょう。ほめるべきでしょうか。このことに関しては、ほめるわけにはいきません。23私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、24感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えるために、このようにしなさい。」25夕食の後、杯をも同じようにして言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えるために、このようにしなさい。」26ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです。27したがって、もし、ふさわしくないままでパンを食べ、主の杯を飲む者があれば、主のからだと血に対して罪を犯すことになります。28ですから、ひとりひとりが自分を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。29みからだをわきまえないで、飲み食いするならば、その飲み食いが自分をさばくことになります。30そのために、あなたがたの中に、弱い者や病人が多くなり、死んだ者が大ぜいいます。31しかし、もし私たちが自分をさばくなら、さばかれることはありません。32しかし、私たちがさばかれるのは、主によって懲らしめられるのであって、それは、私たちが、この世とともに罪に定められることのないためです。33ですから、兄弟たち。食事に集まるときは、互いに待ち合わせなさい。34空腹な人は家で食べなさい。それは、あなたがたが集まることによって、さばきを受けることにならないためです。その他のことについては、私が行ったときに決めましょう。

12

1さて、兄弟たち。御霊の賜物についてですが、私はあなたがたに、ぜひ次のことを知っていただきたいのです。2ご承知のように、あなたがたが異教徒であったときには、どう導かれたとしても、引かれて行った所は、ものを言わない偶像の所でした。3ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、「イエスはのろわれよ。」と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、「イエスは主です。」と言うことはできません。
4さて、御霊の賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。5奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。6働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。7しかし、みなの益となるために、おのおのに御霊の現われが与えられているのです。8ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ、ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ、9またある人には同じ御霊による信仰が与えられ、ある人には同一の御霊によって、いやしの賜物が与えられ、10ある人には奇蹟を行なう力、ある人には預言、ある人には霊を見分ける力、ある人には異言、ある人には異言を解き明かす力が与えられています。11しかし、同一の御霊がこれらすべてのことをなさるのであって、みこころのままに、おのおのにそれぞれの賜物を分け与えてくださるのです。
12ですから、ちょうど、からだが一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。13なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。14確かに、からだはただ一つの器官ではなく、多くの器官から成っています。

15 たとい、足が、「私は手ではないから、からだに属さない。」と言ったとこ
ろで、そんなことでからだに属さなくなるわけではありません。 16 たとい、耳
が、「私は目ではないから、からだに属さない。」と言ったところで、そんな
とでからだに属さなくなるわけではありません。 17 もし、からだ全体が目た
であったら、どこで聞くのでしょう。もし、からだ全体が聞くところであって、
ら、どこでかぐのでしょう。 18 しかしこのとおり、神はみこころに従って、一
らだの中にそれぞれの器官を備えてくださったのです。 19 もし、全部がたった
つの器官であったら、からだはいったいどこにあるのでしょう。 20 しかし
ついうわけで、器官は多くありますが、からだは一つなのです。 21 そこで、目
手に向かって、「私はあなたを必要としない。」と言うことはできないし、頭
が足に向かって、「私はあなたを必要としない。」とも言えません。
22 それどころか、からだの中で比較的に弱いと見られる器官が、なくてはならない
ものです。 23 また、私たちは、からだの中で比較的に尊くないと見なす器官を、
ことさらに尊びます。こうして、私たちの見ばえのしない器官は、ことさらに良い
かっこうになりますが、 24 かっこうの良い器官にはそのようなことさらに尊んで
の必要がありません。しかし神は、劣ったところをことさらに尊んで、からだを
このように調和させてくださったのです。 25 それは、からだの中に分裂がな
く、各部分が互いにいたわり合うためです。 26 もし一つの部分が苦しめば、すべ
ての部分がともに苦しみ、もし一つの部分が尊ばれれば、すべての部分がとも
に喜ぶのです。 27 あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとりは
各器官なのです。 28 そして、神は教会の中で人々を次のように任命されました。
すなわち、第一に使徒、次に預言者、次に教師、それから奇蹟を行なう者、そ
れからいやしの賜物を持つ者、助ける者、治める者、異言を語る者です。
29 みな使徒でしょうか。みな預言者でしょうか。みな教師でしょうか。みな奇蹟を
行なう者でしょうか。 30 みないやしの賜物を持っているでしょうか。みな異言を
語るでしょうか。みな解き明かしをするでしょうか。 31 あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。
また私は、さらにまさる道を示してあげましょう。

13

1 たとい、私が人の異言や、御使いの異言で話しても、愛がないなら、やかましいどらや、うるさいシンバルと同じです。 2 また、たとい私が預言の賜物を持っており、またあらゆる奥義とあらゆる知識とに通じ、また、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら、何の値うちもありません。
3 また、たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。 4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。 5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のしたた悪を思わず、 6 不正を喜ばずに真理を喜びます。 7 すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。 8 愛は決して絶えることがありません。預言の賜物ならばすたれます。異言ならばやみます。知識ならばすたれます。 9 というのは、私たちの知っているところは一部分であり、預言することも一部分だからです。 10 完全なものが現われたら、不完全なものはすたれます。 11 私が子どもであったときには、子どもとして話し、子どもとして考え、子どもとして論じましたが、おとなになったときには、子どものことをやめました。 12 今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、そのときには顔と顔とを合わせて見ることになります。今、私は一部分しか知りませんが、その時には、私が完全に知られているのと同じように、私も完全に知ることになります。 13 こういうわけで、いつまでも残るものは信仰と希望と愛です。その中で一番すぐれているのは愛です。

14

1 愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。 2 異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです。 3 ところが預言する者は、徳を高め、勧めをなし、慰めを与えるために、人に向かって話します。
4 異言を話す者は自分の徳を高めますが、預言する者は教会の徳を高めます。
5 私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいますが、それよりも、あなたがたが預言することを望みます。もし異言を話す者がその解き明かしをして教会の徳を高めるのでないなら、異言を語る者よりも、預言する者のほうがまさっています。 6 ですから、兄弟たち。私があなたがたのところへ行って異言を話すとしても、黙示や知識や預言や教えなどによって話さないなら、あなた

がたに何の益となるでしょう。 7 笛や琴などいのちのない楽器でも、はっきり
した音を出さなければ、何を吹いているのか、何をひいているのか、どうして
わかりましょう。 8 また、ラッパがもし、はっきりしない音を出したら、だれ
が戦闘の準備をするでしょう。 9 それと同じように、あなたがたも、舌で明瞭
なことばを語るのでなければ、言っている事をどうして知ってもらえるのでし
ょう。それは空気に向かって話しているのです。 10 世界にはおそらく非常に多く
の種類のことばがあるでしょうが、意味のないことばなど一つもありません。
11 それで、もし私がそのことばの意味を知らないなら、私はそれを話す人にと
って異国人であり、それを話す人も私にとって異国人です。 12 あなたがたの
ばあいも同様です。あなたがたは御霊の賜物を熱心に求めているのですから、
教会の徳を高めるために、それが豊かに与えられるよう、熱心に求めなさい。
13 ここういうわけですから、異言を語る者は、それを解き明かすことができるよ
うに祈りなさい。 14 もし私が異言で祈るなら、私の霊は祈るが、私の知性は実
をを結ばないのです。 15 ではどうすればよいのでしょう。私は霊において祈り、
また知性においても祈りましょう。霊において賛美し、また知性においても賛
美しましょう。 16 そうでないと、あなたが霊において祝福しても、異言を知らで
ない人々の座席に着いている人は、あなたの言っていることがわからないので
すから、あなたの感謝について、どうしてアーメンと言えるでしょう。 17 ああな
たの感謝は結構ですが、他の人の徳を高めることはできません。 18 私は、ああな
たがたのだれよりも多くの異言を話すことを神に感謝していますが、 19 教会で
は、異言で一万語話すよりは、ほかの人を教えるために、私の知性を用いて五
つのことばを話したいのです。

20 兄弟たち。物の考え方において子どもであってはなりません。悪事におい
ては幼子でありなさい。しかし考え方においてはおとなになりなさい。 21 律法
にこう書いてあります。「『わたしは、異なった舌により、異国の人のくちび
るによってこの民に語るが、彼らはなおわたしの言うことを聞き入れない。』
と主は言われる。」 22 それで、異言は信者のためのしるしではなく、不信者
のためのしるしです。けれども、預言は不信者でなく、信者のためのしるし
です。 23 ですから、もし教会全体が一か所に集まって、みなが異言を話すとしたら
、初心の者とか信者でない者とかがはいって来たとき、彼らは、あなたがた
を気違いだと言わないでしょうか。 24 しかし、もしみなが預言をするなら、信
者でない者や初心の者がはいって来たとき、その人はみなの者によって罪を示
されます。みなにさばかれ、 25 心の秘密があらわにされます。そうして、神が
確かにあなたがたの中におられると言って、ひれ伏して神を拝むでしょう。

26 兄弟たち。では、どうすればよいのでしょう。あなたがたが集まるとき
には、それぞれの人が賛美したり、教えたり、黙示を話したり、異言を話した
り、解き明かしたりします。そのすべてのことを、徳を高めるためにしなさ
い。 27 もし異言を話すのならば、ふたりか、多くても三人で順番に話すべき
で、ひとりは解き明かしをしなさい。 28 もし解き明かす者がだれもいなければ
、教会では黙っていなさい。自分だけで、神に向かって話しなさい。 29 預言
する者も、ふたりか三人が話し、ほかの者はそれを吟味しなさい。 30 もしも座
席に着いている別の人に黙示が与えられたら、先の人は黙りなさい。 31 あなた
がたは、みながかわるがわる預言できるのであって、すべての人が学ぶこと
ができ、すべての人が勧めを受けることができるのです。 32 預言者たちの霊は預
言者たちに服従するものなのです。 33 それは、神が混乱の神ではなく、平和の
神だからです。聖徒たちのすべての教会で行なわれているように、

34 教会では、妻たちは黙っていなさい。彼らは語ることを許されていませ
ん。律法も言うように、服従しなさい。 35 もし何かを学びたければ、家で自
分の夫に尋ねなさい。教会で語ることは、妻にとってはふさわしくないこと
です。 36 神のことばは、あなたがたのところから出たのでしょうか。あるいは
また、あなたがたにだけ伝わったのでしょうか。

37 自分を預言者、あるいは、御霊の人と思う者は、私があなたがたに書くこ
とが主の命令であることを認めなさい。 38 もしそれを認めないなら、その人は
認められません。

39 それゆえ、私の兄弟たち。預言することを熱心に求めなさい。異言を話す
ことも禁じてはいけません。 40 ただ、すべてのことを適切に、秩序をもって行
ないなさい。

15

1 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があな
たがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っ
ている福音です。 2 また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでな

いなら、私の宣べ伝えたこの福音のことばをしっかりと保っていれば、この福
音によって救われるのです。 3 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝す
えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示す
と おりに、私たちの罪のために死なれたこと、 4 また、葬られたこと、また、
聖書に従って三日目によみがえられたこと、 5 また、ケパに現われ、それから
十二弟子に現われたことです。 6 その後、キリストは五百人以上の兄弟たちにで
同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでか
に眠った者もいくらかいます。 7 その後、キリストはヤコブに現われ、それとで
ら使徒たち全部に現われました。 8 そして、最後に、月足らずで生まれさい者
同様なる私にも、現われてくださいました。 9 私は使徒の中では最も小会を迫害
あたして、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害
たったからです。 10 ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。使徒
したちよりも多くの働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みで
す。 11 そういうわけですから、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちはこの
ように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。

12 ところで、キリストは死者の中から復活された、と宣べ伝えられているの
なら、どうして、あなたがたの中に、死者の復活はない、と言っている人がい
るのですか。 13 もし、死者の復活がないのなら、キリストも復活されなかった
ので しょう。 14 そして、キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実
質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです。 15 そな
れどころか、私たちは神について偽証をした者ということになります。なぜな
ら、もしも死者の復活はないとしたら、神はキリストをよみがえらせた、と言
な からは神にキリストをよみがえらせた、と言って神に
逆らった証言をしたからです。 16 もし、死者がよみがえらないのなら、キリスト
もよみがえらなかったでしょう。 17 そして、もしキリストがよみがえらなかっ
た のなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の
中にいるのです。 18 そうだったら、キリストにあって眠った者たちは、滅んで
しまっているのです。 19 もし、私たちがこの世にあってキリストに単なる希望を置
いているだけなら、私たちは、すべての人の中で一番哀れな者です。

20 しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえら
れました。 21 というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活も
ひとりの人を通して来たからです。 22 すなわち、アダムにあってすべての人が
死んでいるように、キリストによってすべての人が生かされるからです。 23 し
かし、おのおのにその順番があります。まず初穂であるキリスト、次にキリス
トの再臨のときキリストに属している者です。 24 それから終わりが来ます。
そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、国を父
な の神にお渡しになります。 25 キリストの支配は、すべての敵をその足の下に
置くまで、と定められているからです。 26 最後の敵である死も滅ぼされます。
27 「彼は万物をその足の下に従わせた。」からです。ところで、万物が従わせ
られた、と言うとき、万物を従わせたその方がそれに含められていないこと は
明らかです。 28 しかし、万物が御子に従うとき、御子自身も、ご自分に万物を
従わせた方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられる た
めです。

29 もしこうでなかったら、死者のゆえにバプテスマを受ける人たちは、何の
ためにそうするのですか。もし、死者は決してよみがえらないのなら、なぜそ
の人たちは、死者のゆえにバプテスマを受けるのですか。 30 また、なぜ私た
ちもいつも危険にさらされているのでしょうか。 31 兄弟たち。私にとって、毎
日が死の連続です。これは、私たちの主キリスト・イエスにあってあなたがた
を誇る私の誇りにかけて、誓って言えることです。 32 もし、私が人間的な動機
から、エペソで獣と戦ったのなら、何の益があるでしょう。もし、死者の復活
がないのなら、「あすは死ぬのだ。さあ、飲み食いしようではないか。」とい
うことになるのです。 33 思い違いをしてはいけません。友だちが悪ければ、良
い習慣がそこなわれます。 34 目をさまして、正しい生活を送り、罪をやめなさ
い。神についての正しい知識を持っていない人たちがいます。私はあなたがた
をはずかしめるために、こう言っているのです。

35 ところが、ある人はこう言うでしょう。「死者は、どのようにしてよみが
えるのか。どのようなからだで来るのか。」 36 愚かな人だ。あなたの蒔く物
は、死ななければ、生かされません。 37 あなたが蒔く物は、後にできるからだ
ではなく、麦やそのほかの穀物の種粒です。 38 しかし神は、みこころに従
って、それにからだを与え、おのおのの種にそれぞれのからだをお与えになり
ます。 39 すべての肉が同じではなく、人間の肉もあり、獣の肉もあり、鳥の肉

もあり、魚の肉もあります。 40 また、天上のからだもあり、地上のからだもあ
り、天上のからだの栄光と地上のからだの栄光とは異なっており、 41 太陽の栄
光もあり、月の栄光もあり、星の栄光もあります。個々の星によって栄光が違
います。 42 死者の復活もこれと同じです。朽ちるもので蒔かれ、朽ちないもの
によみがえらされ、 43 卑しいもので蒔かれ、栄光あるものによみがえらされ、
弱いもので蒔かれ、強いものによみがえらされ、 44 血肉のからだで蒔かれ、
御霊に属するからだによみがえらされるのです。血肉のからだがあるのですか
ら、御霊のからだもあるのです。 45 聖書に「最初の人アダムは生きた者となっ
た。」と書いてありますが、最後のアダムは、生かす御霊となりました。 46 最
初にあったのは血肉のものであり、御霊のものではありません。御霊のものは
あとに来るのです。 47 第一の人は地から出て、土で造られた者ですが、第二の
人は天から出た者です。 48 土で造られた者はみな、この土で造られた者に似て
おり、天からの者はみな、この天から出た者に似ているのです。 49 私たちは土
で造られた者のかたちを持っていたように、天上のかたちをも持つのです。
50 兄弟たちよ。私はこのことを言っておきます。血肉のからだは神の国を相
続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。 51 聞きなさ
い。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみなが眠ってしまうので
はなく、みな変えられるのです。 52 終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬
のうちにです。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは
変えられるのです。 53 朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、
死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。 54 しかし、朽ちるもの
が朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」
としるされている、みことばが実現します。 55 「死よ。おまえの勝利はどこに
あるのか。死よ。おまえのとげはどこにあるのか。」 56 死のとげは罪であり、
罪の力は律法です。 57 しかし、神に感謝すべきです。神は、私たちの主イエ
ス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。 58 ですから、
私の愛する兄弟たちよ。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに
励みなさい。あなたがたは自分たちの労苦が、主にあってむだでないことを知
っているのですから。

16

1 さて、聖徒たちのための献金については、ガラテヤの諸教会に命じたよう
に、あなたがたにもこう命じます。 2 私がそちらに行ってから献金を集めるよう
なことがないように、あなたがたはおのおの、いつも週の初めの日に、収入に
応じて、手もとにそれをたくわえておきなさい。 3 私がそちらに行ったとき、
あなたがたの承認を得た人々に手紙を持たせて派遣し、あなたがたの献金をエ
ルサレムに届けさせましょう。 4 しかし、もし私も行くほうがよければ、彼ら
は、私といっしょに行くことになるでしょう。 5 私は、マケドニヤを通って後、
あなたがたのところへ行きます。マケドニヤを通るつもりでいますから。 6 そ
して、たぶんあなたがたのところに滞在するでしょう。冬を越すことになるこ
もしれません。それは、どこに行くとしても、あなたがたに送っていただこう
と思うからです。 7 私は、いま旅の途中に、あなたがたの顔を見たいと思って
いるのではありません。主がお許しになるなら、あなたがたのところにしばら
く滞在したいと願っています。 8 しかし、五旬節まではエペソに滞在するつも
りです。 9 というのは、働きのための広い門が私のために開かれており、反対
者も大ぜいいるからです。
10 テモテがそちらへ行ったら、あなたがたのところで心配なく過ごせるよう
心を配ってください。彼も、私と同じように、主のみわざに励んでいるからで
す。 11 だれも彼を軽んじてはいけません。彼を平安のうちに送り出して、私のの
ところに来させてください。私は、彼が兄弟たちとともに来るのを待ち望んで
います。 12 兄弟アポロのことですが、兄弟たちといっしょにあなたがたのとこ
ろへ行くように、私は強く彼に勧めました。しかし、彼は今、そちらへ行こう
とは全然思っていません。しかし、機会があれば行くでしょう。
13 目を覚ましていなさい。堅く信仰に立ちなさい。男らしく、強くありなさ
い。 14 いっさいのことを愛をもって行ないなさい。
15 兄弟たちよ。あなたがたに勧めます。ご承知のように、ステパナの家族
は、アカヤの初穂であって、聖徒たちのために熱心に奉仕してくれました。
16 あなたがたは、このような人たちに、また、ともに働き、労しているすべて
の人たちに服従しなさい。 17 ステパナとポルトナトとアカイコが来たので、
私は喜んでいます。なぜなら、彼らは、あなたがたの足りない分を補ってくれ
たからです。 18 彼らは、私の心をも、あなたがたの心をも安心させてくれまし
た。このような人々の労をねぎらいなさい。

19 アジヤの諸教会がよろしくと言っています。アクラとプリスカ、また彼ら
の家の教会が主にあって心から、あなたがたによろしくと言っています。 20 す
べての兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。きよい口づけをも
って、互いにあいさつをかわしなさい。
21 パウロが、自分の手であいさつを書きます。 22 主を愛さない者はだれで
も、のろわれよ。主よ、来てください。 23 主イエスの恵みが、あなたがたとと
もにありますように。 24 私の愛は、キリスト・イエスにあって、あなたがたす
べての者とともにあります。アーメン。

コリント人への手紙第二

1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロ、および兄弟テモテか
ら、コリントにある神の教会、ならびにアカヤ全土にいるすべての聖徒たち
へ。 2 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがた
の上にありますように。

3 私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神が
ほめたたえられますように。 4 神は、どのような苦しみのときにも、私たちを
慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによ
って、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。 5 それ
は、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストに
よってあふれているからです。 6 もし私たちが苦しみに会うなら、それはあな
たがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けるなら、それもあな
たがたの慰めのためで、その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐
え抜く力をあなたがたに与えるのです。 7 私たちがあなたがたについて抱いて
いる望みは、動くことがありません。なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみ
をともにしているように、慰めをもともにしていることを、私たちは知って
るからです。 8 兄弟たちよ。私たちがアジヤで会った苦しみについて、ぜひ知
っておいてください。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受
け、ついにいのちさえも危くなり、 9 ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟し
ました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神
により頼む者となるためでした。 10 ところが神は、これほどの大きな死の危険
から、私たちを救い出してくださいました。また将来も救い出してくださいま
す。なおも救い出してくださるという望みを、私たちはこの神に置いているの
です。 11 あなたがたも祈りによって、私たちを助けて協力してくださるでしょ
う。それは、多くの人々の祈りにより私たちに与えられた恵みについて、多
の人々が感謝をささげるようになるためです。

12 私たちがこの世の中で、特にあなたがたに対して、きよさと神から来る誠
実さとをもって、人間的な知恵によらず、神の恵みによって行動しているこ
は、私たちの良心のあかしするところであって、これこそ私たちの誇りです。
13 私たちは、あなたがたへの手紙で、あなたがたが読んで理解できるこれと以外
は何も書いていません。そして私は、あなたがたが十分に理解してくれるこ
を望みます。 14 あなたがたは、ある程度は、私たちを理解しているのですか
ら、私たちの主イエスの日には、あなたがたが私たちの誇りであるように、私
たちもあなたがたの誇りであるということを、さらに十分に理解してくださ
よう望むのです。

15 この確信をもって、私は次のような計画を立てました。まず初めにあなた
がたのところへ行くことによって、あなたがたが恵みを二度受けられるように
しようとしたのです。 16 すなわち、あなたがたのところを通ってマケドニヤ
に行き、そしてマケドニヤから再びあなたがたのところに帰り、あなたがたに
送られてユダヤに行きたいと思ったのです。 17 そういうわけですから、この計
画を立てた私が、どうして軽率でありえたでしょう。それとも、私の計画は人
間的な計画であって、私にとっては、「しかり、しかり。」は同時に、「否、
否。」なのでしょうか。 18 しかし、神の真実にかけて言いますが、あなたが
たに対する私たちのことばは、「しかり。」と言って、同時に「否。」と言う
ようなものではありません。 19 私たち、すなわち、私とシルワノとテモテと
が、あなたがたに宣べ伝えた神の子キリスト・イエスは、「しかり。」と同時
に「否。」であるような方ではありません。この方には「しかり。」だけがあ
るのです。 20 神の約束はことごとく、この方において「しかり。」となりまし
た。それで私たちは、この方によって「アーメン。」と言い、神に栄光を帰す
るのです。 21 私たちをあなたがたといっしょにキリストのうちに堅く保ち、私
たちに油を注がれた方は神です。 22 神はまた、確認の印を私たちに押し、保証
として、御霊を私たちの心に与えてくださいました。

23 私はこのいのちにかけ、神を証人にお呼びして言います。私がまだコリン
トへ行かないでいるのは、あなたがたに対する思いやりのためです。 24 私たち
は、あなたがたの信仰を支配しようとする者ではなく、あなたがたの喜びのた
めに働く協力者です。あなたがたは、信仰に堅く立っているからです。

2

1 そこで私は、あなたがたを悲しませることになるような訪問は二度とくり返
すまいと決心したのです。 2 もし私があなたがたを悲しませているのなら、私
が悲しませているその人以外に、だれが私を喜ばせてくれるでしょうか。 3 あの
ような手紙を書いたのは、私が行くときには、私に喜びを与えてくれるはずの
人たちから悲しみを与えられたくないからでした。それは、私の喜びがあなた
がたすべての喜びであることを、あなたがたすべてについて確信しているから
です。 4 私は大きな苦しみと心の嘆きから、涙ながらに、あなたがたに手紙を
書きました。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、私があなたがた
に対して抱いている、あふれるばかりの愛を知っていただきたいからでした。
5 もしある人が悲しみのもとになったとすれば、その人は、私を悲しませたと
いうよりも、ある程度――というのは言い過ぎにならないためですが、――あら
なたがた全部を悲しませたのです。 6 その人にとっては、すでに多数の人から
受けたあの処罰で十分ですから、 7 あなたがたは、むしろ、その人を赦し、慰
めてあげなさい。そうしないと、その人はあまりにも深い悲しみに押しつぶさ
れてしまうかもしれません。 8 そこで私は、その人に対する愛を確認すること
を、あなたがたに勧めます。 9 私が手紙を書いたのは、あなたがたがすべての
ことにおいて従順であるかどうかをためすためであったのです。 10 もしあなた
がたが人を赦すなら、私もその人を赦します。私が何かを赦したのなら、私の
赦したことは、あなたがたのために、キリストの御前で赦したのです。 11 これ
は、私たちがサタンに欺かれないためです。私たちはサタンの策略を知らない
わけではありません。
12 私が、キリストの福音のためにトロアスに行ったとき、主は私のために門
を開いてくださいましたが、 13 兄弟テトスに会えなかったので、心に安らぎが
なく、そこの人々に別れを告げて、マケドニヤへ向かいました。
14 しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる
勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを
放ってくださいます。 15 私たちは、救われる人々の中でも、滅びる人々の中で
も、神の前にかぐわしいキリストのかおりなのです。 16 ある人たちにとって
は、死から出て死に至らせるかおりであり、ある人たちにとっては、いのちか
ら出ていのちに至らせるかおりです。このような務めにふさわしい者は、いっ
たいだれでしょう。 17 私たちは、多くの人のように、神のことばに混ぜ物をし
て売るようなことはせず、真心から、また神によって、神の御前でキリスト
にあって語るのです。

3

1 私たちはまたもや自分を推薦しようとしているのでしょうか。それとも、
ある人々のように、あなたがたにあてた推薦状とか、あなたがたの推薦状とか
が、私たちに必要なのでしょうか。 2 私たちの推薦状はあなたがたです。それ
は私たちの心にしるされていて、すべての人に知られ、また読まれているので
す。 3 あなたがたが私たちの奉仕によるキリストの手紙であり、墨によってで
はなく、生ける神の御霊によって書かれ、石の板にではなく、人の心の板に書
かれたものであることが明らかだからです。 4 私たちはキリストによって、神
の御前でこういう確信を持っています。 5 何事かを自分のしたことと考える資
格が私たち自身にあるというのではありません。私たちの資格は神からのもの
です。 6 神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文
字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすから
です。 7 もし石に刻まれた文字による、死の務めにも栄光があって、モーセの
顔の、やがて消え去る栄光のゆえにさえ、イスラエルの人々がモーセの顔を見
つめることができなかったほどだとすれば、 8 まして、御霊の務めには、どれ
ほどの栄光があることでしょう。 9 罪に定める務めに栄光があるのなら、義と
する務めには、なおさら、栄光があふれるのです。 10 そして、かつて栄光を受
けたものは、このばあい、さらにすぐれた栄光のゆえに、栄光のないものにな
っているからです。 11 もし消え去るべきものにも栄光があったのなら、永続す
るものには、なおさら栄光があるはずです。
12 このような望みを持っているので、私たちはきわめて大胆に語ります。
13 そして、モーセが、消えうせるものの最後をイスラエルの人々に見せないよ
うに、顔におおいを掛けたようなことはしません。 14 しかし、イスラエルの
人々の思いは鈍くなったのです。というのは、今日に至るまで、古い契約が朗
読されるときに、同じおおいが掛けられたままで、取りのけられてはいません。なぜなら、それはキリストによって取り除かれるものだからです。 15 かえって、今日まで、モーセの書が朗読されるときはいつでも、彼らの心にはおお

いが掛かっているのです。 16 しかし、人が主に向くなら、そのおおいは取り除
かれるのです。 17 主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があ
ります。 18 私たちはみな、顔のおおいを取りのけられて、鏡のように主の栄光
を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられて行き
ます。これはまさに、御霊なる主の働きによるのです。

4

1 こういうわけで、私たちは、あわれみを受けてこの務めに任じられている
のですから、勇気を失うことなく、 2 恥ずべき隠された事を捨て、悪巧みに歩
まず、神のことばを曲げず、真理を明らかにし、神の御前で自分自身をすべて
の人の良心に推薦しています。 3 それでもなお私たちの福音におおいが掛かっ
ているとしたら、それは、滅びる人々のばあいに、おおいが掛かっているので
す。 4 そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであ
るキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。 5 私
たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝え
ます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。
6 「光が、やみの中から輝き出よ。」と言われた神は、私たちの心を照らし、キ
リストの御顔にある神の栄光を知る知識を輝かせてくださったのです。
7 私たちは、この宝を、土の器の中に入れているのです。それは、この測り知
れない力が神のものであって、私たちから出たものでないことが明らかにされ
るためです。 8 私たちは、四方八方から苦しめられますが、窮することはあり
ません。途方にくれていますが、行きづまることはありません。 9 迫害されて
いますが、見捨てられることはありません。倒されますが、滅びません。 10 い
つでもイエスの死をこの身に帯びていますが、それは、イエスのいのちが私た
ちの身において明らかに示されるためです。 11 私たち生きている者は、イエス
のために絶えず死に渡されていますが、それは、イエスのいのちが私たちの死
ぬべき肉体において明らかに示されるためなのです。 12 こうして、死は私たち
のうちに働き、いのちはあなたがたのうちに働くのです。 13 「私は信じた。そ
れゆえに語った。」と書いてあるとおり、それと同じ信仰の霊を持っている私
たちも、信じているゆえに語るのです。 14 それは、主イエスをよみがえらせた
方が、私たちをもイエスとともによみがえらせ、あなたがたといっしょに御前
に立たせてくださることを知っているからです。 15 すべてのことはあなたが
たのためであり、それは、恵みがますます多くの人々に及んで感謝が満ちあふ
れ、神の栄光が現われるようになるためです。
16 ですから、私たちは勇気を失いません。たとい私たちの外なる人は衰えて
も、内なる人は日々新たにされています。 17 今の時の軽い患難は、私たちのう
ちに働いて、測り知れない、重い永遠の栄光をもたらすからです。 18 私たち
は、見えるものにではなく、見えないものにこそ目を留めます。見えるものは
一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。

5

1 私たちの住まいである地上の幕屋がこわれても、神の下さる建物があること
を、私たちは知っています。それは、人の手によらない、天にある永遠の家で
す。 2 私たちはこの幕屋にあってうめき、この天から与えられる住まいを着た
いと望んでいます。 3 それを着たなら、私たちは裸の状態になることはないか
らです。 4 確かにこの幕屋の中にいる間は、私たちは重荷を負って、うめいて
います。それは、この幕屋を脱ぎたいと思うからでなく、かえって天からの住
まいを着たいからです。そのことによって、死ぬべきものがいのちにのまれて
しまうためにです。 5 私たちをこのことにかなう者としてくださった方は神で
す。神は、その保証として御霊を下さいました。 6 そういうわけで、私たちは
いつも心強いのです。ただし、私たちが肉体にいる間は、主から離れていると
いうことも知っています。 7 確かに、私たちは見るところによってではなく、
信仰によって歩んでいます。 8 私たちはいつも心強いのです。そして、むしろ
肉体を離れて、主のみもとにいるほうがよいと思っています。 9 そういうわけ
で、肉体の中にあろうと、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところ
は、主に喜ばれることです。 10 なぜなら、私たちはみな、キリストのさばきの
座に現われて、善であれ悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報
いを受けることになるからです。
11 こういうわけで、私たちは、主を恐れることを知っているので、人々を説
得しようとするのです。私たちのことは、神の御前に明らかです。しかし、あ
なたがたの良心にも明らかになることが、私の望みです。 12 私たちはまたも自
分自身をあなたがたに推薦しようとするのではありません。ただ、私たちのこ

を誇る機会をあなたがたに与えて、心においてではなく、うわべのことで誇
るる人たちに答えることができるようにさせたいのです。13もし私たちが気が狂
っているとすれば、それはただ神のためであり、もし正気であるとすれば、そ
れはただあなたがたのためです。14というのは、キリストの愛が私たちを取り
囲んでいるからです。私たちはこう考えました。ひとりの人がすべての人のた
めに死んだ以上、すべての人が死んだのです。15また、キリストがすべての人
のために死なれたのは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自
分のために死んでよみがえった方のために生きるためなのです。16ですから、
私たちは今後、人間的な標準で人を知ろうとはしません。かつては人間的な標
準でキリストを知っていたとしても、今はもうそのような知り方はしません。
17だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古い
ものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。18これらのことはすべ
て、神から出ているのです。神は、キリストによって、私たちをご自分と和解
させ、また和解の務めを私たちに与えてくださいました。19すなわち、神は、
キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わ
せないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。
20こういうわけで、私たちはキリストの使節なのです。ちょうど神が私たち
を通して懇願しておられるようです。私たちは、キリストに代わって、あなた
がたに願います。神の和解を受け入れなさい。21神は、罪を知らない方を、私
たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあって、神の義
となるためです。

6

1私たちは神とともに働く者として、あなたがたに懇願します。神の恵みを
むだに受けないようにしてください。2神は言われます。
「わたしは、恵みの時にあなたに答え、
救いの日にあなたを助けた。」
確かに、今は恵みの時、今は救いの日です。3私たちは、この務めがそしら
れないために、どんなことにも人につまずきを与えないようにと、4あらゆ
ることにおいて、自分を神のしもべとして推薦しているのです。すなわち非
常な忍耐と、悩みと、苦しみと、嘆きの中で、5また、むち打たれるときに
も、入獄にも、暴動にも、労役にも、徹夜にも、断食にも、6また、純潔と
知識と、寛容と親切と、聖霊と偽りのない愛と、7真理のことばと神の力と
により、また、左右の手に持っている義の武器により、8また、ほめられた
り、そしられたり、悪評を受けたり、好評を博したりすることによって、自
分を神のしもべとして推薦しているのです。私たちは人をだます者のように
見えても、真実であり、9人に知られないようでも、よく知られ、死にそう
でも、見よ、生きており、罰せられているようであっても、殺されず、10悲
しんでいるようでも、いつも喜んでおり、貧しいようでも、多くの人を富ま
せ、何も持たないようでも、すべてのものを持っています。
11コリントの人たち。私たちはあなたがたに包み隠すことなく話しました。
私たちの心は広く開かれています。12あなたがたは、私たちの中で制約を受け
ているのではなく、自分の心で自分を窮屈にしているのです。13私は自分の子
どもに対するように言います。それに報いて、あなたがたのほうでも心を広く
してください。
14不信者と、つり合わぬくびきをいっしょにつけてはいけません。正義と不
法とに、どんなつながりがあるでしょう。光と暗やみとに、どんな交わりがあ
るでしょう。15キリストとベリアルとに、何の調和があるでしょう。信者と不
信者とに、何のかかわりがあるでしょう。16神の宮と偶像とに、何の一致があ
るでしょう。私たちは生ける神の宮なのです。神はこう言われました。
「わたしは彼らの間に住み、また歩む。
わたしは彼らの神となり、
彼らはわたしの民となる。
17それゆえ、彼らの中から出て行き、
彼らと分離せよ、と主は言われる。
汚れたものに触れないようにせよ。
そうすれば、わたしはあなたがたを受け入れ、
18わたしはあなたがたの父となり、
あなたがたはわたしの息子、娘となる、
と全能の主が言われる。」

7

1 愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いっさいの霊肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんできよきを全うしようではありませんか。
2 私たちに対して心を開いてください。私たちは、だれにも不正をしたことがなく、だれをもそこなったことがなく、だれからも利をむさぼったことがありません。 3 責めるためにこう言うのではありません。前にも言ったように、あなたがたは、私たちとともに死に、ともに生きるために、私たちの心のうちにあるのです。 4 私のあなたがたに対する信頼は大きいのであって、私はあなたがたを大いに誇りとしています。私は慰めに満たされ、どんな苦しみの中にあっても喜びに満ちあふれています。
5 マケドニヤに着いたとき、私たちの身には少しの安らぎもなく、さまざまの苦しみに会って、外には戦い、うちには恐れがありました。 6 しかし、気落ちしたっ者を慰めてくださる神は、テトスが来たことによって、私たちを慰めてくださいました。 7 ただテトスが来たことばかりでなく、彼があなたがたから受けた慰めによっても、私たちは慰められたのです。あなたがたが私を慕っていること、嘆き悲しんでいること、また私に対して熱意を持っていてくれることを知らされて、私はますます喜びにあふれました。 8 あの手紙によってあなたがたを悲しませたけれども、私はそれを悔いていません。あの手紙がしばらくの間であったにしろあなたがたを悲しませたのを見て、悔いたけれども、 9 今は喜んでいます。あなたがたが悲しんだからではなく、あなたがたが悲しんで悔い改めたからです。あなたがたは神のみこころに添って悲しんだので、私たちのために何の害も受けなかったのです。 10 神のみこころに添った悲しみは、悔いのない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。 11 ご覧なさい。神のみこころに添ったその悲しみが、あなたがたのうちに、どれほどの熱心を起こさせたことでしょう。また、弁明、憤り、恐れ、慕う心、熱意を起こさせ、処罰を断行させたことでしょう。あの問題について、あなたがたは、自分たちがすべての点で潔白であることを証明したのです。 12 ですから、私はあなたがたに手紙を書きましたが、それは悪を行なった人のためでもなく、その被害者のためでもなくて、私たちに対するあなたがたの熱心が、神の御前に明らかにされるためであったのです。 13 こういうわけですから、私たちは慰めを受けました。
この慰めの上にテトスの喜びが加わって、私たちはなおいっそう喜びました。テトスの心が、あなたがたすべてによって安らぎを与えられたからです。 14 私はテトスに、あなたがたのことを少しばかり誇りましたが、そのことで恥をかかずに済みました。というのは、私たちがあなたがたに語ったことがすべて真実であったように、テトスに対して誇ったことも真実となったからです。 15 彼は、あなたがたがみなよく言うことを聞き、恐れおののいて、自分を迎えてくれたことを思い出して、あなたがたへの愛情をますます深めています。 16 私は、あなたがたに全幅の信頼を寄せることができるのを喜んでいます。

8

1 さて、兄弟たち。私たちは、マケドニヤの諸教会に与えられた神の恵みを、あなたがたに知らせようと思います。 2 苦しみゆえの激しい試練の中にあっても、彼らの満ちあふれる喜びは、その極度の貧しさにもかかわらず、あふれ出て、その惜しみなく施す富となったのです。 3 私はあかしします。彼らは自ら進んで、力に応じ、いや力以上にささげ、 4 聖徒たちをささえる交わりの恵みにあずかりたいと、熱心に私たちに願ったのです。 5 そして、私たちの期待以上に、神のみこころに従って、まず自分自身を主にささげ、また、私たちにもゆだねてくれました。 6 それで私たちは、テトスがすでにこの恵みのわざをあなたがたの間で始めていたのですから、それを完了させるよう彼に勧めたのです。 7 あなたがたは、すべてのことに、すなわち、信仰にも、ことばにも、知識にも、あらゆる熱心にも、私たちから出てあなたがたの間にある愛にも富んでいるように、この恵みのわざにも富むようになってください。 8 こうは言ってでも、私は命令するのではありません。ただ、他の人々の熱心さをもって、あなたがた自身の愛の真実を確かめたいのです。 9 あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。 10 この献金のことについて、私の意見を述べましょう。それはあなたがたの益になることだからです。あなたがたは、このことを昨年から、他に先んじて行なっただけでなく、このことを他に先んじて願った人たちです。 11 ですから、今、それをし遂げなさい。喜んでし

ようと思ったのですから、持っている物で、それをし遂げることができるはず
です。 12 もし熱意があるならば、持たない物によってではなく、持っている程
度に応じて、それは受納されるのです。 13 私はこのことによって、他の人々に
は楽をさせ、あなたがたには苦労をさせようとしているのではなく、平等を図
っているのです。 14 今あなたがたの余裕が彼らの欠乏を補うなら、彼らの余裕
もまた、あなたがたの欠乏を補うことになるのです。こうして、平等になるの
です。 15 「多く集めた者も余るところがなく、少し集めた者も足りないとこ
ろがなかった。」と書いてあるとおりです。

16 私があなたがたのことを思うのと同じ熱心を、テトスの心にも与えてくだ
さった神に感謝します。 17 彼は私の勧めを受け入れ、非常な熱意をもって、自
分から進んであなたがたのところに行こうとしています。 18 また私たちは、
テトスといっしょに、ひとりの兄弟を送ります。この人は、福音の働きによっ
て、すべての教会で称賛されていますが、 19 そればかりでなく、彼は、この恵
みのわざに携わっている私たちに同伴するよう諸教会の任命を受けたのです。
私たちがこの働きをしているのは、主ご自身の栄光のため、また、私たちの誠
意を示すためにほかなりません。 20 私たちは、この献金の取り扱いについて、
だれからも非難されることがないように心がけています。 21 それは、主の御
前ばかりでなく、人の前でも公明正大なことを示そうと考えているからです。
22 また、彼らといっしょに、もうひとりの兄弟を送ります。私たちはこの兄弟
が多くのことについて熱心であることを、しばしば認めることができました。
彼は今、あなたがたに深い信頼を寄せ、ますます熱心になっています。 23 テト
スについて言えば、彼は私の仲間で、あなたがたの間での私の同労者です。兄
弟たちについて言えば、彼らは諸教会の使者、キリストの栄光です。 24 ですか
ら、あなたがたの愛と、私たちがあなたがたを誇りとしている証拠とを、諸教
会の前で、彼らに示してほしいのです。

9

1 聖徒たちのためのこの奉仕については、いまさら、あなたがたに書き送る
必要はないでしょう。 2 私はあなたがたの熱意を知り、それについて、あなたれ
がたのことをマケドニヤの人々に誇って、アカヤでは昨年から準備が進められ
ていると言ったのです。こうして、あなたがたの熱心は、多くの人を奮起させ
てました。 3 私が兄弟たちを送ることにしたのは、このばあい、私たちがあなたい
がたについて誇ったことがむだにならず、私が言っていたとおりに準備してい
てもらうためです。 4 そうでないと、もしマケドニヤの人が私といっしょに行
って、準備ができていないのを見たら、あなたがたはもちろんですが、私たち
も、このことを確信していただけに、恥をかくことになるでしょう。 5 そこで
私は、兄弟たちに勧めて、先にそちらに行かせ、前に約束したあなたがたの贈
り物を前もって用意していただくことが必要だと思いました。どうか、この献
金を、惜しみながらするのではなく、好意に満ちた贈り物として用意しておい
てください。

6 私はこう考えます。少しだけ蒔く者は、少しだけ刈り取り、豊かに蒔く者
は、豊かに刈り取ります。 7 ひとりひとり、いやいやながらでなく、強いられ
てでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくだ
さいます。 8 神は、あなたがたを、常にすべてのことに満ち足りて、すべての
良いわざにあふれる者とするために、あらゆる恵みをあふれるばかり与えるこ
とのできる方です。

9 「この人は散らして、貧しい人々に与えた。
その義は永遠にとどまる。」
と書いてあるとおりです。 10 蒔く人に種と食べるパンを備えてくださる方
は、あなたがたにも蒔く種を備え、それをふやし、あなたがたの義の実を増
し加えてくださいます。 11 あなたがたは、あらゆる点で豊かになって、惜し
みなく与えるようになり、それが私たちを通して、神への感謝を生み出すの
です。 12 なぜなら、この奉仕のわざは、聖徒たちの必要を十分に満たすばか
りでなく、神への多くの感謝を通して、満ちあふれるようになるからです。
13 このわざを証拠として、彼らは、あなたがたがキリストの福音の告白に対
して従順であり、彼らに、またすべての人々に惜しみなく与えていることを
知って、神をあがめることでしょう。 14 また彼らは、あなたがたのために祈
るようになるのです。 15 ことばに表わせないほどの賜物のゆえに、神に感謝
します。

10

1 さて、私パウロは、キリストの柔和と寛容をもって、あなたがたにお勧めし
ます。私は、あなたがたの間にいて、面と向かっているときはおとなしく、離
れているあなたがたに対しては強気な者です。2 しかし、私は、あなたがたの
ところに行くときには、私たちを肉に従って歩んでいるかのように考えられて
いる人たちに対して、勇敢にふるまおうと思っています。3 私たちは肉にあって
肉に従って戦うのではありません。4 私たちの戦いの武器は、肉のものではなく
て、神に御前で要塞を破壊するほどに力があります。5 私たちは、すべての高ぶ
る思いを打ち砕き、すべてのキリストに従順になるように、あらゆる考えを
とらえて、キリストに服従させ、6 また、あなたがたの不従順を罰する用意
ができているのです。7 あなたがたは、外見を見ているのだけです。もしだれか
が、自分はキリストに属していると信じているなら、その人は、自分がキリ
ストに属しているということを、もう一度、自分で考えるがよい。私たちが
またキリストに属しているように、私たちも確かにそうです。8 あなたがたを
倒すためではなく、立てるために主が私たちに授けられた権威については、
たとい私が多少誇りすぎることがあっても、恥とはならないでしょう。9 私は
手紙であなたがたをおどしているかのように見られたくありません。10 彼らは
言います。「パウロの手紙は重みがあって力強いが、実際に会うと人前では
たいしたことはない。」11 そういう人は、手紙によって離れているときにこ
うであったように、会うときにもそのとおりです。12 私たちは、自己推薦をよ
くしようとは思いません。しかし、彼らは自分たちの間で自分を量ったり、
比較したりしているのです。13 私たちは、限度を越えて誇ることはしません。
私たちの限度は、神が私たちに割り当てた領域内で、たがいに広げられて
いるのです。14 私たちは、あなたがたのところまで行くのです。ただ、キリ
ストの福音を携えてあなたがたのところに行ったのは、私たちが最初です。
15 私たちは、他の人の働きを自分の働きとして誇ることはしません。ただ、
あなたがたの信仰が成長し、あなたがたの間で、私たちの活動が、私たちの
限度内で、さらに広げられることを望んでいます。16 そうすれば、私たちは
あなたがたを通して、他の人の領域である福音を宣べ伝えることができます。
17 誇る者は、主にあって誇りなさい。18 自分を推薦する人でなく、主に推薦される人こそ、受け入れられる人です。

11

1 私の少しばかりの愚かさをこらえていただきたいと思います。いや、あな
たがたはこらえているのです。2 というのも、私は神の熱心をもって、熱心な
あなたがたのことを思っているからです。私はあなたがたを、清純な処女と
して、ひとりの人のもとに花嫁として定めるためにしたからです。3 しかし
ながら、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、万一にもあなたがたの思
いが汚されて、キリストに対する真実と貞潔を失うことがあっては、私は心
配しています。4 というわけは、あなたがたのところに来て、私たちの宣べ
た伝えたのとは別のイエスを宣べ伝えたり、あるいは、あなたがたが受け
ていなかった異なった霊を受けたり、あるいは、あなたがたが受けたのとは
異なった福音を受けたりするのなら、あなたがたはよくこらえているのです。
5 私は自分を、あの使徒たちに劣っているとは思いません。6 たとい、話は
下手であっても、知識はそうではありません。私たちは、すべてのことを
あなたがたに対して明らかにしてきました。7 それとも、あなたがたを高め
るために、自分を低くして、神の福音を無代価であなたがたに宣べ伝えた
ことが、罪を犯したことになるのでしょうか。8 私は他の諸教会から奪い取
って、あなたがたに仕えるための費用をもらったのです。9 そして、あなた
がたのもとにいて不足のあったときには、だれにも負担をかけませんでした。
マケドニヤから来た兄弟たちが、私の不足を補ってくれたのです。私は、
万事につけ、あなたがたに重い荷を負わせないようにしてきましたし、今
後もそうするつもりです。10 キリストの真実がわたしのうちにあるように、
私のこの誇りが封じられることはありません。アカヤ地方のどこでも、
私はこのことを誇りとします。11 なぜでしょうか。私があなたがたを愛して
いないからでしょうか。神はご存じです。12 しかし、私はいましていることを
続けます。それは、私たちと同じように誇っている者たちに機会を与えて、
私たちと同じように誇られるようにするためです。13 このような者たちは、
偽使徒であり、ずるい働き人であって、キリストの使徒に偽装している者
です。

使徒に変装しているのです。 14 しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の
御使いに変装するのです。 15 ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装
したとしても、格別なことはありません。彼らの最後はそのしわざにふさわし
いものとなります。
16 くり返して言いますが、だれも、私を愚かと思ってはなりません。しかも
し、もしそう思うなら、私を愚か者扱いにしなさい。私も少し誇ってみせます
す。 17 これから話すことは、主によって話すのではなく、愚か者としてすると思
い切った自慢話です。 18 多くの人が肉によって誇っているので、私も誇ることい
にします。 19 あなたがたは賢いのに、よくも喜んで愚か者たちをこらえてもま
ます。 20 事実、あなたがたは、だれかに奴隷にされても、食い尽くされても、せ
だまされて言うのも恥ずかしいことですが、言わなければなりません。私はた
か。 21 もうのも、いばられても、顔をたたかれても、こらえているではあり
弱かったのです。しかし、人があえて誇ろうとすることなら、――私は愚かに
な言いますが、――私もあえて誇りましょう。 22 彼らはヘブル人ですか。
私もそうです。彼らはイスラエル人ですか。私もそうです。彼らはアブラハム
の子孫ですか。私もそうです。 23 彼らはキリストのしもべですか。私は狂気し
たよう言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らより多
く、牢にに入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に
直面したこともしばしばでした。 24 ユダヤ人から三十九のむちを受けたことと
が五度、 25 むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船した
と三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。 26 幾度も旅をし、川の
難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の
難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、 27 労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過
ごし、飢え渇き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともあり
た。 28 このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教
会への心づかいがあります。 29 だれかが弱くて、私が弱くない、ということ
あるでしょうか。だれかがつまずいていて、私の心が激しく痛まないでおられ
ましょうか。 30 もしどうしても誇る必要があるなら、私は自分の弱さを誇りま
す。 31 主イエス・キリストの父なる神、永遠にほめたたえられる方は、私が偽
りを言っていないのをご存じです。 32 ダマスコではアレタ王の代官が、私を捕
えようとしてダマスコの町を監視しました。 33 そのとき私は、城壁の窓から
かごでつり降ろされ、彼の手をのがれました。

12

1 無益なことですが、誇るのもやむをえないことです。私は主の幻と啓示の
ことを話しましょう。 2 私はキリストにあるひとりの人を知っています。この
人は十四年前に――肉体のままであったか、私は知りません。肉体を離れて
あったか、それも知りません。神はご存じです。――第三の天にまで引き上げ
られました。 3 私はこの人が、――それが肉体のままであったか、肉体を離れ
てであったかは知りません。神はご存じです。―― 4 パラダイスに引き上げられ
て、人間には語ることを許されていない、口に出すことのできないことばを聞
いたことを知っています。 5 このような人について私は誇るのです。しかし、
私自身については、自分の弱さ以外には誇りません。 6 たとい私が誇りたいと
思ったとしても、愚か者にはなりません。真実のことを話すのだからです。
しかし、誇ることは控えましょう。私について見ること、私から聞くこと以上
に、人が私を過大に評価するといけないからです。 7 また、その啓示があま
りにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体
に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打
つための、サタンの使いです。 8 このことについては、これを私から去らせて
くださるようにと、三度も主に願いました。 9 しかし、主は、「わたしの恵み
は、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現
われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私
をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。 10 ですから、
私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。
なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。
11 私は愚か者になりました。あなたがたが無理に私をそうしたのです。私は
当然あなたがたの推薦を受けてよかったはずです。たとい私は取るに足りない
者であっても、私はあの大使徒たちにどのような点でも劣るところはありません
でした。 12 使徒としてのしるしは、忍耐を尽くしてあなたがたの間でなされ
た、あの奇蹟と不思議と力あるわざです。 13 あなたがたが他の諸教会より劣っ
ている点は何でしょうか。それは、私のほうであなたがたには負担をかけなか
ったことだけです。この不正については、どうか、赦してください。

14 今、私はあなたがたのところに行こうとして、三度目の用意ができています。しかし、あなたがたに負担はかけません。私が求めているのは、あなたがたの持ち物ではなく、あなたがた自身だからです。子は親のためにたくわえる必要はなく、親が子のためにたくわえるべきです。 15 ですから、私はあなたがたのたましいのためには、大いに喜んで財を費やし、また私自身をさえ使い尽くしましょう。私があなたがたを愛すれば愛するほど、私はいよいよ愛されなくなるのでしょうか。 16 あなたがたに重荷は負わせなかったにしても、私は、悪賢くて、あなたがたからだまし取ったのだと言われます。 17 あなたがたのところに遣わした人たちのうちのだれによって、私があなたがたを欺くようなことがあったでしょうか。 18 私はテトスにそちらに行くように勧め、また、あの兄弟を同行させました。テトスはあなたがたを欺くようなことをしたでしょうか。私たちは同じ心で、同じ歩調で歩いたのではありませんか。

19 あなたがたは、前から、私たちがあなたがたに対して自己弁護をしているのだと思っていたことでしょう。しかし、私たちは神の御前で、キリストにあって語っているのです。愛する人たち。すべては、あなたがたを築き上げるためなのです。 20 私の恐れていることがあります。私が行ってみると、あなたがたは私の期待しているような者でなく、私もあなたがたの期待しているような者でないことになるのではないでしょうか。また、争い、ねたみ、憤り、党派心、そしり、陰口、高ぶり、騒動があるのではないでしょうか。 21 私がもう一度行くとき、またも私の神が、あなたがたの面前で、私をはずかしめることはないでしょうか。そして私は、前から罪を犯していて、その行なった汚れと不品行と好色を悔い改めない多くの人たちのために、嘆くようなことにはならないでしょうか。

13

1 私があなたがたのところへ行くのは、これで三度目です。すべての事実は、ふたりか三人の証人の口によって確認されるのです。 2 私は二度目の滞在のときに前もって言っておいたのですが、こうして離れている今も、前から罪を犯している人たちとほかのすべての人たちに、あらかじめ言っておきます。今度そちらに行ったときには、容赦はしません。 3 こう言うのは、あなたがたはキリストが私によって語っておられるという証拠を求めているからです。キリストはあなたがたに対して弱くはなく、あなたがたの間にあって強い方です。 4 確かに、弱さのゆえに十字架につけられましたが、神の力のゆえに生きておられます。私たちもキリストにあって弱い者ですが、あなたがたに対する神の力のゆえに、キリストとともに生きているのです。 5 あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。それとも、あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのですか。——あなたがたがそれに不適格であれば別です。—— 6 しかし、私たちは不適格でないことを、あなたがたが悟るように私は望んでいます。 7 私たちは、あなたがたがどんな悪をも行なわないように神に祈っています。それによって、私たち自身の適格であることが明らかになるというのではなく、たとい私たちは不適格のように見えても、あなたがたに正しい行ないをしてもらいたいためです。 8 私たちは、真理に逆らっては何をすることもできず、真理のためなら、何でもできるのです。 9 私たちは、自分は弱くてもあなたがたが強ければ、喜ぶのです。私たちはあなたがたが完全な者になることを祈っています。 10 そういうわけで、離れていてこれらのことを書いているのは、私が行ったとき、主が私に授けてくださった権威を用いて、きびしい処置をとることのないようにするためです。この権威が与えられたのは築き上げるためであって、倒すためではないのです。

11 終わりに、兄弟たち。喜びなさい。完全な者になりなさい。慰めを受けなさい。一つ心になりなさい。平和を保ちなさい。そうすれば、愛と平和の神はあなたがたとともにいてくださいます。 12 きよい口づけをもって、互いにあいさつをかわしなさい。すべての聖徒たちが、あなたがたによろしくと言っています。

13 主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。

ガラテヤ人への手紙

1 使徒となったパウロ――私が使徒となったのは、人間から出たことでなく、
また人間の手を通したことでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の
中からよみがえらせた父なる神によったのです。――2 および私とともにいるす
べての兄弟たちから、ガラテヤの諸教会へ。3 どうか、私たちの父なる神と主
イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。4 キ
リストは、今の悪の世界から私たちを救い出そうとして、私たちの罪のために
ご自身をお捨てになりました。私たちの神であり父である方のみこころによっ
たのです。5 どうか、この神に栄光がとこしえにありますように。アーメン。
6 私は、キリストの恵みをもってあなたがたを召してくださったその方を、あ
なたがたがそんなにも急に見捨てて、ほかの福音に移って行くのに驚いていま
す。7 ほかの福音といっても、もう一つ別に福音があるのではありません。あい
なたがたをかき乱す者たちがいて、キリストの福音を変えてしまおうとしてい
るだけです。8 しかし、私たちであろうと、天の御使いであろうと、もし私たの
ちが宣べ伝えた福音に反することをあなたがたに宣べ伝えるなら、その者はの
ろわれるべきです。9 私たちが前に言ったように、今もう一度私は言います。
もしだれかが、あなたがたの受けた福音に反することを、あなたがたに宣べ伝
えているなら、その者はのろわれるべきです。10 いま私は人に取り入ろうとし
ているのでしょうか。いや。神に、でしょう。あるいはまた、人の歓心を買おう
と努めているのでしょうか。もし私がいまなお人の歓心を買おうとするよう
なら、私はキリストのしもべとは言えません。
11 兄弟たちよ。私はあなたがたに知らせましょう。私が宣べ伝えた福音は、
人間によるものではありません。12 私はそれを人間からは受けなかったし、
また教えられもしませんでした。ただイエス・キリストの啓示によって受けた
のです。13 以前ユダヤ教徒であったころの私の行動は、あなたがたがすでに聞
いているところです。私は激しく神の教会を迫害し、これを滅ぼそうとしまし
た。14 また私は、自分と同族で同年輩の多くの者たちに比べ、はるかにユダヤ
教に進んでおり、先祖からの伝承に人一倍熱心でした。15 けれども、生まれた
とき から私を選び分け、恵みをもって召してくださった方が、16 異邦人の間に
御子を宣べ伝えさせるために、御子を私のうちに啓示することをよしとされた
とき、私はすぐに、人には相談せず、17 先輩の使徒たちに会うためにエルサレ
ムにも上らず、アラビヤに出て行き、またダマスコに戻りました。
18 それから三年後に、私はケパをたずねてエルサレムに上り、彼のもとに十
五日間滞在しました。19 しかし、主の兄弟ヤコブは別として、ほかの使徒には
だれにも会いませんでした。20 私があなたがたに書いていることには、神の御
前で申しますが、偽りはありません。21 それから、私はシリヤおよびキリキヤ
の地方に行きました。22 しかし、キリストにあるユダヤの諸教会には顔を知ら
れていませんでした。23 けれども、「以前私たちを迫害した者が、そのとき滅
ぼそうとした信仰を今は宣べ伝えている。」と聞いてだけはいたので、24 彼ら
は私のことで神をあがめていました。

2

1 それから十四年たって、私は、バルナバといっしょに、テトスも連れて、
再びエルサレムに上りました。2 それは啓示によって上ったのです。そして、
異邦人の間で私の宣べている福音を、人々の前に示し、おもだった人たちには
個人的にそうしました。それは、私が力を尽くしていま走っていること、また
すでに走ったことが、むだにならないためでした。3 しかし、私といっしょに
いたテトスでさえ、ギリシヤ人であったのに、割礼を強いられませんでした。
4 実は、忍び込んだにせ兄弟たちがいたので、強いられる恐れがあったのです。
彼らは私たちを奴隷に引き落とそうとして、キリスト・イエスにあって私たち
の持つ自由をうかがうために忍び込んでいたのです。5 私たちは彼らに一時も
譲歩しませんでした。それは福音の真理があなたがたの間で常に保たれるため
です。6 そして、おもだった者と見られていた人たちからは、――彼らがどれ
ほどの人たちであるにしても、私には問題ではありません。神は人を分け隔て
なさいません。――そのおもだった人たちは、私に対して、何もつけ加えるこ
とをしませんでした。7 それどころか、ペテロが割礼を受けた者への福音をゆ
だねられているように、私が割礼を受けない者への福音をゆだねられている こ
とを理解してくれました。8 ペテロにみわざをなして、割礼を受けた者への使

徒となさった方が、私にもみわざをなして、異邦人への使徒としてくださった
のです。9そして、私に与えられたこの恵みを認め、柱として重んじられてい
るヤコブとケパとヨハネが、私とバルナバに、交わりのしるしとして右手を差
し伸べました。それは、私たちが異邦人のところへ行き、彼らが割礼を受けた
人々のところへ行くためです。10ただ私たちが貧しい人たちをいつも顧みる
ようにとのことでしたが、そのことなら私も大いに努めて来たところです。
11ところが、ケパがアンテオケに来たとき、彼に非難すべきことがあったの
で、私は面と向かって抗議しました。12なぜなら、彼は、ある人々がヤコブの
ところから来る前は異邦人といっしょに食事をしていたのに、その人々が来る
と、割礼派の人々を恐れて、だんだんと異邦人から身を引き、離れて行ったか
らです。13そして、ほかのユダヤ人たちも、彼といっしょに本心を偽った行動
をとり、バルナバまでもその偽りの行動に引き込まれてしまいました。14しか
し、彼らが福音の真理についてまっすぐに歩んでいないのを見て、私はみなの
前でケパにこう言いました。「あなたは、自分がユダヤ人でありながらユダ
ヤ人のようには生活せず、異邦人のように生活していたのに、どうして異邦人
に対して、ユダヤ人の生活を強いるのですか。
15私たちは、生まれながらのユダヤ人であって、異邦人のような罪人ではあ
りません。16しかし、人は律法の行ないによっては義と認められず、ただキリ
ストを信じる信仰によって義と認められる、ということを知ったからこそ、
私たちもキリスト・イエスを信じたのです。これは、律法の行ないによって
ではなく、キリストを信じる信仰によって義と認められるためです。なぜな
ら、律法の行ないによって義と認められる者は、ひとりもいないからです。
17しかし、もし私たちが、キリストにあって義と認められようとするのなら
、罪人となってしまうのなら、キリストは罪の助成者なのでしょうか。とん
でもないことは絶対にありえないことです。18けれども、もし私が前に打ちこわ
したものをもう一度建てるなら、私は自分自身を違反者にしてしまうのです。
19しかし私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。20私はキ
リストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、
キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きている
のは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によ
っているのです。21私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得
られるとしたら、それこそキリストの死は無意味です。」

3

1ああ愚かなガラテヤ人。十字架につけられたイエス・キリストが、あなた
がたの目の前に、あんなにはっきり示されたのに、だれがあなたがたを迷わせ
たのですか。2ただこれだけをあなたがたから聞いておきたい。あなたがたが
御霊を受けたのは、律法を行なったからですか。それとも信仰をもって聞いた
からですか。3あなたがたはどこまで道理がわからないのですか。御霊で始ま
ったあなたがたが、いま肉によって完成されるというのですか。4あなたがた
があれほどのことを経験したのは、むだだったのでしょうか。万が一にもそん
なことはないでしょうが。5とすれば、あなたがたに御霊を与え、あなたがた
の間で奇蹟を行なわれた方は、あなたがたが律法を行なったから、そうなさっ
たのですか。それともあなたがたが信仰をもって聞いたからですか。6アブラ
ハムは神を信じ、それが彼の義とみなされました。それと同じことです。7で
すから、信仰による人々こそアブラハムの子孫だと知りなさい。8聖書は、神
が異邦人をその信仰によって義と認めてくださることを、前から知っていた
ので、アブラハムに対し、「あなたによってすべての国民が祝福される。」と前
もって福音を告げたのです。9そういうわけで、信仰による人々が、信仰のア
ブラハムとともに、祝福を受けるのです。10というのは、律法の行ないによ
る人々はすべて、のろいのもとにあるからです。こう書いてあります。「律
法の書に書いてある、すべてのことを堅く守って実行しなければ、だれでもみ
な、のろわれる。」11ところが、律法によって神の前に義と認められる者が、
だれもいないということは明らかです。「義人は信仰によって生きる。」のだ
からです。12しかし律法は、「信仰による。」のではありません。「律法を行
なう者はこの律法によって生きる。」のです。13キリストは、私たちのために
のろわれたものとなって、私たちを律法ののろいから贖い出してくださいま
した。なぜなら、「木にかけられる者はすべてのろわれたものである。」と書い
てあるからです。14このことは、アブラハムへの祝福が、キリスト・イエス
によって異邦人に及ぶためであり、その結果、私たちが信仰によって約束の御霊
を受けるためなのです。

15 兄弟たち。人間のばあいにたとえてみましょう。人間の契約でも、いった
ん結ばれたら、だれもそれを無効にしたり、それにつけ加えたりはしません。
16 ところで、約束は、アブラハムとそのひとりの子孫に告げられました。神は
「子孫たちに」と言って、多数をさすことはせず、ひとりをさして、「あなた
の子孫に」と言っておられます。その方はキリストです。 17 私の言おうとす
るのはこうです。先に神によって結ばれた契約は、その後四百三十年たってい
きたとき律法によって取り消されたり、その約束が無効とされたりすることは
ないのです。 18 なぜなら、相続がもし律法によるのなら、もはや約束によ
るのではないからです。ところが、神は約束を通してアブラハムに相続の恵み
を下さったのです。 19 では、律法とは何でしょうか。それは約束をお受けに
なった、この子孫が来られるときまで、違反を示すためにつけ加えられたもの
で、御使いたちを通して仲介者の手で定められたのです。 20 仲介者は一方だけ
に属するものではありません。しかし約束を賜わる神は唯一者です。 21 とすれ
ば、律法は神の約束に反するのでしょうか。絶対にそんなことはありません。
もし、与えられた律法がいのちを与えることのできるものであったなら、義
は確かに律法によるものだったでしょう。 22 しかし聖書は、逆に、すべての
人を罪の下に閉じ込めました。それは約束が、イエス・キリストに対する信仰
によって、信じる人々に与えられるためです。
23 信仰が現われる以前には、私たちは律法の監督の下に置かれ、閉じ込めら
れていましたが、それは、やがて示される信仰が得られるためでした。 24 こう
して、律法は私たちをキリストへ導くための私たちの養育係となりました。私
たちが信仰によって義と認められるためなのです。 25 しかし、信仰が現われた
以上、私たちはもはや養育係の下にはいません。 26 あなたがたはみな、キリス
ト・イエスに対する信仰によって、神の子どもです。 27 バプテスマを受けてキ
リストにつく者とされたあなたがたはみな、キリストをその身に着たのです。
28 ユダヤ人もギリシヤ人もなく、奴隷も自由人もなく、男子も女子もありませ
ん。なぜなら、あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって、一つだからで
す。 29 もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハム
の子孫であり、約束による相続人なのです。

4

1 ところが、相続人というものは、全財産の持ち主なのに、子どものうちは、
奴隷と少しも違わず、 2 父の定めた日までは、後見人や管理者の下にあります。
3 私たちもそれと同じで、まだ小さかった時には、この世の幼稚な教えの下に
奴隷となっていました。 4 しかし定めの時が来たので、神はご自分の御子を遣
わし、この方を、女から生まれた者、また律法の下にある者となさいました。
5 これは律法の下にある者を贖い出すためで、その結果、私たちが子としての身
分を受けるようになるためです。 6 そして、あなたがたは子であるゆえに、神
は「アバ、父。」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいま
した。 7 ですから、あなたがたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神
による相続人です。
8 しかし、神を知らなかった当時、あなたがたは本来は神でない神々の奴隷
でした。 9 ところが、今では神を知っているのに、いや、むしろ神に知られて
いるのに、どうしてあの無力、無価値の幼稚な教えに逆戻りして、再び新たに
その奴隷になろうとするのですか。 10 あなたがたは、各種の日と月と季節と年
とを守っています。 11 あなたがたのために私の労したことは、むだだったの
ではないか、と私はあなたがたのことを案じています。
12 お願いです。兄弟たち。私のようになってください。私もあなたがたの
ようになったのですから。あなたがたは私に何一つ悪いことをしていません。
13 ご承知のとおり、私が最初あなたがたに福音を伝えたのは、私の肉体が弱か
ったためでした。 14 そして私の肉体には、あなたがたにとって試練となるも
のがあったのに、あなたがたは軽蔑したり、きらったりしないで、かえって神
の御使いのように、またキリスト・イエスご自身であるかのように、私を迎え
てくれました。 15 それなのに、あなたがたのあの喜びは、今どこにあるのです
か。私はあなたがたのためにあかししますが、あなたがたは、もしできれば自
分の目をえぐり出して私に与えたいとさえ思ったではありませんか。 16 それで
は、私は、あなたがたに真理を語ったために、あなたがたの敵になったのでし
ょうか。 17 あなたがたに対するあの人々の熱心は正しいものではありません。
彼らはあなたがたを自分たちに熱心にならせようとして、あなたがたを福音の
恵みから締め出そうとしているのです。 18 良いことで熱心に慕われるのは、
いつであっても良いものです。それは私があなたがたといっしょにいるときだ
けではありません。 19 私の子どもたちよ。あなたがたのうちにキリストが形造

られるまで、私は再びあなたがたのために産みの苦しみをしています。 20 それで、今あなたがたといっしょにいることができたら、そしてこんな語調でなく話せたらと思います。あなたがたのことをどうしたらよいかと困っているのです。

21 律法の下にいたいと思う人たちは、私に答えてください。あなたがたは律法の言うことを聞かないのですか。 22 そこには、アブラハムにふたりの子があって、ひとりは女奴隷から、ひとりは自由の女から生まれた、と書かれています。 23 女奴隷の子は肉によって生まれ、自由の女の子は約束によって生まれたのです。 24 このことには比喩があります。この女たちは二つの契約です。一つはシナイ山から出ており、奴隷となる子を産みます。その女はハガルです。 25 このハガルは、アラビヤにあるシナイ山のことで、今のエルサレムに当たります。なぜなら、彼女はその子どもたちとともに奴隷だからです。 26 しかし、上にあるエルサレムは自由であり、私たちの母です。 27 すなわち、こう書いてあります。

「喜べ。子を産まない不妊の女よ。
声をあげて呼ばわれ。
産みの苦しみを知らない女よ。
夫に捨てられた女の産む子どもは、
夫のある女の産む子どもよりも多い。」

28 兄弟たちよ。あなたがたはイサクのように約束の子どもです。 29 しかし、かつて肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりです。 30 しかし、聖書は何と言っていますか。「奴隷の女とその子どもを追い出せ。奴隷の女の子どもは決して自由の女の子どもとともに相続人になってはならない。」 31 こういうわけで、兄弟たちよ。私たちは奴隷の女の子どもではなく、自由の女の子どもです。

5

1 キリストは、自由を得させるために、私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは、しっかり立って、またと奴隷のくびきを負わせられないようにしなさい。 2 よく聞いてください。このパウロがあなたがたに言います。もし、あなたがたが割礼を受けるなら、キリストは、あなたがたにとって、何の益もないのです。 3 割礼を受けるすべての人に、私は再びあかしします。その人は律法の全体を行なう義務があります。 4 律法によって義と認められようとしているあなたがたは、キリストから離れ、恵みから落ちてしまったのです。 5 私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。 6 キリスト・イエスにあっては、割礼を受ける受けないは大事なことではなく、愛によって働く信仰だけが大事なのです。 7 あなたがたはよく走っていたのに、だれがあなたがたを妨げて、真理に従わなくさせたのですか。 8 そのような勧めは、あなたがたを召してくださった方から出たものではありません。 9 わずかのパン種が、こねた粉の全体を発酵させるのです。 10 私は主にあって、あなたがたが少しも違った考えを持っていないと確信しています。しかし、あなたがたをかき乱す者は、だれであろうと、さばきを受けるのです。 11 兄弟たち。もし私が今でも割礼を宣べ伝えているなら、どうして今なお迫害を受けることがありましょう。それなら、十字架のつまずきは取り除かれているはずです。 12 あなたがたをかき乱す者どもは、いっそのこと不具になってしまうほうがよいのです。

13 兄弟たち。あなたがたは、自由を与えられるために召されたのです。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって互いに仕えなさい。 14 律法の全体は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」という一語をもって全うされるのです。 15 もし互いにかみ合ったり、食い合ったりしているなら、お互いの間で滅ぼされてしまいます。気をつけなさい。

16 私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。 17 なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです。 18 しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。 19 肉の行ないは明白であって、次のようなものです。不品行、汚れ、好色、 20 偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、 21 ねたみ、酩酊、遊興、そういった類のものです。前にもあらかじめ言ったように、私は今もあなたがたにあらかじめ言っておきます。こんなことをしている者たちが神の国を相続することはありません。 22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、 23 柔和、自制です。このようなものを禁ずる律法は

ありません。 24 キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、さまざまの情欲や
欲望とともに、十字架につけてしまったのです。
25 もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではあ
りませんか。 26 互いにいどみ合ったり、そねみ合ったりして、虚栄に走ること
のないようにしましょう。

6

1 兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなた
がたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥ら
ないように気をつけなさい。 2 互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリス
トの律法を全うしなさい。 3 だれでも、りっぱでもない自分を何かりっぱでも
あるかのように思うなら、自分を欺いているのです。 4 おのおの自分の行ない
をよく調べてみなさい。そうすれば、誇れると思ったことも、ただ自分だけの
誇りで、ほかの人に対して誇れることではないでしょう。 5 人にはおのおの、
負うべき自分自身の重荷があるのです。
6 みことばを教えられる人は、教える人とすべての良いものを分け合いなさ
い。 7 思い違いをしてはいけません。神は侮られるような方ではありません。
人は種を蒔けば、その刈り取りもすることになります。 8 自分の肉のために蒔
く者は、肉から滅びを刈り取り、御霊のために蒔く者は、御霊から永遠のいの
ちを刈り取るのです。 9 善を行なうのに飽いてはいけません。失望せずにいれ
ば、時期が来て、刈り取ることになります。 10 ですから、私たちは、機会のあ
るたびに、すべての人に対して、特に信仰の家族の人たちに善を行ないましょ
う。
11 ご覧のとおり、私は今こんなに大きな字で、自分のこの手であなたがたに
書いています。 12 あなたがたに割礼を強制する人たちは、肉において外見を
良くしたい人たちです。彼らはただ、キリストの十字架のために迫害を受けた
くないだけなのです。 13 なぜなら、割礼を受けた人たちは、自分自身が律法を
守っていません。それなのに彼らがあなたがたに割礼を受けさせようとするの
は、あなたがたの肉を誇りたいためなのです。 14 しかし私には、私たちの主イ
エス・キリストの十字架以外に誇りとするものが決してあってはなりません。
この十字架によって、世界は私に対して十字架につけられ、私も世界に対して
十字架につけられたのです。 15 割礼を受けているか受けていないかは、大事な
ことではありません。大事なのは新しい創造です。 16 どうか、この基準に従っ
て進む人々、すなわち神のイスラエルの上に、平安とあわれみがありますよう
に。
17 これからは、だれも私を煩わさないようにしてください。私は、この身
に、イエスの焼き印を帯びているのですから。
18 どうか、私たちの主イエス・キリストの恵みが、兄弟たちよ、あなたがた
の霊とともにありますように。アーメン。

エペソ人への手紙

1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロから、キリスト・イエ
スにある忠実なエペソの聖徒たちへ。 2 私たちの父なる神と主イエス・キリ
ストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。
3 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神く
はキリストにおいて、天にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してて
ださいました。 4 すなわち、神は私たちを世界の基の置かれる前からキリスト
のううちに選び、御前できよく、傷のない者にしようとされました。 5 神は、たう
だみこころのままに、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしよす
と、愛をもってあらかじめ定めておられたのです。 6 それは、神がその愛するで
方によって私たちに与えてくださった恵みの栄光が、ほめたたえられるため罪
す。 7 私たちは、この御子のうちにあって、御子の血による贖い、すなわち罪
のの赦しを受けているのです。これは神の豊かな恵みによることです。 8 神はここ
の恵みを私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、 9 みてあこ
こらの奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、神が御子において
らかじめお立てになったご計画によることであって、 10 時がついに満ちて、こっス
のの時のためのみこころが実行に移され、天にあるものも地にあるものも、いリ
さいのものが、キリストにあって一つに集められることなのです。このキ
トにあって、 11 私たちは彼にあって御国を受け継ぐ者ともなったのです。私たの
ちは、みこころによりご計画のままをみな実現される方の目的に従って、こを
ょうにあらかじめ定められていたのです。 12 それは、前からキリストに望みを
置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえる者となるためです。 13 またあな
た方がたも、キリストにあって、真理のことば、すなわちあなたがたの救いの福
音を聞き、またそれを信じたことによって、約束の聖霊をもって証印を押され
ました。 14 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証であられます。これは神
の民の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためです。
15 こういうわけで、私は主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖
徒に対する愛とを聞いて、 16 あなたがたのために絶えず感謝をささげ、あなた
がたのことを覚えて祈っています。 17 どうか、私たちの主イエス・キリストの
神、すなわち栄光の父が、神を知るための知恵と啓示の御霊を、あなたがたに
与えてくださいますように。 18 また、あなたがたの心の目がはっきり見えるよ
うになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受
け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、 19 また、神の全能の力の働きに
よって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるか
を、あなたがたが知ることができますように。 20 神は、その全能の力をキリス
トのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上において
自分の右の座に着かせて、 21 すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、
今の世ばかりでなく、次に来る世においてもとなえられる、すべての名の上に
高く置かれました。 22 また、神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わ
せ、いっさいのものの上に立つかしらであるキリストを、教会にお与えになり
ました。 23 教会はキリストのからだであり、いっさいのものをいっさいの
によって満たす方の満ちておられるところです。

2

1 あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、 2 そのころ
は、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者と
して今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。 3 私た
ちもみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉
と心の望むままを行ない、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを
受けるべき子らでした。 4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛してくだ
さったその大きな愛のゆえに、 5 罪過の中に死んでいたこの私たちをキリスト と
ともに生かし、――あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。――
6 キリスト・イエスにおいて、ともによみがえらせ、ともに天の所にすわらせて
くださいました。 7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御
恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜わる慈愛によって明らかにお示
しになるためでした。 8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われた
のです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。 9 行な
いによるのではありません。だれも誇ることのないためです。 10 私たちは神の

作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。

11 ですから、思い出してください。あなたがたは、以前は肉において異邦
人でした。すなわち、肉において人の手による、いわゆる割礼を持つ人々から
は、無割礼の人々と呼ばれる者であって、 12 そのころのあなたがたは、キリス
トから離れ、イスラエルの国から除外され、約束の契約については他国人であ
り、この世にあって望みもなく、神もない人たちでした。 13 しかし、以前は遠
く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、
キリストの血によって近い者とされたのです。 14 キリストこそ私たちの平和
であり、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ちこわし、 15 ご自分の肉におい
て、敵意を廃棄された方です。敵意とは、さまざまの規定から成り立っている
戒めの律法なのです。このことは、二つのものをご自身において新しいひとり
の人に造り上げて、平和を実現するためであり、 16 また、両者を一つのからだ
として、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって
葬り去られました。 17 それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに
平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。 18 私たちは、このと
キリストによって、両者ともに一つの御霊において、父のみもとに近づくことが
できるのです。 19 こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者
でもなく、今は聖徒たちと同じ国民であり、神の家族なのです。 20 あなたがた
は使徒と預言者という土台の上に建てられており、キリスト・イエスご自身が
その礎石です。 21 この方にあって、組み合わされた建物の全体が成長し、主に
ある聖なる宮となるのであり、 22 このキリストにあって、あなたがたもとも
に建てられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

3

1 こういうわけで、あなたがた異邦人のためにキリスト・イエスの囚人とな
った私パウロが言います。 2 あなたがたのためにと私がいただいた、神の恵み
による私の務めについて、あなたがたはすでに聞いたことでしょう。 3 先に簡
単に書いたとおり、この奥義は、啓示によって私に知らされたのです。 4 それ
を読めば、私がキリストの奥義をどう理解しているかがよくわかるはずです。
5 この奥義は、今は、御霊によって、キリストの聖なる使徒たちと預言者たちに
啓示されていますが、前の時代には、今と同じようには人々に知らされていま
せんでした。 6 その奥義とは、福音により、キリスト・イエスにあって、異邦
人もまた共同の相続者となり、ともに一つのからだに連なり、ともに約束にあ
ずかる者となるということです。 7 私は、神の力の働きにより、自分に与えら
れた神の恵みの賜物によって、この福音に仕える者とされました。 8 すべての
聖徒たちのうちで一番小さな私に、この恵みが与えられたのは、私がキリスト
の測りがたい富を異邦人に宣べ伝え、 9 また、万物を創造された神の中に世々
隠されていた奥義を実行に移す務めが何であるかを明らかにするためにほかな
りません。 10 これは、今、天にある支配と権威とに対して、教会を通して、神
の豊かな知恵が示されるためであって、 11 私たちの主キリスト・イエスにおい
て実現された神の永遠のご計画に沿ったことです。 12 私たちはこのキリストに
あり、キリストを信じる信仰によって大胆に確信をもって神に近づくことがで
きるのです。 13 ですから、私があなたがたのために受けている苦難のゆえに落
胆することのないようお願いします。私の受けている苦しみは、そのまま、あ
なたがたの光栄なのです。

14 こういうわけで、私はひざをかがめて、 15 天上と地上で家族と呼ばれる
すべてのものの名の元である父の前に祈ります。 16 どうか父が、その栄光の豊
かさに従い、御霊により、力をもって、あなたがたの内なる人を強くしてくだ
さいますように。 17 こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなた
がたの心のうちに住んでいてくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基
礎を置いているあなたがたが、 18 すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高
さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、 19 人知をはるか
に越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満
ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。

20 どうか、私たちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うとこ
ろのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、 21 教会により、またキリス
ト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、とこしえまでありますように。
アーメン。

4

1 さて、主の囚人である私はあなたがたに勧めます。召されたあなたがたは、
その召しにふさわしく歩みなさい。 2 謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、
愛をもって互いに忍び合い、 3 平和のきずなで結ばれて御霊の一致を熱心に保ち
なさい。 4 からだは一つ、御霊は一つです。あなたがたが召されたとき、召し
のもたらした望みが一つであったのと同じです。 5 主は一つ、信仰は一つ、バ
プテスマは一つです。 6 すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべ
てのもののうちにおられる、すべてのものの父なる神は一つです。 7 しかし、私
たちはひとりひとり、キリストの賜物の量りに従って恵みを与えられました。
8 そこで、こう言われています。

「高い所に上られたとき、
彼は多くの捕虜を引き連れ、
人々に賜物を分け与えられた。」

9 ——この「上られた。」ということばは、彼がまず地の低い所に下られた、
ということでなくて何でしょう。 10 この下られた方自身が、すべてのものを
満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方なのです。—— 11 こうし
て、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、
ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。 12 それは、聖徒た
ちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、
13 ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達
し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するため
です。 14 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を
欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたり
することがなく、 15 むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成
長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。 16 キリス
トによって、からだ全体は、一つ一つの部分がその力量にふさわしく働く力
により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わさ
れ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです。

17 そこで私は、主にあって言明し、おごそかに勧めます。もはや、異邦人が
むなしい心で歩んでいるように歩んではなりません。 18 彼らは、その知性にお
いて暗くなり、彼らのうちにある無知と、かたくなな心とのゆえに、神のいの
ちから遠く離れています。 19 道徳的に無感覚となった彼らは、好色に身をゆだ
ねて、あらゆる不潔な行ないをむさぼるようになっています。 20 しかし、あな
たがたはキリストのことを、このようには学びませんでした。 21 ただし、ほん
とうにあなたがたがキリストに聞き、キリストにあって教えられているのなら
ばです。まさしく真理はイエスにあるのですから。 22 その教えとは、あなたが
たの以前の生活について言うならば、人を欺く情欲によって滅びて行く古い人
を脱ぎ捨てるべきこと、 23 またあなたがたが心の霊において新しくされ、 24 真
理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべ
きことでした。

25 ですから、あなたがたは偽りを捨て、おのおの隣人に対して真実を語りなさ
い。私たちはからだの一部分として互いにそれぞれのものだからです。 26 怒っ
ても、罪を犯してはなりません。日が暮れるまで憤ったままでいてはいけませ
ん。 27 悪魔に機会を与えないようにしなさい。 28 盗みをしている者は、もう
盗んではいけません。かえって、困っている人に施しをするため、自分の手を
もって正しい仕事をし、ほねおって働きなさい。 29 悪いことばを、いっさい口
から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことば
を話し、聞く人に恵みを与えなさい。 30 神の聖霊を悲しませてはいけません。
あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。
31 無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意とともに、みな
捨て去りなさい。 32 お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリスト
においてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。

5

1 ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。 2 ま
た、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのため
に、ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげに
なりました。

3 あなたがたの間では、聖徒にふさわしく、不品行も、どんな汚れも、またむ
さぼりも、口にすることさえいけません。 4 また、みだらなことや、愚かな話
や、下品な冗談を避けなさい。そのようなことは良くないことです。むしろ、
感謝しなさい。 5 あなたがたがよく見て知っているとおり、不品行な者や、汚

れた者や、むさぼる者――これが偶像礼拝者です。――こういう人はだれも、
キリストと神との御国を相続することができません。 6 むなしいことばに、だ
まされてはいけません。こういう行ないのゆえに、神の怒りは不従順な子らに
下るのです。 7 ですから、彼らの仲間になってはいけません。 8 あなたがたは、
以前は暗やみでしたが、今は、主にあって、光となりました。光の子どもらし
く歩みなさい。 9 ――光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです。――
10 そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。 11 実を結ば
ない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出しなさい。
12 なぜなら、彼らがひそかに行なっていることは、口にするのも恥ずかしいこ
とだからです。 13 けれども、明るみに引き出されるものは、みな、光によって
明らかにされます。 14 明らかにされたものはみな、光だからです。それで、こ
う言われています。
「眠っている人よ。目をさませ。
死者の中から起き上がれ。
そうすれば、キリストが、あなたを照らされる。」

15 そういうわけですから、賢くない人のようにではなく、賢い人のように歩
んでいるかどうか、よくよく注意し、 16 機会を十分に生かして用いなさい。悪
い時代だからです。 17 ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるか
を、よく悟りなさい。 18 また、酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があ
る からです。御霊に満たされなさい。 19 詩と賛美と霊の歌とをもって、互いに
語り、主に向かって、心から歌い、また賛美しなさい。 20 いつでも、すべての
ことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって父なる神に感謝しな
さい。 21 キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。
22 妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。 23 な
ぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であ
られるように、夫は妻のかしらであるからです。 24 教会がキリストに従うよう
に、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。 25 夫たちよ。キリスト
が教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自
分の妻を愛しなさい。 26 キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗
いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、 27 ご自身で、しみ
や、しわや、そのようなものの何一つない、きよく傷のないものとなった栄光
の教会を、ご自分の前に立たせるためです。 28 そのように、夫も自分の妻を自
分のからだのように愛さなければなりません。自分の妻を愛する者は自分を愛
しているのです。 29 だれも自分の身を憎んだ者はいません。かえって、これを
養い育てます。それはキリストが教会をそうされたのと同じです。 30 私たちは
キリストのからだの部分だからです。 31 「それゆえ、人はその父と母を離れ、
妻と結ばれ、ふたりは一心同体となる。」 32 この奥義は偉大です。私は、キリ
ストと教会とをさして言っているのです。 33 それはそうとして、あなたがた
も、おのおの自分の妻を自分と同様に愛しなさい。妻もまた自分の夫を敬いな
さい。

6

1 子どもたちよ。主にあって両親に従いなさい。これは正しいことだからで
す。 2 「あなたの父と母を敬え。」これは第一の戒めであり、約束を伴った
のです。すなわち、 3 「そうしたら、あなたはしあわせになり、地上で長生き
する。」という約束です。 4 父たちよ。あなたがたも、子どもをおこらせて
いけません。かえって、主の教育と訓戒によって育てなさい。
5 奴隷たちよ。あなたがたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心
から地上の主人に従いなさい。 6 人のごきげんとりのような、うわべだけの仕
え方でなく、キリストのしもべとして、心から神のみこころを行ない、 7 人に
ではなく、主に仕えるように、善意をもって仕えなさい。 8 良いことを行なえ
ば、奴隷であっても自由人であっても、それぞれその報いを主から受けること
をあなたがたは知っています。 9 主人たちよ。あなたがたも、奴隷に対して同
じようにふるまいなさい。おどすことはやめなさい。あなたがたは、彼らとあ
なたがたとの主が天におられ、主は人を差別されることがないことを知って
るのですから。
10 終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。
11 悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身
に着けなさい。 12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、こ
の暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するもの
です。 13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し

遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。 14 で
は、しっかりと立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着
け、 15 足には平和の福音の備えをはきなさい。 16 これらすべてのものの上に、
信仰の大盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢を、みな消すこと
ができます。 17 救いのかぶとをかぶり、また御霊の与える剣である、神のこと
ばを受け取りなさい。 18 すべての祈りと願いを用いて、どんなときにも御霊
によって祈りなさい。そのためには絶えず目をさましていて、すべての聖徒の
ために、忍耐の限りを尽くし、また祈りなさい。 19 また、私が口を開くとき、
語るべきことばが与えられ、福音の奥義を大胆に知らせることができるように
私のためにも祈ってください。 20 私は鎖につながれて、福音のために大使の役
を果たしています。鎖につながれていても、語るべきことを大胆に語れるよう
に、祈ってください。
21 あなたがたにも私の様子や、私が何をしているかなどを知っていただくた
めに、主にあって愛する兄弟であり、忠実な奉仕者であるテキコが、一部始終
を知らせるでしょう。 22 テキコをあなたがたのもとに遣わしたのは、ほかでも
なく、あなたがたが私たちの様子を知り、また彼によって心に励ましを受ける
ためです。
23 どうか、父なる神と主イエス・キリストから、平安と信仰に伴う愛とが兄
弟たちの上にありますように。 24 私たちの主イエス・キリストを朽ちぬ愛をも
って愛するすべての人の上に、恵みがありますように。

ピリピ人への手紙

1 キリスト・イエスのしもべであるパウロとテモテから、ピリピにいるキリ
スト・イエスにあるすべての聖徒たち、また監督と執事たちへ。 2 どうか、私
たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にあ
りますように。
3 私は、あなたがたのことを思うごとに私の神に感謝し、 4 あなたがたすべて
のために祈るごとに、いつも喜びをもって祈り、 5 あなたがたが、最初の日か
ら今日まで、福音を広めることにあずかって来たことを感謝しています。 6 あ
なたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るま
でにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです。 7 私があなた
がたすべてについてこのように考えるのは正しいのです。あなたがたはみな、
私が投獄されているときも、福音を弁明し立証しているときも、私とともに恵
みにあずかった人々であり、私は、そのようなあなたがたを、心に覚えていま
からです。 8 私が、キリスト・イエスの愛の心をもって、どんなにあなたがた
すべてを慕っているか、そのあかしをしてくださるのは神です。 9 私は祈って
います。あなたがたの愛が真の知識とあらゆる識別力によって、いよいよ豊か
になり、 10 あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようにな
りますように。またあなたがたが、キリストの日には純真で非難されるところ
がなく、 11 イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者と
なり、神の御栄えと誉れが現わされますように。
12 さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音を前進させるこ
となったのを知ってもらいたいと思います。 13 私がキリストのゆえに投獄
されている、ということは、親衛隊の全員と、そのほかのすべての人にも明ら
かになり、 14 また兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことにより、主にあっ
て確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るように
なりました。 15 人々の中にはねたみや争いをもってキリストを宣べ伝えるものも
いますが、善意をもってする者もいます。 16 一方の人たちは愛をもってキリス
トを伝え、私が福音を弁証するために立てられていることを認めています。
17 他の人たちは純真な動機からではなく、党派心をもって、キリストを宣べ伝
えており、投獄されている私をさらに苦しめるつもりなのです。 18 すると、とど
ういうことになりますか。つまり、見せかけであろうとも、真実であろうとも
、あらゆるしかたで、キリストが宣べ伝えられているのであって、このことを
私は喜んでいます。そうです、今からも喜ぶことでしょう。 19 というのは、あな
たがたの祈りとイエス・キリストの御霊の助けによって、これが私の救いとな
ることを私は知っているからです。 20 それは、私がどういうことにも恥じる
ことなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにしても、死ぬにしても
、私の身によって、キリストのすばらしさが現わされることを求めて切なる願
いと望みにかなっているのです。 21 私にとっては、生きることはキリスト、死
ぬこともまた益です。 22 しかし、もしこの肉体のいのちが続くとしたら、私の
働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいのか、私にはわ
かりません。 23 私は、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願
いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかに
まさっています。 24 しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのために
は、もっと必要です。 25 私はこのことを確信しています。だから、あなたがた
の信仰の進歩と喜びとのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてとい
っしょにいるようになることを知っています。 26 そうなれば、私はもう一度あ
なたがたのところに行けるので、私のことに関するあなたがたの誇りは、キリ
スト・イエスにあって増し加わるでしょう。
27 ただ、キリストの福音にふさわしく生活しなさい。そうすれば、私が行っ
てあなたがたに会うにしても、また離れているにしても、私はあなたがたにつ
いて、こう聞くことができるでしょう。あなたがたは霊を一つにしてしっかり
と立ち、心を一つにして福音の信仰のために、ともに奮闘しており、 28 また、
どんなことがあっても、反対者たちに驚かされることはないと。それは、彼ら
にとっては滅びのしるしであり、あなたがたにとっては救いのしるしです。こ
れは神から出たことです。 29 あなたがたは、キリストのために、キリストを信
じる信仰だけでなく、キリストのための苦しみをも賜わったのです。 30 あなた
がたは、私について先に見たこと、また、私についていま聞いているのと同じ
戦いを経験しているのです。

2

1 こういうわけですから、もしキリストにあって励ましがあり、愛の慰めがあ
り、御霊の交わりがあり、愛情とあわれみがあるなら、 2 私の喜びが満たされ
るように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一っ
つにしてください。 3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだは
て、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。 4 自分のことだけではな
く、他の人のことも顧みなさい。 5 あなたがたの間では、そのような心構えス
いなさい。それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。 6 キリトは考
は、神の御姿であられる方なのに、神のあり方を捨てることができないとにな
えないので、 7 ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようにく
れたのです。 8 キリストは人間と同じようなかたちになり、自分を卑しなし、
死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。 9 それゆえ、神は、
キリストを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。 10 そも
れは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるも
のすべてが、ひざをかがめ、 11 すべての口が、「イエス・キリストは主であ
る。」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。
12 そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私が
いるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いを
達成してください。 13 神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて
志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。 14 すべてのことを、つぶやかな
ず、疑わずに行ないなさい。 15 それは、あなたがたが、非難されるところのな
い純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない神の子など
もとなり、 16 いのちのことばをしっかり握って、彼らの間で世の光として輝くた
めです。そうすれば、私は、自分の努力したことがむだではなく、苦労したこと
ともむだでなかったことを、キリストの日に誇ることができます。 17 たとい
私が、あなたがたの信仰の供え物と礼拝とともに、注ぎの供え物となっても、
私は喜びます。あなたがたすべてとともに喜びます。 18 あなたがたも同じよう
に喜んでください。私といっしょに喜んでください。
19 しかし、私もあなたがたのことを知って励ましを受けたいので、早くテモ
テをあなたがたのところに送りたいと、主イエスにあって望んでいます。 20 テ
テモのように私と同じ心になって、真実にあなたがたのことを心配している者
は、ほかにだれもいないからです。 21 だれもみな自分自身のことを求めるだけ
で、キリスト・イエスのことを求めてはいません。 22 しかし、テモテのりっぱ
な働きぶりは、あなたがたの知っているところです。子が父に仕えるようにしど
て、彼は私といっしょに福音に奉仕して来ました。 23 ですから、私のこと自身が
うなるかがわかりしだい、彼を遣わしたいと望んでいます。 24 しかし私も
近いうちに行けることと、主にあって確信しています。 25 しかし、私の兄弟、
同労者、戦友、またあなたがたの使者として私の窮乏のときに仕えてくれた
人エパフロデトは、あなたがたのところに送らねばならないと思っています。
26 彼は、あなたがたすべてを慕い求めており、また、自分の病気のことがあな
たがたに伝わったことを気にしているからです。 27 ほんとうに、彼は死ぬほど
の病気にかかりましたが、神は彼をあわれんでくださいました。彼ばかりでな
く私をもあわれんで、私にとって悲しみに悲しみが重なることのないようにし
てくださいました。 28 そこで、私は大急ぎで彼を送ります。あなたがたが彼に
再び会って喜び、私も心配が少なくなるためです。 29 ですから、喜びにあふれ
て、主にあって、彼を迎えてください。また、彼のような人々には尊敬を払い
なさい。 30 なぜなら、彼は、キリストの仕事のために、いのちの危険を冒して
死ぬばかりになったからです。彼は私に対して、あなたがたが私に仕えること
のできなかった分を果たそうとしたのです。

3

1 最後に、私の兄弟たち。主にあって喜びなさい。前と同じことを書きます
が、これは、私には煩わしいことではなく、あなたがたの安全のためにもなるこ
とです。 2 どうか犬に気をつけてください。悪い働き人に気をつけてください。
肉体だけの割礼の者に気をつけてください。 3 神の御霊によって礼拝をし、
キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割
礼の者なのです。 4 ただし、私は、人間的なものにおいても頼むところがあり
ます。もし、ほかの人が人間的なものに頼むところがあると思うなら、私は、
それ以上です。 5 私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミ
ンの分かれの者です。きっすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、 6 そ
の熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるとこ
ろのない者です。 7 しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私

はキリストのゆえに、損と思うようになりました。 8 それどころか、私の主でキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨て、それらをちりあくたと思っています。それは、私には、キリストを得、 9 キリストとともにあるためです。私が自分の義と認められ、律法によるのではなく、キリストを信じる者となるためです。それは、信仰によって、神から与えられる義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことです。 10 私は、キリストとその復活の力を知り、キリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になりたいのです。 11 どうにかして、死者の中からの復活に達したいのです。 12 私は、すでにそれを得たとか、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕えようと追い求めているのです。私は、自分はすでに捕えられたとか思っていません。 13 兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたとは思っていません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かって進み、 14 キリストの召しによる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っています。 15 ですから、成人である者はみな、このような考え方をしているのです。もし、あなたがたがどこかでこれと違った考え方をしているなら、神はそのことをもあなたがたに明らかにしてくださいます。 16 それはそれとして、私たちはすでに達しているところを基準として、進むべきです。

17 兄弟たち。私を見ならう者になってください。また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。 18 というのは、私はしばしばあなたがたに言って来たし、今も涙をもって言うのですが、多くの人々がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。 19 彼らの最後は滅びです。彼らの神は彼らの欲望であり、彼らの栄光は彼らの恥なのです。彼らの思いは地上のことだけです。 20 けれども、私たちの国籍は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主としておいでになるのを、私たちは待ち望んでいます。 21 キリストは、万物をご自身に従わせることのできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じ姿に変えてくださるのです。

4

1 そういうわけですから、私の愛し慕う兄弟たち、私の喜び、冠よ。どうか、このように主にあってしっかりと立ってください。私の愛する人たち。

2 ユウオデヤに勧め、スントケに勧めます。あなたがたは、主にあって一致してください。 3 ほんとうに、真の協力者よ。あなたにも頼みます。彼女たちを助けてやってください。この人たちは、いのちの書に名のしるされているクレメンスや、そのほかの私の同労者たちとともに、福音を広めることで私に協力して戦ったのです。

4 いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。 5 あなたがたの寛容な心を、すべての人に知らせなさい。主は近いのです。 6 何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。 7 そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

8 最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべてのきよいこと、すべての愛すべきこと、すべての評判のよいこと、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。 9 あなたがたが私から学び、受け、聞き、また見たことを実行しなさい。そうすれば、平和の神があなたがたとともにいてくださいます。

10 私のことを心配してくれるあなたがたの心が、今ついによみがえって来たことを、私は主にあって非常に喜んでいます。あなたがたは心にかけてはいたのですが、機会がなかったのです。 11 乏しいから こう言うのではありません。私は、どんな境遇にあっても満ち足りることを学びました。 12 私は、貧しさの中にいる道も知っており、豊かさの中にいる道も知っています。また、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、あらゆる境遇に対処する秘訣を心得ています。 13 私は、私を強くしてくださる方によって、どんなことでもできるのです。 14 それにしても、あなたがたは、よく私と困難を分け合ってくれました。 15 ピリピの人たち。あなたがたも知っているとおり、私が福音を宣べ伝え始めたころ、マケドニヤを離れて行ったときには、私の働きのために、物をやり取りしてくれた教会は、あなたがたのほかには一つもありませんでした。 16 テサロニケにいたときでさえ、あなたがたは一度ならず二度ま

でも物を送って、私の乏しさを補ってくれました。 17 私は贈り物を求めている
のではありません。私のほしいのは、あなたがたの収支を償わせて余りある霊
的祝福なのです。 18 私は、すべての物を受けて、満ちあふれています。エパフ
ロデトからあなたがたの贈り物を受けたので、満ち足りています。それは香ば
しいかおりであって、神が喜んで受けてくださる供え物です。 19 また、私の神
は、キリスト・イエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要を
すべて満たしてくださいます。 20 どうか、私たちの父なる神に御栄えがとこし
えにありますように。アーメン。
21 キリスト・イエスにある聖徒のひとりひとりに、よろしく伝えてください。私といっしょにいる兄弟たちが、あなたがたによろしくと言っています。
22 聖徒たち全員が、そして特に、カイザルの家に属する人々が、よろしくと言っています。
23 どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

コロサイ人への手紙

1 神のみこころによる、キリスト・イエスの使徒パウロ、および兄弟テモテ
から、 2 コロサイにいる聖徒たちで、キリストにある忠実な兄弟たちへ。どう
か、私たちの父なる神から、恵みと平安があなたがたの上にありますように。
3 私たちは、いつもあなたがたのために祈り、私たちの主イエス・キリストの
父なる神に感謝しています。 4 それは、キリスト・イエスに対するあなたがた
の信仰と、すべての聖徒に対してあなたがたが抱いている愛のことを聞いたか
らです。 5 それらは、あなたがたのために天にたくわえられてある望みに基づ
くものです。あなたがたは、すでにこの望みのことを、福音の真理のことばの
中で聞きました。 6 この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんと
うに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、
世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに
届いたのです。 7 これはあなたがたが私たちと同じしもべである愛するエパフ
ラスから学んだとおりのものです。彼は私たちに代わって仕えている忠実な、
キリストの仕え人であって、 8 私たちに、御霊によるあなたがたの愛を知らせ
てくれました。
9 こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたの
ために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力
によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。 10 また、
主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実
を結び、神を知る知識を増し加えられますように。 11 また、神の栄光ある権
能に従い、あらゆる力をもって強くされて、忍耐と寛容を尽くし、 12 また、光
の中にある、聖徒の相続分にあずかる資格を私たちに与えてくださった父なる
神に、喜びをもって感謝をささげることができますように。 13 神は、私たちを
暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいまし
た。 14 この御子のうちにあって、私たちは、贖い、すなわち罪の赦しを得てい
ます。 15 御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に
生まれた方です。 16 なぜなら、万物は御子にあって造られたからです。天にあ
るもの、地にあるもの、見えるもの、また見えないもの、王座も主権も支配も
権威も、すべて御子によって造られたのです。万物は、御子によって造られ、
御子のために造られたのです。 17 御子は、万物よりも先に存在し、万物は御子
にあって成り立っています。 18 また、御子はそのからだである教会のかしら
です。御子は初めであり、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、ご
自身がすべてのことにおいて、第一のものとなられたのです。 19 なぜなら、神
は御子のうちに満ち満ちた神の本質を御子のうちに宿らせ、 20 そして十字
架の血によって平和をつくり、御子によってすべてのものを、ご自分と和解さ
せたからです。地にあるものも天にあるものも、ただ御子によって和解させ
てくださったのです。 21 あなたがたも、かつては神を離れ、心においてお敵
って、悪い行ないの中にあったのですが、 22 今は神は、御子の肉のからだに
いて、しかもその死によって、あなたがたをご自分と和解させてくださいま
した。それはあなたがたを、きよく、傷なく、非難されるところのない者とし
て御前に立たせてくださるためでした。 23 ただし、あなたがたは、しっかりと
した土台の上に堅く立って、すでに聞いた福音の望みからはずれることなく、
信仰に踏みとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造ら
れたものに宣べ伝えられているのであって、このパウロはそれに仕える者と
なったのです。
24 ですから、私は、あなたがたのために受ける苦しみを喜びとしています。
そして、キリストのからだのために、私の身をもって、キリストの苦しみの欠
けたところを満たしているのです。キリストのからだとは、教会のことです。
25 私は、あなたがたのために神からゆだねられた務めに従って、教会に仕える
者となりました。神のことばを余すところなく伝えるためです。 26 これは、
多くの世代にわたって隠されていて、いま神の聖徒たちに現わされた奥義なの
です。 27 神は聖徒たちに、この奥義が異邦人の間にあってどのように栄光に
富んだものであるかを、知らせたいと思われたのです。この奥義とは、あなた
がたの中におられるキリスト、栄光の望みのことです。 28 私たちは、このキリ
ストを宣べ伝え、知恵を尽くして、あらゆる人を戒め、あらゆる人を教えてい
ます。それは、すべての人を、キリストにある成人として立たせるためです。

29 このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労
苦しながら奮闘しています。

2

1 あなたがたとラオデキヤの人たちと、そのほか直接私の顔を見たことのない
人たちのためにも、私がどんなに苦闘しているか、知ってほしいと思います。
2 それは、この人たちが心に励ましを受け、愛によって結び合わされ、理解を
もって豊かな全き確信に達し、神の奥義であるキリストを真に知るようになる
ためです。 3 このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されている
のです。 4 私がこう言うのは、だれもまことしやかな議論によって、あなたが
たをあやまちに導くことのないためです。 5 私は、肉体においては離れていて
も、霊においてはあなたがたといっしょにいて、あなたがたの秩序とキリスト
に対する堅い信仰とを見て喜んでいます。
6 あなたがたは、このように主キリスト・イエスを受け入れたのですから、
彼にあって歩みなさい。 7 キリストの中に根ざし、また建てられ、また、教え
られたとおり信仰を堅くし、あふれるばかり感謝しなさい。
8 あのむなしい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注
意しなさい。そのようなものは、人の言い伝えによるものであり、この世に属
する幼稚な教えによるものであって、キリストに基づくものではありません。
9 キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。
10 そしてあなたがたは、キリストにあって、満ち満ちているのです。キリスト
はすべての支配と権威のかしらです。 11 キリストにあって、あなたがたは人の
手によらない割礼を受けました。肉のからだを脱ぎ捨て、キリストの割礼を受
けたのです。 12 あなたがたは、バプテスマによってキリストとともに葬られ、
また、キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じる信仰によって、
キリストとともによみがえらされたのです。 13 あなたがたは罪によって、ま
た肉の割礼がなくて死んだ者であったのに、神は、そのようなあなたがたを、
キリストとともに生かしてくださいました。それは、私たちのすべての罪を赦
し、 14 いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てて
いる債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づ
けにされました。 15 神は、キリストにおいて、すべての支配と権威の武装を解
除してさらしものとし、彼らを捕虜として凱旋の行列に加えられました。
16 こういうわけですから、食べ物と飲み物について、あるいは、祭りや新
月や安息日のことについて、だれにもあなたがたを批評させてはなりません。
17 これらは、次に来るものの影であって、本体はキリストにあるのです。 18 あ
なたがたは、ことさらに自己卑下をしようとしたり、御使い礼拝をしようとす
る者に、ほうびをだまし取られてはなりません。彼らは幻を見たことに安住し
て、肉の思いによっていたずらに誇り、 19 かしらに堅く結びつくことをしませ
ん。このかしらがもとになり、からだ全体は、関節と筋によって養われ、結び
合わされて、神によって成長させられるのです。
20 もしあなたがたが、キリストとともに死んで、この世の幼稚な教えから離
れたのなら、どうして、まだこの世の生き方をしているかのように、 21 「すが
るな。味わうな。さわるな。」というような定めに縛られるのですか。 22 その
ようなものはすべて、用いれば滅びるものについてであって、人間の戒めと教
えによるものです。 23 そのようなものは、人間の好き勝手な礼拝とか、謙遜と
か、または、肉体の苦行などのゆえに賢いもののように見えますが、肉のほし
いままな欲望に対しては、何のききめもないのです。

3

1 こういうわけで、もしあなたがたが、キリストとともによみがえらされた
のなら、上にあるものを求めなさい。そこにはキリストが、神の右に座を占め
ておられます。 2 あなたがたは、地上のものを思わず、天にあるものを思いな
さい。 3 あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストと
ともに、神のうちに隠されてあるからです。 4 私たちのいのちであるキリスト
が現われると、そのときあなたがたも、キリストとともに、栄光のうちに現わ
れます。
5 ですから、地上のからだの諸部分、すなわち、不品行、汚れ、情欲、悪い
欲、そしてむさぼりを殺してしまいなさい。このむさぼりが、そのまま偶像礼
拝なのです。 6 このようなことのために、神の怒りが下るのです。 7 あなたがた
も、以前、そのようなものの中に生きていたときは、そのような歩み方をして
いました。 8 しかし今は、あなたがたも、すべてこれらのこと、すなわち、怒
り、憤り、悪意、そしり、あなたがたの口から出る恥ずべきことばを、捨てて

しまいなさい。 9 互いに偽りを言ってはいけません。あなたがたは、古い人をそ
の行ないといっしょに脱ぎ捨てて、 10 新しい人を着たのです。新しい人は、造
り主のかたちに似せられてますます新しくされ、真の知識に至るのです。 11 そ
こには、ギリシヤ人とユダヤ人、割礼の有無、未開人、スクテヤ人、奴隷と自
由人というような区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのうち
におられるのです。
12 それゆえ、神に選ばれた者、きよい、愛されている者として、あなたがた
は深い同情心、慈愛、謙遜、柔和、寛容を身に着けなさい。 13 互いに忍び合
い、だれかがほかの人に不満を抱くことがあっても、互いに赦し合いなさい。
主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。 14 そ
して、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全なもの
です。 15 キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのの
ためにこそあなたがたも召されて一体となったのです。また、感謝の心を持つ
人になりなさい。 16 キリストのことばを、あなたがたのうちに豊かに住まわ
せ、知恵を尽くして互いに教え、互いに戒め、詩と賛美と霊の歌とにより、感
謝にあふれて心から神に向かって歌いなさい。 17 あなたがたのすることは、こ
とばによると行ないによるとを問わず、すべて主イエスの名によってなし、主
によって父なる神に感謝しなさい。
18 妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。 19 夫たちよ。妻
を愛しなさい。つらく当たってはいけません。 20 子どもたちよ。すべてのこと
について、両親に従いなさい。それは主に喜ばれることだからです。 21 父たち
よ。子どもをおこらせてはいけません。彼らを気落ちさせないためです。 22 奴
隷たちよ。すべてのことについて、地上の主人に従いなさい。人のごきげんと
りのような、うわべだけの仕え方ではなく、主を恐れかしこみつつ、真心から
従いなさい。 23 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、
心からしなさい。 24 あなたがたは、主から報いとして、御国を相続させていた
だくことを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。 25 不
正を行なう者は、自分が行なった不正の報いを受けます。それには不公平な扱
いはありません。

4

1 主人たちよ。あなたがたは、自分たちの主も天におられることを知ってい
るのですから、奴隷に対して正義と公平を示しなさい。
2 目をさまして、感謝をもって、たゆみなく祈りなさい。 3 同時に、私たちの
ためにも、神がみことばのために門を開いてくださって、私たちがキリストの
奥義を語れるように、祈ってください。この奥義のために、私は牢に入れられ
ています。 4 また、私がこの奥義を、当然語るべき語り方で、はっきり語れる
ように、祈ってください。 5 外部の人に対して賢明にふるまい、機会を十分に
生かして用いなさい。 6 あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいた
ものであるようにしなさい。そうすれば、ひとりひとりに対する答え方がわか
ります。
7 私の様子については、主にあって愛する兄弟、忠実な奉仕者、同労のしもべ
であるテキコが、あなたがたに一部始終を知らせるでしょう。 8 私がテキコを
あなたがたのもとに送るのは、あなたがたが私たちの様子を知り、彼によって
心に励ましを受けるためにほかなりません。 9 また彼は、あなたがたの仲間の
ひとりで、忠実な愛する兄弟オネシモといっしょに行きます。このふたりが、
こちらの様子をみな知らせてくれるでしょう。
10 私といっしょに囚人となっているアリスタルコが、あなたがたによろし
くと言っています。バルナバのいとこであるマルコも同じです。——この人に
ついては、もし彼があなたがたのところに行ったなら、歓迎するようにという
指示をあなたがたは受けています。—— 11 ユストと呼ばれるイエスもよろし く
と言っています。割礼を受けた人では、この人たちだけが、神の国のために働
く私の同労者です。また、彼らは私を激励する者となってくれました。 12 あな
たがたの仲間のひとり、キリスト・イエスのしもべエパフラスが、あなたがた
によろしくと言っています。彼はいつも、あなたがたが完全な人となり、また
神のすべてのみこころを十分に確信して立つことができるよう、あなたがたの
ために祈りに励んでいます。 13 私はあかしします。彼はあなたがたのために、
またラオデキヤとヒエラポリスにいる人々のために、非常に苦労しています。
14 愛する医者ルカ、それにデマスが、あなたがたによろしくと言っています。
15 どうか、ラオデキヤの兄弟たちに、またヌンパとその家にある教会に、よろ
しくと言ってください。 16 この手紙があなたがたのところで読まれたなら、ラオ
デキヤ人の教会でも読まれるようにしてください。あなたがたのほうも、ラオ

デキヤから回って来る手紙を読んでください。 17 アルキポに、「主にあって受
けた務めを、注意してよく果たすように。」と言ってください。
18 パウロが自筆であいさつを送ります。私が牢につながれていることを覚え
ていてください。どうか、恵みがあなたがたとともにありますように。

テサロニケ人への手紙第一

1 パウロ、シルワノ、テモテから、父なる神および主イエス・キリストにあ
るテサロニケ人の教会へ。恵みと平安があなたがたの上にありますように。
2 私たちは、いつもあなたがたすべてのために神に感謝し、祈りのときにあ
なたがたを覚え、3 絶えず、私たちの父なる神の御前に、あなたがたの信仰の
働き、愛の労苦、主イエス・キリストへの望みの忍耐を思い起こしています。
4 神に愛されている兄弟たち。あなたがたが神に選ばれた者であることは私たち
が知っています。5 なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、
ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです。ま
た、私たちがあなたがたのところで、あなたがたのために、どのようにふるま
ったかは、あなたがたが知っています。6 あなたがたも、多くの苦難の中で、
聖霊による喜びをもってみことばを受け入れ、私たちと主とにならう者になり
ました。7 こうして、あなたがたは、マケドニヤとアカヤとのすべての信者の
模範になったのです。8 主のことばが、あなたがたのところから出てマケドニ
ヤとアカヤに響き渡っただけでなく、神に対するあなたがたの信仰はあらゆる
所に伝わっているので、私たちは何も言わなくてよいほどです。9 私たちがどの
ようにあなたがたに受け入れられたか、また、あなたがたがどのように偶像か
ら神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、10 また、神が死者
の中からよみがえらせなさった御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たち
を救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、
それらのことは他の人々が言い広めているのです。

2

1 兄弟たち。あなたがたが知っているとおり、私たちがあなたがたのところに
行ったことは、むだではありませんでした。2 ご承知のように、私たちはまず
ピリピで苦しみに会い、はずかしめを受けたのですが、私たちの神によって、
激しい苦闘の中でも大胆に神の福音をあなたがたに語りました。3 私たちの勧め
は、迷いや不純な心から出ているものではなく、だましごとでもありません。
4 私たちは神に認められて福音をゆだねられた者ですから、それにふさわしく、
人を喜ばせようとしてではなく、私たちの心をお調べになる神を喜ばせようと
して語るのです。5 ご存じのとおり、私たちは今まで、へつらいのことばを用
いたり、むさぼりの口実を設けたりしたことはありません。神がそのことの証
人です。6 また、キリストの使徒たちとして権威を主張することもできたのです
が、私たちは、あなたがたからも、ほかの人々からも、人からの名誉を受け
ようとはしませんでした。7 それどころか、あなたがたの間で、母がその子ど
もたちを養い育てるように、優しくふるまいました。8 このようにあなたがたを
思う心から、ただ神の福音だけではなく、私たち自身のいのちまでも、喜んで
あなたがたに与えたいと思ったのです。なぜなら、あなたがたは私たちの愛す
る者となったからです。9 兄弟たち。あなたがたは、私たちの労苦と苦闘を覚
えているでしょう。私たちはあなたがたのだれにも負担をかけまいとして、昼
も夜も働きながら、神の福音をあなたがたに宣べ伝えました。10 また、信者で
あるあなたがたに対して、私たちが敬虔に、正しく、また責められるところが
ないようにふるまったことは、あなたがたがあかしし、神もあかししてくださ
ることです。11 また、ご承知のとおり、私たちは父がその子どもに対してする
ように、あなたがたひとりひとりに、12 ご自身の御国と栄光とに召してくだ
る神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。
13 こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あな
たがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことば
としてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。
この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。14 兄弟
たち。あなたがたはユダヤの、キリスト・イエスにある神の諸教会にならう者
となったのです。彼らがユダヤ人に苦しめられたのと同じように、あなたがた
ともも自分の国の人に苦しめられたのです。15 ユダヤ人は、主であられるイエス
をも、預言者たちをも殺し、また私たちをも追い出し、神に喜ばれず、すべて
の人の敵となっています。16 彼らは、私たちが異邦人の救いのために語るのを妨
げ、このようにして、いつも自分の罪を満たしています。しかし、御怒りは彼
らの上に臨んで窮みに達しました。

17 兄弟たちよ。私たちは、しばらくの間あなたがたから引き離されたので、――といっても、顔を見ないだけで、心においてではありませんが、――なおさらのこと、あなたがたの顔を見たいと切に願っていました。
18 それで私たちは、あなたがたのところに行こうとしました。このパウロは一
度ならず二度までも心を決めたのです。しかし、サタンが私たちを妨げました。 19 私たちの主イエスが再び来られるとき、御前で私たちの望み、喜び、誇
りの冠となるのはだれでしょう。あなたがたではありませんか。 20 あなたがた
こそ私たちの誉れであり、また喜びなのです。

3

1 そこで、私たちはもはやがまんできなくなり、私たちだけがアテネにとど
まることにして、 2 私たちの兄弟であり、キリストの福音において神の同労者
であるテモテを遣わしたのです。それは、あなたがたの信仰についてあなたが
たを強め励まし、 3 このような苦難の中にあっても、動揺する者がひとりもな
いようにするためでした。あなたがた自身が知っているとおり、私たちはこの
ような苦難に会うように定められているのです。 4 あなたがたのところにいた
とき、私たちは苦難に会うようになる、と前もって言っておいたのですが、そ
れが、ご承知のとおり、はたして事実となったのです。 5 そういうわけで、私
も、あれ以上はがまんができず、また誘惑者があなたがたを誘惑して、私たち
の労苦がむだになるようなことがあってはいけないと思って、あなたがたの信
仰を知るために、彼を遣わしたのです。 6 ところが、今テモテがあなたがたのと
ころから私たちのもとに帰って来て、あなたがたの信仰と愛について良い知ら
せをもたらしてくれました。また、あなたがたが、いつも私たちのことを親切
に考えていて、私たちがあなたがたに会いたいと思うように、あなたがたも、
しきりに私たちに会いたがっていることを、知らせてくれました。 7 このよう
なわけで、兄弟たち。私たちはあらゆる苦しみと患難のうちにも、あなたがた
のことでは、その信仰によって、慰めを受けました。 8 あなたがたが主にあっ
て堅く立っていてくれるなら、私たちは今、生きがいがあります。 9 私たちの
神の御前にあって、あなたがたのことで喜んでいる私たちのこのすべての喜び
のために、神にどんな感謝をささげたらよいでしょう。 10 私たちは、あなた
がたの顔を見たい、信仰の不足を補いたいと、昼も夜も熱心に祈っています。
11 どうか、私たちの父なる神であり、また私たちの主イエスである方ご自
身が、私たちの道を開いて、あなたがたのところに行かせてくださいますよう
に。 12 また、私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いの間
の愛を、またすべての人に対する愛を増させ、満ちあふれさせてくださいます
ように。 13 また、あなたがたの心を強め、私たちの主イエスがご自分のすべて
の聖徒とともに再び来られるとき、私たちの父なる神の御前で、きよく、責め
られるところのない者としてくださいますように。

4

1 終わりに、兄弟たちよ。主イエスにあって、お願いし、また勧告します。
あなたがたはどのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学んだように、
また、事実いまあなたがたが歩んでいるように、ますますそのように歩んでく
ださい。 2 私たちが、主イエスによって、どんな命令をあなたがたに授けたか
を、あなたがたは知っています。 3 神のみこころは、あなたがたがきよくなる
ことです。あなたがたが不品行を避け、 4 各自わきまえて、自分のからだを、
きよく、また尊く保ち、 5 神を知らない異邦人のように情欲におぼれず、 6 ま
た、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。なぜ
なら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです。これは、
私たちが前もってあなたがたに話し、きびしく警告しておいたところです。 7 神
が私たちを召されたのは、汚れを行なわせるためではなく、聖潔を得させるた
めです。 8 ですから、このことを拒む者は、人を拒むのではなく、あなたがた
に聖霊をお与えになる神を拒むのです。
9 兄弟愛については、何も書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互
いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。 10 実にマケドニヤ
全土のすべての兄弟たちに対して、あなたがたはそれを実行しています。しか
し、兄弟たち。あなたがたにお勧めします。どうか、さらにますますそうであ
ってください。 11 また、私たちが命じたように、落ち着いた生活をすることを
志し、自分の仕事に身を入れ、自分の手で働きなさい。 12 外の人々に対しても
りっぱにふるまうことができ、また乏しいことがないようにするためです。
13 眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいても
らいたくありません。あなたがたが他の望みのない人々のように悲しみに沈む

ことのないためです。 14 私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずです。 15 私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。 16 主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、 17 次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることになります。 18 こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

5

1 兄弟たち。それらがいつなのか、またどういう時かについては、あなたがたは私たちに書いてもらう必要がありません。 2 主の日が夜中の盗人のように来るということは、あなたがた自身がよく承知しているからです。 3 人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。 4 しかし、兄弟たち。あなたがたは暗やみの中にはいないのですから、その日が、盗人のようにあなたがたを襲うことはありません。 5 あなたがたはみな、光の子ども、昼の子どもだからです。私たちは、夜や暗やみの者ではありません。 6 ですから、ほかの人々のように眠っていないで、目をさまして、慎み深くしていましょう。 7 眠る者は夜眠り、酔う者は夜酔うからです。 8 しかし、私たちは昼の者なので、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの望みをかぶととしてかぶって、慎み深くしていましょう。 9 神は、私たちが御怒りに会うようにお定めになったのではなく、主イエス・キリストにあって救いを得るようにお定めになったからです。 10 主が私たちのために死んでくださったのは、私たちが、目ざめていても、眠っていても、主とともに生きるためです。 11 ですから、あなたがたは、今しているとおり、互いに励まし合い、互いに徳を高め合いなさい。

12 兄弟たちよ。あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあってあなたがたを指導し、訓戒している人々を認めなさい。 13 その務めのゆえに、愛をもって深い尊敬を払いなさい。お互いの間に平和を保ちなさい。 14 兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。 15 だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行なうよう務めなさい。 16 いつも喜んでいなさい。 17 絶えず祈りなさい。 18 すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。 19 御霊を消してはなりません。 20 預言をないがしろにしてはいけません。 21 すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。 22 悪はどんな悪でも避けなさい。

23 平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだが完全に守られますように。 24 あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてくださいます。

25 兄弟たち。私たちのためにも祈ってください。

26 すべての兄弟たちに、きよい口づけをもってあいさつをなさい。 27 この手紙がすべての兄弟たちに読まれるように、主によって命じます。

28 私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがたとともにありますように。

テサロニケ人への手紙第二

1 パウロ、シルワノ、テモテから、私たちの父なる神および主イエス・キリス
トにあるテサロニケ人の教会へ。 2 父なる神と主イエス・キリストから、恵み
と平安があなたがたの上にありますように。 3 兄弟たち。あなたがたのことに
ついて、私たちはいつも神に感謝しなければなりません。そうするのが当然な
のです。なぜならあなたがたの信仰が目に見えて成長し、あなたがたすべての
間で、ひとりひとりに相互の愛が増し加わっているからです。 4 それゆえ私たち
は、神の諸教会の間で、あなたがたがすべての迫害と患難とに耐えながらその
従順と信仰とを保っていることを、誇りとしています。 5 このことは、あなた
がたを神の国にふさわしい者とするため、神の正しいさばきを示すしるしであ
って、あなたがたが苦しみを受けているのは、この神の国のためです。 6 まて
り、あなたがたを苦しめる者には、報いとして苦しみを与え、 7 苦しめられて
いるあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えてくださること
は、神にとって正しいことなのです。そのことは、主イエスが、炎の中に、力
ある御使いたちを従えて天から現われるときに起こります。 8 そのとき主は、神
を知らない人々や、私たちの主イエスの福音に従わない人々に報復されます。
9 そのような人々は、主の御顔の前とその御力の栄光から退けられて、永遠の
滅びの刑罰を受けるのです。 10 その日に、主イエスは来られて、ご自分の聖徒
たちによって栄光を受け、信じたすべての者の――そうです。あなたがたに対
する私たちの証言は、信じられたのです。――感嘆の的となられます。 11 そ の
ためにも、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか、私た
ちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を
慕うあらゆる願いと信仰の働きとを全うしてくださいますように。 12 それは、
私たちの神であり主であるイエス・キリストの恵みによって、主イエスの御名
があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあって栄光を受けるため
です。

2

1 さて兄弟たちよ。私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私た
ちが主のみもとに集められることに関して、あなたがたにお願いすることがあ
ります。 2 霊によってでも、あるいはことばによってでも、あるいは私たちから
出たかのような手紙によってでも、主の日がすでに来たかのように言われる
のを聞いて、すぐに落ち着きを失ったり、心を騒がせたりしないでください。
3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教
が起こり、不法の人、すなわち滅びの子が現われなければ、主の日は来ないか
らです。 4 彼は、すべて神と呼ばれるもの、また礼拝されるものに反抗し、そ
の上に自分を高く上げ、神の宮の中に座を設け、自分こそ神であると宣言しま
す。 5 私がまだあなたがたのところにいたとき、これらのことをよく話してお
いたのを思い出しませんか。 6 あなたがたが知っているとおり、彼がその定め
られた時に現われるようにと、いま引き止めているものがあるのです。 7 不法
の秘密はすでに働いています。しかし今は引き止める者があって、自分が取り
除かれる時まで引き止めているのです。 8 その時になると、不法の人が現われ
ますが、主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわ
れます。 9 不法の人の到来は、サタンの働きによるのであって、あらゆる偽り
の力、しるし、不思議がそれに伴い、 10 また、滅びる人たちに対するあらゆる
悪の欺きが行なわれます。なぜなら、彼らは救われるために真理への愛を受け
入れなかったからです。 11 それゆえ神は、彼らが偽りを信じるように、惑わす
力を送り込まれます。 12 それは、真理を信じないで、悪を喜んでいたすべて
の者が、さばかれるためです。
13 しかし、あなたがたのことについては、私たちはいつでも神に感謝しなけ
ればなりません。主に愛されている兄弟たち。神は、御霊によるきよめと、真
理による信仰によって、あなたがたを、初めから救いにお選びになったからで
す。 14 ですから神は、私たちの福音によってあなたがたを召し、私たちの主イ
エス・キリストの栄光を得させてくださったのです。 15 そこで、兄弟たち。堅
く立って、私たちのことば、または手紙によって教えられた言い伝えを守りな
さい。
16 どうか、私たちの主イエス・キリストであり、私たちの父なる神である
方、すなわち、私たちを愛し、恵みによって永遠の慰めとすばらしい望みとを

与えてくださった方ご自身が、17 あらゆる良いわざとことばとに進むよう、あ
なたがたの心を慰め、強めてくださいますように。

3

1 終わりに、兄弟たちよ。私たちのために祈ってください。主のみことばが、
あなたがたのところでと同じように早く広まり、またあがめられますように。
2 また、私たちが、ひねくれた悪人どもの手から救い出されますように。すべて
の人が信仰を持っているのではないからです。3 しかし、主は真実な方ですか
ら、あなたがたを強くし、悪い者から守ってくださいます。4 私たちが命じる
ことを、あなたがたが現に実行しており、これからも実行してくれることを私
たちは主にあって確信しています。5 どうか、主があなたがたの心を導いて、
神の愛とキリストの忍耐とを持たせてくださいますように。
6 兄弟たちよ。主イエス・キリストの御名によって命じます。締まりのない
歩み方をして私たちから受けた言い伝えに従わないでいる、すべての兄弟たち
から離れていなさい。7 どのように私たちを見ならうべきかは、あなたがた自
身が知っているのです。あなたがたのところで、私たちは締まりのないことは
しなかったし、8 人のパンをただで食べることもしませんでした。かえって、
あなたがたのだれにも負担をかけまいとして、昼も夜も労苦しながら働き続け
ました。9 それは、私たちに権利がなかったからではなく、ただ私たちを見な
らうようにと、身をもってあなたがたに模範を示すためでした。10 私たちは、
あなたがたのところにいたときにも、働きたくない者は食べるなと命じまし
た。11 ところが、あなたがたの中には、何も仕事をせず、おせっかいばかりし
て、締まりのない歩み方をしている人たちがあると聞いています。12 こういう
人たちには、主イエス・キリストによって、命じ、また勧めます。静かに仕事
をし、自分で得たパンを食べなさい。13 しかしあなたがたは、たゆむことなく
善を行ないなさい。兄弟たちよ。14 もし、この手紙に書いた私たちの指示に従
わない者があれば、そのような人には、特に注意を払い、交際しないようにし
なさい。彼が恥じ入るようになるためです。15 しかし、その人を敵とはみなさ
ず、兄弟として戒めなさい。
16 どうか、平和の主ご自身が、どんなばあいにも、いつも、あなたがたに平
和を与えてくださいますように。どうか、主があなたがたすべてと、ともにお
られますように。
17 パウロが自分の手であいさつを書きます。これは私のどの手紙にもあるし
るしです。これが私の手紙の書き方です。18 どうか、私たちの主イエス・キリ
ストの恵みが、あなたがたすべてとともにありますように。

テモテへの手紙第一

1 私たちの救い主なる神と私たちの望みなるキリスト・イエスとの命令によ
る、キリスト・イエスの使徒パウロから、2 信仰による真実のわが子テモテへ。
父なる神と私たちの主なるキリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安とが
ありますように。
3 私がマケドニヤに出発するとき、あなたにお願いしたように、あなたは、エ
ペソにずっととどまっていて、ある人たちが違った教えを説いたり、4 果てし
のない空想話と系図とに心を奪われたりしないように命じてください。その よ
うなものは、論議を引き起こすだけで、信仰による神の救いのご計画の実現を
もたらすものではありません。5 この命令は、きよい心と正しい良心と偽りのな
い信仰とから出て来る愛を、目標としています。6 ある人たちはこの目当てを
見失い、わき道にそれて無益な議論に走り、7 律法の教師でありたいと望み
ながら、自分の言っていることも、また強く主張していることについても理解
していません。8 しかし私たちは知っています。律法は、もし次のことを知っ て
正しく用いるなら、良いものです。9 すなわち、律法は、正しい人のた
めにあるのではなく、律法を無視する不従順な者、不敬虔な罪人、汚らわし
い俗物、父や母を殺す者、人を殺す者、10 不品行な者、男色をする者、人を誘
拐する者、うそをつく者、偽証をする者などのため、またそのほか健全な教え
にそむく事のためにあるのです。11 祝福に満ちた神の、栄光の福音によれば、
こうなのであって、私はその福音をゆだねられたのです。
12 私は、私を強くしてくださる私たちの主キリスト・イエスに感謝をさ さ
げています。なぜなら、キリストは、私をこの務めに任命して、私を忠実な 者
と認めてくださったからです。13 私は以前は、神をけがす者、迫害する者、暴
力をふるう者でした。それでも、信じていないときに知らないでしたことな の
で、あわれみを受けたのです。14 私たちの主の、この恵みは、キリスト・イエ
スにある信仰と愛とともに、ますます満ちあふれるようになりました。15「キ
リストイエスは、罪人を救うためにこの世に来られた。」ということばは、
まことであり、そのまま受け入れるに値するものです。私はその罪人のかしら
です。16 しかし、そのような私があわれみを受けたのは、イエス・キリスト
が、今後彼を信じて永遠のいのちを得ようとしている人々の見本にしようと、
まず私に対してこの上ない寛容を示してくださったからです。17 どうか、世々
の王、すなわち、滅びることなく、目に見えない唯一の神に、誉れと栄えと
世々限りなくありますように。アーメン。
18 私の子テモテよ。以前あなたについてなされた預言に従って、私はあなた
にこの命令をゆだねます。それは、あなたがあの預言によって、信仰と正しい
良心を保ち、勇敢に戦い抜くためです。19 ある人たちは、正しい良心を捨て
て、信仰の破船に会いました。20 その中には、ヒメナオとアレキサンデルがい
ます。私は、彼らをサタンに引き渡しました。それは、神をけがしてはなら
ないことを、彼らに学ばせるためです。

2

1 そこで、まず初めに、このことを勧めます。すべての人のために、また王
とすべての高い地位にある人たちのために願い、祈り、とりなし、感謝がさ
げられるようにしなさい。2 それは、私たちが敬虔に、また、威厳をもって、
平安で静かな一生を過ごすためです。3 そうすることは、私たちの救い主であ
る神の御前において良いことであり、喜ばれることなのです。4 神は、すべて
の人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。5 神は唯一で
す。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリス
ト・イエスです。6 キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお
与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです。7 そのあかしの
ために、私は宣伝者また使徒に任じられ――私は真実を言っており、うそは言
いません。――信仰と真理を異邦人に教える教師とされました。
8 ですから、私は願うのです。男は、怒ったり言い争ったりすることなく、ど
こででもきよい手を上げて祈るようにしなさい。9 同じように女も、つつま し
い身なりで、控えめに慎み深く身を飾り、はでな髪の形とか、金や真珠や高価
な衣服によってではなく、10 むしろ、神を敬うと言っている女にふさわしく、
良い行ないを自分の飾りとしなさい。11 女は、静かにして、よく従う心をもっ
て教えを受けなさい。12 私は、女が教えたり男を支配したりすることを許しま

せん。ただ、黙っていなさい。 13 アダムが初めに造られ、次にエバが造られた
からです。 14 また、アダムは惑わされなかったが、女は惑わされてしまい、あ
やまちを犯しました。 15 しかし、女が慎みをもって、信仰と愛ときよさとを保
つなら、子を産むことによって救われます。

3

1 「人がもし監督の職につきたいと思うなら、それはすばらしい仕事を求める
ことである。」ということばは真実です。 2 ですから、監督はこういう人でな
ければなりません。すなわち、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であ
り、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、
3 酒飲みでなく、暴力をふるわず、温和で、争わず、金銭に無欲で、 4 自分の家
庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。 5 ――自分自
身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることが
できるでしょう。―― 6 また、信者になったばかりの人であってはいけません。
高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないためです。 7 また、
教会外の人々にも評判の良い人でなければいけません。そしりを受け、悪魔の
わなに陥らないためです。 8 執事もまたこういう人でなければなりません。謹
厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさぼらず、 9 きよい良
心をもって信仰の奥義を保っている人です。 10 まず審査を受けさせなさい。そ
して、非難される点がなければ、執事の職につかせなさい。 11 婦人執事も、威
厳があり、悪口を言わず、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりませ
ん。 12 執事は、ひとりの妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなけ
ればなりません。 13 というのは、執事の務めをりっぱに果たした人は、良い地
歩を占め、また、キリスト・イエスを信じる信仰について強い確信を持つこと
ができるからです。
14 私は、近いうちにあなたのところに行きたいと思いながらも、この手紙を
書いています。 15 それは、たとい私がおそくなったばあいでも、神の家でどの
ように行動すべきかを、あなたが知っておくためです。神の家とは生ける神の
教会のことであり、その教会は、真理の柱また土台です。 16 確かに偉大なのは
この敬虔の奥義です。
「キリストは肉において現われ、
霊において義と宣言され、
御使いたちに見られ、
諸国民の間に宣べ伝えられ、
世界中で信じられ、
栄光のうちに上げられた。」

4

1 しかし、御霊が明らかに言われるように、後の時代になると、ある人たちは
惑わす霊と悪霊の教えとに心を奪われ、信仰から離れるようになります。 2 そ
れは、うそつきどもの偽善によるものです。彼らは良心が麻痺しており、 3 結
婚することを禁じたり、食物を断つことを命じたりします。しかし食物は、信
仰があり、真理を知っている人が感謝して受けるようにと、神が造られた物で
す。 4 神が造られた物はみな良い物で、感謝して受けるとき、捨てるべき物は
何一つありません。 5 神のことばと祈りとによって、きよめられるからです。
6 これらのことを兄弟たちに教えるなら、あなたはキリスト・イエスのりっ
ぱな奉仕者になります。信仰のことばと、あなたが従って来た良い教えのこと
ばとによって養われているからです。 7 俗悪な、年寄り女がするような空想話
を避けなさい。むしろ、敬虔のために自分を鍛練しなさい。 8 肉体の鍛練もい
くらかは有益ですが、今のいのちと未来のいのちが約束されている敬虔は、す
べてに有益です。 9 このことばは、真実であり、そのまま受け入れるに値する
ことばです。 10 私たちはそのために労し、また苦心しているのです。それは、
すべての人々、ことに信じる人々の救い主である、生ける神に望みを置いてい
るからです。 11 これらのことを命じ、また教えなさい。 12 年が若いからといっ
て、だれにも軽く見られないようにしなさい。かえって、ことばにも、態度に
も、愛にも、信仰にも、純潔にも信者の模範になりなさい。 13 私が行くまで、
聖書の朗読と勧めと教えとに専念しなさい。 14 長老たちによる按手を受けたと
き、預言によって与えられた、あなたのうちにある聖霊の賜物を軽んじてはい
けません。 15 これらの務めに心を砕き、しっかりやりなさい。そうすれば、あ
なたの進歩はすべての人に明らかになるでしょう。 16 自分自身にも、教える事

にも、よく気をつけなさい。あくまでそれを続けなさい。そうすれば、自分自身をも、またあなたの教えを聞く人たちをも救うことになります。

5

1 年寄りをしかってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。
若い人たちには兄弟に対するように、2 年とった婦人たちには母親に対するよう
に、若い女たちには真に混じりけのない心で姉妹に対するように勧めなさい。
3 やもめの中でもほんとうのやもめを敬いなさい。4 しかし、もし、やもめに
子どもか孫がいるなら、まずこれらの者に、自分の家の者に敬愛を示し、親
の恩に報いる習慣をつけさせなさい。それが神に喜ばれることです。5 ほんと
うのやもめで、身寄りのない人は、望みを神に置いて、昼も夜も、絶えず神にて
願いと祈りをささげていますが、6 自堕落な生活をしているやもめは、生きてよな
はいても、もう死んだ者なのです。7 彼女たちがそしりを受けるこのな顧みいの
ように、これらのことを命じなさい。8 もしも親族、ことに自分の家族のをもと悪
いの人がいるなら、その人は信仰を捨てているのであって、不信者よりもいの夫
です。9 やもめとして名簿に載せるのは、六十歳未満の人でなく、ひとり子どの
のも妻であった人で、10 良い行ないによって認められている人、すなわち、子
も育て、旅人をもてなし、聖徒の足を洗い、困っている人を助け、すべての
良いわざに務め励んだ人としなさい。11 若いやもめは断わりなさい。という初
は、彼女たちは、キリストにそむいて情欲に引かれると、結婚したがり、12
めの誓いを捨てたという非難を受けることになるからです。13 そのうえ、怠け
て、家々を遊び歩くことを覚え、ただ怠けるだけでなく、うわさ話やおせっか
いをして、話してはいけないことまで話します。14 ですから、私が願うのは、
若いやもめは結婚し、子どもを産み、家庭を治め、反対者にそしる機会を与え
ないようにしなさい。15 というのは、すでに、道を踏みはずし、サタンのあとに
従った者があるからです。16 もし信者である婦人の身内にやもめがいたら、
その人がそのやもめを助け、教会には負担をかけないようにしなさい。そう
すれば、教会はほんとうのやもめを助けることができます。
17 よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいと
しなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。18 聖
書に「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない。」また、「働き
手が報酬を受けるのは当然である。」と言われているからです。19 長老に対
する訴えは、ふたりか三人の証人がなければ、受理してはいけません。20 罪を
犯している者をすべての人の前で責めなさい。ほかの人をも恐れさせるため
です。21 私は、神とキリスト・イエスと選ばれた御使いたちとの前で、あなたに
おごそかに命じます。これらのことを偏見なしに守り、何事もかたよらない
行ないをしなさい。22 また、だれにでも軽々しく按手をしてはいけません。また、
他人の罪にかかわりを持ってはいけません。自分をきよく保ちなさい。23 これ
からは水ばかり飲まないで、胃のために、また、たびたび起こる病気のため
も、少量のぶどう酒を用いなさい。24 ある人たちの罪は、それがさばきを受け
る前から、だれの目にも明らかですが、ある人たちの罪は、あとで明らかに
なります。25 同じように、良い行ないは、だれの目にも明らかですが、そう
でないばあいでも、いつまでも隠れたままでいることはありません。

6

1 くびきの下にある奴隷は、自分の主人を十分に尊敬すべき人だと考えなさ
い。それは神の御名と教えとがそしられないためです。2 信者である主人を持
つ人は、主人が兄弟だからといって軽く見ず、むしろ、ますますよく仕えなさ
い。なぜなら、その良い奉仕から益を受けるのは信者であり、愛されている人
だからです。あなたは、これらのことを教え、また勧めなさい。
3 違ったことを教え、私たちの主イエス・キリストの健全なことばと敬虔に
かなう教えとに同意しない人がいるなら、4 その人は高慢になっており、何一
つ悟らず、疑いをかけたり、ことばの争いをしたりする病気にかかっている
ので、そこから、ねたみ、争い、そしり、悪意の疑りが生じ、5 また、知性が
腐ってしまって真理を失った人々、すなわち敬虔を利得の手段と考えている人
たちの間には、絶えず間のない紛争が生じるのです。6 しかし、満ち足りる心を
伴う敬虔こそ、大きな利益を受ける道です。7 私たちは何一つこの世に持って
来なかったし、また何一つ持って出ることもできません。8 衣食があれば、それ
で満足すべきです。9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人
を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。10 金銭を
愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めた
ために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました。

11 しかし、神の人よ。あなたは、これらのことを避け、正しさ、敬虔、信
仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい。 12 信仰の戦いを勇敢に戦い、永遠の
いのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、また、多くの証人たちの
前でりっぱな告白をしました。 13 私は、すべてのものにいのちを与える神と、
ポンテオ・ピラトに対してすばらしい告白をもってあかしされたキリスト・イ
エスとの御前で、あなたに命じます。 14 私たちの主イエス・キリストの現われ
の時まで、あなたは命令を守り、傷のない、非難されるところのない者であり
なさい。 15 その現われを、神はご自分の良しとする時に示してくださいます。
神は祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、 16 ただひとり死のない方で
あり、近づくこともできない光の中に住まわれ、人間がだれひとり見たことの
ない、また見ることのできない方です。誉れと、とこしえの主権は神のもので
す。アーメン。
17 この世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらないように。また、たよ
りにならない富に望みを置かないように。むしろ、私たちにすべての物を豊か
に与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。 18 また、人の益を計り、
良い行ないに富み、惜しまずに施し、喜んで分け与えるように。 19 また、まこ
とのいのちを得るために、未来に備えて良い基礎を自分自身のために築き上げ
るように。
20 テモテよ。ゆだねられたものを守りなさい。そして、俗悪なむだ話、ま
た、まちがって「霊知」と呼ばれる反対論を避けなさい。 21 これを公然と主張
したある人たちは、信仰からはずれてしまいました。
恵みが、あなたがたとともにありますように。

テモテへの手紙第二

1 神のみこころにより、キリスト・イエスにあるいのちの約束によって、キ
リスト・イエスの使徒となったパウロから、2 愛する子テモテへ。父なる神お
よび私たちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安がありますよう
に。
3 私は、夜昼、祈りの中であなたのことを絶えず思い起こしては、先祖以来き
よい良心をもって仕えている神に感謝しています。4 私は、あなたの涙を覚えて
いるので、あなたに会って、喜びに満たされたいと願っています。5 私はあな
たの純粋な信仰を思い起こしています。そのような信仰は、最初あなたの祖母
ロイスと、あなたの母ユニケのうちに宿ったものですが、それがあなたのうち
にも宿っていること を、私は確信しています。6 それで、すから、私はあなたに
注意したいのです。私の按手をもってあなたの うちに与えられた神の賜物を、
再び燃え立たせてください。7 神が私たちに与 えてくださったものは、おくびち
ょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です。8 ですから、あなたは、私たち
の主を あかしすることや、私が主の囚人であることを恥じてはいけません。む
しろ、神の力によって、福音のために私と苦しみをともにしてください。9 神
は私たちを救い、 召した、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それ
は私たちの働きによるのではなく、ご自身の計画と恵みとによるのです。この恵
みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられたものであっ
て、10 それが今、私たちの救い主キリスト・イエスの現われによって明らかに
されたのです。キリストは死を滅ぼし、福音によって、いのちと不滅を明らか
に示されました。11 私は、この福音のために、宣教者、使徒、また教師として
任命されたのです。12 そのために、私はこのような苦しみにも会っています。
しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて
来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日まで
守ってくださることができると確信しているからです。13 あなたは、キリス
トにある信仰と愛をもって、私から聞いた健全なことばを手本にしなさい。14 そ
して、あなたにゆだねられた良いものを、私たちのうちに宿る聖
霊によって、守りなさい。
15 あなたの知っているとおり、アジヤにいる人々はみな、私を離れて行きま
した。その中には、フゲロとヘルモゲネがいます。16 オネシポロの家族を主が
あわれんでくださるように。彼はたびたび私を元気づけてくれ、また私が鎖に
つながれていることを恥とも思わず、17 ローマに着いたときには、熱心に私
を捜して見つけ出してくれたのです。18 ——かの日には、主があわれみを彼に
示してくださいますように。——彼がエペソで、どれほど私に仕えてくれたか
は、あなたが一番よく知っています。

2

1 そこで、わが子よ。キリスト・イエスにある恵みによって強くなりなさい。
2 多くの証人の前で私から聞いたことを、他の人にも教える力のある忠実な人
たちにゆだねなさい。3 キリスト・イエスのりっぱな兵士として、私と苦しみ
をともにしてください。4 兵役についていながら、日常生活のことに掛かり合
っている者はだれもありません。それは徴募した者を喜ばせるためです。5 また
、競技をするときも、規定に従って競技をしなければ栄冠を得ることはでき
ません。6 労苦した農夫こそ、まず第一に収穫の分け前にあずかるべきです。
7 私が言っていることをよく考えなさい。主はすべてのことについて、理解する
力をあなたに必ず与えてくださいます。8 私の福音に言うとおり、ダビデの子
孫として生まれ、死者の中からよみがえったイエス・キリストを、いつも思っ
ていなさい。9 私は、福音のために、苦しみを受け、犯罪者のようにつながれ
ています。しかし、神のことばは、つながれてはいません。10 ですから、私は
選ばれた人たちのために、すべてのことを耐え忍びます。それは、彼らもまた
キリスト・イエスにある救いと、それとともに、とこしえの栄光を受けるよう
になるためです。11 次のことばは信頼すべきことばです。「もし私たちが、彼
とともに死んだのなら、彼とともに生きるようになる。12 もし耐え忍んでいる
なら、彼とともに治めるようになる。もし彼を否んだなら、彼もまた私たちを
否まれる。13 私たちは真実でなくても、彼は常に真実である。彼にはご自身を
否むことができないからである。」

14 これらのことを人々に思い出させなさい。そして何の益にもならず、聞い
ている人々を滅ぼすことになるような、ことばについての論争などしないよう
に、神の御前できびしく命じなさい。 15 あなたは熟練した者、すなわち、真理
のみことばをまっすぐに説き明かす、恥じることのない働き人として、自分を
神にささげるよう、努め励みなさい。 16 俗悪なむだ話を避けなさい。人々はそ
れにによってますます不敬虔に深入りし、 17 彼らの話は癌のように広がるので
す。ヒメナオとピレトはその仲間です。 18 彼らは真理からはずれてしまい、
復活がすでに起こったと言って、ある人々の信仰をくつがえしているのです。
19 それにもかかわらず、神の不動の礎は堅く置かれていて、それに次のよう
な銘が刻まれています。「主はご自分に属する者を知っておられる。」また、
「主の御名を呼ぶ者は、だれでも不義を離れよ。」 20 大きな家には、金や銀のも
器だけでなく、木や土の器もあります。また、ある物は尊いことに、あるものは
卑しいことに用いられます。 21 ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらの
こと離れるなら、その人は尊いことに使われる器となります。すなわち、きよ
められたもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合うものと
なるのです。 22 それで、あなたは、若い時の情欲を避け、きよい心で主を呼
び求める人たちとともに、義と信仰と愛と平和を追い求めなさい。 23 愚かで、
無知な思弁を避けなさい。それが争いのもとであることは、あなたが知ってい
るとおりです。 24 主のしもべが争ってはいけません。むしろ、すべての人に優
しくし、よく教え、よく忍び、 25 反対する人たちを柔和な心で訓戒しなさい。
もしかすると、神は彼らに悔い改めの心を与えて真理を悟らせ、 26 一時は悪魔
に捕えられて思うままになっていた人々でも、目ざめてそのわなをのがれる
こともあるでしょう。

3

1 終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。
2 そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な
者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者
になり、 3 情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な
者、善を好まない者になり、 4 裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よ
りも快楽を愛する者になり、 5 敬虔のかたちをしていても、その実を否定する者
になるからです。こういう人々を避けなさい。 6 こういう人々の中には、家々
にはいり込み、愚かな女たちをたぶらかしている者がいます。その女たちは、
さまざまの情欲に引き回されて罪に罪を重ね、 7 いつも学んではいるが、いつに
なっても真理を知ることのできない者たちです。 8 また、こういう人々は、ち
ょうどヤンネとヤンブレがモーセに逆らったように、真理に逆らうのです。彼
らは知性の腐った、信仰の失格者です。 9 でも、彼らはもうこれ以上に進むこ
とはできません。彼らの愚かさは、あのふたりのばあいのように、すべての人
には明らかです。 10 しかし、あなたは、私の教え、行動、計画、信
仰、寛容、愛、忍耐に、 11 またアンテオケ、イコニオム、ルステラで私にふり
かかった迫害や苦難にも、よくついて来てくれました。何という迫害に
私は耐えて来たことでしょう。しかし、主はいっさいのことから私を救い出し
てくださいました。 12 確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願
う者はみな、迫害を受けます。 13 しかし、悪人や詐欺師たちは、だましたりだ
まされたりしながら、ますます悪に落ちて行くのです。 14 けれどもあなたは、
学んで確信したところにとどまっていなさい。あなたは自分が、どの人たちか
らそれを学んだかを知っており、 15 また、幼いころから聖書に親しんで来たこ
とを知っているからです。聖書はあなたに知恵を与えてキリスト・イエスに対
する信仰による救いを受けさせることができるのです。 16 聖書はすべて、神の
霊感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。 17 それ
は、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者と
なるためです。

4

1 神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イ
エスの御前で、その現われとその御国を思って、私はおごそかに命じます。
2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。寛容
を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。 3 というのは、
人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもら
うために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集
め、 4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。
5 しかし、あなたは、どのようなばあいにも慎み、困難に耐え、伝道者として働

き、自分の務めを十分に果たしなさい。 6 私は今や注ぎの供え物となります。
私が世を去る時はすでに来ました。 7 私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り
終え、信仰を守り通しました。 8 今からは、義の栄冠が私のために用意されて
いるだけです。かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくだ
さるのです。私だけでなく、主の現われを慕っている者には、だれにでも授け
てくださるのです。
9 あなたは、何とかして、早く私のところに来てください。 10 デマスは今の
世を愛し、私を捨ててテサロニケに行ってしまい、また、クレスケンスはガラ
テヤに、テトスはダルマテヤに行ったからです。 11 ルカだけは私とともにおり
ます。マルコを伴って、いっしょに来てください。彼は私の務めのために役に
立つからです。 12 私はテキコをエペソに遣わしました。 13 あなたが来るとき
は、トロアスでカルポのところに残しておいた上着を持って来てください。ま
た、書物を、特に羊皮紙の物を持って来てください。 14 銅細工人のアレキサン
デルが私をひどく苦しめました。そのしわざに応じて主が彼に報いられます。
15 あなたも彼を警戒しなさい。彼は私たちのことばに激しく逆らったからで
す。 16 私の最初の弁明の際には、私を支持する者はだれもなく、みな私を見捨
ててしまいました。どうか、彼らがそのためにさばかれることのありませんよ
うに。 17 しかし、主は、私とともに立ち、私に力を与えてくださいました。そ
れは、私を通してみことばが余すところなく宣べ伝えられ、すべての国の人々
がみことばを聞くようになるためでした。私はししの口から助け出されまし
た。 18 主は私を、すべての悪のわざから助け出し、天の御国に救い入れてくだ
さいます。主に、御栄えがとこしえにありますように。アーメン。
19 プリスカとアクラによろしく。また、オネシポロの家族によろしく。 20 エ
ラストはコリントにとどまり、トロピモは病気のためにミレトに残して来まし
た。 21 何とかして、冬になる前に来てください。ユブロ、プデス、リノス、ク
ラウデヤ、またすべての兄弟たちが、あなたによろしくと言っています。
22 主があなたの霊とともにおられますように。恵みが、あなたがたとともに
ありますように。

テトスへの手紙

1 神のしもべ、また、イエス・キリストの使徒パウロ――私は、神に選ばれた
人々の信仰と、敬虔にふさわしい真理の知識とのために使徒とされたのです。
2 それは、偽ることのない神が、永遠の昔から約束してくださった永遠のいのち
の望みに基づくことです。 3 神は、ご自分の定められた時に、このみことばを
宣教によって明らかにされました。私は、この宣教を私たちの救い主なる神の
命令によって、ゆだねられたのです。――このパウロから、 4 同じ信仰による真
実のわが子テトスへ。父なる神および私たちの救い主なるキリスト・イエスか
ら、恵みと平安がありますように。
5 私があなたをクレテに残したのは、あなたが残っている仕事の整理をし、
また、私が指図したように、町ごとに長老たちを任命するためでした。 6 それ
には、その人が、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、その子ど
もには不品行を責められたり、反抗的であったりしない信者であることが条件
です。 7 監督は神の家の管理者として、非難されるところのない者であるべき
です。わがままでなく、短気でなく、酒飲みでなく、けんか好きでなく、不正
な利を求めず、 8 かえって、旅人をよくもてなし、善を愛し、慎み深く、正し
く、敬虔で、自制心があり、 9 教えにかなった信頼すべきみことばを、しっか
りと守っていなければなりません。それは健全な教えをもって励ましたり、反
対する人たちを正したりすることができるためです。
10 実は、反抗的な者、空論に走る者、人を惑わす者が多くいます。特に、割
礼を受けた人々がそうです。 11 彼らの口を封じなければいけません。彼らは、
不正な利を得るために、教えてはいけないことを教え、家々を破壊していま
す。 12 彼らと同国人であるひとりの預言者がこう言いました。
「クレテ人は昔からのうそつき、
悪いけだもの、
なまけ者の食いしんぼう。」
13 この証言はほんとうなのです。ですから、きびしく戒めて、人々の信仰を
健全にし、 14 ユダヤ人の空想話や、真理から離れた人々の戒めには心を寄せ
ないようにさせなさい。 15 きよい人々には、すべてのものがきよいのです。
しかし、汚れた、不信仰な人々には、何一つきよいものはありません。それ
どころか、その知性と良心までも汚れています。 16 彼らは、神を知っている
と口では言いますが、行ないでは否定しています。実に忌まわしく、不従順
で、どんな良いわざにも不適格です。

2

1 しかし、あなたは健全な教えにふさわしいことを話しなさい。 2 老人たちよ
には、自制し、謹厳で、慎み深くし、信仰と愛と忍耐とにおいて健全である敬虔あ
にに。 3 同じように、年をとった婦人たちには、神に仕えている者らしく敬虔あ
にふるまい、悪口を言わず、大酒のとりこにならず、良いことを教える者でる
る ように。 4 そうすれば、彼女たちは、若い婦人たちに向かって、夫を愛し、
子どもを愛し、 5 慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順でる
あるようにと、さとすことができるのです。それは、神のことばがそしられるう
ようなことのないためです。 6 同じように、若い人々には、思慮深くあるよう
に勧めなさい。 7 また、すべての点で自分自身が良いわざの模範となり、教え
においては純正で、威厳を保ち、 8 非難すべきところのない、健全なことばを
用いなさい。そうすれば、敵対する者も、私たちについて、何も悪いことが言分
えなくなって、恥じ入ることになるでしょう。 9 奴隷には、すべての点で自
の主人に従って、満足を与え、口答えせず、 10 盗みをせず、努めて真実を表わ
すように勧めなさい。それは、彼らがあらゆることで、私たちの救い主である
神の教えを飾るようになるためです。 11 というのは、すべての人を救う神の恵
みが現われ、 12 私たちに、不敬虔とこの世の欲とを捨て、この時代にあって、
慎み深く、正しく、敬虔に生活し、 13 祝福された望み、すなわち、大いなる神
であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望む
ようにと教えさとしたからです。 14 キリストが私たちのためにご自身をささげら
れたのは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心なご自分の民
を、ご自分のためにきよめるためでした。
15 あなたは、これらのことを十分な権威をもって話し、勧め、また、責めな
さい。だれにも軽んじられてはいけません。

3

1 あなたは彼らに注意を与えて、支配者たちと権威者たちに服従し、従順で、
すべての良いわざを進んでする者とならせなさい。 2 また、だれをもそしらず、
争わず、柔和で、すべての人に優しい態度を示す者とならせなさい。 3 私たち
も以前は、愚かな者であり、不従順で、迷った者であり、いろいろな欲情と快
楽の奴隷になり、悪意とねたみの中に生活し、憎まれ者であり、互いに憎み合
う者でした。 4 しかし、私たちの救い主なる神のいつくしみと人への愛とが現
われたとき、 5 神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分の
あわれみのゆえに、聖霊による、新生と更新との洗いをもって私たちを救っ
てくださいました。 6 神は、この聖霊を、私たちの救い主なるイエス・キリス
トによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。 7 それは、私たちがキ
リストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みによって、相続人と
なるためです。 8 これは信頼できることばですから、私は、あなたがこれらの
ことについて、確信をもって話すように願っています。それは、神を信じてい
る人々が、良いわざに励むことを心がけるようになるためです。これらのこと
は良いことであって、人々に有益なことです。 9 しかし、愚かな議論、系図、
口論、律法についての論争などを避けなさい。それらは無益で、むだなもので
す。 10 分派を起こす者は、一、二度戒めてから、除名しなさい。 11 このような
人は、あなたも知っているとおり、堕落しており、自分で悪いと知りながら罪
を犯しているのです。
12 私がアルテマスかテキコをあなたのもとに送ったら、あなたは、何として
でも、ニコポリにいる私のところに来てください。私はそこで冬を過ごすこと
に決めています。 13 ぜひとも、律法学者ゼナスとアポロとが旅に出られるよう
にし、彼らが不自由しないように世話をしてあげなさい。 14 私たち一同も、な
くてならないもののために、正しい仕事に励むように教えられなければなり
ません。それは、実を結ばない者にならないためです。
15 私といっしょにいる者たち一同が、あなたによろしくと言っています。私
たちの信仰の友である人々に、よろしく言ってください。恵みが、あなたがた
すべてとともにありますように。

ピレモンへの手紙

1 キリスト・イエスの囚人であるパウロ、および兄弟テモテから、私たちの愛
する同労者ピレモンへ。また、 2 姉妹アピヤ、私たちの戦友アルキポ、ならび
にあなたの家にある教会へ。 3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、
恵みと平安があなたがたの上にありますように。
4 私は、祈りのうちにあなたのことを覚え、いつも私の神に感謝しています。
5 それは、主イエスに対してあなたが抱いている信仰と、すべての聖徒に対する
あなたの愛とについて聞いているからです。 6 私たちの間でキリストのために
なされているすべての良い行ないをよく知ることによって、あなたの信仰の交
わりが生きて働くものとなりますように。 7 私はあなたの愛から多くの喜びと
慰めとを受けました。それは、聖徒たちの心が、兄弟よ、あなたによって力づ
けられたからです。
8 私は、あなたのなすべきことを、キリストにあって少しもはばからず命じ
ることができるのですが、こういうわけですから、 9 むしろ愛によって、あな
たにお願いしたいと思います。年老いて、今はまたキリスト・イエスの囚人と
なっている私パウロが、 10 獄中で生んだわが子オネシモのことを、あなたにお
願いしたいのです。 11 彼は、前にはあなたにとって役に立たない者でしたが、
今は、あなたにとっても私にとっても、役に立つ者となっています。 12 そのオ
ネシモを、あなたのもとに送り返します。彼は私の心そのものです。 13 私は、
彼を私のところにとどめておき、福音のために獄中にいる間、あなたに代わっ
て私のために仕えてもらいたいとも考えましたが、 14 あなたの同意なしには何
一つすまいと思いました。それは、あなたがしてくれる親切は強制されてでは
なく、自発的でなければいけないからです。 15 彼がしばらくの間あなたから離
されたのは、たぶん、あなたが彼を永久に取り戻すためであったのでしょう。
16 もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、すなわち、愛する兄弟としてで
す。特に私にとってそうですが、あなたにとってはなおさらのこと、肉におい
ても主にあっても、そうではありませんか。 17 ですから、もしあなたが私を親
しい友と思うなら、私を迎えるように彼を迎えてやってください。 18 もし彼が
あなたに対して損害をかけたか、負債を負っているのでしたら、その請求は私
にしてください。 19 この手紙は私の自筆です。私がそれを支払います。――あ
なたが今のようになれたのもまた、私によるのですが、そのことについては何
も言いません。―― 20 そうです。兄弟よ。私は、主にあって、あなたから益を
受けたいのです。私の心をキリストにあって、元気づけてください。
21 私はあなたの従順を確信して、あなたにこの手紙を書きました。私の言う
以上のことをしてくださるあなたであると、知っているからです。 22 それにま
た、私の宿の用意もしておいてください。あなたがたの祈りによって、私もあ
なたがたのところに行けることと思っています。
23 キリスト・イエスにあって私とともに囚人となっているエパフラスが、あ
なたによろしくと言っています。 24 私の同労者たちであるマルコ、アリスタル
コ、デマス、ルカからもよろしくと言っています。
25 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

ヘブル人への手紙

1 神は、むかし先祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、
いろいろな方法で語られましたが、2 この終わりの時には、御子によって、私
たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界
を造られました。3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現われであ
り、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめ
を成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。4 御子は、
御使いたちよりもさらにすぐれた御名を相続されたように、それだけ御使いよ
りもまさるものとなられました。5 神は、かつてどの御使いに向かって、こう
言われたでしょう。
「あなたは、わたしの子。
きょう、わたしがあなたを生んだ。」
またさらに、
「わたしは彼の父となり、
彼はわたしの子となる。」
6 さらに、長子をこの世界にお送りになるとき、こう言われました。
「神の御使いはみな、彼を拝め。」
7 また御使いについては、
「神は、御使いたちを風とし、
仕える者たちを炎とされる。」
と言われましたが、8 御子については、こう言われます。
「神よ。あなたの御座は世々限りなく、
あなたの御国の杖こそ、まっすぐな杖です。
9 あなたは義を愛し、不正を憎まれます。
それゆえ、神よ。あなたの神は、
あふれるばかりの喜びの油を、
あなたとともに立つ者にまして、
あなたに注ぎなさいました。」
10 またこう言われます。
「主よ。あなたは、初めに
地の基を据えられました。
天も、あなたの御手のわざです。
11 これらのものは滅びます。
しかし、あなたはいつまでもながらえられます。
すべてのものは着物のように古びます。
12 あなたはこれらを、外套のように巻かれます。
これらを、着物のように取り替えられます。
しかし、あなたは変わることがなく、
あなたの年は尽きることがありません。」
13 神は、かつてどの御使いに向かって、こう言われたでしょう。
「わたしがあなたの敵を
あなたの足台とするまでは、
わたしの右の座に着いていなさい。」
14 御使いはみな、仕える霊であって、救いの相続者となる人々に仕えるため
遣わされたのではありませんか。

2

1 ですから、私たちは聞いたことを、ますますしっかり心に留めて、押し流
されないようにしなければなりません。2 もし、御使いたちを通して語られた
みことばでさえ、堅く立てられて動くことがなく、すべての違反と不従順が当
然の処罰を受けたとすれば、3 私たちがこんなにすばらしい救いをないがしろ
にしたばあい、どうしてのがれることができましょう。この救いは最初主によ
って語られ、それを聞いた人たちが、確かなものとしてこれを私たちに示し、
4 そのうえ神も、しるしと不思議とさまざまの力あるわざにより、また、みこ
ころに従って聖霊が分け与えてくださる賜物によってあかしされました。
5 神は、私たちがいま話している後の世を、御使いたちに従わせることはなさ
らなかったのです。6 むしろ、ある個所で、ある人がこうあかししています。
「人間が何者だというので、

これをみこころに留められるのでしょう。
人の子が何者だというので、
これを顧みられるのでしょう。
7 あなたは、彼を、
御使いよりも、しばらくの間、低いものとし、
彼に栄光と誉れの冠を与え、
8 万物をその足の下に従わせられました。」
万物を彼に従わせたとき、神は、彼に従わないものを何一つ残されなかったのです。それなのに、今でもなお、私たちはすべてのものが人間に従わせられているのを見てはいません。 9 ただ、御使いよりも、しばらくの間、低くされた方であるイエスのことは見ています。イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになりました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。 10 神が多くの子たちを栄光に導くのに、彼らの救いの創始者を、多くの苦しみを通して全うされたということは、万物の存在の目的であり、また原因でもある方として、ふさわしいことであったのです。 11 きよめる方も、きよめられる者たちも、すべて元は一つです。それで、主は彼らを兄弟と呼ぶことを恥としないで、こう言われます。
12 「わたしは御名を、わたしの兄弟たちに告げよう。
教会の中で、わたしはあなたを賛美しよう。」
13 またさらに、
「わたしは彼に信頼する。」
またさらに、
「見よ、わたしと、神がわたしに賜わった子たちは。」
と言われます。 14 そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、 15 一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。 16 主は御使いたちを助けるのではなく、確かに、アブラハムの子孫を助けてくださるのです。
17 そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりませんでした。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。 18 主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることがおできになるのです。

3

1 そういうわけですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちの告白する信仰の使徒であり、大祭司であるイエスのことを考えなさい。
2 モーセが神の家全体のために忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実なのです。 3 家よりも、家を建てる者が大きな栄誉を持つのと同様に、イエスはモーセよりも大きな栄光を受けるのにふさわしいとされました。 4 家はそれぞれ、だれかが建てるのですが、すべてのものを造られた方は、神です。 5 モーセは、しもべとして神の家全体のために忠実でした。それは、後に語られる事をあかしするためでした。 6 しかし、キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし私たちが、確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続けるならば、私たちが神の家なのです。
7 ですから、聖霊が言われるとおりです。
「きょう、もし御声を聞くならば、
8 荒野での試みの日に
御怒りを引き起こしたときのように、
心をかたくなにしてはならない。
9 あなたがたの先祖たちは、
そこでわたしを試みて証拠を求め、
四十年の間、わたしのわざを見た。
10 だから、わたしはその時代を憤って言った。
彼らは常に心が迷い、
わたしの道を悟らなかった。
11 わたしは、怒りをもって誓ったように、
決して彼らをわたしの安息にはいらせない。」
12 兄弟たち。あなたがたの中では、だれも悪い不信仰の心になって生ける神から離れる者がないように気をつけなさい。 13 「きょう。」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならない

ようにしなさい。 14 もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、
私たちは、キリストにあずかる者となるのです。
15 「きょう、もし御声を聞くならば、
御怒りを引き起こしたときのように、
心をかたくなにしてはならない。」
と言われているからです。 16 聞いていながら、御怒りを引き起こしたのはだ
れでしたか。モーセに率いられてエジプトを出た人々の全部ではありません
か。 17 神は四十年の間だれを怒っておられたのですか。罪を犯した人々、し
かばねを荒野にさらした、あの人たちをではありませんか。 18 また、わたし
の安息にはいらせないと神が誓われたのは、ほかでもない、従おうとしなか
った人たちのことではありませんか。 19 それゆえ、彼らが安息にはいれなか
ったのは、不信仰のためであったことがわかります。

4

1 こういうわけで、神の安息にはいるための約束はまだ残っているのですか
ら、あなたがたのうちのひとりでも、万が一にもこれにはいれないようなこと
のないように、私たちは恐れる心を持とうではありませんか。 2 福音を説き聞
かされていることは、私たちも彼らと同じなのです。ところが、その聞いたみ
ことばも、彼らには益になりませんでした。みことばが、それを聞いた人たち
に、信仰によって、結びつけられなかったからです。 3 信じた私たちは安息に
はいるのです。
「わたしは、怒りをもって誓ったように、
決して彼らをわたしの安息にはいらせない。」
と神が言われたとおりです。みわざは創世の初めから、もう終わっているの
です。 4 というのは、神は七日目について、ある個所で、「そして、神は、
すべてのみわざを終えて七日目に休まれた。」と言われました。 5 そして、
ここでは、「決して彼らをわたしの安息にはいらせない。」と言われたので
す。 6 こういうわけで、その安息にはいる人々がまだ残っており、前に福音
を説き聞かされた人々は、不従順のゆえにはいれなかったのですから、 7 神
は再びある日を「きょう。」と定めて、長い年月の後に、前に言われたと同
じように、ダビデを通して、
「きょう、もし御声を聞くならば、
あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」
と語られたのです。 8 もしヨシュアが彼らに安息を与えたのであったら、神
はそのあとで別の日のことを話されることはなかったでしょう。 9 したがっ
て、安息日の休みは、神の民のためにまだ残っているのです。 10 神の安息に
はいった者ならば、神がご自分のわざを終えて休まれたように、自分のわざ
を終えて休んだはずです。 11 ですから、私たちは、この安息にはいるよう力
を尽くして努め、あの不従順の例にならって落後する者が、ひとりもいない
ようにしようではありませんか。 12 神のことばは生きていて、力があり、両
刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、
心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。 13 造られたも
ので、神の前で隠れおおせるものは何一つなく、神の目には、すべてが裸で
あり、さらけ出されています。私たちはこの神に対して弁明をするのです。
14 さて、私たちのためには、もろもろの天を通られた偉大な大祭司である神
の子イエスがおられるのですから、私たちの信仰の告白を堅く保とうではあり
ませんか。 15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありませ
ん。罪は犯されませんでしたが、すべての点で、私たちと同じように、試みに
会われたのです。 16 ですから、私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただ
いて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうでは
ありませんか。

5

1 大祭司はみな、人々の中から選ばれ、神に仕える事がらについて人々に代
わる者として、任命を受けたのです。それは、罪のために、ささげ物といけに
えとをささげるためです。 2 彼は、自分自身も弱さを身にまとっているので、
無知な迷っている人々を思いやることができるのです。 3 そしてまた、その弱
さのゆえに、民のためだけでなく、自分のためにも、罪のためのささげ物をし
なければなりません。 4 まただれでも、この名誉は自分で得るのではなく、ア
ロンのように神に召されて受けるのです。 5 同様に、キリストも大祭司となる
栄誉を自分で得られたのではなく、彼に、
「あなたは、わたしの子。

きょう、わたしがあなたを生んだ。」
と言われた方が、それをお与えになったのです。 6 別の個所で、こうも言われます。
「あなたは、とこしえに、
メルキゼデクの位に等しい祭司である。」
7 キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙とをもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられました。 8 キリストは御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び、 9 完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与える者となり、 10 神によって、メルキゼデクの位に等しい大祭司ととなえられたのです。
11 この方について、私たちは話すべきことをたくさん持っていますが、あなたがたの耳が鈍くなっているため、説き明かすことが困難です。 12 あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。 13 まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。 14 しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。

6

1 ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を目ざして進もうではありませんか。死んだ行ないからの回心、神に対する信仰、 2 きよめの洗いについての教え、手を置く儀式、死者の復活、とこしえのさばきなど基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう。 3 神がお許しになるならば、私たちはそうすべきです。 4 一度光を受けて天からの賜物の味を知り、聖霊にあずかる者となり、 5 神のすばらしいみことばと、後にうやがて来る世の力とを味わったうえで、 6 しかも堕落してしまうならば、そういう人々をもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません。彼らは、自分で神の子をもう一度十字架にかけて、恥辱を与える人たちだからです。 7 土地は、その上にしばしば降る雨を吸い込んで、これを耕す人たちのために有用な作物を生じるなら、神の祝福にあずかります。 8 しかし、いばらやあざみなどを生えさせるなら、無用なものであって、やがてのろいを受け、ついには焼かれてしまいます。
9 だが、愛する人たち。私たちはこのように言いますが、あなたがたについては、もっと良いことを確信しています。それは救いにつながることです。 10 神は正しい方であって、あなたがたの行ないを忘れず、あなたがたがこれまで聖徒たちに仕え、また今も仕えて神の御名のために示したあの愛をお忘れにならないのです。 11 そこで、私たちは、あなたがたひとりひとりが、同じ熱心さを示して、最後まで、私たちの希望について十分な確信を持ち続けてくれるよう切望します。 12 それは、あなたがたがなまけずに、信仰と忍耐によって約束のものを相続するあの人たちに、ならう者となるためです。
13 神は、アブラハムに約束されるとき、ご自分よりすぐれたものをさして誓うことがありえないため、ご自分をさして誓い、 14 こう言われました。「わたしは必ずあなたを祝福し、あなたを大いにふやす。」 15 こうして、アブラハムは、忍耐の末に、約束のものを得ました。 16 確かに、人間は自分よりすぐれた者をさして誓います。そして、確証のための誓いというものは、人間のすべての反論をやめさせます。 17 そこで、神は約束の相続者たちに、ご計画の変わらないことをさらにはっきり示そうと思い、誓いをもって保証されたのです。 18 それは、変えることのできない二つの事がらによって、――神は、これらの事がらのゆえに、偽ることができません。――前に置かれている望みを捕えるためにのがれて来た私たちが、力強い励ましを受けるためです。 19 この望みは、私たちのたましいのために、安全で確かな錨の役を果たし、またこの望みは幕の内側にはいるのです。 20 イエスは私たちの先駆けとしてそこにはいり、永遠にメルキゼデクの位に等しい大祭司となられました。

7

1 このメルキゼデクは、サレムの王で、すぐれて高い神の祭司でしたが、アブラハムが王たちを打ち破って帰るのを出迎えて祝福しました。 2 またアブラハムは彼に、すべての戦利品の十分の一を分けました。まず彼は、その名を訳すと義の王であり、次に、サレムの王、すなわち平和の王です。 3 父もなく、

母もなく、系図もなく、その生涯の初めもなく、いのちの終わりもなく、神の
子に似た者とされ、いつまでも祭司としてとどまっているのです。
4 その人がどんなに偉大であるかを、よく考えてごらんなさい。族長であるアブラハムでさえ、彼に一番良い戦利品の十分の一を与えたのです。 5 レビの子らの中で祭司職を受ける者たちは、自分もアブラハムの子孫でありながら、民から、すなわち彼らの兄弟たちから、十分の一を徴集するようにと、律法の中で命じられています。 6 ところが、レビ族の系図にない者が、アブラハムから十分の一を取って、約束を受けた人を祝福したのです。 7 いうまでもなく、下位の者が上位の者から祝福されるのです。 8 一方では、死ぬべき人間が十分の一を受けていますが、他のばあいは、彼は生きているとあかしされている者が受けるのです。 9 また、いうならば、十分の一を受け取るレビでさえアブラハムを通して十分の一を納めているのです。 10 というのは、メルキゼデクがアブラハムを出迎えたときには、レビはまだ父の腰の中にいたからです。
11 さて、もしレビ系の祭司職によって完全に到達できたのだったら、——民はそれを基礎として律法を与えられたのです。——それ以上何の必要があって、アロンの位でなく、メルキゼデクの位に等しいと呼ばれる他の祭司が立てられたのでしょうか。 12 祭司職が変われば、律法も必ず変わらなければなりませんが、 13 私たちが今まで論じて来たその方は、祭壇に仕える者を出したことのない別の部族に属しておられるのです。 14 私たちの主が、ユダ族から出られたことは明らかですが、モーセは、この部族については、祭司に関することを何も述べていません。 15 もしメルキゼデクに等しい、別の祭司が立てられるのなら、以上のことは、いよいよ明らかになります。 16 その祭司は、肉について の戒めである律法にはよらないで、朽ちることのない、いのちの力によって祭司となったのです。 17 この方については、こうあかしされています。
「あなたは、とこしえに、
メルキゼデクの位に等しい祭司である。」
18 一方で、前の戒めは、弱く無益なために、廃止されましたが、 19 ——律法は何事も全うしなかったのです。——他方で、さらにすぐれた希望が導き入れられました。私たちはこれによって神に近づくのです。 20 また、そのためには、はっきりと誓いがなされています。 21 ——彼らのばあいは、誓いなしに祭司となるのですが、主のばあいには、主に対して次のように言われた方の誓いがあります。
「主は誓ってこう言われ、
みこころを変えられることはない。
『あなたはとこしえに祭司である。』」——
22 そのようにして、イエスは、さらにすぐれた契約の保証となられたのです。 23 また、彼らのばあいは、死ということがあるため、務めにいつまでもとどまることができず、大ぜいの者が祭司となりました。 24 しかし、キリストは永遠に存在されるのであって、変わることのない祭司の務めを持っておられます。 25 したがって、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことがおできになります。キリストはいつも生きていて、彼らのために、とりなしをしておられるからです。
26 また、このようにきよく、悪も汚れもなく、罪人から離れ、また、天よりも高くされた大祭司こそ、私たちにとってまさに必要な方です。 27 ほかの大祭司たちとは違い、キリストには、まず自分の罪のために、その次に、民の罪のために毎日いけにえをささげる必要はありません。というのは、キリストは自分自身をささげ、ただ一度でこのことを成し遂げられたからです。 28 律法は弱さを持つ人間を大祭司に立てますが、律法のあとから来た誓いのみことばは、永遠に全うされた御子を立てるのです。

8

1 以上述べたことの要点はこうです。すなわち、私たちの大祭司は天におられる大能者の御座の右に着座された方であり、 2 人間が設けたのではなくて、主が設けられた真実の幕屋である聖所で仕えておられる方です。 3 すべて、大祭司は、ささげ物といけにえとをささげるために立てられます。したがって、この大祭司も何かささげる物を持っていなければなりません。 4 もしキリストが地上におられるのであったら、決して祭司とはなられないでしょう。律法に従ってささげ物をする人たちがいるからです。 5 その人たちは、天にあるものの写しと影とに仕えているのであって、それらはモーセが幕屋を建てようとしたとき、神から御告げを受けたとおりのものです。神はこう言われたのです。「よく注意しなさい。山であなたに示された型に従って、すべてのものを作りなさい。」 6 しかし今、キリストはさらにすぐれた務めを得られました。それ

は彼が、さらにすぐれた約束に基づいて制定された、さらにすぐれた契約の仲
介者であるからです。 7 もしあの初めの契約が欠けのないものであったなら、
後のものが必要になる余地はなかったでしょう。 8 しかし、神は、それに欠け
があるとして、こう言われたのです。
「主が、言われる。
見よ。日が来る。
わたしが、イスラエルの家やユダの家と
新しい契約を結ぶ日が。
9 それは、わたしが彼らの先祖たちの手を引いて、
彼らをエジプトの地から導き出した日に
彼らと結んだ契約のようなものではない。
彼らがわたしの契約を守り通さないので、
わたしも、彼らを顧みなかったと、
主は言われる。
10 それらの日の後、わたしが、
イスラエルの家と結ぶ契約は、これであると、
主が言われる。
わたしは、わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、
彼らの心に書きつける。
わたしは彼らの神となり、
彼らはわたしの民となる。
11 また彼らが、おのおのその町の者に、
また、おのおのその兄弟に教えて、
『主を知れ。』と言うことは決してない。
小さい者から大きい者に至るまで、
彼らはみな、わたしを知るようになるからである。
12 なぜなら、わたしは彼らの不義にあわれみをかけ、
もはや、彼らの罪を思い出さないからである。」
13 神が新しい契約と言われたときには、初めのものを古いとされたのです。
年を経て古びたものは、すぐに消えて行きます。

9

1 初めの契約にも礼拝の規定と地上の聖所とがありました。 2 幕屋が設けら
れ、その前部の所には、燭台と机と供えのパンがありました。聖所と呼ばれる
所です。 3 また、第二の垂れ幕のうしろには、至聖所と呼ばれる幕屋が設けら
れ、 4 そこには金の香壇と、全面を金でおおわれた契約の箱があり、箱の中に
は、マナのはいった金のつぼ、芽を出したアロンの杖、契約の二つの板があり
ました。 5 また、箱の上には、贖罪蓋を翼でおおっている栄光のケルビムがあ
りました。しかしこれらについては、今いちいち述べることができません。 6 さ
て、これらの物が以上のように整えられた上で、前の幕屋には、祭司たちがい
つもはいって礼拝を行なうのですが、 7 第二の幕屋には、大祭司だけが年に一
度だけはいります。そのとき、血を携えずにはいるようなことはありません。
その血は、自分のために、また、民が知らずに犯した罪のためにささげるもの
です。 8 これによって聖霊は次のことを示しておられます。すなわち、前の幕
屋が存続しているかぎり、まことの聖所への道は、まだ明らかにされていない
ということです。 9 この幕屋はその当時のための比喩です。それに従って、さ
ささげ物といけにえとがささげられますが、それらは礼拝する者の良心を完全に
することはできません。 10 それらは、ただ食物と飲み物と種々の洗いに関する
もので、新しい秩序の立てられる時まで課せられた、からだに関する規定にす
ぎないからです。
11 しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事がらの大祭司として来ら
れ、手で造った物でない、言い替えれば、この造られた物とは違った、さらに
偉大な、さらに完全な幕屋を通り、 12 また、やぎと子牛との血によってではな
く、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成
し遂げられたのです。 13 もし、やぎと雄牛の血、また雌牛の灰を汚れた人々に
注ぎかけると、それがきよめの働きをして肉体をきよいものにするとすれば、
14 まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におさ
げになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離
れさせ、生ける神に仕える者とすることでしょう。 15 こういうわけで、キリス
トは新しい契約の仲介者です。それは、初めの契約のときの違反を贖うための
死が実現したので、召された者たちが永遠の資産の約束を受けることができる
ためなのです。 16 遺言には、遺言者の死亡証明が必要です。 17 遺言は、人が死

んだとき初めて有効になるのであって、遺言者が生きている間は、決して効力
はありません。 18 したがって、初めの契約も血なしに成立したのではありませ
ん。 19 モーセは、律法に従ってすべての戒めを民全体に語って後、水と赤い色
の羊の毛とヒソプとのほかに、子牛とやぎの血を取って、契約の書自体にも民
の全体にも注ぎかけ、 20 「これは神があなたがたに対して立てられた契約の血
である。」と言いました。 21 また彼は、幕屋と礼拝のすべての器具にも同様に
血を注ぎかけました。 22 それで、律法によれば、すべてのものは血によってき
よめられる、と言ってよいでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪
の赦しはないのです。
23 ですから、天にあるものにかたどったものは、これらのものによってきよ
められる必要がありました。しかし天にあるもの自体は、これよりもさらにす
ぐれたいけにえで、きよめられなければなりません。 24 キリストは、本物の
模型にすぎない、手で造った聖所にはいられたのではなく、天そのものにはい
られたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現われてくださるので
す。 25 それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所にはいる大祭司とは
違って、キリストは、ご自分を幾度もささげることはなさいません。 26 もしそ
うでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょ
う。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとし
て罪を取り除くために、来られたのです。 27 そして、人間には、一度死ぬこ
と死後にさばきを受けることが定まっているように、 28 キリストも、多くの人
の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うた
めではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。

10

1 律法には、後に来るすばらしいものの影はあっても、その実物はないのです
から、律法は、年ごとに絶えずささげられる同じいけにえによって神に近づい
て来る人々を、完全にすることができないのです。 2 もしそれができたのであ
ったら、礼拝する人々は、一度きよめられた者として、もはや罪を意識しなか
ったはずであり、したがって、ささげ物をすることは、やんだはずです。 3 と
ころがかえって、これらのささげ物によって、罪が年ごとに思い出されるので
す。 4 雄牛とやぎの血は、罪を除くことができません。 5 ですから、キリスト
は、この世界に来て、こう言われるのです。
「あなたは、いけにえやささげ物を望まないで、
わたしのために、からだを造ってくださいました。
6 あなたは全焼のいけにえと
罪のためのいけにえとで
満足されませんでした。
7 そこでわたしは言いました。
『さあ、わたしは来ました。
聖書のある巻に、
わたしについてしるされているとおり、
神よ、あなたのみこころを行なうために。』」
8 すなわち、初めには、「あなたは、いけにえとささげ物、全焼のいけにえ
と罪のためのいけにえ（すなわち、律法に従ってささげられる、いろいろの
物）を望まず、またそれらで満足されませんでした。」と言い、 9 また、「さ
あ、わたしはあなたのみこころを行なうために来ました。」と言われたので
す。後者が立てられるために、前者が廃止されるのです。 10 このみこころに
従って、イエス・キリストのからだが、ただ一度だけささげられたことによ
り、私たちはきよめられたものとされているのです。 11 また、すべて祭司は
毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえをくり返しささげますが、それ
らは決して罪を除き去ることができません。 12 しかし、キリストは、罪のた
めに一つの永遠のいけにえをささげて後、神の右の座に着き、 13 それから
は、その敵がご自分の足台となるのを待っておられるのです。 14 キリストは
きよめられる人々を、一つのささげ物によって、永遠に全うされたのです。
15 聖霊も私たちに次のように言って、あかしされます。
16 「それらの日の後、わたしが、
彼らと結ぼうとしている契約は、これであると、
主は言われる。
わたしは、わたしの律法を彼らの心に置き、
彼らの思いに書きつける。」

たこう言われます。 17「わたしは、もはや決して彼らの罪と不法とを思い
出すことはしない。」 18これらのことが赦されるところでは、罪のためのさ
さげ物はもはや無用です。
19ここういうわけですから、兄弟たち。私たちは、イエスの血によって、大胆
にまことの聖所にはいることができるのです。 20イエスはご自分の肉体という
垂れ幕を通して、私たちのためにこの新しい生ける道を設けてくださったので
す。 21また、私たちには、神の家をつかさどる、この偉大な祭司がありま す。
22そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめら
れ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神
に近づこうではありませんか。 23約束された方は真実な方ですから、私たち は
動揺しないで、しっかりと希望を告白しようではありませんか。 24また、互い
に勧め合って、愛と善行を促すように注意し合おうではありませんか。 25ある
人々のように、いっしょに集まることをやめたりしないで、かえって励まし合
い、かの日が近づいているのを見て、ますますそうしようではありませんか。
26もし私たちが、真理の知識を受けて後、ことさらに罪を犯し続けるなら
ば、罪のためのいけにえは、もはや残されていません。 27ただ、さばきと、逆
らう人たちを焼き尽くす激しい火とを、恐れながら待つよりほかはないので
す。 28だれでもモーセの律法を無視する者は、二、三の証人のことばに基づい
て、あわれみを受けることなく死刑に処せられます。 29まして、神の御子を踏
みつけ、自分をきよめた契約の血を汚れたものとみなし、恵みの御霊を侮る者
は、どんなに重い処罰に値するか、考えてみなさい。 30私たちは、「復讐はわ
たしのすることである。わたしが報いをする。」、また、「主がその民をさば
かれる。」と言われる方を知っています。 31生ける神の手の中に陥ることは恐
ろしいことです。
32あなたがたは、光に照らされて後、苦難に会いながら激しい戦いに耐えた
初めのころを、思い起こしなさい。 33人々の目の前で、そしりと苦しみとを受
けたこともあれば、このようなめに会った人々の仲間になった者もありました。
34あなたがたは、捕えられている人々を思いやり、また、もっとすぐれた、い
つまでも残る財産を持っていることを知っていたので、自分の財産が奪われて
も、喜んで忍びました。 35ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはなりま
せん。それは大きな報いをもたらすものなのです。 36あなたがたが神のみこ
ろを行なって、約束のものを手に入れるために必要なのは忍耐です。
37「もうしばらくすれば、
来るべき方が来られる。おそくなることはない。
38わたしの義人は信仰によって生きる。
もし、恐れ退くなら、
わたしのこころは彼を喜ばない。」
39私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

11

1信仰は望んでいる事がらを保証し、目に見えないものを確信させるもので
す。 2昔の人々はこの信仰によって称賛されました。 3信仰によって、私たち
は、この世界が神のことばで造られたことを悟り、したがって、見えるものが
目に見えるものからできたのではないことを悟るのです。 4信仰によって、ア
ベルは カインよりもすぐれたいけにえを神にささげ、そのいけにえによって彼
が義人であるとの証明を得ました。神が、彼のさげ物を良いとされたことで、
あかしされてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって、今
なおお語りています。 5信仰によって、エノクは死を見ることのないように移
されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜
ばれていたことが、あかしされていました。 6信仰がなくては、神に喜ばれる
ことはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には
報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。 7信仰によ
り、ノアは、まだ見ていない事がらについて神から警告を受けたとき、恐れか
つ、信仰によって、世を罪に定め、そのよるべを相続する者となりました。
8信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けと
の召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きま
した。 9信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約
束をともに相続するイサクとヤコブとともに天幕生活をしました。 10彼は、
堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設
されたのは神です。 11信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であ
るのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な
方と考えたからです。 12そこで、

ひとりの、しかも死んだも同様のアブラハムから、天の星のように、また海べ
の数えきれない砂のように数多い子孫が生まれたのです。
13 これらの人々はみな、信仰の人々として死にました。約束のものを手に入
れることはありませんでしたが、はるかにそれを見て喜び迎え、地上では旅人
であり寄留者であることを告白していたのです。 14 彼らはこのように言うこ
とによって、自分の故郷を求めていることを示しています。 15 もし、出て来た
故郷のことを思っていたのであれば、帰る機会はあったでしょう。 16 しかし、
事実、彼らは、さらにすぐれた故郷、すなわち天の故郷にあこがれていたの
です。それゆえ、神は彼らの神と呼ばれることを恥となさいませんでした。事
実、神は彼らのために都を用意しておられました。
17 信仰によって、アブラハムは、試みられたときイサクをささげました。
彼は約束を与えられていましたが、自分のただひとりの子をささげたので
す。 18 神はアブラハムに対して、「イサクから出る者があなたの子孫と呼ばば
れる。」と言われたのですが、 19 彼は、神には人を死者の中からよみがえらせ
ることもできる、と考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻し
たのです。これは型です。 20 信仰によって、イサクは未来のことについて、ヤ
コブとエサウを祝福しました。 21 信仰によって、ヤコブは死ぬとき、ヨセフの
子どもたちをひとりひとり祝福し、また自分の杖のかしらに寄りかかって礼拝
しました。 22 信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子孫の脱出を
語り、自分の骨について指図しました。 23 信仰によって、モーセは生まれてか
ら、両親によって三か月の間隠されていました。彼らはその子の美しいのを見
たからです。彼らは王の命令をも恐れませんでした。 24 信仰によって、モーセ
は成人したとき、パロの娘の子と呼ばれることを拒み、 25 はかない罪の楽し
みを受けるよりは、むしろ神の民とともに苦しむことを選び取りました。 26 彼
は、キリストのゆえに受けるそしりを、エジプトの宝にまさる大きな富と思い
ました。彼は報いとして与えられるものから目を離さなかったのです。 27 信仰
によって、彼は、王の怒りを恐れないで、エジプトを立ち去りました。目に見
えない方を見るようにして、忍び通したからです。 28 信仰によって、初子を滅
ぼす者が彼らに触れることのないように、彼は過越と血の注ぎとを行ないまし
た。 29 信仰によって、彼らは、かわいた陸地を行くのと同様に紅海を渡りまし
た。エジプト人は、同じようにしようとしましたが、のみこまれてしまいまし
た。 30 信仰によって、人々が七日の間エリコの城の周囲を回ると、その城壁は
くずれ落ちました。 31 信仰によって、遊女ラハブは、偵察に来た人たちを穏や
かに受け入れたので、不従順な人たちといっしょに滅びることを免れました。
32 これ以上、何を言いましょうか。もし、ギデオン、バラク、サムソン、エ
フタ、またダビデ、サムエル、預言者たちについても話すならば、時が足りな
いでしょう。 33 彼らは、信仰によって、国々を征服し、正しいことを行ない、
約束のものを得、ししの口をふさぎ、 34 火の勢いを消し、剣の刃をのがれ、弱
い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を陥れました。 35 女たら
ちは、死んだ者をよみがえらせていただきました。またほかの人たちは、さら
にすぐれたよみがえりを得るために、釈放されることを願わないで拷問を受け
ました。 36 また、ほかの人たちは、あざけられ、むちで打たれ、さらに鎖につ
ながれ、牢に入れられるめに会い、 37 また、石で打たれ、試みを受け、のこぎ
りで引かれ、剣で切り殺され、羊ややぎの皮を着て歩き回り、乏しくなり、悩
まされ、苦しめられ、 38 ――この世は彼らにふさわしい所ではありませんでし
た。――荒野と山とほら穴と地の穴とをさまよいました。 39 この人々はみな、
その信仰によってあかしされましたが、約束されたものは得ませんでした。
40 神は私たちのために、さらにすぐれたものをあらかじめ用意しておられたの
で、彼らが私たちと別に全うされるということはなかったのです。

12

1 こういうわけで、このように多くの証人たちが、雲のように私たちを取り
巻いているのですから、私たちも、いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨て
て、私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませ
んか。 2 信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさ
い。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせ
ずに十字架を忍び、神の御座の右に着座されました。 3 あなたがたは、罪人た
ちのこのような反抗を忍ばれた方のことを考えなさい。それは、あなたがたの
心が元気を失い、疲れ果ててしまわないためです。 4 あなたがたはまだ、罪と
戦って、血を流すまで抵抗したことがありません。 5 そして、あなたがたに向
かって子どもに対するように語られたこの勧めを忘れています。
「わが子よ。

主の懲らしめを軽んじてはならない。
主に責められて弱り果ててはならない。
6 主はその愛する者を懲らしめ、
受け入れるすべての子に、
むちを加えられるからである。」
7 訓練と思って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。8 もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であって、ほんとうの子ではないのです。9 さらにまた、私たちには肉の父がいて、私たちを懲らしめたのですが、しかも私たちは彼らを敬ったのではなければ、なおさらのこと、私たちはすべての霊の父に服従して生きるべきではないでしょうか。10 なぜなら、肉の父親は、短い期間、自分が良いと思うままに私たちを懲らしめるのですが、霊の父は、私たちの益のため、私たちを自分のきよさにあずからせようとして、懲らしめるのです。11 すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。12 ですから、弱った手と衰えたひざとを、まっすぐにしなさい。13 また、あなたがたの足のためには、まっすぐな道を作りなさい。足なえの人も関節をはずすことのないため、いやむしろ、いやされるためです。
14 すべての人との平和を追い求め、また、きよめられることを追い求めなさい。きよくなければ、だれも主を見ることができません。15 そのためには、あなたがたはよく監督して、だれも神の恵みから落ちる者がないように、また、苦いの根が芽を出して悩ましたり、これによって多くの人が汚されたりすることのないように、16 また、不品行の者や、一杯の食物と引き替えに自分のものであった長子の権利を売ったエサウのような俗悪な者がないようにしなさい。17 あなたがたが知っているとおり、彼は後になって祝福を相続したいと思ったが、退けられました。涙を流して求めても、彼には心を変えてもらう余地がありませんでした。
18 あなたがたは、手でさわれる山、燃える火、黒雲、暗やみ、あらし、19 ラッパの響き、ことばのとどろきに近づいているのではありません。このとどろきは、これを聞いた者たちが、それ以上一言も加えてもらいたくないと願ったものです。20 彼らは、「たとい、獣でも、山に触れるものは石で打ち殺されなければならない。」というその命令に耐えることができなかったのです。21 また、その光景があまり恐ろしかったので、モーセは、「私は恐れて、震える。」と言いました。22 しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。23 また、天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者である神、全うされた義人たちの霊、24 さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりも立ぐれたことを語る注ぎかけの血に近づいています。25 語っておられる方を拒まなかったイスラエルが処罰を免れることができなかったとすれば、まして天から語っておられる方に背を向ける私たちが、処罰を免れることができないのは当然ではありませんか。26 あのときは、その声が地を揺り動かしましたが、このたびは約束をもって、こう言われます。「わたしは、もう一度、地だけではなく、天も揺り動かす。」27 この「もう一度」ということばは、決して揺り動かされることのないものが残るために、すべての造られた、揺り動かされるものが取り除かれることを示しています。28 こういうわけで、私たちは揺り動かされない御国を受けているのですから、感謝しようではありませんか。こうして私たちは、慎みと恐れとをもって、神に喜ばれるように奉仕をすることができるのです。29 私たちの神は焼き尽くす火です。

13

1 兄弟愛をいつも持っていなさい。2 旅人をもてなすことを忘れてはいけません。こうして、ある人々は御使いたちを、それとは知らずにもてなしました。3 牢につながれている人々を、自分も牢にいる気持ちで思いやり、また、自分も肉体を持っているのですから、苦しめられている人々を思いやりなさい。4 結婚がすべての人に尊ばれるようにしなさい。寝床を汚してはいけません。なぜなら、神は不品行な者と姦淫を行なう者とをさばかれるからです。5 金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない。」6 そこで、私たちは確信に満ちてこう言います。
「主は私の助け手です。私は恐れません。

人間が、私に対して何ができましょう。」

7 神のみことばをあなたがたに話した指導者たちのことを、思い出しなさい。
彼らの生活の結末をよく見て、その信仰にならいなさい。 8 イエス・キリスト
は、きのうもきょうも、いつまでも、同じです。 9 さまざまの異なった教えに
よって迷わされてはなりません。食物によってではなく、恵みによって心を強
めるのは良いことです。食物に気を取られた者は益を得ませんでした。 10 私
たちには一つの祭壇があります。幕屋で仕える者たちには、この祭壇から食べ
る権利がありません。 11 動物の血は、罪のための供え物として、大祭司によっ
て聖所の中まで持って行かれますが、からだは宿営の外で焼かれるからです。
12 ですから、イエスも、ご自分の血によって民をきよめるために、門の外で苦
しみを受けられました。 13 ですから、私たちは、キリストのはずかしめを身
に負って、宿営の外に出て、みもとに行こうではありませんか。 14 私たちは、
この地上に永遠の都を持っているのではなく、むしろ後に来ようとしている都
を求めているのです。 15 ですから、私たちはキリストを通して、賛美のいけに
え、すなわち御名をたたえるくちびるの果実を、神に絶えずささげようではあ
りませんか。 16 善を行なうことと、持ち物を人に分けることとを怠ってはいけ
ません。神はこのようないけにえを喜ばれるからです。 17 あなたがたの指導者
たちの言うことを聞き、また服従しなさい。この人々は神に弁明する者であっ
て、あなたがたのたましいのために見張りをしているのです。ですから、この
人たちが喜んでそのことをし、嘆いてすることにならないようにしなさい。そ
うでないと、あなたがたの益にならないからです。
18 私たちのために祈ってください。私たちは、正しい良心を持っていると確
信しており、何事についても正しく行動しようと願っているからです。 19 ま
た、もっと祈ってくださるよう特にお願いします。それだけ、私があなたがた
のところに早く帰れるようになるからです。
20 永遠の契約の血による羊の大牧者、私たちの主イエスを死者の中から導き
出された平和の神が、 21 イエス・キリストにより、御前でみこころにかなうこ
とを私たちのうちに行ない、あなたがたがみこころを行なうことができるため
に、すべての良いことについて、あなたがたを完全な者としてくださいます
ように。どうか、キリストに栄光が世々限りなくありますように。アーメン。
22 兄弟たち。このような勧めのことばを受けてください。私はただ手短に書
きました。 23 私たちの兄弟テモテが釈放されたことをお知らせします。もし
彼が早く来れば、私は彼といっしょにあなたがたに会えるでしょう。 24 すべて
のあなたがたの指導者たち、また、すべての聖徒たちによろしく言ってくだ
さい。イタリヤから来た人たちが、あなたがたによろしくと言っています。
25 恵みが、あなたがたすべてとともにありますように。

ヤコブの手紙

1 神と主イエス・キリストのしもべヤコブが、国外に散っている十二の部族
へあいさつを送ります。
2 私の兄弟たち。さまざまな試練に会うときは、それをこの上もない喜びと
思いなさい。3 信仰がためされると忍耐が生じるということを、あなたがたは
知っているからです。4 その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなた
がたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。
5 あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜し
げなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与
えられます。6 ただし、少しも疑わずに、信じて願いなさい。疑う人は、風に
吹かれて揺れ動く、海の大波のようです。7 そういう人は、主から何かをいた
だけると思ってはなりません。8 そういうのは、二心のある人で、その歩む道
のすべてに安定を欠いた人です。
9 貧しい境遇にある兄弟は、自分の高い身分を誇りとしなさい。10 富んでい
る人は、自分が低くされることに誇りを持ちなさい。なぜなら、富んでいる人
は、草の花のように過ぎ去って行くからです。11 太陽が熱風を伴って上って
来ると、草を枯らしてしまいます。すると、その花は落ち、美しい姿は滅びま
す。同じように、富んでいる人も、働きの最中に消えて行くのです。
12 試練に耐える人は幸いです。耐え抜いて良しと認められた人は、神を愛す
る者に約束された、いのちの冠を受けるからです。13 だれでも誘惑に会ったと
き、神によって誘惑された、と言ってはいけません。神は悪に誘惑されること
のない方であり、ご自分でだれを誘惑なさることもありません。14 人はそれぞ
れ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。15 欲がはらむと
罪を生み、罪が熟すると死を生みます。16 愛する兄弟たち。だまされないよう
にしなさい。17 すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来る
のであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く
影はありません。18 父はみこころのままに、真理のことばをもって私たちを
生みになりました。私たちを、いわば被造物の初穂にするためなのです。
19 愛する兄弟たち。あなたがたはそのことを知っているのです。しかし、
だれでも、聞くには早く、語るにはおそく、怒るにはおそいようにしなさい。
20 人の怒りは、神の義を実現するものではありません。21 ですから、すべての
汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け
入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。22 ま
た、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者で
あってはいけません。23 みことばを聞いても行なわない人がいるなら、その人
は自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のようです。24 自分をながめてから立ち
去ると、すぐにそれがどのようであったかを忘れてしまいます。25 ところが、
完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れ
る聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行
ないによって祝福されます。26 自分は宗教に熱心であると思っても、自分の舌
にくつわをかけず、自分の心を欺いているなら、そのような人の宗教はむなし
いものです。27 父なる神の御前できよく汚れのない宗教は、孤児や、やもめた
ちが困っているときに世話をし、この世から自分をきよく守ることです。

2

1 私の兄弟たち。あなたがたは私たちの栄光の主イエス・キリストを信じる
信仰を持っているのですから、人をえこひいきしてはいけません。2 あなたが
たの会堂に、金の指輪をはめ、りっぱな服装をした人がはいって来、またみす
ぼらしい服装をした貧しい人もはいって来たとします。3 あなたがたが、りっ
ぱな服装をした人に目を留めて、「あなたは、こちらの良い席におすわりなさ
い。」と言い、貧しい人には、「あなたは、そこで立っていなさい。でなけれ
ば、私の足もとにすわりなさい。」と言うとすれば、4 あなたがたは、自分たち
の間で差別を設け、悪い考え方で人をさばく者になったのではありませんか。
5 よく聞きなさい。愛する兄弟たち。神は、この世の貧しい人たちを選んで信仰
に富む者とし、神を愛する者に約束されている御国を相続する者とされたでは
ありませんか。6 それなのに、あなたがたは貧しい人を軽蔑したのです。あな
たがたをしいたげるのは富んだ人たちではありませんか。また、あなたがたを
裁判所に引いて行くのも彼らではありませんか。7 あなたがたがその名で呼ば

れている尊い御名をけがすのも彼らではありませんか。 8 もし、ほんとうにあ
なたがたが、聖書に従って、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。」
という最高の律法を守るなら、あなたがたの行ないはりっぱです。 9 しかし、
もし人をえこひいきするなら、あなたがたは罪を犯しており、律法によって違
反者として責められます。 10 律法全体を守っても、一つの点でつまずくなら、
その人はすべてを犯した者となったのです。 11 なぜなら、「姦淫してはならな
い。」と言われた方は、「殺してはならない。」とも言われたからです。そこ
で、姦淫しなくても人殺しをすれば、あなたは律法の違反者となったのです。
12 自由の律法によってさばかれる者らしく語り、またそのように行ないなさ
い。 13 あわれみを示したことのない者に対するさばきは、あわれみのないさば
きです。あわれみは、さばきに向かって勝ち誇るのです。
14 私の兄弟たち。だれかが自分には信仰があると言っても、その人に行な
いがないなら、何の役に立ちましょう。そのような信仰がその人を救うこと
ができるでしょうか。 15 もし、兄弟また姉妹のだれかが、着る物がなく、まだ
た、毎日の食べ物にもこと欠いているようなときに、 16 あなたがたのうちだ
れかが、その人たちに、「安心して行きなさい。暖かになり、十分に食べなさ
い。」と言っても、もしからだに必要な物を与えないなら、何の役に立つでし
ょう。 17 それと同じように、信仰も、もし行ないがなかったなら、それだけで
は、死んだものです。 18 さらに、こう言う人もあるでしょう。「あなたは信仰
を持っているが、私は行ないを持っています。行ないのないあなたの信仰を、
私に見せてください。私は、行ないによって、私の信仰をあなたに見せてあげ
ます。」 19 あなたは、神はおひとりだと信じています。りっぱなことです。で
ますが、悪霊どもも信じて、身震いしています。 20 ああ愚かな人よ。あなたは
は行ないのない信仰がむなしいことを知りたいと思いますか。 21 私たちの父アラ
ブラハムは、その子イサクを祭壇にささげたとき、行ないによって義と認めら
れたではありませんか。 22 あなたの見ているとおり、彼の信仰は彼の行ないとと
もに働いたのであり、信仰は行ないによって全うされ、 23 そして、「アブラハ
ムは神を信じ、その信仰が彼の義とみなされた。」という聖書のことばが実
現し、彼は神の友と呼ばれたのです。 24 人は行ないによって義と認められるの
であって、信仰だけによるのではないことがわかるでしょう。 25 同様に、遊女ラ
ハブも、使者たちを招き入れ、別の道から送り出したため、その行ないによっ
て義と認められたではありませんか。 26 たましいを離れたからだが、死んだも
のであるのと同様に、行ないのない信仰は、死んでいるのです。

3

1 私の兄弟たち。多くの者が教師になってはいけません。ご承知のように、私
たち教師は、格別きびしいさばきを受けるのです。 2 私たちはみな、多くの点
で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、
からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。 3 馬を御するために、くつわ
をその口にかけると、馬のからだ全体を引き回すことができます。 4 また、船
を見なさい。あのように大きな物が、強い風に押されているときでも、ごく小
さなかじによって、かじを取る人の思いどおりの所へ持って行かれるのです。
5 同様に、舌も小さな器官ですが、大きなことを言って誇るのです。ご覧なさ
い。あのように小さい火があのような大きい森を燃やします。 6 舌は火であり、
不義の世界です。舌は私たちの器官の一つですが、からだ全体を汚し、人生の
車輪を焼き、そしてゲヘナの火によって焼かれます。 7 どのような種類の獣も
鳥も、はうものも海の生き物も、人類によって制せられるし、すでに制せられ
ています。 8 しかし、舌を制御することは、だれにもできません。それは少し
もじっとしていない悪であり、死の毒に満ちています。 9 私たちは、舌をもって
、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造ら
れた人をのろいます。 10 賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟
たち。このようなことは、あってはなりません。 11 泉が甘い水と苦い水を同じ
穴からわき上がらせるということがあるでしょうか。 12 私の兄弟たち。
いちじくの木がオリーブの実をならせたり、ぶどうの木がいちじくの実をなら
せたりすることは、できることでしょうか。塩水が甘い水を出すこと
できないことです。
13 あなたがたのうちで、知恵のある、賢い人はだれでしょうか。その人は、
その知恵にふさわしい柔和な行ないを、良い生き方によって示しなさい。 14 し
かし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇って
はいけません。真理に逆らって偽ることになります。 15 そのような知恵は、上
から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。 16 ねた
みや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行ないがあるか

らです。 17 しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温
順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけの
ないものです。 18 義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうち
に蒔かれます。

4

1 何が原因で、あなたがたの間に戦いや争いがあるのでしょう。あなたがたの
からだの中で戦う欲望が原因ではありませんか。 2 あなたがたは、ほしがっても
自分のものにならないと、人殺しをするのです。うらやんでも手に入れること
ができないと、争ったり、戦ったりするのです。あなたがたのものにならない
のは、あなたがたが願わないからです。 3 願っても受けられないのは、自分の
快楽のために使おうとして、悪い動機で願うからです。 4 貞操のない人たち。
世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友と
なりたいと思ったら、その人は自分を神の敵としているのです。 5 それとも、
「神は、私たちのうちに住まわせた御霊を、ねたむほどに慕っておられる。」
という聖書のことばが、無意味だと思うのですか。 6 しかし、神は、さらに豊
かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高
ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」 7 ですから、神に従い
なさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたか
ら逃げ去ります。 8 神に近づきなさい。そうすれば、神はあなたがたに近づいて
くださいます。罪ある人たち。手を洗いきよめなさい。二心の人たち。心をき
よくしなさい。 9 あなたがたは、苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。
あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。 10 主の御前でへりく
だりなさい。そうすれば、主があなたがたを高くしてくださいます。
11 兄弟たち。互いに悪口を言い合ってはいけません。自分の兄弟の悪口を
言い、自分の兄弟をさばく者は、律法の悪口を言い、律法をさばいているので
す。あなたが、もし律法をさばくなら、律法を守る者ではなくて、さばく者で
す。 12 律法を定め、さばきを行なう方は、ただひとりであり、その方は救うこ
とも滅ぼすこともできます。隣人をさばくあなたは、いったい何者ですか。
13 聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、
商売をして、もうけよう。」と言う人たち。 14 あなたがたには、あすのことは
わからないのです。あなたがたのいのちは、いったいどのようなものですか。
あなたがたは、しばらくの間現われて、それから消えてしまう霧にすぎません。
15 むしろ、あなたがたはこう言うべきです。「主のみこころなら、私たち
は生きていて、このことを、または、あのことをしよう。」 16 ところがこのと
おり、あなたがたはむなしい誇りをもって高ぶっています。そのような高ぶり
は、すべて悪いことです。 17 こういうわけで、なすべき正しいことを知って
いながら行なわないなら、それはその人の罪です。

5

1 聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲惨を思って泣き
叫びなさい。 2 あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われ
ており、 3 あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責め
る証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、
終わりの日に財宝をたくわえました。 4 見なさい。あなたがたの畑の刈り入れ
をした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。そして、取り入れを
した人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。 5 あなたがたは、地上
でぜいたくに暮らし、快楽にふけり、殺される日にあたって自分の心を太らせ
ました。 6 あなたがたは、正しい人を罪に定めて、殺しました。彼はあなたが
たに抵抗しません。
7 こういうわけですから、兄弟たち。主が来られる時まで耐え忍びなさい。見
なさい。農夫は、大地の貴重な実りを、秋の雨や春の雨が降るまで、耐え忍ん
で待っています。 8 あなたがたも耐え忍びなさい。心を強くしなさい。主の来
られるのが近いからです。 9 兄弟たち。互いにつぶやき合ってはいけません。
さばかれないためです。見なさい。さばきの主が、戸口のところに立っておら
れます。 10 苦難と忍耐については、兄弟たち、主の御名によって語った預言者
たちを模範にしなさい。 11 見なさい。耐え忍んだ人たちは幸いであると、私た
ちは考えます。あなたがたは、ヨブの忍耐のことを聞いています。また、主が
彼になさったことの結末を見たのです。主は慈愛に富み、あわれみに満ちて
おられる方だということです。
12 私の兄弟たちよ。何よりもまず、誓わないようにしなさい。天をさして
も地をさしても、そのほかの何をさしてもです。ただ、「はい。」を「は

い。」、「いいえ。」を「いいえ。」としなさい。それは、あなたがたが、さばきに会わないためです。
13 あなたがたのうちに苦しんでいる人がいますか。その人は祈りなさい。喜んでいる人がいますか。その人は賛美しなさい。 14 あなたがたのうちに病気の人がいますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。 15 信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。 16 ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表わし、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。 17 エリヤは、私たちと同じような人でしたが、雨が降らないように祈ると、三年六か月の間、地に雨が降りませんでした。 18 そして、再び祈ると、天は雨を降らせ、地はその実を実らせました。
19 私の兄弟たち。あなたがたのうちに、真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、 20 罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうのだということを、あなたがたは知っていなさい。

ペテロの手紙第一

1 イエス・キリストの使徒ペテロから、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジヤ、ビテニヤに散って寄留している、選ばれた人々、すなわち、2 父なる神の予知に従い、御霊のきよめによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上にますます豊かにされますように。

3 私たちの主イエス・キリストの父なる神がほめたたえられますように。神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせて、生ける望みを持つようにしてくださいました。4 また、朽ちることも汚れることも、消えて行くことも ない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。5 あなたがたは、信仰によって、神の御力によって守られており、終わりのときに現わされるように用意されている救いをいただくのです。6 そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。たとえ、いましばらくの間は、やむをえず、さまざまの試練のために、悩まされていますが、7 信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と光栄と栄誉に至るものであることがわかります。8 あなたがたはイエス・キリストを見たことはないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。9 これは、信仰の結果である、たましいの救いを得ているからです。10 この救いについては、あなたがたに対する恵みについて預言した預言者たちも、熱心に尋ね、細かく調べました。11 彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もってあかしされたとき、だれを、また、どのような時をさして言われたのかを調べたのです。12 彼らは、それらのことが、自分たちのためではなく、あなたがたのための奉仕であるとの啓示を受けました。そして今や、それらのことは、天から送られた聖霊によってあなたがたに福音を語った人々を通して、あなたがたに告げ知らされたのです。それは御使いたちもはっきり見たいと願っていることなのです。

13 ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現われのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。14 従順な子どもとなり、以前あなたがたが無知であったときのさまざまな欲望に従わず、15 あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいてきよくなりなさい。16 それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならない。」と書いてあるからです。17 また、人をそれぞれのわざに従って公平にさばかれる方を父と呼んでいるのなら、あなたがたが地上にしばらくとどまっている間の時を、恐れかしこんで過ごしなさい。18 ご承知のように、あなたがたが先祖から伝わったむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、19 傷もなく汚れもない小羊のようなキリストの、尊い血によったのです。20 キリストは、世の始まる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために、現われてくださいました。21 あなたがたは、死者の中からこのキリストをよみがえらせて彼に栄光を与えられた神を、キリストによって信じる人々です。このようにして、あなたがたの信仰と希望は神にかかっているのです。

22 あなたがたは、真理に従うことによって、たましいをきよめ、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることのない、神のことばによるのです。

24 「人はみな草のようで、
その栄えは、みな草の花のようだ。
草はしおれ、
花は散る。
25 しかし、主のことばは、
とこしえに変わることがない。」
とあるからです。あなたがたに宣べ伝えられた福音のことばがこれです。

2

1 ですから、あなたがたは、すべての悪意、すべてのごまかし、いろいろな偽
善やねたみ、すべての悪口を捨てて、 2 生まれたばかりの乳飲み子のように、
純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るた
めです。 3 あなたがたはすでに、主がいつくしみ深い方であることを味わってい
るのです。 4 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、
選ばれた、尊い、生ける石です。 5 あなたがたも生ける石として、霊の家に築
き上げられなさい。そして、きよい祭司として、イエス・キリストを通して、
神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。 6 なぜなら、聖書にこうあるから
です。
「見よ。わたしはシオンに、選ばれた石、
尊い礎石を置く。
彼に信頼する者は、
決して失望させられることがない。」
7 したがって、より頼んでいるあなたがたには尊いものですが、より頼んでい
ない人々にとっては、「家を建てる者たちが捨てた石、それが礎の石となっ
た。」のであって、 8 「つまずきの石、妨げの岩。」なのです。彼らがつま
ずくのは、みことばに従わないからですが、またそうなるように定められて
いたのです。 9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、きよ
い国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、
ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あな
たがたが宣べ伝えるためなのです。 10 あなたがたは、以前は神の民ではなか
ったのに、今は神の民であり、以前はあわれみを受けない者であったのに、
今はあわれみを受けた者です。
11 愛する者たちよ。あなたがたにお勧めします。旅人であり寄留者であるあ
なたがたは、たましいに戦いをいどむ肉の欲を遠ざけなさい。 12 異邦人の中に
あって、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなた
がたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、お
とずれの日に神をほめたたえるようになります。
13 人の立てたすべての制度に、主のゆえに従いなさい。それが主権者である
王であっても、 14 また、悪を行なう者を罰し、善を行なう者をほめるように
王から遣わされた総督であっても、そうしなさい。 15 というのは、善を行なっ
て、愚かな人々の無知の口を封じることは、神のみこころだからです。 16 あな
たがたは自由人として行動しなさい。その自由を、悪の口実に用いないで、神
の奴隷として用いなさい。 17 すべての人を敬いなさい。兄弟たちを愛し、神を
恐れ、王を尊びなさい。
18 しもべたちよ。尊敬の心を込めて主人に服従しなさい。善良で優しい主人
に対してだけでなく、横暴な主人に対しても従いなさい。 19 人がもし、不当
なら苦しみを受けながらも、神の前における良心のゆえに、悲しみをこらえる
なら、それは喜ばれることです。 20 罪を犯したために打ちたたかれて、それを耐
えぬんだからといって、何の誉れになるでしょう。けれども、善を行なってい
て苦しみを受け、それを耐え忍ぶとしたら、それは、神に喜ばれることです。
21 あなたがたが召されたのは、実にそのためです。キリストも、あなたがたの
ために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残されま
した。 22 キリストは罪を犯したことがなく、その口に何の偽りも見いだされま
せんでした。 23 ののしられても、ののしり返さず、苦しめられても、おどす
ことをせず、正しくさばかれる方にお任せになりました。 24 そして自分から十字
架の上で、私たちの罪をその身に負われました。それは、私たちが罪を離れ、
義のために生きるためです。キリストの打ち傷のゆえに、あなたがたは、いや
されたのです。 25 あなたがたは、羊のようにさまよっていましたが、今は、自
分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰ったのです。

3

1 同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わ
ない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようにな
るためです。 2 それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが
見るからです。 3 あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を
着飾るような外面的なものでなく、 4 むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちる
ことのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、
神の御前に価値あるものです。 5 むかし神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、
このように自分を飾って、夫に従ったのです。 6 たとえばサラも、アブラハム

を主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことをも恐れないで善を
行なえば、サラの子となるのです。
7 同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だというこ
とをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊
敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。
8 最後に申します。あなたがたはみな、心を一つにし、同情し合い、兄弟愛
を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。9 悪をもって悪に報いず、侮辱を
もって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継
ぐために召されたのだからです。
10 「いのちを愛し、
幸いな日々を過ごしたいと思う者は、
舌を押えて悪を言わず、
くちびるを閉ざして偽りを語らず、
11 悪から遠ざかって善を行ない、
平和を求めてこれを追い求めよ。
12 主の目は義人の上に注がれ、
主の耳は彼らの祈りに傾けられる。
しかし主の顔は、
悪を行なう者に立ち向かう。」

13 もし、あなたがたが善に熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加える
でしょう。14 いや、たとい義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いは
ないことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしては
あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつで
も弁明できるよう用意をしていなさい。16 ただし、優しく、慎み恐れて、正し
い良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正し
い生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。
17 もし、神のみこころなら、善を行なって苦しみを受けるのが、悪を行なっ
て苦しみを受けるよりよいのです。18 キリストも一度罪のために死なれました。
正しい方が悪い人々の身代わりとなったのです。それは、肉においては死
に渡され、霊においては生かされて、私たちを神のみもとに導くためでした。
19 その霊において、キリストは捕われの霊たちのところに行ってみことばを宣
べられたのです。20 昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐し
て待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。わずか八人の人々
が、この箱舟の中で、水を通って救われたのです。21 そのことは、今あなたが
たを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。バプテスマは肉体の汚れ
を取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであり、イエス・キリスト
の復活によるものです。22 キリストは天に上り、御使いたち、および、もろ
もろの権威と権力を従えて、神の右の座におられます。

4

1 このように、キリストは肉体において苦しみを受けられたのですから、あ
なたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉体において苦しみを受け
た人は、罪とのかかわりを断ちました。2 こうしてあなたがたは、地上の残さ
れた時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすよ
うになるのです。3 あなたがたは、異邦人たちがしたいと思っていることを行
ない、好色、情欲、酔酒、遊興、宴会騒ぎ、忌むべき偶像礼拝などにふけった
ものですが、それは過ぎ去った時で、もう十分です。4 彼らは、あなたがたが
自分たちといっしょに度を過ごした放蕩に走らないので不思議に思い、また悪
口を言います。5 彼らは、生きている人々をも死んだ人々をも、すぐにもさば
こうとしている方に対し、申し開きをしなければなりません。6 というのは、
死んだ人々にも福音が宣べ伝えられていたのですが、それはその人々が肉体に
おいては人間としてさばきを受けるが、霊においては神によって生きるため
でした。
7 万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎み
なさい。8 何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおう
からです。9 つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。10 それぞれ
が賜物を受けているのですから、神のさまざまな恵みの良い管理者として、そ
の賜物を用いて、互いに仕え合いなさい。11 語る人があれば、神のことばにふ
さわしく語り、奉仕する人があれば、神が豊かに備えてくださる力によって、
それにふさわしく奉仕しなさい。それは、すべてのことにおいて、イエス・キ

リストを通して神があがめられるためです。栄光と支配が世々限りなくキリストにありますように。アーメン。
12 愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪しむことなく、13 むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです。14 もしキリストの名のために非難を受けるなら、あなたがたは幸いです。なぜなら、栄光の御霊、すなわち神の御霊が、あなたがたの上にとどまってくださるからです。15 あなたがたのうちのだれも、人殺し、盗人、悪を行なう者、みだりに他人に干渉する者として苦しみを受けるようなことがあってはなりません。16 しかし、キリスト者として苦しみを受けるのなら、恥じることはありません。かえって、この名のゆえに神をあがめなさい。17 なぜなら、さばきが神の家から始まる時が来ているからです。さばきが、まず私たちから始まるのだとしたら、神の福音に従わない人たちの終わりは、どうなることでしょう。18 義人がかろうじて救われるのだとしたら、神を敬わない者や罪人たちは、いったいどうなるのでしょう。19 ですから、神のみこころに従ってなお苦しみに会っている人々は、善を行なうにあたって、真実であられる創造者に自分のたましいをお任せしなさい。

5

1 そこで、私は、あなたがたのうちの長老たちに、同じく長老のひとり、キリストの苦難の証人、また、やがて現われる栄光にあずかる者として、お勧めします。2 あなたがたのうちにいる、神の羊の群れを、牧しなさい。強制されてするのではなく、神に従って、自分から進んでそれをなし、卑しい利得を求める心からではなく、心を込めてそれをしなさい。3 あなたがたは、その割り当てられている人たちを支配するのではなく、むしろ群れの模範となりなさい。4 そうすれば、大牧者が現われるときに、あなたがたは、しぼむことのない栄光の冠を受けるのです。5 同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。
6 ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてくださるためです。7 あなたがたの思い煩いを、いっさい神にゆだねなさい。神があなたがたのことを心配してくださるからです。8 身を慎み、目をさましていなさい。あなたがたの敵である悪魔が、ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。9 堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通って来たのです。10 あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあってその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。11 どうか、神のご支配が世々限りなくありますように。アーメン。
12 私の認めている忠実な兄弟シルワノによって、私はここに簡潔に書き送り、勧めをし、これが神の真の恵みであることをあかししました。この恵みの中に、しっかりと立っていなさい。13 バビロンにいる、あなたがたとともに選ばれた婦人がよろしくと言っています。また私の子マルコもよろしくと言っています。14 愛の口づけをもって互いにあいさつをかわしなさい。
キリストにあるあなたがたすべての者に、平安がありますように。

ペテロの手紙第二

1 イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの
神であり救い主であるイエス・キリストの義によって私たちと同じ尊い信仰を
受けた方々へ。 2 神と私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、
あなたがたの上にますます豊かにされますように。 3 というのは、私たちを
自身の栄光と徳によってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主
イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに
与えるからです。 4 その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに
与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のも
たらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。 5 こういうわけで
すから、あなたがたは、あらゆる努力をして、信仰には徳を、徳には知識を、
6 知識には自制を、自制には忍耐を、忍耐には敬虔を、 7 敬虔には兄弟愛を、兄
弟愛には愛を加えなさい。 8 これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになる
なら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない
者とか、実を結ばない者になることはありません。 9 これらを備えていない忘
者は、近視眼であり、盲目であって、自分の以前の罪がきよめられたことを
れてしまったのです。 10 ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがた
の召されたことと選ばれたことを確かなものとしなさい。これらのことを行
なっていれば、つまずくことなど決してありません。 11 このようにあなたがた
は、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国にはいる恵
みを豊かに加えられるのです。
12 ですから、すでにこれらのことを知っており、現に持っている真理に堅く
立っているあなたがたであるとはいえ、私はいつもこれらのことを、あなたが
たに思い起こさせようとするのです。 13 私が地上の幕屋にいる間は、これらのの
ことを思い起こさせるようによって、あなたがたを奮い立たせることを、私の
なすべきことと思っています。 14 それは、私たちの主イエス・キリストも、私
にはっきりとお示しになったとおり、私がこの幕屋を脱ぎ捨てるのが間近に迫っ
ていることを知っているからです。 15 また、私の去った後に、あなたがたがいつ
でもこれらのことを思い起こせるよう、私は努めたいのです。 16 私たちは、あ
なたがたに、私たちの主イエス・キリストの力と来臨とを知らせましたが、そ
れは、巧みに考え出した作り話に従ったのではありません。私たちは、キ
リストの威光の目撃者なのです。 17 キリストが父なる神から誉れと栄光をお受
けになったとき、おごそかな、栄光の神から、こういう御声がかかりました。
「これはわたしの愛する子、わたしの喜ぶ者である。」 18 私たちは聖なる山で
主イエスとともにいたので、天からかかったこの御声を、自分自身で聞いた
です。 19 また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜明
けとなって、明けの明星があなたがたの心の中に上るまでは、暗い所を照らす
ともしびとして、それに目を留めているとよいのです。 20 それには何よりも次
のことを知っていなければいけません。すなわち、聖書の預言はみな、人の私
的解釈を施してはならない、ということです。 21 なぜなら、預言は決して人間
の意志によってもたらされたのではなく、聖霊に動かされた人たちが、神か
らのことばを語ったのだからです。

2

1 しかし、イスラエルの中には、にせ預言者も出ました。同じように、あなた
がたの中にも、にせ教師が現われるようになります。彼らは、滅びをもたらす
異端をひそかに持ち込み、自分たちを買い取ってくださった主を否定するよう
なことさえして、自分たちの身にすみやかな滅びを招いています。 2 そして、多
くの者が彼らの好色にならい、そのために真理の道がそしりを受けるのです。
3 また彼らは、貪欲なので、作り事のことばをもってあなたがたを食い物にし
ます。彼らに対するさばきは、昔から怠りなく行なわれており、彼らが滅ぼさ
れないままでいることはありません。 4 神は、罪を犯した御使いたちを、容赦
せず、地獄に引き渡し、さばきの時まで暗やみの穴の中に閉じ込めてしまわれ
ました。 5 また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護
し、不敬虔な世界に洪水を起こされました。 6 また、ソドムとゴモラの町を破
滅に定めて灰にし、以後の不敬虔な者へのみせしめとされました。 7 また、無
節操な者たちの好色なふるまいによって悩まされていた義人ロトを救い出され
ました。 8 というのは、この義人は、彼らの間に住んでいましたが、不法な行

ないを見聞きして、日々その正しい心を痛めていたからです。 9 これらのことなわるように、主は、敬虔な者たちを誘惑から救い出し、不義な者どもを、でさばきの日まで、懲罰のもとに置くことを心得ておられるのです。 10 汚れたの情欲を燃やし、肉に従って歩み、権威を侮る者たちに対しては、特にそうな恐もです。彼らは、大胆不敵な、尊大な者たちで、栄誉ある人たちをそしって、れるさとっていろがありません。 11 それに比べると、御使いたちは、勢いにもかかわらず、主の御前に彼らをそしって訴えることはしません。 12 となしい動物と同じで、自分が知りもしないことをそしるこの者どもは、捕えられ殺されるために生まれ理性がの滅ぼされるように、彼らも滅ぼされてしまうのです。 13 彼らは不義のとて連にし、捨てたのです。 14 そのたびごとに目をはしたり、罪に関しては飽くことを知らず、心の定まらない者たちは、欲に目がありません。彼らはのろいの子です。 15 彼らは正道を捨ててさまよっています。不義の報酬を愛したベオルの子バラムのように、正道にうんと従った。 16 しかし、バラムは自分の罪をとがめられました。もたのをはばらんだ用意のない人間の声でものを言い、この預言者の気違いざたを抑えました。 17 この人たちは、水のない泉、突風に吹き払われる霧です。彼らに用意されているものは、まっ暗なやみです。 18 彼らは、むなしい大言壮語を吐いており、誤った生き方をしていて、肉欲と好色によって誘惑し、 19 その人たちに自由を約束しながら、自分自身が滅びの奴隷なのです。人はだれかに征服されれば、その征服者の奴隷となるのです。 20 主であり救い主であるイエス・キリストを知ることによって、世の汚れからのがれ、その後再びそれに巻き込まれて征服されるならば、その人の終わりの状態は、初めの状態よりもっと悪いものになります。 21 義の道を知っていながら、自分に伝えられたそのきよい命令にそむくよりは、知らなかったほうが、彼らにとってよかったのです。 22 彼らに起こったのは、「犬は自分の吐いた物に戻る。」とか、「豚は身を洗って、またころがる。」とかいう、ことわざどおりです。

3

1 愛する人たち。いま私がこの第二の手紙をあなたがたに書き送るのは、これらの手紙により、記憶を呼びさまさせて、あなたがたの純真な心を奮い立たせることのためなのです。 2 それは、聖なる預言者たちによって前もって語られた命令と、あなたがたの使徒たちが語った、主であり救い主であるかたのおきてを思い起こさせるためなのです。 3 まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望にしたがって生活し、 4 次のように言うでしょう。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか。先祖たちが眠った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。」 5 こう言い張る彼らは、次のことを見落としています。すなわち、天は古い昔からあり、地は神のことばによって水から出て、水によって成ったのであって、 6 当時の世界は、その水により、洪水におおわれて滅びました。 7 しかし、今の天と地は、同じことばによって、火に焼かれるためにとっておかれ、不敬虔な者どものさばきと滅びとの日まで、保たれているのです。

8 しかし、愛する人たち。あなたがたは、この一事を見落としてはいけません。すなわち、主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。 9 主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。 10 しかし、主の日は、盗人のように来ます。その日には、天は大きな響きをたてて消えうせ、天の万象は焼けてくず去り、地と地のいろいろなわざは焼き尽くされます。 11 このように、これらのものはみな、くずれ落ちるものだとすれば、あなたがたは、どれほどきよい生き方をする敬虔な人でなければならないことでしょう。 12 そのようにして、神の日の来るのを待ち望み、その日の来るのを早めなければなりません。その日が来れば、そのために、天は燃えてくずれ、天の万象は焼け溶けてしまいます。 13 しかし、私たちは、神の約束に従って、正義の住む新しい天と新しい地を待ち望んでいます。

14 そういうわけで、愛する人たち。このようなことを待ち望んでいるあなたがたですから、しみも傷もない者として、平安をもって御前に出られるように、励みなさい。 15 また、私たちの主の忍耐は救いであると考えなさい。それ

は、私たちの愛する兄弟パウロも、その与えられた知恵に従って、あなたがた
に書き送ったとおりです。 16 その中で、ほかのすべての手紙でもそうなのです
が、このことについて語っています。その手紙の中には理解しにくいところも
あります。無知な、心の定まらない人たちは、聖書の他の個所のばあいもそう
するのですが、それらの手紙を曲解し、自分自身に滅びを招いています。 17 愛
する人たち。そういうわけですから、このことをあらかじめ知っておいて、よ
く気をつけ、無節操な者たちの迷いに誘い込まれて自分自身の堅実さを失うこ
とにならないようにしなさい。 18 私たちの主であり救い主であるイエス・キリ
ストの恵みと知識において成長しなさい。このキリストに、栄光が、今も永遠
の日に至るまでもありますように。アーメン。

ヨハネの手紙第一

1 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、目で見たもの、じっと見、また手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて、2 ——このいのちが
現われ、私たちはそれを見たので、そのあかしをし、あなたがたにこの永遠の
いのちを伝えます。すなわち、御父とともにあって、私たちに現われた永遠
のいのちです。—— 3 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝える
のは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わ
りとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。 4 私たちがこれら
のことを書き送るのは、私たちの喜びが全きものとなるためです。
5 神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちが
キリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。 6 もし私たちが、神と
交わりがあると言っていながら、しかもやみの中を歩んでいるなら、私たちは
偽りを言っているのであって、真理を行なってはいません。 7 しかし、もし神
が光の中におられるように、私たちも光の中を歩んでいるなら、私たちは互い
に交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます。 8 も
し、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちに
ありません。 9 もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい
方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。
10 もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。
神のみことばは私たちのうちにありません。

2

1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯
さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父
の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストで
す。 2 この方こそ、私たちの罪のための、——私たちの罪だけでなく全世界のた
めの、——なだめの供え物なのです。 3 もし、私たちが神の命令を守るなら、そ
れによって、私たちは神を知っていることがわかります。 4 神を知っていると
言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちに
ありません。 5 しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確
かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいる
ことがわかります。 6 神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリス
トが歩まれたように歩まなければなりません。
7 愛する者たち。私はあなたがたに新しい命令を書いているのではありませ
ん。むしろ、これはあなたがたが初めから持っていた古い命令です。その古い
命令とは、あなたがたがすでに聞いている、みことばのことです。 8 しかし、
私は新しい命令としてあなたがたに書き送ります。これはキリストにおいて真
理であり、あなたがたにとっても真理です。なぜなら、やみが消え去り、まこ
との光がすでに輝いているからです。 9 光の中にいると言いながら、兄弟を憎
んでいる者は、今もなお、やみの中にいるのです。 10 兄弟を愛する者は、光の
中にとどまり、つまずくことがありません。 11 兄弟を憎む者は、やみの中に
おり、やみの中を歩んでいるのであって、自分がどこへ行くのか知らないので
す。やみが彼の目を見えなくしたからです。
12 子どもたちよ。私があなたがたに書き送るのは、主の御名によって、あな
たがたの罪が赦されたからです。 13 父たちよ。私があなたがたに書き送るの
は、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。
私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。
14 小さい者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが御父を知
ったからです。父たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが、
初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があなたがたに書
いて来たのは、あなたがたが強い者であり、神のみことばが、あなたがたのう
ちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。 15 世を
も、世にあるものをも、愛してはなりません。もしだれでも世を愛しているな
ら、その人のうちに御父を愛する愛はありません。 16 すべての世にあるもの、
すなわち、肉の欲、目の欲、暮らし向きの自慢などは、御父から出たものでは
なく、この世から出たものだからです。 17 世と世の欲は滅び去ります。しか
し、神のみこころを行なう者は、いつまでもながらえます。

18 小さい者たちよ。今は終わりの時です。あなたがたが反キリストの来ることを聞いていたとおり、今や多くの反キリストが現われています。それによって、今が終わりの時であることがわかります。19 彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし私たちの仲間であったのなら、私たちといっしょにとどまっていたことでしょう。しかし、彼らがみな私たちの仲間ではなかったのは、明らかにされるためです。20 あなたがたには聖なる方から注がれた油があるので、だれもが真理を知っています。21 わたしがこの手紙を書いているのは、あなたがたが真理を知らないからではなく、真理を知っているからです。また、どんな偽りも真理から出ることはないからです。22 偽りを言う者とは、イエスはキリストであることを否定する者のことです。御父と御子を認めない者は、だれでも反キリストです。23 御子を認める者はだれでも、御父をもいただいています。御子を認めることは、御父をもいただくことです。24 あなたがたは、初めから聞いたことを自分のうちにとどまらせなさい。もし初めから聞いたことが自分のうちにとどまっているなら、あなたがたも御子と御父とにとどまっていることになります。25 そして、御子ご自身が私たちに約束されたのは、永遠のいのちです。26 私は、あなたがたを惑わそうとしている者たちについて、これらのことを書きました。27 あなたがたについては、御子から受けた油注ぎが自分のうちにとどまっていますから、だれかに教えを受ける必要はありません。その油注ぎは、すべてのことについてあなたがたに教えるのです。――それは真実であって、偽りではありません。――まことに、その油注ぎのとおりに、御子のうちにとどまっていなさい。28 子どもたちよ。今、御子のうちにとどまっていなさい。それは、キリストが現われるとき、私たちが確信をもって、御前で恥じ入ることのないためです。29 もし神が義であることを知っているなら、義を行なう者がみな、神から生まれたのであることもわかるはずです。

3

1 私たちが神の子どもと呼ばれるために、――事実、私たちは神の子どもです。――御父はどんなに大きな愛を与えてくださったことでしょう。私たちは世の中から知られないのは、御父を知らないからです。2 愛する者たちよ。今、私たちは神の子どもです。後の状態はまだ明らかにされていませんが、キリストが現われるときには、私たちはキリストのように似た者となることを知っています。なぜなら、私たちはありのままの姿を見ることになるからです。3 キリストに対するこの望みをいだく者はみな、自分を清くします。4 罪を犯している者はみな、律法に逆らっています。罪とは律法に逆らうことです。5 キリストが現われたのは、私たちの罪を取り除くためであったことを、あなたがたは知っています。キリストには何の罪もありません。6 だれでもキリストのうちにとどまっている者は、罪を犯しません。だれでも罪を犯している者は、キリストを見たこともないし、知ってもいません。7 子どもたちよ。だれにも惑わされてはいけません。義を行なっている者は、キリストが正しくあられるのと同じように正しいのです。8 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。神の子が現われたのは、悪魔のしわざを打ちこわすためです。9 だれでも神から生まれた者は、罪を犯すことはできません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。10 このことによって、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。11 互いに愛し合うべきであるとあなたがたが初めから聞いている教えです。12 カインのようであってはいけません。彼は悪い者から出た者で、兄弟を殺しました。なぜ兄弟を殺したのでしょう。自分の行ないは悪く、兄弟の行ないは正しかったからです。

13 兄弟たち。世があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。14 私たちは、自分が死からいのちに移されたことを知っています。それは、兄弟を愛しているからです。愛さない者は、死のうちにとどまっているのです。15 兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。16 キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。17 世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすなら、どうして神の愛がとどまっているでしょう。18 子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そう。

ありませんか。 19 それによって、私たちは、自分が真理に属するものであるこ
とを知り、そして、神の御前に心を安らかにされるのです。 20 たとい自分の心
が責めてもです。なぜなら、神は私たちの心よりも大きく、そして何もかもご
存じだからです。 21 愛する者たち。もし自分の心に責められなければ、大胆に
神の御前に出ることができ、 22 また求めるものは何でも神からいただくことと
ができます。なぜなら、私たちが神の命令を守り、神に喜ばれることを行なっ
ているからです。 23 神の命令とは、私たちが御子イエス・キリストの御名を信
じ、キリストが命じられたとおりに、私たちが互いに愛し合うことです。 24 神
の命令を守る者は神のうちにおり、神もまたその人のうちにおられます。神が
私たちのうちにおられるということは、神が私たちに与えてくださった御霊に
よって知るのです。

4

1 愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊
が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさんみ
世に出て来たからです。 2 人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみ
な、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。 3 イエスを告
白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリス
トの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世
に来ているのです。 4 子どもたちよ。あなたがたは神から出た者です。そして彼
らに勝ったのです。あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、
あの者よりも力があるからです。 5 彼らはこの世の者です。ですから、この世
のことばを語り、この世もまた彼らの言うことに耳を傾けます。 6 私たちは神
から出た者です。神を知っている者は、私たちの言うことに耳を傾け、神から
出ていない者は、私たちの言うことに耳を貸しません。私たちはこれで真理の
霊と偽りの霊とを見分けます。
7 愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているの
です。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。 8 愛のない者に、
神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。 9 神はそのひとり子を世に遣
わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。ここに、
神の愛が私たちに示されたのです。 10 私たちが神を愛したのではなく、神が
私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされ
ました。ここに愛があるのです。 11 愛する者たち。神がこれほどまでに私たち
を愛してくださったのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。 12 いまだ
かつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、
神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。 13 神
は私たちに御霊を与えてくださいました。それによって、私たちが神のうちに
おり、神も私たちのうちにおられることがわかります。 14 私たちは、御父が御
子を世の救い主として遣わされたのを見て、今そのあかしをしています。 15 だ
れでも、イエスを神の御子と告白するなら、神はその人のうちにおられ、その
人も神のうちにいます。 16 私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じ
ています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のう
ちにおられます。 17 このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとな
りました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるため
です。なぜなら、私たちもこの世にあってキリストと同じようなものであるから
です。 18 愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐
れには刑罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていない
のです。 19 私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからで
す。 20 神を愛すると言いながら兄弟を憎んでいるなら、その人は偽りの者です。
目に見える兄弟を愛していない者に、目に見えない神を愛することはできません。
21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。私たちはこの命令をキリスト
から受けています。

5

1 イエスがキリストであると信じる者はだれでも、神によって生まれたのです。
生んでくださった方を愛する者はだれでも、その方によって生まれた者をも
も愛します。 2 私たちが神を愛してその命令を守るなら、そのことによって、
私たちが神の子どもたちを愛していることがわかります。 3 神を愛するとは、
神の命令を守ることです。その命令は重荷とはなりません。 4 なぜなら、神にに
よって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世にに
打ち勝った勝利です。 5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信
じる者ではありませんか。 6 このイエス・キリストは、水と血によって来ら

れた方です。ただ水によってだけでなく、水と血とによって来られたのです。
そして、あかしをする方は御霊です。御霊は真理だからです。 7 あかしするも
のが三つあります。 8 御霊と水と血です。この三つが一つとなるのです。 9 もも
し、私たちが人間のあかしを受け入れるなら、神のあかしはそれにまさるもの
です。御子についてあかしされたことが神のあかしだからです。 10 神の御子を
信じる者は、このあかしを自分の心の中に持っています。神を信じない者は、
神を偽り者とするのです。神が御子についてあかしされたことを信じないから
です。 11 そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたというこ
と、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。 12 御子を持つ者は
いのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。
13 私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書い
たのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわ
からせるためです。 14 何事でも神のみこころにかなう願いをするなら、神はそ
の願いを聞いてくださるということ、これこそ神に対する私たちの確信です。
15 私たちの願う事を神が聞いてくださると知れば、神に願ったその事は、すで
にかなえられたと知るのです。 16 だれでも兄弟が死に至らない罪を犯してい
るのを見たなら、神に求めなさい。そうすれば神はその人のために、死に至ら
ない罪を犯している人々に、いのちをお与えになります。死に至る罪がありま
す。この罪については、願うようにとは言いません。 17 不正はみな罪ですが、
死に至らない罪があります。
18 神によって生まれた者はだれも罪の中に生きないことを、私たちは知って
います。神から生まれた方が彼を守っていてくださるので、悪い者は彼に触れ
ることができないのです。 19 私たちは神からの者であり、全世界は悪い者の
支配下にあることを知っています。 20 しかし、神の御子が来て、真実な方を知
る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、
真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この
方こそ、まことの神、永遠のいのちです。 21 子どもたちよ。偶像を警戒しな
さい。

ヨハネの手紙第二

1 長老から、選ばれた夫人とその子どもたちへ。私はあなたがたをほんとうに
愛しています。私だけでなく、真理を知っている人々がみな、そうです。 2 こ
のことは、私たちのうちに宿る真理によることです。そして真理はいつまでも
私たちとともにあります。 3 真理と愛のうちに、御父と御父の御子イエス・キ
リストから来る恵みとあわれみと平安は、私たちとともにあります。
4 あなたの子どもたちの中に、御父から私たちが受けた命令のとおりに真理の
うちを歩んでいる人たちがあるのを知って、私は非常に喜んでいます。 5 そこ
で夫人よ。お願いしたいことがあります。それは私が新しい命令を書くのでは
なく、初めから私たちが持っていたものなのですが、私たちが互いに愛し合う
ということです。 6 愛とは、御父の命令に従って歩むことであり、命令とは、
あなたがたが初めから聞いているとおり、愛のうちを歩むことです。 7 なぜお
願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として
来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は
惑わす者であり、反キリストです。 8 よく気をつけて、私たちの労苦の実をだ
いなしにすることなく、豊かな報いを受けるようになりなさい。 9 だれでも行
き過ぎをして、キリストの教えのうちにとどまらない者は、神を持っていませ
ん。その教えのうちにとどまっている者は、御父をも御子をも持っています。
10 あなたがたのところに来る人で、この教えを持って来ない者は、家に受け入
れてはいけません。その人にあいさつのことばをかけてもいけません。 11 そう
いう人にあいさつすれば、その悪い行ないをともにすることになります。
12 あなたがたに書くべきことがたくさんありますが、紙と墨でしたくはあり
ません。あなたがたのところに行って、顔を合わせて語りたいと思います。私
たちの喜びが全きものとなるためにです。 13 選ばれたあなたの姉妹の子ども
たちが、あなたによろしくと言っています。

ヨハネの手紙第三

1 長老から、愛するガイオへ。私はあなたをほんとうに愛しています。
2 愛する者よ。あなたが、たましいに幸いを得ているようにすべての点でも
幸いを得、また健康であるように祈ります。 3 兄弟たちがやって来ては、あな
たが真理に歩んでいるその真実を証言してくれるので、私は非常に喜んでいま
す。 4 私の子どもたちが真理に歩んでいることを聞くことほど、私にとって大
きな喜びはありません。
5 愛する者よ。あなたが、旅をしているあの兄弟たちのために行なっている
いろいろなことは、真実な行ないです。 6 彼らは教会の集まりであなたの愛に
ついてあかししました。あなたが神にふさわしいしかたで彼らを次の旅に送り
出してくれるなら、それはりっぱなことです。 7 彼らは御名のために出て行き
ました。異邦人からは何も受けていません。 8 ですから、私たちはこのような
人々をもてなすべきです。そうすれば、私たちは真理のために彼らの同労者と
なれるのです。
9 私は教会に対して少しばかり書き送ったのですが、彼らの中でかしらになり
たがっているデオテレペスが、私たちの言うことを聞き入れません。 10 それ
で、私が行ったら、彼のしている行為を取り上げるつもりです。彼は意地悪い
ことばで私たちをののしり、それでもあきたらずに、自分が兄弟たちを受け
入れないばかりか、受け入れたいと思う人々の邪魔をし、教会から追い出して
いるのです。 11 愛する者よ。悪を見ならわないで、善を見ならいなさい。善を
行なう者は神から出た者であり、悪を行なう者は神を見たことのない者です。
12 デメテリオはみなの人からも、また真理そのものからも証言されています。
私たちも証言します。私たちの証言が真実であることは、あなたも知っている
ところです。
13 あなたに書き送りたいことがたくさんありましたが、筆と墨でしたくはあ
りません。 14 間もなくあなたに会いたいと思います。そして顔を合わせて話し
合いましょう。 15 平安があなたにありますように。友人たちが、あなたによろ
しくと言っています。そちらの友人たちひとりひとりによろしくと言ってください。

ユダの手紙

1 イエス・キリストのしもべであり、ヤコブの兄弟であるユダから、父なる神
にあって愛され、イエス・キリストのために守られている、召された方々へ。
2 どうか、あわれみと平安と愛が、あなたがたの上に、ますます豊かにされます
ように。
3 愛する人々。私はあなたがたに、私たちがともに受けている救いについて手
紙を書こうとして、あらゆる努力をしていましたが、聖徒にひとたび伝えられ
た信仰のために戦うよう、あなたがたに勧める手紙を書く必要が生じました。
4 というのは、ある人々が、ひそかに忍び込んで来たからです。彼らは、この
ようなさばきに会うと昔から前もってしるされている人々で、不敬虔な者であ
り、私たちの神の恵みを放縦に変えて、私たちの唯一の支配者であり主であ
るイエス・キリストを否定する人たちです。
5 あなたがたは、すべてのことをすっかり知っているにしても、私はあなたが
たに思い出させたいことがあるのです。それは主が、民をエジプトの地から救
い出し、次に、信じない人々を滅ぼされたということです。6 また、主は、自
分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日の
ばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められました。7 ま
た、ソドム、ゴモラおよび周囲の町々も彼らと同じように、好色にふけり、不
自然な肉欲を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受けて、みせしめにされてい
ます。8 それなのに、この人たちもまた同じように、夢見る者であり、肉体を
汚し、権威ある者を軽んじ、栄えある者をそしっています。9 御使いのかしら
ミカエルは、モーセのからだについて、悪魔と論じ、言い争ったとき、あえて
相手をののしり、さばくようなことはせず、「主があなたを戒めてくださるよ
うに。」と言いました。10 しかし、この人たちは、自分には理解もできないこ
とをそしり、わきまえのない動物のように、本能によって知るような事がら
中で滅びるのです。11 忌まわしいことです。彼らは、カインの道を行き、利益
のためにバラムの迷いに陥り、コラのようにそむいて滅びました。12 彼らは、
あなたがたの愛餐のしみです。恐れげもなくともに宴を張りますが、自分だけ
を養っている者であり、風に吹き飛ばされる、水のない雲、実を結ばない、枯
れに枯れて、根こそぎにされた秋の木、13 自分の恥のあわをわき立たせる海
の荒波、さまよう星です。まっ暗なやみが、彼らのために永遠に用意されてい
ます。14 アダムから七代目のエノクも、彼らについて預言してこう言っていま
す。「見よ。主は千万の聖徒を引き連れて来られる。15 すべての者にさばきを
行ない、不敬虔な者たちの、神を恐れずに犯した行為のいっさいと、また神を
恐れない罪人どもが主に言い逆らった無礼のいっさいとについて、彼らを罪に
定めるためである。」16 彼らはぶつぶつ言う者、不平を鳴らす者で、自分の欲
望のままに歩んでいます。その口は大きなことを言い、利益のためにへつら
って人をほめるのです。
17 愛する人々よ。私たちの主イエス・キリストの使徒たちが、前もって語っ
たことばを思い起こしてください。18 彼らはあなたがたにこう言いました。
「終わりの時には、自分の不敬虔な欲望のままにふるまう、あざける者どもが
現われる。」19 この人たちは、御霊を持たず、分裂を起こし、生まれつきのま
まの人間です。20 しかし、愛する人々よ。あなたがたは、自分の持っている最
もきよい信仰の上に自分自身を築き上げ、聖霊によって祈り、21 神の愛のうち
に自分自身を保ち、永遠のいのちに至らせる、私たちの主イエス・キリスト
あわれみを待ち望みなさい。22 疑いを抱く人々をあわれみ、23 火の中からつか
み出して救い、またある人々を、恐れを感じながらあわれみ、肉によって汚さ
れたその下着さえも忌みきらいなさい。
24 あなたがたを、つまずかないように守ることができ、傷のない者として、
大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方に、25 すなわち、私
たちの救い主である唯一の神に、栄光、尊厳、支配、権威が、私たちの主イエ
ス・キリストを通して、永遠の先にも、今も、また世々限りなくありますよ
うに。アーメン。

ヨハネの黙示録

1 イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたち
に示すため、神がキリストにお与えになったものである。そしてキリストは、
その御使いを遣わして、これをしもべヨハネにお告げになった。2 ヨハネは、
神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあ
かしした。3 この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれ
ていることを心に留める人々は幸いである。時が近づいているからである。
4 ヨハネから、アジヤにある七つの教会へ。常にいまし、昔いまし、後に来
られる方から、また、その御座の前におられる七つの御霊から、5 また、忠実
な証人、死者の中から最初によみがえられた方、地上の王たちの支配者であるイ
エス・キリストから、恵みと平安が、あなたがたにあるように。イエス・キ
リストは私たちを愛して、その血によって私たちを罪から解き放ち、6 また、
私たちを王国とし、ご自分の父である神のために祭司としてくださった方であ
る。キリストに栄光と力とが、とこしえにあるように。アーメン。7 見よ、彼
が、雲に乗って来られる。すべての目、ことに彼を突き刺した者たちが、彼を
見る。地上の諸族はみな、彼のゆえに嘆く。しかり。アーメン。
8 神である主、常にいまし、昔いまし、後に来られる方、万物の支配者がこ
う言われる。「わたしはアルファであり、オメガである。」
9 私ヨハネは、あなたがたの兄弟であり、あなたがたとともにイエスにある
苦難と御国と忍耐とにあずかっている者であって、神のことばとイエスのあか
しとのゆえに、パトモスという島にいた。10 私は、主の日に御霊に感じ、私の
うしろにラッパの音のような大きな声を聞いた。11 その声はこう言った。「あ
なたの見ることを巻き物にしるして、七つの教会、すなわち、エペソ、スミルな
ナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤに送りな
さい。」12 そこで私は、私に語りかける声を見ようとして振り向いた。振り向
くと、七つの金の燭台が見えた。13 それらの燭台の真中には、足までたれた
衣を着て、胸に金の帯を締めた、人の子のような方が見えた。14 その頭と髪の
毛は、白い羊毛のように、また雪のように白く、その目は、燃える炎のよう
であった。15 その足は、炉で精練されて光り輝くしんちゅうのようであり、その
声は大水の音のようであった。16 また、右手に七つの星を持ち、口からは鋭い
両刃の剣が出ており、顔は強く照り輝く太陽のようであった。17 それで私は、
この方を見たとき、その足もとに倒れて死者のようになった。しかし彼は右手
を私の上に置いてこう言われた。「恐れるな。わたしは、最初であり、最後で
あり、18 生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きてい
る。また、死とハデスとのかぎを持っている。19 そこで、あなたの見た事、今
ある事、この後に起こる事を書きしるせ。20 わたしの右の手の中に見えた七つ
の星と、七つの金の燭台について、その秘められた意味を言えば、七つの星は
七つの教会の御使いたち、七つの燭台は七つの教会である。

2

1 エペソにある教会の御使いに書き送れ。『右手に七つの星を持つ方、七つ
の金の燭台の間を歩く方が言われる。2「わたしは、あなたの行ないとあなた
の労苦と忍耐を知っている。また、あなたが、悪い者たちをがまんすることが
でき ず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちをためして、その偽り
を見抜いたことも知っている。3 あなたはよく忍耐して、わたしの名のために
耐え忍び、疲れたことがなかった。4 しかし、あなたには非難すべきことがあ
る。あなたは初めの愛から離れてしまった。5 それで、あなたは、どこから落
ちたかを思い出し、悔い改めて、初めの行ないをしなさい。もしそうでなく、
悔い改めることをしないならば、わたしは、あなたのところに行って、あなた
の燭台をその置かれた所から取りはずしてしまおう。6 しかし、あなたにはこ
のことがある。あなたはニコライ派の人々の行ないを憎んでいる。わたしもそ
れを憎んでいる。7 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。
勝利を得る者に、わたしは神のパラダイスにあるいのちの木の実を食べさせよ
う。」』
8 また、スミルナにある教会の御使いに書き送れ。『初めであり、終わりで
ある方、死んで、また生きた方が言われる。9「わたしは、あなたの苦しみと
貧しさとを知っている。――しかしあなたは実際は富んでいる。――またユダ
ヤ人だと自称しているが、実はそうでなく、かえってサタンの会衆である人た

ちから、ののしられていることも知っている。 10 あなたが受けようとしている
苦しみを恐れてはいけない。見よ。悪魔はあなたがたをためすために、あなた
がたのうちのある人たちを牢に投げ入れようとしている。あなたがたは十日の
間苦しみを受ける。死に至るまで忠実でありなさい。そうすれば、わたしはあ
なたにいのちの冠を与えよう。 11 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを
聞きなさい。勝利を得る者は、決して第二の死によってそこなわれることはな
い。」』
12 また、ペルガモにある教会の御使いに書き送れ。『鋭い、両刃の剣を持つこ
方がこう言われる。 13 「わたしは、あなたの住んでいる所を知っている。そこし
には サタンの王座がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保って、わたしき
の忠実な証人アンテパスがサタンの住むあなたがたのところで殺されたとき
でも、わたしに対する信仰を捨てなかった。 14 しかし、あなたには少しばか
り非難すべきことがある。あなたのうちに、バラムの教えを奉じている人々が
いる。バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々の前に、つまずきの石を置
き、偶像の神にささげた物を食べさせ、また不品行を行なわせた。 15 それと
同じように、あなたのところにもニコライ派の教えを奉じている人々がいる。
16 だから、悔い改めなさい。もしそうしないなら、わたしは、すぐにあなたの
と ころに行き、わたしの口の剣をもって彼らと戦おう。 17 耳のある者は御霊が
諸教会に言われることを聞きなさい。わたしは勝利を得る者に隠れたマナを与
える。また、彼に白い石を与える。その石には、それを受ける者のほかはだれ
も知らない、新しい名が書かれている。」』
18 また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。『燃える炎のような目を
持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子が言われる。 19 「わたし
は、あなたの行ないとあなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っており、また、あ
なたの近ごろの行ないが初めの行ないにまさっていることも知っている。 20 し
かし、あなたには非難すべきことがある。あなたは、イゼベルという女をなすし
がままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべ
たちを教えて誤りに導き、不品行を行なわせ、偶像の神にささげた物を食べさ
せている。 21 わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は不品行を悔い改
めようとしない。 22 見よ。わたしは、この女を病の床に投げ込もう。また、こ
の女と姦淫を行なう者たちも、この女の行ないを離れて悔い改めなければ、大
きな患難の中に投げ込もう。 23 また、わたしは、この女の子どもたちをも死病
によって殺す。こうして全教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを
知るようになる。また、わたしは、あなたがたの行ないに応じてひとりひとり
に報いよう。 24 しかし、テアテラにいる人たちの中で、この教えを受け入れず
、彼らの言うサタンの深いところをまだ知っていないあなたがたに言
おう。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせない。 25 ただ、あなたがたの
持っているものを、わたしが行くまで、しっかりと持っていなさい。 26 勝利を
得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を
与えよう。 27 彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治め
る。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。 28 また、彼
に明けの明星を与えよう。 29 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞き
なさい。」』

3

1 また、サルデスにある教会の御使いに書き送れ。『神の七つの御霊、およ
び七つの星を持つ方がこう言われる。「わたしは、あなたの行ないを知ってい
る。あなたは、生きているとされているが、実は死んでいる。 2 目をさましな
さい。そして死にかけているほかの人たちを力づけなさい。わたしは、あなた
の行ないが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。 3 だから、あな
たがどのように受け、また聞いたのかを思い出しなさい。それを堅く守り、ま
た悔い改めなさい。もし、目をさまさなければ、わたしは盗人のように来る。
あなたには、わたしがいつあなたのところに来るか、決してわからない。 4 し
かし、サルデスには、その衣を汚さなかった者が幾人かいる。彼らは白い衣を
着て、わたしとともに歩む。彼らはそれにふさわしい者だからである。 5 勝利
を得る者は、このように白い衣を着せられる。そして、わたしは、彼の名をい
のちの書から消すようなことは決してしない。わたしは彼の名をわたしの父の
御前と御使いたちの前で言い表わす。 6 耳のある者は御霊が諸教会に言われる
ことを聞きなさい。」』
7 また、フィラデルフィヤにある教会の御使いに書き送れ。
『聖なる方、真実な方、ダビデのかぎを持っている方、彼が開くとだれも閉
じる者がなく、彼が閉じるとだれも開く者がない、その方がこう言われる。

8「わたしは、あなたの行ないを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じるこ
とのできない門を、あなたの前に開いておいた。なぜなら、あなたには少しば
かりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからで
ある。 9 見よ。サタンの会衆に属する者、すなわち、ユダヤ人だと自称しなが
ら実はそうでなくて、うそを言っている者たちに、わたしはこうする。見よ。
彼らをあなたの足もとに来てひれ伏させ、わたしがあなたを愛していることを
知らせる。 10 あなたが、わたしの忍耐について言ったことばを守ったから、わ
たしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の
時には、あなたを守ろう。 11 わたしは、すぐに来る。あなたの冠をだれにも奪
われないように、あなたの持っているものをしっかりと持っていなさい。 12 勝
利を得る者を、わたしの神の聖所の柱としよう。彼はもはや決して外に出てす
くわとはない。わたしは彼の上にわたしの神の御名と、わたしの神の都、わた
こちの神のもとを出て天から下って来る新しいエルサレムの名と、わたし
の新しい名とを書きしるす。 13 耳のある者は御霊が諸教会に言われること
を聞きなさい。」』

14 また、ラオデキヤにある教会の御使いに書き送れ。『アーメンである方、
忠実で、真実な証人、神に造られたものの根源である方がこう言われる。
15「わたしは、あなたの行ないを知っている。あなたは、冷たくもなく、熱
くもない。わたしはむしろ、あなたが冷たいか、熱いかであってほしい。 16 こ
のように、あなたはなまぬるく、熱くも冷たくもないので、わたしの口からあ
なたを吐き出そう。 17 あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、乏しい
ものは何もないと言って、実は自分がみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、
裸の者であることを知らない。 18 わたしはあなたに忠告する。豊かな者となる
ために、火で精練された金をわたしから買いなさい。また、あなたの裸の恥
を現わさないために着る白い衣を買いなさい。また、目が見えるようになるた
め、目に塗る目薬を買いなさい。 19 わたしは、愛する者をしかったり、懲らし
めたりする。だから、熱心になって、悔い改めなさい。 20 見よ。わたしは、戸
の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたし
は、彼のところにはいって、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事を
する。 21 勝利を得る者を、わたしとともにわたしの座に着かせよう。それは、
わたしが勝利を得て、わたしの父とともに父の御座に着いたのと同じである。
22 耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」』」

4

1 その後、私は見た。見よ。天に一つの開いた門があった。また、先にラッ
パのような声で私に呼びかけるのが聞こえたあの初めの声が言った。「ここ
に上れ。この後、必ず起こる事をあなたに示そう。」 2 たちまち私は御霊に感
じた。すると見よ。天に一つの御座があり、その御座に着いている方があり、
3 その方は、碧玉や赤めのうのように見え、その御座の回りには、緑玉のよう
に見える虹があった。 4 また、御座の回りに二十四の座があった。これらの座
には、白い衣を着て、金の冠を頭にかぶった二十四人の長老たちがすわって
た。 5 御座からいなずまと声と雷鳴が起こった。七つのともしびが御座の前で
燃えていた。神の七つの御霊である。 6 御座の前は、水晶に似たガラスの海の
ようであった。御座の中央と御座の回りに、前もうしろも目で満ちた四つの生
き物がいた。 7 第一の生き物は、ししのようであり、第二の生き物は雄牛のよ
うであり、第三の生き物は人間のような顔を持ち、第四の生き物は空飛ぶわし
のようであった。 8 この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その回
りも内側も目で満ちていた。彼らは、昼も夜も絶え間なく叫び続けた。

「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。神であられる主、万物の支配者、
昔いまし、常にいまし、後に来られる方。」

9 また、これらの生き物が、永遠に生きておられる、御座に着いている方に、
栄光、誉れ、感謝をささげるとき、 10 二十四人の長老は御座に着いている方
の御前にひれ伏して、永遠に生きておられる方を拝み、自分の冠を御座の前
に投げ出して言った。

11「主よ。われらの神よ。あなたは、栄光と誉れと力とを受けるにふさわ
しい方です。あなたは万物を創造し、あなたのみこころゆえに、万物は存在
し、また創造されたのですから。」

5

1 また、私は、御座にすわっておられる方の右の手に巻き物があるのを見た。
それは内側にも外側にも文字が書きしるされ、七つの封印で封じられていた。

2 また私は、ひとりの強い御使いが、大声でふれ広めて、「巻き物を開いて、封
印を解くのにふさわしい者はだれか。」と言っているのを見た。 3 しかし、天
にも、地にも、地の下にも、だれひとりその巻き物を開くことのできる者はな
く、見ることのできる者もいなかった。 4 巻き物を開くのにも、見るのにも、
ふさわしい者がだれも見つからなかったので、私は激しく泣いていた。 5 する
と、長老のひとりが、私に言った。「泣いてはいけない。見なさい。ユダ族か
ら出たしし、ダビデの根が勝利を得たので、その巻き物を開いて、七つの封印
を解くことができます。」 6 さらに私は、御座――そこには、四つの生き物がい
る。――と、長老たちとの間に、ほふられたと見える小羊が立っているのを見
た。これに七つの角と七つの目があった。その目は、全世界に遣わされた神の
七つの御霊である。 7 小羊は近づいて、御座にすわる方の右の手から、巻き物
を受け取った。 8 彼が巻き物を受け取ったとき、四つの生き物と二十四人の長
老は、おのおの、立琴と、香のいっぱいはいった金の鉢とを持って、小羊の前
にひれ伏した。この香は聖徒たちの祈りである。 9 彼らは、新しい歌を歌って
言った。

「あなたは、巻き物を受け取って、その封印を解くのにふさわしい方です。
あなたは、ほふられて、その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の
中から、神のために人々を贖い、
10 私たちの神のために、この人々を王とし、祭司とされました。彼らは地上
を治めるのです。」
11 また私は見た。私は、御座と生き物と長老たちとの回りに、多くの御使い
たちの声を聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍であった。 12 彼らは大
声で言った。
「ほふられた小羊は、力と、富と、知恵と、勢いと、誉れと、栄光と、賛美
を受けるにふさわしい方です。」
13 また私は、天と地と、地の下と、海の上のあらゆる造られたもの、および
その中にある生き物がこう言うのを聞いた。
「御座にすわる方と、小羊とに、賛美と誉れと栄光と力が永遠にあるように。」
14 また、四つの生き物はアーメンと言い、長老たちはひれ伏して拝んだ。

6

1 また、私は見た。小羊が七つの封印の一つを解いたとき、四つの生き物の
一つが、雷のような声で「来なさい。」と言うのを私は聞いた。 2 私は見た。
見よ。白い馬であった。それに乗っている者は弓を持っていた。彼は冠を与え
られ、勝利の上にさらに勝利を得ようとして出て行った。
3 小羊が第二の封印を解いたとき、私は、第二の生き物が、「来なさい。」
と言うのを聞いた。 4 すると、別の、火のように赤い馬が出て来た。これに乗
っている者は、地上から平和を奪い取ることが許された。人々が、互いに殺し
合うようになるためであった。また、彼に大きな剣が与えられた。
5 小羊が第三の封印を解いたとき、私は、第三の生き物が、「来なさい。」と
言うのを聞いた。私は見た。見よ。黒い馬であった。これに乗っている者は量
りを手に持っていた。 6 すると私は、一つの声のようなものが、四つの生き物
の間で、こう言うのを聞いた。「小麦一枡は一デナリ。大麦三枡も一デナリ。
オリーブ油とぶどう酒に害を与えてはいけない。」
7 小羊が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物の声が、「来なさ
い。」と言うのを聞いた。 8 私は見た。見よ。青ざめた馬であった。これに乗
っている者の名は死といい、そのあとにはハデスがつき従った。彼らに地上の
四分の一を剣とききんと死病と地上の獣によって殺す権威が与えられた。
9 小羊が第五の封印を解いたとき、私は、神のことばと、自分たちが立てたあ
かしとのために殺された人々のたましいが祭壇の下にいるのを見た。 10 彼らは
大声で叫んで言った。「聖なる、真実な主よ。いつまでさばきを行なわず、地
に住む者に私たちの血の復讐をなさらないのですか。」 11 すると、彼らのひと
りひとりに白い衣が与えられた。そして彼らは、「あなたがたと同じしもべ、
また兄弟たちで、あなたがたと同じように殺されるはずの人々の数が満ちるま
で、もうしばらくの間、休んでいなさい。」と言い渡された。
12 私は見た。小羊が第六の封印を解いたとき、大きな地震が起こった。そし
て、太陽は毛の荒布のように黒くなり、月の全面が血のようになった。 13 そし
て天の星が地上に落ちた。それは、いちじくが、大風に揺られて、青い実を
振り落とすようであった。 14 天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、
すべての山や島がその場所から移された。 15 地上の王、高官、千人隊長、金持
ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が、ほら穴と山の岩間に隠れ、 16 山や岩に向

かってこう言った。「私たちの上に倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊
の怒りとから、私たちをかくまってくれ。 17 御怒りの大いなる日が来たのだ。
だれがそれに耐えられよう。」

7

1 この後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く
押え、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。 2 また私は
見た。もうひとりの御使いが、生ける神の印を持って、日の出るほうから上っ
て来た。彼は、地をも海をもそこなう権威を与えられた四人の御使いたちに、
大声で叫んで言った。 3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうま
で、地にも海にも木にも害を与えてはいけない。」 4 それから私が、印を押さ
れた人々の数を聞くと、イスラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されて
いて、十四万四千人であった。
5 ユダの部族で印を押された者が一万二千人、ルベンの部族で一万二千人、
ガドの部族で一万二千人、 6 アセルの部族で一万二千人、ナフタリの部族で
一万二千人、マナセの部族で一万二千人、 7 シメオンの部族で一万二千人、
レビの部族で一万二千人、イッサカルの部族で一万二千人、 8 ゼブルンの部
族で一万二千人、ヨセフの部族で一万二千人、ベニヤミンの部族で一万二千
人、印を押された者がいた。

9 その後、私は見た。見よ。あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、
だれにも数えきれぬほどの大ぜいの群衆が、白い衣を着、しゅろの枝を手に持
って、御座と小羊との前に立っていた。 10 彼らは、大声で叫んで言った。
「救いは、御座にある私たちの神にあり、小羊にある。」
11 御使いたちはみな、御座と長老たちと四つの生き物との回りに立っていた
が、彼らも御座の前にひれ伏し、神を拝して、 12 言った。
「アーメン。賛美と栄光と知恵と感謝と誉れと力と勢いが、永遠に私たちの
神にあるように。アーメン。」
13 長老のひとりが私に話しかけて、「白い衣を着ているこの人たちは、い
ったいだれですか。どこから来たのですか。」と言った。 14 そこで、私は、
「主よ。あなたこそ、ご存じです。」と言った。すると、彼は私にこう言っ
た。「彼らは、大きな患難から抜け出て来た者たちで、その衣を小羊の血で
洗って、白くしたのです。 15 だから彼らは神の御座の前にいて、聖所で昼も
夜も、神に仕えているのです。そして、御座に着いておられる方も、彼らの
上に幕屋を張られるのです。 16 彼らはもはや、飢えることもなく、渇くこと
もなく、太陽もどんな炎熱も彼らを打つことはありません。 17 なぜなら、御
座の正面におられる小羊が、彼らの牧者となり、いのちの水の泉に導いてく
ださるからです。また、神は彼らの目の涙をすっかりぬぐい取ってくださる
のです。」

8

1 小羊が第七の封印を解いたとき、天に半時間ばかり静けさがあった。 2 それ
から私は、神の御前に立つ七人の御使いを見た。彼らに七つのラッパが与えら
れた。
3 また、もうひとりの御使いが出て来て、金の香炉を持って祭壇のところに
立った。彼にたくさんの香が与えられた。すべての聖徒の祈りとともに、御座
の前にある金の祭壇の上にささげるためであった。 4 香の煙は、聖徒たちの祈
りとともに、御使いの手から神の御前に立ち上った。 5 それから、御使いは、
その香炉を取り、祭壇の火でそれを満たしてから、地に投げつけた。すると、
雷鳴と声といなずまと地震が起こった。
6 すると、七つのラッパを持っていた七人の御使いはラッパを吹く用意をし
た。
7 第一の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、血の混じった雹と火とが
現われ、地上に投げられた。そして地上の三分の一が焼け、木の三分の一も焼
け、青草が全部焼けてしまった。
8 第二の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えている大きな山
のようなものが、海に投げ込まれた。そして海の三分の一が血となった。 9 す
ると、海の中にいた、いのちのあるものの三分の一が死に、舟の三分の一も打
ちこわされた。
10 第三の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えて
いる大きな星が天から落ちて来て、川々の三分の一とその水源に落ちた。 11 こ

の星の名は苦よもぎと呼ばれ、川の水の三分の一は苦よもぎのようになった。
水が苦くなったので、その水のために多くの人が死んだ。
12 第四の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の
三分の一と、星の三分の一とが打たれたので、三分の一は暗くなり、昼の三分
の一は光を失い、また夜も同様であった。
13 また私は見た。一羽のわしが中天を飛びながら、大声で言うのを聞いた。
「わざわいが来る。わざわいが、わざわいが来る。地に住む人々に。あと三人
の御使いがラッパを吹き鳴らそうとしている。」

9

1 第五の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は一つの星が天から地
上に落ちるのを見た。その星には底知れぬ穴を開くかぎが与えられた。 2 その
星が、底知れぬ穴を開くと、穴から大きな炉の煙のような煙が立ち上り、太陽
も空も、この穴の煙によって暗くなった。 3 その煙の中から、いなごが地上に
出て来た。彼らには、地のさそりの持つような力が与えられた。 4 そして彼ら
は、地の草やすべての青草や、すべての木には害を加えないで、ただ、額に神
の印を押されていない人間にだけ害を加えるように言い渡された。 5 しかし、
人間を殺すことは許されず、ただ五か月の間苦しめることだけが許された。そ
の与えた苦痛は、さそりが人を刺したときのような苦痛であった。 6 その期間
には、人々は死を求めるが、どうしても見いだせず、死を願うが、死が彼らか
ら逃げて行くのである。 7 そのいなごの形は、出陣の用意の整った馬に似てい
た。頭に金の冠のようなものを着け、顔は人間の顔のようであった。 8 また女
の髪のような毛があり、歯は、ししの歯のようであった。 9 また、鉄の胸当て
のような胸当てを着け、その翼の音は、多くの馬に引かれた戦車が、戦いに馳
せつけるときの響きのようであった。 10 そのうえ彼らは、さそりのような尾
と針とを持っており、尾には、五か月間人間に害を加える力があった。 11 彼ら
は、底知れぬ所の御使いを王にいただいている。彼の名はヘブル語でアバドン
といい、ギリシヤ語でアポリュオンという。
12 第一のわざわいは過ぎ去った。見よ。この後なお二つのわざわいが来る。
13 第六の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、私は神の御前にある金の
祭壇の四隅から出る声を聞いた。 14 その声がラッパを持っている第六の御使い
に言った。「大川ユーフラテスのほとりにつながれている四人の御使いを解き
放せ。」 15 すると、定められた時、日、月、年のために用意されていた四人の
御使いが、人類の三分の一を殺すために解き放された。 16 騎兵の軍勢の数は二
億であった。私はその数を聞いた。 17 私が幻の中で見た馬とそれに乗る人たちの
様子はこうであった。騎兵は、火のような赤、くすぶった青、燃える硫黄の
色の胸当てを着けており、馬の頭は、ししの頭のようで、口からは火と煙と硫
黄とが出ていた。 18 これらの三つの災害、すなわち、彼らの口から出ている火
と煙と硫黄とのために、人類の三分の一は殺された。 19 馬の力はその口とその
尾とにあって、その尾は蛇のようであり、それに頭があって、その頭で害を加
えるのである。 20 これらの災害によって殺されずに残った人々は、その手のわ
ざを悔い改めないで、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた、見るこ
も聞くことも歩くこともできない偶像を拝み続け、 21 その殺人や、魔術や、不
品行や、盗みを悔い改めなかった。

10

1 また私は、もうひとりの強い御使いが、雲に包まれて、天から降りて来る
のを見た。その頭上には虹があって、その顔は太陽のようであり、その足は火
の柱のようであった。 2 その手には開かれた小さな巻き物を持ち、右足は海の
上に、左足は地の上に置き、 3 ししがほえるときのように大声で叫んだ。彼が
叫んだとき、七つの雷がおのおの声を出した。 4 七つの雷が語ったとき、私は
書き留めようとした。すると、天から声があって、「七つの雷が言ったことは
封じて、書きしるすな。」と言うのを聞いた。 5 それから、私の見た海と地と
の上に立つ御使いは、右手を天に上げて、 6 永遠に生き、天とその中にある
もの、地とその中にあるもの、海とその中にあるものを創造された方をさして、
誓った。「もはや時が延ばされることはない。 7 第七の御使いが吹き鳴らそう
としているラッパの音が響くその日には、神の奥義は、神がご自身のしもべで
ある預言者たちに告げられたとおりに成就する。」 8 それから、前に私が天から
聞いた声が、また私に話しかけて言った。「さあ行って、海と地との上に立っ
ている御使いの手にある、開かれた巻き物を受け取りなさい。」 9 それで、私
は御使いのところに行って、「その小さな巻き物を下さい。」と言った。する
と、彼は言った。「それを取って食べなさい。それはあなたの腹には苦いが、

あなたの口には蜜のように甘い。」10そこで、私は御使いの手からその小さな
巻き物を取って食べた。すると、それは口には蜜のように甘かった。それを食
べてしまうと、私の腹は苦くなった。11そのとき、彼らは私に言った。「あな
たは、もう一度、もろもろの民族、国民、国語、王たちについて預言しなけれ
ばならない。」

11

1 それから、私に杖のような測りざおが与えられた。すると、こう言う者が
あった。「立って、神の聖所と祭壇と、また、そこで礼拝している人を測れ。
2聖所の外の庭は、異邦人に与えられているゆえ、そのままに差し置きなさい。
測ってはいけない。彼らは聖なる都を四十二か月の間踏みにじる。3それから、
わたしがわたしのふたりの証人に許すと、彼らは荒布を着て千二百六十日の間
預言する。」4彼らは全地の主の御前にある二本のオリーブの木、また二つの
燭台である。5彼らに害を加えようとする者があれば、火が彼らの口から出て、
敵を滅ぼし尽くす。彼らに害を加えようとする者があれば、必ずこのように殺
される。6この人たちは、預言をしている期間は雨が降らないように天を閉じ
る力を持っており、また、水を血に変え、そのうえ、思うままに、何度でも、
あらゆる災害をもって地を打つ力を持っている。7そして彼らがあかしを終えら
ると、底知れぬ所から上って来る獣が、彼らと戦って勝ち、彼らを殺す。8彼ら
の死体は、霊的な理解ではソドムやエジプトと呼ばれる大きな都の大通りにさ
らされる。彼らの主もその都で十字架につけられたのである。9もろもろの民
族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をながめてい
て、その死体を墓に納めることを許さない。10また地に住む人々は、彼らのこ
とで喜び祝って、互いに贈り物を贈り合う。それは、このふたりの預言者が、
地に住む人々を苦しめたからである。11しかし、三日半の後、神から出たいの
ちの息が、彼らにはいり、彼らが足で立ち上がったので、それを見ていた人々
は非常な恐怖に襲われた。12そのときふたりは、天から大きな声がして、「こら
こに上れ。」と言うのを聞いた。そこで、彼らは雲に乗って天に上った。彼ら
の敵はそれを見た。13そのとき、大地震が起こって、都の十分の一が倒れた。
この地震のため七千人が死に、生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神を
あがめた。
14 第二のわざわいは過ぎ去った。見よ。第三のわざわいがすぐに来る。
15 第七の御使いがラッパを吹き鳴らした。すると、天に大きな声々が起こって
言った。
「この世の国は私たちの主およびそのキリストのものとなった。主は永遠に
支配される。」
16 それから、神の御前で自分たちの座に着いている二十四人の長老たちも、
地にひれ伏し、神を礼拝して、17言った。
「万物の支配者、常にいまし、昔います神である主。あなたが、その偉大な
力を働かせて、王となられたことを感謝します。18諸国の民は怒りました。
しかし、あなたの御怒りの日が来ました。死者のさばかれる時、あなたのし
もべである預言者たち、聖徒たち、また小さい者も大きい者もすべてあなた
の御名を恐れかしこむ者たちに報いの与えられる時、地を滅ぼす者どもの滅
ぼされる時です。」

19 それから、天にある、神の神殿が開かれた。神殿の中に、契約の箱が見え
た。また、いなずま、声、雷鳴、地震が起こり、大きな雹が降った。

12

1 また、巨大なしるしが天に現われた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の
下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。2この女は、みごもっていた
が、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。3また、別のしるしが天
に現われた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その
頭には七つの冠をかぶっていた。4その尾は、天の星の三分の一を引き寄せる
と、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立って
いた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。5女は男の
子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずで
ある。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。6女は荒野に逃げた。
そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所が
あった。
7 さて、天に戦いが起こって、ミカエルと彼の使いたちは、竜と戦った。それ
で、竜とその使いたちは応戦したが、8勝つことができず、天にはもはや彼ら

のいる場所がなくなった。 9 こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、
サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地
上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。 10 そのとき私
は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。
「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの権威が現われ
た。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている
者が投げ落とされたからである。 11 兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあ
かしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜し
まなかった。 12 それゆえ、天とその中に住む者たち。喜びなさい。しかし、
地と海とには、わざわいが来る。悪魔が自分の時の短いことを知り、激しく
怒って、そこに下ったからである。」

13 自分が地上に投げ落とされたのを知った竜は、男の子を産んだ女を追いか
けた。 14 しかし、女は大わしの翼を二つ与えられた。自分の場所である荒野に
飛んで行って、そこで一時と二時と半時の間、蛇の前をのがれて養われるため
であった。 15 ところが、蛇はその口から水を川のように女のうしろへ吐き出
し、彼女を大水で押し流そうとした。 16 しかし、地は女を助け、その口を開い
て、竜が口から吐き出した川を飲み干した。 17 すると、竜は女に対して激しく
怒り、女の子孫の残りの者、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを保
っている者たちと戦おうとして出て行った。 18 そして、彼は海べの砂の上に立
った。

13

1 また私は見た。海から一匹の獣が上って来た。これには十本の角と七つの
頭とがあった。その角には十の冠があり、その頭には神をけがす名があった。
2 私の見たその獣は、ひょうに似ており、足は熊の足のようで、口はししの口の
ようであった。竜はこの獣に、自分の力と位と大きな権威とを与えた。 3 その
頭のうちの一つは打ち殺されたかと思われたが、その致命的な傷も直ってしま
った。そこで、全地は驚いて、その獣に従い、 4 そして、竜を拝んだ。獣に権
威を与えたのが竜だからである。また彼らは獣をも拝んで、「だれがこの獣に
比べられよう。だれがこれと戦うことができよう。」と言った。 5 この獣は、
傲慢なことを言い、けがしごとを言う口を与えられ、四十二か月間活動する権
威を与えられた。 6 そこで、彼はその口を開いて、神に対するけがしごとをを言
い始めた。すなわち、神の御名と、その幕屋、すなわち、天に住む者たちをの
のしった。 7 彼はまた聖徒たちに戦いをいどんで打ち勝つことが許され、また、
あらゆる部族、民族、国語、国民を支配する権威を与えられた。 8 地に住む者
で、ほふられた小羊のいのちの書に、世の初めからその名の書きしるされてい
ない者はみな、彼を拝むようになる。 9 耳のある者は聞きなさい。 10 とりこに
なるべき者は、とりこにされて行く。剣で殺す者は、自分も剣で殺されなけれ
ばならない。ここに聖徒の忍耐と信仰がある。
11 また、私は見た。もう一匹の獣が地から上って来た。それには小羊のよう
な二本の角があり、竜のようにものを言った。 12 この獣は、最初の獣が持って
いるすべての権威をその獣の前で働かせた。また、地と地に住む人々に、致命
的な傷の直った最初の獣を拝ませた。 13 また、人々の前で、火を天から地に降
らせるような大きなしるしを行なった。 14 また、あの獣の前で行なうことを許
されたしるしをもって地上に住む人々を惑わし、剣の傷を受けながらもなお生
き返ったあの獣の像を造るように、地上に住む人々に命じた。 15 それから、そ
の獣の像に息を吹き込んで、獣の像がもの言うことさえもできるようにし、ま
た、その獣の像を拝まない者をみな殺させた。 16 また、小さい者にも、大きい
者にも、富んでいる者にも、貧しい者にも、自由人にも、奴隷にも、すべて
人々にその右の手かその額かに、刻印を受けさせた。 17 また、その刻印、すな
わち、あの獣の名、またはその名の数字を持っている者以外は、だれも、買う
ことも、売ることもできないようにした。 18 ここに知恵がある。思慮ある者は
その獣の数字を数えなさい。その数字は人間をさしているからである。その数
字は六百六十六である。

14

1 また私は見た。見よ。小羊がシオンの山の上に立っていた。また小羊とと
もに十四万四千人の人たちがいて、その額には小羊の名と、小羊の父の名とが
しるしてあった。 2 私は天からの声を聞いた。大水の音のようで、また、激し
い雷鳴のようであった。また、私の聞いたその声は、立琴をひく人々が立琴を
かき鳴らしている音のようでもあった。 3 彼らは、御座の前と、四つの生き物

およびび長老たちの前とで、新しい歌を歌った。しかし地上から贖われた十四万
四千人のほかには、だれもこの歌を学ぶことができなかった。 4 彼らは女によ
って汚されたことのない人々である。彼らは童貞なのである。彼らは、小羊が
行く所には、どこにでもついて行く。彼らは、神および小羊にささげられる初
穂として、人々の中から贖われたのである。 5 彼らの口には偽りがなかった。
彼らは傷のない者である。
6 また私は、もうひとりの御使いが中天を飛ぶのを見た。彼は、地上に住む
人々、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠
の福音を携えていた。 7 彼は大声で言った。「神を恐れ、神をあがめよ。神の
さばきの時が来たからである。天と地と海と水の源を創造した方を拝め。」
8 また、第二の、別の御使いが続いてやって来て、言った。「大バビロンは
倒れた。倒れた。激しい御怒りを引き起こすその不品行のぶどう酒を、すべて
の国々の民に飲ませた者。」
9 また、第三の、別の御使いも、彼らに続いてやって来て、大声で言った。
「もし、だれでも、獣とその像を拝み、自分の額か手かに刻印を受けるなら、
10 そのような者は、神の怒りの杯に混ぜ物なしに注がれた神の怒りのぶどう
酒を飲む。また、聖なる御使いたちと小羊との前で、火と硫黄とで苦しめられ
る。 11 そして、彼らの苦しみの煙は、永遠にまでも立ち上る。獣とその像と
を拝む者、まただれでも獣の名の刻印を受ける者は、昼も夜も休みを得ない。
12 神の戒めを守り、イエスに対する信仰を持ち続ける聖徒たちの忍耐はここに
ある。」
13 また私は、天からこう言っている声を聞いた。「書きしるせ。『今から
後、主にあって死ぬ死者は幸いである。』」御霊も言われる。「しかり。彼ら
はその労苦から解き放されて休むことができる。彼らの行ないは彼らについて
行くからである。」
14 また、私は見た。見よ。白い雲が起こり、その雲に人の子のような方が
乗っておられた。頭には金の冠をかぶり、手には鋭いかまを持っておられた。
15 すると、もうひとりの御使いが聖所から出て来て、雲に乗っておられる方に
向かって大声で叫んだ。「かまを入れて刈り取ってください。地の穀物は実っ
たので、取り入れる時が来ましたから。」 16 そこで、雲に乗っておられる方
が、地にかまを入れると地は刈り取られた。
17 また、もうひとりの御使いが、天の聖所から出て来たが、この御使いも、
鋭いかまを持っていた。 18 すると、火を支配する権威を持ったもうひとりの
御使いが、祭壇から出て来て、鋭いかまを持つ御使いに大声で叫んで言った。
「その鋭いかまを入れ、地のぶどうのふさを刈り集めよ。ぶどうはすでに熟し
ているのだから。」 19 そこで御使いは地にかまを入れ、地のぶどうを刈り集め
て、神の激しい怒りの大きな酒ぶねに投げ入れた。 20 その酒ぶねは都の外で踏
まれたが、血は、その酒ぶねから流れ出て、馬のくつわに届くほどになり、千
六百スタディオンに広がった。

15

1 また私は、天にもう一つの巨大な驚くべきしるしを見た。七人の御使いが、
最後の七つの災害を携えていた。神の激しい怒りはここに窮まるのである。
2 私は、火の混じった、ガラスの海のようなものを見た。獣と、その像と、
その名を示す数字とに打ち勝った人々が、神の立琴を手にして、このガラスの
海のほとりに立っていた。 3 彼らは、神のしもべモーセの歌と小羊の歌とを歌
って言った。
「あなたのみわざは偉大であり、驚くべきものです。主よ。万物の支配者で
ある神よ。あなたの道は正しく、真実です。もろもろの民の王よ。 4 主よ。
だれかあなたを恐れず、御名をほめたたえない者があるでしょうか。ただあ
なただけが、聖なる方です。すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ
伏します。あなたの正しいさばきが、明らかにされたからです。」

5 その後、また私は見た。天にある、あかしの幕屋の聖所が開いた。 6 そして
その聖所から、七つの災害を携えた七人の御使いが出て来た。彼らは、きよい
光り輝く亜麻布を着て、胸には金の帯を締めていた。 7 また、四つの生き物の
一つが、永遠に生きておられる神の御怒りの満ちた七つの金の鉢を、七人の御
使いに渡した。 8 聖所は神の栄光と神の大能から立ち上る煙で満たされ、七人
の御使いたちの七つの災害が終わるまでは、だれもその聖所に、はいることが
できなかった。

16

1 また、私は、大きな声が聖所から出て、七人の御使いに言うのを聞いた。
「行って、神の激しい怒りの七つの鉢を、地に向けてぶちまけよ。」
2 そこで、第一の御使いが出て行き、鉢を地に向けてぶちまけた。すると、
獣の刻印を受けている人々と、獣の像を拝む人々に、ひどい悪性のはれものが
できた。
3 第二の御使いが鉢を海にぶちまけた。すると、海は死者の血のような血に
なった。海の中のいのちのあるものは、みな死んだ。
4 第三の御使いが鉢を川と水の源とにぶちまけた。すると、それらは血になっ
た。5 また私は、水をつかさどる御使いがこう言うのを聞いた。「常にいまし
、昔います聖なる方。あなたは正しい方です。なぜならあなたは、このよう
なさばきをなさったからです。6 彼らは聖徒たちや預言者たちの血を流しました
が、あなたは、その血を彼らに飲ませました。彼らは、そうされるにふさわし
い者たちです。」7 また私は、祭壇がこう言うのを聞いた。「しかり。主よ。
万物の支配者である神よ。あなたのさばきは真実な、正しいさばきです。」
8 第四の御使いが鉢を太陽に向けてぶちまけた。すると、太陽は火で人々を
焼くことを許された。9 こうして、人々は激しい炎熱によって焼かれた。しか
も、彼らは、これらの災害を支配する権威を持つ神の御名に対してけがしごと
を言い、悔い改めて神をあがめることをしなかった。
10 第五の御使いが鉢を獣の座にぶちまけた。すると、獣の国は暗くなり、
人々は苦しみのあまり舌をかんだ。11 そして、その苦しみと、はれものとのゆ
えに、天の神に対してけがしごとを言い、自分の行ないを悔い改めようとしな
かった。
12 第六の御使いが鉢を大ユーフラテス川にぶちまけた。すると、水は、日の
出るほうから来る王たちに道を備えるために、かれてしまった。13 また、私は
竜の口と、獣の口と、にせ預言者の口とから、かえるのような汚れた霊どもが
三つ出て来るのを見た。14 彼らはしるしを行なう悪霊どもの霊である。彼らは
全世界の王たちのところに出て行く。万物の支配者である神の大いなる日の戦
いに備えて、彼らを集めるためである。15 ――見よ。わたしは盗人のように来
る。目をさまして、身に着物を着け、裸で歩く恥を人に見られないようにする
者は幸いである。――16 こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドンと呼ばれる
所に王たちを集めた。
17 第七の御使いが鉢を空中にぶちまけた。すると、大きな声が御座を出て、
聖所の中から出て来て、「事は成就した。」と言った。18 すると、いなずまと
声と雷鳴があり、大きな地震があった。この地震は人間が地上に住んで以来、
かつてなかったほどのもので、それほどに大きな、強い地震であった。19 ま
た、あの大きな都は三つに裂かれ、諸国の民の町々は倒れた。そして、大バビ
ロンは、神の前に覚えられて、神の激しい怒りのぶどう酒の杯を与えられた。
20 島はすべて逃げ去り、山々は見えなくなった。21 また、一タラントほどの大
きな雹が、人々の上に天から降って来た。人々は、この雹の災害のため、神に
けがしごとを言った。その災害が非常に激しかったからである。

17

1 また、七つの鉢を持つ七人の御使いのひとりが来て、私に話して、こう言っ
た。「ここに来なさい。大水の上にすわっている大淫婦へのさばきを見せまし
ょう。2 地の王たちは、この女と不品行を行ない、地に住む人々も、この女の
不品行のぶどう酒に酔ったのです。」3 それから、御使いは、御霊に感じた私を
荒野に連れて行った。すると私は、ひとりの女が緋色の獣に乗っているのを見
た。その獣は神をけがす名で満ちており、七つの頭と十本の角を持っていた。
4 この女は紫と緋の衣を着ていて、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきもの
や自分の不品行の汚れでいっぱいになった金の杯を手に持っていた。5 その額
には、意味の秘められた名が書かれていた。すなわち、「すべての淫婦と地の
憎むべきものとの母、大バビロン。」という名であった。6 そして、私はこの
女が、聖徒たちの血とイエスの証人たちの血に酔っているのを見た。私はこの
女を見たとき、非常に驚いた。7 すると、御使いは私にこう言った。「なぜ驚
くのですか。私は、あなたに、この女の秘義と、この女を乗せた、七つの頭と
十本の角とを持つ獣の秘義とを話してあげましょう。8 あなたの見た獣は、昔
いたが、今はいません。しかし、やがて底知れぬ所から上って来ます。そして
彼は、ついには滅びます。地上に住む者たちで、世の初めからいのちの書に名
を書きしるされていない者は、その獣が、昔はいたが、今はおらず、やがて現
われるのを見て驚きます。9 ここに知恵の心があります。七つの頭とは、この
女がすわっている七つの山で、七人の王たちのことです。10 五人はすでに倒れ

たが、ひとりは今おり、ほかのひとりは、まだ来ていません。しかし彼が来れ
ば、しばらくの間とどまるはずです。 11 また、昔いたが今はいない獣について
言えば、彼は八番目でもありますが、先の七人のうちのひとりです。そして彼
はついには滅びます。 12 あなたが見た十本の角は、十人の王たちで、彼らは、
まだ国を受けてはいませんが、獣とともに、一時だけ王の権威を受けます。
13 この者どもは心を一つにしており、自分たちの力と権威とをその獣に与えま
す。 14 この者どもは小羊と戦いますが、小羊は彼らに打ち勝ちます。なぜなら
ば、小羊は主の主、王の王だからです。また彼とともにいる者たちは、召され
た者、選ばれた者、忠実な者だからです。」 15 御使いはまた私に言った。「あ
なたが見た水、すなわち淫婦がすわっている所は、もろもろの民族、群衆、国
民、国語です。 16 あなたが見た十本の角と、あの獣とは、その淫婦を憎み、ま
彼女を荒廃させ、裸にし、その肉を食い、彼女を火で焼き尽くすようにななうる思
す。 17 それは、神が、みことばの成就するときまで、神のみこころを行よき
いを彼らの心に起こさせ、彼らが心を一つにして、その支配権を獣に与える
うにされたからです。 18 あなたが見たあの女は、地上の王たちを支配する大き
な都のことです。」

18

1 この後、私は、もうひとりの御使いが、大きな権威を帯びて、天から下っ
て来るのを見た。地はその栄光のために明るくなった。 2 彼は力強い声で叫ん
で言った。「倒れた。大バビロンが倒れた。そして、悪霊の住まい、あらゆる
汚れた霊どもの巣くつ、あらゆる汚れた、憎むべき鳥どもの巣くつとなった。
3 それは、すべての国々の民が、彼女の不品行に対する激しい御怒りのぶどう酒
を飲み、地上の王たちは、彼女と不品行を行ない、地上の商人たちは、彼女の
極度の好色によって富を得たからである。」
4 それから、私は、天からのもう一つの声がこう言うのを聞いた。「わが民
よ。この女から離れなさい。その罪にあずからないため、また、その災害を受
けないためです。 5 なぜなら、彼女の罪は積み重なって天にまで届き、神は彼
女の不正を覚えておられるからです。 6 あなたがたは、彼女が支払ったもの を
そのまま彼女に返し、彼女の行ないに応じて二倍にして戻しなさい。彼女が混
ぜ合わせた杯の中には、彼女のために二倍の量を混ぜ合わせなさい。 7 彼女が
自分を誇り、好色にふけったと同じだけの苦しみと悲しみとを、彼女に与えない
さい。彼女は心の中で『私は女王の座に着いている者であり、やもめでは
から、悲しみを知らない。』と言うからです。 8 それゆえ一日のうちに、さまく
ざまの災害、すなわち死病、悲しみ、飢えが彼女を襲い、彼女は火で焼き尽く
されます。彼女をさばく神である主は力の強い方だからです。 9 彼女と不品行
を行ない、好色にふけった地上の王たちは、彼女が火で焼かれる煙を見ると、
彼女のことで泣き、悲しみます。 10 彼らは、彼女の苦しみを恐れたために、遠
く離れて立っていて、こう言います。『わざわいが来た。わざわいが来た。大
きな都よ。力強い都、バビロンよ。あなたのさばきは、一瞬のうちに来た。』
11 また、地上の商人たちは彼女のことで泣き悲しみます。もはや彼らの商品を
買う者がだれもいないからです。 12 商品とは、金、銀、宝石、真珠、麻布、
紫布、絹、緋布、香木、さまざまの象牙細工、高価な木や銅や鉄や大理石で造
ったあらゆる種類の器具、 13 また、肉桂、香料、香、香油、乳香、ぶどう酒、
オリーブ油、麦粉、麦、牛、羊、それに馬、車、奴隷、また人のいのちです。
14 また、あなたの心の望みである熟したくだものは、あなたから遠ざかってし
まい、あらゆるはでな物、はなやかな物は消えうせて、もはや、決してそれら
の物を見いだすことができません。 15 これらの物を商って彼女から富を得てき
た商人たちは、彼女の苦しみを恐れたために、遠く離れて立っていて、泣き
悲しんで、 16 言います。『わざわいが来た。わざわいが来た。麻布、紫布、緋
布を着て、金、宝石、真珠を飾りにしていた大きな都よ。 17 あれほどの富が、
一瞬のうちに荒れすたれてしまった。』また、すべての船長、すべての船客、
水夫、海で働く者たちも、遠く離れて立っていて、 18 彼女が焼かれる煙を見
て、叫んで言いました。『このすばらしい都のような所がほかにあろうか。』
19 それから、彼らは、頭にちりをかぶって、泣き悲しみ、叫んで言いました。
『わざわいが来た。わざわいが来た。大きな都よ。海に舟を持つ者はみな、こ
の都のおごりによって富を得ていたのに、それが一瞬のうちに荒れすたれる
は。』 20 おお、天よ、聖徒たちよ、使徒たちよ、預言者たちよ。この都のこと
で喜びなさい。神は、あなたがたのために、この都にさばきを宣告されたから
です。」
21 また、ひとりの強い御使いが、大きい、ひき臼のような石を取り上げ、
海に投げ入れて言った。「大きな都バビロンは、このように激しく打ち倒され

て、もはやなくなって消えうせてしまう。 22 立琴をひく者、歌を歌う者、笛を
吹く者、ラッパを鳴らす者の声は、もうおまえのうちに聞かれなくなる。あら
ゆる技術を持った職人たちも、もうおまえのうちに見られなくなる。ひき臼の
音も、もうおまえのうちに聞かれなくなる。 23 ともしびの光は、もうおまえ
のうちに輝かなくなる。花婿、花嫁の声も、もうおまえのうちに聞かれなくな
る。なぜなら、おまえの商人たちは地上の力ある者どもで、すべての国々の民
がおまえの魔術にだまされていたからだ。 24 また、預言者や聖徒たちの血、
および地上で殺されたすべての人々の血が、この都の中に見いだされたから
だ。」

19

1 この後、私は、天に大群衆の大きい声のようなものが、こう言うのを聞い
た。
「ハレルヤ。救い、栄光、力は、われらの神のもの。 2 神のさばきは真実で、
正しいからである。神は不品行によって地を汚した大淫婦をさばき、ご自分
のしもべたちの血の報復を彼女にされたからである。」
3 彼らは再び言った。「ハレルヤ。彼女の煙は永遠に立ち上る。」 4 すると、
二十四人の長老と四つの生き物はひれ伏し、御座についておられる神を拝
んで、「アーメン。ハレルヤ。」と言った。 5 また、御座から声が出て言っ
た。
「すべての、神のしもべたち。小さい者も大きい者も、神を恐れかしこむ者
たちよ。われらの神を賛美せよ。」
6 また、私は大群衆の声、大水の音、激しい雷鳴のようなものが、こう言う
のを聞いた。
「ハレルヤ。万物の支配者である、われらの神である主は王となられた。 7 私
たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。小羊の婚姻の時が来て、花嫁はそ
の用意ができたのだから。 8 花嫁は、光り輝く、きよい麻布の衣を着ること
を許された。その麻布とは、聖徒たちの正しい行ないである。」
9 御使いは私に「小羊の婚宴に招かれた者は幸いだ、と書きなさい。」と言
い、また、「これは神の真実のことばです。」と言った。 10 そこで、私は彼
を拝もうとして、その足もとにひれ伏した。すると、彼は私に言った。「い
けません。私は、あなたや、イエスのあかしを堅く保っているあなたの兄
弟たちと同じしもべです。神を拝みなさい。イエスのあかしは預言の霊で
す。」
11 また、私は開かれた天を見た。見よ。白い馬がいる。それに乗った方は、
「忠実また真実。」と呼ばれる方であり、義をもってさばきをし、戦いをされ
る。 12 その目は燃える炎であり、その頭には多くの王冠があって、ご自身のほ
かだれも知らない名が書かれていた。 13 その方は血に染まった衣を着ていて、
その名は「神のことば」と呼ばれた。 14 天にある軍勢はまっ白な、きよい麻布
を着て、白い馬に乗って彼につき従った。 15 この方の口からは諸国の民を打つ
ために、鋭い剣が出ていた。この方は、鉄の杖をもって彼らを牧される。この
方はまた、万物の支配者である神の激しい怒りの酒ぶねを踏まれる。 16 その着
物にも、ももにも、「王の王、主の主。」という名が書かれていた。
17 また私は、太陽の中にひとりの御使いが立っているのを見た。彼は大声
で叫び、中天を飛ぶすべての鳥に言った。「さあ、神の大宴会に集まり、 18 王
の肉、千人隊長の肉、勇者の肉、馬とそれに乗る者の肉、すべての自由人と奴
隷、小さい者と大きい者の肉を食べよ。」
19 また私は、獣と地上の王たちとその軍勢が集まり、馬に乗った方とその軍
勢と戦いを交えるのを見た。 20 すると、獣は捕えられた。また、獣の前でしる
しを行ない、それによって獣の刻印を受けた人々と獣の像を拝む人々とを惑わ
したあのにせ預言者も、彼といっしょに捕えられた。そして、このふたりは、
硫黄の燃えている火の池に、生きたままで投げ込まれた。 21 残りの者たちも、
馬に乗った方の口から出る剣によって殺され、すべての鳥が、彼らの肉を飽き
るほどに食べた。

20

1 また私は、御使いが底知れぬ所のかぎと大きな鎖とを手に持って、天から下
って来るのを見た。 2 彼は、悪魔でありサタンである竜、あの古い蛇を捕え、
これを千年の間縛って、 3 底知れぬ所に投げ込んで、そこを閉じ、その上に封印
して、千年の終わるまでは、それが諸国の民を惑わすことのないようにした。
サタンは、そのあとでしばらくの間、解き放されなければならない。

4 また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行
なう権威が彼らに与えられた。また私は、イエスのあかしと神のことばとのゆ
えに首をはねられた人たちのたましいと、獣やその像を拝まず、その額や手に
獣の刻印を押されなかった人たちを見た。彼らは生き返って、キリストとも
に、千年の間王となった。 5 そのほかの死者は、千年の終わるまでは、生き返
らなかった。これが第一の復活である。 6 この第一の復活にあずかる者は幸い
な者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持って
いない。彼らは神とキリストとの祭司となり、キリストとともに、千年の間王
となる。
7 しかし千年の終わりに、サタンはその牢から解き放され、 8 地の四方にある
諸国の民、すなわち、ゴグとマゴグを惑わすために出て行き、戦いのために彼
らを召集する。彼らの数は海べの砂のようである。 9 彼らは、地上の広い平地
に上って来て、聖徒たちの陣営と愛された都とを取り囲んだ。すると、天から
火が降って来て、彼らを焼き尽くした。 10 そして、彼らを惑わした悪魔は火と
硫黄との池に投げ込まれた。そこは獣も、にせ預言者もいる所で、彼らは永遠
に昼も夜も苦しみを受ける。
11 また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天
もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。 12 また私は、死んだ人々
が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の
書物が開かれた。また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書で
あった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、
自分の行ないに応じてさばかれた。 13 海はその中にいる死者を出し、死もハデ
スも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのおの自分の行ないに応じ
てさばかれた。 14 それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが
第二の死である。 15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池
に投げ込まれた。

21

1 また私は、新しい天と新しい地とを見た。以前の天と、以前の地は過ぎ去
り、もはや海もない。 2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために
飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとを出て、天から下って来るのを
見た。 3 そのとき私は、御座から出る大きな声がこう言うのを聞いた。「見よ。
神の幕屋が人とともにある。神は彼らとともに住み、彼らはその民となる。ま
た、神ご自身が彼らとともにおられて、 4 彼らの目の涙をすっかりぬぐい取っ
てくださる。もはや死もなく、悲しみ、叫び、苦しみもない。なぜなら、以前の
ものが、もはや過ぎ去ったからである。」 5 すると、御座に着いておられる方
が言われた。「見よ。わたしは、すべてを新しくする。」また言われた。「書
きしるせ。これらのことばは、信ずべきものであり、真実である。」 6 また言
われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であ
り、最後である。わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ま
せる。 7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、
彼はわたしの子となる。 8 しかし、おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、
人を殺す者、不品行の者、魔術を行なう者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う
者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。これが第二の死であ
る。」
9 また、最後の七つの災害の満ちているあの七つの鉢を持っていた七人の御
使いのひとりが来た。彼は私に話して、こう言った。「ここに来なさい。私は
あなたに、小羊の妻である花嫁を見せましょう。」 10 そして、御使いは御霊に
よって私を大きな高い山に連れて行って、聖なる都エルサレムが神のみもとを
出て、天から下って来るのを見せた。 11 都には神の栄光があった。その輝きは
高価な宝石に似ており、透き通った碧玉のようであった。 12 都には大きな高
い城壁と十二の門があって、それらの門には十二人の御使いがおり、イスラエ
ルの子らの十二部族の名が書いてあった。 13 東に三つの門、北に三つの門、南
に三つの門、西に三つの門があった。 14 また、都の城壁には十二の土台石があ
り、それには、小羊の十二使徒の十二の名が書いてあった。 15 また、私と話し
ていた者は都とその門とその城壁とを測る金の測りざおを持っていた。 16 都
は四角で、その長さと幅は同じである。彼がそのさおで都を測ると、一万二千
スタディオンあった。長さも幅も高さも同じである。 17 また、彼がその城壁を
測ると、人間の尺度で百四十四ペーキュスあった。これが御使いの尺度でもあ
った。 18 その城壁は碧玉で造られ、都は混じりけのないガラスに似た純金でで
きていた。 19 都の城壁の土台石はあらゆる宝石で飾られていた。第一の土台石
は碧玉、第二はサファイヤ、第三は玉髄、第四は緑玉、 20 第五は赤縞めのう、

第六は赤めのう、第七は貴かんらん石、第八は緑柱石、第九は黄玉、第十は緑
玉髄、第十一は青玉、第十二は紫水晶であった。 21 また、十二の門は十二の真
珠であった。どの門もそれぞれ一つの真珠からできていた。都の大通りは、透
き通ったガラスのような純金であった。 22 私は、この都の中に神殿を見なかっ
た。それは、万物の支配者である、神であられる主と、小羊とが都の神殿だか
らである。 23 都には、これを照らす太陽も月もいらない。というのは、神の栄
光が都を照らし、小羊が都のあかりだからである。 24 諸国の民が、都の光によ
って歩み、地の王たちはその栄光を携えて都に来る。 25 都の門は一日中決して
閉じることがない。そこには夜がないからである。 26 こうして、人々は諸国の
民の栄光と誉れとを、そこに携えて来る。 27 しかし、すべて汚れた者や、憎む
べきことと偽りとを行なう者は、決して都にはいれない。小羊のいのちの書に
名が書いてある者だけが、はいることができる。

22

1 御使いはまた、私に水晶のように光るいのちの水の川を見せた。それは神と
小羊との御座から出て、 2 都の大通りの中央を流れていた。川の両岸には、い
のちの木があって、十二種の実がなり、毎月、実ができた。また、その木の葉
は諸国の民をいやした。 3 もはや、のろわれるものは何もない。神と小羊との
御座が都の中にあって、そのしもべたちは神に仕え、 4 神の御顔を仰ぎ見る。
また、彼らの額には神の名がついている。 5 もはや夜がない。神である主が彼
らを照らされるので、彼らにはともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは永
遠に王である。
6 御使いはまた私に、「これらのことばは、信ずべきものであり、真実なの
です。」と言った。預言者たちのたましいの神である主は、その御使いを遣
わし、すぐに起こるべき事を、そのしもべたちに示そうとされたのである。
7 「見よ。わたしはすぐに来る。この書の預言のことばを堅く守る者は、幸い
である。」
8 これらのことを聞き、また見たのは私ヨハネである。私が聞き、また見た
とき、それらのことを示してくれた御使いの足もとに、ひれ伏して拝もうとし
た。 9 すると、彼は私に言った。「やめなさい。私は、あなたや、あなたの兄
弟である預言者たちや、この書のことばを堅く守る人々と同じしもべです。神
を拝みなさい。」
10 また、彼は私に言った。「この書の預言のことばを封じてはいけない。時
が近づいているからである。 11 不正を行なう者はますます不正を行ない、汚
れた者はますます汚れを行ないなさい。正しい者はいよいよ正しいことを行な
い、きよい者はいよいよきよきことを行ないなさい。」 12 「見よ。わたしはす
ぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを
携えて来る。 13 わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後で
ある。初めであり、終わりである。」 14 自分の着物を洗って、いのちの木の実
を食べる権利を与えられ、門を通って都にはいれるようになる者は、幸いであ
る。 15 犬ども、魔術を行なう者、不品行の者、人殺し、偶像を拝む者、好んで
偽りを行なう者はみな、外に出される。
16 「わたし、イエスは御使いを遣わして、諸教会について、これらのことを
あなたがたにあかしした。わたしはダビデの根、また子孫、輝く明けの明星で
ある。」
17 御霊も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください。」と言いなさい。渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。
18 私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。 19 また、この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。
20 これらのことをあかしする方がこう言われる。「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。
21 主イエスの恵みがすべての者とともにあるように。アーメン。